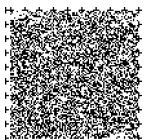


平成 28 年度東京都福祉保健局委託事業

社会参加に関する障害者等の意識調査 報告書

平成 29 年 3 月



まえがき

東京都は、障害のある人もない人も、社会の一員として、お互いに尊重し、支え合いながら、地域の中で共に生活する社会を目指して、「東京都障害者計画」及び「第4期東京都障害福祉計画」に基づき、全庁を挙げて障害者施策を推進しています。

また、東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会開催まであと4年をきりました。東京は、世界で初めて、2回目のパラリンピックを開催する都市として、多様性を尊重し、障害のある人もない人も、支え合う共生社会、ダイバーシティを実現していかななくてはなりません。

このため、福祉保健局では、この大会を契機として障害者の一層の社会参加の促進を図るため、スポーツ大会や文化事業等に関する障害者等の意識を把握し、施策の充実の検討に資することを目的として、「社会参加に関する障害者等の意識調査」を実施しました。

調査の実施に当たっては、東京都福祉のまちづくり推進協議会の御協力を得て、企画段階から御意見をいただきました。深く感謝申し上げます。

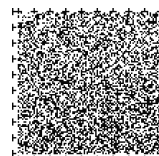
その結果、スポーツや運動、文化、芸術活動、ボランティア活動及び情報アクセシビリティに関する、障害者等の状況や意識等について、東京都における障害者施策の基礎資料を得ることができました。

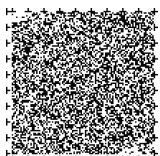
この報告書が今後の障害者施策等の推進に向けて、関係機関及び関係者の方々に、広く御活用いただければ幸いです。

最後に調査に御協力をいただきました都民の皆様に厚く御礼申し上げます。

平成 29 年 3 月

東京都福祉保健局





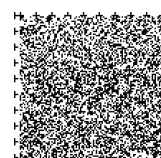
目 次

第1 調査の概要

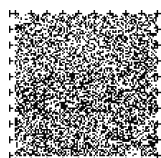
第1章 調査の目的等	1
1 調査の目的	1
2 調査の対象	1
3 標本の抽出	1
4 調査の基準日	1
5 調査の事項	2
6 調査の方法	2
7 集計の対象	2
8 報告書（結果の概要）の構成	3
9 利用上の注意	3
10 調査項目	4
第2章 調査実施までの経過	8

第2 結果の概要

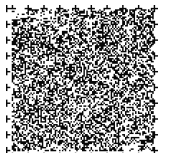
第1章 調査対象者の概要	9
1 障害者等	9
2 障害者団体	10
3 事業所	11
4 企業	12
第2章 障害者等の状況	14
1 基本的属性	14
2 スポーツや運動について	25
3 東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会について	51
4 文化、芸術活動について	65
5 ボランティア活動について	78
6 情報アクセシビリティについて	93
第3章 障害者団体の状況	122
1 障害者団体の概要	122
2 スポーツや運動について	125
3 東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会について	144
4 文化、芸術活動について	149
5 ボランティア活動について	155
6 情報アクセシビリティについて	172

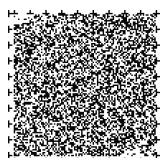


第4章 事業所の状況	175
1 事業所の概要	175
2 スポーツや運動について	181
3 東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会について	190
4 文化、芸術活動について	197
5 ボランティア活動について	199
6 情報アクセシビリティについて	211
第5章 企業の状況	212
1 企業の概要	212
2 障害者を主な対象やテーマとしたイベントやプログラムについて	217
3 障害者のイベントやプログラムへの参加やボランティア活動について	227
4 東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会について	235
5 障害者スポーツについて	241
第6章 分析	252
1 障害者等、障害者団体、事業所の回答の比較	252
2 企業の回答の特徴	263
3 今後の取組に向けて	264
第3 付属資料	
障害者等調査 調査票・単純集計結果	付属資料 1
障害者団体調査 調査票・単純集計結果	付属資料 23
事業所調査 調査票・単純集計結果	付属資料 37
企業調査 調査票・単純集計結果	付属資料 51



第 1 調査の概要





第 1 章 調査の目的等

1 調査の目的

東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会を契機として障害者の一層の社会参加の促進を図るため、スポーツ大会や文化事業等に関する障害者等の意識を把握し、施策の充実の検討に資することを目的とする。

2 調査の対象

- ・東京都内に居住する 18 歳以上の身体障害者、知的障害者及び精神障害者並びに難病患者（以下「障害者等」という。）
- ・障害当事者及び支援者団体（以下「障害者団体」という。）
- ・都内障害福祉サービス事業所等（以下「事業所」という。）
- ・都内民間企業（以下「企業」という。）

3 標本の抽出

(1) 障害者等

東京都が、都内に居住する 18 歳以上の身体障害者、知的障害者及び精神障害者並びに難病患者の中から無作為抽出により 3,600 人（標本）を選出した。

(2) 障害者団体

東京都障害者施策推進協議会に所属する 11 団体、東京都障害者団体連絡協議会に所属する 16 団体、計 27 団体（標本）をアンケート調査のために選出した。ただし、重複は除いている。また、このうち 10 団体（標本）を選出し、ヒアリング調査を実施した。

(3) 事業所

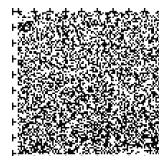
都内障害福祉サービス事業所等の中からサービス種別ごとに無作為抽出を行い、1,200 事業所（標本）を選出した。

(4) 企業

東京都スポーツ推進企業 102 社、一般社団法人日本経済団体連合会（企業行動・CSR 委員会社会貢献担当者懇談会）（以下「経団連」という。）の会員企業 81 社、オリンピック・パラリンピック等経済界協議会（以下「経済界協議会」という。）の会員企業 7 社、計 190 社（標本）を選出した。ただし、重複は除いている。

4 調査の基準日

平成 28 年 7 月 1 日



5 調査の事項

(1) スポーツと文化、芸術活動について

- ・スポーツ（競技・観戦）の実績
- ・スポーツ（競技・観戦）に当たって必要な支援
- ・文化、芸術活動の実績
- ・文化、芸術活動に当たって必要な支援

(2) ボランティア活動について

- ・ボランティア活動の実績
- ・ボランティア活動に当たって必要な支援

(3) 東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会への参加 （競技観戦、ボランティア等）について

- ・東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会への関心の有無
- ・競技観戦の希望の有無
- ・東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会におけるボランティア活動への参加希望の有無、参加したいボランティア活動の内容
- ・ボランティア活動に当たって必要な支援

(4) 情報アクセシビリティについて

- ・インターネットの利用状況
- ・社会参加に関する情報の入手方法
- ・情報入手に当たって必要な配慮

6 調査の方法

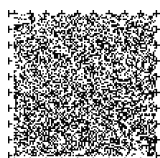
郵送配付、郵送回収

ただし、企業調査のうち、経団連、経済界協議会の会員企業については、E メールで配付・回収を行った。

7 集計の対象

障害者等、障害者団体、事業所、企業に対する調査の回収状況は以下のとおりであった。

	標本数	回収数	有効回答数	回収率
障害者等	3,600 件	1,463 件	1,463 件	40.6%
障害者団体	27 件	23 件	23 件	85.2%
事業所	1,200 件	645 件	645 件	53.8%
企業	190 件	81 件	81 件	42.6%



<参考>都内の手帳交付者数（平成 28 年 1 月現在）・難病医療費助成制度対象者数
（平成 28 年 3 月現在）

・身体障害者手帳	481,329 人（18 歳以上 457,284 人、18 歳未満 24,045 人）
・愛の手帳	82,562 人（18 歳以上 66,746 人、18 歳未満 15,816 人）
・精神障害者保健福祉手帳	92,497 人（18 歳以上・18 歳未満の統計がないため総数）
・東京都難病医療費助成制度（314 疾病）	88,823 人（18 歳以上・18 歳未満の統計がないため総数）

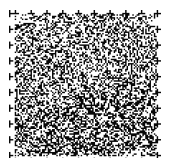
8 報告書（結果の概要）の構成

「第 2 結果の概要」において、調査結果をとりまとめた。

第 1 章では調査対象者の概要を記載した。第 2 章では障害者等、第 3 章では障害者団体、第 4 章では事業所、第 5 章では企業の調査結果を記載した。第 6 章ではこれら調査の分析をまとめた。

9 利用上の注意

- (1) 比率の単位は「%」、実数の単位は「人」（障害者等調査）、「団体」（障害者団体調査）、「事業所」（事業所調査）、「社」（企業調査）である。
- (2) 百分率は、少数点以下第 2 位を四捨五入した。このため、総数欄が 100.0 となっても、内訳の合計が 100%とならない場合がある。
- (3) この報告書では、障害の種類や年齢など、様々な属性により集計・分析をしているが、集計区分によっては母数が少ないため、活用にあたっては注意が必要である。
- (4) クロス集計表の表側で母数の少ないデータは一部省略したものもある。
また、表側の無回答は表示していない。
- (5) この調査は、郵送あるいは E メールで配付・回収を実施した。質問間の回答の矛盾については、原因の明確なもののみ審査及び集計作業の段階で修正した。
- (6) 本調査ではクロス集計の検定を行い、有意性のあるものを中心に記載した。

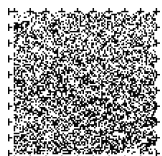


10 調査項目

以下では、各設問（要約）と各調査に該当する問番号を整理した。

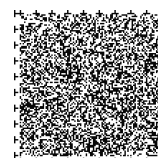
大項目	設問要約	障害者等	障害者団体	事業所	企業
属性	アンケートの記入者	問 1	—	—	—
	年齢	問 2	問 4	問 3	—
	生活の場	問 3	—	—	—
	一緒に生活している人	問 4	—	—	—
生活の状況	手帳や医療費助成の有無、障害の診断	問 29	問 1	問 4	—
	身体障害者手帳の総合等級	問 30①	—	—	—
	身体障害の種類	問 30②	問 1	問 4	—
	知的障害の程度	問 31	—	—	—
	精神障害の程度	問 32	—	—	—
	障害者になった時期	問 33	—	—	—
	外出時の支援、手段	問 34	—	—	—
	就労状況	問 35	—	—	—
	平日の日中を過ごす場所	問 36	—	—	—
組織概要	定員	—	—	問 1	—
	当事者会員数、利用者数	—	問 2 問 3	問 2	—
	提供している障害福祉サービス事業等	—	—	問 5	—
	業種	—	—	—	問 1
	回答企業の範囲、従業員数	—	—	—	問 2 問 3
	障害者雇用の状況	—	—	—	問 4
	ボランティア休暇制度の有無	—	—	—	問 5

（次ページに続く）



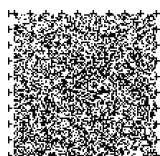
大項目	設問要約	障害者等	障害者団体	事業所	企業
スポーツや運動について	1年間に行ったスポーツや運動	問 5	問 5	問 6	—
	今後行いたい／今後も続けていきたいスポーツや運動	問 11	問 5	問 6	—
	スポーツや運動を行った日（頻度）	問 6	—	—	—
	スポーツや運動を行った場所	問 7	付問 5-4	付問 6-4	—
	スポーツや運動を一緒にする人	問 8	—	—	—
	スポーツや運動をする理由	問 9	付問 5-1	付問 6-1	—
	スポーツや運動を行っていない理由	問 10	—	—	—
	スポーツや運動を行う際に必要な支援	問 12	問 6	問 7	—
	スポーツや運動の指導者	—	付問 5-2	付問 6-2	—
	指導者の資格	—	付問 5-3	付問 6-3	—
	運営上の工夫	—	付問 5-5	付問 6-5	—
	この1年間にスポーツを観戦したか	問 13	—	—	—
	スポーツを観戦する上で必要な支援	問 14	問 7	問 8	—
	障害者スポーツへの関心の有無	—	—	—	問 14
	障害者スポーツへの支援状況	—	—	—	問 15
	支援を始めたきっかけ	—	—	—	付問 15-1
	情報の入手先	—	—	—	付問 15-2
	支援による効果	—	—	—	付問 15-3
	支援に当たっての課題	—	—	—	問 16
	今後の支援意向	—	—	—	問 17
	行っていきたい支援内容	—	—	—	付問 17-1

（次ページに続く）

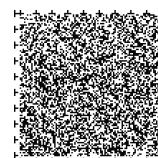


大項目	設問要約	障害者等	障害者団体	事業所	企業
東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会について	東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会への関心	問 15	—	—	—
	東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会への関わり方	問 16	問 8	問 9	—
	ボランティアとしての参加内容	問 17	付問 8-1	付問 9-1	—
	ボランティアを行う際に必要な支援	問 18	付問 8-2	付問 9-2	—
	協力している、協力したい取組	—	—	—	問 12
	協力の形態	—	—	—	問 13
文化、芸術活動について	行っている文化、芸術活動	問 19①	問 9	問 10	—
	今後行いたい文化、芸術活動	問 19②	—	—	—
	文化、芸術活動をする上で必要な支援	問 20	問 10	問 11	—
ボランティア活動について	今までに参加したボランティア活動の分野	問 21①	付問 12-1 問 14	付問 13-1 問 15	—
	今後参加したいボランティア活動の分野	問 21②	付問 12-1 問 14	付問 13-1 問 15	—
	今までに参加したボランティア活動の内容	問 22①	付問 12-2 問 14	付問 13-2 問 15	—
	今後参加したいボランティア活動の内容	問 22②	付問 12-2 問 14	付問 13-2 問 15	—
	ボランティア活動をする上で必要な支援	問 23	問 13 問 15	問 14 問 16	—
	ボランティア活動への参加についての考え	—	問 11	問 12	—
	ボランティア活動への参加の支援の有無	—	問 12	問 13	—

(次ページに続く)



大項目	設問要約	障害者等	障害者団体	事業所	企業
情報アクセシビリティについて	インターネットの利用の有無	問 24	—	—	—
	インターネット利用の際の媒体	問 25	—	—	—
	情報の入手先	問 26	—	—	—
	コミュニケーションや連絡の手段	問 27	—	—	—
	情報入手やコミュニケーションをとる上で必要な配慮	問 28	問 16	問 17	—
障害者を主な対象としたイベントやプログラム	実施の有無	—	—	—	問 6
	過去3年間に実施した内容	—	—	—	付問 6-1
	経費の年間総額	—	—	—	付問 6-2
	特徴的な取組	—	—	—	付問 6-3
	参加した障害者の種別	—	—	—	付問 6-4
	配慮や工夫の内容	—	—	—	付問 6-5
	企業への効果	—	—	—	付問 6-6
	実施上の課題	—	—	—	問 7
障害者のイベントやプログラムの参加やボランティア活動	障害者の参加の有無	—	—	—	問 8
	障害者が参加したイベントやプログラムの内容	—	—	—	付問 8-1
	参加した障害者の種別	—	—	—	付問 8-2
	障害者が運営に携わった実績	—	—	—	問 9
	障害者が運営に携わったイベントやプログラムの内容	—	—	—	付問 9-1
	運営に参加した障害者の種別	—	—	—	付問 9-2
	行った配慮や工夫の内容	—	—	—	問 10
	これから必要な配慮や工夫の内容	—	—	—	問 11



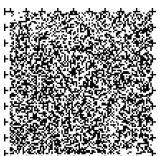
第2章 調査実施までの経過

本調査は、調査の実施計画、調査票の作成、調査結果の分析に関して、有識者の意見を聴取し、適宜反映した上で実施した。スケジュールは以下のとおりである。

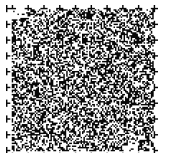
平成28年5月30日 第1回 調査の実施計画について

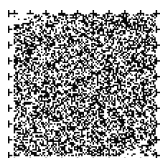
平成28年7月26日 第2回 調査票の作成について

平成29年1月30日 第3回 調査結果の分析について



第 2 結果の概要





第 1 章 調査対象者の概要

本調査は、障害者等（身体障害者、知的障害者、精神障害者及び難病患者）、障害者団体、事業所、企業を対象に調査を実施した。ここでは、調査結果を述べる前に、回答者の概要について述べる。

1 障害者等

福祉保健局月報（福祉・衛生行政統計）によると、平成 28 年 1 月現在の身体障害者手帳を交付された人の数は 481,329 人、愛の手帳を交付された人の数は 82,562 人、精神障害者保健福祉手帳を交付された人の数は 92,497 人、平成 28 年 3 月現在、東京都難病医療費助成制度を受けている人は 88,823 人である。

図表 1-1 身体障害者手帳、愛の手帳、精神障害者保健福祉手帳の交付者数
及び東京都難病医療費助成制度（国対象 306 疾病、都対象 8 疾病）

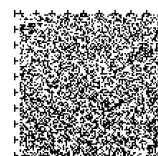
	総数	うち 18 歳未満	うち 18 歳以上	標本数
全体	745,211	－	－	3,600
身体障害者手帳	481,329	24,045	457,284	2,000
視覚障害	38,923	2,049	36,874	280
聴覚・平衡機能障害	46,899	4,835	42,064	280
音声・言語・そしゃく機能障害	7,287	398	6,889	180
肢体不自由	253,353	14,553	238,800	760
上肢	－	－	－	(195)
下肢	－	－	－	(200)
体幹	－	－	－	(195)
脳原性運動機能障害	－	－	－	(170)
内部障害	134,867	2,210	132,657	500
愛の手帳	82,562	15,816	66,746	600
精神障害者保健福祉手帳	92,497	－	－	400
東京都難病医療費助成制度	88,823	－	－	600

（出典）総数（身体障害者手帳、愛の手帳、精神障害者保健福祉手帳）：福祉保健局月報（平成 28 年 1 月福祉・衛生行政統計）

総数（東京都難病医療費助成制度）：福祉保健局月報（平成 28 年 3 月福祉・衛生行政統計）

（注 1）標本数は、平成 25 年度東京都福祉保健基礎調査「障害者の生活実態」の標本の半数とした。

（注 2）精神障害者保健福祉手帳及び東京都難病医療費助成制度については、18 歳以上、18 歳未満の統計はなく、総数のみである。



本調査は、1,463 人の障害者等から回答が得られた。身体障害者は 914 人、知的障害者は 362 人、精神障害者は 241 人、自立支援医療受給者は 108 人、難病医療費助成者は 316 人だった。

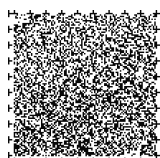
図表 1-2 年齢階級〔数値回答〕(Q2) - 障害別



2 障害者団体

東京都障害者施策推進協議会に所属する 11 団体、東京都障害者団体連絡協議会に所属する 16 団体、計 27 団体（標本）のうち、回答が得られたのは 23 団体だった。

23 団体は、いずれも当事者会員が所属している団体で、家族のみの団体はみられなかった。



3 事業所

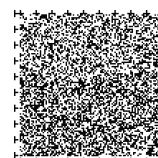
都内障害福祉サービス事業所等（3,209 事業所）の中から、サービス種別ごとに無作為抽出を行い、1,200 事業所（標本）を選出した。

ただし、療養介護、自立訓練（機能訓練）は全数対象とし、他のサービス種別については、事業種別の総数における事業種別の比率で割り付けを行った。

図表 1-3 事業所総数、標本数

	事業所総数	標本数 (全数)
療養介護	14	14
自立訓練（機能訓練）	29	29
総数	43	43

	事業所総数	標本数 (総数に占める比率で 割付)	割付比率
生活介護	477	174	15.1%
自立訓練（生活訓練）	73	28	2.3%
就労移行支援	275	100	8.7%
就労継続支援 A	99	37	3.1%
就労継続支援 B	751	274	23.7%
共同生活援助	614	224	19.4%
地域定着支援	162	59	5.1%
計画相談支援	715	261	22.6%
総数	3,166	1,157	100.0%

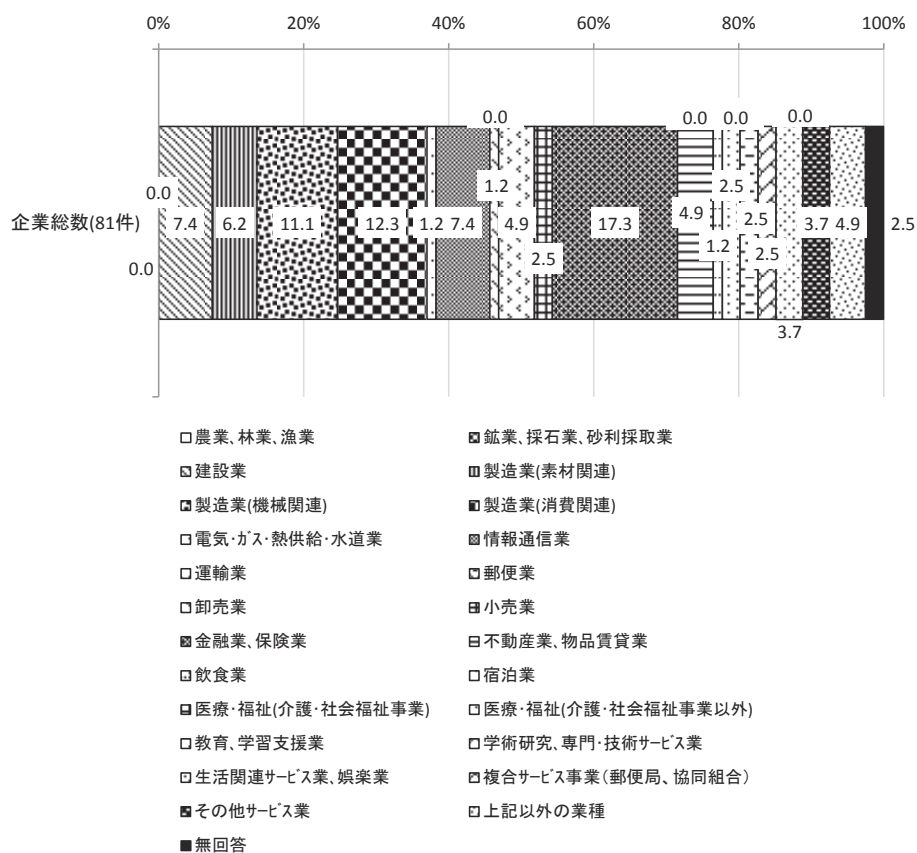


4 企業

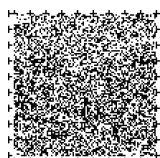
本調査では、東京都スポーツ推進企業 102 社、経団連会員企業 81 社、経済界協議会の会員企業 7 社、計 190 社のうち、81 社から回答が得られた。業種は、「製造業」が 29.6%（素材関連 6.2%、機械関連 11.1%、消費関連 12.3%）、「金融業、保険業」が 17.3% だった。

従業員数別にみると、100 人以下の組織（企業単体、連結、事業所）が 15 社、101 人～300 人以下が 2 社、301 人～500 人以下が 4 社、501 人～1,000 人以下が 8 社、1,001 人以上が 51 社だった。

図表 1-4 業種〔単数回答〕(Q1)

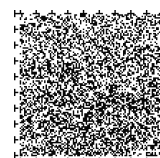


(注) 「その他サービス業」は、廃棄物処理業、自動車整備業、機械等修理業、人材サービス業、建物サービス業など。



図表 1-5 業種〔単数回答〕(Q1)－従業員数別

		合計	農業、 林業、 漁業	鉱業、 採石業、 砂利採取業	建設業	製造業 (素材関連)	製造業 (機械関連)	製造業 (消費関連)	電気・ガス・ 熱供給・ 水道業	情報通信業	運輸業	郵便業	卸売業	小売業	金融業、 保険業
Q3 従業員数	企業総数	81 100.0	0 0.0	0 0.0	6 7.4	5 6.2	9 11.1	10 12.3	1 1.2	6 7.4	1 1.2	0 0.0	4 4.9	2 2.5	14 17.3
	100人以下	15 100.0	0 0.0	0 0.0	2 13.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 13.3	0 0.0	0 0.0	1 6.7	1 6.7	0 0.0
	101人～300 人以下	2 100.0	0 0.0	0 0.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	301人～500 人以下	4 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 25.0	0 0.0	1 25.0	1 25.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	501人～ 1,000人以下	8 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 12.5	1 12.5	1 12.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 12.5	0 0.0	1 12.5
	1,001人以上	51 100.0	0 0.0	0 0.0	3 5.9	4 7.8	8 15.7	8 15.7	1 2.0	3 5.9	0 0.0	0 0.0	2 3.9	1 2.0	13 25.5
		合計	不動産業、 物品賃貸業	飲食業	宿泊業	医療・福祉 (介護・社会福祉事業)	医療・福祉 (介護・社会福祉事業以 外)	教育、学習支援業	学術研究、専門・技術サービス業	生活関連サービス業、 娯楽業	複合サービス事業	その他サービス業	上記以外の業種	無回答	
Q3 従業員数	企業総数	81 100.0	4 4.9	1 1.2	0 0.0	0 0.0	2 2.5	2 2.5	2 2.5	3 3.7	0 0.0	3 3.7	4 4.9	2 2.5	
	100人以下	15 100.0	3 20.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 13.3	1 6.7	0 0.0	1 6.7	0 0.0	1 6.7	1 6.7	0 0.0	
	101人～300 人以下	2 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 50.0	0 0.0	
	301人～500 人以下	4 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 25.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	
	501人～ 1,000人以下	8 100.0	0 0.0	1 12.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 12.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 12.5	0 0.0	
	1,001人以上	51 100.0	1 2.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 2.0	2 3.9	0 0.0	2 3.9	1 2.0	1 2.0	



第2章 障害者等の状況

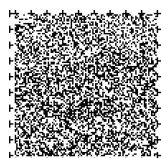
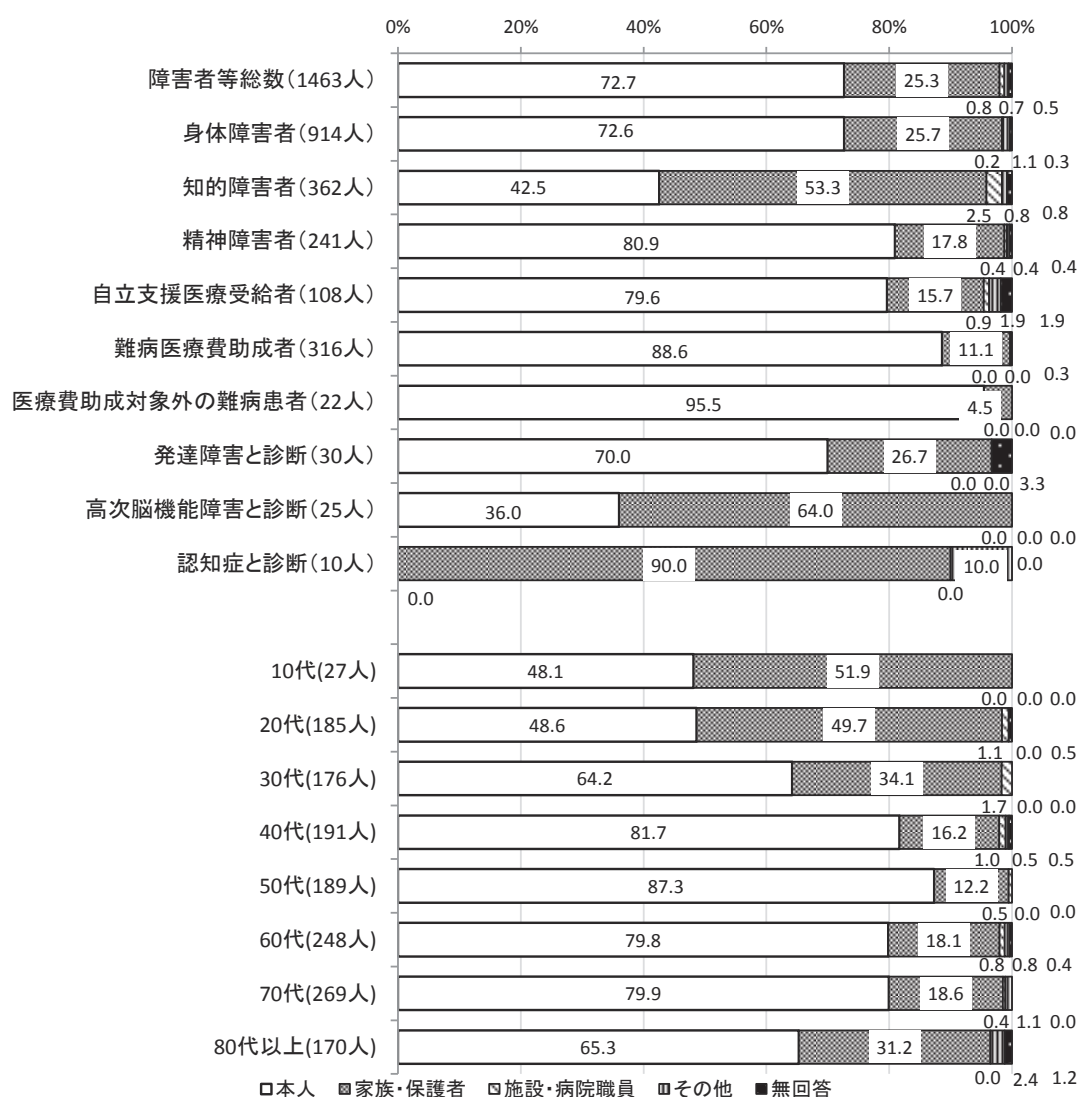
1 基本的属性

(1) 記入者

記入者を障害別にみると、知的障害者、高次脳機能障害と診断された人、認知症と診断された人を除く全ての障害で「本人」の割合が70.0～95.5%と高くなっている。一方、知的障害者、高次脳機能障害と診断された人は「家族・保護者」がそれぞれ53.3%、64.0%となっている。

年代別にみると、10代、20代以外の年代で「本人」が64.2～87.3%と高くなっている。一方、10代、20代では「家族・保護者」がそれぞれ51.9%、49.7%となっている。

図表 2-1 記入者〔単数回答〕(Q1)－障害別、年代別

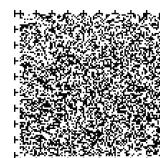
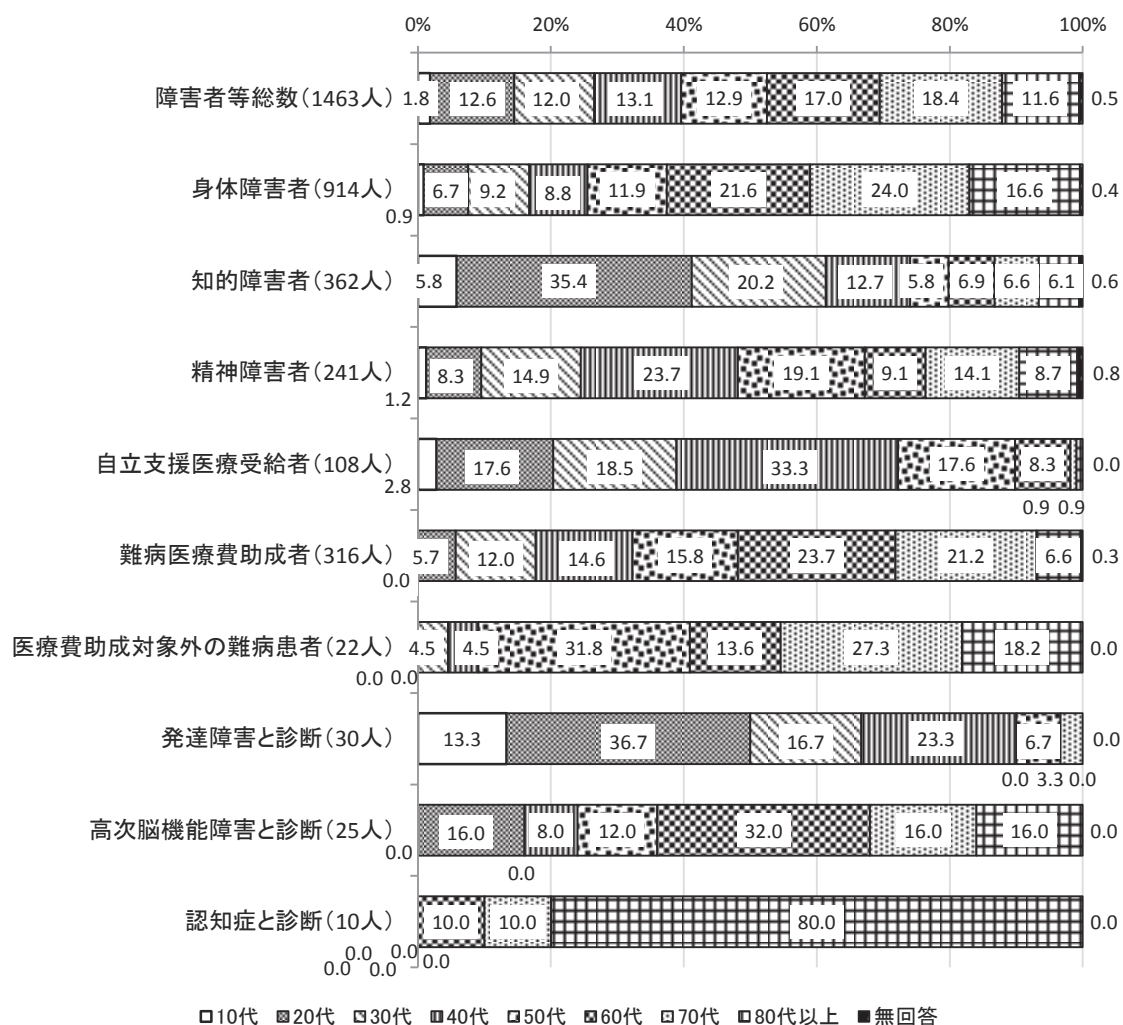


(2) 年齢階級

年齢階級は、「70代」の割合が最も高く 18.4%、次いで「60代」（17.0%）となっている。

障害別にみると、障害によってばらつきがみられ、身体障害者、難病医療費助成者は「60代以上」がそれぞれ 62.2%、51.5%と半数を占めているのに対し、知的障害者は「20代」、「30代」が 55.6%、精神障害者は「40代まで」が 48.1%と、約半数を占めている。

図表 2-2 年齢階級〔数値回答〕(Q2)－障害別



(3) 現在の生活の場所

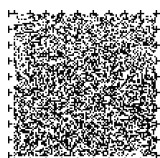
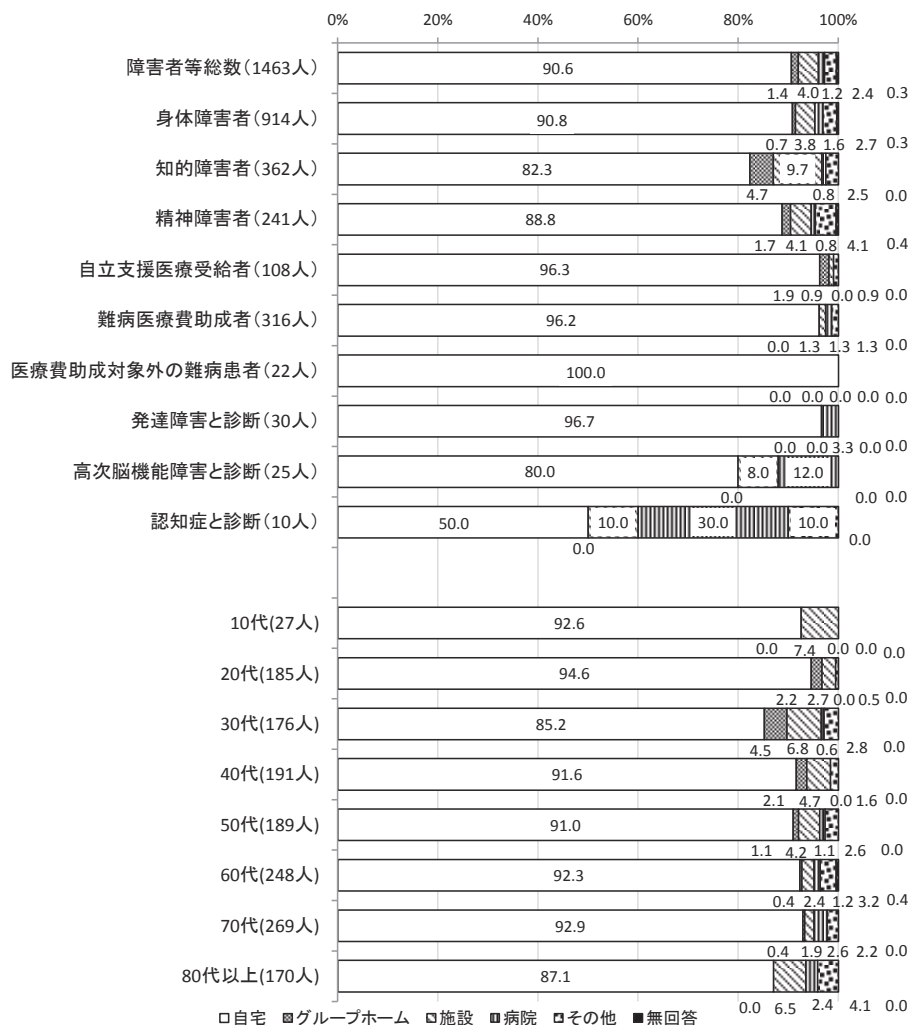
「施設」の割合は、知的障害者（9.7%）、高次脳機能障害と診断された人（8.0%）、認知症と診断された人（10.0%）で高く、「病院」の割合は高次脳機能障害と診断された人（12.0%）、認知症と診断された人（30.0%）で高い

現在の生活の場所をみると、「自宅」が 90.6%、「グループホーム」が 1.4%、「施設」が 4.0%、「病院」が 1.2%となっている。

障害別にみると、どの障害においても、「自宅」の割合が最も高くなっている。その他、身体障害者や精神障害者は「施設」（それぞれ 3.8%、4.1%）が、知的障害者は「グループホーム」（4.7%）、「施設」（9.7%）が他に比べて高くなっている。

年代別にみると、どの年代も「自宅」の割合が最も高くなっている。その他、30代は「グループホーム」（4.5%）が他の年代に比べて高い。

図表 2-3 現在の生活の場所〔単数回答〕(Q3)－障害別、年代別



(4) 現在一緒に生活している人

「配偶者（夫、妻）」と生活している割合は、難病医療費助成者（63.0%）、身体障害者（47.3%）で高く、「親」と生活している割合は、知的障害者（64.9%）、自立支援医療受給者（44.4%）、発達障害と診断された人（80.0%）で高い

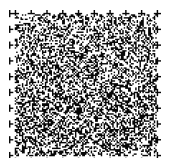
「親」と生活している割合は、10代（88.9%）、20代（82.2%）で高く、「配偶者（夫、妻）」と生活している割合は、60代（64.5%）、70代（65.8%）で高い

現在一緒に生活している人は、「配偶者（夫、妻）」の割合が41.1%と最も高く、次いで「親」28.3%、「子供」24.1%となっている。

障害別にみると、身体障害者や難病医療費助成者は、「配偶者（夫、妻）」（それぞれ47.3%、63.0%）、「子供」（27.7%、35.4%）、知的障害者は「親」（64.9%）、「兄弟姉妹」（32.9%）、精神障害者は「一人で暮らしている」（25.3%）、自立支援医療受給者は「親」（44.4%）、発達障害と診断された人は「親」（80.0%）の割合が高くなっている。年代別にみると、「親」と一緒に生活している割合は年齢が上がるにつれ低くなる一方で、「配偶者（夫、妻）」は70代までで年齢が上がるにつれ高くなっている。

図表 2-4 現在一緒に生活している人〔複数回答〕（Q4）－障害別、年代別

		総数	親	配偶者 (夫、妻)	子供	兄弟姉妹	その他の親族	一人で暮らしている	その他	無回答
障害者等総数		1463 100.0	414 28.3	601 41.1	352 24.1	171 11.7	46 3.1	260 17.8	91 6.2	12 0.8
Q 29 保有している手帳、 難病医療費助成、 障害の診断	身体障害者	914 100.0	173 18.9	432 47.3	253 27.7	70 7.7	31 3.4	177 19.4	45 4.9	7 0.8
	知的障害者	362 100.0	235 64.9	38 10.5	24 6.6	119 32.9	17 4.7	29 8.0	52 14.4	3 0.8
	精神障害者	241 100.0	80 33.2	71 29.5	42 17.4	15 6.2	8 3.3	61 25.3	15 6.2	2 0.8
	自立支援医療受給者	108 100.0	48 44.4	22 20.4	17 15.7	14 13.0	4 3.7	31 28.7	7 6.5	0 0.0
	難病医療費助成者	316 100.0	42 13.3	199 63.0	112 35.4	12 3.8	8 2.5	50 15.8	11 3.5	2 0.6
	医療費助成対象外の難病患者	22 100.0	0 0.0	13 59.1	9 40.9	0 0.0	2 9.1	3 13.6	0 0.0	0 0.0
	発達障害と診断	30 100.0	24 80.0	1 3.3	2 6.7	9 30.0	2 6.7	3 10.0	2 6.7	0 0.0
	高次脳機能障害と診断	25 100.0	5 20.0	14 56.0	7 28.0	3 12.0	2 8.0	0 0.0	2 8.0	1 4.0
	認知症と診断	10 100.0	0 0.0	3 30.0	4 40.0	1 10.0	0 0.0	0 0.0	1 10.0	1 10.0
	Q 2 年代	10 代	27 100.0	24 88.9	0 0.0	0 0.0	16 59.3	3 11.1	0 0.0	3 11.1
20 代		185 100.0	152 82.2	6 3.2	3 1.6	91 49.2	15 8.1	17 9.2	14 7.6	0 0.0
30 代		176 100.0	95 54.0	32 18.2	17 9.7	26 14.8	1 0.6	29 16.5	20 11.4	2 1.1
40 代		191 100.0	83 43.5	58 30.4	42 22.0	8 4.2	2 1.0	33 17.3	11 5.8	0 0.0
50 代		189 100.0	44 23.3	92 48.7	64 33.9	12 6.3	4 2.1	36 19.0	12 6.3	0 0.0
60 代		248 100.0	14 5.6	160 64.5	83 33.5	12 4.8	5 2.0	51 20.6	14 5.6	2 0.8
70 代		269 100.0	0 0.0	177 65.8	80 29.7	3 1.1	5 1.9	55 20.4	7 2.6	2 0.7
80 代以上		170 100.0	0 0.0	75 44.1	62 36.5	3 1.8	11 6.5	39 22.9	9 5.3	2 1.2



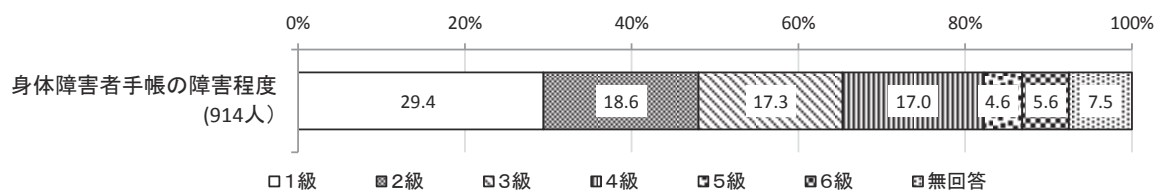
(5) 身体障害者手帳の障害程度

※「身体障害者手帳を持っている」と回答した 914 人が対象

身体障害者手帳の障害程度は、「1 級」(29.4%)、「2 級」(18.6%)、「3 級」(17.3%)、「4 級」(17.0%) が高い

身体障害者手帳の障害程度は、「1 級」が 29.4%と最も高く、次いで「2 級」(18.6%)、「3 級」(17.3%)、「4 級」(17.0%) となっている。

図表 2-5 身体障害者手帳の障害程度〔単数回答〕(Q30①)



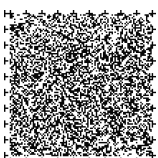
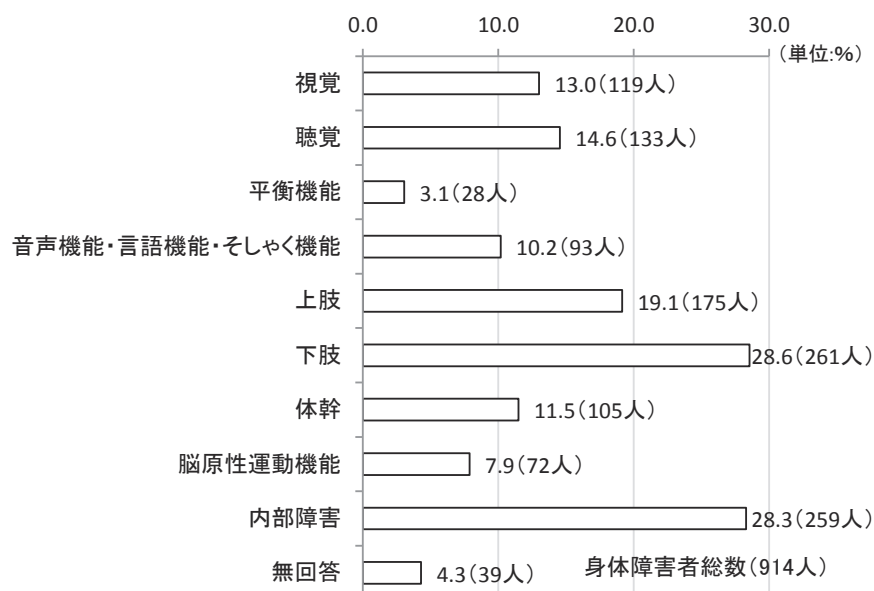
(6) (身体障害者) 障害の種類

※「身体障害者手帳を持っている」と回答した 914 人が対象

身体障害者の障害種類は、「下肢」(28.6%)、「内部障害」(28.3%)、「上肢」(19.1%)、「聴覚」(14.6%)、「視覚」(13.0%) が高い

身体障害者の障害種類は、「下肢」が 28.6%と最も高く、次いで「内部障害」(28.3%)、「上肢」(19.1%)、「聴覚」(14.6%)、「視覚」(13.0%) となっている。

図表 2-6 (身体障害者) 障害の種類〔複数回答〕(Q30②)



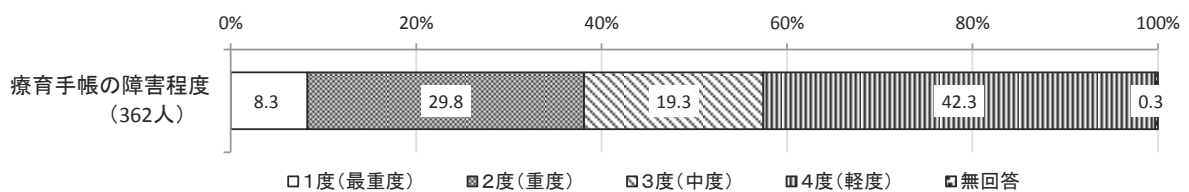
(7) 療育手帳の障害程度

※「療育手帳を持っている」と回答した 362 人が対象

療育手帳の障害程度は、「4 度（軽度）」（42.3%）が約 4 割。次いで「2 度（重度）」（29.8%）、「3 度（中度）」（19.3%）、「1 度（最重度）」（8.3%）となっている

療育手帳を持っている人の障害程度は、「4 度（軽度）」が 42.3%と最も高い。次いで「2 度（重度）」（29.8%）、「3 度（中度）」（19.3%）、「1 度（最重度）」（8.3%）となっている。

図表 2-7 療育手帳の障害程度〔単数回答〕（Q31）



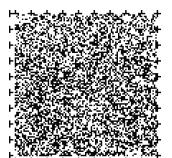
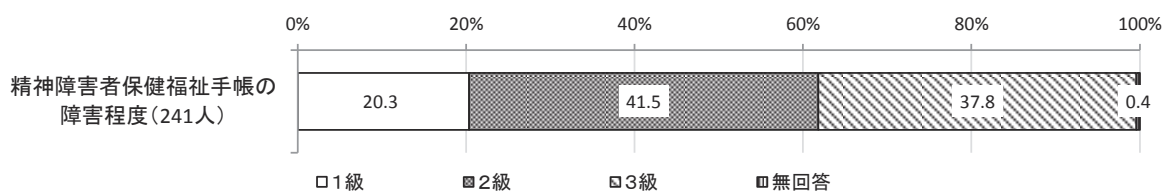
(8) 精神障害者保健福祉手帳の障害程度

※「精神障害者保健福祉手帳を持っている」と回答した 241 人が対象

精神障害者保健福祉手帳の障害程度は、「2 級」（41.5%）と「3 級」（37.8%）が各 4 割前後。「1 級」（20.3%）が 2 割となっている

精神障害者保健福祉手帳を持っている人の障害程度は、「2 級」が 41.5%と最も高く、次いで「3 級」（37.8%）、「1 級」（20.3%）となっている。

図表 2-8 精神障害者保健福祉手帳の障害程度〔単数回答〕（Q32）



(9) 障害者になった時期

障害者になった時期は、出生時が 17.8%、出生後が 73.0%

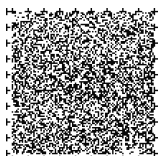
障害別では、知的障害者は「出生時～10 代」が 7 割以上、精神障害者は「10 代～30 代」が 4 割を占めており、他の障害に比べて、障害になった年齢が低い

障害者になった時期については、出生時が 17.8%、出生後が 73.0%で、中でも 60 代以上が 24.3%を占める。

障害別にみると、身体障害者は「50 代～70 代」が、知的障害者は「出生時～10 代」が、精神障害者は「10 代～30 代」が、自立支援医療受給者は「20 代～30 代」が、難病医療費助成者は「20 代～30 代」と「50 代」が、発達障害と診断されている人は「20 代」が他の障害に比べて高くなっている。

図表 2-9 障害者になった時期〔単数回答、数値回答〕(Q33)－障害別

	総数	出生時	9 歳以下	10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代	80 代以上	時期不明	無回答
障害者等総数	1463	261	121	80	107	102	134	161	180	138	38	7	134
	100.0	17.8	8.3	5.5	7.3	7.0	9.2	11.0	12.3	9.4	2.6	0.5	9.2
身体障害者	914	142	80	24	38	42	89	120	156	122	36	7	58
	100.0	15.5	8.8	2.6	4.2	4.6	9.7	13.1	17.1	13.3	3.9	0.8	6.3
知的障害者	362	173	65	34	7	8	7	9	15	15	4	3	22
	100.0	47.8	18.0	9.4	1.9	2.2	1.9	2.5	4.1	4.1	1.1	0.8	6.1
精神障害者	241	28	7	23	42	35	31	17	21	22	2	4	9
	100.0	11.6	2.9	9.5	17.4	14.5	12.9	7.1	8.7	9.1	0.8	1.7	3.7
自立支援医療受給者	108	14	10	8	20	26	16	7	2	1	0	1	3
	100.0	13.0	9.3	7.4	18.5	24.1	14.8	6.5	1.9	0.9	0.0	0.9	2.8
難病医療費助成者	316	5	5	14	32	38	37	51	43	28	6	1	56
	100.0	1.6	1.6	4.4	10.1	12.0	11.7	16.1	13.6	8.9	1.9	0.3	17.7
医療費助成対象外の難病患者	22	1	1	0	2	1	3	5	2	3	1	0	3
	100.0	4.5	4.5	0.0	9.1	4.5	13.6	22.7	9.1	13.6	4.5	0.0	13.6
発達障害と診断	30	8	5	3	6	2	2	0	1	0	0	0	3
	100.0	26.7	16.7	10.0	20.0	6.7	6.7	0.0	3.3	0.0	0.0	0.0	10.0
高次脳機能障害と診断	25	1	0	1	1	0	4	5	8	4	0	0	1
	100.0	4.0	0.0	4.0	4.0	0.0	16.0	20.0	32.0	16.0	0.0	0.0	4.0
認知症と診断	10	0	1	1	0	0	2	1	1	2	1	1	0
	100.0	0.0	10.0	10.0	0.0	0.0	20.0	10.0	10.0	20.0	10.0	10.0	0.0



(10) 外出時に利用しているサービス・手段

外出時に利用しているサービス・手段は、「補装具を使用している」が 26.2%、「外出支援を利用している」が 14.8%、「特にない」が 58.9%

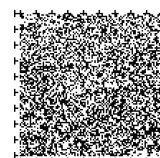
身体障害者は「補装具を使用している」(38.8%)、知的障害者は「外出支援を利用している」(32.6%) で高い。一方、「特にない」は、自立支援医療受給者、難病医療費助成者で7割を超える

現在、外出時に利用しているサービス・手段は、「補装具（車椅子、義肢、杖、白杖、補聴器など）を使用している」が 26.2%、「外出支援（同行援護、重度訪問介護、行動援護、移動支援、盲ろう者通訳・介助者派遣など）を利用している」が 14.8%となっている。一方、「特にない」が 58.9%となっている。

障害別にみると、身体障害者は「補装具（車椅子、義肢、杖、白杖、補聴器など）を使用している」(38.8%) が、知的障害者は「外出支援（同行援護、重度訪問介護、行動援護、移動支援、盲ろう者通訳・介助者派遣など）を利用している」(32.6%) が高くなっている。一方、「特にない」は、自立支援医療受給者（77.8%）、難病医療費助成者（71.2%）で7割を超えている。

図表 2-10 外出時に利用しているサービス・手段〔複数回答〕(Q34)－障害別

	総 数	外出支援（同行援護、 重度訪問介護、行動 援護、移動支援、盲 ろう者通訳・介助者派 遣など）を利用してい る	補装具（車椅子、義 肢、杖、白杖、補聴 器など）を使用してい る	補助犬（盲導犬、介 助犬、聴導犬）と一 緒に出出している	特 に な い	無 回 答
障害者等総数	1463 100.0	217 14.8	384 26.2	1 0.1	862 58.9	103 7.0
身体障害者	914 100.0	155 17.0	355 38.8	1 0.1	445 48.7	54 5.9
知的障害者	362 100.0	118 32.6	92 25.4	0 0.0	180 49.7	16 4.4
精神障害者	241 100.0	36 14.9	49 20.3	0 0.0	160 66.4	15 6.2
自立支援医療受給者	108 100.0	12 11.1	15 13.9	0 0.0	84 77.8	3 2.8
難病医療費助成者	316 100.0	20 6.3	53 16.8	0 0.0	225 71.2	30 9.5
医療費助成対象外 の難病患者	22 100.0	4 18.2	7 31.8	0 0.0	12 54.5	2 9.1
発達障害と診断	30 100.0	1 3.3	4 13.3	0 0.0	23 76.7	2 6.7
高次脳機能障害と 診断	25 100.0	5 20.0	10 40.0	0 0.0	9 36.0	4 16.0
認知症と診断	10 100.0	4 40.0	4 40.0	0 0.0	3 30.0	1 10.0



(11) 収入を伴う仕事の有無

「仕事をしている」人は31.3%、「福祉的就労をしている」人は7.3%

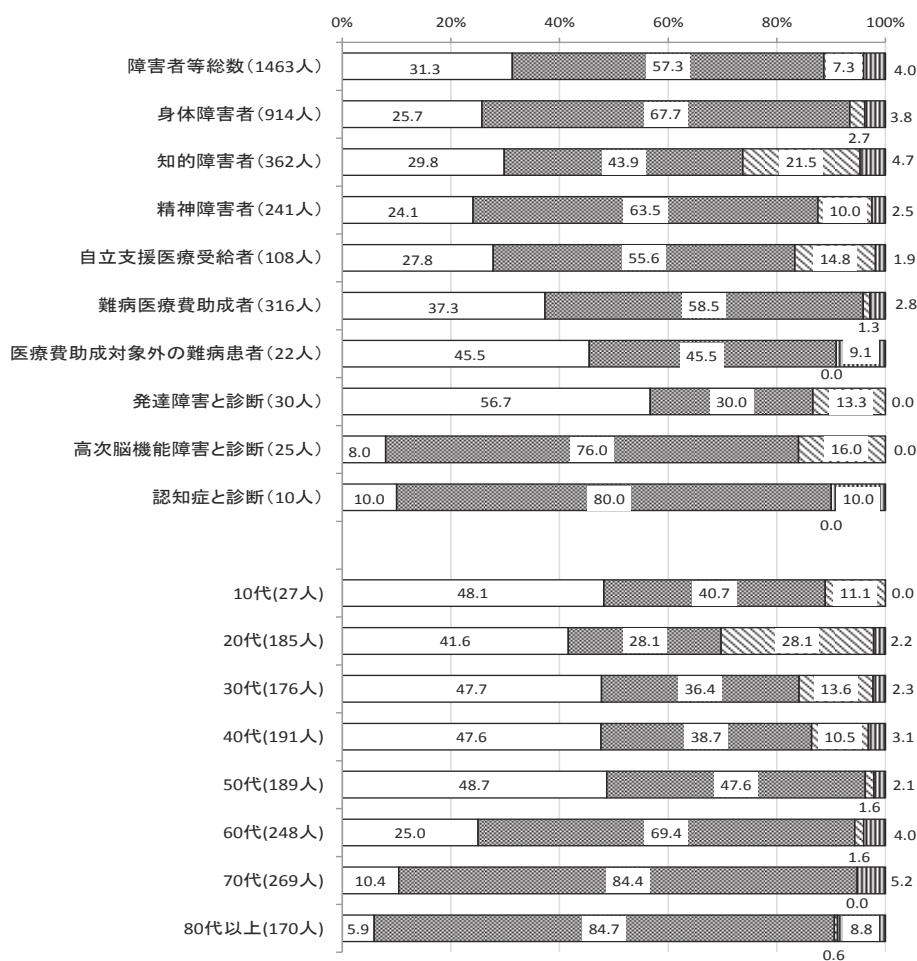
障害別では、難病医療費助成者は「仕事をしている」(37.3%)が、身体障害者は「仕事をしていない」(67.7%)、知的障害者は「福祉的就労をしている」(21.5%)が高い
年代別では、50代までは「仕事をしている」が、「仕事をしていない」は60代以上で、20代で「福祉的就労をしている」が比較的高い

平成28年7月1日時点での収入を伴う仕事の有無は、「仕事をしている」が31.3%、「福祉的就労をしている(就労継続支援A型・B型、就労移行支援)」が7.3%で、一方「仕事をしていない」が57.3%となっている。

障害別にみると、身体障害者は「仕事をしていない」(67.7%)、知的障害者や自立支援医療受給者は「福祉的就労をしている(就労継続支援A型・B型、就労移行支援)」(21.5%、14.8%)が、難病医療費助成者は「仕事をしている」(37.3%)が高くなっている。

年代別にみると、50代までが「仕事をしている」が、20代は「福祉的就労をしている(就労継続支援A型・B型、就労移行支援)」が高くなっている。一方「仕事をしていない」は60代以上で7、8割となっている。

図表 2-11 収入を伴う仕事の有無〔単数回答〕(Q35)－障害別、年代別



□仕事をしている ■仕事をしていない ▨福祉的就労をしている(就労継続支援A型・B型、就労移行支援) ■無回答

(12) 平日の日中、主に過ごした場所

平日の日中、主に過ごした場所として、「自分の家」が 52.2%、「職場（一般企業など）」が 22.8%

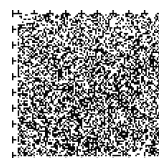
障害別では、身体障害者や精神障害者、難病医療費助成者で「自分の家」が、知的障害者で「職場（一般企業など）」と「職場（福祉的就労の施設）」、「通所施設」の割合が高い

年代別では 50 代以上で「自分の家」の割合が高い

この 1 年間で平日の日中、主に過ごした場所は、「自分の家」が 52.2%と最も高く、次いで「職場（一般企業など）」が 22.8%となっている。

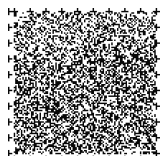
障害別にみると、身体障害者や精神障害者、難病医療費助成者は「自分の家」（60.2%、60.2%、63.0%）が高く、知的障害者は「職場（一般企業など）」（23.2%）、「職場（福祉的就労の施設）」（22.4%）、「通所施設」（20.7%）が高くなっている。

年代別にみると、「自分の家」は 50 代以上で 5 割を超えている。また、「職場（一般企業など）」は 50 代までで 3、4 割となっている。「職場（福祉的就労の施設）」は 20 代で高くなっている。



図表 2-12 平日の日中、主に過ごした場所〔単数回答〕(Q36)－障害別、年代別

		総 数	自 分 の 家	職 場 (一 般 企 業 な ど)	職 場 (福 祉 的 就 労 の 施 設) (就 労 継 続 支 援 A 型・B 型、 就 労 移 行 支 援)	学 校	通 所 施 設 (生 活 介 護 ・ デ イ ケ ア な ど)	入 所 施 設	そ の 他	無 回 答
障害者等総数		1463	763	334	108	18	122	57	36	25
		100.0	52.2	22.8	7.4	1.2	8.3	3.9	2.5	1.7
Q 29 保有している手帳、難病医療費助成、障害の診断	身体障害者	914	550	167	32	8	83	37	25	12
		100.0	60.2	18.3	3.5	0.9	9.1	4.0	2.7	1.3
	知的障害者	362	73	84	81	6	75	31	9	3
		100.0	20.2	23.2	22.4	1.7	20.7	8.6	2.5	0.8
	精神障害者	241	145	42	17	2	15	8	9	3
		100.0	60.2	17.4	7.1	0.8	6.2	3.3	3.7	1.2
	自立支援医療受給者	108	57	27	15	1	6	1	1	0
		100.0	52.8	25.0	13.9	0.9	5.6	0.9	0.9	0.0
	難病医療費助成者	316	199	84	6	4	10	3	9	1
		100.0	63.0	26.6	1.9	1.3	3.2	0.9	2.8	0.3
Q 2 年代	医療費助成対象外の難病患者	22	13	7	0	0	1	0	0	1
		100.0	59.1	31.8	0.0	0.0	4.5	0.0	0.0	4.5
	発達障害と診断	30	8	12	4	2	1	1	2	0
		100.0	26.7	40.0	13.3	6.7	3.3	3.3	6.7	0.0
	高次脳機能障害と診断	25	11	1	4	0	4	2	3	0
		100.0	44.0	4.0	16.0	0.0	16.0	8.0	12.0	0.0
	認知症と診断	10	4	1	0	0	1	3	1	0
		100.0	40.0	10.0	0.0	0.0	10.0	30.0	10.0	0.0
	10代	27	2	9	3	7	5	1	0	0
		100.0	7.4	33.3	11.1	25.9	18.5	3.7	0.0	0.0
	20代	185	22	63	51	10	31	3	3	2
		100.0	11.9	34.1	27.6	5.4	16.8	1.6	1.6	1.1
	30代	176	38	69	25	1	29	11	3	0
		100.0	21.6	39.2	14.2	0.6	16.5	6.3	1.7	0.0
	40代	191	70	77	20	0	11	7	4	2
		100.0	36.6	40.3	10.5	0.0	5.8	3.7	2.1	1.0
	50代	189	97	69	4	0	8	6	3	2
		100.0	51.3	36.5	2.1	0.0	4.2	3.2	1.6	1.1
	60代	248	172	36	4	0	15	6	10	5
		100.0	69.4	14.5	1.6	0.0	6.0	2.4	4.0	2.0
	70代	269	225	9	1	0	11	9	8	6
		100.0	83.6	3.3	0.4	0.0	4.1	3.3	3.0	2.2
	80代以上	170	132	2	0	0	12	13	5	6
		100.0	77.6	1.2	0.0	0.0	7.1	7.6	2.9	3.5



2 スポーツや運動について

(1) この1年間に行ったスポーツ

この1年間に「スポーツを行った」人は、68.9%
 医療費助成対象外の難病患者と認知症と診断された人以外の障害で62.7～73.4%
 年代が若いほど、スポーツを行った人の割合が高い
 行ったスポーツとしては、「ウォーキング、散歩」、「体操」の割合が高い

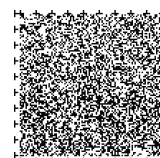
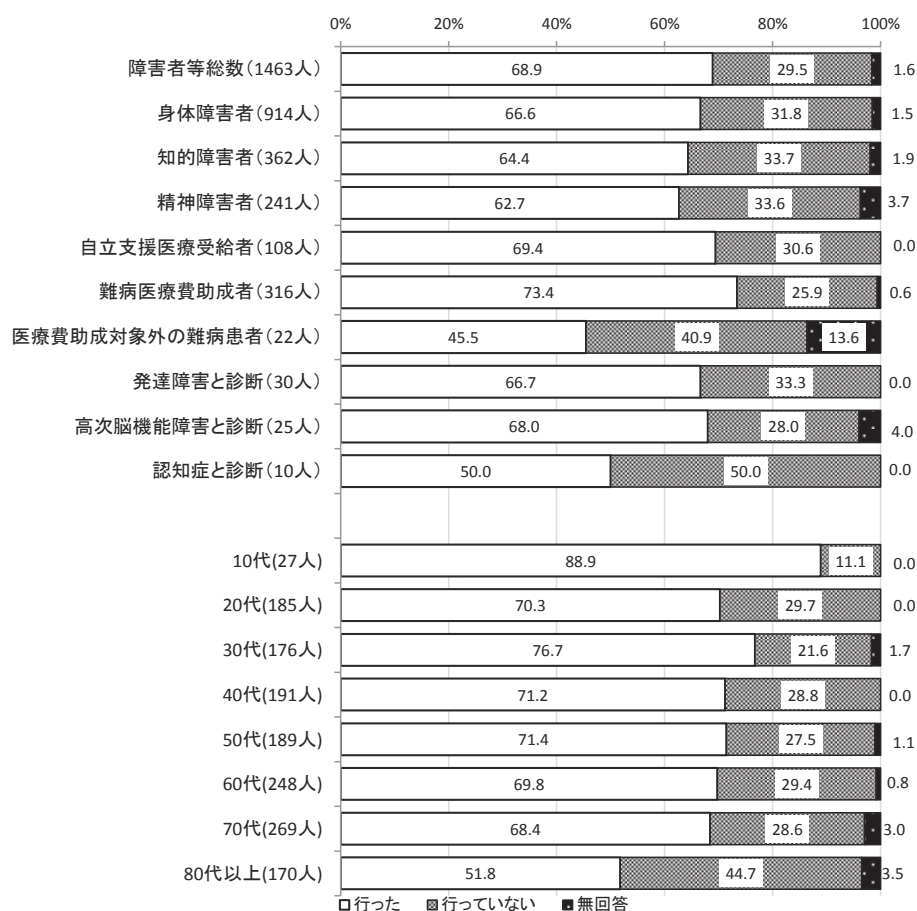
この1年間に何らかのスポーツを行った人は68.9%となっている。

障害別にみると、医療費助成対象外の難病患者（45.5%）と認知症と診断された人（50.0%）を除く、どの障害の人でも62.7～73.4%がスポーツを行っている。

年代別にみると、スポーツを行っている割合は年代が若い方が高く、10代で88.9%となっている一方で、80代以上ではスポーツを行っている人は51.8%にとどまる。

スポーツの種類としては、医療費助成対象外の難病患者と認知症と診断された人以外の障害では「ウォーキング、散歩」、「体操」を挙げる人の割合が高い。その他、知的障害者では「陸上競技」、「水泳・遊泳」、「球技」、「ダンス」を挙げる人の割合が他の障害に比べて高くなっている。

図表 2-13 この1年間にスポーツを行ったか〔単数回答〕(Q5)－障害別、年代別

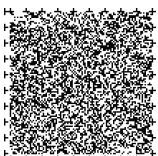


図表 2-14 この１年間にいったスポーツ〔複数回答〕（Q5）－障害別

	総数	行った	行った							
			ウォーキング、散歩	体操	室内運動器具を用いる運動	陸上競技	水泳・遊泳	球技	ダンス	格闘技
障害者等総数	1463	1008	800	437	225	68	155	107	66	2
	100.0	68.9	54.7	29.9	15.4	4.6	10.6	7.3	4.5	0.1
身体障害者	914	609	486	247	139	27	77	57	26	0
	100.0	66.6	53.2	27.0	15.2	3.0	8.4	6.2	2.8	0.0
知的障害者	362	233	173	84	32	27	64	38	29	0
	100.0	64.4	47.8	23.2	8.8	7.5	17.7	10.5	8.0	0.0
精神障害者	241	151	116	61	28	10	18	10	10	1
	100.0	62.7	48.1	25.3	11.6	4.1	7.5	4.1	4.1	0.4
自立支援医療受給者	108	75	65	31	12	8	15	6	4	0
	100.0	69.4	60.2	28.7	11.1	7.4	13.9	5.6	3.7	0.0
難病医療費助成者	316	232	190	127	67	13	25	27	10	1
	100.0	73.4	60.1	40.2	21.2	4.1	7.9	8.5	3.2	0.3
医療費助成対象外の 難病患者	22	10	6	6	4	1	1	0	1	0
	100.0	45.5	27.3	27.3	18.2	4.5	4.5	0.0	4.5	0.0
発達障害と診断	30	20	17	5	3	2	3	1	3	0
	100.0	66.7	56.7	16.7	10.0	6.7	10.0	3.3	10.0	0.0
高次脳機能障害と診断	25	17	13	11	7	1	2	2	0	0
	100.0	68.0	52.0	44.0	28.0	4.0	8.0	8.0	0.0	0.0
認知症と診断	10	5	1	3	3	0	0	0	0	0
	100.0	50.0	10.0	30.0	30.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

	総数	行った								
		武道	射的	ウィンタースポーツ	ウォータースポーツ	スカイスポーツ	アウトドアスポーツ	サイクリング、モータースポーツ	ブラインドサッカー	車いすテニス
障害者等総数	1463	4	12	30	11	0	72	55	0	0
	100.0	0.3	0.8	2.1	0.8	0.0	4.9	3.8	0.0	0.0
身体障害者	914	0	5	9	7	0	42	34	0	0
	100.0	0.0	0.5	1.0	0.8	0.0	4.6	3.7	0.0	0.0
知的障害者	362	0	2	10	2	0	12	10	0	0
	100.0	0.0	0.6	2.8	0.6	0.0	3.3	2.8	0.0	0.0
精神障害者	241	2	2	4	2	0	8	9	0	0
	100.0	0.8	0.8	1.7	0.8	0.0	3.3	3.7	0.0	0.0
自立支援医療受給者	108	0	2	0	1	0	6	4	0	0
	100.0	0.0	1.9	0.0	0.9	0.0	5.6	3.7	0.0	0.0
難病医療費助成者	316	1	6	11	2	0	18	11	0	0
	100.0	0.3	1.9	3.5	0.6	0.0	5.7	3.5	0.0	0.0
医療費助成対象外の難病患者	22	0	0	0	0	0	2	1	0	0
	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	9.1	4.5	0.0	0.0
発達障害と診断	30	0	0	0	0	0	1	4	0	0
	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.3	13.3	0.0	0.0
高次脳機能障害と診断	25	0	0	0	0	0	1	1	0	0
	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.0	4.0	0.0	0.0
認知症と診断	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

	総数	行った						行っていない	無回答
		サウンドテーブルテニス	シットイングバレーボール	車椅子バスケットボール	ウィルチェアーラグビー	ボッチャ	その他		
障害者等総数	1463	2	1	0	0	11	84	431	24
	100.0	0.1	0.1	0.0	0.0	0.8	5.7	29.5	1.6
身体障害者	914	2	1	0	0	7	54	291	14
	100.0	0.2	0.1	0.0	0.0	0.8	5.9	31.8	1.5
知的障害者	362	0	0	0	0	7	28	122	7
	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.9	7.7	33.7	1.9
精神障害者	241	0	0	0	0	3	6	81	9
	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.2	2.5	33.6	3.7
自立支援医療受給者	108	0	0	0	0	2	2	33	0
	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.9	1.9	30.6	0.0
難病医療費助成者	316	1	1	0	0	0	14	82	2
	100.0	0.3	0.3	0.0	0.0	0.0	4.4	25.9	0.6
医療費助成対象外の難病患者	22	0	0	0	0	0	1	9	3
	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.5	40.9	13.6
発達障害と診断	30	0	0	0	0	0	1	10	0
	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.3	33.3	0.0
高次脳機能障害と診断	25	0	0	0	0	0	2	7	1
	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	8.0	28.0	4.0
認知症と診断	10	0	0	0	0	0	0	5	0
	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0



(2) この1年間にスポーツを行った頻度

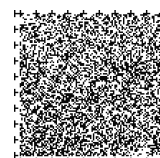
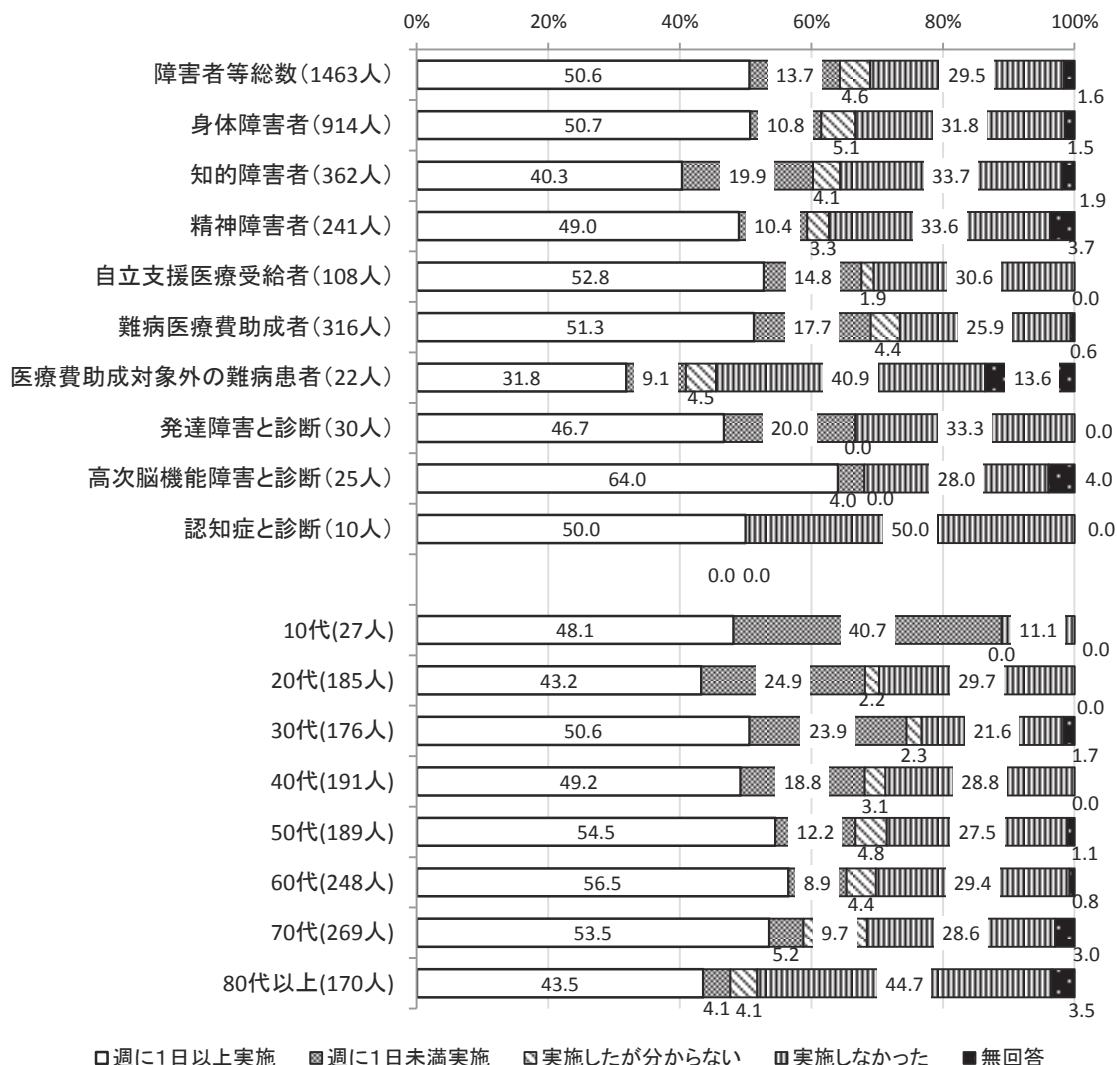
スポーツを行った頻度は、「週に1日以上」が50.6%、「週に1日未満」が13.7%
 おおむねどの障害も「週に1日以上」が半数前後を占める
 また、60代は「週に1日以上」(56.5%)でやや高い

この1年間にスポーツを行った頻度をみると、「週に1日以上」が50.6%、「週に1日未満」が13.7%となっている。一方、「実施しなかった」が29.5%となっている。

障害別にみると、大きな違いはみられず、おおむねどの障害も半数前後が「週に1日以上」としているものの、知的障害者は「週に1日未満」(19.9%)が他の障害に比べて高くなっている。

年代別にみると、大きな違いはみられないものの、「週に1日以上」スポーツを行っている人は、60代(56.5%)でやや高くなっている。

図表 2-15 この1年間にスポーツを行った頻度〔単数回答〕(Q6)－障害別、年代別



(3) スポーツや運動を行った場所

※この1年間に何らかのスポーツや運動を行ったことがあると回答した1008人が対象

スポーツや運動を行った場所は「道路や遊歩道」(50.9%)、「自宅」(28.9%)、「広場や公園」(24.5%)が高い

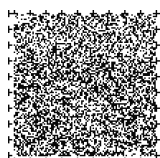
スポーツを行った場所をみると、「道路や遊歩道」が50.9%と最も高く、次いで「自宅」(28.9%)、「広場や公園」(24.5%)となっている。

障害別にみると、上位に挙がっている場所に違いはみられないものの、知的障害者では「公共のスポーツ施設（障害者専用施設）」(13.7%)、「公共のスポーツ施設（障害者専用施設以外）」(23.6%)、「福祉施設」(17.2%)の割合が他の障害に比べて高くなっている。

図表 2-16 スポーツや運動を行った場所〔複数回答〕(Q7)－障害別

	総数	自宅	道路や遊歩道	広場や公園	民間のスポーツ施設	公共のスポーツ施設 (障害者専用施設)	公共のスポーツ施設 (障害者専用施設以外)	公立小中学校の体育施設	特別支援学校の体育施設
障害者等総数	1008	291	513	247	137	58	146	30	24
	100.0	28.9	50.9	24.5	13.6	5.8	14.5	3.0	2.4
身体障害者	609	173	307	162	78	37	64	16	6
	100.0	28.4	50.4	26.6	12.8	6.1	10.5	2.6	1.0
知的障害者	233	39	98	53	30	32	55	16	19
	100.0	16.7	42.1	22.7	12.9	13.7	23.6	6.9	8.2
精神障害者	151	41	83	35	14	6	22	1	1
	100.0	27.2	55.0	23.2	9.3	4.0	14.6	0.7	0.7
自立支援医療受給者	75	23	49	20	12	3	14	1	2
	100.0	30.7	65.3	26.7	16.0	4.0	18.7	1.3	2.7
難病医療費助成者	232	88	128	54	40	5	29	8	1
	100.0	37.9	55.2	23.3	17.2	2.2	12.5	3.4	0.4
医療費助成対象外の難病患者	10	4	3	5	2	0	1	0	0
	100.0	40.0	30.0	50.0	20.0	0.0	10.0	0.0	0.0
発達障害と診断	20	8	15	9	2	1	4	0	1
	100.0	40.0	75.0	45.0	10.0	5.0	20.0	0.0	5.0
高次脳機能障害と診断	17	7	11	4	1	2	1	1	1
	100.0	41.2	64.7	23.5	5.9	11.8	5.9	5.9	5.9
認知症と診断	5	1	0	0	0	0	0	0	0
	100.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

	総数	職場のスポーツ施設	福祉施設	医療機関	山・川・海	その他	わからない	無回答
障害者等総数	1008	11	110	22	83	76	3	43
	100.0	1.1	10.9	2.2	8.2	7.5	0.3	4.3
身体障害者	609	7	72	15	43	44	1	35
	100.0	1.1	11.8	2.5	7.1	7.2	0.2	5.7
知的障害者	233	3	40	0	16	20	1	11
	100.0	1.3	17.2	0.0	6.9	8.6	0.4	4.7
精神障害者	151	1	16	5	13	7	0	5
	100.0	0.7	10.6	3.3	8.6	4.6	0.0	3.3
自立支援医療受給者	75	0	6	1	8	4	0	3
	100.0	0.0	8.0	1.3	10.7	5.3	0.0	4.0
難病医療費助成者	232	2	11	7	22	16	0	9
	100.0	0.9	4.7	3.0	9.5	6.9	0.0	3.9
医療費助成対象外の難病患者	10	0	0	0	1	1	0	0
	100.0	0.0	0.0	0.0	10.0	10.0	0.0	0.0
発達障害と診断	20	0	0	1	2	2	0	0
	100.0	0.0	0.0	5.0	10.0	10.0	0.0	0.0
高次脳機能障害と診断	17	0	6	1	1	4	0	0
	100.0	0.0	35.3	5.9	5.9	23.5	0.0	0.0
認知症と診断	5	0	4	1	0	0	0	0
	100.0	0.0	80.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0



(4) スポーツや運動を一緒にする人

※この1年間に何らかのスポーツや運動を行ったことがあると回答した1008人が対象

スポーツや運動を一緒にする人は、いない（「一人」）（55.3%）、「家族」（31.6%）が高い

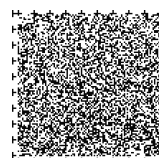
障害別では、知的障害者や認知症と診断された人以外は、いない（「一人」）が高く、知的障害者は「家族」、「福祉施設の職員・仲間」が高い

いない（「一人」）は50代、60代、「家族」は10代、20代、「福祉施設の職員・仲間」は20代で高い

スポーツや運動を一緒にする人をみると、いない（「一人」）が55.3%と最も高く、次いで「家族」（31.6%）、「福祉施設の職員・仲間」（14.5%）となっている。

障害別にみると、知的障害者や認知症と診断された人以外は、いない（「一人」）が最も高く、次いで、身体障害者や精神障害者、自立支援医療費受給者、難病医療費助成者は「家族」となっているが、知的障害者は、「家族」が最も高く、次いで「福祉施設の職員・仲間」となっている。その他、知的障害者では「障害がある人のサークル・障害者スポーツのサークル等の仲間」が他の障害に比べて高くなっている。

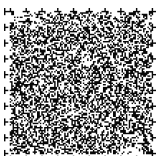
年代別にみると、いない（「一人」）は、50代（72.6%）、60代（67.6%）で高く、「家族」は10代（50.0%）、20代（46.2%）で高く、「福祉施設の職員・仲間」は20代（25.4%）で高くなっている。



図表 2-17 スポーツや運動と一緒にする人〔複数回答〕(Q8)－障害別

	総数	一人	家族	福祉施設の 職員・仲間	スポーツ教 室の指導 者・仲間	地域の公共 スポーツ施 設の職員・ 仲間	障害者専用 スポーツ施 設の職員・ 仲間	障害がある 人のサーク ル・障害者 スポーツの サークル等 の仲間
障害者等総数	1008 100.0	557 55.3	319 31.6	146 14.5	80 7.9	24 2.4	16 1.6	72 7.1
身体障害者	609 100.0	338 55.5	170 27.9	86 14.1	45 7.4	9 1.5	13 2.1	37 6.1
知的障害者	233 100.0	68 29.2	90 38.6	75 32.2	21 9.0	5 2.1	5 2.1	42 18.0
精神障害者	151 100.0	98 64.9	37 24.5	16 10.6	7 4.6	2 1.3	3 2.0	9 6.0
自立支援医療受給者	75 100.0	53 70.7	22 29.3	9 12.0	5 6.7	0 0.0	1 1.3	4 5.3
難病医療費助成者	232 100.0	153 65.9	82 35.3	13 5.6	23 9.9	9 3.9	3 1.3	5 2.2
医療費助成対象外の 難病患者	10 100.0	7 70.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 10.0	0 0.0	0 0.0
発達障害と診断	20 100.0	14 70.0	9 45.0	0 0.0	0 0.0	1 5.0	0 0.0	0 0.0
高次脳機能障害と診断	17 100.0	8 47.1	7 41.2	9 52.9	1 5.9	0 0.0	2 11.8	3 17.6
認知症と診断	5 100.0	1 20.0	2 40.0	3 60.0	0 0.0	0 0.0	1 20.0	0 0.0

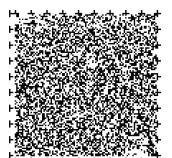
	総数	障害がある 人やない人 など様々な 人がいる サークルの 仲間	ボランティア の人たち	学校の先生 や学校の友 達	その他の友 人・知人	その他	わからない	無回答
障害者等総数	1008 100.0	64 6.3	32 3.2	13 1.3	130 12.9	55 5.5	2 0.2	39 3.9
身体障害者	609 100.0	37 6.1	14 2.3	4 0.7	80 13.1	35 5.7	1 0.2	31 5.1
知的障害者	233 100.0	15 6.4	23 9.9	7 3.0	10 4.3	18 7.7	1 0.4	9 3.9
精神障害者	151 100.0	7 4.6	3 2.0	2 1.3	14 9.3	4 2.6	0 0.0	5 3.3
自立支援医療受給者	75 100.0	2 2.7	2 2.7	1 1.3	9 12.0	4 5.3	0 0.0	2 2.7
難病医療費助成者	232 100.0	13 5.6	2 0.9	3 1.3	41 17.7	12 5.2	0 0.0	9 3.9
医療費助成対象外の 難病患者	10 100.0	2 20.0	0 0.0	0 0.0	2 20.0	1 10.0	0 0.0	0 0.0
発達障害と診断	20 100.0	0 0.0	0 0.0	1 5.0	4 20.0	1 5.0	0 0.0	0 0.0
高次脳機能障害と診断	17 100.0	1 5.9	1 5.9	0 0.0	1 5.9	1 5.9	0 0.0	1 5.9
認知症と診断	5 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0



図表 2-18 スポーツや運動と一緒にする人〔複数回答〕(Q8) 一年代別

	総数	一人	家族	福祉施設の 職員・仲間	スポーツ教 室の指導 者・仲間	地域の公共 スポーツ施 設の職員・ 仲間	障害者専用 スポーツ施 設の職員・ 仲間	障害がある 人のサーク ル・障害者 スポーツの サークル等 の仲間
障害者等総数	1008 100.0	557 55.3	319 31.6	146 14.5	80 7.9	24 2.4	16 1.6	72 7.1
10代	24 100.0	9 37.5	12 50.0	5 20.8	1 4.2	1 4.2	1 4.2	5 20.8
20代	130 100.0	51 39.2	60 46.2	33 25.4	17 13.1	3 2.3	5 3.8	23 17.7
30代	135 100.0	69 51.1	55 40.7	24 17.8	8 5.9	1 0.7	1 0.7	16 11.9
40代	136 100.0	82 60.3	52 38.2	16 11.8	6 4.4	3 2.2	1 0.7	9 6.6
50代	135 100.0	98 72.6	35 25.9	15 11.1	9 6.7	2 1.5	0 0.0	2 1.5
60代	173 100.0	117 67.6	52 30.1	12 6.9	14 8.1	1 0.6	2 1.2	6 3.5
70代	184 100.0	89 48.4	39 21.2	21 11.4	21 11.4	10 5.4	2 1.1	7 3.8
80代以上	88 100.0	41 46.6	13 14.8	19 21.6	4 4.5	3 3.4	4 4.5	4 4.5

	総数	障害がある 人やない人 など様々な 人がいる サークルの 仲間	ボランティア の人たち	学校の先生 や学校の友 達	その他の友 人・知人	その他	わからない	無回答
障害者等総数	1008 100.0	64 6.3	32 3.2	13 1.3	130 12.9	55 5.5	2 0.2	39 3.9
10代	24 100.0	0 0.0	1 4.2	6 25.0	3 12.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0
20代	130 100.0	11 8.5	13 10.0	5 3.8	10 7.7	13 10.0	0 0.0	2 1.5
30代	135 100.0	8 5.9	6 4.4	1 0.7	25 18.5	8 5.9	0 0.0	1 0.7
40代	136 100.0	10 7.4	4 2.9	0 0.0	18 13.2	4 2.9	0 0.0	2 1.5
50代	135 100.0	7 5.2	2 1.5	0 0.0	14 10.4	5 3.7	1 0.7	2 1.5
60代	173 100.0	4 2.3	4 2.3	0 0.0	24 13.9	5 2.9	1 0.6	8 4.6
70代	184 100.0	17 9.2	2 1.1	1 0.5	25 13.6	8 4.3	0 0.0	19 10.3
80代以上	88 100.0	7 8.0	0 0.0	0 0.0	9 10.2	12 13.6	0 0.0	5 5.7



(5) スポーツや運動をした理由

※この1年間に何らかのスポーツや運動を行ったことがあると回答した1008人が対象

スポーツや運動をした理由として、「健康・体力づくりのため」(67.1%)、「運動不足解消のため」(53.9%)、「楽しみや気晴らしのため」(45.1%)が高い

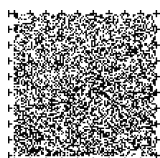
障害別では、発達障害と診断されている人を除く全ての障害で、「健康・体力づくりのため」が高い

年代別では、「健康・体力づくりのため」、「リハビリテーションや医療・治療のため」は年齢が比較的高い人で割合が高い一方、「楽しみや気晴らしのため」、「友人・仲間との交流のため」は年齢が比較的低い人で割合が高い

スポーツや運動をした理由は、「健康・体力づくりのため」(67.1%)が最も高く、次いで「運動不足解消のため」(53.9%)、「楽しみや気晴らしのため」(45.1%)、「友人・仲間との交流のため」(20.3%)となっている。

障害別にみると、発達障害と診断されている人を除く障害で、「健康・体力づくりのため」が高くなっている。その他では、身体障害者は「リハビリテーションや医療・治療のため」(20.9%)が、知的障害者は「楽しみや気晴らしのため」(52.4%)が、精神障害者や自立支援医療受給者は「精神の修養や訓練のため」(13.2%、17.3%)、「美容や肥満解消のため」(21.9%、30.7%)が、他の障害に比べて高い。

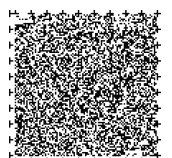
年代別にみると、上位に挙がっているものに大きな違いはみられないものの、「健康・体力づくりのため」、「リハビリテーションや医療・治療のため」は年齢が比較的高い人で割合が高くなっている。また、「楽しみや気晴らしのため」、「友人・仲間との交流のため」は年齢が比較的低い人で割合が高くなっている。



図表 2-19 スポーツや運動をした理由〔複数回答〕(Q9)－障害別

	総数	健康・体力 づくりのため	楽しみや気 晴らしのため	運動不足解 消のため	精神の修養 や訓練のため	自己の記録 や能力を向 上させるため	リハビリ テーション や医療・治 療のため	家族のふれ あいのため
障害者等総数	1008	676	455	543	48	33	162	94
	100.0	67.1	45.1	53.9	4.8	3.3	16.1	9.3
身体障害者	609	410	242	314	17	21	127	44
	100.0	67.3	39.7	51.6	2.8	3.4	20.9	7.2
知的障害者	233	142	122	118	9	7	24	25
	100.0	60.9	52.4	50.6	3.9	3.0	10.3	10.7
精神障害者	151	98	72	84	20	4	20	12
	100.0	64.9	47.7	55.6	13.2	2.6	13.2	7.9
自立支援医療受給者	75	54	37	47	13	3	13	10
	100.0	72.0	49.3	62.7	17.3	4.0	17.3	13.3
難病医療費助成者	232	155	107	132	8	7	41	27
	100.0	66.8	46.1	56.9	3.4	3.0	17.7	11.6
医療費助成対象外の 難病患者	10	6	4	5	0	0	0	0
	100.0	60.0	40.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0
発達障害と診断	20	6	12	10	3	2	1	3
	100.0	30.0	60.0	50.0	15.0	10.0	5.0	15.0
高次脳機能障害と診断	17	11	4	6	1	1	9	0
	100.0	64.7	23.5	35.3	5.9	5.9	52.9	0.0
認知症と診断	5	3	2	2	0	0	5	1
	100.0	60.0	40.0	40.0	0.0	0.0	100.0	20.0

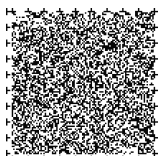
	総数	友人・仲間 との交流の ため	美容や肥満 解消のため	障害者ス ポーツ大会 に参加する ため	その他	わからない	無回答
障害者等総数	1008	205	120	27	41	8	52
	100.0	20.3	11.9	2.7	4.1	0.8	5.2
身体障害者	609	125	53	13	21	3	37
	100.0	20.5	8.7	2.1	3.4	0.5	6.1
知的障害者	233	55	20	18	12	4	14
	100.0	23.6	8.6	7.7	5.2	1.7	6.0
精神障害者	151	20	33	2	8	1	9
	100.0	13.2	21.9	1.3	5.3	0.7	6.0
自立支援医療受給者	75	12	23	2	3	2	4
	100.0	16.0	30.7	2.7	4.0	2.7	5.3
難病医療費助成者	232	45	35	1	8	0	12
	100.0	19.4	15.1	0.4	3.4	0.0	5.2
医療費助成対象外の 難病患者	10	4	2	0	0	0	1
	100.0	40.0	20.0	0.0	0.0	0.0	10.0
発達障害と診断	20	5	4	0	5	0	2
	100.0	25.0	20.0	0.0	25.0	0.0	10.0
高次脳機能障害と診断	17	5	2	0	0	0	1
	100.0	29.4	11.8	0.0	0.0	0.0	5.9
認知症と診断	5	0	0	0	0	0	0
	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0



図表 2-20 スポーツや運動をした理由〔複数回答〕(Q9) 一年代別

	総数	健康・体力 づくりのため	楽しみや気 晴らしのため	運動不足解 消のため	精神の修養 や訓練のため	自己の記録 や能力を向 上させるため	リハビリ テーション や医療・治 療のため	家族のふれ あいのため
障害者等総数	1008 100.0	676 67.1	455 45.1	543 53.9	48 4.8	33 3.3	162 16.1	94 9.3
10代	24 100.0	12 50.0	19 79.2	14 58.3	3 12.5	2 8.3	0 0.0	5 20.8
20代	130 100.0	77 59.2	68 52.3	69 53.1	3 2.3	5 3.8	7 5.4	15 11.5
30代	135 100.0	88 65.2	87 64.4	79 58.5	14 10.4	5 3.7	12 8.9	20 14.8
40代	136 100.0	88 64.7	79 58.1	70 51.5	9 6.6	5 3.7	10 7.4	19 14.0
50代	135 100.0	94 69.6	60 44.4	81 60.0	8 5.9	4 3.0	30 22.2	8 5.9
60代	173 100.0	126 72.8	55 31.8	92 53.2	4 2.3	3 1.7	37 21.4	11 6.4
70代	184 100.0	127 69.0	60 32.6	97 52.7	4 2.2	6 3.3	38 20.7	11 6.0
80代以上	88 100.0	62 70.5	26 29.5	40 45.5	3 3.4	3 3.4	28 31.8	4 4.5

	総数	友人・仲間 との交流の ため	美容や肥満 解消のため	障害者ス ポーツ大会 に参加する ため	その他	わからない	無回答
障害者等総数	1008 100.0	205 20.3	120 11.9	27 2.7	41 4.1	8 0.8	52 5.2
10代	24 100.0	8 33.3	1 4.2	3 12.5	1 4.2	0 0.0	1 4.2
20代	130 100.0	40 30.8	16 12.3	9 6.9	10 7.7	3 2.3	3 2.3
30代	135 100.0	32 23.7	27 20.0	5 3.7	5 3.7	0 0.0	2 1.5
40代	136 100.0	21 15.4	31 22.8	5 3.7	7 5.1	2 1.5	4 2.9
50代	135 100.0	15 11.1	22 16.3	2 1.5	8 5.9	1 0.7	3 2.2
60代	173 100.0	21 12.1	14 8.1	0 0.0	5 2.9	0 0.0	14 8.1
70代	184 100.0	46 25.0	8 4.3	2 1.1	3 1.6	2 1.1	20 10.9
80代以上	88 100.0	20 22.7	1 1.1	1 1.1	2 2.3	0 0.0	5 5.7



(6) スポーツや運動を行っていない理由

※この1年間にスポーツや運動を行ったことがないと回答した431人が対象

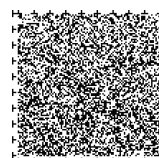
スポーツや運動を行っていない理由として、「活動したいが、身体的にできない」が50.8%と高い

特に、「活動したいが、身体的にできない」は難病医療費助成者と身体障害者の6割強、「活動したいと思わない」は、知的障害者、精神障害者の3割弱と高い
また、年代別では、70代、80代以上で「活動したいが、身体的にできない」が6割強と高い

スポーツや運動を行っていないと回答した人にその理由を聞くと、「活動したいが、身体的にできない」が50.8%と最も高く、次いで「活動したいと思わない」が20.9%となっている。その他、活動したいが「自分に合ったスポーツや運動の情報がない」(9.5%)、「一緒にやる人がいない」(8.6%)、「身近なところにスポーツや運動がやれる場所がない」(7.9%)のためにできない人も一定数みられた。

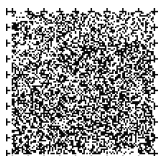
障害別にみると、おおむねどの障害においても「活動したいが、身体的にできない」を半数前後が挙げている。特に、難病医療費助成者(64.6%)、身体障害者(60.1%)で6割強と高くなっている。一方、「活動したいと思わない」は、知的障害者(27.0%)、精神障害者(28.4%)で3割弱と高い。

年代別にみると、「活動したいが、身体的にできない」は年代が上がるほど高く、70代(64.9%)、80代以上(63.2%)で6割強と高くなっている。また、その他では、20代で「活動したいと思わない」(27.3%)、「活動したいが、自分に合ったスポーツや運動の情報がない」(25.5%)が他の年代に比べて高い。



図表 2-21 スポーツや運動を行っていない理由〔複数回答〕(Q10)－障害別、年代別

		総 数	活 動 し た い が、 身 体 的 に で き な い	所 が な い 活 動 し た い が、 身 近 な と こ ろ に ス ポ ー ツ や 運 動 が や れ る 場 所 が な い	活 動 し た い が、 自 分 に 合 つ た ス ポ ー ツ や 運 動 の 情 報 が な い	活 動 し た い が、 一 緒 に や る 人 が い な い	活 動 し た い が、 時 間 が な い	そ の 他	活 動 し た い と 思 わ な い	無 回 答
障害者等総数		431 100.0	219 50.8	34 7.9	41 9.5	37 8.6	43 10.0	44 10.2	90 20.9	11 2.6
Q 29 保 有 し て い る 手 帳 、 難 病 医 療 費 助 成 、 障 害 の 診 断	身体障害者	291 100.0	175 60.1	24 8.2	22 7.6	20 6.9	21 7.2	29 10.0	51 17.5	10 3.4
	知的障害者	122 100.0	49 40.2	12 9.8	16 13.1	16 13.1	10 8.2	13 10.7	33 27.0	1 0.8
	精神障害者	81 100.0	39 48.1	9 11.1	9 11.1	5 6.2	8 9.9	5 6.2	23 28.4	3 3.7
	自立支援医療受給者	33 100.0	16 48.5	3 9.1	4 12.1	5 15.2	4 12.1	1 3.0	8 24.2	1 3.0
	難病医療費助成者	82 100.0	53 64.6	3 3.7	5 6.1	4 4.9	11 13.4	7 8.5	13 15.9	2 2.4
	医療費助成対象外の難病患者	9 100.0	7 77.8	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3 33.3	1 11.1	1 11.1	0 0.0
	発達障害と診断	10 100.0	1 10.0	0 0.0	4 40.0	1 10.0	0 0.0	2 20.0	3 30.0	0 0.0
	高次脳機能障害と診断	7 100.0	5 71.4	1 14.3	1 14.3	0 0.0	0 0.0	2 28.6	0 0.0	0 0.0
	認知症と診断	5 100.0	2 40.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 20.0	2 40.0	0 0.0
Q 2 年 代	10 代	3 100.0	1 33.3	0 0.0	1 33.3	1 33.3	1 33.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	20 代	55 100.0	12 21.8	12 21.8	14 25.5	12 21.8	9 16.4	5 9.1	15 27.3	0 0.0
	30 代	38 100.0	17 44.7	1 2.6	5 13.2	4 10.5	4 10.5	7 18.4	9 23.7	0 0.0
	40 代	55 100.0	23 41.8	6 10.9	6 10.9	10 18.2	11 20.0	1 1.8	12 21.8	0 0.0
	50 代	52 100.0	26 50.0	5 9.6	5 9.6	3 5.8	11 21.2	2 3.8	12 23.1	1 1.9
	60 代	73 100.0	40 54.8	2 2.7	4 5.5	3 4.1	5 6.8	8 11.0	15 20.5	5 6.8
	70 代	77 100.0	50 64.9	4 5.2	3 3.9	3 3.9	1 1.3	6 7.8	16 20.8	4 5.2
	80 代以上	76 100.0	48 63.2	4 5.3	3 3.9	1 1.3	1 1.3	15 19.7	11 14.5	1 1.3

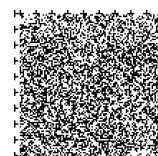


(7) 今後、行いたいスポーツや運動

今後、行いたいスポーツや運動については、「ウォーキング、散歩」(49.6%)、「体操」(28.2%)、「水泳・遊泳」(21.8%)が高い

今後、行いたいスポーツや運動については、「ウォーキング、散歩」(49.6%)が5割で最も高い。次いで「体操」(28.2%)、「水泳・遊泳」(21.8%)となっている。一方、「特にない」(19.3%)が約2割となっている。

障害別にみると、上位に挙がっているものに大きな違いはみられず、「ウォーキング、散歩」、「体操」、「水泳・遊泳」が高い。

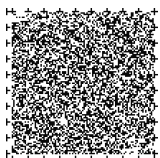


図表 2-22 今後行いたいスポーツや運動〔複数回答〕(Q11)－障害別

	総数	ウォーキング、散歩	体操	室内運動器具を用いる運動	陸上競技	水泳・遊泳	球技	ダンス	格闘技	武道
障害者等総数	1463 100.0	725 49.6	412 28.2	237 16.2	86 5.9	319 21.8	142 9.7	135 9.2	23 1.6	44 3.0
身体障害者	914 100.0	454 49.7	240 26.3	152 16.6	42 4.6	163 17.8	65 7.1	60 6.6	8 0.9	19 2.1
知的障害者	362 100.0	147 40.6	72 19.9	38 10.5	31 8.6	102 28.2	39 10.8	38 10.5	6 1.7	8 2.2
精神障害者	241 100.0	116 48.1	65 27.0	29 12.0	14 5.8	44 18.3	31 12.9	21 8.7	6 2.5	15 6.2
自立支援医療受給者	108 100.0	54 50.0	28 25.9	15 13.9	10 9.3	27 25.0	17 15.7	11 10.2	4 3.7	6 5.6
難病医療費助成者	316 100.0	174 55.1	124 39.2	70 22.2	16 5.1	76 24.1	27 8.5	47 14.9	6 1.9	9 2.8
医療費助成対象外の 難病患者	22 100.0	11 50.0	4 18.2	4 18.2	0 0.0	6 27.3	0 0.0	3 13.6	0 0.0	1 4.5
発達障害と診断	30 100.0	10 33.3	10 33.3	5 16.7	2 6.7	8 26.7	6 20.0	2 6.7	0 0.0	2 6.7
高次脳機能障害と診断	25 100.0	12 48.0	7 28.0	3 12.0	2 8.0	4 16.0	1 4.0	1 4.0	0 0.0	0 0.0
認知症と診断	10 100.0	2 20.0	3 30.0	1 10.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0

	総数	射的	ウィンタースポーツ	ウォータースポーツ	スカイスポーツ	アウトドアスポーツ	サイクリング、モータースポーツ	ブラインドサッカー	車いすテニス	サウンドテーブルテニス
障害者等総数	1463 100.0	63 4.3	86 5.9	60 4.1	27 1.8	142 9.7	81 5.5	2 0.1	2 0.1	6 0.4
身体障害者	914 100.0	31 3.4	37 4.0	37 4.0	17 1.9	79 8.6	45 4.9	1 0.1	2 0.2	4 0.4
知的障害者	362 100.0	11 3.0	22 6.1	9 2.5	2 0.6	31 8.6	19 5.2	0 0.0	1 0.3	0 0.0
精神障害者	241 100.0	17 7.1	16 6.6	12 5.0	5 2.1	20 8.3	15 6.2	1 0.4	0 0.0	1 0.4
自立支援医療受給者	108 100.0	9 8.3	10 9.3	8 7.4	5 4.6	15 13.9	10 9.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0
難病医療費助成者	316 100.0	19 6.0	28 8.9	14 4.4	9 2.8	38 12.0	17 5.4	0 0.0	0 0.0	2 0.6
医療費助成対象外の 難病患者	22 100.0	1 4.5	1 4.5	1 4.5	0 0.0	2 9.1	1 4.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0
発達障害と診断	30 100.0	4 13.3	3 10.0	2 6.7	3 10.0	4 13.3	5 16.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0
高次脳機能障害と診断	25 100.0	0 0.0	1 4.0	0 0.0	0 0.0	2 8.0	2 8.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
認知症と診断	10 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0

	総数	シットینگバレーボール	車椅子バスケットボール	ウィルチェアラグビー	ボッチャ	その他	特にない	無回答
障害者等総数	1463 100.0	1 0.1	2 0.1	0 0.0	21 1.4	56 3.8	283 19.3	91 6.2
身体障害者	914 100.0	1 0.1	1 0.1	0 0.0	16 1.8	34 3.7	187 20.5	62 6.8
知的障害者	362 100.0	1 0.3	0 0.0	0 0.0	9 2.5	17 4.7	97 26.8	22 6.1
精神障害者	241 100.0	0 0.0	1 0.4	0 0.0	4 1.7	8 3.3	41 17.0	24 10.0
自立支援医療受給者	108 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 1.9	5 4.6	16 14.8	7 6.5
難病医療費助成者	316 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 0.3	15 4.7	49 15.5	11 3.5
医療費助成対象外の 難病患者	22 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 4.5	1 4.5	5 22.7
発達障害と診断	30 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 6.7	5 16.7	4 13.3
高次脳機能障害と診断	25 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 8.0	2 8.0	3 12.0	7 28.0
認知症と診断	10 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4 40.0	2 20.0



(8) スポーツや運動を行う際に必要な支援

スポーツや運動を行う際に必要な支援は、「適切な指導者」が 25.5%と最も高く、次いで「一緒に行く仲間」が 19.5%

スポーツや運動を行う際に必要な支援は、「適切な指導者」が 25.5%と最も高く、次いで「一緒に行く仲間」が 19.5%と高くなっている。その他、「会場までの送迎」(14.9%)、「障害にあわせたプログラムの充実」(14.6%)、「施設の利用料減免」(14.3%)、「スタジアム、体育館などの建物や設備のバリアフリー化」(14.1%)、「交通機関やまちのバリアフリー化」(13.0%)、「障害に対応した情報の提供や問合せ方法の充実」(12.4%)などがあげられ、分散している。

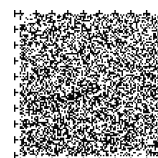
障害別にみると、上位に挙がっているものに大きな違いはみられないものの、身体障害者は「スタジアム、体育館などの建物や設備のバリアフリー化」(16.1%)、「交通機関やまちのバリアフリー化」(14.8%)、「介助者や手話通訳などの支援」(8.6%)が、知的障害者は「障害者への施設開放の促進」(16.9%)、「障害にあわせたプログラムの充実」(21.5%)が、精神障害者や自立支援医療受給者は「施設の利用料減免」(22.0%、38.9%)の割合が他の障害に比べて高い。また、難病医療費助成者は「特にない」(25.3%)の割合が高い。

年代別にみると、上位に挙がっているものに大きな違いはみられないものの、全体的に10代、20代はいろいろな支援を挙げている人が他の年代に比べて高く、特に10代では「施設や用具等を利用する際に必要な手続きの支援」、「一緒に行く仲間」を、20代では「会場までの送迎」、「障害者への施設開放の促進」、「障害にあわせたプログラムの充実」、「障害に対応した情報の提供や問合せ方法の充実」、「施設や用具等を利用する際に必要な手続きの支援」、「適切な指導者」、「一緒に行く仲間」が高い。

身体障害者の障害種別にみると、視覚では「障害に対応した情報の提供や問合せ方法の充実」(22.7%)が、聴覚や脳原性運動機能では「介助者や手話通訳などの支援」(20.3%、25.0%)が他の身体障害種別に比べて高い。

外出時のサービス利用別にみると、「外出支援を利用している」人は「会場までの送迎」(34.1%)、「介助者や手話通訳などの支援」(16.1%)を、「補装具を使用している」人は「スタジアム、体育館などの建物や設備のバリアフリー化」(20.1%)、「交通機関やまちのバリアフリー化」(19.0%)、「介助者や手話通訳などの支援」(13.5%)を挙げる人が他に比べて高い。

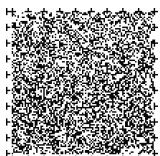
仕事の有無別にみると、「仕事をしている」人は「施設や用具等を利用する際に必要な手続きの支援」(8.3%)を、「仕事をしていない」人は「会場までの送迎」(18.4%)、を「福祉的就労をしている」人は「会場までの送迎」(25.2%)、「障害者への施設開放の促進」(20.6%)、「障害に合わせたプログラムの充実」(26.2%)、「一緒に行く仲間」(34.6%)、「施設の利用料減免」(21.5%)を挙げる人が他に比べて高い。



図表 2-23 スポーツや運動を行う際に必要な支援〔3つまで〕(Q12)－障害別

	総数	スタジアム、体育館などの建物や設備のバリアフリー化	交通機関やまちのバリアフリー化	会場までの送迎	障害者への施設開放の促進	障害にあわせたプログラムの充実	介助者や手話通訳などの支援	障害に対応した情報の提供や問合せ方法の充実	施設や用具等を利用する際に必要な手続きの支援	障害や障害者、補助犬(盲導犬、介助犬、聴導犬)などに対する理解促進
障害者等総数	1463 100.0	207 14.1	190 13.0	218 14.9	142 9.7	213 14.6	92 6.3	182 12.4	86 5.9	94 6.4
身体障害者	914 100.0	147 16.1	135 14.8	146 16.0	78 8.5	131 14.3	79 8.6	116 12.7	48 5.3	62 6.8
知的障害者	362 100.0	55 15.2	40 11.0	76 21.0	61 16.9	78 21.5	36 9.9	51 14.1	32 8.8	28 7.7
精神障害者	241 100.0	30 12.4	28 11.6	30 12.4	33 13.7	40 16.6	8 3.3	42 17.4	18 7.5	17 7.1
自立支援医療受給者	108 100.0	13 12.0	14 13.0	13 12.0	16 14.8	22 20.4	8 7.4	27 25.0	13 12.0	9 8.3
難病医療費助成者	316 100.0	41 13.0	46 14.6	37 11.7	16 5.1	29 9.2	4 1.3	24 7.6	14 4.4	12 3.8
医療費助成対象外の 難病患者	22 100.0	1 4.5	0 0.0	2 9.1	1 4.5	1 4.5	0 0.0	3 13.6	2 9.1	1 4.5
発達障害と診断	30 100.0	3 10.0	2 6.7	3 10.0	4 13.3	4 13.3	0 0.0	10 33.3	3 10.0	5 16.7
高次脳機能障害と診断	25 100.0	5 20.0	2 8.0	7 28.0	1 4.0	8 32.0	3 12.0	4 16.0	1 4.0	2 8.0
認知症と診断	10 100.0	0 0.0	2 20.0	2 20.0	0 0.0	2 20.0	2 20.0	1 10.0	0 0.0	0 0.0

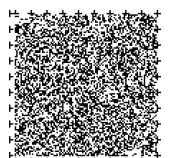
	総数	適切な指導者	一緒に行く仲間	スポーツ用具等の貸出	施設の利用料減免	その他	特にない	活動したいと思わない	わからない	無回答
障害者等総数	1463 100.0	373 25.5	286 19.5	86 5.9	209 14.3	32 2.2	245 16.7	48 3.3	87 5.9	150 10.3
身体障害者	914 100.0	214 23.4	159 17.4	41 4.5	103 11.3	20 2.2	154 16.8	36 3.9	52 5.7	100 10.9
知的障害者	362 100.0	107 29.6	90 24.9	17 4.7	52 14.4	7 1.9	37 10.2	12 3.3	26 7.2	40 11.0
精神障害者	241 100.0	49 20.3	43 17.8	23 9.5	53 22.0	5 2.1	34 14.1	8 3.3	14 5.8	29 12.0
自立支援医療受給者	108 100.0	27 25.0	29 26.9	13 12.0	42 38.9	3 2.8	16 14.8	5 4.6	5 4.6	5 4.6
難病医療費助成者	316 100.0	74 23.4	60 19.0	25 7.9	53 16.8	7 2.2	80 25.3	4 1.3	16 5.1	23 7.3
医療費助成対象外の 難病患者	22 100.0	8 36.4	3 13.6	2 9.1	5 22.7	1 4.5	3 13.6	1 4.5	3 13.6	1 4.5
発達障害と診断	30 100.0	9 30.0	7 23.3	6 20.0	7 23.3	1 3.3	1 3.3	2 6.7	3 10.0	1 3.3
高次脳機能障害と診断	25 100.0	6 24.0	9 36.0	0 0.0	5 20.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	7 28.0
認知症と診断	10 100.0	3 30.0	3 30.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 20.0	0 0.0	0 0.0	2 20.0



図表 2-24 スポーツや運動を行う際に必要な支援〔3つまで〕(Q12) 一年代別

	総数	スタジアム、体育館などの建物や設備のバリアフリー化	交通機関やまちのバリアフリー化	会場までの送迎	障害者への施設開放の促進	障害にあわせたプログラムの充実	介助者や手話通訳などの支援	障害に対応した情報の提供や問合せ方法の充実	施設や用具等を利用する際に必要な手続きの支援	障害や障害者、補助犬(盲導犬、介助犬、聴導犬)などに対する理解促進
障害者等総数	1463 100.0	207 14.1	190 13.0	218 14.9	142 9.7	213 14.6	92 6.3	182 12.4	86 5.9	94 6.4
10代	27 100.0	6 22.2	3 11.1	6 22.2	4 14.8	7 25.9	3 11.1	5 18.5	6 22.2	4 14.8
20代	185 100.0	30 16.2	22 11.9	43 23.2	38 20.5	48 25.9	19 10.3	39 21.1	20 10.8	18 9.7
30代	176 100.0	29 16.5	23 13.1	21 11.9	20 11.4	31 17.6	14 8.0	27 15.3	11 6.3	16 9.1
40代	191 100.0	27 14.1	21 11.0	27 14.1	25 13.1	31 16.2	14 7.3	26 13.6	12 6.3	16 8.4
50代	189 100.0	35 18.5	35 18.5	17 9.0	18 9.5	27 14.3	8 4.2	27 14.3	14 7.4	11 5.8
60代	248 100.0	35 14.1	36 14.5	32 12.9	10 4.0	25 10.1	13 5.2	28 11.3	9 3.6	12 4.8
70代	269 100.0	32 11.9	28 10.4	44 16.4	22 8.2	25 9.3	14 5.2	18 6.7	9 3.3	13 4.8
80代以上	170 100.0	12 7.1	21 12.4	27 15.9	4 2.4	17 10.0	7 4.1	12 7.1	5 2.9	3 1.8

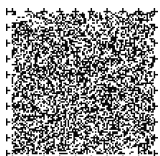
	総数	適切な指導者	一緒に行う仲間	スポーツ用具等の貸出	施設の利用料減免	その他	特になし	活動したいと思わない	わからない	無回答
障害者等総数	1463 100.0	373 25.5	286 19.5	86 5.9	209 14.3	32 2.2	245 16.7	48 3.3	87 5.9	150 10.3
10代	27 100.0	11 40.7	11 40.7	3 11.1	3 11.1	0 0.0	2 7.4	0 0.0	1 3.7	2 7.4
20代	185 100.0	71 38.4	61 33.0	17 9.2	36 19.5	4 2.2	12 6.5	5 2.7	14 7.6	5 2.7
30代	176 100.0	49 27.8	35 19.9	13 7.4	37 21.0	5 2.8	29 16.5	2 1.1	8 4.5	9 5.1
40代	191 100.0	45 23.6	38 19.9	12 6.3	41 21.5	3 1.6	35 18.3	6 3.1	8 4.2	12 6.3
50代	189 100.0	48 25.4	32 16.9	19 10.1	33 17.5	4 2.1	26 13.8	7 3.7	10 5.3	14 7.4
60代	248 100.0	51 20.6	39 15.7	8 3.2	26 10.5	6 2.4	62 25.0	8 3.2	13 5.2	25 10.1
70代	269 100.0	63 23.4	38 14.1	10 3.7	26 9.7	8 3.0	47 17.5	11 4.1	21 7.8	47 17.5
80代以上	170 100.0	35 20.6	32 18.8	4 2.4	6 3.5	2 1.2	31 18.2	9 5.3	12 7.1	33 19.4



図表 2-25 スポーツや運動を行う際に必要な支援〔3つまで〕(Q12)－身体障害種別

	総数	スタジアム、体育館などの建物や設備のバリアフリー化	交通機関やまちのバリアフリー化	会場までの送迎	障害者への施設開放の促進	障害にあわせたプログラムの充実	介助者や手話通訳などの支援	障害に対応した情報の提供や問合せ方法の充実	施設や用具等を利用する際に必要な手続きの支援	障害や障害者、補助犬(盲導犬、介助犬、聴導犬)などに対する理解促進
身体障害者総数	914 100.0	147 16.1	135 14.8	146 16.0	78 8.5	131 14.3	79 8.6	116 12.7	48 5.3	62 6.8
視覚	119 100.0	16 13.4	22 18.5	26 21.8	9 7.6	19 16.0	10 8.4	27 22.7	8 6.7	9 7.6
聴覚	133 100.0	14 10.5	10 7.5	13 9.8	6 4.5	12 9.0	27 20.3	24 18.0	7 5.3	14 10.5
平衡機能	28 100.0	5 17.9	4 14.3	8 28.6	2 7.1	4 14.3	5 17.9	3 10.7	1 3.6	3 10.7
音声機能・言語機能・そ しゃく機能	93 100.0	15 16.1	13 14.0	14 15.1	9 9.7	13 14.0	13 14.0	7 7.5	2 2.2	6 6.5
上肢	175 100.0	42 24.0	41 23.4	35 20.0	21 12.0	40 22.9	21 12.0	27 15.4	11 6.3	17 9.7
下肢	261 100.0	62 23.8	58 22.2	55 21.1	33 12.6	50 19.2	20 7.7	32 12.3	12 4.6	20 7.7
体幹	105 100.0	29 27.6	27 25.7	26 24.8	13 12.4	12 11.4	20 19.0	15 14.3	4 3.8	7 6.7
脳原性運動機能	72 100.0	26 36.1	18 25.0	14 19.4	12 16.7	16 22.2	18 25.0	11 15.3	6 8.3	11 15.3
内部障害	259 100.0	28 10.8	26 10.0	25 9.7	20 7.7	29 11.2	7 2.7	21 8.1	16 6.2	8 3.1

	総数	適切な指導者	一緒に行う仲間	スポーツ用具等の貸出	施設の利用料減免	その他	特にない	活動したいと思わない	わからない	無回答
身体障害者総数	914 100.0	214 23.4	159 17.4	41 4.5	103 11.3	20 2.2	154 16.8	36 3.9	52 5.7	100 10.9
視覚	119 100.0	27 22.7	20 16.8	2 1.7	6 5.0	3 2.5	13 10.9	3 2.5	9 7.6	11 9.2
聴覚	133 100.0	29 21.8	24 18.0	6 4.5	10 7.5	4 3.0	30 22.6	9 6.8	9 6.8	11 8.3
平衡機能	28 100.0	11 39.3	5 17.9	0 0.0	4 14.3	0 0.0	3 10.7	1 3.6	3 10.7	5 17.9
音声機能・言語機能・そ しゃく機能	93 100.0	24 25.8	19 20.4	1 1.1	7 7.5	1 1.1	20 21.5	3 3.2	5 5.4	10 10.8
上肢	175 100.0	59 33.7	33 18.9	4 2.3	15 8.6	3 1.7	14 8.0	6 3.4	12 6.9	18 10.3
下肢	261 100.0	75 28.7	42 16.1	9 3.4	32 12.3	8 3.1	26 10.0	12 4.6	14 5.4	25 9.6
体幹	105 100.0	28 26.7	16 15.2	1 1.0	5 4.8	4 3.8	4 3.8	2 1.9	12 11.4	14 13.3
脳原性運動機能	72 100.0	22 30.6	18 25.0	3 4.2	12 16.7	2 2.8	3 4.2	1 1.4	7 9.7	7 9.7
内部障害	259 100.0	54 20.8	50 19.3	20 7.7	41 15.8	6 2.3	59 22.8	9 3.5	11 4.2	30 11.6



図表 2-26 スポーツや運動を行う際に必要な支援〔3つまで〕(Q12)

ー外出時のサービス利用別

	総数	スタジアム、体育館などの建物や設備のバリアフリー化	交通機関やまちのバリアフリー化	会場までの送迎	障害者への施設開放の促進	障害にあわせたプログラムの充実	介助者や手話通訳などの支援	障害に対応した情報の提供や問合せ方法の充実	施設や用具等を利用する際に必要な手続きの支援	障害や障害者、補助犬（盲導犬、介助犬、聴導犬）などに対する理解促進
障害者等総数	1463 100.0	207 14.1	190 13.0	218 14.9	142 9.7	213 14.6	92 6.3	182 12.4	86 5.9	94 6.4
外出支援を利用している	217 100.0	37 17.1	34 15.7	74 34.1	31 14.3	50 23.0	35 16.1	33 15.2	12 5.5	24 11.1
補装具を使用している	384 100.0	77 20.1	73 19.0	78 20.3	40 10.4	63 16.4	52 13.5	54 14.1	23 6.0	36 9.4
補助犬と一緒に外出している	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0
特にな	862 100.0	104 12.1	93 10.8	82 9.5	74 8.6	107 12.4	20 2.3	99 11.5	53 6.1	44 5.1

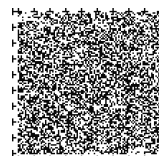
	総数	適切な指導者	一緒に行く仲間	スポーツ用具等の貸出	施設の利用料減免	その他	特にな	活動したいと思わない	わからない	無回答
障害者等総数	1463 100.0	373 25.5	286 19.5	86 5.9	209 14.3	32 2.2	245 16.7	48 3.3	87 5.9	150 10.3
外出支援を利用している	217 100.0	67 30.9	47 21.7	5 2.3	26 12.0	3 1.4	12 5.5	2 0.9	15 6.9	23 10.6
補装具を使用している	384 100.0	97 25.3	60 15.6	14 3.6	35 9.1	15 3.9	43 11.2	16 4.2	23 6.0	42 10.9
補助犬と一緒に外出している	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
特にな	862 100.0	216 25.1	183 21.2	62 7.2	153 17.7	15 1.7	186 21.6	29 3.4	51 5.9	66 7.7

図表 2-27 スポーツや運動を行う際に必要な支援〔3つまで〕(Q12)

ー仕事の有無別

	総数	スタジアム、体育館などの建物や設備のバリアフリー化	交通機関やまちのバリアフリー化	会場までの送迎	障害者への施設開放の促進	障害にあわせたプログラムの充実	介助者や手話通訳などの支援	障害に対応した情報の提供や問合せ方法の充実	施設や用具等を利用する際に必要な手続きの支援	障害や障害者、補助犬（盲導犬、介助犬、聴導犬）などに対する理解促進
障害者等総数	1463 100.0	207 14.1	190 13.0	218 14.9	142 9.7	213 14.6	92 6.3	182 12.4	86 5.9	94 6.4
仕事をしている	458 100.0	67 14.6	56 12.2	29 6.3	40 8.7	64 14.0	19 4.1	62 13.5	38 8.3	35 7.6
仕事をしていない	839 100.0	129 15.4	122 14.5	154 18.4	78 9.3	115 13.7	58 6.9	99 11.8	38 4.5	49 5.8
福祉的就労をしている	107 100.0	7 6.5	8 7.5	27 25.2	22 20.6	28 26.2	12 11.2	20 18.7	7 6.5	8 7.5

	総数	適切な指導者	一緒に行く仲間	スポーツ用具等の貸出	施設の利用料減免	その他	特にな	活動したいと思わない	わからない	無回答
障害者等総数	1463 100.0	373 25.5	286 19.5	86 5.9	209 14.3	32 2.2	245 16.7	48 3.3	87 5.9	150 10.3
仕事をしている	458 100.0	116 25.3	90 19.7	32 7.0	88 19.2	13 2.8	100 21.8	11 2.4	22 4.8	20 4.4
仕事をしていない	839 100.0	200 23.8	150 17.9	42 5.0	94 11.2	16 1.9	128 15.3	34 4.1	56 6.7	106 12.6
福祉的就労をしている	107 100.0	45 42.1	37 34.6	8 7.5	23 21.5	1 0.9	7 6.5	1 0.9	6 5.6	6 5.6



(9) この1年間でのスポーツ観戦の有無

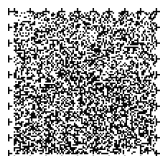
この1年間でのスポーツ観戦の有無は、「テレビ、ラジオ、インターネット等で観戦したことがある」が69.0%と最も高く、「観戦したことはない」が19.1%

この1年間でのスポーツ観戦の有無をみると、「テレビ、ラジオ、インターネット等で観戦したことがある」が69.0%と最も高く、「スタジアム・体育館などで実際に観戦したことがある」人は14.4%、「沿道で実際に観戦したことがある」人は2.3%にとどまっている。また、「観戦したことはない」という回答も19.1%みられた。

障害別にみると、全ての障害で「テレビ、ラジオ、インターネット等で観戦したことがある」が5割以上で最も高い。一方、知的障害者は「観戦したことはない」(32.3%)が他の障害に比べて高くなっている。年代別にみると、どの年代も「テレビ、ラジオ、インターネット等で観戦したことがある」が高い。その他、40代は「スタジアム・体育館などで実際に観戦したことがある」(26.2%)が他の年代に比べて高い。

図表 2-28 1年間に観戦したスポーツ〔複数回答〕(Q13)－障害別、年代別

		総 数	スタ ジアム・体 育館など で実際に 観戦した こと がある	沿 道で実 際に 観戦し たこと がある	テ レビ、ラ ジオ、イ ンターネ ット等 で観戦 したこ と がある	そ 他	観 戦し たこ と は な い	わ か ら な い	無 回 答
障害者等総数		1463 100.0	211 14.4	33 2.3	1010 69.0	25 1.7	280 19.1	35 2.4	71 4.9
Q 29 保 有 し て い る 手 帳 、 難 病 医 療 費 助 成	身体障害者	914 100.0	118 12.9	20 2.2	664 72.6	20 2.2	151 16.5	20 2.2	45 4.9
	知的障害者	362 100.0	54 14.9	9 2.5	182 50.3	7 1.9	117 32.3	20 5.5	20 5.5
	精神障害者	241 100.0	29 12.0	7 2.9	153 63.5	3 1.2	45 18.7	9 3.7	23 9.5
	自立支援医療受給者	108 100.0	13 12.0	3 2.8	77 71.3	1 0.9	25 23.1	1 0.9	4 3.7
	難病医療費助成者	316 100.0	53 16.8	5 1.6	244 77.2	2 0.6	43 13.6	1 0.3	11 3.5
	医療費助成対象外の難病患者	22 100.0	2 9.1	1 4.5	15 68.2	0 0.0	3 13.6	0 0.0	4 18.2
	発達障害と診断	30 100.0	5 16.7	1 3.3	17 56.7	0 0.0	10 33.3	2 6.7	1 3.3
	高次脳機能障害と診断	25 100.0	2 8.0	1 4.0	15 60.0	1 4.0	6 24.0	0 0.0	4 16.0
	認知症と診断	10 100.0	0 0.0	0 0.0	5 50.0	0 0.0	2 20.0	2 20.0	1 10.0
Q 2 年 代	10代	27 100.0	5 18.5	1 3.7	14 51.9	0 0.0	9 33.3	1 3.7	1 3.7
	20代	185 100.0	27 14.6	5 2.7	102 55.1	1 0.5	59 31.9	8 4.3	5 2.7
	30代	176 100.0	28 15.9	4 2.3	101 57.4	4 2.3	56 31.8	3 1.7	5 2.8
	40代	191 100.0	50 26.2	4 2.1	137 71.7	2 1.0	36 18.8	7 3.7	1 0.5
	50代	189 100.0	27 14.3	3 1.6	141 74.6	3 1.6	27 14.3	3 1.6	6 3.2
	60代	248 100.0	28 11.3	8 3.2	187 75.4	8 3.2	31 12.5	4 1.6	17 6.9
	70代	269 100.0	39 14.5	6 2.2	209 77.7	5 1.9	29 10.8	5 1.9	16 5.9
	80代以上	170 100.0	7 4.1	2 1.2	115 67.6	2 1.2	33 19.4	3 1.8	17 10.0



(10) スポーツを観戦する上で必要な支援

スポーツを観戦する上で必要な支援は、「スタジアム、体育館などの建物や設備のバリアフリー化」(22.0%)、「障害者に配慮した観戦席の充実」(21.7%)、「観戦料の減免」(20.2%)が高い

スポーツを観戦する上で必要な支援をみると、「スタジアム、体育館などの建物や設備のバリアフリー化」が22.0%、「障害者に配慮した観戦席の充実」が21.7%、「観戦料の減免」が20.2%と高くなっている。

障害別にみると、上位に挙げられているものに大きな違いはみられないものの、特に、身体障害者では「スタジアム、体育館などの建物や設備のバリアフリー化」(25.4%)、「テレビ・インターネット等の文字情報、字幕の対応」(11.5%)が、知的障害者では「障害者に配慮した観戦席の充実」(30.9%)、「一緒に観戦する仲間」(19.1%)が、精神障害者では「障害に対応した情報の提供や問合せ方法の充実」(14.5%)が、自立支援医療受給者では「情報機器操作の支援」(6.5%)、「観戦料の減免」(39.8%)が他の障害に比べて高い。

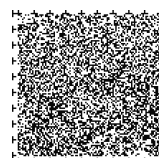
年代別にみると、上位に挙げられているものに大きな違いはみられないものの、特に、10代や40代では「一緒に観戦する仲間」(33.3%、18.3%)が、20代では「障害者に配慮した観戦席の充実」(35.1%)、「一緒に観戦する仲間」(23.2%)、「障害や障害者、補助犬などに対する理解促進」(13.0%)が他の年代に比べて高い。

身体障害者の障害種別にみると、聴覚の「テレビ・インターネット等の文字情報、字幕の対応」(40.6%)が他の身体障害種別に比べて高い。

1年間でのスポーツ観戦の有無別にみると、上位に挙げられているものに大きな違いはみられないものの、「スタジアム・体育館などで実際に観戦したことがある」人は「観戦料の減免」(37.9%)が、「テレビ、ラジオ、インターネット等で観戦したことがある」人は「テレビ・インターネット等の文字情報、字幕の対応」(11.6%)が、「観戦したことはない」人は「観戦したいと思わない」(18.6%)、「わからない」(8.2%)が他に比べて高い。

外出時の利用サービス別にみると、「外出支援を利用している」人は「会場までの送迎」(33.2%)、「介助者や手話通訳などの支援」(13.4%)を、「補装具を使用している」人は「スタジアム、体育館などの建物や設備のバリアフリー化」(31.0%)、「交通機関やまちのバリアフリー化」(24.0%)、「テレビ・インターネット等の文字情報、字幕の対応」(13.5%)を挙げる割合が他に比べて高い。

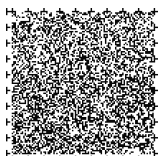
仕事の有無別にみると、上位に挙げられているものに大きな違いはみられないものの、仕事をしている人は「テレビ・インターネット等の文字情報、字幕の対応」(12.2%)、「観戦料の減免」(25.3%)を、「仕事をしていない」人は「会場までの送迎」(19.4%)を、「福祉的就労をしている」人は「会場までの送迎」(23.4%)、「障害者に配慮した観戦席の充実」(35.5%)、「介助者や手話通訳などの支援」(11.2%)、「一緒に観戦する仲間」(29.9%)、「観戦料の減免」(35.5%)を挙げる割合が他に比べて高い。



図表 2-29 スポーツを観戦する上で必要な支援〔3つまで〕(Q14)－障害別

	総数	スタジアム、体育館などの建物や設備のバリアフリー化	交通機関やまちのバリアフリー化	会場までの送迎	障害者に配慮した観戦席の充実	介助者や手話通訳などの支援	テレビ・インターネット等の文字情報、字幕の対応	情報機器操作の支援	障害に対応した情報の提供や問合せ方法の充実
障害者等総数	1463 100.0	322 22.0	241 16.5	237 16.2	317 21.7	78 5.3	135 9.2	22 1.5	140 9.6
身体障害者	914 100.0	232 25.4	168 18.4	157 17.2	197 21.6	57 6.2	105 11.5	12 1.3	78 8.5
知的障害者	362 100.0	73 20.2	50 13.8	71 19.6	112 30.9	30 8.3	19 5.2	6 1.7	36 9.9
精神障害者	241 100.0	45 18.7	39 16.2	41 17.0	52 21.6	13 5.4	21 8.7	5 2.1	35 14.5
自立支援医療受給者	108 100.0	15 13.9	15 13.9	15 13.9	27 25.0	10 9.3	11 10.2	7 6.5	18 16.7
難病医療費助成者	316 100.0	71 22.5	63 19.9	49 15.5	51 16.1	7 2.2	18 5.7	2 0.6	18 5.7
医療費助成対象外の難病患者	22 100.0	3 13.6	3 13.6	5 22.7	4 18.2	1 4.5	2 9.1	0 0.0	1 4.5
発達障害と診断	30 100.0	4 13.3	3 10.0	4 13.3	10 33.3	3 10.0	7 23.3	2 6.7	6 20.0
高次脳機能障害と診断	25 100.0	8 32.0	7 28.0	7 28.0	7 28.0	2 8.0	1 4.0	0 0.0	4 16.0
認知症と診断	10 100.0	3 30.0	1 10.0	4 40.0	3 30.0	1 10.0	0 0.0	0 0.0	1 10.0

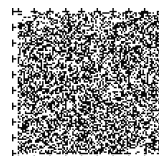
	総数	障害や障害者、補助犬（盲導犬、介助犬、聴導犬）などに対する理解促進	一緒に観戦する仲間	観戦料の減免	その他	特になし	観戦したいと思わない	わからない	無回答
障害者等総数	1463 100.0	108 7.4	170 11.6	295 20.2	18 1.2	277 18.9	76 5.2	76 5.2	147 10.0
身体障害者	914 100.0	65 7.1	79 8.6	168 18.4	12 1.3	165 18.1	40 4.4	43 4.7	101 11.1
知的障害者	362 100.0	33 9.1	69 19.1	76 21.0	3 0.8	42 11.6	33 9.1	24 6.6	36 9.9
精神障害者	241 100.0	17 7.1	35 14.5	63 26.1	3 1.2	37 15.4	8 3.3	14 5.8	31 12.9
自立支援医療受給者	108 100.0	7 6.5	22 20.4	43 39.8	1 0.9	18 16.7	11 10.2	4 3.7	5 4.6
難病医療費助成者	316 100.0	18 5.7	30 9.5	58 18.4	7 2.2	89 28.2	9 2.8	15 4.7	24 7.6
医療費助成対象外の難病患者	22 100.0	1 4.5	1 4.5	3 13.6	0 0.0	4 18.2	0 0.0	1 4.5	4 18.2
発達障害と診断	30 100.0	4 13.3	6 20.0	9 30.0	0 0.0	2 6.7	4 13.3	3 10.0	1 3.3
高次脳機能障害と診断	25 100.0	1 4.0	3 12.0	8 32.0	0 0.0	1 4.0	1 4.0	0 0.0	5 20.0
認知症と診断	10 100.0	1 10.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 20.0	0 0.0	1 10.0	1 10.0



図表 2-30 スポーツを観戦する上で必要な支援〔3つまで〕(Q14) 一年代別

	総数	スタジアム、体育館などの建物や設備のバリアフリー化	交通機関やまちのバリアフリー化	会場までの送迎	障害者に配慮した観戦席の充実	介助者や手話通訳などの支援	テレビ・インターネット等の文字情報、字幕の対応	情報機器操作の支援	障害に対応した情報の提供や問合せ方法の充実
障害者等総数	1463 100.0	322 22.0	241 16.5	237 16.2	317 21.7	78 5.3	135 9.2	22 1.5	140 9.6
10代	27 100.0	7 25.9	5 18.5	3 11.1	9 33.3	4 14.8	2 7.4	1 3.7	3 11.1
20代	185 100.0	45 24.3	26 14.1	38 20.5	65 35.1	17 9.2	16 8.6	5 2.7	24 13.0
30代	176 100.0	34 19.3	32 18.2	25 14.2	51 29.0	15 8.5	16 9.1	5 2.8	21 11.9
40代	191 100.0	44 23.0	30 15.7	26 13.6	51 26.7	14 7.3	19 9.9	5 2.6	23 12.0
50代	189 100.0	53 28.0	39 20.6	22 11.6	42 22.2	7 3.7	14 7.4	1 0.5	22 11.6
60代	248 100.0	58 23.4	43 17.3	41 16.5	43 17.3	14 5.6	13 5.2	0 0.0	18 7.3
70代	269 100.0	55 20.4	39 14.5	46 17.1	34 12.6	4 1.5	33 12.3	4 1.5	21 7.8
80代以上	170 100.0	23 13.5	25 14.7	34 20.0	20 11.8	3 1.8	22 12.9	1 0.6	8 4.7

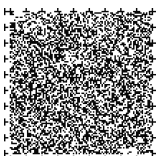
	総数	障害や障害者、補助犬(盲導犬、介助犬、聴導犬)などに対する理解促進	一緒に観戦する仲間	観戦料の減免	その他	特にない	観戦したいと思わない	わからない	無回答
障害者等総数	1463 100.0	108 7.4	170 11.6	295 20.2	18 1.2	277 18.9	76 5.2	76 5.2	147 10.0
10代	27 100.0	3 11.1	9 33.3	8 29.6	0 0.0	4 14.8	2 7.4	0 0.0	1 3.7
20代	185 100.0	24 13.0	43 23.2	48 25.9	1 0.5	20 10.8	16 8.6	10 5.4	7 3.8
30代	176 100.0	14 8.0	25 14.2	48 27.3	4 2.3	33 18.8	11 6.3	6 3.4	8 4.5
40代	191 100.0	20 10.5	35 18.3	54 28.3	2 1.0	31 16.2	7 3.7	11 5.8	9 4.7
50代	189 100.0	14 7.4	18 9.5	46 24.3	4 2.1	34 18.0	7 3.7	11 5.8	13 6.9
60代	248 100.0	15 6.0	15 6.0	34 13.7	1 0.4	68 27.4	10 4.0	11 4.4	30 12.1
70代	269 100.0	12 4.5	16 5.9	44 16.4	5 1.9	53 19.7	12 4.5	13 4.8	42 15.6
80代以上	170 100.0	6 3.5	8 4.7	13 7.6	1 0.6	34 20.0	10 5.9	14 8.2	34 20.0



図表 2-31 スポーツを観戦する上で必要な支援〔3つまで〕(Q14)－身体障害種別

	総数	スタジアム、体育館などの建物や設備のバリアフリー化	交通機関やまちのバリアフリー化	会場までの送迎	障害者に配慮した観戦席の充実	介助者や手話通訳などの支援	テレビ・インターネット等の文字情報、字幕の対応	情報機器操作の支援	障害に対応した情報の提供や問合せ方法の充実
身体障害者総数	914 100.0	232 25.4	168 18.4	157 17.2	197 21.6	57 6.2	105 11.5	12 1.3	78 8.5
視覚	119 100.0	30 25.2	22 18.5	22 18.5	31 26.1	8 6.7	12 10.1	3 2.5	15 12.6
聴覚	133 100.0	18 13.5	9 6.8	16 12.0	20 15.0	15 11.3	54 40.6	4 3.0	19 14.3
平衡機能	28 100.0	7 25.0	6 21.4	8 28.6	2 7.1	3 10.7	3 10.7	1 3.6	3 10.7
音声機能・言語機能・そしゃく機能	93 100.0	21 22.6	14 15.1	21 22.6	22 23.7	8 8.6	4 4.3	1 1.1	8 8.6
上肢	175 100.0	67 38.3	48 27.4	38 21.7	48 27.4	15 8.6	10 5.7	3 1.7	19 10.9
下肢	261 100.0	102 39.1	73 28.0	61 23.4	67 25.7	13 5.0	15 5.7	3 1.1	25 9.6
体幹	105 100.0	42 40.0	31 29.5	30 28.6	38 36.2	10 9.5	7 6.7	0 0.0	10 9.5
脳原性運動機能	72 100.0	34 47.2	24 33.3	18 25.0	27 37.5	13 18.1	3 4.2	3 4.2	6 8.3
内部障害	259 100.0	56 21.6	38 14.7	30 11.6	41 15.8	4 1.5	19 7.3	1 0.4	17 6.6

	総数	障害や障害者、補助犬（盲導犬、介助犬、聴導犬）などに対する理解促進	一緒に観戦する仲間	観戦料の減免	その他	特にない	観戦したいと思わない	わからない	無回答
身体障害者総数	914 100.0	65 7.1	79 8.6	168 18.4	12 1.3	165 18.1	40 4.4	43 4.7	101 11.1
視覚	119 100.0	7 5.9	13 10.9	13 10.9	0 0.0	15 12.6	10 8.4	6 5.0	15 12.6
聴覚	133 100.0	13 9.8	10 7.5	21 15.8	1 0.8	18 13.5	4 3.0	10 7.5	13 9.8
平衡機能	28 100.0	3 10.7	4 14.3	4 14.3	0 0.0	6 21.4	1 3.6	2 7.1	5 17.9
音声機能・言語機能・そしゃく機能	93 100.0	2 2.2	10 10.8	18 19.4	0 0.0	22 23.7	4 4.3	5 5.4	7 7.5
上肢	175 100.0	18 10.3	14 8.0	27 15.4	3 1.7	22 12.6	10 5.7	8 4.6	16 9.1
下肢	261 100.0	21 8.0	17 6.5	45 17.2	7 2.7	34 13.0	12 4.6	10 3.8	25 9.6
体幹	105 100.0	9 8.6	3 2.9	13 12.4	1 1.0	10 9.5	6 5.7	6 5.7	9 8.6
脳原性運動機能	72 100.0	12 16.7	9 12.5	15 20.8	2 2.8	6 8.3	3 4.2	3 4.2	3 4.2
内部障害	259 100.0	17 6.6	21 8.1	59 22.8	3 1.2	65 25.1	8 3.1	11 4.2	32 12.4

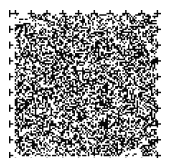


図表 2-32 スポーツを観戦する上で必要な支援〔3つまで〕(Q14)

－ 1 年間でのスポーツ観戦の有無別

	総数	スタジアム、体育館などの建物や設備のバリアフリー化	交通機関やまちのバリアフリー化	会場までの送迎	障害者に配慮した観戦席の充実	介助者や手話通訳などの支援	テレビ・インターネット等の文字情報、字幕の対応	情報機器操作の支援	障害に対応した情報の提供や問合せ方法の充実
障害者等総数	1463 100.0	322 22.0	241 16.5	237 16.2	317 21.7	78 5.3	135 9.2	22 1.5	140 9.6
スタジアム・体育館などで実際に観戦したことがある	211 100.0	68 32.2	42 19.9	32 15.2	72 34.1	8 3.8	19 9.0	1 0.5	12 5.7
沿道で実際に観戦したことがある	33 100.0	10 30.3	4 12.1	4 12.1	11 33.3	2 6.1	2 6.1	0 0.0	6 18.2
テレビ、ラジオ、インターネット等で観戦したことがある	1010 100.0	239 23.7	190 18.8	166 16.4	230 22.8	50 5.0	117 11.6	19 1.9	108 10.7
その他	25 100.0	7 28.0	4 16.0	6 24.0	7 28.0	2 8.0	2 8.0	1 4.0	2 8.0
観戦したことはない	280 100.0	55 19.6	34 12.1	51 18.2	61 21.8	19 6.8	12 4.3	2 0.7	25 8.9
わからない	35 100.0	2 5.7	3 8.6	4 11.4	7 20.0	3 8.6	1 2.9	0 0.0	2 5.7

	総数	障害や障害者、補助犬（盲導犬、介助犬、聴導犬）などに対する理解促進	一緒に観戦する仲間	観戦料の減免	その他	特にない	観戦したいと思わない	わからない	無回答
障害者等総数	1463 100.0	108 7.4	170 11.6	295 20.2	18 1.2	277 18.9	76 5.2	76 5.2	147 10.0
スタジアム・体育館などで実際に観戦したことがある	211 100.0	16 7.6	42 19.9	80 37.9	1 0.5	34 16.1	0 0.0	3 1.4	9 4.3
沿道で実際に観戦したことがある	33 100.0	6 18.2	5 15.2	7 21.2	0 0.0	5 15.2	0 0.0	0 0.0	4 12.1
テレビ、ラジオ、インターネット等で観戦したことがある	1010 100.0	73 7.2	123 12.2	235 23.3	13 1.3	209 20.7	20 2.0	37 3.7	67 6.6
その他	25 100.0	2 8.0	2 8.0	9 36.0	1 4.0	4 16.0	1 4.0	0 0.0	2 8.0
観戦したことはない	280 100.0	21 7.5	28 10.0	39 13.9	4 1.4	44 15.7	52 18.6	23 8.2	20 7.1
わからない	35 100.0	2 5.7	4 11.4	3 8.6	0 0.0	5 14.3	1 2.9	15 42.9	1 2.9



図表 2-33 スポーツを観戦する上で必要な支援〔3つまで〕(Q14)

ー外出時のサービス利用別

	総数	スタジアム、体育館などの建物や設備のバリアフリー化	交通機関やまちのバリアフリー化	会場までの送迎	障害者に配慮した観戦席の充実	介助者や手話通訳などの支援	テレビ・インターネット等の文字情報、字幕の対応	情報機器操作の支援	障害に対応した情報の提供や問合せ方法の充実
障害者等総数	1463 100.0	322 22.0	241 16.5	237 16.2	317 21.7	78 5.3	135 9.2	22 1.5	140 9.6
外出支援を利用している	217 100.0	61 28.1	40 18.4	72 33.2	77 35.5	29 13.4	13 6.0	3 1.4	18 8.3
補装具を使用している	384 100.0	119 31.0	92 24.0	89 23.2	101 26.3	33 8.6	52 13.5	8 2.1	40 10.4
補助犬と一緒に外出している	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0
特にない	862 100.0	159 18.4	119 13.8	91 10.6	160 18.6	23 2.7	69 8.0	11 1.3	85 9.9

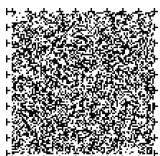
	総数	障害や障害者、補助犬（盲導犬、介助犬、聴導犬）などに対する理解促進	一緒に観戦する仲間	観戦料の減免	その他	特にない	観戦したいと思わない	わからない	無回答
障害者等総数	1463 100.0	108 7.4	170 11.6	295 20.2	18 1.2	277 18.9	76 5.2	76 5.2	147 10.0
外出支援を利用している	217 100.0	26 12.0	40 18.4	45 20.7	1 0.5	16 7.4	10 4.6	13 6.0	17 7.8
補装具を使用している	384 100.0	34 8.9	28 7.3	55 14.3	5 1.3	48 12.5	15 3.9	18 4.7	38 9.9
補助犬と一緒に外出している	1 100.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
特にない	862 100.0	59 6.8	103 11.9	196 22.7	12 1.4	205 23.8	50 5.8	46 5.3	72 8.4

図表 2-34 スポーツを観戦する上で必要な支援〔3つまで〕(Q14)

ー仕事の有無別

	総数	スタジアム、体育館などの建物や設備のバリアフリー化	交通機関やまちのバリアフリー化	会場までの送迎	障害者に配慮した観戦席の充実	介助者や手話通訳などの支援	テレビ・インターネット等の文字情報、字幕の対応	情報機器操作の支援	障害に対応した情報の提供や問合せ方法の充実
障害者等総数	1463 100.0	322 22.0	241 16.5	237 16.2	317 21.7	78 5.3	135 9.2	22 1.5	140 9.6
仕事をしている	458 100.0	98 21.4	73 15.9	39 8.5	100 21.8	18 3.9	56 12.2	10 2.2	53 11.6
仕事をしていない	839 100.0	194 23.1	152 18.1	163 19.4	168 20.0	45 5.4	69 8.2	11 1.3	68 8.1
福祉的就労をしている	107 100.0	18 16.8	12 11.2	25 23.4	38 35.5	12 11.2	6 5.6	1 0.9	12 11.2

	総数	障害や障害者、補助犬（盲導犬、介助犬、聴導犬）などに対する理解促進	一緒に観戦する仲間	観戦料の減免	その他	特にない	観戦したいと思わない	わからない	無回答
障害者等総数	1463 100.0	108 7.4	170 11.6	295 20.2	18 1.2	277 18.9	76 5.2	76 5.2	147 10.0
仕事をしている	458 100.0	37 8.1	56 12.2	116 25.3	8 1.7	100 21.8	21 4.6	13 2.8	28 6.1
仕事をしていない	839 100.0	56 6.7	78 9.3	134 16.0	8 1.0	158 18.8	51 6.1	54 6.4	95 11.3
福祉的就労をしている	107 100.0	14 13.1	32 29.9	38 35.5	1 0.9	11 10.3	2 1.9	8 7.5	4 3.7



3 東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会について

(1) 東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会への関心度

① 東京 2020 オリンピックへの関心度

東京 2020 オリンピックに関心がある（「関心がある」＋「やや関心がある」）割合が 74.6%。そのうち、「関心がある」割合が 53.1%
特に、障害別では、難病医療費助成者、医療費助成対象外の難病患者、年代別では、70代で8割を超える

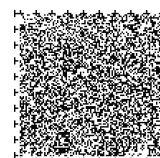
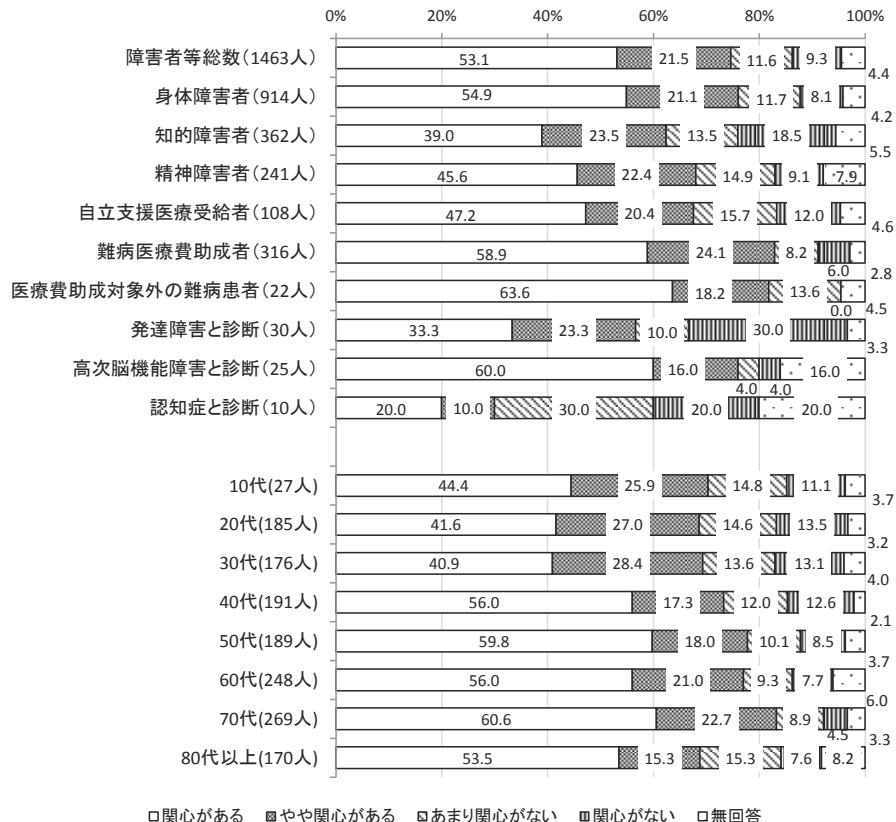
東京 2020 オリンピックへの関心度は、「関心がある」（53.1%）と「やや関心がある」（21.5%）を合わせた 74.6%が関心を持っている。

障害別では、「関心がある」と「やや関心がある」を合わせた、「関心がある」割合は、難病医療費助成者、医療費助成対象外の難病患者で8割を超えている。

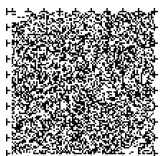
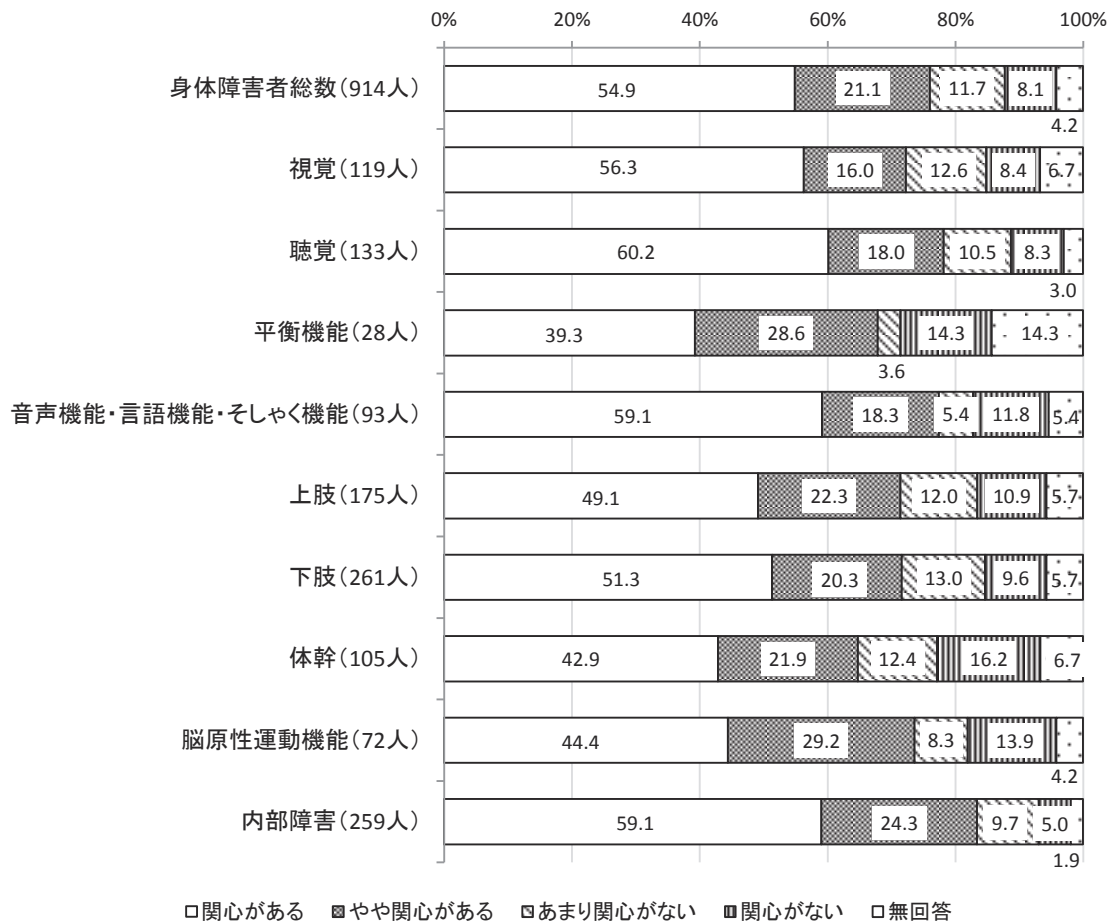
年代別では、「関心がある」と「やや関心がある」を合わせた、「関心がある」割合は、70代が最も高くなっている。

身体障害者の障害種別では、「関心がある」と「やや関心がある」を合わせた、「関心がある」割合は、内部障害で8割を超えている。

図表 2-35 東京 2020 オリンピックへの関心度〔単数回答〕(Q15①)－障害別、年代別



図表 2-36 東京 2020 オリンピックへの関心度〔単数回答〕(Q15①)－身体障害種別



②東京 2020 パラリンピックへの関心度

東京 2020 パラリンピックに関心がある（「関心がある」＋「やや関心がある」）割合が 65.3%。そのうち、「関心がある」割合が 38.6%
特に、障害別では、難病医療費助成者、年代別では、70 代で 7 割を超える

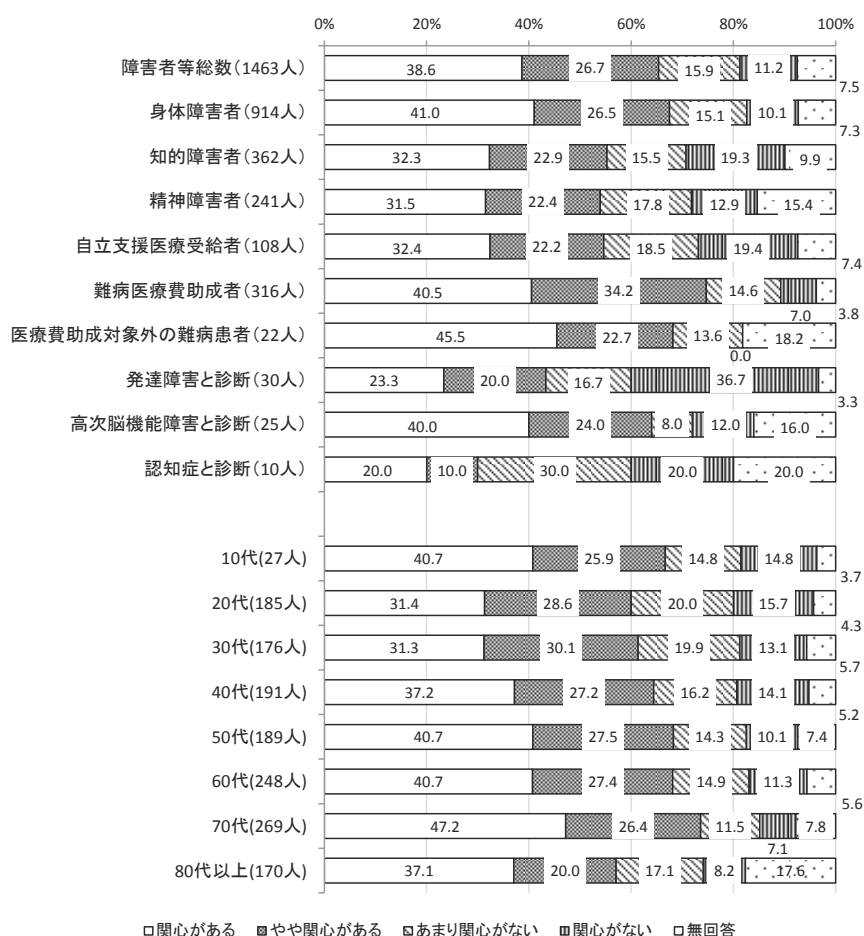
東京 2020 パラリンピックへの関心度は、「関心がある」（38.6%）と「やや関心がある」（26.7%）を合わせた 65.3%が関心を持っている。（参考：東京 2020 オリンピック関心度（74.6%））

障害別では、「関心がある」と「やや関心がある」を合わせた、「関心がある」割合は、難病医療費助成者で 7 割を超えているものの、どの障害も東京 2020 オリンピックに比べて「関心がある」割合が低くなっている。

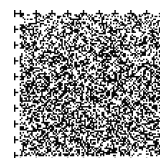
年代別では、「関心がある」と「やや関心がある」を合わせた、「関心がある」割合は 70 代が最も高く、7 割を超える。

身体障害者の障害種別では、「関心がある」と「やや関心がある」を合わせた、「関心がある」割合は、内部障害で 7 割を超えている。

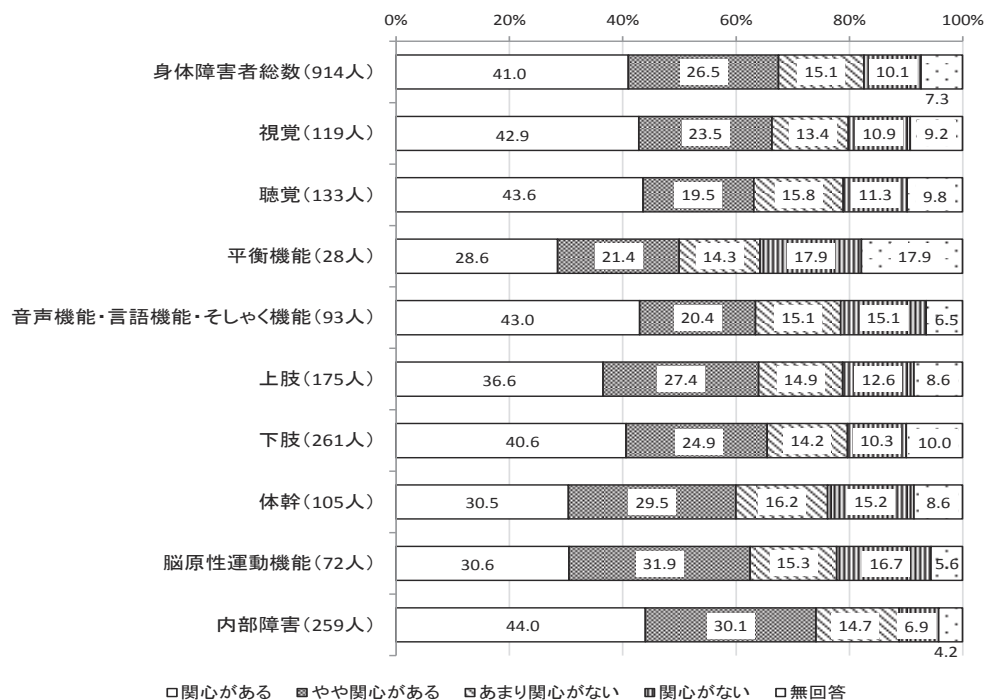
図表 2-37 東京 2020 パラリンピックへの関心度〔単数回答〕（Q15②）－障害別、年代別



□関心がある □やや関心がある □あまり関心がない □関心がない □無回答



図表 2-38 東京 2020 パラリンピックへの関心度〔単数回答〕(Q15②)－身体障害種別



③ 東京 2020 オリンピックと東京 2020 パラリンピックへの関心度

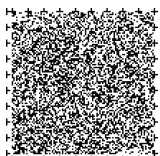
東京 2020 オリンピックに関心のある人は東京 2020 パラリンピックへの関心も高い一方、東京 2020 オリンピックに関心のない人は東京 2020 パラリンピックへの関心も低い

東京 2020 オリンピックと東京 2020 パラリンピックへのそれぞれの関心度についてみると、東京 2020 オリンピックに「関心がある」人は、東京 2020 パラリンピックに「関心がある」と「やや関心がある」を合わせた割合は 86.1%と高く、また、「やや関心がある」人も 80.6%と高くなっている。

一方、東京 2020 オリンピックに「あまり関心がない」又は「関心がない」人の 8～9 割が、東京 2020 パラリンピックにも「あまり関心がない」又は「関心がない」としている。

図表 2-39 東京 2020 オリンピックと東京 2020 パラリンピックへの関心度〔単数回答〕(Q15①、Q15②)

		総数	東京2020パラリンピックへの関心				
			関心がある	やや関心がある	あまり関心がない	関心がない	無回答
障害者等総数		1463	565	391	233	164	110
		100.0	38.6	26.7	15.9	11.2	7.5
オ東 ヘリ ン2 の 関 心 度	関心がある	777	537	132	61	16	31
		100.0	69.1	17.0	7.9	2.1	4.0
	やや関心がある	315	19	235	44	12	5
		100.0	6.0	74.6	14.0	3.8	1.6
	あまり関心がない	170	4	16	125	11	14
		100.0	2.4	9.4	73.5	6.5	8.2
	関心がない	136	4	5	3	123	1
		100.0	2.9	3.7	2.2	90.4	0.7



(2) 東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会への関わり方

①東京 2020 オリンピックへの関わり方

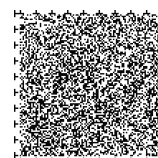
東京 2020 オリンピックへの関わり方は、「テレビ、ラジオ、インターネット配信等で観戦したい」が 58.2%と高い

東京 2020 オリンピックに何らかの形で関わりたいかについては、「テレビ、ラジオ、インターネット配信等で観戦したい」が 58.2%と最も高く、次いで「スタジアム・体育館などで観戦したい」(31.6%)と高くなっている。一方、「関わりたいと思わない」は 10.8%である。

障害別にみると、上位に挙がっているものに大きな違いはみられず、どの障害も「テレビ、ラジオ、インターネット配信等で観戦したい」や、「スタジアム・体育館などで観戦したい」が上位となっている。特に、「テレビ、ラジオ、インターネット配信等で観戦したい」は知的障害者以外の障害で半数以上の人が挙げている。一方、知的障害者は「関わりたいと思わない」(13.5%)や「わからない」(13.3%)の割合が他の障害に比べて高くなっている。

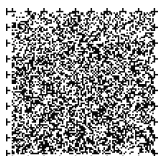
年代別にみると、どの年代も「テレビ、ラジオ、インターネット配信等で観戦したい」、「スタジアム・体育館などで観戦したい」が上位に挙がっているものの、特に「テレビ、ラジオ、インターネット配信等で観戦したい」は年代が比較的高い方が高く、70代で7割弱となっている。また、「スタジアム・体育館などで観戦したい」は10代、40代が4割を超えている。その他、「ボランティアとして関わりたい」は40代で高くなっている。

身体障害者の障害種別にみると、障害種別によって大きな違いはみられないものの、平衡機能では「テレビ、ラジオ、インターネット配信等で観戦したい」(67.9%)が、内部障害では「スタジアム・体育館などで観戦したい」(34.4%)が、聴覚では「ボランティアとして関わりたい」(13.5%)が他の身体障害種別に比べて高くなっている。



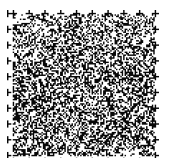
図表 2-40 東京 2020 オリンピックへの関わり方〔複数回答〕(Q16①)－障害別、年代別

		総数	スタジアム・体育館などで観戦したい	沿道で観戦したい	テレビ、ラジオ、インターネット配信等で観戦したい	ボランティアとして関わりたい	関わりたいと思わない	その他	わからない	無回答
障害者等総数		1463 100.0	462 31.6	136 9.3	852 58.2	147 10.0	158 10.8	33 2.3	91 6.2	90 6.2
Q 29 保有している手帳、難病医療費助成、障害の診断	身体障害者	914 100.0	262 28.7	79 8.6	557 60.9	72 7.9	97 10.6	26 2.8	50 5.5	61 6.7
	知的障害者	362 100.0	109 30.1	35 9.7	157 43.4	21 5.8	49 13.5	8 2.2	48 13.3	24 6.6
	精神障害者	241 100.0	53 22.0	13 5.4	137 56.8	24 10.0	30 12.4	2 0.8	14 5.8	22 9.1
	自立支援医療受給者	108 100.0	29 26.9	12 11.1	71 65.7	18 16.7	13 12.0	1 0.9	4 3.7	5 4.6
	難病医療費助成者	316 100.0	126 39.9	34 10.8	201 63.6	49 15.5	27 8.5	3 0.9	11 3.5	13 4.1
	医療費助成対象外の難病患者	22 100.0	8 36.4	1 4.5	15 68.2	2 9.1	1 4.5	0 0.0	0 0.0	2 9.1
	発達障害と診断	30 100.0	7 23.3	2 6.7	10 33.3	5 16.7	7 23.3	1 3.3	4 13.3	1 3.3
	高次脳機能障害と診断	25 100.0	9 36.0	2 8.0	16 64.0	1 4.0	1 4.0	1 4.0	0 0.0	5 20.0
	認知症と診断	10 100.0	1 10.0	1 10.0	5 50.0	0 0.0	1 10.0	1 10.0	2 20.0	1 10.0
Q 2 年代	10 代	27 100.0	12 44.4	3 11.1	13 48.1	4 14.8	4 14.8	0 0.0	2 7.4	1 3.7
	20 代	185 100.0	73 39.5	15 8.1	84 45.4	25 13.5	19 10.3	2 1.1	27 14.6	6 3.2
	30 代	176 100.0	69 39.2	23 13.1	81 46.0	24 13.6	29 16.5	5 2.8	14 8.0	9 5.1
	40 代	191 100.0	80 41.9	27 14.1	102 53.4	39 20.4	24 12.6	5 2.6	15 7.9	4 2.1
	50 代	189 100.0	70 37.0	24 12.7	110 58.2	23 12.2	19 10.1	3 1.6	8 4.2	8 4.2
	60 代	248 100.0	67 27.0	18 7.3	165 66.5	21 8.5	32 12.9	7 2.8	4 1.6	16 6.5
	70 代	269 100.0	70 26.0	16 5.9	186 69.1	10 3.7	14 5.2	6 2.2	8 3.0	21 7.8
	80 代以上	170 100.0	19 11.2	9 5.3	108 63.5	0 0.0	17 10.0	5 2.9	12 7.1	23 13.5



図表 2-41 東京 2020 オリンピックへの関わり方〔複数回答〕(Q16①)－身体障害種別

	総 数	スタ ジアム・体 育館などで観 戦 したい	沿 道で観戦したい	テ レビ、ラジ オ、インタ ーネット 配信等 で観戦 したい	ボ ラン ティア として関 わりた い	関 わりた いと思 わない	そ 他	わ か ら な い	無 回 答
身体障害者総数	914 100.0	262 28.7	79 8.6	557 60.9	72 7.9	97 10.6	26 2.8	50 5.5	61 6.7
視覚	119 100.0	24 20.2	6 5.0	75 63.0	7 5.9	17 14.3	4 3.4	4 3.4	10 8.4
聴覚	133 100.0	39 29.3	11 8.3	76 57.1	18 13.5	10 7.5	8 6.0	8 6.0	8 6.0
平衡機能	28 100.0	3 10.7	1 3.6	19 67.9	0 0.0	1 3.6	2 7.1	3 10.7	5 17.9
音声機能・言語機能・ そしゃく機能	93 100.0	30 32.3	9 9.7	56 60.2	4 4.3	11 11.8	6 6.5	5 5.4	8 8.6
上肢	175 100.0	53 30.3	17 9.7	99 56.6	8 4.6	18 10.3	7 4.0	14 8.0	11 6.3
下肢	261 100.0	70 26.8	24 9.2	158 60.5	10 3.8	27 10.3	11 4.2	16 6.1	18 6.9
体幹	105 100.0	30 28.6	7 6.7	51 48.6	6 5.7	14 13.3	4 3.8	10 9.5	12 11.4
脳原性運動機能	72 100.0	21 29.2	6 8.3	39 54.2	2 2.8	6 8.3	3 4.2	10 13.9	5 6.9
内部障害	259 100.0	89 34.4	28 10.8	172 66.4	25 9.7	18 6.9	4 1.5	13 5.0	9 3.5



② 東京 2020 パラリンピックへの関わり方

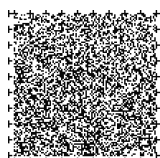
東京 2020 パラリンピックへの関わり方は、「テレビ、ラジオ、インターネット配信等で観戦したい」が 53.6%と高い

東京 2020 パラリンピックに何らかの形で関わりたいかについては、「テレビ、ラジオ、インターネット配信等で観戦したい」が 53.6%と最も高く、次いで「スタジアム・体育館などで観戦したい」(22.5%)と高くなっている。一方、「関わりたいと思わない」は 12.9%である。

障害別にみると、上位に挙がっているものに大きな違いはみられず、どの障害も「テレビ、ラジオ、インターネット配信等で観戦したい」や、「スタジアム・体育館などで観戦したい」が上位となっている。特に、「テレビ、ラジオ、インターネット配信等で観戦したい」は身体障害者や自立支援医療受給者、難病医療費助成者で半数以上の人が挙げている。一方、知的障害者は「関わりたいと思わない」(15.5%)や「わからない」(15.2%)とする人の割合が他の障害に比べて高くなっている。

年代別にみると、どの年代も「テレビ、ラジオ、インターネット配信等で観戦したい」、「スタジアム・体育館などで観戦したい」が上位に挙がっているものの、特に「テレビ、ラジオ、インターネット配信等で観戦したい」は年代が比較的高い方が高く、60代、70代で6割を超える。また、10代では「スタジアム・体育館などで観戦したい」が4割を超えている。その他、40代は「ボランティアとして関わりたい」(17.3%)が他の年代に比べて高くなっている。

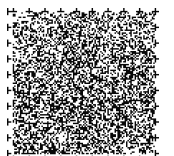
身体障害者の障害種別にみると、障害種別によって大きな違いはみられないものの、東京 2020 オリンピックと同様、聴覚は「ボランティアとして関わりたい」(14.3%)が他の身体障害種別に比べて高い。



図表 2-42 東京 2020 パラリンピックへの関わり方〔複数回答〕(Q16②)

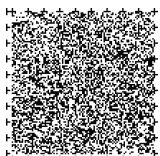
－障害別、年代別

		総 数	ス タ ジ ア ム・体 育 館 な ど で 観 戦 し た い	沿 道 で 観 戦 し た い	テ レ ビ、ラ ジ オ、イ ン タ ー ネ ッ ト 配 信 等 で 観 戦 し た い	ボ ラ ン テ ィ ア と し て 関 わ り た い	関 わ り た い と 思 わ な い	そ の 他	わ か ら な い	無 回 答
障害者等総数		1463	329	118	784	141	189	35	128	125
		100.0	22.5	8.1	53.6	9.6	12.9	2.4	8.7	8.5
Q 29 保有している手帳、 難病医療費助成、 障害の診断	身体障害者	914	198	65	515	72	116	27	73	82
		100.0	21.7	7.1	56.3	7.9	12.7	3.0	8.0	9.0
	知的障害者	362	94	42	142	24	56	13	55	29
		100.0	26.0	11.6	39.2	6.6	15.5	3.6	15.2	8.0
	精神障害者	241	36	12	115	25	35	5	23	31
		100.0	14.9	5.0	47.7	10.4	14.5	2.1	9.5	12.9
	自立支援医療受給者	108	23	11	63	16	21	0	5	8
		100.0	21.3	10.2	58.3	14.8	19.4	0.0	4.6	7.4
	難病医療費助成者	316	78	23	187	44	32	1	19	22
		100.0	24.7	7.3	59.2	13.9	10.1	0.3	6.0	7.0
Q 2 年代	医療費助成対象外の 難病患者	22	3	0	16	2	1	0	0	3
		100.0	13.6	0.0	72.7	9.1	4.5	0.0	0.0	13.6
	発達障害と診断	30	3	2	10	4	8	1	4	3
		100.0	10.0	6.7	33.3	13.3	26.7	3.3	13.3	10.0
	高次脳機能障害と診断	25	7	2	14	0	2	1	0	6
		100.0	28.0	8.0	56.0	0.0	8.0	4.0	0.0	24.0
	認知症と診断	10	1	1	5	0	1	1	2	1
		100.0	10.0	10.0	50.0	0.0	10.0	10.0	20.0	10.0
	10代	27	12	4	15	5	3	1	2	1
Q 2 年代		100.0	44.4	14.8	55.6	18.5	11.1	3.7	7.4	3.7
	20代	185	55	17	79	24	24	4	32	6
		100.0	29.7	9.2	42.7	13.0	13.0	2.2	17.3	3.2
	30代	176	48	23	77	24	32	5	18	11
		100.0	27.3	13.1	43.8	13.6	18.2	2.8	10.2	6.3
	40代	191	64	27	88	33	27	5	21	11
		100.0	33.5	14.1	46.1	17.3	14.1	2.6	11.0	5.8
	50代	189	46	16	107	26	21	4	16	7
		100.0	24.3	8.5	56.6	13.8	11.1	2.1	8.5	3.7
Q 2 年代	60代	248	41	13	150	16	41	5	10	22
		100.0	16.5	5.2	60.5	6.5	16.5	2.0	4.0	8.9
	70代	269	46	11	168	9	22	7	14	34
Q 2 年代		100.0	17.1	4.1	62.5	3.3	8.2	2.6	5.2	12.6
	80代以上	170	16	5	98	3	18	4	14	31
		100.0	9.4	2.9	57.6	1.8	10.6	2.4	8.2	18.2



図表 2-43 東京 2020 パラリンピックへの関わり方〔複数回答〕(Q16②)－身体障害種別

	総 数	ス タ ジ ア ム・体 育 館 な ど で 観 戦 し たい	沿 道 で 観 戦 し たい	テ レ ビ、ラ ジ オ、イ ン タ ー ネ ッ ト 配 信 等 で 観 戦 し たい	ボ ラ ン テ ィ ア と し て 関 わ り た い	関 わ り た い と 思 わ ない	そ の 他	わ か ら ない	無 回 答
身体障害者総数	914 100.0	198 21.7	65 7.1	515 56.3	72 7.9	116 12.7	27 3.0	73 8.0	82 9.0
視覚	119 100.0	19 16.0	6 5.0	72 60.5	6 5.0	19 16.0	4 3.4	7 5.9	9 7.6
聴覚	133 100.0	28 21.1	11 8.3	64 48.1	19 14.3	16 12.0	6 4.5	13 9.8	12 9.0
平衡機能	28 100.0	3 10.7	2 7.1	15 53.6	0 0.0	4 14.3	2 7.1	3 10.7	6 21.4
音声機能・言語機能・ そしゃく機能	93 100.0	22 23.7	7 7.5	52 55.9	3 3.2	15 16.1	6 6.5	9 9.7	9 9.7
上肢	175 100.0	46 26.3	14 8.0	92 52.6	10 5.7	22 12.6	8 4.6	21 12.0	11 6.3
下肢	261 100.0	57 21.8	19 7.3	147 56.3	11 4.2	29 11.1	13 5.0	23 8.8	23 8.8
体幹	105 100.0	25 23.8	6 5.7	51 48.6	7 6.7	15 14.3	4 3.8	12 11.4	12 11.4
脳原性運動機能	72 100.0	17 23.6	6 8.3	37 51.4	2 2.8	9 12.5	4 5.6	11 15.3	6 8.3
内部障害	259 100.0	61 23.6	22 8.5	164 63.3	25 9.7	24 9.3	3 1.2	17 6.6	21 8.1



③東京 2020 オリンピックと東京 2020 パラリンピックへの関わり方

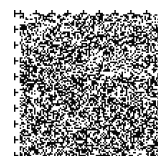
東京 2020 オリンピックを「スタジアム・体育館などで観戦したい」や「沿道で観戦したい」人は、東京 2020 パラリンピックも同様の関わり方を挙げる割合が高い
 東京 2020 オリンピックに「ボランティアとして関わりたい」人は、東京 2020 パラリンピックも「ボランティアとして関わりたい」割合が高く 8 割を超えている

東京 2020 オリンピックと東京 2020 パラリンピックへの、それぞれの関わり方についてみると、東京 2020 オリンピックを「スタジアム・体育館などで観戦したい」や「沿道で観戦したい」人は、東京 2020 パラリンピックも「スタジアム・体育館などで観戦したい」や「沿道で観戦したい」割合が高い。また、東京 2020 オリンピックを「テレビ、ラジオ、インターネット配信等で観戦したい」人は、東京 2020 パラリンピックも「テレビ、ラジオ、インターネット配信等で観戦したい」割合が高く 8 割を超えている。

東京 2020 オリンピックに「ボランティアとして関わりたい」人は東京 2020 パラリンピックも「ボランティアとして関わりたい」割合が高く 8 割を超えている。

図表 2-44 東京 2020 オリンピックと東京 2020 パラリンピックへの関わり方
 〔複数回答〕(Q16①、Q16②)

		総 数	東京 2020 パラリンピックへの関わり							
			ス タ ジ ア ム ・ 体 育 館 な ど で 観 戦 し た い	沿 道 で 観 戦 し た い	テ レ ビ 、 ラ ジ オ 、 イ ン タ ー ネ ッ ト 配 信 等 で 観 戦 し た い	ボ ラ ン テ ィ ア と し て 関 わ り た い	関 わ り た い と 思 わ な い	そ 他	わ か ら な い	無 回 答
障害者等総数		1463 100.0	329 22.5	118 8.1	784 53.6	141 9.6	189 12.9	35 2.4	128 8.7	125 8.5
東京 2020 オリ ン ピ ッ ク へ の 関 わ り	スタジアム・体育館などで観戦したい	462 100.0	311 67.3	94 20.3	252 54.5	95 20.6	14 3.0	6 1.3	20 4.3	11 2.4
	沿道で観戦したい	136 100.0	91 66.9	103 75.7	101 74.3	34 25.0	0 0.0	1 0.7	3 2.2	3 2.2
	テレビ、ラジオ、インターネット配信等で観戦したい	852 100.0	173 20.3	89 10.4	739 86.7	71 8.3	32 3.8	11 1.3	26 3.1	34 4.0
	ボランティアとして関わりたい	147 100.0	82 55.8	32 21.8	67 45.6	125 85.0	3 2.0	1 0.7	3 2.0	4 2.7
	関わりたいと思わない	158 100.0	1 0.6	0 0.0	10 6.3	0 0.0	141 89.2	1 0.6	2 1.3	3 1.9
	その他	33 100.0	6 18.2	2 6.1	9 27.3	0 0.0	1 3.0	23 69.7	0 0.0	4 12.1
	わからない	91 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 1.1	3 3.3	1 1.1	86 94.5	0 0.0



(3) 参加したいボランティア活動

※東京 2020 オリンピック又は東京 2020 パラリンピックで「ボランティアとして関わりたい」と回答した 163 人が対象

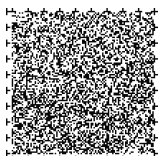
参加したいボランティア活動は「会場内での観客・大会関係者の誘導」(42.9%)、「チケットチェック等の入場管理」(41.7%)で高い

東京 2020 オリンピック又は東京 2020 パラリンピックで「ボランティアとして関わりたい」と回答した人が、どのようなボランティアとして参加したいかについては、「会場内での観客・大会関係者の誘導」が 42.9%、「チケットチェック等の入場管理」が 41.7%、「選手村や会場の食堂での配膳」が 33.7%、「国内外からの旅行者への観光・交通案内」が 30.7%と高くなっている。

障害別にみると、自立支援医療受給者や精神障害者は全体的に様々な活動で高い。

図表 2-45 参加したいボランティア活動〔複数回答〕(Q17)－障害別

	総 数	観 光 ・ 交 通 案 内	国 内 外 か ら の 旅 行 者 へ の	競 技 会 場 の 最 寄 駅 か ら 会 場 ま で の 観 客 案 内	係 者 の 誘 導	会 場 内 で の 観 客 ・ 大 会 関 連 者 の 誘 導	管 理	チ ケ ッ ト チ ェ ッ ク 等 の 入 場	警 備	選 手 村 で の ハ ウ ス キ ー ピ ン グ 等	選 手 村 や 会 場 の 食 堂 で の 配 膳	選 手 村 ・ 会 場 内 で の 清 掃	そ の 他	無 回 答
障害者等総数	163 100.0	50 30.7	44 27.0	70 42.9	68 41.7	17 10.4	28 17.2	55 33.7	46 28.2	7 4.3	9 5.5			
身体障害者	81 100.0	22 27.2	22 27.2	33 40.7	34 42.0	9 11.1	18 22.2	29 35.8	31 38.3	2 2.5	7 8.6			
知的障害者	25 100.0	4 16.0	4 16.0	4 16.0	11 44.0	4 16.0	3 12.0	8 32.0	10 40.0	2 8.0	2 8.0			
精神障害者	29 100.0	11 37.9	10 34.5	12 41.4	11 37.9	4 13.8	5 17.2	9 31.0	10 34.5	1 3.4	1 3.4			
自立支援医療受給者	19 100.0	8 42.1	6 31.6	9 47.4	8 42.1	4 21.1	5 26.3	7 36.8	6 31.6	0 0.0	1 5.3			
難病医療費助成者	52 100.0	21 40.4	11 21.2	29 55.8	26 50.0	3 5.8	8 15.4	18 34.6	8 15.4	3 5.8	1 1.9			
医療費助成対象外の難病患者	2 100.0	2 100.0	1 50.0	1 50.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0			
発達障害と診断	6 100.0	3 50.0	4 66.7	2 33.3	2 33.3	1 16.7	2 33.3	1 16.7	2 33.3	0 0.0	0 0.0			
高次脳機能障害と診断	1 100.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0			
認知症と診断	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0			



(4) ボランティアを行う際に必要な支援

※東京 2020 オリンピック又は東京 2020 パラリンピックで「ボランティアとして関わりたい」と回答した 163 人が対象

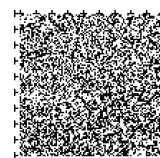
ボランティアを行う際に必要な支援は、「ボランティア活動に関する情報提供の充実」(52.1%)、「障害に対応した情報の提供や問合せ方法の充実」(39.9%)、「一緒に行う仲間」(34.4%)で高い

東京 2020 オリンピック又は東京 2020 パラリンピックで「ボランティアとして関わりたい」と回答した人が、ボランティアを行う際に必要な支援については、「ボランティア活動に関する情報提供の充実」(52.1%)、「障害に対応した情報の提供や問合せ方法の充実」(39.9%)、「一緒に行う仲間」(34.4%)などが高くなっている。

障害別、年代別にみると、上位に挙がっているものに大きな違いはみられず、「ボランティア活動に関する情報提供の充実」はどの障害も半数前後が挙げている。

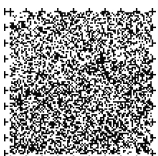
図表 2-46 ボランティアを行う際に必要な支援〔複数回答〕(Q18)－障害別

	総数	会場や選手村などの建物や設備のバリアフリー化	交通機関やまちのバリアフリー化	活動の場までの送迎	介助者や手話通訳などの支援	障害に対応した情報の提供や問合せ方法の充実	施設等を利用する際に必要な手続きの支援	障害や障害者、補助犬（盲導犬、介助犬、聴導犬など）に対する理解促進	一緒に行う仲間	ボランティア活動に関する情報提供の充実	その他	特にない	わからない	無回答
障害者等総数	163 100.0	47 28.8	41 25.2	38 23.3	30 18.4	65 39.9	36 22.1	33 20.2	56 34.4	85 52.1	6 3.7	13 8.0	4 2.5	9 5.5
身体障害者	81 100.0	25 30.9	21 25.9	19 23.5	17 21.0	36 44.4	20 24.7	18 22.2	27 33.3	46 56.8	3 3.7	4 4.9	1 1.2	4 4.9
知的障害者	25 100.0	4 16.0	5 20.0	7 28.0	3 12.0	12 48.0	8 32.0	5 20.0	11 44.0	12 48.0	1 4.0	2 8.0	1 4.0	1 4.0
精神障害者	29 100.0	11 37.9	12 41.4	8 27.6	8 27.6	14 48.3	6 20.7	9 31.0	16 55.2	17 58.6	1 3.4	0 0.0	1 3.4	3 10.3
自立支援医療受給者	19 100.0	5 26.3	4 21.1	4 21.1	3 15.8	7 36.8	5 26.3	2 10.5	12 63.2	9 47.4	0 0.0	1 5.3	0 0.0	2 10.5
難病医療費助成者	52 100.0	18 34.6	14 26.9	11 21.2	8 15.4	14 26.9	11 21.2	9 17.3	14 26.9	25 48.1	2 3.8	8 15.4	3 5.8	1 1.9
医療費助成対象外の難病患者	2 100.0	1 50.0	1 50.0	1 50.0	1 50.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	1 50.0	2 100.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
発達障害と診断	6 100.0	1 16.7	1 16.7	1 16.7	0 0.0	5 83.3	2 33.3	2 33.3	4 66.7	3 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 16.7
高次脳機能障害と診断	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
認知症と診断	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0



図表 2-47 ボランティアを行う際に必要な支援〔複数回答〕(Q18) 一年代別

	総数	会場や選手村などの建物や設備のバリアフリー化	交通機関やまちのバリアフリー化	活動の場までの送迎	介助者や手話通訳などの支援	障害に対応した情報の提供や問合せ方法の充実	施設等を利用する際に必要な手続きの支援	障害や障害者、補助犬（盲導犬、介助犬、聴導犬）などに対する理解促進	一緒に行う仲間	ボランティア活動に関する情報提供の充実	その他	特にない	わからない	無回答
障害者等総数	163 100.0	47 28.8	41 25.2	38 23.3	30 18.4	65 39.9	36 22.1	33 20.2	56 34.4	85 52.1	6 3.7	13 8.0	4 2.5	9 5.5
10 代	6 100.0	2 33.3	1 16.7	0 0.0	1 16.7	3 50.0	2 33.3	3 50.0	4 66.7	3 50.0	1 16.7	0 0.0	0 0.0	1 16.7
20 代	27 100.0	4 14.8	5 18.5	11 40.7	4 14.8	15 55.6	8 29.6	2 7.4	10 37.0	14 51.9	1 3.7	1 3.7	0 0.0	2 7.4
30 代	26 100.0	7 26.9	6 23.1	2 7.7	7 26.9	9 34.6	3 11.5	4 15.4	11 42.3	13 50.0	1 3.8	3 11.5	2 7.7	0 0.0
40 代	40 100.0	11 27.5	11 27.5	11 27.5	11 27.5	19 47.5	11 27.5	11 27.5	15 37.5	22 55.0	2 5.0	3 7.5	0 0.0	1 2.5
50 代	27 100.0	11 40.7	7 25.9	6 22.2	6 22.2	9 33.3	7 25.9	5 18.5	5 18.5	17 63.0	0 0.0	2 7.4	1 3.7	1 3.7
60 代	21 100.0	7 33.3	6 28.6	2 9.5	1 4.8	9 42.9	4 19.0	6 28.6	7 33.3	11 52.4	1 4.8	2 9.5	1 4.8	2 9.5
70 代	12 100.0	4 33.3	4 33.3	5 41.7	0 0.0	1 8.3	1 8.3	1 8.3	4 33.3	5 41.7	0 0.0	2 16.7	0 0.0	0 0.0
80 代以上	3 100.0	1 33.3	1 33.3	1 33.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 33.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 33.3



4 文化、芸術活動について

(1) この1年間に行った文化、芸術活動

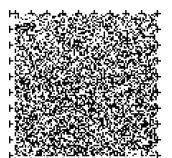
この1年間に行った文化、芸術活動は「コンサートや映画、演劇などに行く」が41.9%と最も高く、次いで「美術館、博物館などに行く」(30.4%)。「特にない」は29.0%

この1年間に行った文化、芸術活動をみると、「コンサートや映画、演劇などに行く」が41.9%と最も高く、次いで「美術館、博物館などに行く」(30.4%)、「動物園や植物園、水族館などに行く」(29.2%)が高くなっている。一方「特にない」は29.0%と約3割となっている。

障害別にみると、上位に挙がっているものに大きな違いはみられないものの、知的障害者は「動物園や植物園、水族館などに行く」、「音楽活動をする」が、難病医療費助成者は「コンサートや映画、演劇などに行く」が他の障害に比べて高い。

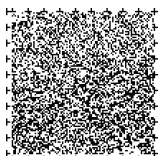
年代別にみると、「コンサートや映画、演劇などに行く」、「美術館、博物館などに行く」、「動物園や植物園、水族館などに行く」は年代が比較的若い人の割合が高くなっている。

身体障害者の障害種別にみると、上位に挙げられているものに大きな違いはみられないものの、特に聴覚は「美術館、博物館などに行く」(35.3%)が、上肢は「美術などの創作活動をする」(17.1%)が、内部障害は「コンサートや映画、演劇などに行く」(41.3%)が、他の身体障害種別に比べて高くなっている。



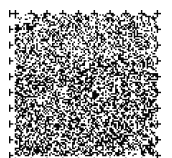
図表 2-48 この1年間に行った文化、芸術活動〔複数回答〕(Q19①)－障害別、年代別

		総 数	コン サートや映画、演劇など に行く	美術館、博物館などに行く (館外で開催される美術展、 展覧会なども含む)	動物園や植物園、水族館など に行く	音楽活動をする(歌や楽器の 演奏など)	(絵画、彫刻、陶芸、書道、華 道など)	美術などの創作活動をする (短歌・俳 句、詩作、小説、評論など)	講演会、セミナー、各種講座 に参加する	伝統文化などの活動をする (伝統芸能、茶道など)	その他	特 に ない	無 回 答
障害者等総数		1463 100.0	613 41.9	445 30.4	427 29.2	176 12.0	123 8.4	41 2.8	149 10.2	33 2.3	47 3.2	424 29.0	117 8.0
Q 29 保有している手帳、難病医療費助成、障害の診断	身体障害者	914 100.0	329 36.0	263 28.8	251 27.5	100 10.9	72 7.9	28 3.1	96 10.5	24 2.6	36 3.9	294 32.2	81 8.9
	知的障害者	362 100.0	143 39.5	74 20.4	121 33.4	71 19.6	31 8.6	1 0.3	11 3.0	4 1.1	10 2.8	105 29.0	29 8.0
	精神障害者	241 100.0	89 36.9	61 25.3	55 22.8	18 7.5	23 9.5	9 3.7	21 8.7	6 2.5	8 3.3	78 32.4	28 11.6
	自立支援医療 受給者	108 100.0	47 43.5	37 34.3	34 31.5	16 14.8	17 15.7	5 4.6	13 12.0	3 2.8	3 2.8	32 29.6	6 5.6
	難病医療費助 成者	316 100.0	166 52.5	111 35.1	97 30.7	34 10.8	30 9.5	11 3.5	45 14.2	6 1.9	5 1.6	74 23.4	22 7.0
	医療費助成対象 外の難病患者	22 100.0	10 45.5	6 27.3	4 18.2	3 13.6	3 13.6	1 4.5	3 13.6	1 4.5	0 0.0	4 18.2	6 27.3
	発達障害と診断	30 100.0	13 43.3	12 40.0	10 33.3	6 20.0	6 20.0	2 6.7	3 10.0	0 0.0	2 6.7	7 23.3	1 3.3
	高次脳機能障害 と診断	25 100.0	5 20.0	11 44.0	6 24.0	2 8.0	5 20.0	1 4.0	2 8.0	1 4.0	1 4.0	7 28.0	4 16.0
	認知症と診断	10 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	8 80.0	2 20.0
	Q 2 年代	10代	27 100.0	14 51.9	12 44.4	13 48.1	10 37.0	6 22.2	0 0.0	4 14.8	1 3.7	0 0.0	3 11.1
20代		185 100.0	110 59.5	54 29.2	76 41.1	42 22.7	18 9.7	2 1.1	8 4.3	2 1.1	6 3.2	30 16.2	3 1.6
30代		176 100.0	86 48.9	61 34.7	75 42.6	30 17.0	22 12.5	4 2.3	19 10.8	6 3.4	6 3.4	44 25.0	6 3.4
40代		191 100.0	106 55.5	65 34.0	69 36.1	24 12.6	16 8.4	2 1.0	27 14.1	3 1.6	5 2.6	46 24.1	7 3.7
50代		189 100.0	96 50.8	73 38.6	57 30.2	24 12.7	20 10.6	6 3.2	24 12.7	7 3.7	4 2.1	48 25.4	9 4.8
60代		248 100.0	95 38.3	85 34.3	61 24.6	18 7.3	16 6.5	9 3.6	30 12.1	5 2.0	8 3.2	74 29.8	23 9.3
70代		269 100.0	83 30.9	71 26.4	54 20.1	21 7.8	20 7.4	11 4.1	29 10.8	5 1.9	10 3.7	98 36.4	28 10.4
80代以上		170 100.0	22 12.9	23 13.5	22 12.9	7 4.1	5 2.9	7 4.1	7 4.1	4 2.4	8 4.7	78 45.9	37 21.8



図表 2-49 この1年間に行った文化、芸術活動〔複数回答〕(Q19①)－身体障害種別

	総 数	コン サートや映画、演劇などに行く	美術館、博物館などに行く（館外で開催 される美術展、展覧会なども含む）	動物園や植物園、水族館などに行く	音楽活動をする（歌や楽器の演奏など）	美術などの創作活動をする（絵画、彫 刻、陶芸、書道、華道など）	文芸活動をする（短歌・俳句、詩作、小 説、評論など）	講演会、セミナー、各種講座に参加する	伝統文化などの活動をする（伝統芸能、 茶道など）	その他	特 に ない	無 回 答
身体障害者 総数	914 100.0	329 36.0	263 28.8	251 27.5	100 10.9	72 7.9	28 3.1	96 10.5	24 2.6	36 3.9	294 32.2	81 8.9
視覚	119 100.0	35 29.4	25 21.0	30 25.2	18 15.1	5 4.2	7 5.9	11 9.2	5 4.2	6 5.0	46 38.7	8 6.7
聴覚	133 100.0	43 32.3	47 35.3	34 25.6	8 6.0	8 6.0	0 0.0	14 10.5	3 2.3	7 5.3	44 33.1	11 8.3
平衡機能	28 100.0	5 17.9	5 17.9	8 28.6	2 7.1	1 3.6	2 7.1	1 3.6	0 0.0	1 3.6	10 35.7	3 10.7
音声機能・言語 機能・そしゃく 機能	93 100.0	21 22.6	26 28.0	26 28.0	7 7.5	11 11.8	1 1.1	10 10.8	2 2.2	3 3.2	39 41.9	8 8.6
上肢	175 100.0	63 36.0	43 24.6	58 33.1	24 13.7	30 17.1	10 5.7	18 10.3	6 3.4	7 4.0	57 32.6	12 6.9
下肢	261 100.0	85 32.6	71 27.2	78 29.9	29 11.1	27 10.3	12 4.6	29 11.1	6 2.3	13 5.0	88 33.7	19 7.3
体幹	105 100.0	24 22.9	25 23.8	34 32.4	18 17.1	14 13.3	4 3.8	8 7.6	1 1.0	4 3.8	32 30.5	13 12.4
脳原性運動 機能	72 100.0	29 40.3	19 26.4	28 38.9	15 20.8	13 18.1	1 1.4	6 8.3	1 1.4	2 2.8	22 30.6	4 5.6
内部障害	259 100.0	107 41.3	85 32.8	59 22.8	25 9.7	16 6.2	5 1.9	27 10.4	11 4.2	6 2.3	80 30.9	26 10.0



(2) 今後行いたい文化、芸術活動

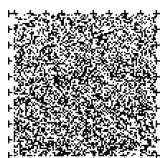
今後行いたい文化、芸術活動は「コンサートや映画、演劇などに行く」が 49.6%と最も高く、次いで「動物園や植物園、水族館などに行く」(36.0%)、「美術館・博物館などに行く」(35.5%)。「特にない」は 21.7%

今後行いたい文化、芸術活動をみると、「コンサートや映画、演劇などに行く」が 49.6%と最も高く、次いで「動物園や植物園、水族館などに行く」(36.0%)、「美術館・博物館などに行く」(35.5%)と高く、全体的にこの1年間行った割合より今後行いたい割合の方が高くなっている。一方「特にない」は 21.7%である。

障害別にみると、この1年間に行った文化、芸術活動と同様に、上位に挙げられているものに大きな違いはみられないものの、その他では、知的障害者は「音楽活動をする」(24.9%)が、難病医療費助成者は「講演会、セミナー、各種講座に参加する」(22.2%)が他の障害に比べて高い。

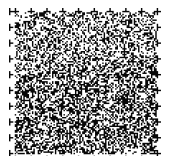
年代別にみると、「コンサートや映画、演劇などに行く」、「美術館・博物館などに行く」、「動物園や植物園、水族館などに行く」は 60代までの割合が高くなっている。

身体障害者の障害種別にみると、上位に挙げられているものに大きな違いはみられないものの、特に内部障害は「コンサートや映画、演劇などに行く」(50.6%)が他の身体障害種別よりやや高い。



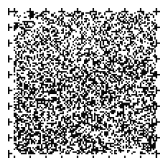
図表 2-50 今後行いたい文化、芸術活動〔複数回答〕(Q19②)－障害別、年代別

		総 数	コ ン サ ー ト や 映 画 、 演 劇 な ど に 行 く	美 術 館 、 博 物 館 な ど に 行 く (館 外 で 開 催 さ れ る 美 術 展 、 展 覧 会 な ど も 含 む)	動 物 園 や 植 物 園 、 水 族 館 な ど に 行 く (ど)	音 楽 活 動 を す る (歌 や 楽 器 の 演 奏 な ど)	美 術 な ど の 創 作 活 動 を す る (絵 画 、 彫 刻 、 陶 芸 、 書 道 、 華 道 な ど)	文 芸 活 動 を す る (短 歌 ・ 俳 句 、 詩 作 、 小 説 、 評 論 な ど)	講 演 会 、 セ ミ ナ ー 、 各 種 講 座 に 参 加 す る	伝 統 文 化 な ど の 活 動 を す る (伝 統 芸 能 、 茶 道 な ど)	そ の 他	特 に な い	無 回 答
障害者等総数		1463 100.0	725 49.6	519 35.5	526 36.0	258 17.6	232 15.9	86 5.9	213 14.6	100 6.8	35 2.4	318 21.7	108 7.4
Q 29 保 有 し て い る 手 帳 、 難 病 医 療 費 助 成 、 障 害 の 診 断	身体障害者	914 100.0	415 45.4	314 34.4	310 33.9	130 14.2	120 13.1	54 5.9	140 15.3	60 6.6	26 2.8	222 24.3	78 8.5
	知的障害者	362 100.0	165 45.6	90 24.9	134 37.0	90 24.9	52 14.4	2 0.6	10 2.8	10 2.8	9 2.5	84 23.2	29 8.0
	精神障害者	241 100.0	109 45.2	76 31.5	72 29.9	34 14.1	42 17.4	18 7.5	34 14.1	21 8.7	8 3.3	57 23.7	26 10.8
	自立支援医療 受給者	108 100.0	55 50.9	40 37.0	53 49.1	28 25.9	28 25.9	11 10.2	17 15.7	14 13.0	4 3.7	27 25.0	5 4.6
	難病医療費助 成者	316 100.0	188 59.5	130 41.1	123 38.9	61 19.3	64 20.3	19 6.0	70 22.2	24 7.6	2 0.6	54 17.1	18 5.7
	医療費助成対象 外の難病患者	22 100.0	10 45.5	8 36.4	8 36.4	4 18.2	2 9.1	3 13.6	4 18.2	3 13.6	0 0.0	3 13.6	4 18.2
	発達障害と診 断	30 100.0	17 56.7	10 33.3	14 46.7	7 23.3	8 26.7	2 6.7	1 3.3	4 13.3	3 10.0	4 13.3	2 6.7
	高次脳機能障 害と診断	25 100.0	13 52.0	11 44.0	11 44.0	3 12.0	4 16.0	1 4.0	0 0.0	2 8.0	2 8.0	3 12.0	4 16.0
	認知症と診断	10 100.0	3 30.0	1 10.0	1 10.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	5 50.0	2 20.0
Q 2 年 代	10代	27 100.0	13 48.1	12 44.4	19 70.4	15 55.6	9 33.3	0 0.0	3 11.1	5 18.5	0 0.0	1 3.7	2 7.4
	20代	185 100.0	116 62.7	68 36.8	85 45.9	57 30.8	42 22.7	5 2.7	15 8.1	13 7.0	8 4.3	24 13.0	4 2.2
	30代	176 100.0	101 57.4	70 39.8	85 48.3	48 27.3	40 22.7	11 6.3	21 11.9	14 8.0	4 2.3	25 14.2	7 4.0
	40代	191 100.0	111 58.1	72 37.7	78 40.8	39 20.4	31 16.2	13 6.8	34 17.8	23 12.0	7 3.7	41 21.5	5 2.6
	50代	189 100.0	113 59.8	82 43.4	77 40.7	35 18.5	40 21.2	22 11.6	43 22.8	23 12.2	2 1.1	32 16.9	6 3.2
	60代	248 100.0	129 52.0	101 40.7	86 34.7	31 12.5	41 16.5	16 6.5	41 16.5	10 4.0	4 1.6	46 18.5	19 7.7
	70代	269 100.0	103 38.3	75 27.9	67 24.9	26 9.7	20 7.4	14 5.2	46 17.1	9 3.3	5 1.9	85 31.6	29 10.8
	80代以上	170 100.0	36 21.2	39 22.9	28 16.5	5 2.9	9 5.3	5 2.9	10 5.9	3 1.8	5 2.9	63 37.1	32 18.8



図表 2-51 今後行いたい文化、芸術活動〔複数回答〕(Q19②)－身体障害種別

	総 数	コン サートや映画、演劇などに行く	美術館、博物館などに行く（館外で開催 される美術展、展覧会なども含む）	動物園や植物園、水族館などに行く	音楽活動をする（歌や楽器の演奏など）	美術などの創作活動をする（絵画、彫 刻、陶芸、書道、華道など）	文芸活動をする（短歌・俳句、詩作、小 説、評論など）	講演会、セミナー、各種講座に参加する	伝統文化などの活動をする（伝統芸能、 茶道など）	その他	特 に ない	無 回 答
身体障害者 総数	914 100.0	415 45.4	314 34.4	310 33.9	130 14.2	120 13.1	54 5.9	140 15.3	60 6.6	26 2.8	222 24.3	78 8.5
視覚	119 100.0	46 38.7	28 23.5	34 28.6	22 18.5	11 9.2	11 9.2	19 16.0	7 5.9	5 4.2	36 30.3	8 6.7
聴覚	133 100.0	45 33.8	46 34.6	46 34.6	15 11.3	22 16.5	7 5.3	18 13.5	12 9.0	7 5.3	42 31.6	8 6.0
平衡機能	28 100.0	7 25.0	8 28.6	8 28.6	4 14.3	1 3.6	4 14.3	2 7.1	0 0.0	0 0.0	11 39.3	4 14.3
音声機能・言語 機能・そしゃく 機能	93 100.0	45 48.4	35 37.6	38 40.9	10 10.8	16 17.2	4 4.3	15 16.1	6 6.5	2 2.2	22 23.7	6 6.5
上肢	175 100.0	90 51.4	63 36.0	74 42.3	30 17.1	32 18.3	19 10.9	29 16.6	13 7.4	4 2.3	38 21.7	12 6.9
下肢	261 100.0	125 47.9	92 35.2	96 36.8	37 14.2	36 13.8	22 8.4	38 14.6	12 4.6	7 2.7	63 24.1	21 8.0
体幹	105 100.0	39 37.1	34 32.4	44 41.9	21 20.0	12 11.4	9 8.6	8 7.6	6 5.7	2 1.9	22 21.0	13 12.4
脳原性運動 機能	72 100.0	32 44.4	25 34.7	35 48.6	14 19.4	8 11.1	5 6.9	9 12.5	5 6.9	1 1.4	18 25.0	3 4.2
内部障害	259 100.0	131 50.6	100 38.6	82 31.7	32 12.4	30 11.6	11 4.2	40 15.4	24 9.3	2 0.8	52 20.1	24 9.3



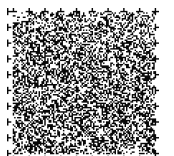
(3) この1年間に行った文化、芸術活動と今後行いたい文化、芸術活動

この1年間に何らかの活動をした人は、今後行いたい活動でも同じ活動を挙げる割合が高く、それ以外の活動を挙げる割合も高い

この1年間に行った文化、芸術活動と、今後行いたい文化、芸術活動をみると、この1年間に何らかの活動をした人は、今後行いたい活動でも同じ活動を挙げる割合が高いほか、それ以外の活動を挙げる割合も高い。一方、この1年間に特に活動を行っていない「特にない」人でも、今後何らかの活動をしたい人は3割強いる。

図表 2-52 この1年間に行った文化、芸術活動 × 今後行いたい文化、芸術活動
〔複数回答〕(Q19①、Q19②)

		総 数	今後行いたい文化、芸術活動										無 回 答
			コン サートや映画、演劇などに行く	美術館、博物館などに行く（館外で開催される美術展、展覧会なども含む）	動物園や植物園、水族館などに行く	音楽活動をする（歌や楽器の演奏など）	美術などの創作活動をする（絵画、彫刻、陶芸、書道、華道など）	文芸活動をする（短歌・俳句、詩作、小説、評論など）	講演会、セミナー、各種講座に参加する	伝統文化などの活動をする（伝統芸能、茶道など）	その他	特にない	
障害者等総数		1463 100.0	725 49.6	519 35.5	526 36.0	258 17.6	232 15.9	86 5.9	213 14.6	100 6.8	35 2.4	318 21.7	108 7.4
この 1 年 間 に 行 っ た 文 化 、 芸 術 活 動	コンサートや映画、演劇などに行く	613 100.0	508 82.9	333 54.3	312 50.9	175 28.5	157 25.6	62 10.1	146 23.8	74 12.1	17 2.8	24 3.9	3 0.5
	美術館、博物館などに行く（館外で開催される美術展、展覧会なども含む）	445 100.0	317 71.2	335 75.3	252 56.6	112 25.2	139 31.2	56 12.6	131 29.4	67 15.1	13 2.9	15 3.4	2 0.4
	動物園や植物園、水族館などに行く	427 100.0	295 69.1	246 57.6	311 72.8	129 30.2	114 26.7	43 10.1	91 21.3	55 12.9	13 3.0	19 4.4	2 0.5
	音楽活動をする（歌や楽器の演奏など）	176 100.0	126 71.6	85 48.3	93 52.8	140 79.5	59 33.5	20 11.4	41 23.3	26 14.8	9 5.1	2 1.1	3 1.7
	美術などの創作活動をする（絵画、彫刻、陶芸、書道、華道など）	123 100.0	82 66.7	78 63.4	73 59.3	46 37.4	91 74.0	24 19.5	35 28.5	25 20.3	3 2.4	3 2.4	1 0.8
	文芸活動をする（短歌・俳句、詩作、小説、評論など）	41 100.0	26 63.4	30 73.2	22 53.7	11 26.8	15 36.6	30 73.2	17 41.5	7 17.1	2 4.9	1 2.4	0 0.0
	講演会、セミナー、各種講座に参加する	149 100.0	108 72.5	93 62.4	76 51.0	43 28.9	47 31.5	26 17.4	105 70.5	27 18.1	3 2.0	6 4.0	1 0.7
	伝統文化などの活動をする（伝統芸能、茶道など）	33 100.0	25 75.8	19 57.6	17 51.5	9 27.3	12 36.4	7 21.2	11 33.3	24 72.7	2 6.1	2 6.1	0 0.0
	その他	47 100.0	21 44.7	18 38.3	16 34.0	7 14.9	9 19.1	5 10.6	7 14.9	2 4.3	18 38.3	6 12.8	4 8.5
	特にない	424 100.0	90 21.2	51 12.0	72 17.0	14 3.3	11 2.6	6 1.4	19 4.5	7 1.7	4 0.9	267 63.0	3 0.7



(4) 文化、芸術活動をする上で必要な支援

文化、芸術活動をする上で必要な支援として、「特にない」が 19.5%と最も高い
必要な支援としては、「適切な指導者」(16.8%)、「施設の利用料減免」(16.3%)、「一
緒に行う仲間」(15.2%)、「文化、芸術活動を行う施設のバリアフリー化」(15.2%)が
高い

文化、芸術活動をする上で必要な支援をみると、「特にない」が 19.5%と最も高く、次いで、「適切な指導者」(16.8%)、「施設の利用料減免」(16.3%)、「一緒に行う仲間」(15.2%)、「文化、芸術活動を行う施設のバリアフリー化」(15.2%)、「交通機関やまちのバリアフリー化」(14.8%)、「活動の場までの送迎」(14.1%)となっている。

障害別にみると、必要な支援がやや異なり、身体障害者は「文化、芸術活動を行う施設のバリアフリー化」、「交通機関やまちのバリアフリー化」を、精神障害者は「施設の利用料減免」を、難病医療費助成者は「特にない」を挙げる割合が高い。

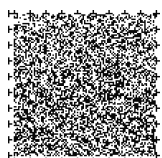
年代別にみると、10代では「適切な指導者」、「一緒に行う仲間」が、20代では「活動できる場の充実」、「障害にあわせたプログラムの充実」、「障害に対応した情報の提供や問合せ方法の充実」、「適切な指導者」、「一緒に行う仲間」が、30代では「障害にあわせたプログラムの充実」、「施設の利用料減免」が、40代では「障害や障害者、補助犬などに対する理解促進」、「施設の利用料減免」が他の年代に比べて高い。

身体障害者の障害種別にみると、聴覚では「介助者や手話通訳などの支援」、「障害に対応した情報の提供や問合せ方法の充実」を、音声機能・言語機能・そしゃく機能では「介助者や手話通訳などの支援」を、上肢、下肢、体幹、脳原性運動機能では「文化、芸術活動を行う施設のバリアフリー化」、「交通機関やまちのバリアフリー化」を挙げる人の割合が高い。

今後したい活動別にみると、大きな違いはみられないものの、「美術館、博物館などに行く」人は「施設の利用料減免」を、「音楽活動をする」人は「活動できる場の充実」、「障害に合わせたプログラムの充実」、「適切な指導者」を挙げる割合が他の活動に比べて高くなっている。一方、「特にない」とする人は、「特にない」、「活動したいと思わない」、「わからない」が他の活動に比べて高い。

外出時のサービス利用別にみると、「外出支援を利用している」人は、「活動の場までの送迎」(30.0%)、「障害にあわせたプログラムの充実」(23.0%)、「介助者や手話通訳などの支援」(15.7%)を、「補装具を使用している」人は「文化、芸術活動を行う施設のバリアフリー化」(24.7%)、「交通機関やまちのバリアフリー化」(25.3%)、「介助者や手話通訳などの支援」(10.7%)を、「特にない」人は「施設の利用料減免」(20.6%)を挙げる割合が他に比べて高い。

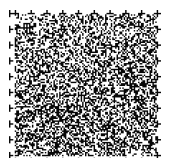
仕事の有無別にみると、「仕事をしている」人は「施設の利用料減免」(24.0%)を、「福祉的就労をしている」人は「活動の場までの送迎」(25.2%)、「活動できる場の充実」(24.3%)、「障害にあわせたプログラムの充実」(27.1%)、「適切な指導者」(38.3%)を挙げる人の割合が他に比べて高い。



図表 2-53 文化、芸術活動をする上で必要な支援〔3つまで〕(Q20)－障害別

	総数	文化、芸術活動を行う施設のバリアフリー化	交通機関やまちのバリアフリー化	活動の場までの送迎	活動できる場の充実	障害にあわせたプログラムの充実	介助者や手話通訳などの支援	障害に対応した情報の提供や問合せ方法の充実	施設や用具等を利用する際に必要な手続きの支援	障害や障害者、補助犬(盲導犬、介助犬、聴導犬)などに対する理解促進
障害者等総数	1463 100.0	222 15.2	217 14.8	207 14.1	194 13.3	188 12.9	100 6.8	164 11.2	67 4.6	69 4.7
身体障害者	914 100.0	176 19.3	167 18.3	141 15.4	104 11.4	105 11.5	79 8.6	98 10.7	42 4.6	44 4.8
知的障害者	362 100.0	47 13.0	46 12.7	71 19.6	55 15.2	77 21.3	38 10.5	49 13.5	26 7.2	24 6.6
精神障害者	241 100.0	28 11.6	33 13.7	32 13.3	45 18.7	31 12.9	10 4.1	33 13.7	13 5.4	12 5.0
自立支援医療受給者	108 100.0	10 9.3	16 14.8	22 20.4	24 22.2	22 20.4	11 10.2	21 19.4	7 6.5	5 4.6
難病医療費助成者	316 100.0	38 12.0	46 14.6	38 12.0	44 13.9	26 8.2	8 2.5	23 7.3	9 2.8	12 3.8
医療費助成対象外の難病患者	22 100.0	0 0.0	1 4.5	4 18.2	1 4.5	1 4.5	0 0.0	3 13.6	1 4.5	0 0.0
発達障害と診断	30 100.0	2 6.7	3 10.0	3 10.0	4 13.3	5 16.7	2 6.7	8 26.7	4 13.3	4 13.3
高次脳機能障害と診断	25 100.0	6 24.0	4 16.0	8 32.0	2 8.0	8 32.0	2 8.0	1 4.0	0 0.0	2 8.0
認知症と診断	10 100.0	2 20.0	2 20.0	3 30.0	1 10.0	0 0.0	1 10.0	1 10.0	0 0.0	1 10.0

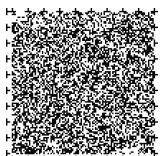
	総数	適切な指導者	一緒に行う仲間	用具等の貸出	施設の利用料減免	その他	特にない	活動したいと思わない	わからない	無回答
障害者等総数	1463 100.0	246 16.8	223 15.2	58 4.0	238 16.3	27 1.8	286 19.5	63 4.3	109 7.5	157 10.7
身体障害者	914 100.0	122 13.3	119 13.0	30 3.3	133 14.6	17 1.9	159 17.4	44 4.8	65 7.1	116 12.7
知的障害者	362 100.0	78 21.5	63 17.4	7 1.9	47 13.0	7 1.9	48 13.3	13 3.6	38 10.5	35 9.7
精神障害者	241 100.0	41 17.0	44 18.3	18 7.5	58 24.1	5 2.1	37 15.4	8 3.3	18 7.5	36 14.9
自立支援医療受給者	108 100.0	27 25.0	24 22.2	13 12.0	38 35.2	5 4.6	13 12.0	6 5.6	4 3.7	6 5.6
難病医療費助成者	316 100.0	59 18.7	40 12.7	15 4.7	49 15.5	5 1.6	98 31.0	9 2.8	16 5.1	30 9.5
医療費助成対象外の難病患者	22 100.0	3 13.6	4 18.2	2 9.1	5 22.7	0 0.0	4 18.2	0 0.0	2 9.1	4 18.2
発達障害と診断	30 100.0	8 26.7	7 23.3	5 16.7	7 23.3	3 10.0	3 10.0	2 6.7	2 6.7	0 0.0
高次脳機能障害と診断	25 100.0	6 24.0	5 20.0	0 0.0	4 16.0	1 4.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4 16.0
認知症と診断	10 100.0	1 10.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 10.0	2 20.0	1 10.0	2 20.0



図表 2-54 文化、芸術活動をする上で必要な支援〔3つまで〕(Q20) 一年代別

	総数	文化、芸術活動を行う施設のバリアフリー化	交通機関やまちのバリアフリー化	活動の場までの送迎	活動できる場の充実	障害にあわせたプログラムの充実	介助者や手話通訳などの支援	障害に対応した情報の提供や問合せ方法の充実	施設や用具等を利用する際に必要な手続きの支援	障害や障害者、補助犬(盲導犬、介助犬、聴導犬)などに対する理解促進
障害者等総数	1463 100.0	222 15.2	217 14.8	207 14.1	194 13.3	188 12.9	100 6.8	164 11.2	67 4.6	69 4.7
10代	27 100.0	3 11.1	1 3.7	4 14.8	7 25.9	8 29.6	4 14.8	4 14.8	3 11.1	3 11.1
20代	185 100.0	32 17.3	25 13.5	38 20.5	49 26.5	46 24.9	19 10.3	36 19.5	13 7.0	16 8.6
30代	176 100.0	23 13.1	27 15.3	20 11.4	26 14.8	37 21.0	21 11.9	30 17.0	12 6.8	8 4.5
40代	191 100.0	29 15.2	28 14.7	25 13.1	31 16.2	30 15.7	19 9.9	23 12.0	7 3.7	18 9.4
50代	189 100.0	39 20.6	37 19.6	20 10.6	29 15.3	28 14.8	7 3.7	23 12.2	12 6.3	7 3.7
60代	248 100.0	41 16.5	38 15.3	35 14.1	24 9.7	16 6.5	15 6.0	17 6.9	9 3.6	7 2.8
70代	269 100.0	34 12.6	34 12.6	34 12.6	19 7.1	16 5.9	9 3.3	18 6.7	6 2.2	7 2.6
80代以上	170 100.0	21 12.4	25 14.7	30 17.6	8 4.7	7 4.1	6 3.5	12 7.1	5 2.9	3 1.8

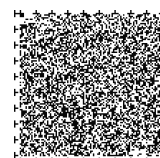
	総数	適切な指導者	一緒に行う仲間	用具等の貸出	施設の利用料減免	その他	特にない	活動したいと思わない	わからない	無回答
障害者等総数	1463 100.0	246 16.8	223 15.2	58 4.0	238 16.3	27 1.8	286 19.5	63 4.3	109 7.5	157 10.7
10代	27 100.0	12 44.4	13 48.1	2 7.4	5 18.5	0 0.0	3 11.1	0 0.0	1 3.7	1 3.7
20代	185 100.0	54 29.2	44 23.8	11 5.9	35 18.9	6 3.2	15 8.1	6 3.2	14 7.6	3 1.6
30代	176 100.0	32 18.2	30 17.0	10 5.7	41 23.3	6 3.4	36 20.5	3 1.7	13 7.4	10 5.7
40代	191 100.0	41 21.5	38 19.9	11 5.8	43 22.5	4 2.1	40 20.9	7 3.7	15 7.9	9 4.7
50代	189 100.0	25 13.2	22 11.6	5 2.6	40 21.2	2 1.1	43 22.8	2 1.1	19 10.1	8 4.2
60代	248 100.0	33 13.3	29 11.7	9 3.6	36 14.5	2 0.8	61 24.6	13 5.2	13 5.2	29 11.7
70代	269 100.0	34 12.6	29 10.8	6 2.2	27 10.0	5 1.9	60 22.3	18 6.7	25 9.3	42 15.6
80代以上	170 100.0	14 8.2	18 10.6	4 2.4	11 6.5	2 1.2	26 15.3	14 8.2	9 5.3	52 30.6



図表 2-55 文化、芸術活動をする上で必要な支援〔3つまで〕(Q20)－身体障害種別

	総数	文化、芸術活動を行う施設のバリアフリー化	交通機関やまちのバリアフリー化	活動の場までの送迎	活動できる場の充実	障害にあわせたプログラムの充実	介助者や手話通訳などの支援	障害に対応した情報の提供や問合せ方法の充実	施設や用具等を利用する際に必要な手続きの支援	障害や障害者、補助犬(盲導犬、介助犬、聴導犬)などに対する理解促進
身体障害者総数	914 100.0	176 19.3	167 18.3	141 15.4	104 11.4	105 11.5	79 8.6	98 10.7	42 4.6	44 4.8
視覚	119 100.0	22 18.5	23 19.3	27 22.7	16 13.4	18 15.1	12 10.1	19 16.0	13 10.9	7 5.9
聴覚	133 100.0	10 7.5	10 7.5	13 9.8	17 12.8	13 9.8	26 19.5	25 18.8	7 5.3	10 7.5
平衡機能	28 100.0	6 21.4	5 17.9	5 17.9	7 25.0	3 10.7	5 17.9	3 10.7	1 3.6	0 0.0
音声機能・言語機能・そしゃく機能	93 100.0	9 9.7	10 10.8	16 17.2	10 10.8	12 12.9	17 18.3	7 7.5	3 3.2	3 3.2
上肢	175 100.0	52 29.7	51 29.1	38 21.7	32 18.3	30 17.1	19 10.9	20 11.4	9 5.1	9 5.1
下肢	261 100.0	80 30.7	74 28.4	51 19.5	39 14.9	30 11.5	15 5.7	26 10.0	10 3.8	10 3.8
体幹	105 100.0	36 34.3	30 28.6	26 24.8	15 14.3	16 15.2	14 13.3	10 9.5	2 1.9	5 4.8
脳原性運動機能	72 100.0	30 41.7	26 36.1	14 19.4	11 15.3	16 22.2	15 20.8	13 18.1	4 5.6	10 13.9
内部障害	259 100.0	37 14.3	37 14.3	31 12.0	26 10.0	22 8.5	7 2.7	21 8.1	8 3.1	8 3.1

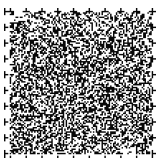
	総数	適切な指導者	一緒に行う仲間	用具等の貸出	施設の利用料減免	その他	特にない	活動したいと思わない	わからない	無回答
身体障害者総数	914 100.0	122 13.3	119 13.0	30 3.3	133 14.6	17 1.9	159 17.4	44 4.8	65 7.1	116 12.7
視覚	119 100.0	21 17.6	16 13.4	2 1.7	8 6.7	2 1.7	12 10.1	9 7.6	11 9.2	12 10.1
聴覚	133 100.0	14 10.5	20 15.0	4 3.0	17 12.8	3 2.3	23 17.3	7 5.3	10 7.5	16 12.0
平衡機能	28 100.0	1 3.6	2 7.1	0 0.0	1 3.6	1 3.6	4 14.3	1 3.6	2 7.1	8 28.6
音声機能・言語機能・そしゃく機能	93 100.0	10 10.8	11 11.8	3 3.2	12 12.9	1 1.1	18 19.4	6 6.5	4 4.3	9 9.7
上肢	175 100.0	35 20.0	20 11.4	8 4.6	21 12.0	5 2.9	16 9.1	5 2.9	13 7.4	14 8.0
下肢	261 100.0	37 14.2	27 10.3	11 4.2	41 15.7	6 2.3	31 11.9	11 4.2	14 5.4	31 11.9
体幹	105 100.0	20 19.0	9 8.6	1 1.0	6 5.7	4 3.8	9 8.6	1 1.0	10 9.5	14 13.3
脳原性運動機能	72 100.0	12 16.7	9 12.5	4 5.6	8 11.1	4 5.6	6 8.3	1 1.4	8 11.1	4 5.6
内部障害	259 100.0	29 11.2	36 13.9	8 3.1	50 19.3	2 0.8	71 27.4	9 3.5	13 5.0	34 13.1



図表 2-56 文化、芸術活動をする上で必要な支援〔3つまで〕(Q20)－今後活動したい活動別

	総数	文化、芸術活動を行う施設のバリアフリー化	交通機関やまちのバリアフリー化	活動の場までの送迎	活動できる場の充実	障害にあわせたプログラムの充実	介助者や手話通訳などの支援	障害に対応した情報の提供や問合せ方法の充実	施設や用具等を利用する際に必要な手続きの支援	障害や障害者、補助犬(盲導犬、介助犬、聴導犬)などに対する理解促進
障害者等総数	1463 100.0	222 15.2	217 14.8	207 14.1	194 13.3	188 12.9	100 6.8	164 11.2	67 4.6	69 4.7
コンサートや映画、演劇などに行く	725 100.0	158 21.8	148 20.4	126 17.4	141 19.4	117 16.1	48 6.6	99 13.7	40 5.5	44 6.1
美術館、博物館などに行く	519 100.0	118 22.7	106 20.4	77 14.8	102 19.7	84 16.2	43 8.3	82 15.8	31 6.0	35 6.7
動物園や植物園、水族館などに行く	526 100.0	107 20.3	104 19.8	94 17.9	106 20.2	106 20.2	57 10.8	94 17.9	36 6.8	39 7.4
音楽活動をする	258 100.0	49 19.0	43 16.7	50 19.4	86 33.3	68 26.4	25 9.7	39 15.1	23 8.9	20 7.8
美術などの創作活動をする	232 100.0	47 20.3	46 19.8	37 15.9	70 30.2	54 23.3	26 11.2	44 19.0	17 7.3	18 7.8
文芸活動をする	86 100.0	20 23.3	22 25.6	15 17.4	25 29.1	21 24.4	8 9.3	25 29.1	9 10.5	6 7.0
講演会、セミナー、各種講座に参加する	213 100.0	51 23.9	45 21.1	32 15.0	61 28.6	31 14.6	16 7.5	37 17.4	11 5.2	12 5.6
伝統文化などの活動をする	100 100.0	25 25.0	23 23.0	19 19.0	32 32.0	20 20.0	12 12.0	26 26.0	10 10.0	10 10.0
その他	35 100.0	6 17.1	6 17.1	8 22.9	9 25.7	4 11.4	4 11.4	4 11.4	2 5.7	4 11.4
特にない	318 100.0	14 4.4	18 5.7	23 7.2	7 2.2	13 4.1	10 3.1	9 2.8	4 1.3	5 1.6

	総数	適切な指導者	一緒に行う仲間	用具等の貸出	施設の利用料減免	その他	特にない	活動したいと思わない	わからない	無回答
障害者等総数	1463 100.0	246 16.8	223 15.2	58 4.0	238 16.3	27 1.8	286 19.5	63 4.3	109 7.5	157 10.7
コンサートや映画、演劇などに行く	725 100.0	164 22.6	151 20.8	38 5.2	166 22.9	14 1.9	127 17.5	9 1.2	19 2.6	38 5.2
美術館、博物館などに行く	519 100.0	122 23.5	104 20.0	31 6.0	141 27.2	9 1.7	94 18.1	3 0.6	16 3.1	20 3.9
動物園や植物園、水族館などに行く	526 100.0	132 25.1	104 19.8	29 5.5	125 23.8	9 1.7	85 16.2	2 0.4	18 3.4	19 3.6
音楽活動をする	258 100.0	97 37.6	75 29.1	23 8.9	70 27.1	5 1.9	29 11.2	0 0.0	9 3.5	5 1.9
美術などの創作活動をする	232 100.0	80 34.5	54 23.3	24 10.3	61 26.3	4 1.7	36 15.5	1 0.4	7 3.0	5 2.2
文芸活動をする	86 100.0	32 37.2	24 27.9	7 8.1	23 26.7	4 4.7	14 16.3	0 0.0	1 1.2	1 1.2
講演会、セミナー、各種講座に参加する	213 100.0	64 30.0	52 24.4	14 6.6	63 29.6	4 1.9	30 14.1	1 0.5	6 2.8	6 2.8
伝統文化などの活動をする	100 100.0	37 37.0	30 30.0	17 17.0	38 38.0	2 2.0	4 4.0	0 0.0	2 2.0	2 2.0
その他	35 100.0	7 20.0	6 17.1	1 2.9	7 20.0	3 8.6	2 5.7	2 5.7	2 5.7	2 5.7
特にない	318 100.0	16 5.0	13 4.1	5 1.6	11 3.5	7 2.2	99 31.1	48 15.1	68 21.4	34 10.7



図表 2-57 文化、芸術活動をする上で必要な支援〔3つまで〕(Q20)

ー外出時のサービス利用別

	総数	文化、芸術活動を行う施設のバリアフリー化	交通機関やまちのバリアフリー化	活動の場までの送迎	活動できる場の充実	障害にあわせたプログラムの充実	介助者や手話通訳などの支援	障害に対応した情報の提供や問合せ方法の充実	施設や用具等を利用する際に必要な手続きの支援	障害や障害者、補助犬(盲導犬、介助犬、聴導犬)などに対する理解促進
障害者等総数	1463 100.0	222 15.2	217 14.8	207 14.1	194 13.3	188 12.9	100 6.8	164 11.2	67 4.6	69 4.7
外出支援を利用している	217 100.0	49 22.6	42 19.4	65 30.0	38 17.5	50 23.0	34 15.7	27 12.4	9 4.1	22 10.1
補装具を使用している	384 100.0	95 24.7	97 25.3	75 19.5	48 12.5	46 12.0	41 10.7	56 14.6	14 3.6	27 7.0
補助犬と一緒に外出している	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	1 100.0	0 0.0	1 100.0
特にない	862 100.0	104 12.1	97 11.3	84 9.7	115 13.3	103 11.9	34 3.9	87 10.1	48 5.6	29 3.4

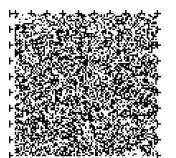
	総数	適切な指導者	一緒に行く仲間	用具等の貸出	施設の利用料減免	その他	特にない	活動したいと思わない	わからない	無回答
障害者等総数	1463 100.0	246 16.8	223 15.2	58 4.0	238 16.3	27 1.8	286 19.5	63 4.3	109 7.5	157 10.7
外出支援を利用している	217 100.0	56 25.8	37 17.1	5 2.3	25 11.5	7 3.2	15 6.9	7 3.2	11 5.1	21 9.7
補装具を使用している	384 100.0	48 12.5	42 10.9	13 3.4	37 9.6	12 3.1	47 12.2	16 4.2	21 5.5	58 15.1
補助犬と一緒に外出している	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
特にない	862 100.0	144 16.7	139 16.1	40 4.6	178 20.6	10 1.2	221 25.6	39 4.5	76 8.8	53 6.1

図表 2-58 文化、芸術活動をする上で必要な支援〔3つまで〕(Q20)

ー仕事の有無別

	総数	文化、芸術活動を行う施設のバリアフリー化	交通機関やまちのバリアフリー化	活動の場までの送迎	活動できる場の充実	障害にあわせたプログラムの充実	介助者や手話通訳などの支援	障害に対応した情報の提供や問合せ方法の充実	施設や用具等を利用する際に必要な手続きの支援	障害や障害者、補助犬(盲導犬、介助犬、聴導犬)などに対する理解促進
障害者等総数	1463 100.0	222 15.2	217 14.8	207 14.1	194 13.3	188 12.9	100 6.8	164 11.2	67 4.6	69 4.7
仕事をしている	458 100.0	68 14.8	62 13.5	32 7.0	61 13.3	60 13.1	28 6.1	65 14.2	31 6.8	27 5.9
仕事をしていない	839 100.0	139 16.6	141 16.8	135 16.1	104 12.4	93 11.1	55 6.6	83 9.9	29 3.5	35 4.2
福祉的就労をしている	107 100.0	8 7.5	7 6.5	27 25.2	26 24.3	29 27.1	12 11.2	10 9.3	6 5.6	5 4.7

	総数	適切な指導者	一緒に行く仲間	用具等の貸出	施設の利用料減免	その他	特にない	活動したいと思わない	わからない	無回答
障害者等総数	1463 100.0	246 16.8	223 15.2	58 4.0	238 16.3	27 1.8	286 19.5	63 4.3	109 7.5	157 10.7
仕事をしている	458 100.0	79 17.2	81 17.7	20 4.4	110 24.0	7 1.5	109 23.8	10 2.2	35 7.6	21 4.6
仕事をしていない	839 100.0	120 14.3	105 12.5	31 3.7	106 12.6	17 2.0	160 19.1	49 5.8	62 7.4	110 13.1
福祉的就労をしている	107 100.0	41 38.3	31 29.0	5 4.7	18 16.8	2 1.9	12 11.2	1 0.9	8 7.5	3 2.8



5 ボランティア活動について

(1) 今までに参加したボランティアの活動分野

何らかのボランティア活動に参加した人は 31.5%。主な活動分野は、「お祭り、町会・自治会などの地域の活動」(17.0%) や「障害者、高齢者等の支援などの福祉、医療に関する活動」(9.0%)

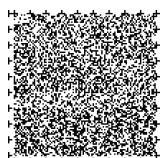
今までに何らかのボランティア活動に参加した人は 31.5%、一方「特にない」は 54.3% となっている。活動分野は、「お祭り、町会・自治会などの地域の活動」が 17.0% と最も高く、次いで「障害者、高齢者等の支援などの福祉、医療に関する活動」(9.0%) となっている。

障害別にみると、難病患者が何らかの活動に参加した割合が高く、特に「お祭り、町会・自治会などの地域の活動」で高くなっている。一方、知的障害者は「特にない」が他の障害に比べて高い。

身体障害者の障害種別にみると、聴覚、内部障害で何らかのボランティア活動に参加している割合がやや高く、参加した分野では、聴覚は「スポーツ大会などのスポーツ、運動に関する活動」が、内部障害は「お祭り、町会・自治会などの地域の活動」が他の身体障害種別に比べて高くなっている。一方、脳原性運動機能では「特にない」が他の身体障害種別に比べて高い。

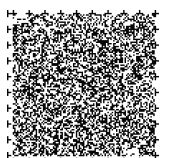
図表 2-59 今までに参加したボランティアの活動分野〔複数回答〕(Q21①)－障害別

	総 数	何 ら か の 活 動 に 参 加	参加した分野						特 に な い	無 回 答
			障害者、高齢者等の支援などの福祉、医療に関する活動	講演会、教室・学習会、展覧会等の企画・運営、手伝いなどの教育、文化に関する活動	スポーツ大会などのスポーツ、運動に関する活動	お祭り、町会・自治会などの地域の活動	企業の商品やサービスの開発・販売促進への協力	その他		
障害者等総数	1463 100.0	461 31.5	131 9.0	117 8.0	73 5.0	248 17.0	25 1.7	58 4.0	795 54.3	207 14.1
身体障害者	914 100.0	271 29.6	78 8.5	76 8.3	44 4.8	148 16.2	14 1.5	28 3.1	492 53.8	151 16.5
知的障害者	362 100.0	75 20.7	21 5.8	10 2.8	15 4.1	38 10.5	3 0.8	14 3.9	230 63.5	57 15.7
精神障害者	241 100.0	79 32.8	29 12.0	14 5.8	12 5.0	31 12.9	6 2.5	14 5.8	119 49.4	43 17.8
自立支援医療受給者	108 100.0	36 33.3	15 13.9	9 8.3	3 2.8	14 13.0	2 1.9	8 7.4	65 60.2	7 6.5
難病医療費助成者	316 100.0	135 42.7	34 10.8	32 10.1	19 6.0	84 26.6	5 1.6	15 4.7	154 48.7	27 8.5
医療費助成対象外の難病患者	22 100.0	11 50.0	2 9.1	3 13.6	1 4.5	6 27.3	0 0.0	2 9.1	6 27.3	5 22.7
発達障害と診断	30 100.0	11 36.7	3 10.0	4 13.3	1 3.3	5 16.7	1 3.3	2 6.7	16 53.3	3 10.0
高次脳機能障害と診断	25 100.0	6 24.0	2 8.0	2 8.0	1 4.0	4 16.0	1 4.0	0 0.0	14 56.0	5 20.0
認知症と診断	10 100.0	4 40.0	2 20.0	1 10.0	0 0.0	3 30.0	0 0.0	0 0.0	4 40.0	2 20.0



図表 2-60 今までに参加したボランティアの活動分野〔複数回答〕（Q21①）－身体障害種別

	総 数	何 ら か の 活 動 に 参 加	参加した分野						特 に な い	無 回 答
			社、医療に関する活動	障害者、高齢者等の支援などの福	企画・運営、手伝いなどの教育、文化に関する活動	講演会、教室・学習会、展覧会等の企画・運営、手伝いなどの教育、文化に関する活動	スポーツ大会などのスポーツ、運動に関する活動	お祭り、町会・自治会などの地域の活動	企業の商品やサービスの開発・販売促進への協力	その他
身体障害者総数	914	271	78	76	44	148	14	28	492	151
	100.0	29.6	8.5	8.3	4.8	16.2	1.5	3.1	53.8	16.5
視覚	119	34	9	10	7	17	0	5	67	18
	100.0	28.6	7.6	8.4	5.9	14.3	0.0	4.2	56.3	15.1
聴覚	133	48	11	17	12	21	3	6	63	22
	100.0	36.1	8.3	12.8	9.0	15.8	2.3	4.5	47.4	16.5
平衡機能	28	5	0	1	0	5	1	0	13	10
	100.0	17.9	0.0	3.6	0.0	17.9	3.6	0.0	46.4	35.7
音声機能・言語機能・そしゃく機能	93	25	9	9	2	12	0	2	55	13
	100.0	26.9	9.7	9.7	2.2	12.9	0.0	2.2	59.1	14.0
上肢	175	35	15	12	6	13	3	3	108	32
	100.0	20.0	8.6	6.9	3.4	7.4	1.7	1.7	61.7	18.3
下肢	261	64	23	18	4	32	3	5	149	48
	100.0	24.5	8.8	6.9	1.5	12.3	1.1	1.9	57.1	18.4
体幹	105	18	10	2	0	6	1	3	61	26
	100.0	17.1	9.5	1.9	0.0	5.7	1.0	2.9	58.1	24.8
脳原性運動機能	72	15	7	4	3	5	1	2	45	12
	100.0	20.8	9.7	5.6	4.2	6.9	1.4	2.8	62.5	16.7
内部障害	259	89	21	23	14	57	5	7	132	38
	100.0	34.4	8.1	8.9	5.4	22.0	1.9	2.7	51.0	14.7



(2) 今までに参加したボランティアの内容

今までに参加したボランティアの内容として、「イベント等の会場準備の手伝い」(12.4%)、「清掃」(10.9%)、「活動の指導、手伝い」(10.6%)が上位に挙げられている。一方、「特にない」が56.2%

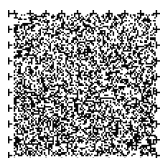
「イベント等の会場準備の手伝い」は医療費助成対象外の難病患者、「清掃」は発達障害や認知症と診断された人の割合が高い

今までに参加したボランティアの内容として、「イベント等の会場準備の手伝い」(12.4%)、「清掃」(10.9%)、「活動の指導、手伝い」(10.6%)が比較的高くなっている。一方、「特にない」は56.2%となっている。

障害別にみると、どの障害でも「イベント等の会場準備の手伝い」、「清掃」、「活動の指導、手伝い」、「受付・案内」がおおむね上位に挙がっているものの、特に「イベント等の会場準備の手伝い」は医療費助成対象外の難病患者(27.3%)、「清掃」では発達障害と診断されている人(23.3%)、認知症と診断された人(20.0%)の割合が他の障害に比べて高い。

図表 2-61 今までに参加したボランティアの内容〔複数回答〕(Q22①)－障害別

	総 数	受 付・ 案 内	活 動 の 指 導、 手 伝 い	イ ベ ン ト 等 の 会 場 準 備 の 手 伝 い	清 掃	移 動 や 身 の 回 り の 介 助 な ど の 手 伝 い	手 話 な ど コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン の 手 伝 い	手 話 し 相 手、 遊 び 相 手、 学 習 支 援	そ の 他	特 に な い	無 回 答
障害者等総数	1463 100.0	141 9.6	155 10.6	182 12.4	159 10.9	49 3.3	19 1.3	93 6.4	51 3.5	822 56.2	185 12.6
身体障害者	914 100.0	85 9.3	100 10.9	111 12.1	84 9.2	20 2.2	16 1.8	55 6.0	28 3.1	512 56.0	136 14.9
知的障害者	362 100.0	14 3.9	14 3.9	22 6.1	38 10.5	6 1.7	1 0.3	11 3.0	12 3.3	235 64.9	51 14.1
精神障害者	241 100.0	19 7.9	25 10.4	20 8.3	30 12.4	15 6.2	2 0.8	25 10.4	9 3.7	124 51.5	38 15.8
自立支援医療受 給者	108 100.0	9 8.3	19 17.6	13 12.0	13 12.0	9 8.3	1 0.9	14 13.0	3 2.8	64 59.3	4 3.7
難病医療費助成 者	316 100.0	48 15.2	45 14.2	63 19.9	41 13.0	12 3.8	3 0.9	26 8.2	12 3.8	165 52.2	22 7.0
医療費助成対象 外の難病患者	22 100.0	3 13.6	3 13.6	6 27.3	3 13.6	2 9.1	0 0.0	0 0.0	1 4.5	11 50.0	2 9.1
発達障害と診断	30 100.0	2 6.7	5 16.7	4 13.3	7 23.3	5 16.7	0 0.0	6 20.0	2 6.7	15 50.0	4 13.3
高次脳機能障害 と診断	25 100.0	2 8.0	4 16.0	2 8.0	3 12.0	1 4.0	0 0.0	1 4.0	1 4.0	14 56.0	5 20.0
認知症と診断	10 100.0	1 10.0	3 30.0	2 20.0	2 20.0	0 0.0	1 10.0	0 0.0	0 0.0	5 50.0	1 10.0



(3) 今までに参加したボランティアの活動分野と今までに参加したボランティアの内容

「障害者、高齢者等の支援などの福祉、医療に関する活動」は、「活動の指導、手伝い」が高く、「お祭り、町会・自治会などの地域の活動」は「イベント等の会場準備の手伝い」や「清掃」が高い

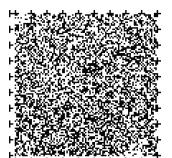
今までに参加したボランティアの活動分野と内容をみると、「障害者、高齢者等の支援などの福祉、医療に関する活動」では「活動の指導、手伝い」が高く、「講演会、教室・学習会、展覧会等の企画・運営、手伝いなどの教育、文化に関する活動」では「活動の指導、手伝い」、「受付・案内」、「イベント等の会場準備の手伝い」が高い。

「スポーツ大会などのスポーツ、運動に関する活動」では、「イベント等の会場準備の手伝い」、「活動の指導、手伝い」、「清掃」が高い。

また、「お祭り、町会・自治会などの地域の活動」では、「イベント等の会場準備の手伝い」や「清掃」が高くなっている。

図表 2-62 今までに参加したボランティアの活動分野×今までに参加したボランティアの内容
〔複数回答〕(Q21①、Q22①)

	総数	今までに参加したボランティアの内容									
		受付・案内	活動の指導、手伝い	イベント等の会場準備の手伝い	清掃	移動や身の回りの介助などの手伝い	手話などコミュニケーションの手伝い	話し相手、遊び相手、学習支援	その他	特にない	無回答
障害者等総数	1463 100.0	141 9.6	155 10.6	182 12.4	159 10.9	49 3.3	19 1.3	93 6.4	51 3.5	822 56.2	185 12.6
今までに参加したボランティアの活動分野	障害者、高齢者等の支援などの福祉、医療に関する活動	131 100.0	43 32.8	57 43.5	46 35.1	30 22.9	34 26.0	8 6.1	43 32.8	15 11.5	5 3.8
	講演会、教室・学習会、展覧会等の企画・運営、手伝いなどの教育、文化に関する活動	117 100.0	56 47.9	57 48.7	54 46.2	32 27.4	16 13.7	12 10.3	30 25.6	15 12.8	4 3.4
	スポーツ大会などのスポーツ、運動に関する活動	73 100.0	27 37.0	34 46.6	40 54.8	32 43.8	8 11.0	5 6.8	8 11.0	7 9.6	2 2.7
	お祭り、町会・自治会などの地域の活動	248 100.0	64 25.8	73 29.4	109 44.0	84 33.9	16 6.5	6 2.4	37 14.9	20 8.1	6 2.4
	企業の商品やサービスの開発・販売促進への協力	25 100.0	9 36.0	10 40.0	15 60.0	13 52.0	6 24.0	2 8.0	9 36.0	5 20.0	0 0.0
	その他	58 100.0	14 24.1	20 34.5	18 31.0	16 27.6	9 15.5	1 1.7	18 31.0	18 31.0	7 12.1
	特にない	795 100.0	16 2.0	9 1.1	15 1.9	31 3.9	1 0.1	2 0.3	5 0.6	5 0.6	12 1.5



(4) 今後参加したいボランティアの活動分野

今後参加したいボランティア活動として、何らかのボランティア活動への参加を挙げた人は 32.1%。医療費助成対象外の難病患者、難病医療費助成者で高い
 自立支援医療受給者は「障害者、高齢者等の支援などの福祉、医療に関する活動」が、
 難病医療費助成者は「講演会、教室・学習会、展覧会等の企画・運営、手伝いなどの教育、文化に関する活動」が他の障害に比べて高い

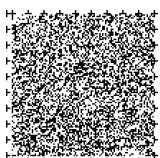
今後参加したいボランティア活動として何らかの活動分野を挙げた人は 32.1%、一方「特になし」は 52.4%となっている。活動分野は、「お祭り、町会・自治会などの地域の活動」(13.1%)、「障害者、高齢者等の支援などの福祉、医療に関する活動」(12.4%)、「講演会、教室・学習会、展覧会等の企画・運営、手伝いなどの教育、文化に関する活動」(10.3%)、「スポーツ大会などのスポーツ・運動に関する活動」(8.5%)で、大差はない。

障害別にみると、自立支援医療受給者は「障害者、高齢者等の支援などの福祉、医療に関する活動」が、難病医療費助成者は「講演会、教室・学習会、展覧会等の企画・運営、手伝いなどの教育、文化に関する活動」が他の障害に比べて高くなっている。

身体障害者の障害種別にみると、大きな違いはみられないものの、内部障害で参加意向がやや高い一方で、平衡機能では参加意向がやや低くなっている。

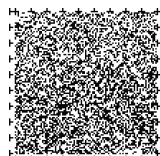
図表 2-63 今後参加したいボランティアの活動分野〔複数回答〕(Q21②)－障害別

	総数	何らかの活動に参加したい	参加したい分野						特になし	無回答
			障害者、高齢者等の支援などの福祉、医療に関する活動	講演会、教室・学習会、展覧会等の企画・運営、手伝いなどの教育、文化に関する活動	スポーツ大会などのスポーツ・運動に関する活動	お祭り、町会・自治会などの地域の活動	企業の商品やサービスの開発・販売促進への協力	その他		
障害者等総数	1463 100.0	469 32.1	182 12.4	150 10.3	124 8.5	191 13.1	86 5.9	33 2.3	767 52.4	227 15.5
身体障害者	914 100.0	280 30.6	100 10.9	86 9.4	72 7.9	112 12.3	52 5.7	24 2.6	471 51.5	163 17.8
知的障害者	362 100.0	83 22.9	27 7.5	14 3.9	23 6.4	35 9.7	11 3.0	7 1.9	216 59.7	63 17.4
精神障害者	241 100.0	81 33.6	40 16.6	25 10.4	18 7.5	27 11.2	15 6.2	6 2.5	117 48.5	43 17.8
自立支援医療受給者	108 100.0	45 41.7	29 26.9	12 11.1	10 9.3	12 11.1	11 10.2	3 2.8	55 50.9	8 7.4
難病医療費助成者	316 100.0	133 42.1	59 18.7	57 18.0	37 11.7	57 18.0	19 6.0	7 2.2	154 48.7	29 9.2
医療費助成対象外の難病患者	22 100.0	11 50.0	4 18.2	3 13.6	2 9.1	6 27.3	3 13.6	1 4.5	8 36.4	3 13.6
発達障害と診断	30 100.0	11 36.7	4 13.3	3 10.0	2 6.7	4 13.3	2 6.7	1 3.3	14 46.7	5 16.7
高次脳機能障害と診断	25 100.0	10 40.0	2 8.0	1 4.0	2 8.0	3 12.0	4 16.0	1 4.0	10 40.0	5 20.0
認知症と診断	10 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	8 80.0	2 20.0



図表 2-64 今後参加したいボランティアの活動分野〔複数回答〕(Q21②)－身体障害種別

	総 数	何 ら か の 活 動 に 参 加 し た い	参加したい分野						特 に な い	無 回 答
			障 害 者 、 高 齢 者 等 の 支 援 な ど の 福 祉 、 医 療 に 関 する 活 動	講 演 会 、 教 室 ・ 学 習 会 、 展 覧 会 等 の 企 画 ・ 運 営 、 手 伝 い な ど の 教 育 、 文 化 に 関 する 活 動	ス ポ ー ツ 大 会 な ど の ス ポ ー ツ 、 運 動 に 関 する 活 動	お 祭 り 、 町 会 ・ 自 治 会 な ど の 地 域 の 活 動	企 業 の 商 品 や サ ー ビ ス の 開 発 ・ 販 売 促 進 へ の 協 力	そ の 他		
身体障害者総数	914 100.0	280 30.6	100 10.9	86 9.4	72 7.9	112 12.3	52 5.7	24 2.6	471 51.5	163 17.8
視覚	119 100.0	33 27.7	10 8.4	9 7.6	13 10.9	10 8.4	8 6.7	4 3.4	62 52.1	24 20.2
聴覚	133 100.0	43 32.3	14 10.5	13 9.8	16 12.0	21 15.8	15 11.3	3 2.3	72 54.1	18 13.5
平衡機能	28 100.0	5 17.9	2 7.1	1 3.6	2 7.1	0 0.0	0 0.0	1 3.6	12 42.9	11 39.3
音声機能・言語 機能・そしゃく機 能	93 100.0	28 30.1	7 7.5	6 6.5	3 3.2	10 10.8	5 5.4	5 5.4	51 54.8	14 15.1
上肢	175 100.0	56 32.0	24 13.7	19 10.9	11 6.3	15 8.6	13 7.4	4 2.3	88 50.3	31 17.7
下肢	261 100.0	75 28.7	29 11.1	20 7.7	12 4.6	21 8.0	12 4.6	6 2.3	130 49.8	56 21.5
体幹	105 100.0	27 25.7	12 11.4	8 7.6	5 4.8	6 5.7	6 5.7	2 1.9	55 52.4	23 21.9
脳原性運動機能	72 100.0	23 31.9	6 8.3	6 8.3	4 5.6	9 12.5	4 5.6	2 2.8	37 51.4	12 16.7
内部障害	259 100.0	90 34.7	30 11.6	29 11.2	22 8.5	44 17.0	13 5.0	8 3.1	129 49.8	40 15.4



(5) 今後参加したいボランティアの内容

今後参加したいボランティアの内容として、「イベント等の会場準備の手伝い」(11.1%)、「受付・案内」(10.2%)、「話し相手、遊び相手、学習支援」(10.0%)が上位に挙げられている。一方、「特にない」が54.3%

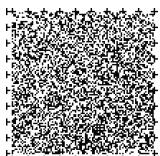
自立支援医療受給者は「活動の指導、手伝い」、難病医療費助成者は「受付・案内」、「話し相手、遊び相手、学習支援」が他の障害に比べて高い

今後参加したいボランティアの内容として、「イベント等の会場準備の手伝い」(11.1%)、「受付・案内」(10.2%)、「話し相手、遊び相手、学習支援」(10.0%)が比較的高くなっている。一方「特にない」は54.3%となっている。

障害別にみると、大きな違いはみられないものの、自立支援医療受給者は「活動の指導、手伝い」を、難病医療費助成者は「受付・案内」、「話し相手、遊び相手、学習支援」を挙げる人の割合が他の障害に比べて高い。

図表 2-65 今後参加したいボランティアの内容〔複数回答〕(Q22②)－障害別

	総 数	受 付・ 案内	活 動の 指導、 手伝い	イ ベン ト等 の会 場準 備 の 手 伝 い	清 掃	移 動 や 身 の 回 り の 介 助 な ど の 手 伝 い	手 話 な ど の コ ミ ュ ニ ケー シ ョ ン の 手 伝 い	学 習 支 援 話 し 相 手、 遊 び 相 手、	そ の 他	特 に な い	無 回 答
障害者等総数	1463 100.0	149 10.2	140 9.6	163 11.1	108 7.4	61 4.2	50 3.4	146 10.0	41 2.8	795 54.3	210 14.4
身体障害者	914 100.0	77 8.4	83 9.1	88 9.6	51 5.6	32 3.5	34 3.7	79 8.6	28 3.1	505 55.3	153 16.7
知的障害者	362 100.0	18 5.0	11 3.0	35 9.7	32 8.8	5 1.4	5 1.4	17 4.7	10 2.8	222 61.3	55 15.2
精神障害者	241 100.0	26 10.8	27 11.2	27 11.2	25 10.4	15 6.2	12 5.0	29 12.0	6 2.5	119 49.4	40 16.6
自立支援医療受給者	108 100.0	16 14.8	22 20.4	17 15.7	13 12.0	7 6.5	4 3.7	17 15.7	3 2.8	53 49.1	7 6.5
難病医療費助成者	316 100.0	55 17.4	42 13.3	46 14.6	18 5.7	24 7.6	10 3.2	57 18.0	11 3.5	153 48.4	31 9.8
医療費助成対象外の難病患者	22 100.0	2 9.1	3 13.6	4 18.2	3 13.6	2 9.1	2 9.1	4 18.2	1 4.5	10 45.5	3 13.6
発達障害と診断	30 100.0	4 13.3	5 16.7	4 13.3	5 16.7	3 10.0	1 3.3	4 13.3	0 0.0	15 50.0	3 10.0
高次脳機能障害と診断	25 100.0	1 4.0	2 8.0	2 8.0	2 8.0	0 0.0	0 0.0	1 4.0	1 4.0	13 52.0	5 20.0
認知症と診断	10 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	9 90.0	1 10.0



(6) 今までに参加したボランティアの活動分野と今後参加したいボランティアの活動分野

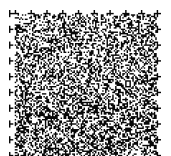
半数の人が、今後参加したいボランティア活動分野として、今までに参加したボランティア活動分野と同じものを挙げている

何らかのボランティア活動参加者は、今後、他の活動分野に対しても参加したい割合が高い

今までに参加したボランティア活動分野と今後参加したいボランティア活動分野の状況をみると、どの活動分野でも、今後参加したい活動分野として同じ分野を挙げている人が5割前後となっている。また、今までに何らかのボランティア活動をしたことのある人は、今までに参加したことのない活動に対しても参加を希望する人の割合が高くなっている。

図表 2-66 今までに参加したボランティアの活動分野×今後参加したいボランティアの活動分野〔複数回答〕(Q21①、Q21②)

	総数	今後参加したいボランティアの活動分野							
		障害者、高齢者等の福祉、医療に関する活動	講演会、教室・学習会、展覧会等の企画・運営、手伝いなどの教育、文化に関する活動	スポーツ大会などのスポーツ、運動に関する活動	お祭り、町会・自治会などの地域の活動	企業の商品やサービスの開発・販売促進への協力	その他	特にない	無回答
障害者等総数	1463 100.0	182 12.4	150 10.3	124 8.5	191 13.1	86 5.9	33 2.3	767 52.4	227 15.5
今までに参加したボランティアの活動分野	障害者、高齢者等の支援などの福祉、医療に関する活動	131 100.0	73 55.7	36 27.5	24 18.3	30 22.9	15 11.5	7 5.3	25 19.1
	講演会、教室・学習会、展覧会等の企画・運営、手伝いなどの教育、文化に関する活動	117 100.0	40 34.2	63 53.8	24 20.5	34 29.1	19 16.2	6 5.1	19 16.2
	スポーツ大会などのスポーツ、運動に関する活動	73 100.0	16 21.9	20 27.4	39 53.4	27 37.0	13 17.8	1 1.4	16 21.9
	お祭り、町会・自治会などの地域の活動	248 100.0	51 20.6	45 18.1	39 15.7	114 46.0	24 9.7	6 2.4	66 26.6
	企業の商品やサービスの開発・販売促進への協力	25 100.0	5 20.0	11 44.0	5 20.0	11 44.0	14 56.0	1 4.0	4 16.0
	その他	58 100.0	15 25.9	11 19.0	4 6.9	10 17.2	6 10.3	19 32.8	5 8.6
	特にない	795 100.0	57 7.2	43 5.4	44 5.5	47 5.9	34 4.3	8 1.0	633 79.6



(7) ボランティア活動をする上で必要な支援

ボランティア活動をする上で必要な支援については、「ボランティア活動に関する情報提供の充実」、「一緒に行く仲間」、「障害に対応した情報の提供や問合せ方法の充実」、「活動の場までの送迎」がいずれも10%強となっている

ボランティア活動をする上で必要な支援として、何らかの項目を挙げた人は40.1%である。「ボランティア活動に関する情報提供の充実」、「一緒に行く仲間」、「障害に対応した情報の提供や問合せ方法の充実」、「活動の場までの送迎」がいずれも10%強となっている。

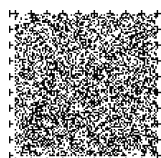
障害別にみると、上位に挙げられているものに大きな違いはみられない。一方、難病医療費助成者は「特になし」とする割合が他の障害に比べて高い。

年代別にみると、上位に挙げられているものに大きな違いはみられないものの、10代は「一緒に行く仲間」(33.3%)、「ボランティア活動に関する情報提供の充実」(33.3%)、20代では「障害に対応した情報の提供や問合せ方法の充実」(21.1%)、「一緒に行く仲間」(26.5%)、40代では「障害に対応した情報の提供や問合せ方法の充実」(22.0%)を、60代では「特になし」を挙げる割合が他の年代に比べて高い。

身体障害者の障害種別にみると、上位に挙げられているものに大きな違いはみられないものの、特に聴覚では「介助者や手話通訳などの支援」(14.3%)が、上肢や下肢では「交通機関やまちのバリアフリー化」(18.3%、17.6%)を挙げる割合が他の身体障害種別に比べて高い。

今後参加したい活動分野別にみると、上位に挙げられているものに大きな違いはみられないものの、「福祉、医療に関する活動」は「活動場所のバリアフリー化」(24.7%)、「活動の場までの送迎」(24.2%)、「障害に対応した情報の提供や問合せ方法の充実」(34.6%)「ボランティア活動に関する情報提供の充実」(37.9%)を、「教育、文化に関する活動」は「障害に対応した情報の提供や問合せ方法の充実」(35.3%)、「施設等を利用する際に必要な手続きの支援」(18.0%)、「ボランティア活動に関する情報提供の充実」(46.7%)を、「スポーツ大会などのスポーツ、運動に関する活動」は「障害に対応した情報の提供や問合せ方法の充実」(33.9%)、「障害や障害者、補助犬などに対する理解促進」(16.9%)、「ボランティア活動に関する情報提供の充実」(37.9%)を挙げる割合が他の活動分野に比べて高い。

今後参加したい内容別にみると、上位に挙げられているものに大きな違いはみられないものの、「受付・案内」、「イベント等の会場準備の手伝い」は「ボランティア活動に関する情報提供の充実」(44.3%、42.9%)が、「移動や身の回りの介助などの手伝い」は「障害や障害者、補助犬などに対する理解促進」(26.2%)が、「手話などコミュニケーションの手伝い」は「介助者や手話通訳などの支援」(26.0%)を、「話し相手、遊び相手、学習支援」は「施設等を利用する際に必要な手続きの支援」(18.5%)を挙げる割合が他の活動内容に比べて高い。



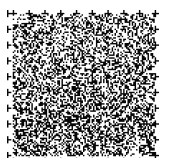
外出時のサービス利用別にみると、「外出支援を利用している」人は「介助者や手話通訳などの支援」(11.1%)を、「補装具を使用している」人は「活動場所のバリアフリー化」(12.2%)、「交通機関やまちのバリアフリー化」(12.8%)を、「特にない」人は「ボランティア活動に関する情報提供の充実」(18.7%)、「特にない」(23.0%)を挙げる割合が他に比べて高い。

仕事の有無別にみると、上位に挙がっているものに大きな違いはみられないものの、「仕事をしている」人は「障害に対応した情報の提供や問合せ方法の充実」(20.1%)、「施設等を利用する際に必要な手続きの支援」(9.8%)、「障害や障害者、補助犬などに対する理解促進」(7.9%)、「ボランティア活動に関する情報提供の充実」(24.5%)を、「仕事をしていない」人は「活動したいと思わない」(13.6%)を、「福祉的就労をしている」人は「一緒にいる仲間」(29.0%)を挙げる割合が他に比べて高い。

図表 2-67 ボランティア活動をする上で必要な支援〔3つまで〕(Q23)－障害別

	総数	活動場所のバリアフリー化	交通機関やまちのバリアフリー化	活動の場までの送迎	介助者や手話通訳などの支援	障害に対応した情報の提供や問合せ方法の充実	施設等を利用する際に必要な手続きの支援	障害や障害者、補助犬（盲導犬、介助犬、聴導犬）などに対する理解促進
障害者等総数	1463 100.0	135 9.2	139 9.5	162 11.1	68 4.6	189 12.9	90 6.2	77 5.3
身体障害者	914 100.0	96 10.5	99 10.8	96 10.5	51 5.6	106 11.6	47 5.1	47 5.1
知的障害者	362 100.0	24 6.6	25 6.9	44 12.2	25 6.9	46 12.7	28 7.7	20 5.5
精神障害者	241 100.0	28 11.6	25 10.4	30 12.4	8 3.3	41 17.0	16 6.6	14 5.8
自立支援医療受給者	108 100.0	10 9.3	10 9.3	19 17.6	9 8.3	26 24.1	10 9.3	4 3.7
難病医療費助成者	316 100.0	32 10.1	35 11.1	36 11.4	6 1.9	39 12.3	20 6.3	16 5.1
医療費助成対象外の難病患者	22 100.0	0 0.0	1 4.5	3 13.6	1 4.5	2 9.1	1 4.5	2 9.1
発達障害と診断	30 100.0	4 13.3	3 10.0	3 10.0	1 3.3	8 26.7	3 10.0	4 13.3
高次脳機能障害と診断	25 100.0	4 16.0	3 12.0	6 24.0	3 12.0	3 12.0	2 8.0	1 4.0
認知症と診断	10 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 10.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0

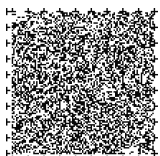
	総数	一緒にいる仲間	ボランティア活動に関する情報提供の充実	その他	特にない	活動したいと思わない	わからない	無回答
障害者等総数	1463 100.0	214 14.6	220 15.0	35 2.4	270 18.5	161 11.0	193 13.2	252 17.2
身体障害者	914 100.0	113 12.4	108 11.8	20 2.2	162 17.7	101 11.1	120 13.1	188 20.6
知的障害者	362 100.0	66 18.2	39 10.8	8 2.2	52 14.4	40 11.0	71 19.6	66 18.2
精神障害者	241 100.0	39 16.2	41 17.0	7 2.9	37 15.4	31 12.9	26 10.8	44 18.3
自立支援医療受給者	108 100.0	24 22.2	25 23.1	7 6.5	12 11.1	21 19.4	11 10.2	10 9.3
難病医療費助成者	316 100.0	39 12.3	62 19.6	8 2.5	84 26.6	28 8.9	30 9.5	39 12.3
医療費助成対象外の難病患者	22 100.0	4 18.2	2 9.1	2 9.1	4 18.2	1 4.5	1 4.5	5 22.7
発達障害と診断	30 100.0	8 26.7	7 23.3	1 3.3	3 10.0	4 13.3	6 20.0	2 6.7
高次脳機能障害と診断	25 100.0	6 24.0	3 12.0	2 8.0	0 0.0	1 4.0	4 16.0	6 24.0
認知症と診断	10 100.0	1 10.0	0 0.0	0 0.0	3 30.0	2 20.0	2 20.0	2 20.0



図表 2-68 ボランティア活動をする上で必要な支援〔3つまで〕(Q23) 一年代別

	総数	活動場所の バリアフリー 化	交通機関や まちのバリア フリー化	活動の場 での送迎	介助者や手 話通訳など の支援	障害に対応 した情報の 提供や問合 せ方法の充 実	施設等を利用 する際に 必要な手続 きの支援	障害や障害 者、補助犬 (盲導犬、 介助犬、聴 導犬)など に対する理 解促進
障害者等総数	1463 100.0	135 9.2	139 9.5	162 11.1	68 4.6	189 12.9	90 6.2	77 5.3
10代	27 100.0	1 3.7	1 3.7	2 7.4	3 11.1	4 14.8	3 11.1	3 11.1
20代	185 100.0	18 9.7	21 11.4	27 14.6	11 5.9	39 21.1	20 10.8	10 5.4
30代	176 100.0	16 9.1	14 8.0	16 9.1	11 6.3	26 14.8	7 4.0	9 5.1
40代	191 100.0	20 10.5	17 8.9	25 13.1	14 7.3	42 22.0	15 7.9	23 12.0
50代	189 100.0	27 14.3	27 14.3	17 9.0	7 3.7	35 18.5	18 9.5	11 5.8
60代	248 100.0	26 10.5	24 9.7	34 13.7	11 4.4	18 7.3	15 6.0	11 4.4
70代	269 100.0	16 5.9	21 7.8	31 11.5	8 3.0	15 5.6	8 3.0	8 3.0
80代以上	170 100.0	10 5.9	12 7.1	9 5.3	3 1.8	9 5.3	3 1.8	2 1.2

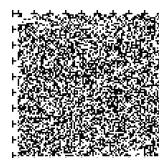
	総数	一緒に行う 仲間	ボランティア 活動に関す る情報提供 の充実	その他	特にない	活動したい と思わない	わからない	無回答
障害者等総数	1463 100.0	214 14.6	220 15.0	35 2.4	270 18.5	161 11.0	193 13.2	252 17.2
10代	27 100.0	9 33.3	9 33.3	0 0.0	5 18.5	2 7.4	7 25.9	1 3.7
20代	185 100.0	49 26.5	35 18.9	6 3.2	15 8.1	23 12.4	36 19.5	15 8.1
30代	176 100.0	24 13.6	31 17.6	7 4.0	40 22.7	15 8.5	25 14.2	23 13.1
40代	191 100.0	37 19.4	40 20.9	3 1.6	37 19.4	16 8.4	24 12.6	18 9.4
50代	189 100.0	28 14.8	46 24.3	4 2.1	33 17.5	21 11.1	23 12.2	18 9.5
60代	248 100.0	27 10.9	32 12.9	3 1.2	60 24.2	29 11.7	26 10.5	42 16.9
70代	269 100.0	28 10.4	22 8.2	6 2.2	56 20.8	33 12.3	34 12.6	65 24.2
80代以上	170 100.0	11 6.5	4 2.4	6 3.5	23 13.5	22 12.9	18 10.6	67 39.4



図表 2-69 ボランティア活動をする上で必要な支援〔3つまで〕(Q23)－身体障害種別

	総数	活動場所の バリアフリー 化	交通機関や まちのバリ アフリー化	活動の場ま での送迎	介助者や手 話通訳など の支援	障害に対応 した情報の 提供や問合 せ方法の充 実	施設等を利用する際に 必要な手続 きの支援	障害や障害 者、補助犬 (盲導犬、 介助犬、聴 導犬)など に対する理 解促進
身体障害者総数	914 100.0	96 10.5	99 10.8	96 10.5	51 5.6	106 11.6	47 5.1	47 5.1
視覚	119 100.0	13 10.9	11 9.2	16 13.4	11 9.2	18 15.1	7 5.9	5 4.2
聴覚	133 100.0	4 3.0	6 4.5	7 5.3	19 14.3	22 16.5	6 4.5	12 9.0
平衡機能	28 100.0	4 14.3	3 10.7	1 3.6	1 3.6	2 7.1	0 0.0	1 3.6
音声機能・言語機能・ そしゃく機能	93 100.0	7 7.5	6 6.5	8 8.6	10 10.8	11 11.8	5 5.4	2 2.2
上肢	175 100.0	29 16.6	32 18.3	23 13.1	9 5.1	20 11.4	5 2.9	14 8.0
下肢	261 100.0	39 14.9	46 17.6	31 11.9	8 3.1	24 9.2	10 3.8	12 4.6
体幹	105 100.0	18 17.1	18 17.1	11 10.5	7 6.7	10 9.5	2 1.9	6 5.7
脳原性運動機能	72 100.0	13 18.1	12 16.7	6 8.3	5 6.9	9 12.5	4 5.6	6 8.3
内部障害	259 100.0	17 6.6	15 5.8	28 10.8	6 2.3	26 10.0	20 7.7	9 3.5

	総数	一緒に行く 仲間	ボランティア 活動に関す る情報提供 の充実	その他	特にない	活動したい と思わない	わからない	無回答
身体障害者総数	914 100.0	113 12.4	108 11.8	20 2.2	162 17.7	101 11.1	120 13.1	188 20.6
視覚	119 100.0	19 16.0	5 4.2	1 0.8	19 16.0	18 15.1	10 8.4	26 21.8
聴覚	133 100.0	14 10.5	19 14.3	5 3.8	20 15.0	20 15.0	15 11.3	28 21.1
平衡機能	28 100.0	1 3.6	3 10.7	4 14.3	2 7.1	1 3.6	2 7.1	13 46.4
音声機能・言語機能・ そしゃく機能	93 100.0	11 11.8	8 8.6	6 6.5	19 20.4	9 9.7	14 15.1	18 19.4
上肢	175 100.0	24 13.7	22 12.6	7 4.0	20 11.4	16 9.1	25 14.3	35 20.0
下肢	261 100.0	32 12.3	27 10.3	8 3.1	36 13.8	24 9.2	35 13.4	63 24.1
体幹	105 100.0	10 9.5	10 9.5	3 2.9	11 10.5	13 12.4	17 16.2	27 25.7
脳原性運動機能	72 100.0	14 19.4	7 9.7	4 5.6	11 15.3	6 8.3	14 19.4	12 16.7
内部障害	259 100.0	35 13.5	35 13.5	4 1.5	64 24.7	25 9.7	35 13.5	45 17.4

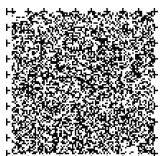


図表 2-70 ボランティア活動をする上で必要な支援〔3つまで〕(Q23)

—今後参加したい活動分野別

	総数	活動場所の バリアフリー 化	交通機関や まちのバリ アフリー化	活動の場ま での送迎	介助者や手 話通訳など の支援	障害に対応 した情報の 提供や問合 せ方法の充 実	施設等を利用 する際に 必要な手続 きの支援	障害や障害 者、補助犬 (盲導犬、 介助犬、聴 導犬)など に対する理 解促進
障害者等総数	1463 100.0	135 9.2	139 9.5	162 11.1	68 4.6	189 12.9	90 6.2	77 5.3
福祉、医療に関する活動	182 100.0	45 24.7	36 19.8	44 24.2	16 8.8	63 34.6	23 12.6	26 14.3
教育、文化に関する活動	150 100.0	30 20.0	29 19.3	31 20.7	13 8.7	53 35.3	27 18.0	22 14.7
スポーツ大会などのスポーツ、運動に関する活動	124 100.0	21 16.9	16 12.9	20 16.1	16 12.9	42 33.9	18 14.5	21 16.9
お祭り、町会・自治会などの地域の活動	191 100.0	31 16.2	33 17.3	37 19.4	16 8.4	43 22.5	24 12.6	20 10.5
企業の商品やサービスの開発・販売促進への協力	86 100.0	14 16.3	18 20.9	15 17.4	13 15.1	31 36.0	16 18.6	14 16.3
その他	33 100.0	4 12.1	1 3.0	3 9.1	1 3.0	7 21.2	2 6.1	3 9.1
特にない	767 100.0	40 5.2	45 5.9	53 6.9	27 3.5	52 6.8	29 3.8	17 2.2

	総数	一緒に行く 仲間	ボランティア 活動に関する 情報提供 の充実	その他	特にない	活動したい と思わない	わからない	無回答
障害者等総数	1463 100.0	214 14.6	220 15.0	35 2.4	270 18.5	161 11.0	193 13.2	252 17.2
福祉、医療に関する活動	182 100.0	57 31.3	69 37.9	9 4.9	18 9.9	1 0.5	6 3.3	7 3.8
教育、文化に関する活動	150 100.0	43 28.7	70 46.7	8 5.3	17 11.3	0 0.0	4 2.7	2 1.3
スポーツ大会などのスポーツ、運動に関する活動	124 100.0	37 29.8	47 37.9	2 1.6	14 11.3	2 1.6	7 5.6	3 2.4
お祭り、町会・自治会などの地域の活動	191 100.0	55 28.8	60 31.4	4 2.1	37 19.4	4 2.1	11 5.8	5 2.6
企業の商品やサービスの開発・販売促進への協力	86 100.0	24 27.9	36 41.9	3 3.5	8 9.3	0 0.0	10 11.6	2 2.3
その他	33 100.0	7 21.2	9 27.3	5 15.2	4 12.1	0 0.0	4 12.1	5 15.2
特にない	767 100.0	65 8.5	51 6.6	14 1.8	196 25.6	148 19.3	159 20.7	70 9.1

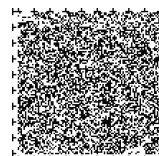


図表 2-71 ボランティア活動をする上で必要な支援〔3つまで〕(Q23)

ー今後参加したい内容別

	総数	活動場所の バリアフリー 化	交通機関や まちのバリア フリー化	活動の場ま での送迎	介助者や手 話通訳など の支援	障害に対応 した情報の 提供や問合 せ方法の充 実	施設等を利用 する際に 必要な手続 きの支援	障害や障害 者、補助犬 (盲導犬、 介助犬、聴 導犬)など に対する理 解促進
障害者等総数	1463 100.0	135 9.2	139 9.5	162 11.1	68 4.6	189 12.9	90 6.2	77 5.3
受付・案内	149 100.0	37 24.8	31 20.8	35 23.5	10 6.7	48 32.2	22 14.8	19 12.8
活動の指導、手伝い	140 100.0	26 18.6	26 18.6	30 21.4	13 9.3	42 30.0	15 10.7	19 13.6
イベント等の会場準備 の手伝い	163 100.0	34 20.9	23 14.1	28 17.2	17 10.4	48 29.4	27 16.6	26 16.0
清掃	108 100.0	14 13.0	15 13.9	22 20.4	13 12.0	31 28.7	18 16.7	16 14.8
移動や身の回りの介助 などの手伝い	61 100.0	14 23.0	7 11.5	13 21.3	6 9.8	22 36.1	7 11.5	16 26.2
手話などコミュニケー ションの手伝い	50 100.0	9 18.0	7 14.0	11 22.0	13 26.0	19 38.0	3 6.0	9 18.0
話し相手、遊び相手、 学習支援	146 100.0	25 17.1	21 14.4	37 25.3	12 8.2	39 26.7	27 18.5	18 12.3
その他	41 100.0	3 7.3	6 14.6	5 12.2	1 2.4	5 12.2	0 0.0	2 4.9
特にない	795 100.0	51 6.4	58 7.3	55 6.9	27 3.4	56 7.0	30 3.8	22 2.8

	総数	一緒に行く 仲間	ボランティア 活動に関す る情報提供 の充実	その他	特にない	活動したい と思わない	わからない	無回答
障害者等総数	1463 100.0	214 14.6	220 15.0	35 2.4	270 18.5	161 11.0	193 13.2	252 17.2
受付・案内	149 100.0	46 30.9	66 44.3	3 2.0	16 10.7	1 0.7	6 4.0	3 2.0
活動の指導、手伝い	140 100.0	44 31.4	56 40.0	5 3.6	15 10.7	0 0.0	5 3.6	4 2.9
イベント等の会場準備 の手伝い	163 100.0	52 31.9	70 42.9	3 1.8	27 16.6	0 0.0	10 6.1	3 1.8
清掃	108 100.0	41 38.0	46 42.6	3 2.8	12 11.1	0 0.0	8 7.4	2 1.9
移動や身の回りの介助 などの手伝い	61 100.0	23 37.7	25 41.0	3 4.9	4 6.6	0 0.0	6 9.8	3 4.9
手話などコミュニケー ションの手伝い	50 100.0	14 28.0	24 48.0	3 6.0	3 6.0	0 0.0	3 6.0	2 4.0
話し相手、遊び相手、 学習支援	146 100.0	48 32.9	55 37.7	8 5.5	19 13.0	0 0.0	7 4.8	4 2.7
その他	41 100.0	10 24.4	11 26.8	4 9.8	8 19.5	0 0.0	5 12.2	5 12.2
特にない	795 100.0	62 7.8	43 5.4	18 2.3	197 24.8	158 19.9	159 20.0	74 9.3



図表 2-72 ボランティア活動をする上で必要な支援〔3つまで〕(Q23)

ー外出時のサービス利用別

	総数	活動場所の バリアフリー 化	交通機関や まちのバリ アフリー化	活動の場 での送迎	介助者や手 話通訳など の支援	障害に対応 した情報の 提供や問合 せ方法の充 実	施設等を利用する際に 必要な手続 きの支援	障害や障害 者、補助犬 (盲導犬、 介助犬、聴 導犬)など に対する理 解促進
障害者等総数	1463 100.0	135 9.2	139 9.5	162 11.1	68 4.6	189 12.9	90 6.2	77 5.3
外出支援を利用している	217 100.0	22 10.1	24 11.1	35 16.1	24 11.1	26 12.0	12 5.5	11 5.1
補装具を使用している	384 100.0	47 12.2	49 12.8	46 12.0	28 7.3	43 11.2	13 3.4	20 5.2
補助犬と一緒に外出している	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	1 100.0	0 0.0	1 100.0
特になし	862 100.0	68 7.9	71 8.2	84 9.7	24 2.8	120 13.9	62 7.2	50 5.8

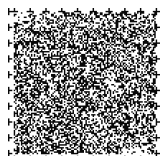
	総数	一緒に行く 仲間	ボランティア 活動に関する 情報提供の 充実	その他	特になし	活動したい と思わない	わからない	無回答
障害者等総数	1463 100.0	214 14.6	220 15.0	35 2.4	270 18.5	161 11.0	193 13.2	252 17.2
外出支援を利用している	217 100.0	45 20.7	18 8.3	10 4.6	25 11.5	23 10.6	29 13.4	49 22.6
補装具を使用している	384 100.0	46 12.0	40 10.4	10 2.6	47 12.2	44 11.5	57 14.8	95 24.7
補助犬と一緒に外出している	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
特になし	862 100.0	128 14.8	161 18.7	18 2.1	198 23.0	100 11.6	119 13.8	86 10.0

図表 2-73 ボランティア活動をする上で必要な支援〔3つまで〕(Q23)

ー仕事の有無別

	総数	活動場所の バリアフリー 化	交通機関や まちのバリ アフリー化	活動の場 での送迎	介助者や手 話通訳など の支援	障害に対応 した情報の 提供や問合 せ方法の充 実	施設等を利用する際に 必要な手続 きの支援	障害や障害 者、補助犬 (盲導犬、 介助犬、聴 導犬)など に対する理 解促進
障害者等総数	1463 100.0	135 9.2	139 9.5	162 11.1	68 4.6	189 12.9	90 6.2	77 5.3
仕事をしている	458 100.0	55 12.0	51 11.1	43 9.4	22 4.8	92 20.1	45 9.8	36 7.9
仕事をしていない	839 100.0	72 8.6	80 9.5	97 11.6	39 4.6	72 8.6	33 3.9	36 4.3
福祉的就労をしている	107 100.0	5 4.7	2 1.9	18 16.8	7 6.5	19 17.8	10 9.3	2 1.9

	総数	一緒に行く 仲間	ボランティア 活動に関する 情報提供の 充実	その他	特になし	活動したい と思わない	わからない	無回答
障害者等総数	1463 100.0	214 14.6	220 15.0	35 2.4	270 18.5	161 11.0	193 13.2	252 17.2
仕事をしている	458 100.0	82 17.9	112 24.5	5 1.1	91 19.9	31 6.8	61 13.3	35 7.6
仕事をしていない	839 100.0	98 11.7	84 10.0	21 2.5	158 18.8	114 13.6	105 12.5	180 21.5
福祉的就労をしている	107 100.0	31 29.0	21 19.6	6 5.6	15 14.0	11 10.3	21 19.6	9 8.4



6 情報アクセシビリティについて

(1) インターネットの利用の有無

約半数の人がインターネットを利用

特に、発達障害と診断されている人、自立支援医療受給者、難病医療費助成者では7割前後と高い。また、40代、50代は7割を超えている

インターネットを利用している人は、49.9%と約半数となっている。

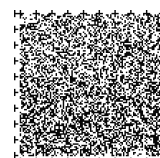
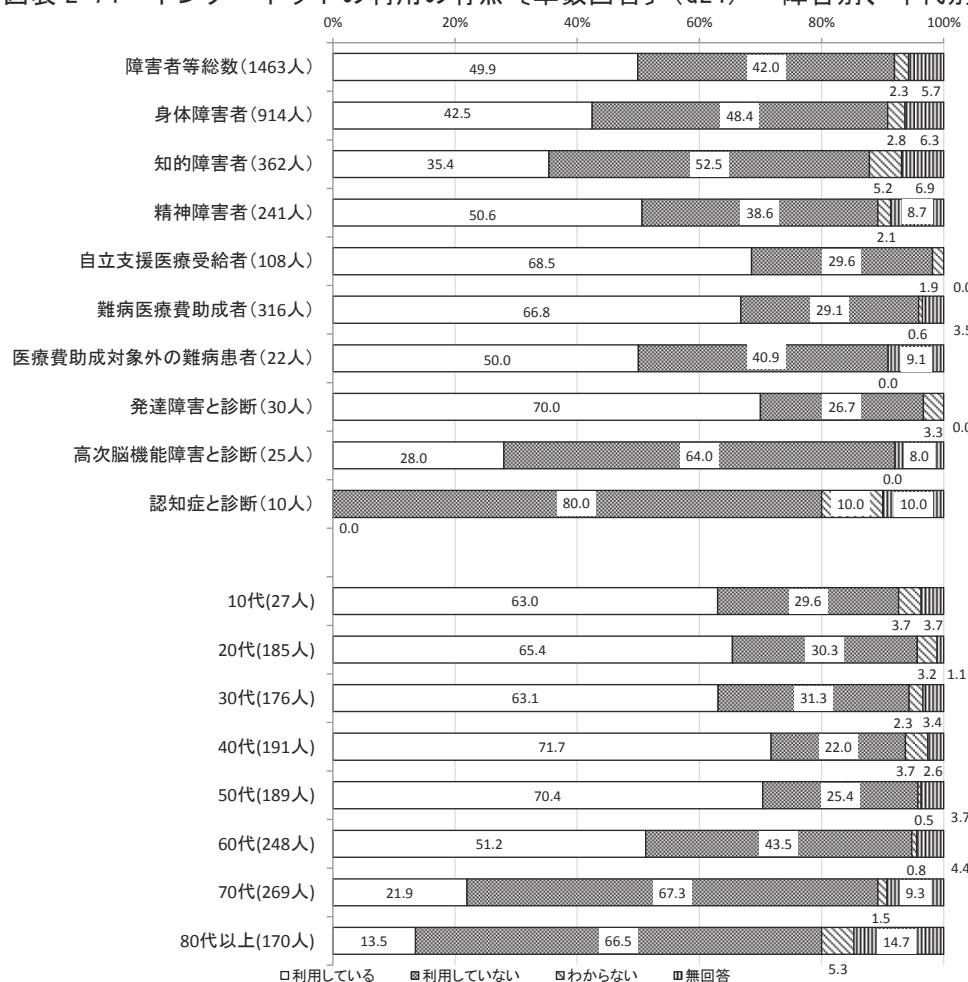
障害別では、発達障害と診断されている人（70.0%）、自立支援医療受給者（68.5%）、難病医療費助成者（66.8%）で利用している人の割合が高い。

年代別にみると、50代まででインターネットを利用している割合が高くなっている。特に40代（71.7%）、50代（70.4%）で7割を超える。

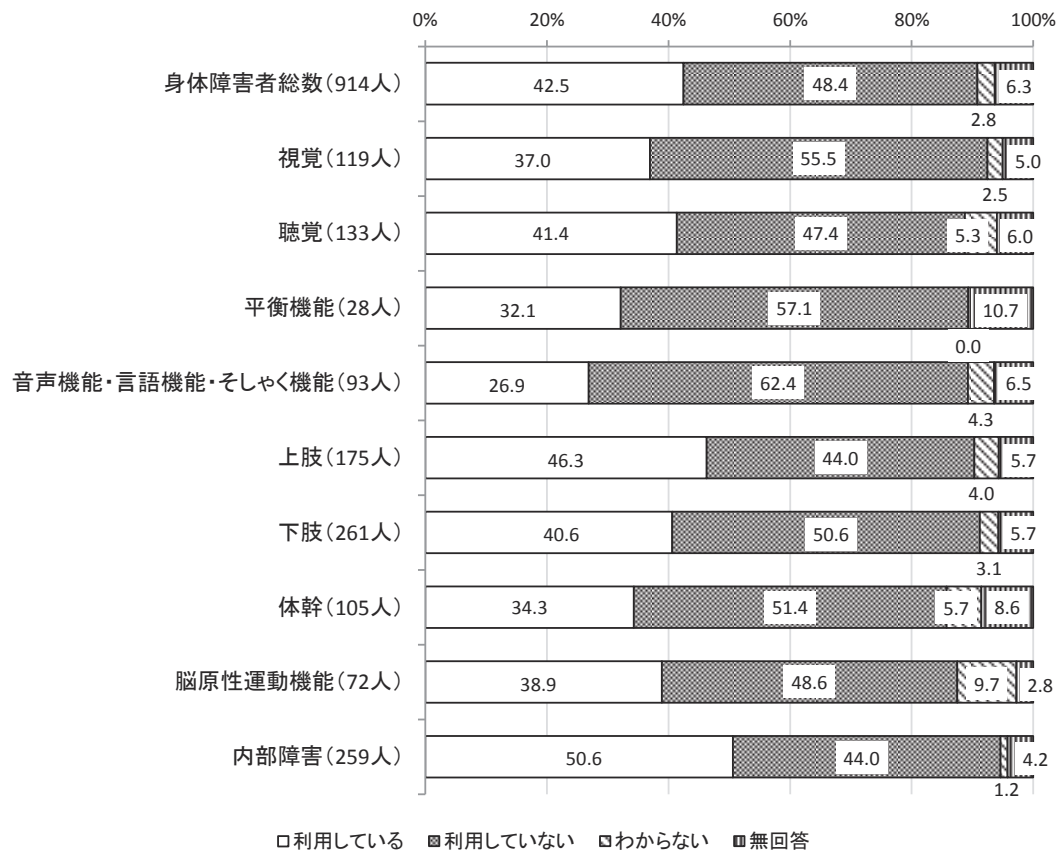
身体障害者の障害種別にみると、内部障害（50.6%）で利用している人の割合が高くなっている。

障害になった時期別にみると、20代・30代や40代・50代で障害になった人は「利用している」割合が60.0～82.3%と、他に比べて高い。

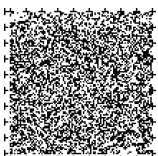
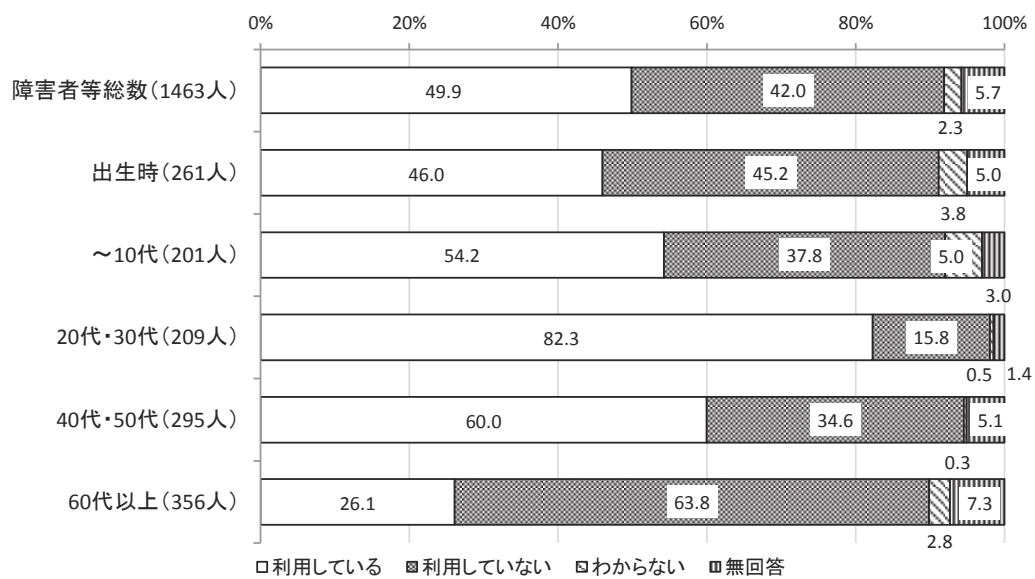
図表 2-74 インターネットの利用の有無〔単数回答〕（Q24）－障害別、年代別



図表 2-75 インターネットの利用の有無〔単数回答〕(Q24)－身体障害種別



図表 2-76 インターネットの利用の有無〔単数回答〕(Q24)－障害になった時期別



(2) インターネットの利用のツール

※インターネットを利用していると回答した 730 人が対象

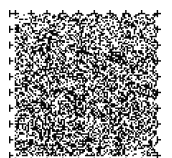
インターネット利用者が利用しているツールは、「パソコン」が 78.8%と最も高く、次いで「スマートフォン」が 60.8%

インターネットを利用している人が利用しているツールは、「パソコン」が 78.8%と最も高く、次いで「スマートフォン」が 60.8%となっている。

障害別では、大きな違いはみられない。

年代別では、どの年代でも「パソコン」の割合が高く、「タブレット」、「スマートフォン」は比較的若い年代で高くなっている。

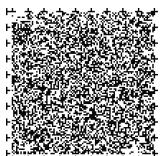
身体障害者の障害種別では、大きな違いはみられず、どの身体障害種別でも「パソコン」の割合が高く、それ以外では、内部障害で「スマートフォン」の割合が他の身体障害種別に比べて高くなっている。



図表 2-77 インターネットの利用のツール〔複数回答〕(Q25)

ー障害別、年代別、身体障害種別

		総数	パソコン	タブレット	携帯電話	スマート フォン	その他	わからな い	無回答
障害者等総数		730 100.0	575 78.8	197 27.0	139 19.0	444 60.8	8 1.1	11 1.5	3 0.4
Q 29 保有している手帳、 障害の診断、 難病医療費助成、	身体障害者	388 100.0	308 79.4	96 24.7	85 21.9	219 56.4	4 1.0	8 2.1	3 0.8
	知的障害者	128 100.0	84 65.6	38 29.7	17 13.3	71 55.5	1 0.8	6 4.7	0 0.0
	精神障害者	122 100.0	99 81.1	34 27.9	21 17.2	68 55.7	2 1.6	2 1.6	0 0.0
	自立支援医療受給 者	74 100.0	60 81.1	26 35.1	13 17.6	46 62.2	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	難病医療費助成者	211 100.0	174 82.5	60 28.4	42 19.9	147 69.7	2 0.9	1 0.5	0 0.0
	医療費助成対象外 の難病患者	11 100.0	8 72.7	4 36.4	2 18.2	7 63.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	発達障害と診断	21 100.0	17 81.0	7 33.3	9 42.9	12 57.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	高次脳機能障害と 診断	7 100.0	5 71.4	2 28.6	1 14.3	4 57.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	認知症と診断	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
Q 2 年代	10 代	17 100.0	15 88.2	6 35.3	3 17.6	12 70.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	20 代	121 100.0	93 76.9	42 34.7	15 12.4	84 69.4	3 2.5	1 0.8	0 0.0
	30 代	111 100.0	89 80.2	34 30.6	20 18.0	90 81.1	2 1.8	0 0.0	0 0.0
	40 代	137 100.0	102 74.5	36 26.3	27 19.7	98 71.5	1 0.7	2 1.5	0 0.0
	50 代	133 100.0	105 78.9	40 30.1	25 18.8	92 69.2	0 0.0	0 0.0	1 0.8
	60 代	127 100.0	106 83.5	29 22.8	25 19.7	48 37.8	0 0.0	3 2.4	1 0.8
	70 代	59 100.0	47 79.7	5 8.5	16 27.1	13 22.0	2 3.4	1 1.7	1 1.7
	80 代以上	23 100.0	17 73.9	4 17.4	8 34.8	6 26.1	0 0.0	3 13.0	0 0.0
Q 30 身体障害種別	視覚	44 100.0	31 70.5	8 18.2	9 20.5	20 45.5	0 0.0	2 4.5	3 6.8
	聴覚	55 100.0	43 78.2	18 32.7	15 27.3	34 61.8	1 1.8	2 3.6	0 0.0
	平衡機能	9 100.0	7 77.8	0 0.0	3 33.3	4 44.4	0 0.0	1 11.1	0 0.0
	音声機能・言語機 能・そしゃく機能	25 100.0	18 72.0	5 20.0	5 20.0	12 48.0	1 4.0	0 0.0	0 0.0
	上肢	81 100.0	68 84.0	19 23.5	19 23.5	36 44.4	1 1.2	1 1.2	0 0.0
	下肢	106 100.0	84 79.2	23 21.7	22 20.8	47 44.3	0 0.0	2 1.9	0 0.0
	体幹	36 100.0	30 83.3	13 36.1	12 33.3	16 44.4	0 0.0	1 2.8	0 0.0
	脳原性運動機能	28 100.0	22 78.6	9 32.1	9 32.1	17 60.7	1 3.6	0 0.0	0 0.0
	内部障害	131 100.0	106 80.9	31 23.7	22 16.8	89 67.9	3 2.3	4 3.1	0 0.0



(3) 日ごろの情報の入手先

情報の入手先として、「テレビやラジオ」が 72.0%と最も高く、次いで「家族や友人」(57.0%)

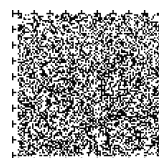
日ごろの情報入手先は、「テレビやラジオ」が 72.0%と最も高く、次いで「家族や友人」(57.0%)、「新聞」(42.2%)、「インターネット」(40.9%)となっている。

障害別にみると、上位に挙げられているものに大きな違いはみられず、それ以外では、身体障害者は「新聞」、「区市町村等の広報紙」が、精神障害者や難病医療費助成者は「インターネット」が、自立支援医療受給者は「インターネット」や「SNS」が、発達障害と診断されている人は「SNS」が他の障害に比べて高くなっている。

年代別にみると、上位に挙げられているものに大きな違いはみられないものの、それ以外では、10～40代では「学校や職場、施設の人」が、20代や30代では「家族や友人」、「SNS」が、20～50代では「インターネット」が、60代や70代では「テレビやラジオ」、「新聞」、「区市町村等の広報紙」を挙げる割合が、他の年代に比べて高い。

身体障害者の障害種別にみると、上位に挙げられているものに大きな違いはみられないものの、それ以外では、聴覚は「SNS」が、体幹は「学校や職場、施設の人」、脳原性運動機能は「学校や職場、施設の人」、「ボランティア、ヘルパーなどの支援者」が他の身体障害種別に比べて高い。

障害になった時期別にみると、上位に挙げられているものに大きな違いはみられないものの、それ以外では、出生時は「学校や職場、施設の人」(47.9%)が、「～10代」は「障害者団体の会合や機関誌」(12.4%)、「SNS」(19.4%)が、20代・30代は「インターネット」(75.6%)、「SNS」(26.8%)が、60代以上では「新聞」(61.2%)、「区市町村等の広報紙」(45.2%)が、他の時期に比べて高い。

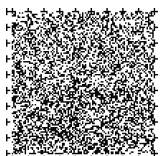


図表 2-78 日ごろの情報の入手先〔複数回答〕(Q26)－障害別

	総 数	家 族 や 友 人	学 校 や 職 場 、 施 設 の 人	ポ ラ ン テ ィ ア 、 ヘ ル パ ー な ど の 支 援 者	テ レ ビ や ラ ジ オ	新 聞	区 市 町 村 等 の 広 報 紙	機 関 誌 障 害 者 団 体 の 会 合 や	イ ン タ ー ネ ッ ト	S N S (ツ ィ ッ タ ー 、 フ ェ ィ ス ブ ッ ク な ど)	行 政 の 窓 口	そ の 他	わ か ら な い	無 回 答
障害者等総数	1463 100.0	834 57.0	383 26.2	117 8.0	1054 72.0	617 42.2	458 31.3	108 7.4	599 40.9	177 12.1	88 6.0	26 1.8	29 2.0	82 5.6
身体障害者	914 100.0	493 53.9	183 20.0	94 10.3	676 74.0	423 46.3	328 35.9	73 8.0	314 34.4	92 10.1	60 6.6	15 1.6	19 2.1	53 5.8
知的障害者	362 100.0	205 56.6	151 41.7	36 9.9	196 54.1	84 23.2	52 14.4	35 9.7	79 21.8	18 5.0	6 1.7	4 1.1	21 5.8	32 8.8
精神障害者	241 100.0	122 50.6	44 18.3	15 6.2	164 68.0	83 34.4	50 20.7	14 5.8	108 44.8	31 12.9	20 8.3	11 4.6	2 0.8	22 9.1
自立支援医療受給者	108 100.0	70 64.8	38 35.2	11 10.2	85 78.7	36 33.3	29 26.9	9 8.3	66 61.1	25 23.1	13 12.0	3 2.8	0 0.0	2 1.9
難病医療費助成者	316 100.0	201 63.6	86 27.2	10 3.2	268 84.8	161 50.9	131 41.5	17 5.4	181 57.3	57 18.0	29 9.2	2 0.6	2 0.6	7 2.2
医療費助成対象外の難病患者	22 100.0	9 40.9	4 18.2	2 9.1	15 68.2	10 45.5	10 45.5	2 9.1	9 40.9	4 18.2	3 13.6	0 0.0	0 0.0	3 13.6
発達障害と診断	30 100.0	11 36.7	11 36.7	1 3.3	16 53.3	9 30.0	6 20.0	5 16.7	18 60.0	9 30.0	2 6.7	0 0.0	2 6.7	0 0.0
高次脳機能障害と診断	25 100.0	15 60.0	10 40.0	6 24.0	19 76.0	10 40.0	9 36.0	5 20.0	5 20.0	1 4.0	3 12.0	0 0.0	0 0.0	3 12.0
認知症と診断	10 100.0	5 50.0	2 20.0	3 30.0	3 30.0	2 20.0	2 20.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 20.0	0 0.0	1 10.0	1 10.0

図表 2-79 日ごろの情報の入手先〔複数回答〕(Q26)－年代別

	総 数	家 族 や 友 人	学 校 や 職 場 、 施 設 の 人	ポ ラ ン テ ィ ア 、 ヘ ル パ ー な ど の 支 援 者	テ レ ビ や ラ ジ オ	新 聞	区 市 町 村 等 の 広 報 紙	機 関 誌 障 害 者 団 体 の 会 合 や	イ ン タ ー ネ ッ ト	S N S (ツ ィ ッ タ ー 、 フ ェ ィ ス ブ ッ ク な ど)	行 政 の 窓 口	そ の 他	わ か ら な い	無 回 答
障害者等総数	1463 100.0	834 57.0	383 26.2	117 8.0	1054 72.0	617 42.2	458 31.3	108 7.4	599 40.9	177 12.1	88 6.0	26 1.8	29 2.0	82 5.6
10代	27 100.0	20 74.1	18 66.7	2 7.4	17 63.0	1 3.7	1 3.7	2 7.4	12 44.4	6 22.2	0 0.0	2 7.4	1 3.7	1 3.7
20代	185 100.0	134 72.4	101 54.6	20 10.8	108 58.4	29 15.7	21 11.4	18 9.7	96 51.9	43 23.2	3 1.6	0 0.0	5 2.7	5 2.7
30代	176 100.0	119 67.6	79 44.9	10 5.7	110 62.5	40 22.7	35 19.9	9 5.1	97 55.1	42 23.9	8 4.5	2 1.1	7 4.0	8 4.5
40代	191 100.0	109 57.1	66 34.6	7 3.7	132 69.1	71 37.2	58 30.4	19 9.9	121 63.4	38 19.9	14 7.3	7 3.7	4 2.1	9 4.7
50代	189 100.0	108 57.1	49 25.9	13 6.9	146 77.2	86 45.5	64 33.9	14 7.4	119 63.0	29 15.3	9 4.8	3 1.6	2 1.1	7 3.7
60代	248 100.0	132 53.2	41 16.5	18 7.3	206 83.1	132 53.2	97 39.1	13 5.2	99 39.9	15 6.0	20 8.1	4 1.6	3 1.2	9 3.6
70代	269 100.0	128 47.6	12 4.5	23 8.6	206 76.6	168 62.5	121 45.0	23 8.6	38 14.1	2 0.7	19 7.1	4 1.5	5 1.9	22 8.2
80代以上	170 100.0	82 48.2	15 8.8	24 14.1	124 72.9	87 51.2	59 34.7	9 5.3	15 8.8	1 0.6	15 8.8	4 2.4	2 1.2	20 11.8

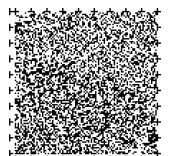


図表 2-80 日ごろの情報の入手先〔複数回答〕(Q26)－身体障害種別

	総 数	家 族 や 友 人	学 校 や 職 場、 施 設 の 人	ボ ラ ン テ ィ ア、 ヘ ル パ ー な ど の 支 援 者	テ レ ビ や ラ ジ オ	新 聞	区 市 町 村 等 の 広 報 紙	関 誌 障 害 者 団 体 の 会 合 や 機	イ ン タ ー ネ ッ ト	S N S (ツ ィ ッ タ ー、 フ ェ イ ス ブ ッ ク な ど)	行 政 の 窓 口	そ の 他	わ か ら な い	無 回 答
身体障害者総数	914 100.0	493 53.9	183 20.0	94 10.3	676 74.0	423 46.3	328 35.9	73 8.0	314 34.4	92 10.1	60 6.6	15 1.6	19 2.1	53 5.8
視覚	119 100.0	75 63.0	30 25.2	15 12.6	100 84.0	30 25.2	30 25.2	9 7.6	32 26.9	8 6.7	12 10.1	2 1.7	3 2.5	4 3.4
聴覚	133 100.0	72 54.1	24 18.0	10 7.5	85 63.9	75 56.4	53 39.8	12 9.0	47 35.3	23 17.3	9 6.8	3 2.3	6 4.5	3 2.3
平衡機能	28 100.0	13 46.4	7 25.0	2 7.1	22 78.6	13 46.4	8 28.6	2 7.1	6 21.4	1 3.6	1 3.6	0 0.0	1 3.6	3 10.7
音声機能・言語機能・そしゃく機能	93 100.0	49 52.7	19 20.4	12 12.9	61 65.6	37 39.8	35 37.6	10 10.8	17 18.3	8 8.6	2 2.2	0 0.0	2 2.2	8 8.6
上肢	175 100.0	83 47.4	56 32.0	31 17.7	120 68.6	62 35.4	48 27.4	25 14.3	66 37.7	7 4.0	6 3.4	2 1.1	4 2.3	13 7.4
下肢	261 100.0	136 52.1	59 22.6	42 16.1	203 77.8	125 47.9	93 35.6	23 8.8	86 33.0	11 4.2	11 4.2	2 0.8	7 2.7	12 4.6
体幹	105 100.0	58 55.2	39 37.1	21 20.0	69 65.7	26 24.8	23 21.9	17 16.2	29 27.6	10 9.5	6 5.7	1 1.0	6 5.7	13 12.4
脳原性運動機能	72 100.0	42 58.3	35 48.6	20 27.8	44 61.1	22 30.6	15 20.8	12 16.7	23 31.9	7 9.7	1 1.4	0 0.0	8 11.1	4 5.6
内部障害	259 100.0	149 57.5	40 15.4	9 3.5	206 79.5	142 54.8	110 42.5	20 7.7	113 43.6	31 12.0	23 8.9	7 2.7	2 0.8	9 3.5

図表 2-81 日ごろの情報の入手先〔複数回答〕(Q26)－障害になった時期別

	総 数	家 族 や 友 人	学 校 や 職 場、 施 設 の 人	ボ ラ ン テ ィ ア、 ヘ ル パ ー な ど の 支 援 者	テ レ ビ や ラ ジ オ	新 聞	区 市 町 村 等 の 広 報 紙	関 誌 障 害 者 団 体 の 会 合 や 機	イ ン タ ー ネ ッ ト	S N S (ツ ィ ッ タ ー、 フ ェ イ ス ブ ッ ク な ど)	行 政 の 窓 口	そ の 他	わ か ら な い	無 回 答
障害者等総数	1463 100.0	834 57.0	383 26.2	117 8.0	1054 72.0	617 42.2	458 31.3	108 7.4	599 40.9	177 12.1	88 6.0	26 1.8	29 2.0	82 5.6
出生時	261 100.0	170 65.1	125 47.9	28 10.7	153 58.6	60 23.0	40 15.3	27 10.3	83 31.8	28 10.7	4 1.5	4 1.5	9 3.4	15 5.7
～10代	201 100.0	116 57.7	72 35.8	21 10.4	125 62.2	64 31.8	49 24.4	25 12.4	92 45.8	39 19.4	11 5.5	6 3.0	11 5.5	8 4.0
20代・30代	209 100.0	131 62.7	72 34.4	7 3.3	157 75.1	69 33.0	61 29.2	12 5.7	158 75.6	56 26.8	12 5.7	4 1.9	1 0.5	6 2.9
40代・50代	295 100.0	157 53.2	55 18.6	16 5.4	240 81.4	147 49.8	111 37.6	17 5.8	151 51.2	35 11.9	25 8.5	7 2.4	3 1.0	8 2.7
60代以上	356 100.0	195 54.8	32 9.0	36 10.1	288 80.9	218 61.2	161 45.2	18 5.1	71 19.9	9 2.5	29 8.1	4 1.1	1 0.3	26 7.3



(4) コミュニケーションや連絡の手段

① 「学校・施設・職場」でのコミュニケーションや連絡の手段

「学校・施設・職場」でのコミュニケーションや連絡の手段は、「携帯電話、スマートフォン、タブレット、パソコン」が 51.1%、「メール」が 30.3%

「学校・施設・職場」でのコミュニケーションや連絡の手段は、「携帯電話、スマートフォン、タブレット、パソコン」が 51.1%と最も高く、次いで「メール」が 30.3%となっている。

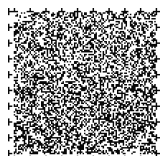
障害別にみると、上位に挙がっているものに大きな違いはみられないものの、それ以外では、身体障害者では「手話」、「筆談」、「要約筆記通訳や手話通訳」、「補聴器・補聴援助機器」が、知的障害者では「口話・読話」、「行動（身振り・手振り）」が、難病医療費助成者や医療費助成対象外の難病患者では「ファックス」が、発達障害と診断されている人では「絵文字（ピクトグラム）」が、高次脳機能障害と診断された人では「会話を文字化するアプリ」を挙げる人の割合が他の障害に比べて高く、障害によって手段が異なっている。

年代別にみると、上位に挙がっているものに大きな違いはみられないものの、特に 40 代や 50 代では「携帯電話、スマートフォン、タブレット、パソコン」を挙げる人の割合が 7 割弱、50 代では「メール」が 5 割と他の年代に比べて高い。

身体障害者の障害種別にみると、上位の「携帯電話、スマートフォン、タブレット、パソコン」、「メール」は同じものの、視覚では「点字」、「拡大文字」、「読み上げソフト、アプリ等」、「朗読サービス」が、聴覚では「手話」、「筆談」、「要約筆記通訳や手話通訳」、「補聴器・補聴援助機器」が、音声機能・言語機能・そしゃく機能では「筆談」、「行動（身振り・手振り）」、「会話を文字化するアプリ」、「絵文字（ピクトグラム）」が、脳原性運動機能では「行動（身振り・手振り）」が、他の身体障害種別に比べて高い。

障害になった時期別にみると、上位の「携帯電話、スマートフォン、タブレット、パソコン」、「メール」は同じで、特に 20 代・30 代では、約 8 割が「携帯電話、スマートフォン、タブレット、パソコン」を挙げている。それ以外については、出生時では「口話・読話」、「行動（身振り・手振り）」が、「～10 代」では「点字」、「手話」、「要約筆記通訳や手話通訳」が、60 代以上では「ファックス」が、他の障害になった時期に比べて高い。

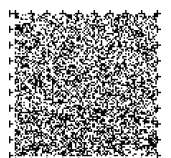
情報入手先別にみると、上位に挙がっているものに大きな違いはみられないものの、それ以外では、「学校や職場、施設の人」は「口話・読話」、「行動（身振り・手振り）」が、「ボランティア、ヘルパーなどの支援者」は「行動（身振り・手振り）」が、「区市町村等の広報紙」や「行政の窓口」は「ファックス」が他に比べて高くなっている。



図表 2-82 「学校・施設・職場」でのコミュニケーションや連絡の手段〔複数回答〕(Q27①)
ー障害別

	総数	携帯電話、スマートフォン、タブレット、パソコン	ファックス	メール	点字	指点字	手書き文字(てのひら書き)	拡大文字	録音物(デジタイズ版など)	読み上げソフト、アプリ等	朗読サービス
障害者等総数	1463	748	155	444	3	2	24	14	4	6	7
	100.0	51.1	10.6	30.3	0.2	0.1	1.6	1.0	0.3	0.4	0.5
身体障害者	914	411	96	260	3	2	19	13	3	6	7
	100.0	45.0	10.5	28.4	0.3	0.2	2.1	1.4	0.3	0.7	0.8
知的障害者	362	141	13	59	1	0	3	1	1	1	3
	100.0	39.0	3.6	16.3	0.3	0.0	0.8	0.3	0.3	0.3	0.8
精神障害者	241	135	21	78	0	0	7	1	0	1	2
	100.0	56.0	8.7	32.4	0.0	0.0	2.9	0.4	0.0	0.4	0.8
自立支援医療受給者	108	80	9	43	1	0	2	1	0	0	1
	100.0	74.1	8.3	39.8	0.9	0.0	1.9	0.9	0.0	0.0	0.9
難病医療費助成者	316	196	56	126	0	0	0	5	0	1	0
	100.0	62.0	17.7	39.9	0.0	0.0	0.0	1.6	0.0	0.3	0.0
医療費助成対象外の難病患者	22	13	6	9	0	0	0	1	0	0	0
	100.0	59.1	27.3	40.9	0.0	0.0	0.0	4.5	0.0	0.0	0.0
発達障害と診断	30	23	1	12	0	0	0	0	0	0	0
	100.0	76.7	3.3	40.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
高次脳機能障害と診断	25	7	0	3	0	0	0	0	0	0	0
	100.0	28.0	0.0	12.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
認知症と診断	10	1	1	0	0	0	1	0	0	0	0
	100.0	10.0	10.0	0.0	0.0	0.0	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0

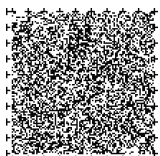
	総数	手話	筆談	要約筆記通訳や手話通訳	補聴器・補聴援助機器	口話・読話	行動(身振り・手振り)	会話を文字化するアプリ	絵文字(ピクトグラム)	その他	無回答
障害者等総数	1463	36	70	12	64	179	141	7	8	103	426
	100.0	2.5	4.8	0.8	4.4	12.2	9.6	0.5	0.5	7.0	29.1
身体障害者	914	33	65	12	60	108	97	6	4	67	302
	100.0	3.6	7.1	1.3	6.6	11.8	10.6	0.7	0.4	7.3	33.0
知的障害者	362	5	7	0	9	69	64	0	0	44	86
	100.0	1.4	1.9	0.0	2.5	19.1	17.7	0.0	0.0	12.2	23.8
精神障害者	241	9	9	0	6	26	16	1	3	14	66
	100.0	3.7	3.7	0.0	2.5	10.8	6.6	0.4	1.2	5.8	27.4
自立支援医療受給者	108	2	3	0	3	20	12	1	2	10	14
	100.0	1.9	2.8	0.0	2.8	18.5	11.1	0.9	1.9	9.3	13.0
難病医療費助成者	316	0	1	0	2	26	12	0	2	16	94
	100.0	0.0	0.3	0.0	0.6	8.2	3.8	0.0	0.6	5.1	29.7
医療費助成対象外の難病患者	22	0	1	0	2	1	0	0	0	0	8
	100.0	0.0	4.5	0.0	9.1	4.5	0.0	0.0	0.0	0.0	36.4
発達障害と診断	30	1	0	0	3	6	1	0	2	4	4
	100.0	3.3	0.0	0.0	10.0	20.0	3.3	0.0	6.7	13.3	13.3
高次脳機能障害と診断	25	0	3	0	0	6	5	1	0	3	6
	100.0	0.0	12.0	0.0	0.0	24.0	20.0	4.0	0.0	12.0	24.0
認知症と診断	10	1	3	0	1	4	6	0	0	1	1
	100.0	10.0	30.0	0.0	10.0	40.0	60.0	0.0	0.0	10.0	10.0



図表 2-83 「学校・施設・職場」でのコミュニケーションや連絡の手段〔複数回答〕(Q27①)
 一年代別

	総数	携帯電話、 スマートフォン、タブ レット、パソ コン	ファックス	メール	点字	指点字	手書き文 字(てのひ ら書き)	拡大文字	録音物(デ イジー版な ど)	読み上げソ フト、アプリ 等	朗読サー ビス
障害者等総数	1463 100.0	748 51.1	155 10.6	444 30.3	3 0.2	2 0.1	24 1.6	14 1.0	4 0.3	6 0.4	7 0.5
10代	27 100.0	18 66.7	0 0.0	8 29.6	0 0.0	0 0.0	1 3.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
20代	185 100.0	118 63.8	11 5.9	60 32.4	2 1.1	1 0.5	2 1.1	1 0.5	0 0.0	2 1.1	0 0.0
30代	176 100.0	107 60.8	18 10.2	70 39.8	0 0.0	0 0.0	3 1.7	1 0.6	1 0.6	1 0.6	1 0.6
40代	191 100.0	129 67.5	24 12.6	81 42.4	0 0.0	1 0.5	5 2.6	4 2.1	0 0.0	2 1.0	1 0.5
50代	189 100.0	128 67.7	30 15.9	95 50.3	0 0.0	0 0.0	1 0.5	1 0.5	1 0.5	0 0.0	0 0.0
60代	248 100.0	119 48.0	30 12.1	68 27.4	0 0.0	0 0.0	3 1.2	1 0.4	1 0.4	1 0.4	1 0.4
70代	269 100.0	90 33.5	23 8.6	50 18.6	1 0.4	0 0.0	6 2.2	3 1.1	1 0.4	0 0.0	3 1.1
80代以上	170 100.0	38 22.4	18 10.6	11 6.5	0 0.0	0 0.0	3 1.8	3 1.8	0 0.0	0 0.0	1 0.6

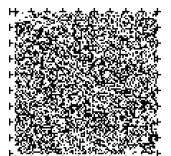
	総数	手話	筆談	要約筆記 通訳や手 話通訳	補聴器・補 聴援助機 器	口話・読話	行動(身振 り・手振り)	会話を文 字化するア プリア	絵文字(ピ クトグラム)	その他	無回答
障害者等総数	1463 100.0	36 2.5	70 4.8	12 0.8	64 4.4	179 12.2	141 9.6	7 0.5	8 0.5	103 7.0	426 29.1
10代	27 100.0	2 7.4	2 7.4	0 0.0	2 7.4	7 25.9	7 25.9	0 0.0	0 0.0	3 11.1	3 11.1
20代	185 100.0	5 2.7	5 2.7	2 1.1	9 4.9	38 20.5	33 17.8	2 1.1	1 0.5	21 11.4	18 9.7
30代	176 100.0	5 2.8	9 5.1	1 0.6	5 2.8	35 19.9	29 16.5	0 0.0	2 1.1	19 10.8	22 12.5
40代	191 100.0	4 2.1	13 6.8	2 1.0	5 2.6	26 13.6	24 12.6	4 2.1	3 1.6	12 6.3	35 18.3
50代	189 100.0	5 2.6	6 3.2	1 0.5	5 2.6	19 10.1	12 6.3	0 0.0	0 0.0	14 7.4	33 17.5
60代	248 100.0	6 2.4	12 4.8	2 0.8	5 2.0	23 9.3	11 4.4	0 0.0	1 0.4	10 4.0	91 36.7
70代	269 100.0	8 3.0	14 5.2	4 1.5	16 5.9	20 7.4	13 4.8	1 0.4	1 0.4	12 4.5	130 48.3
80代以上	170 100.0	1 0.6	9 5.3	0 0.0	17 10.0	10 5.9	12 7.1	0 0.0	0 0.0	11 6.5	89 52.4



図表 2-84 「学校・施設・職場」でのコミュニケーションや連絡の手段〔複数回答〕(Q27①)
ー身体障害種別

	総数	携帯電話、 スマート フォン、タブ レット、パソ コン	ファックス	メール	点字	指点字	手書き文 字(てのひ ら書き)	拡大文字	録音物(デ イジー版な ど)	読み上げソ フト、アプリ 等	朗読サー ビス
身体障害者総数	914 100.0	411 45.0	96 10.5	260 28.4	3 0.3	2 0.2	19 2.1	13 1.4	3 0.3	6 0.7	7 0.8
視覚	119 100.0	45 37.8	6 5.0	27 22.7	3 2.5	1 0.8	4 3.4	10 8.4	2 1.7	5 4.2	4 3.4
聴覚	133 100.0	57 42.9	20 15.0	44 33.1	0 0.0	1 0.8	9 6.8	0 0.0	1 0.8	0 0.0	0 0.0
平衡機能	28 100.0	10 35.7	1 3.6	4 14.3	0 0.0	0 0.0	1 3.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
音声機能・言語機能・ そしゃく機能	93 100.0	27 29.0	3 3.2	20 21.5	0 0.0	1 1.1	5 5.4	1 1.1	0 0.0	1 1.1	1 1.1
上肢	175 100.0	78 44.6	10 5.7	49 28.0	0 0.0	0 0.0	2 1.1	1 0.6	1 0.6	0 0.0	0 0.0
下肢	261 100.0	108 41.4	26 10.0	68 26.1	0 0.0	0 0.0	1 0.4	2 0.8	1 0.4	1 0.4	1 0.4
体幹	105 100.0	36 34.3	8 7.6	23 21.9	0 0.0	0 0.0	1 1.0	2 1.9	1 1.0	0 0.0	1 1.0
脳原性運動機能	72 100.0	26 36.1	9 12.5	16 22.2	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 1.4	1 1.4	2 2.8
内部障害	259 100.0	142 54.8	30 11.6	82 31.7	0 0.0	0 0.0	2 0.8	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0

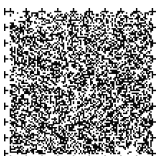
	総数	手話	筆談	要約筆記 通訳や手 話通訳	補聴器・補 聴援助機 器	口話・読話	行動(身振 り・手振り)	会話を文 字化するア プリ	絵文字(ピ クトグラム)	その他	無回答
身体障害者総数	914 100.0	33 3.6	65 7.1	12 1.3	60 6.6	108 11.8	97 10.6	6 0.7	4 0.4	67 7.3	302 33.0
視覚	119 100.0	0 0.0	1 0.8	0 0.0	3 2.5	12 10.1	6 5.0	1 0.8	1 0.8	10 8.4	48 40.3
聴覚	133 100.0	31 23.3	40 30.1	12 9.0	51 38.3	27 20.3	26 19.5	3 2.3	1 0.8	4 3.0	32 24.1
平衡機能	28 100.0	2 7.1	2 7.1	1 3.6	1 3.6	3 10.7	3 10.7	0 0.0	0 0.0	2 7.1	13 46.4
音声機能・言語機能・ そしゃく機能	93 100.0	2 2.2	19 20.4	1 1.1	2 2.2	15 16.1	23 24.7	4 4.3	2 2.2	12 12.9	24 25.8
上肢	175 100.0	1 0.6	7 4.0	0 0.0	3 1.7	34 19.4	25 14.3	1 0.6	0 0.0	22 12.6	44 25.1
下肢	261 100.0	1 0.4	4 1.5	0 0.0	3 1.1	32 12.3	34 13.0	0 0.0	1 0.4	29 11.1	90 34.5
体幹	105 100.0	0 0.0	1 1.0	0 0.0	1 1.0	16 15.2	19 18.1	0 0.0	0 0.0	21 20.0	29 27.6
脳原性運動機能	72 100.0	2 2.8	2 2.8	0 0.0	4 5.6	16 22.2	23 31.9	1 1.4	0 0.0	13 18.1	15 20.8
内部障害	259 100.0	0 0.0	4 1.5	0 0.0	2 0.8	19 7.3	12 4.6	0 0.0	0 0.0	11 4.2	91 35.1



図表 2-85 「学校・施設・職場」でのコミュニケーションや連絡の手段〔複数回答〕(Q27①)
ー障害になった時期別

	総数	携帯電話、 スマート フォン、タブ レット、パソ コン	ファックス	メール	点字	指点字	手書き文 字(てのひ ら書き)	拡大文字	録音物(デ イジー版な ど)	読み上げソ フト、アプリ 等	朗読サー ビス
障害者等総数	1463	748	155	444	3	2	24	14	4	6	7
	100.0	51.1	10.6	30.3	0.2	0.1	1.6	1.0	0.3	0.4	0.5
出生時	261	118	17	68	0	1	3	4	2	1	2
	100.0	45.2	6.5	26.1	0.0	0.4	1.1	1.5	0.8	0.4	0.8
～10代	201	120	21	72	3	0	9	2	1	2	1
	100.0	59.7	10.4	35.8	1.5	0.0	4.5	1.0	0.5	1.0	0.5
20代・30代	209	167	36	107	0	0	2	1	0	0	0
	100.0	79.9	17.2	51.2	0.0	0.0	1.0	0.5	0.0	0.0	0.0
40代・50代	295	161	31	102	0	1	2	4	1	3	3
	100.0	54.6	10.5	34.6	0.0	0.3	0.7	1.4	0.3	1.0	1.0
60代以上	356	130	40	67	0	0	6	3	0	0	1
	100.0	36.5	11.2	18.8	0.0	0.0	1.7	0.8	0.0	0.0	0.3

	総数	手話	筆談	要約筆記 通訳や手 話通訳	補聴器・補 聴援助機 器	口話・読話	行動(身振 り・手振り)	会話を文 字化するア プリ	絵文字(ピ クトグラム)	その他	無回答
障害者等総数	1463	36	70	12	64	179	141	7	8	103	426
	100.0	2.5	4.8	0.8	4.4	12.2	9.6	0.5	0.5	7.0	29.1
出生時	261	11	16	3	16	65	51	3	0	28	49
	100.0	4.2	6.1	1.1	6.1	24.9	19.5	1.1	0.0	10.7	18.8
～10代	201	18	21	6	16	34	38	0	2	17	33
	100.0	9.0	10.4	3.0	8.0	16.9	18.9	0.0	1.0	8.5	16.4
20代・30代	209	1	5	1	4	25	13	0	3	14	25
	100.0	0.5	2.4	0.5	1.9	12.0	6.2	0.0	1.4	6.7	12.0
40代・50代	295	2	10	1	7	26	14	3	1	18	85
	100.0	0.7	3.4	0.3	2.4	8.8	4.7	1.0	0.3	6.1	28.8
60代以上	356	1	15	1	16	20	17	1	1	18	164
	100.0	0.3	4.2	0.3	4.5	5.6	4.8	0.3	0.3	5.1	46.1

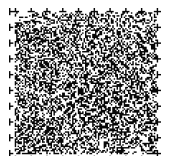


図表 2-86 「学校・施設・職場」でのコミュニケーションや連絡の手段〔複数回答〕(Q27①)

ー情報入手先別

	総数	携帯電話、スマートフォン、タブレット、パソコン	ファックス	メール	点字	指点字	手書き文字(てのひら書き)	拡大文字	録音物(デジタイズ版など)	読み上げソフト、アプリ等	朗読サービス
障害者等総数	1463	748	155	444	3	2	24	14	4	6	7
	100.0	51.1	10.6	30.3	0.2	0.1	1.6	1.0	0.3	0.4	0.5
家族や友人	834	497	107	314	2	2	18	10	4	6	7
	100.0	59.6	12.8	37.6	0.2	0.2	2.2	1.2	0.5	0.7	0.8
学校や職場、施設の人	383	244	63	185	3	2	7	3	3	6	5
	100.0	63.7	16.4	48.3	0.8	0.5	1.8	0.8	0.8	1.6	1.3
ボランティア、ヘルパーなどの支援者	117	49	9	19	2	0	3	2	3	1	5
	100.0	41.9	7.7	16.2	1.7	0.0	2.6	1.7	2.6	0.9	4.3
テレビやラジオ	1054	605	140	370	3	1	19	13	2	5	5
	100.0	57.4	13.3	35.1	0.3	0.1	1.8	1.2	0.2	0.5	0.5
新聞	617	334	99	216	0	1	15	6	0	1	2
	100.0	54.1	16.0	35.0	0.0	0.2	2.4	1.0	0.0	0.2	0.3
区市町村等の広報紙	458	251	93	174	1	1	12	7	1	1	3
	100.0	54.8	20.3	38.0	0.2	0.2	2.6	1.5	0.2	0.2	0.7
障害者団体の会合や機関誌	108	58	18	35	1	0	5	2	1	1	2
	100.0	53.7	16.7	32.4	0.9	0.0	4.6	1.9	0.9	0.9	1.9
インターネット	599	471	106	332	2	2	12	5	2	4	1
	100.0	78.6	17.7	55.4	0.3	0.3	2.0	0.8	0.3	0.7	0.2
SNS	177	155	38	115	1	2	6	2	0	4	0
	100.0	87.6	21.5	65.0	0.6	1.1	3.4	1.1	0.0	2.3	0.0
行政の窓口	88	48	27	34	1	0	3	1	0	0	0
	100.0	54.5	30.7	38.6	1.1	0.0	3.4	1.1	0.0	0.0	0.0
その他	26	12	2	6	0	0	2	0	0	0	0
	100.0	46.2	7.7	23.1	0.0	0.0	7.7	0.0	0.0	0.0	0.0
わからない	29	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	100.0	10.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

	総数	手話	筆談	要約筆記 通訳や手話通訳	補聴器・補聴援助機器	口話・読話	行動(身振り・手振り)	会話を文字化するアプリ	絵文字(ピクトグラム)	その他	無回答
障害者等総数	1463	36	70	12	64	179	141	7	8	103	426
	100.0	2.5	4.8	0.8	4.4	12.2	9.6	0.5	0.5	7.0	29.1
家族や友人	834	24	49	9	43	114	102	6	6	59	182
	100.0	2.9	5.9	1.1	5.2	13.7	12.2	0.7	0.7	7.1	21.8
学校や職場、施設の人	383	13	25	5	20	87	72	5	2	39	28
	100.0	3.4	6.5	1.3	5.2	22.7	18.8	1.3	0.5	10.2	7.3
ボランティア、ヘルパーなどの支援者	117	4	9	1	6	22	27	1	0	15	25
	100.0	3.4	7.7	0.9	5.1	18.8	23.1	0.9	0.0	12.8	21.4
テレビやラジオ	1054	20	46	8	50	120	75	4	7	68	289
	100.0	1.9	4.4	0.8	4.7	11.4	7.1	0.4	0.7	6.5	27.4
新聞	617	16	38	7	39	53	40	5	3	36	194
	100.0	2.6	6.2	1.1	6.3	8.6	6.5	0.8	0.5	5.8	31.4
区市町村等の広報紙	458	13	35	8	27	38	39	5	3	35	133
	100.0	2.8	7.6	1.7	5.9	8.3	8.5	1.1	0.7	7.6	29.0
障害者団体の会合や機関誌	108	7	13	4	1	14	16	2	2	10	26
	100.0	6.5	12.0	3.7	0.9	13.0	14.8	1.9	1.9	9.3	24.1
インターネット	599	19	30	8	27	75	43	6	5	29	89
	100.0	3.2	5.0	1.3	4.5	12.5	7.2	1.0	0.8	4.8	14.9
SNS	177	13	18	5	15	31	24	5	4	4	15
	100.0	7.3	10.2	2.8	8.5	17.5	13.6	2.8	2.3	2.3	8.5
行政の窓口	88	2	4	0	5	8	5	1	1	1	29
	100.0	2.3	4.5	0.0	5.7	9.1	5.7	1.1	1.1	1.1	33.0
その他	26	1	3	0	1	4	5	0	0	4	6
	100.0	3.8	11.5	0.0	3.8	15.4	19.2	0.0	0.0	15.4	23.1
わからない	29	0	0	0	0	2	10	0	0	6	12
	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.9	34.5	0.0	0.0	20.7	41.4



② 「家庭」でのコミュニケーションや連絡の手段

「家庭」でのコミュニケーションや連絡の手段は、「携帯電話、スマートフォン、タブレット、パソコン」が 60.8%、次いで「メール」が 34.9%と高い

「家庭」でのコミュニケーションや連絡の手段は、「学校・施設・職場」と同様「携帯電話、スマートフォン、タブレット、パソコン」が 60.8%と最も高く、次いで「メール」が 34.9%となっている。「携帯電話、スマートフォン、タブレット、パソコン」は、「学校・施設・職場」より、10 ポイント程度高くなっている。

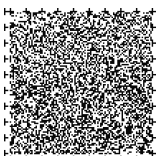
障害別にみると、上位に挙がっているものに大きな違いはみられないものの、それ以外では、身体障害者では「手話」、「筆談」、「補聴器・補聴援助機器」を、知的障害者では「口話・読話」、「行動（身振り・手振り）」を、発達障害と診断されている人では「絵文字（ピクトグラム）」を、高次脳機能障害と診断された人では「会話を文字化するアプリ」を挙げる人の割合が他の障害に比べて高く、障害によって手段が異なっている。

年代別にみると、「学校・施設・職場」と同様上位に挙がっているものに大きな違いはみられないものの、特に 40 代や 50 代では「携帯電話、スマートフォン、タブレット、パソコン」を挙げる人の割合が 7 割強、50 代では「メール」が約 5 割と他の年代に比べて高い。

身体障害者の障害種別にみると、上位の「携帯電話、スマートフォン、タブレット、パソコン」、「メール」は同じものの、それ以外については、視覚では「点字」、「拡大文字」、「録音物（デージー版など）」、「読み上げソフト、アプリ等」、「朗読サービス」が、聴覚では「手話」、「筆談」、「補聴器・補聴援助機器」が、音声機能・言語機能・そしゃく機能では「筆談」、「行動（身振り・手振り）」、「会話を文字化するアプリ」、「絵文字（ピクトグラム）」が、脳原性運動機能では「行動（身振り・手振り）」が、他の身体障害種別に比べて高い。

障害になった時期別にみると、「学校・施設・職場」と同様に上位の「携帯電話、スマートフォン、タブレット、パソコン」、「メール」は同じで、特に 20 代・30 代では、8 割以上が「携帯電話、スマートフォン、タブレット、パソコン」を挙げている。それ以外については、出生時では「口話・読話」、「行動（身振り・手振り）」が、「～10 代」では「手話」が、60 代以上では「補聴器・補聴援助機器」が、他の障害になった時期に比べて高い。

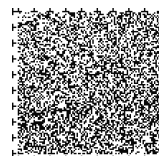
情報入手先別にみると、上位に挙がっているものに大きな違いはみられないものの、それ以外でも「学校・施設・職場」と同様に、「学校や職場、施設の人」や「ボランティア、ヘルパーなどの支援者」は「口話・読話」、「行動（身振り・手振り）」が、「区市町村等の広報紙」や「行政の窓口」は「ファックス」が他に比べて高くなっている。



図表 2-87 「家庭」でのコミュニケーションや連絡の手段〔複数回答〕(Q27②)－障害別

	総数	携帯電話、 スマート フォン、タブ レット、パソ コン	ファックス	メール	点字	指点字	手書き文 字(てのひ ら書き)	拡大文字	録音物(デ イジー版な ど)	読み上げソ フト、アプリ 等	朗読サー ビス
障害者等総数	1463 100.0	889 60.8	143 9.8	511 34.9	5 0.3	1 0.1	19 1.3	19 1.3	7 0.5	11 0.8	10 0.7
身体障害者	914 100.0	506 55.4	95 10.4	293 32.1	5 0.5	1 0.1	14 1.5	17 1.9	7 0.8	11 1.2	10 1.1
知的障害者	362 100.0	162 44.8	15 4.1	74 20.4	1 0.3	0 0.0	4 1.1	1 0.3	1 0.3	2 0.6	3 0.8
精神障害者	241 100.0	151 62.7	19 7.9	87 36.1	0 0.0	0 0.0	6 2.5	2 0.8	0 0.0	1 0.4	3 1.2
自立支援医療受給者	108 100.0	85 78.7	6 5.6	50 46.3	0 0.0	0 0.0	2 1.9	1 0.9	0 0.0	0 0.0	1 0.9
難病医療費助成者	316 100.0	249 78.8	38 12.0	149 47.2	0 0.0	0 0.0	1 0.3	5 1.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0
医療費助成対象外の 難病患者	22 100.0	15 68.2	5 22.7	13 59.1	0 0.0	0 0.0	1 4.5	1 4.5	1 4.5	0 0.0	0 0.0
発達障害と診断	30 100.0	23 76.7	1 3.3	13 43.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
高次脳機能障害と診断	25 100.0	10 40.0	2 8.0	4 16.0	0 0.0	0 0.0	1 4.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
認知症と診断	10 100.0	1 10.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 10.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0

	総数	手話	筆談	要約筆記 通訳や手 話通訳	補聴器・補 聴援助機 器	口話・読話	行動(身振 り・手振り)	会話を文 字化するア プリ	絵文字(ピ クトグラム)	その他	無回答
障害者等総数	1463 100.0	25 1.7	66 4.5	2 0.1	79 5.4	204 13.9	130 8.9	2 0.1	8 0.5	113 7.7	234 16.0
身体障害者	914 100.0	24 2.6	61 6.7	2 0.2	73 8.0	131 14.3	91 10.0	2 0.2	4 0.4	74 8.1	161 17.6
知的障害者	362 100.0	4 1.1	9 2.5	0 0.0	12 3.3	78 21.5	59 16.3	0 0.0	1 0.3	44 12.2	63 17.4
精神障害者	241 100.0	4 1.7	10 4.1	0 0.0	6 2.5	30 12.4	14 5.8	0 0.0	3 1.2	18 7.5	43 17.8
自立支援医療受給者	108 100.0	1 0.9	1 0.9	0 0.0	3 2.8	19 17.6	11 10.2	0 0.0	2 1.9	12 11.1	4 3.7
難病医療費助成者	316 100.0	0 0.0	2 0.6	0 0.0	3 0.9	30 9.5	11 3.5	0 0.0	1 0.3	18 5.7	36 11.4
医療費助成対象外の 難病患者	22 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 9.1	2 9.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	5 22.7
発達障害と診断	30 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3 10.0	6 20.0	2 6.7	0 0.0	2 6.7	3 10.0	2 6.7
高次脳機能障害と診断	25 100.0	0 0.0	3 12.0	0 0.0	0 0.0	3 12.0	4 16.0	1 4.0	0 0.0	4 16.0	7 28.0
認知症と診断	10 100.0	1 10.0	2 20.0	0 0.0	1 10.0	5 50.0	6 60.0	0 0.0	0 0.0	1 10.0	1 10.0

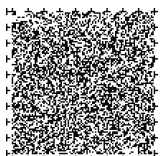


図表 2-88 「家庭」でのコミュニケーションや連絡の手段〔複数回答〕(Q27②)

—年代別—

	総数	携帯電話、 スマート フォン、タブ レット、パソ コン	ファックス	メール	点字	指点字	手書き文 字(てのひ ら書き)	拡大文字	録音物(デ イジー版な ど)	読み上げソ フト、アプリ 等	朗読サー ビス
障害者等総数	1463 100.0	889 60.8	143 9.8	511 34.9	5 0.3	1 0.1	19 1.3	19 1.3	7 0.5	11 0.8	10 0.7
10代	27 100.0	19 70.4	1 3.7	8 29.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
20代	185 100.0	119 64.3	7 3.8	68 36.8	1 0.5	0 0.0	2 1.1	0 0.0	1 0.5	1 0.5	0 0.0
30代	176 100.0	108 61.4	7 4.0	71 40.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 0.6	0 0.0	1 0.6	1 0.6
40代	191 100.0	138 72.3	21 11.0	79 41.4	0 0.0	1 0.5	4 2.1	5 2.6	0 0.0	3 1.6	1 0.5
50代	189 100.0	141 74.6	25 13.2	94 49.7	0 0.0	0 0.0	1 0.5	1 0.5	0 0.0	2 1.1	1 0.5
60代	248 100.0	166 66.9	33 13.3	96 38.7	1 0.4	0 0.0	2 0.8	2 0.8	2 0.8	0 0.0	2 0.8
70代	269 100.0	142 52.8	36 13.4	76 28.3	1 0.4	0 0.0	5 1.9	5 1.9	3 1.1	3 1.1	4 1.5
80代以上	170 100.0	54 31.8	12 7.1	18 10.6	2 1.2	0 0.0	5 2.9	5 2.9	1 0.6	1 0.6	1 0.6

	総数	手話	筆談	要約筆記 通訳や手 話通訳	補聴器・補 聴援助機 器	口話・読話	行動(身振 り・手振り)	会話を文 字化するア プリ	絵文字(ピ クトグラム)	その他	無回答
障害者等総数	1463 100.0	25 1.7	66 4.5	2 0.1	79 5.4	204 13.9	130 8.9	2 0.1	8 0.5	113 7.7	234 16.0
10代	27 100.0	1 3.7	1 3.7	0 0.0	2 7.4	6 22.2	7 25.9	0 0.0	0 0.0	3 11.1	3 11.1
20代	185 100.0	4 2.2	5 2.7	0 0.0	7 3.8	39 21.1	29 15.7	0 0.0	3 1.6	18 9.7	12 6.5
30代	176 100.0	2 1.1	2 1.1	0 0.0	5 2.8	36 20.5	24 13.6	0 0.0	1 0.6	21 11.9	14 8.0
40代	191 100.0	5 2.6	6 3.1	0 0.0	5 2.6	27 14.1	19 9.9	1 0.5	3 1.6	10 5.2	21 11.0
50代	189 100.0	3 1.6	9 4.8	0 0.0	5 2.6	23 12.2	10 5.3	0 0.0	0 0.0	16 8.5	21 11.1
60代	248 100.0	3 1.2	13 5.2	1 0.4	7 2.8	25 10.1	10 4.0	0 0.0	0 0.0	14 5.6	37 14.9
70代	269 100.0	6 2.2	19 7.1	1 0.4	23 8.6	28 10.4	15 5.6	1 0.4	1 0.4	20 7.4	60 22.3
80代以上	170 100.0	1 0.6	11 6.5	0 0.0	25 14.7	19 11.2	16 9.4	0 0.0	0 0.0	11 6.5	61 35.9

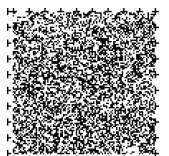


図表 2-89 「家庭」でのコミュニケーションや連絡の手段〔複数回答〕(Q27②)

ー身体障害種別

	総数	携帯電話、 スマートフォン、タブ レット、パソ コン	ファックス	メール	点字	指点字	手書き文 字(てのひ ら書き)	拡大文字	録音物(デ イジー版な ど)	読み上げソ フト、アプリ 等	朗読サー ビス
身体障害者総数	914 100.0	506 55.4	95 10.4	293 32.1	5 0.5	1 0.1	14 1.5	17 1.9	7 0.8	11 1.2	10 1.1
視覚	119 100.0	64 53.8	5 4.2	33 27.7	5 4.2	1 0.8	4 3.4	12 10.1	7 5.9	8 6.7	7 5.9
聴覚	133 100.0	63 47.4	19 14.3	47 35.3	0 0.0	0 0.0	3 2.3	1 0.8	0 0.0	1 0.8	0 0.0
平衡機能	28 100.0	12 42.9	1 3.6	4 14.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
音声機能・言語機能・ そしゃく機能	93 100.0	30 32.3	5 5.4	22 23.7	0 0.0	1 1.1	5 5.4	1 1.1	0 0.0	1 1.1	2 2.2
上肢	175 100.0	82 46.9	14 8.0	47 26.9	0 0.0	0 0.0	3 1.7	1 0.6	0 0.0	0 0.0	1 0.6
下肢	261 100.0	134 51.3	25 9.6	75 28.7	0 0.0	0 0.0	1 0.4	2 0.8	0 0.0	2 0.8	2 0.8
体幹	105 100.0	38 36.2	10 9.5	28 26.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 1.9	0 0.0	0 0.0	2 1.9
脳原性運動機能	72 100.0	29 40.3	9 12.5	17 23.6	0 0.0	0 0.0	1 1.4	0 0.0	0 0.0	1 1.4	2 2.8
内部障害	259 100.0	177 68.3	31 12.0	92 35.5	0 0.0	0 0.0	1 0.4	1 0.4	0 0.0	0 0.0	1 0.4

	総数	手話	筆談	要約筆記 通訳や手 話通訳	補聴器・補 聴援助機 器	口話・読話	行動(身振 り・手振り)	会話を文 字化するア プリ	絵文字(ピ クトグラム)	その他	無回答
身体障害者総数	914 100.0	24 2.6	61 6.7	2 0.2	73 8.0	131 14.3	91 10.0	2 0.2	4 0.4	74 8.1	161 17.6
視覚	119 100.0	0 0.0	2 1.7	0 0.0	5 4.2	17 14.3	5 4.2	1 0.8	1 0.8	12 10.1	21 17.6
聴覚	133 100.0	23 17.3	29 21.8	2 1.5	59 44.4	32 24.1	20 15.0	0 0.0	0 0.0	5 3.8	16 12.0
平衡機能	28 100.0	1 3.6	1 3.6	0 0.0	0 0.0	6 21.4	6 21.4	0 0.0	0 0.0	3 10.7	6 21.4
音声機能・言語機能・ そしゃく機能	93 100.0	1 1.1	25 26.9	1 1.1	2 2.2	18 19.4	27 29.0	2 2.2	1 1.1	14 15.1	10 10.8
上肢	175 100.0	0 0.0	5 2.9	0 0.0	4 2.3	36 20.6	30 17.1	0 0.0	1 0.6	20 11.4	32 18.3
下肢	261 100.0	0 0.0	3 1.1	0 0.0	6 2.3	41 15.7	36 13.8	0 0.0	1 0.4	24 9.2	55 21.1
体幹	105 100.0	0 0.0	2 1.9	0 0.0	2 1.9	18 17.1	20 19.0	0 0.0	0 0.0	16 15.2	25 23.8
脳原性運動機能	72 100.0	1 1.4	0 0.0	0 0.0	4 5.6	19 26.4	23 31.9	0 0.0	0 0.0	11 15.3	9 12.5
内部障害	259 100.0	0 0.0	7 2.7	0 0.0	4 1.5	22 8.5	11 4.2	0 0.0	0 0.0	14 5.4	48 18.5

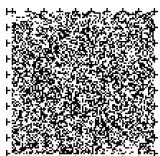


図表 2-90 「家庭」でのコミュニケーションや連絡の手段〔複数回答〕(Q27②)

－障害になった時期別

	総数	携帯電話、スマートフォン、タブレット、パソコン	ファックス	メール	点字	指点字	手書き文字(てのひら書き)	拡大文字	録音物(デジタイズ版など)	読み上げソフト、アプリ等	朗読サービス
障害者等総数	1463	889	143	511	5	1	19	19	7	11	10
	100.0	60.8	9.8	34.9	0.3	0.1	1.3	1.3	0.5	0.8	0.7
出生時	261	126	16	71	0	0	4	5	1	2	2
	100.0	48.3	6.1	27.2	0.0	0.0	1.5	1.9	0.4	0.8	0.8
～10代	201	123	19	75	3	0	4	1	3	4	3
	100.0	61.2	9.5	37.3	1.5	0.0	2.0	0.5	1.5	2.0	1.5
20代・30代	209	172	23	107	1	0	3	2	0	0	0
	100.0	82.3	11.0	51.2	0.5	0.0	1.4	1.0	0.0	0.0	0.0
40代・50代	295	202	34	131	1	1	2	3	2	4	4
	100.0	68.5	11.5	44.4	0.3	0.3	0.7	1.0	0.7	1.4	1.4
60代以上	356	193	41	92	0	0	5	8	1	1	1
	100.0	54.2	11.5	25.8	0.0	0.0	1.4	2.2	0.3	0.3	0.3

	総数	手話	筆談	要約筆記通訳や手話通訳	補聴器・補聴援助機器	口話・読話	行動(身振り・手振り)	会話を文字化するアプリ	絵文字(ピクトグラム)	その他	無回答
障害者等総数	1463	25	66	2	79	204	130	2	8	113	234
	100.0	1.7	4.5	0.1	5.4	13.9	8.9	0.1	0.5	7.7	16.0
出生時	261	11	10	0	14	66	46	0	1	25	39
	100.0	4.2	3.8	0.0	5.4	25.3	17.6	0.0	0.4	9.6	14.9
～10代	201	10	14	1	15	42	31	0	2	21	19
	100.0	5.0	7.0	0.5	7.5	20.9	15.4	0.0	1.0	10.4	9.5
20代・30代	209	0	4	0	3	16	10	0	2	17	12
	100.0	0.0	1.9	0.0	1.4	7.7	4.8	0.0	1.0	8.1	5.7
40代・50代	295	2	14	1	11	33	14	1	1	21	41
	100.0	0.7	4.7	0.3	3.7	11.2	4.7	0.3	0.3	7.1	13.9
60代以上	356	1	21	0	27	34	22	1	1	24	77
	100.0	0.3	5.9	0.0	7.6	9.6	6.2	0.3	0.3	6.7	21.6

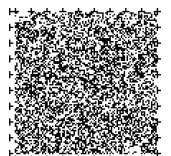


図表 2-91 「家庭」でのコミュニケーションや連絡の手段〔複数回答〕(Q27②)

ー情報入手先別

	総数	携帯電話、 スマート フォン、タブ レット、パソ コン	ファックス	メール	点字	指点字	手書き文 字(てのひ ら書き)	拡大文字	録音物(デ イジー版な ど)	読み上げソ フト、アプリ 等	朗読サー ビス
障害者等総数	1463	889	143	511	5	1	19	19	7	11	10
	100.0	60.8	9.8	34.9	0.3	0.1	1.3	1.3	0.5	0.8	0.7
家族や友人	834	580	104	364	3	1	13	14	6	9	10
	100.0	69.5	12.5	43.6	0.4	0.1	1.6	1.7	0.7	1.1	1.2
学校や職場、施設の人	383	243	38	161	2	1	5	3	4	7	6
	100.0	63.4	9.9	42.0	0.5	0.3	1.3	0.8	1.0	1.8	1.6
ボランティア、ヘルパー などの支援者	117	59	13	28	4	0	6	2	6	4	6
	100.0	50.4	11.1	23.9	3.4	0.0	5.1	1.7	5.1	3.4	5.1
テレビやラジオ	1054	717	127	432	5	1	17	17	6	9	8
	100.0	68.0	12.0	41.0	0.5	0.1	1.6	1.6	0.6	0.9	0.8
新聞	617	417	101	264	0	1	15	9	1	2	2
	100.0	67.6	16.4	42.8	0.0	0.2	2.4	1.5	0.2	0.3	0.3
区市町村等の広報紙	458	326	93	223	3	1	10	8	4	6	4
	100.0	71.2	20.3	48.7	0.7	0.2	2.2	1.7	0.9	1.3	0.9
障害者団体の会合や 機関誌	108	68	21	48	3	0	4	2	2	2	3
	100.0	63.0	19.4	44.4	2.8	0.0	3.7	1.9	1.9	1.9	2.8
インターネット	599	510	78	354	3	1	8	5	3	8	3
	100.0	85.1	13.0	59.1	0.5	0.2	1.3	0.8	0.5	1.3	0.5
SNS	177	160	27	121	1	1	2	1	1	3	0
	100.0	90.4	15.3	68.4	0.6	0.6	1.1	0.6	0.6	1.7	0.0
行政の窓口	88	63	23	44	0	0	2	2	1	2	0
	100.0	71.6	26.1	50.0	0.0	0.0	2.3	2.3	1.1	2.3	0.0
その他	26	13	6	7	1	0	2	0	1	0	1
	100.0	50.0	23.1	26.9	3.8	0.0	7.7	0.0	3.8	0.0	3.8
わからない	29	6	0	1	0	0	0	0	0	0	0
	100.0	20.7	0.0	3.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

	総数	手話	筆談	要約筆記 通訳や手 話通訳	補聴器・補 聴援助機 器	口話・読話	行動(身振 り・手振り)	会話を文 字化するア プリ	絵文字(ピ クトグラム)	その他	無回答
障害者等総数	1463	25	66	2	79	204	130	2	8	113	234
	100.0	1.7	4.5	0.1	5.4	13.9	8.9	0.1	0.5	7.7	16.0
家族や友人	834	18	37	0	48	134	94	2	7	66	61
	100.0	2.2	4.4	0.0	5.8	16.1	11.3	0.2	0.8	7.9	7.3
学校や職場、施設の人	383	7	16	0	19	83	63	1	3	37	29
	100.0	1.8	4.2	0.0	5.0	21.7	16.4	0.3	0.8	9.7	7.6
ボランティア、ヘルパー などの支援者	117	2	6	0	8	24	24	1	0	14	13
	100.0	1.7	5.1	0.0	6.8	20.5	20.5	0.9	0.0	12.0	11.1
テレビやラジオ	1054	14	48	1	65	143	71	2	8	81	126
	100.0	1.3	4.6	0.1	6.2	13.6	6.7	0.2	0.8	7.7	12.0
新聞	617	11	39	1	51	71	39	2	3	44	78
	100.0	1.8	6.3	0.2	8.3	11.5	6.3	0.3	0.5	7.1	12.6
区市町村等の広報紙	458	14	29	1	34	50	33	2	3	43	39
	100.0	3.1	6.3	0.2	7.4	10.9	7.2	0.4	0.7	9.4	8.5
障害者団体の会合や 機関誌	108	6	10	1	2	11	13	1	1	8	9
	100.0	5.6	9.3	0.9	1.9	10.2	12.0	0.9	0.9	7.4	8.3
インターネット	599	14	19	1	25	78	37	1	5	34	25
	100.0	2.3	3.2	0.2	4.2	13.0	6.2	0.2	0.8	5.7	4.2
SNS	177	9	12	1	13	31	18	1	4	4	2
	100.0	5.1	6.8	0.6	7.3	17.5	10.2	0.6	2.3	2.3	1.1
行政の窓口	88	1	3	0	6	7	6	0	1	7	9
	100.0	1.1	3.4	0.0	6.8	8.0	6.8	0.0	1.1	8.0	10.2
その他	26	1	5	0	2	3	6	0	0	6	2
	100.0	3.8	19.2	0.0	7.7	11.5	23.1	0.0	0.0	23.1	7.7
わからない	29	0	0	0	1	2	9	0	0	5	10
	100.0	0.0	0.0	0.0	3.4	6.9	31.0	0.0	0.0	17.2	34.5



③ 「その他の場所（駅やまちなど）」でのコミュニケーションや連絡の手段

「その他の場所（駅やまちなど）」でのコミュニケーションや連絡の手段は、「携帯電話、スマートフォン、タブレット、パソコン」が 52.3%、次いで「メール」が 23.9%と高い

「その他の場所（駅やまちなど）」でのコミュニケーションや連絡の手段も、「学校・施設・職場」、「家庭」と同様、「携帯電話、スマートフォン、タブレット、パソコン」が 52.3%と最も高く、次いで「メール」が 23.9%となっている。

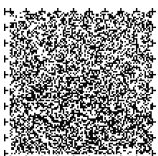
障害別にみると、上位に挙がっているものに大きな違いはみられないものの、それ以外では、身体障害者では「手話」、「筆談」、「補聴器・補聴援助機器」を、知的障害者では「口話・読話」、「行動（身振り・手振り）」を挙げる人の割合が他の障害に比べて高く、障害によって手段が異なっている。

年代別にみると、「学校・施設・職場」や「家庭」と同様上位に挙がっているものに大きな違いはみられないものの、特に 40 代や 50 代では「携帯電話、スマートフォン、タブレット、パソコン」を挙げる人の割合が 7 割、50 代では「メール」が約 3.5 割と他の年代に比べて高い。

身体障害者の障害種別にみると、上位の「携帯電話、スマートフォン、タブレット、パソコン」、「メール」は同じものの、それ以外については身体障害種別によって違いがみられ、視覚では「点字」、「拡大文字」、「読み上げソフト、アプリ等」、「朗読サービス」が、聴覚では「手話」、「筆談」、「要約筆記通訳や手話通訳」、「補聴器・補聴援助機器」が、音声機能・言語機能・そしゃく機能では「指点字」、「筆談」、「行動（身振り・手振り）」が、脳原性運動機能では「行動（身振り・手振り）」が、他の身体障害種別に比べて高い。

障害になった時期別にみると、「学校・施設・職場」、「家庭」と同様に上位の「携帯電話、スマートフォン、タブレット、パソコン」、「メール」は同じで、特に 20 代・30 代では、8 割以上が「携帯電話、スマートフォン、タブレット、パソコン」を挙げている。それ以外については障害になった時期別によってやや違いがみられ、出生時では「口話・読話」、「行動（身振り・手振り）」が、「～10 代」では「点字」、「手話」が、60 代以上では「補聴器・補聴援助機器」が、他の障害になった年代に比べて高い。

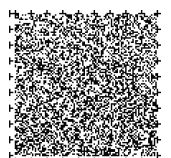
情報入手先別にみると、上位に挙がっているものやそれ以外でも「学校・施設・職場」や「家庭」ほど違いがみられないものの、「学校や職場、施設の人」や「ボランティア、ヘルパーなどの支援者」は「口話・読話」、「行動（身振り・手振り）」が他に比べて高くなっている。



図表 2-92 「その他の場所（駅やまちなど）」でのコミュニケーションや連絡の手段〔複数回答〕
(Q27③)－障害別

	総数	携帯電話、スマートフォン、タブレット、パソコン	ファックス	メール	点字	指点字	手書き文字（てのひら書き）	拡大文字	録音物（オーディオ版など）	読み上げソフト、アプリ等	朗読サービス
障害者等総数	1463 100.0	765 52.3	31 2.1	349 23.9	4 0.3	2 0.1	12 0.8	17 1.2	2 0.1	6 0.4	4 0.3
身体障害者	914 100.0	430 47.0	16 1.8	196 21.4	4 0.4	2 0.2	10 1.1	15 1.6	1 0.1	5 0.5	3 0.3
知的障害者	362 100.0	134 37.0	1 0.3	56 15.5	0 0.0	0 0.0	2 0.6	1 0.3	0 0.0	2 0.6	1 0.3
精神障害者	241 100.0	130 53.9	4 1.7	66 27.4	0 0.0	0 0.0	1 0.4	4 1.7	0 0.0	3 1.2	1 0.4
自立支援医療受給者	108 100.0	77 71.3	1 0.9	36 33.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 0.9	0 0.0	1 0.9	0 0.0
難病医療費助成者	316 100.0	225 71.2	13 4.1	101 32.0	1 0.3	0 0.0	1 0.3	2 0.6	2 0.6	0 0.0	1 0.3
医療費助成対象外の難病患者	22 100.0	12 54.5	1 4.5	8 36.4	0 0.0	0 0.0	1 4.5	1 4.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0
発達障害と診断	30 100.0	21 70.0	2 6.7	10 33.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 6.7	0 0.0	0 0.0	1 3.3
高次脳機能障害と診断	25 100.0	9 36.0	0 0.0	3 12.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
認知症と診断	10 100.0	1 10.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0

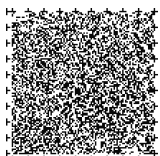
	総数	手話	筆談	要約筆記 通訳や手話通訳	補聴器・補聴援助機器	口話・読話	行動（身振り・手振り）	会話を文字化するアプリ	絵文字（ピクトグラム）	その他	無回答
障害者等総数	1463 100.0	20 1.4	67 4.6	5 0.3	70 4.8	175 12.0	101 6.9	5 0.3	13 0.9	108 7.4	381 26.0
身体障害者	914 100.0	19 2.1	63 6.9	5 0.5	66 7.2	112 12.3	75 8.2	4 0.4	6 0.7	72 7.9	256 28.0
知的障害者	362 100.0	2 0.6	8 2.2	0 0.0	11 3.0	56 15.5	33 9.1	0 0.0	3 0.8	46 12.7	106 29.3
精神障害者	241 100.0	2 0.8	9 3.7	0 0.0	5 2.1	29 12.0	12 5.0	1 0.4	2 0.8	19 7.9	67 27.8
自立支援医療受給者	108 100.0	1 0.9	1 0.9	0 0.0	3 2.8	20 18.5	11 10.2	1 0.9	0 0.0	12 11.1	10 9.3
難病医療費助成者	316 100.0	0 0.0	1 0.3	0 0.0	2 0.6	24 7.6	10 3.2	0 0.0	3 0.9	14 4.4	61 19.3
医療費助成対象外の難病患者	22 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 9.1	2 9.1	0 0.0	0 0.0	1 4.5	0 0.0	8 36.4
発達障害と診断	30 100.0	0 0.0	1 3.3	0 0.0	3 10.0	5 16.7	2 6.7	0 0.0	0 0.0	4 13.3	2 6.7
高次脳機能障害と診断	25 100.0	0 0.0	2 8.0	0 0.0	0 0.0	3 12.0	3 12.0	0 0.0	0 0.0	5 20.0	8 32.0
認知症と診断	10 100.0	0 0.0	2 20.0	0 0.0	1 10.0	4 40.0	5 50.0	0 0.0	0 0.0	1 10.0	1 10.0



図表 2-93 「その他の場所（駅やまちなど）」でのコミュニケーションや連絡の手段〔複数回答〕
(Q27③) 一年代別

	総数	携帯電話、スマートフォン、タブレット、パソコン	ファックス	メール	点字	指点字	手書き文字（てのひら書き）	拡大文字	録音物（デジタル版など）	読み上げソフト、アプリ等	朗読サービス
障害者等総数	1463 100.0	765 52.3	31 2.1	349 23.9	4 0.3	2 0.1	12 0.8	17 1.2	2 0.1	6 0.4	4 0.3
10代	27 100.0	15 55.6	0 0.0	5 18.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
20代	185 100.0	106 57.3	3 1.6	45 24.3	1 0.5	0 0.0	0 0.0	2 1.1	0 0.0	2 1.1	0 0.0
30代	176 100.0	100 56.8	5 2.8	55 31.3	0 0.0	0 0.0	2 1.1	2 1.1	0 0.0	1 0.6	0 0.0
40代	191 100.0	133 69.6	4 2.1	59 30.9	0 0.0	1 0.5	4 2.1	4 2.1	1 0.5	2 1.0	0 0.0
50代	189 100.0	134 70.9	2 1.1	67 35.4	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
60代	248 100.0	140 56.5	7 2.8	66 26.6	1 0.4	0 0.0	2 0.8	1 0.4	0 0.0	0 0.0	0 0.0
70代	269 100.0	100 37.2	8 3.0	41 15.2	2 0.7	1 0.4	3 1.1	3 1.1	1 0.4	1 0.4	2 0.7
80代以上	170 100.0	36 21.2	1 0.6	10 5.9	0 0.0	0 0.0	1 0.6	4 2.4	0 0.0	0 0.0	2 1.2

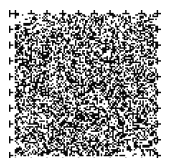
	総数	手話	筆談	要約筆記通訳や手話通訳	補聴器・補聴援助機器	口話・読話	行動（身振り・手振り）	会話を文字化するアプリ	絵文字（ピクトグラム）	その他	無回答
障害者等総数	1463 100.0	20 1.4	67 4.6	5 0.3	70 4.8	175 12.0	101 6.9	5 0.3	13 0.9	108 7.4	381 26.0
10代	27 100.0	0 0.0	2 7.4	0 0.0	2 7.4	6 22.2	5 18.5	0 0.0	0 0.0	3 11.1	3 11.1
20代	185 100.0	2 1.1	4 2.2	0 0.0	9 4.9	28 15.1	19 10.3	1 0.5	3 1.6	19 10.3	32 17.3
30代	176 100.0	3 1.7	6 3.4	1 0.6	4 2.3	31 17.6	15 8.5	0 0.0	2 1.1	20 11.4	29 16.5
40代	191 100.0	5 2.6	11 5.8	2 1.0	4 2.1	26 13.6	20 10.5	2 1.0	2 1.0	13 6.8	28 14.7
50代	189 100.0	3 1.6	6 3.2	0 0.0	5 2.6	21 11.1	9 4.8	0 0.0	2 1.1	13 6.9	29 15.3
60代	248 100.0	4 1.6	13 5.2	0 0.0	7 2.8	23 9.3	7 2.8	1 0.4	2 0.8	14 5.6	66 26.6
70代	269 100.0	3 1.1	17 6.3	2 0.7	18 6.7	26 9.7	12 4.5	0 0.0	2 0.7	13 4.8	110 40.9
80代以上	170 100.0	0 0.0	8 4.7	0 0.0	21 12.4	13 7.6	14 8.2	1 0.6	0 0.0	13 7.6	79 46.5



図表 2-94 「その他の場所（駅やまちなど）」でのコミュニケーションや連絡の手段〔複数回答〕
(Q27③) - 身体障害種別

	総数	携帯電話、スマートフォン、タブレット、パソコン	ファックス	メール	点字	指点字	手書き文字（てのひら書き）	拡大文字	録音物（デジタル版など）	読み上げソフト、アプリ等	朗読サービス
身体障害者総数	914 100.0	430 47.0	16 1.8	196 21.4	4 0.4	2 0.2	10 1.1	15 1.6	1 0.1	5 0.5	3 0.3
視覚	119 100.0	54 45.4	1 0.8	22 18.5	3 2.5	1 0.8	2 1.7	9 7.6	0 0.0	3 2.5	2 1.7
聴覚	133 100.0	52 39.1	4 3.0	32 24.1	0 0.0	0 0.0	5 3.8	2 1.5	0 0.0	1 0.8	0 0.0
平衡機能	28 100.0	8 28.6	1 3.6	2 7.1	0 0.0	0 0.0	1 3.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
音声機能・言語機能・そしゃく機能	93 100.0	24 25.8	1 1.1	17 18.3	0 0.0	2 2.2	3 3.2	1 1.1	0 0.0	1 1.1	0 0.0
上肢	175 100.0	67 38.3	3 1.7	31 17.7	0 0.0	0 0.0	2 1.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
下肢	261 100.0	115 44.1	2 0.8	49 18.8	0 0.0	0 0.0	1 0.4	1 0.4	0 0.0	1 0.4	1 0.4
体幹	105 100.0	34 32.4	2 1.9	13 12.4	1 1.0	0 0.0	1 1.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
脳原性運動機能	72 100.0	28 38.9	2 2.8	11 15.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 1.4	0 0.0
内部障害	259 100.0	151 58.3	7 2.7	63 24.3	1 0.4	0 0.0	1 0.4	2 0.8	1 0.4	0 0.0	1 0.4

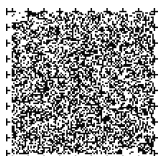
	総数	手話	筆談	要約筆記 通訳や手話通訳	補聴器・補聴援助機器	口話・読話	行動（身振り・手振り）	会話を文字化するアプリ	絵文字（ピクトグラム）	その他	無回答
身体障害者総数	914 100.0	19 2.1	63 6.9	5 0.5	66 7.2	112 12.3	75 8.2	4 0.4	6 0.7	72 7.9	256 28.0
視覚	119 100.0	0 0.0	1 0.8	0 0.0	3 2.5	14 11.8	5 4.2	2 1.7	1 0.8	12 10.1	36 30.3
聴覚	133 100.0	17 12.8	39 29.3	5 3.8	58 43.6	26 19.5	22 16.5	1 0.8	0 0.0	3 2.3	21 15.8
平衡機能	28 100.0	0 0.0	1 3.6	0 0.0	0 0.0	4 14.3	3 10.7	0 0.0	0 0.0	3 10.7	12 42.9
音声機能・言語機能・そしゃく機能	93 100.0	2 2.2	23 24.7	0 0.0	2 2.2	15 16.1	21 22.6	2 2.2	1 1.1	18 19.4	18 19.4
上肢	175 100.0	1 0.6	5 2.9	0 0.0	4 2.3	29 16.6	17 9.7	1 0.6	0 0.0	23 13.1	52 29.7
下肢	261 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3 1.1	33 12.6	20 7.7	1 0.4	2 0.8	27 10.3	85 32.6
体幹	105 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 1.0	14 13.3	7 6.7	1 1.0	0 0.0	16 15.2	39 37.1
脳原性運動機能	72 100.0	0 0.0	1 1.4	0 0.0	4 5.6	16 22.2	14 19.4	1 1.4	0 0.0	9 12.5	20 27.8
内部障害	259 100.0	0 0.0	2 0.8	0 0.0	4 1.5	21 8.1	10 3.9	0 0.0	3 1.2	12 4.6	74 28.6



図表 2-95 「その他の場所（駅やまちなど）」でのコミュニケーションや連絡の手段〔複数回答〕
(Q27③)－障害になった時期別

	総数	携帯電話、スマートフォン、タブレット、パソコン	ファックス	メール	点字	指点字	手書き文字（てのひら書き）	拡大文字	録音物（デジタイズ版など）	読み上げソフト、アプリ等	朗読サービス
障害者等総数	1463 100.0	765 52.3	31 2.1	349 23.9	4 0.3	2 0.1	12 0.8	17 1.2	2 0.1	6 0.4	4 0.3
出生時	261 100.0	111 42.5	3 1.1	47 18.0	0 0.0	0 0.0	3 1.1	4 1.5	0 0.0	2 0.8	0 0.0
～10代	201 100.0	100 49.8	1 0.5	53 26.4	3 1.5	0 0.0	4 2.0	2 1.0	0 0.0	2 1.0	0 0.0
20代・30代	209 100.0	169 80.9	10 4.8	79 37.8	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3 1.4	0 0.0	0 0.0	0 0.0
40代・50代	295 100.0	190 64.4	3 1.0	86 29.2	0 0.0	1 0.3	2 0.7	3 1.0	0 0.0	2 0.7	1 0.3
60代以上	356 100.0	140 39.3	10 2.8	58 16.3	1 0.3	1 0.3	2 0.6	5 1.4	1 0.3	0 0.0	3 0.8

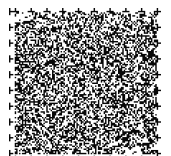
	総数	手話	筆談	要約筆記通訳や手話通訳	補聴器・補聴援助機器	口話・読話	行動（身振り・手振り）	会話を文字化するアプリ	絵文字（ピクトグラム）	その他	無回答
障害者等総数	1463 100.0	20 1.4	67 4.6	5 0.3	70 4.8	175 12.0	101 6.9	5 0.3	13 0.9	108 7.4	381 26.0
出生時	261 100.0	5 1.9	14 5.4	2 0.8	15 5.7	51 19.5	32 12.3	1 0.4	2 0.8	26 10.0	67 25.7
～10代	201 100.0	10 5.0	18 9.0	2 1.0	14 7.0	32 15.9	21 10.4	1 0.5	2 1.0	26 12.9	39 19.4
20代・30代	209 100.0	1 0.5	3 1.4	0 0.0	3 1.4	23 11.0	11 5.3	0 0.0	1 0.5	10 4.8	21 10.0
40代・50代	295 100.0	3 1.0	13 4.4	1 0.3	8 2.7	26 8.8	10 3.4	2 0.7	4 1.4	22 7.5	55 18.6
60代以上	356 100.0	0 0.0	16 4.5	0 0.0	24 6.7	31 8.7	20 5.6	0 0.0	3 0.8	20 5.6	133 37.4



図表 2-96 「その他の場所（駅やまちなど）」でのコミュニケーションや連絡の手段〔複数回答〕
(Q27③) ー情報入手先別

	総数	携帯電話、 スマート フォン、タブ レット、パソ コン	ファックス	メール	点字	指点字	手書き文 字(てのひ ら書き)	拡大文字	録音物(デ イジー版な ど)	読み上げソ フト、アプリ 等	朗読サー ビス
障害者等総数	1463	765	31	349	4	2	12	17	2	6	4
	100.0	52.3	2.1	23.9	0.3	0.1	0.8	1.2	0.1	0.4	0.3
家族や友人	834	513	21	248	3	1	9	12	2	6	2
	100.0	61.5	2.5	29.7	0.4	0.1	1.1	1.4	0.2	0.7	0.2
学校や職場、施設の人	383	223	12	121	2	1	5	2	1	4	0
	100.0	58.2	3.1	31.6	0.5	0.3	1.3	0.5	0.3	1.0	0.0
ボランティア、ヘルパー などの支援者	117	48	4	15	2	0	3	2	0	1	0
	100.0	41.0	3.4	12.8	1.7	0.0	2.6	1.7	0.0	0.9	0.0
テレビやラジオ	1054	625	30	292	4	2	9	14	2	4	3
	100.0	59.3	2.8	27.7	0.4	0.2	0.9	1.3	0.2	0.4	0.3
新聞	617	354	22	174	1	2	10	12	2	1	3
	100.0	57.4	3.6	28.2	0.2	0.3	1.6	1.9	0.3	0.2	0.5
区市町村等の広報紙	458	279	21	151	3	2	6	10	1	1	2
	100.0	60.9	4.6	33.0	0.7	0.4	1.3	2.2	0.2	0.2	0.4
障害者団体の会合や 機関誌	108	61	3	28	2	0	3	1	1	1	1
	100.0	56.5	2.8	25.9	1.9	0.0	2.8	0.9	0.9	0.9	0.9
インターネット	599	476	23	254	4	1	7	5	1	4	1
	100.0	79.5	3.8	42.4	0.7	0.2	1.2	0.8	0.2	0.7	0.2
SNS	177	157	10	94	1	1	5	2	0	4	0
	100.0	88.7	5.6	53.1	0.6	0.6	2.8	1.1	0.0	2.3	0.0
行政の窓口	88	56	6	26	0	0	1	4	0	0	0
	100.0	63.6	6.8	29.5	0.0	0.0	1.1	4.5	0.0	0.0	0.0
その他	26	11	0	7	1	0	0	0	0	0	0
	100.0	42.3	0.0	26.9	3.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
わからない	29	4	0	1	0	0	0	0	0	0	0
	100.0	13.8	0.0	3.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

	総数	手話	筆談	要約筆記 通訳や手 話通訳	補聴器・補 聴援助機 器	口話・読話	行動(身振 り・手振り)	会話を文 字化するア プリ	絵文字(ピ クトグラム)	その他	無回答
障害者等総数	1463	20	67	5	70	175	101	5	13	108	381
	100.0	1.4	4.6	0.3	4.8	12.0	6.9	0.3	0.9	7.4	26.0
家族や友人	834	11	37	4	44	108	73	3	11	61	156
	100.0	1.3	4.4	0.5	5.3	12.9	8.8	0.4	1.3	7.3	18.7
学校や職場、施設の人	383	6	16	3	19	76	49	2	5	36	59
	100.0	1.6	4.2	0.8	5.0	19.8	12.8	0.5	1.3	9.4	15.4
ボランティア、ヘルパー などの支援者	117	1	5	0	5	20	19	0	1	12	31
	100.0	0.9	4.3	0.0	4.3	17.1	16.2	0.0	0.9	10.3	26.5
テレビやラジオ	1054	11	47	4	56	126	61	2	11	72	226
	100.0	1.0	4.5	0.4	5.3	12.0	5.8	0.2	1.0	6.8	21.4
新聞	617	11	37	5	46	67	37	2	5	37	144
	100.0	1.8	6.0	0.8	7.5	10.9	6.0	0.3	0.8	6.0	23.3
区市町村等の広報紙	458	11	33	3	31	50	38	1	5	38	86
	100.0	2.4	7.2	0.7	6.8	10.9	8.3	0.2	1.1	8.3	18.8
障害者団体の会合や 機関誌	108	3	11	3	2	8	11	1	0	11	23
	100.0	2.8	10.2	2.8	1.9	7.4	10.2	0.9	0.0	10.2	21.3
インターネット	599	12	27	4	27	75	36	3	8	32	53
	100.0	2.0	4.5	0.7	4.5	12.5	6.0	0.5	1.3	5.3	8.8
SNS	177	11	15	3	14	30	23	2	5	6	7
	100.0	6.2	8.5	1.7	7.9	16.9	13.0	1.1	2.8	3.4	4.0
行政の窓口	88	2	6	0	6	9	7	0	3	7	17
	100.0	2.3	6.8	0.0	6.8	10.2	8.0	0.0	3.4	8.0	19.3
その他	26	1	4	0	2	5	4	0	0	3	4
	100.0	3.8	15.4	0.0	7.7	19.2	15.4	0.0	0.0	11.5	15.4
わからない	29	0	0	0	0	1	4	0	0	6	16
	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.4	13.8	0.0	0.0	20.7	55.2



(5) 情報入手やコミュニケーションをとる上で必要な配慮

情報入手やコミュニケーションをとる上で必要な配慮として、「必要な情報をわかりやすく説明してくれる人がほしい」、「誰もが読みやすい文字などを使用してほしい」が各2割強と高い

情報入手やコミュニケーションをとる上で必要な配慮としては、「必要な情報をわかりやすく説明してくれる人がほしい」が22.4%、「誰もが読みやすい文字などを使用してほしい」が22.2%となっている。一方、「特にない」は23.5%となっている。

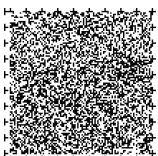
障害別にみると、上位に挙がっているものに大きな違いはみられないものの、それ以外では、身体障害者では「手話、筆談で対応できる人を増やしてほしい」が、知的障害者では「わかりやすい文言・表現・絵文字（ピクトグラム）を使用してほしい」、「動画などでわかる資料を作成してほしい」が、発達障害と診断されている人では「SNS（ツイッター、フェイスブックなど）で発信してほしい」、「動画などでわかる資料を作成してほしい」が他の障害に比べて高くなっている。

年代別にみると、上位に挙がっているものに大きな違いはみられないものの、それ以外では、10代では「SNS（ツイッター、フェイスブックなど）で発信してほしい」、「動画などでわかる資料を作成してほしい」が、20代では「SNS（ツイッター、フェイスブックなど）で発信してほしい」、「わかりやすい文言・表現・絵文字（ピクトグラム）を使用してほしい」、「動画などでわかる資料を作成してほしい」を挙げる人の割合が高い。

身体障害者の障害種別にみると、上位に挙がっているものに大きな違いはみられないものの、それ以外では、視覚は「それぞれの障害者が情報入手できるようさまざまな媒体（音声、点字、テキストデータなど）で提供してほしい」、「誰もが読みやすい文字などを使用してほしい」、「パンフレットやホームページなどを色の使い方に配慮して作成してほしい」が、聴覚は「問い合わせ先は電話番号だけでなく、ファックスやメールアドレスを載せてほしい」、「SNS（ツイッター、フェイスブックなど）で発信してほしい」、「手話、筆談で対応できる人を増やしてほしい」が、脳原性運動機能は「動画などでわかる資料を作成してほしい」が他の身体障害種別に比べて高い。

障害になった時期別にみると、上位に挙がっているものに大きな違いはみられないものの、それ以外では、出生時は「わかりやすい文言・表現・絵文字（ピクトグラム）を使用してほしい」、「動画などでわかる資料を作成してほしい」を、20代・30代は「SNS（ツイッター、フェイスブックなど）で発信してほしい」を挙げる割合が他に比べて高い。

仕事の有無別にみると、上位に挙がっているものに大きな違いはみられないものの、「仕事をしている」人は全体的にさまざまな配慮を挙げる割合が高く、特に「問い合わせ先は電話番号だけでなく、ファックスやメールアドレスを載せてほしい」、「SNSで発信してほしい」は、他に比べて高い。

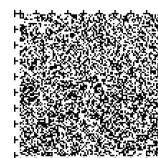


図表 2-97 情報入手やコミュニケーションをとる上で必要な配慮〔3つまで〕(Q28)－障害別

	総数	体(音声、点字、テキストデータなど)で提供してほしい	それぞれの障害者が情報入手できるようさまざまな媒体(音声、点字、テキストデータなど)で提供してほしい	誰もが読みやすい文字などを使用してほしい	誰かが読みやすい文字などを使用してほしい	パンフレットやホームページなどを色の使い方に配慮して作成してほしい	問い合わせ先は電話番号だけでなく、ファックスやメールアドレスを載せてほしい	SNS(ツイッター、フェイスブックなどで発信してほしい)	手話、筆談で対応できる人を増やしてほしい	文字(ピクトグラム)を使用してほしい	わかりやすい文言・表現・絵文字(ピクトグラム)を使用してほしい	動画などでわかる資料を作成してほしい	必要な情報をわかりやすく説明してくれる人がほしい	その他	特にな	わからない	無回答
障害者等総数	1463 100.0	247 16.9	325 22.2	82 5.6	195 13.3	88 6.0	70 4.8	221 15.1	126 8.6	328 22.4	43 2.9	344 23.5	130 8.9	165 11.3			
身体障害者	914 100.0	162 17.7	198 21.7	53 5.8	128 14.0	48 5.3	61 6.7	115 12.6	61 6.7	186 20.4	29 3.2	218 23.9	83 9.1	105 11.5			
知的障害者	362 100.0	44 12.2	95 26.2	16 4.4	26 7.2	12 3.3	9 2.5	93 25.7	48 13.3	116 32.0	8 2.2	53 14.6	50 13.8	35 9.7			
精神障害者	241 100.0	37 15.4	52 21.6	11 4.6	39 16.2	20 8.3	9 3.7	24 10.0	24 10.0	56 23.2	6 2.5	44 18.3	30 12.4	35 14.5			
自立支援医療受給者	108 100.0	17 15.7	24 22.2	4 3.7	23 21.3	12 11.1	5 4.6	19 17.6	17 15.7	47 43.5	4 3.7	26 24.1	9 8.3	1 0.9			
難病医療費助成者	316 100.0	61 19.3	79 25.0	21 6.6	46 14.6	20 6.3	5 1.6	46 14.6	22 7.0	57 18.0	6 1.9	97 30.7	23 7.3	21 6.6			
医療費助成対象外の難病患者	22 100.0	3 13.6	4 18.2	1 4.5	1 4.5	2 9.1	1 4.5	1 4.5	2 9.1	4 18.2	2 9.1	8 36.4	0 0.0	3 13.6			
発達障害と診断	30 100.0	6 20.0	7 23.3	2 6.7	3 10.0	7 23.3	1 3.3	7 23.3	9 30.0	13 43.3	2 6.7	2 6.7	2 6.7	1 3.3			
高次脳機能障害と診断	25 100.0	1 4.0	3 12.0	0 0.0	1 4.0	1 4.0	1 4.0	4 16.0	4 16.0	7 28.0	1 4.0	6 24.0	3 12.0	4 16.0			
認知症と診断	10 100.0	3 30.0	1 10.0	0 0.0	1 10.0	0 0.0	3 30.0	2 20.0	0 0.0	4 40.0	0 0.0	1 10.0	1 10.0	1 10.0			

図表 2-98 情報入手やコミュニケーションをとる上で必要な配慮〔3つまで〕(Q28)－年代別

	総数	体(音声、点字、テキストデータなど)で提供してほしい	それぞれの障害者が情報入手できるようさまざまな媒体(音声、点字、テキストデータなど)で提供してほしい	誰もが読みやすい文字などを使用してほしい	誰かが読みやすい文字などを使用してほしい	パンフレットやホームページなどを色の使い方に配慮して作成してほしい	問い合わせ先は電話番号だけでなく、ファックスやメールアドレスを載せてほしい	SNS(ツイッター、フェイスブックなどで発信してほしい)	手話、筆談で対応できる人を増やしてほしい	文字(ピクトグラム)を使用してほしい	わかりやすい文言・表現・絵文字(ピクトグラム)を使用してほしい	動画などでわかる資料を作成してほしい	必要な情報をわかりやすく説明してくれる人がほしい	その他	特にな	わからない	無回答
障害者等総数	1463 100.0	247 16.9	325 22.2	82 5.6	195 13.3	88 6.0	70 4.8	221 15.1	126 8.6	328 22.4	43 2.9	344 23.5	130 8.9	165 11.3			
10代	27 100.0	4 14.8	8 29.6	3 11.1	1 3.7	6 22.2	0 0.0	7 25.9	9 33.3	11 40.7	0 0.0	3 11.1	1 3.7	0 0.0			
20代	185 100.0	35 18.9	45 24.3	11 5.9	25 13.5	21 11.4	6 3.2	58 31.4	35 18.9	67 36.2	7 3.8	28 15.1	15 8.1	7 3.8			
30代	176 100.0	30 17.0	31 17.6	2 1.1	27 15.3	15 8.5	8 4.5	31 17.6	19 10.8	42 23.9	8 4.5	47 26.7	18 10.2	10 5.7			
40代	191 100.0	43 22.5	46 24.1	19 9.9	38 19.9	20 10.5	14 7.3	28 14.7	20 10.5	46 24.1	5 2.6	43 22.5	16 8.4	12 6.3			
50代	189 100.0	42 22.2	45 23.8	13 6.9	32 16.9	16 8.5	8 4.2	22 11.6	17 9.0	36 19.0	10 5.3	41 21.7	15 7.9	14 7.4			
60代	248 100.0	38 15.3	45 18.1	15 6.0	25 10.1	6 2.4	8 3.2	30 12.1	16 6.5	48 19.4	4 1.6	78 31.5	23 9.3	25 10.1			
70代	269 100.0	29 10.8	63 23.4	14 5.2	33 12.3	3 1.1	15 5.6	31 11.5	9 3.3	46 17.1	7 2.6	64 23.8	26 9.7	56 20.8			
80代以上	170 100.0	24 14.1	41 24.1	5 2.9	13 7.6	1 0.6	11 6.5	14 8.2	1 0.6	31 18.2	2 1.2	39 22.9	14 8.2	39 22.9			

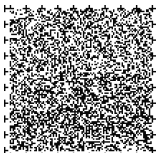


図表 2-99 情報入手やコミュニケーションをとる上で必要な配慮〔3つまで〕(Q28)

－身体障害種別														
	総数	それぞれの障害者が情報入手できるようにさまざまな媒体（音声、点字、テキストデータなど）で提供してほしい	誰もが読みやすい文字などを使用してほしい	パンフレットやホームページなどを色の使い方に配慮して作成してほしい	問い合わせ先は電話番号だけでなく、ファックスやメールアドレスを載せてほしい	SNS（ツイッター、フェイスブックなど）で発信してほしい	手話、筆談で対応できる人を増やしてほしい	わかりやすい文言・表現・絵文字（ピクトグラム）を使用してほしい	動画などでわかる資料を作成してほしい	必要な情報をわかりやすく説明してくれる人がほしい	その他	特にない	わからない	無回答
身体障害者総数	914 100.0	162 17.7	198 21.7	53 5.8	128 14.0	48 5.3	61 6.7	115 12.6	61 6.7	186 20.4	29 3.2	218 23.9	83 9.1	105 11.5
視覚	119 100.0	47 39.5	37 31.1	13 10.9	7 5.9	4 3.4	2 1.7	12 10.1	3 2.5	32 26.9	4 3.4	20 16.8	9 7.6	13 10.9
聴覚	133 100.0	29 21.8	31 23.3	5 3.8	43 32.3	15 11.3	41 30.8	14 10.5	9 6.8	28 21.1	5 3.8	18 13.5	8 6.0	12 9.0
平衡機能	28 100.0	3 10.7	5 17.9	1 3.6	1 3.6	0 0.0	1 3.6	7 25.0	1 3.6	9 32.1	0 0.0	2 7.1	5 17.9	8 28.6
音声機能・言語機能・そしゃく機能	93 100.0	14 15.1	13 14.0	2 2.2	11 11.8	3 3.2	10 10.8	16 17.2	6 6.5	20 21.5	3 3.2	21 22.6	14 15.1	8 8.6
上肢	175 100.0	30 17.1	27 15.4	8 4.6	19 10.9	6 3.4	8 4.6	31 17.7	12 6.9	45 25.7	10 5.7	39 22.3	24 13.7	14 8.0
下肢	261 100.0	37 14.2	53 20.3	16 6.1	29 11.1	9 3.4	7 2.7	37 14.2	12 4.6	53 20.3	12 4.6	63 24.1	35 13.4	32 12.3
体幹	105 100.0	19 18.1	19 18.1	5 4.8	9 8.6	4 3.8	3 2.9	24 22.9	11 10.5	29 27.6	3 2.9	17 16.2	17 16.2	16 15.2
脳原性運動機能	72 100.0	14 19.4	11 15.3	3 4.2	10 13.9	6 8.3	2 2.8	11 15.3	14 19.4	20 27.8	7 9.7	10 13.9	11 15.3	4 5.6
内部障害	259 100.0	32 12.4	55 21.2	11 4.2	29 11.2	14 5.4	6 2.3	26 10.0	15 5.8	43 16.6	6 2.3	82 31.7	18 6.9	33 12.7

図表 2-100 情報入手やコミュニケーションをとる上で必要な配慮〔3つまで〕(Q28)

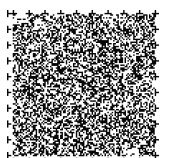
－障害になった時期別														
	総数	それぞれが情報入手できるようにさまざまな媒体（音声、点字、テキストデータなど）で提供してほしい	誰もが読みやすい文字などを使用してほしい	パンフレットやホームページなどを色の使い方に配慮して作成してほしい	問い合わせ先は電話番号だけでなく、ファックスやメールアドレスを載せてほしい	SNS（ツイッター、フェイスブックなど）で発信してほしい	手話、筆談で対応できる人を増やしてほしい	わかりやすい文言・表現・絵文字（ピクトグラム）を使用してほしい	動画などでわかる資料を作成してほしい	必要な情報をわかりやすく説明してくれる人がほしい	その他	特にない	わからない	無回答
障害者等総数	1463 100.0	247 16.9	325 22.2	82 5.6	195 13.3	88 6.0	70 4.8	221 15.1	126 8.6	328 22.4	43 2.9	344 23.5	130 8.9	165 11.3
出生時	261 100.0	46 17.6	60 23.0	11 4.2	30 11.5	20 7.7	14 5.4	70 26.8	45 17.2	92 35.2	12 4.6	26 10.0	24 9.2	29 11.1
～10代	201 100.0	42 20.9	47 23.4	14 7.0	32 15.9	21 10.4	19 9.5	33 16.4	16 8.0	50 24.9	5 2.5	40 19.9	21 10.4	13 6.5
20代・30代	209 100.0	37 17.7	43 20.6	11 5.3	40 19.1	23 11.0	5 2.4	25 12.0	25 12.0	48 23.0	10 4.8	62 29.7	17 8.1	6 2.9
40代・50代	295 100.0	62 21.0	61 20.7	28 9.5	43 14.6	15 5.1	13 4.4	35 11.9	25 8.5	58 19.7	8 2.7	83 28.1	22 7.5	21 7.1
60代以上	356 100.0	47 13.2	92 25.8	16 4.5	39 11.0	5 1.4	17 4.8	45 12.6	8 2.2	61 17.1	6 1.7	92 25.8	31 8.7	61 17.1



図表 2-101 情報入手やコミュニケーションをとる上で必要な配慮〔3つまで〕(Q28)

－仕事の有無別

	総 数	それぞれの障害者が情報入手できる ようさまざまな媒体(音声、点字、テ キストデータなど)で提供してほしい	誰もが読みやすい文字などを使用し てほしい	パンフレットやホームページなどを色 の使い方に配慮して作成してほしい	問い合わせ先は電話番号だけでなく、ファックスやメールアドレスを載せ てほしい	SNS(ツイッター、フェイスブックな ど)で発信してほしい	手話、筆談で対応できる人を増やし てほしい	わかりやすい文言・表現・絵文字(ピ クトグラム)を使用してほしい	動画などでわかる資料を作成してほ しい	必要な情報をわかりやすく説明して くれる人がほしい	その他	特 に な い	わ か ら な い	無 回 答
障害者等総数	1463 100.0	247 16.9	325 22.2	82 5.6	195 13.3	88 6.0	70 4.8	221 15.1	126 8.6	328 22.4	43 2.9	344 23.5	130 8.9	165 11.3
仕事をしている	458 100.0	107 23.4	114 24.9	33 7.2	90 19.7	50 10.9	25 5.5	73 15.9	55 12.0	108 23.6	15 3.3	122 26.6	23 5.0	17 3.7
仕事をしていない	839 100.0	120 14.3	171 20.4	43 5.1	94 11.2	34 4.1	43 5.1	110 13.1	43 5.1	168 20.0	22 2.6	206 24.6	90 10.7	113 13.5
福祉的就労をして いる	107 100.0	11 10.3	26 24.3	5 4.7	5 4.7	3 2.8	1 0.9	33 30.8	24 22.4	44 41.1	5 4.7	11 10.3	11 10.3	12 11.2



第3章 障害者団体の状況

1 障害者団体の概要

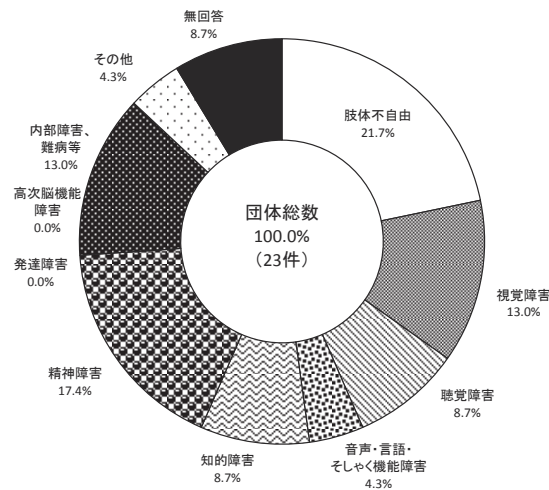
ここでは、東京都内の障害者団体のうち、回答の得られた 23 団体について述べる。23 団体はいずれも当事者会員が所属している団体で、家族のみの団体はみられなかった。

(1) 当事者会員の障害名

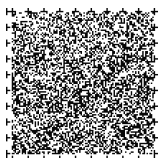
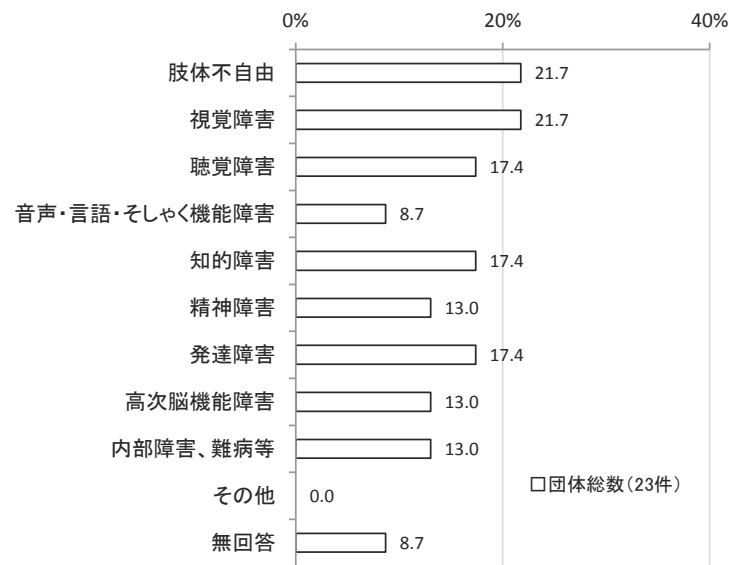
障害者団体の当事者会員の障害で最も多いものは、「肢体不自由」が 21.7%（5 団体）、「精神障害」が 17.4%（4 団体）、「視覚障害」が 13.0%（3 団体）だった。

その他当てはまる障害全てについては、「肢体不自由」が 21.7%（5 団体）、「視覚障害」が 21.7%（5 団体）だった。

図表 3-1 当事者会員の障害名 最も多い障害〔単数回答〕(Q1)



図表 3-2 当事者会員の障害名 その他当てはまる障害全て〔複数回答〕(Q1)



(2) 当事者会員数

当事者会員数の中央値は 600 人だった。年代別の内訳をみると、中央値で 20 代以下が 14 人、30 代が 23.5 人、40 代が 45 人、50 代が 41.5 人、60 代が 20 人、70 代以上が 11 人だった。

図表 3-3 当事者会員数 (Q2)

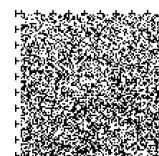
		最小値	最大値	平均値	標準偏差	中央値
Q1. 当事者会員の障害名 最も当事者会 員数が多い障 害	団体総数(23件)	4.0	10000.0	1203.9	2160.4	600.0
	肢体不自由	42.0	2678.0	1112.5	1276.7	865.0
	視覚障害	130.0	1428.0	652.7	684.9	400.0
	聴覚障害	600.0	1264.0	932.0	469.5	932.0
	音声・言語・そしゃく機能障害	926.0	926.0	926.0	-	926.0
	知的障害	100.0	1108.0	604.0	712.8	604.0
	精神障害	4.0	600.0	231.8	256.7	161.5
	内部障害、難病等	780.0	10000.0	4760.0	4737.4	3500.0
	その他	138.0	138.0	138.0	-	138.0

(注) 当事者会員と家族会員の内訳が不明のため、当事者会員と家族会員を合わせた人数で回答した団体が 1 団体あった (肢体不自由)。

図表 3-4 当事者会員 年代別人数 (Q3)

(団体総数 23 件)

	最小値	最大値	平均値	分散	標準偏差	中央値
20代以下	0.0	799.0	142.8	75149.1	274.1	14.0
30代	0.0	155.0	59.3	4669.1	68.3	23.5
40代	6.0	207.0	79.8	6113.1	78.2	45.0
50代	14.0	193.0	63.5	3455.4	58.8	41.5
60代	1.0	281.0	75.9	11521.9	107.3	20.0
70代以上	0.0	700.0	189.0	83012.8	288.1	11.0

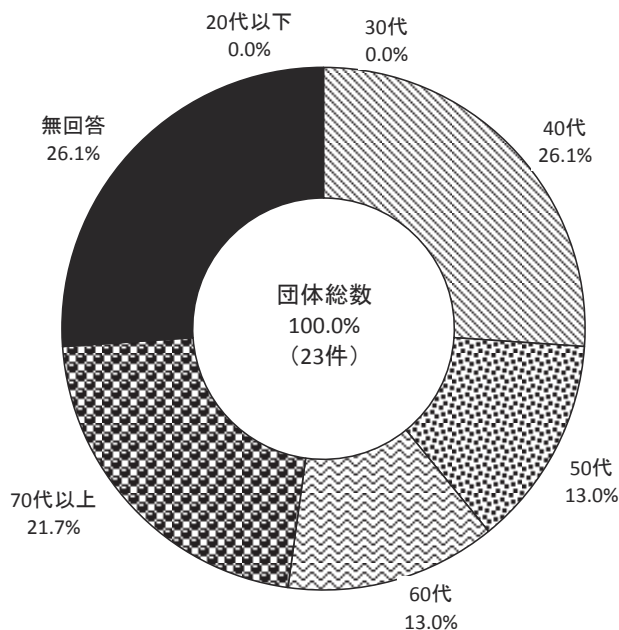


(3) 当事者会員の平均年齢

当事者会員の平均年齢を尋ねたところ、40代が26.1%（6団体）と最も多く、次いで70代以上が21.7%（5団体）だった。

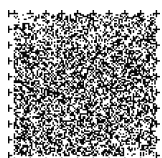
最も当事者会員が多い障害別にみると、肢体不自由では「40代」が2団体、「70代以上」が2団体だった。

図表 3-5 当事者会員 平均年齢〔単数回答〕(Q4)



図表 3-6 平均年齢〔単数回答〕(Q4) —最も当事者会員が多い障害別

		総数	20代以下	30代	40代	50代	60代	70代以上	無回答
団体総数		23	0	0	6	3	3	5	6
		100.0	0.0	0.0	26.1	13.0	13.0	21.7	26.1
Q4. 当事者会員の障害名「最も当事者会員が多い障害」	肢体不自由	5	0	0	2	1	0	2	0
		100.0	0.0	0.0	40.0	20.0	0.0	40.0	0.0
	視覚障害	3	0	0	0	1	1	1	0
		100.0	0.0	0.0	0.0	33.3	33.3	33.3	0.0
	聴覚障害	2	0	0	0	1	1	0	0
		100.0	0.0	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0
	音声・言語・そしゃく機能障害	1	0	0	0	0	0	1	0
		100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
	知的障害	2	0	0	1	0	0	0	1
		100.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	50.0
	精神障害	4	0	0	1	0	0	0	3
		100.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	75.0
	内部障害、難病等	3	0	0	0	0	1	1	1
		100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	33.3	33.3
	その他	1	0	0	0	0	0	0	1
		100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0



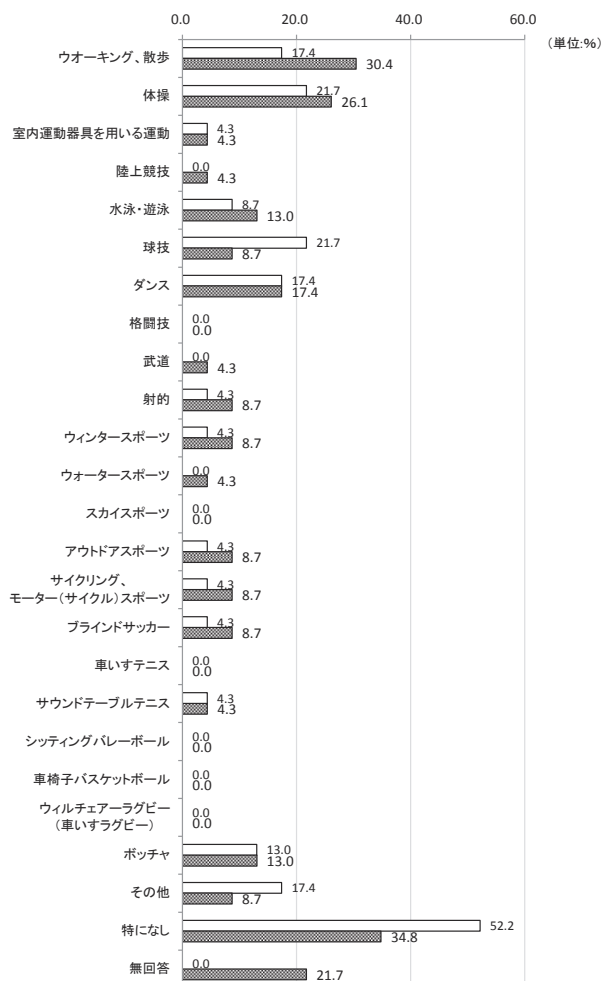
2 スポーツや運動について

(1) この1年間に行ったスポーツや運動、今後も続けていきたい、あるいは新たに取得したいスポーツや運動

この1年間のイベントや取組で行ったスポーツや運動については「特になし」の回答が多く、52.2%（12 団体）だった。それ以外では、「体操（ラジオ体操、職場体操、ストレッチ、エクササイズ、エアロビクス、ヨガ、ピラティス、縄跳びなど）」や「球技（キャッチボールなどのボールを使った軽い運動も含む）」の割合が高く、いずれも 21.7%（5 団体）だった。今後も続けていきたい、あるいは新たに取得したいスポーツや運動は、「ウォーキング、散歩（散策、ペットの散歩など）」が 30.4%（7 団体）、「体操（ラジオ体操、職場体操、ストレッチ、エクササイズ、エアロビクス、ヨガ、ピラティス、縄跳びなど）」が 26.1%（6 団体）だった。

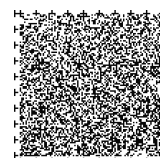
図表 3-7 この1年間のイベントや取組で行ったスポーツや運動

／今後も続けていきたい、あるいは新たに取得したいスポーツや運動〔複数回答〕(Q5)



□この1年間のイベントや取組で行ったスポーツや運動(団体総数23件)

■今後も続けていきたい、新たに取得したいスポーツや運動(団体総数23件)

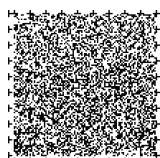
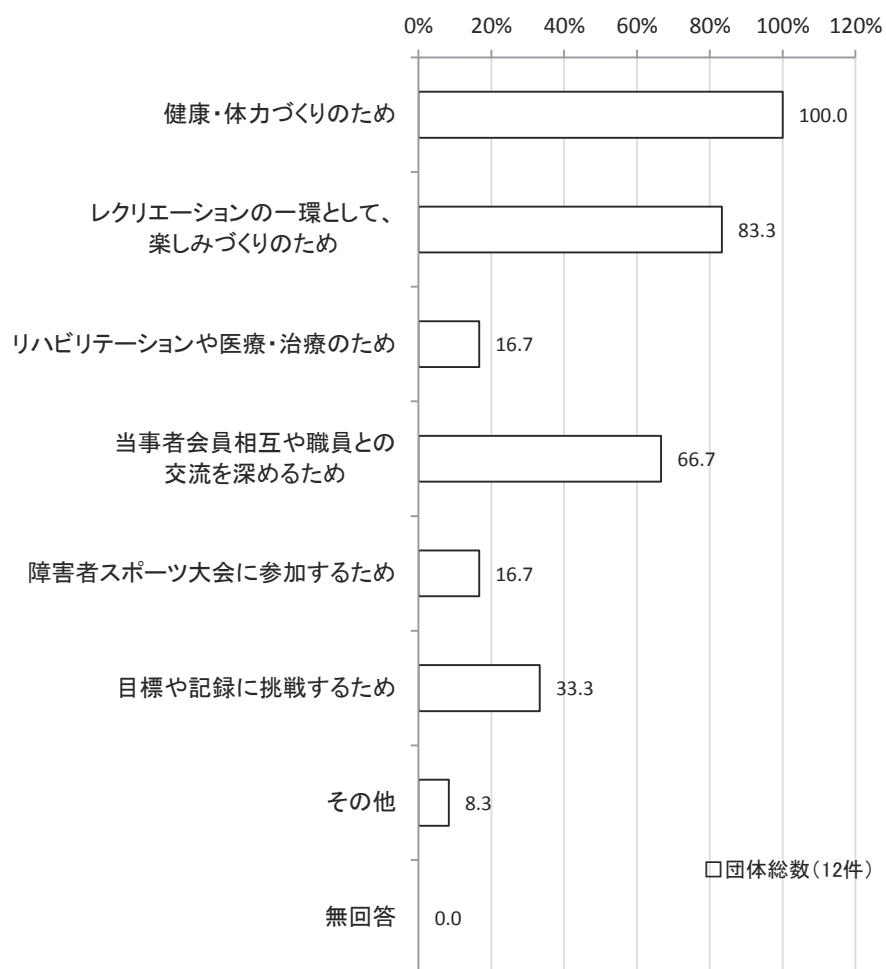


(2) スポーツや運動を取り入れた理由

(※この1年間にスポーツや運動を行った11団体、及び、この1年間にはスポーツや運動を行ってはいないが、今後も続けていきたい、新たに取り入れたいスポーツや運動がある1団体を含めた計12団体が対象)

この1年間のイベントや取組で行ったスポーツや運動、あるいは今後も続けていきたい、あるいは新たに取り入れたいスポーツや運動について「特になし」以外の回答をした12団体に対して、イベントや取組にスポーツや運動を取り入れた理由を尋ねたところ、「健康・体力づくりのため」が最も多く、全ての団体から回答があった(100%、12団体)。次いで、「レクリエーションの一環として、楽しみづくりのため」が83.3%(10団体)だった。

図表 3-8 イベントや取組にスポーツや運動を取り入れた理由〔複数回答〕(Q5-1)



図表 3-9 イベントや取組にスポーツや運動を取り入れた理由〔複数回答〕(Q5-1)

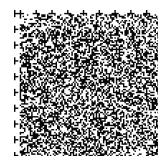
ー最も当事者会員が多い障害別

		総数	健康・体力づくりのため	レクリエーションの一環として、楽しみづくりのため	リハビリテーションや医療・治療のため	当事者会員相互や職員との交流を深めるため	障害者スポーツ大会に参加するため	目標や記録に挑戦するため	その他	無回答
団体総数		12 100.0	12 100.0	10 83.3	2 16.7	8 66.7	2 16.7	4 33.3	1 8.3	0 0.0
Q1.当事者会員の障害名「最も当事者会員数が多い障害」	肢体不自由	3 100.0	3 100.0	2 66.7	1 33.3	2 66.7	1 33.3	2 66.7	0 0.0	0 0.0
	視覚障害	2 100.0	2 100.0	1 50.0	0 0.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	聴覚障害	1 100.0	1 100.0	1 100.0	0 0.0	1 100.0	1 100.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0
	音声・言語・そしゃく機能障害	1 100.0	1 100.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	知的障害	1 100.0	1 100.0	1 100.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0
	精神障害	1 100.0	1 100.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	内部障害、難病等	1 100.0	1 100.0	1 100.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	その他	1 100.0	1 100.0	1 100.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0

図表 3-10 イベントや取組にスポーツや運動を取り入れた理由〔複数回答〕(Q5-1)

ー当事者会員の平均年齢別

		総数	健康・体力づくりのため	レクリエーションの一環として、楽しみづくりのため	リハビリテーションや医療・治療のため	当事者会員相互や職員との交流を深めるため	障害者スポーツ大会に参加するため	目標や記録に挑戦するため	その他	無回答
団体総数		12 100.0	12 100.0	10 83.3	2 16.7	8 66.7	2 16.7	4 33.3	1 8.3	0 0.0
Q4. 当事者会員の平均年齢	40代	4 100.0	4 100.0	4 100.0	2 50.0	3 75.0	0 0.0	2 50.0	1 25.0	0 0.0
	50代	1 100.0	1 100.0	1 100.0	0 0.0	1 100.0	1 100.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0
	60代	2 100.0	2 100.0	2 100.0	0 0.0	2 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	70代以上	4 100.0	4 100.0	2 50.0	0 0.0	1 25.0	1 25.0	1 25.0	0 0.0	0 0.0

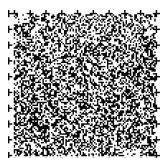
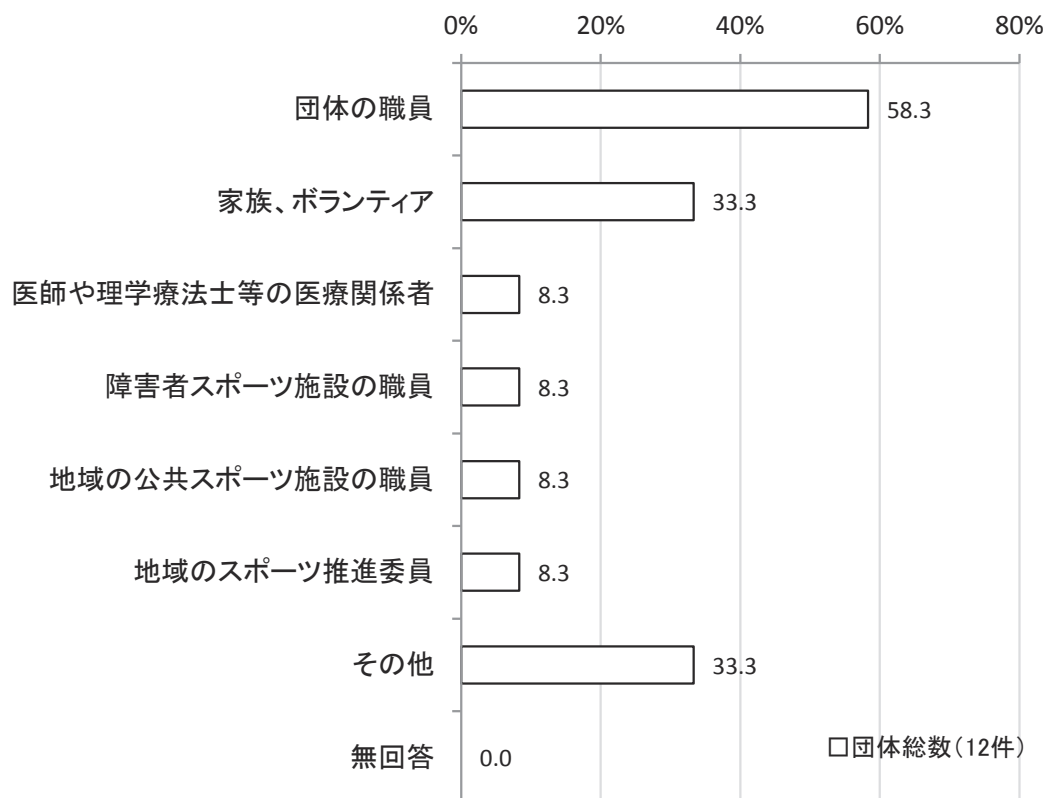


(3) スポーツや運動の指導者

(※この1年間にスポーツや運動を行った11団体、及び、この1年間にはスポーツや運動を行ってはいないが、今後も続けていきたい、新たに取り入れたいスポーツや運動がある1団体を含めた計12団体が対象)

スポーツや運動の指導を行っているのは、「団体の職員」が58.3%（7団体）だった。

図表 3-11 スポーツや運動の指導者〔複数回答〕(Q5-2)

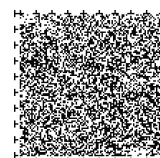


図表 3-12 スポーツや運動の指導者〔複数回答〕(Q5-2)ー最も当事者会員が多い障害別

		総 数	団 体 の 職 員	家 族 、 ボ ラ ン テ ィ ア	医 師 や 理 学 療 法 士 等 の 医 療 関 係 者	障 害 者 ス ポ ー ツ 施 設 の 職 員	地 域 の 公 共 ス ポ ー ツ 施 設 の 職 員	委 員 地 域 の ス ポ ー ツ 推 進	そ の 他	無 回 答
Q2. 当事者会員の障害名「最も当事者会員数が多い障害」	団体総数	12 100.0	7 58.3	4 33.3	1 8.3	1 8.3	1 8.3	1 8.3	4 33.3	0 0.0
	肢体不自由	3 100.0	1 33.3	1 33.3	0 0.0	1 33.3	1 33.3	1 33.3	0 0.0	0 0.0
	視覚障害	2 100.0	2 100.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	聴覚障害	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0
	音声・言語・そしゃく機能障害	1 100.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	知的障害	1 100.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0
	精神障害	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0
	内部障害、難病等	1 100.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	その他	1 100.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0

図表 3-13 スポーツや運動の指導者〔複数回答〕(Q5-2)ー当事者会員の平均年齢別

		総 数	団 体 の 職 員	家 族 、 ボ ラ ン テ ィ ア	医 師 や 理 学 療 法 士 等 の 医 療 関 係 者	障 害 者 ス ポ ー ツ 施 設 の 職 員	地 域 の 公 共 ス ポ ー ツ 施 設 の 職 員	委 員 地 域 の ス ポ ー ツ 推 進	そ の 他	無 回 答
Q4. 当事者会員の平均年齢	団体総数	12 100.0	7 58.3	4 33.3	1 8.3	1 8.3	1 8.3	1 8.3	4 33.3	0 0.0
	40代	4 100.0	3 75.0	1 25.0	1 25.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 50.0	0 0.0
	50代	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0
	60代	2 100.0	1 50.0	2 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	70代以上	4 100.0	2 50.0	1 25.0	0 0.0	1 25.0	1 25.0	1 25.0	0 0.0	0 0.0

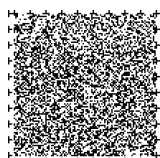
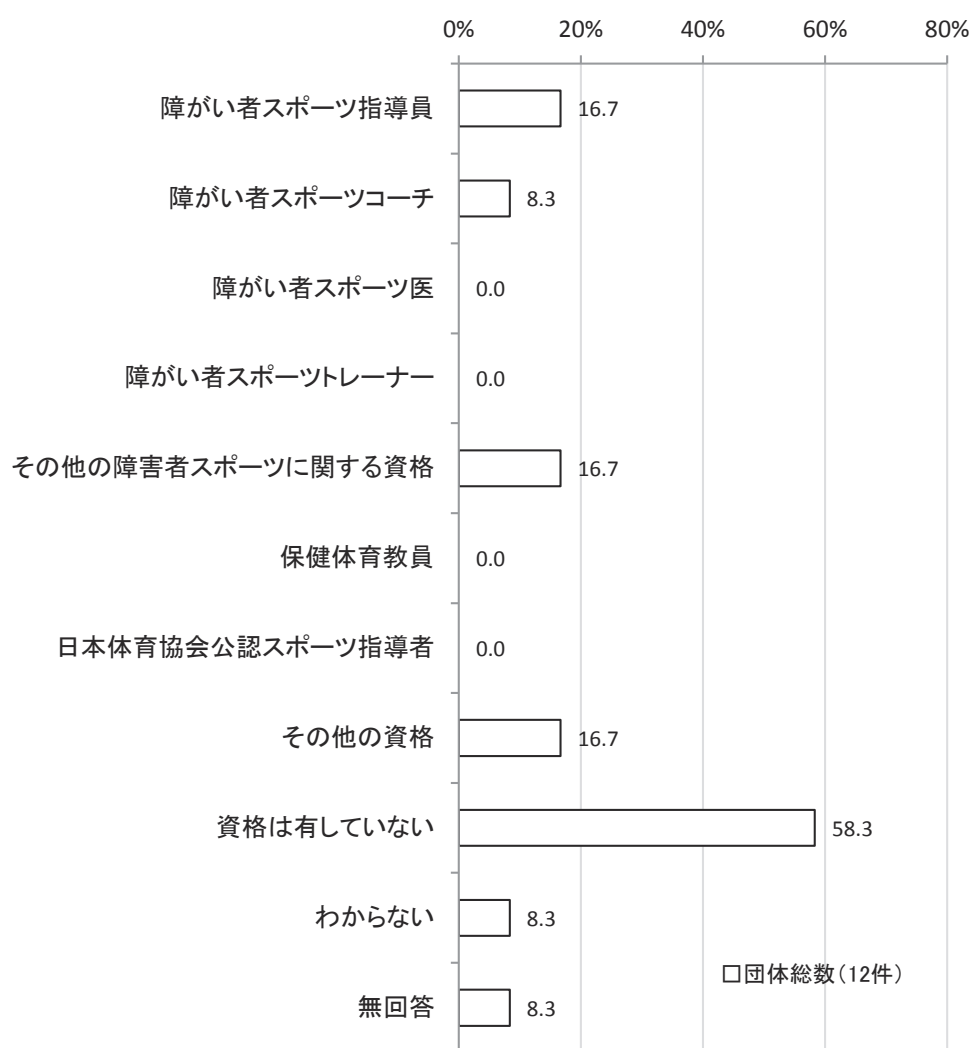


(4) スポーツや運動の指導者が有する資格

(※この1年間にスポーツや運動を行った11団体、及び、この1年間にはスポーツや運動を行ってはいないが、今後も続けていきたい、新たに取り入れたいスポーツや運動がある1団体を含めた計12団体が対象)

指導者が有する資格について尋ねたが、「資格は有していない」が58.3% (7団体) だった。

図表 3-14 スポーツや運動の指導者が有する資格〔複数回答〕(Q5-3)



図表 3-15 スポーツや運動の指導者が有する資格〔複数回答〕(Q5-3)

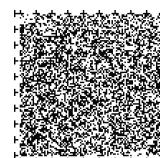
ー最も当事者会員が多い障害別

		総 数	障 が い 者 ス ポ ー ツ 指 導 員	障 が い 者 ス ポ ー ツ コ ー チ	障 が い 者 ス ポ ー ツ 医	障 が い 者 ス ポ ー ツ ト レ ー ナ	そ の 他 の 障 害 者 ス ポ ー ツ に 関 する 資 格	保 健 体 育 教 員	日 本 体 育 協 会 公 認 ス ポ ー ツ 指 導 者	そ の 他 の 資 格	資 格 は 有 し て い な い	わ か ら な い	無 回 答
団体総数		12 100.0	2 16.7	1 8.3	0 0.0	0 0.0	2 16.7	0 0.0	0 0.0	2 16.7	7 58.3	1 8.3	1 8.3
Q5-3 当事者会員の障害名、最も当事者会員数が多い障	肢体不自由	3 100.0	1 33.3	1 33.3	0 0.0	0 0.0	1 33.3	0 0.0	0 0.0	1 33.3	1 33.3	0 0.0	1 33.3
	視覚障害	2 100.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0
	聴覚障害	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	音声・言語・そしゃく機能障害	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0
	知的障害	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0
	精神障害	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0
	内部障害、難病等	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0
	その他	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0

図表 3-16 スポーツや運動の指導者が有する資格〔複数回答〕(Q5-3)

ー当事者会員の平均年齢別

		総 数	障 が い 者 ス ポ ー ツ 指 導 員	障 が い 者 ス ポ ー ツ コ ー チ	障 が い 者 ス ポ ー ツ 医	障 が い 者 ス ポ ー ツ ト レ ー ナ	そ の 他 の 障 害 者 ス ポ ー ツ に 関 する 資 格	保 健 体 育 教 員	日 本 体 育 協 会 公 認 ス ポ ー ツ 指 導 者	そ の 他 の 資 格	資 格 は 有 し て い な い	わ か ら な い	無 回 答
団体総数		12 100.0	2 16.7	1 8.3	0 0.0	0 0.0	2 16.7	0 0.0	0 0.0	2 16.7	7 58.3	1 8.3	1 8.3
Q4-3 当事者会員の平均年	40代	4 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3 75.0	1 25.0	0 0.0
	50代	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	60代	2 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 100.0	0 0.0	0 0.0
	70代以上	4 100.0	2 50.0	1 25.0	0 0.0	0 0.0	1 25.0	0 0.0	0 0.0	1 25.0	1 25.0	0 0.0	1 25.0

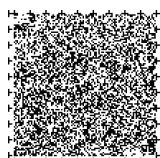
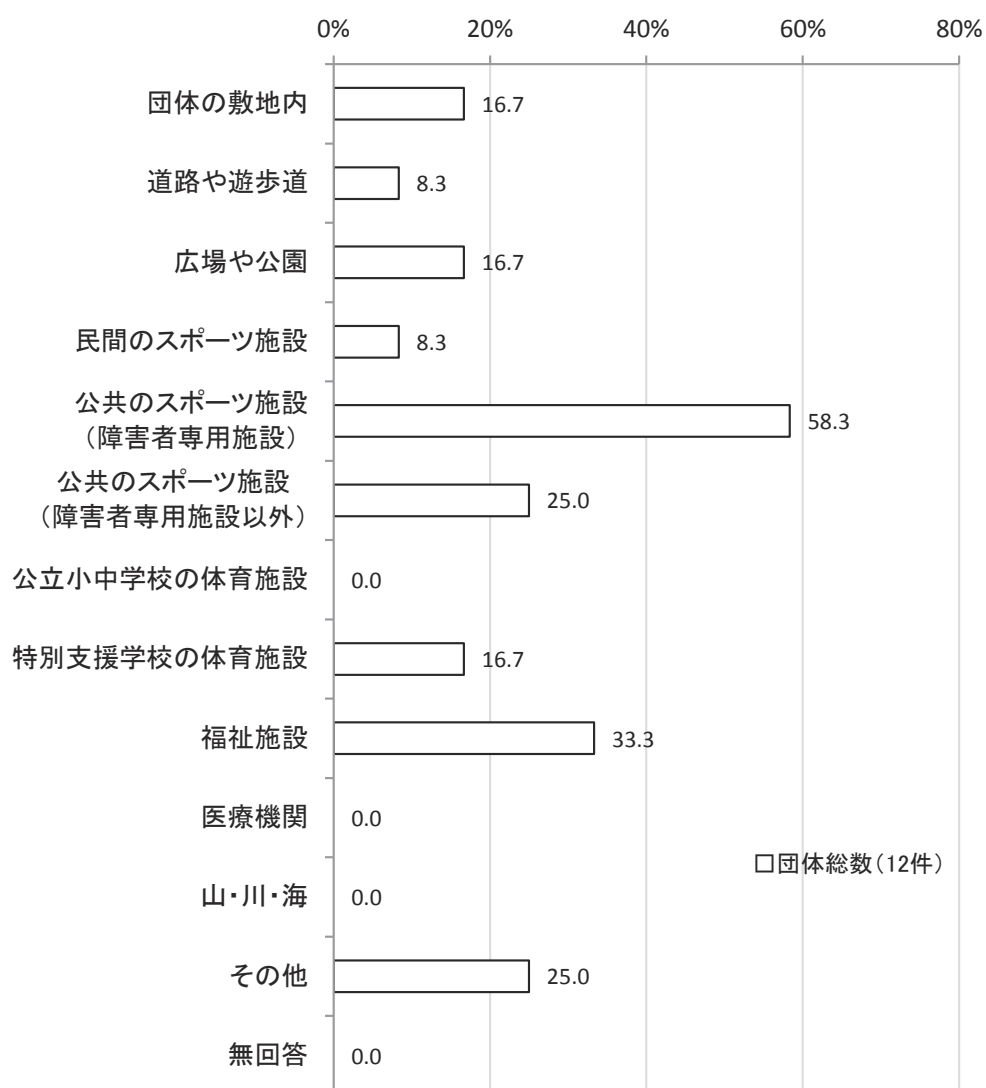


(5) スポーツや運動を含むイベント・取組を行った場所

(※この1年間にスポーツや運動を行った11団体、及び、この1年間にはスポーツや運動を行ってはいないが、今後も続けていきたい、新たに取り入れたいスポーツや運動がある1団体を含めた計12団体が対象)

スポーツや運動を含むイベント・取組を行った場所については、「公共のスポーツ施設(障害者専用施設)」が58.3%(7団体)だった。

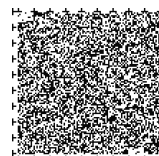
図表 3-17 スポーツや運動を含むイベント・取組を行った場所〔複数回答〕(Q5-4)



図表 3-18 スポーツや運動を含むイベント・取組を行った場所〔複数回答〕(Q5-4)

ー最も当事者会員が多い障害別

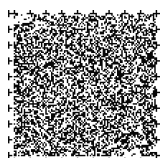
		総 数	団 体 の 敷 地 内	道 路 や 遊 歩 道	広 場 や 公 園	民 間 の ス ポ ー ツ 施 設	公 共 の ス ポ ー ツ 施 設 (障 害 者 専 用 施 設)	公 共 の ス ポ ー ツ 施 設 (障 害 者 専 用 施 設 以 外)	公 共 の ス ポ ー ツ 施 設 (障 害 者 専 用 施 設)	公 立 小 中 学 校 の 体 育 施 設
団体総数		12 100.0	2 16.7	1 8.3	2 16.7	1 8.3	7 58.3	3 25.0	0 0.0	
Q1. 当事者会員の障害名、最も当事者会員数が多い障害	肢体不自由	3 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3 100.0	1 33.3	0 0.0	
	視覚障害	2 100.0	1 50.0	0 0.0	1 50.0	0 0.0	2 100.0	0 0.0	0 0.0	
	聴覚障害	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	
	音声・言語・そしゃく機能障害	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	
	知的障害	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	
	精神障害	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	
	内部障害、難病等	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	
	その他	1 100.0	1 100.0	1 100.0	1 100.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	
		総 数	設 校 の 特 別 支 援 施 学	福 祉 施 設	医 療 機 関	山 ・ 川 ・ 海	そ 他	無 回 答		
団体総数		12 100.0	2 16.7	4 33.3	0 0.0	0 0.0	3 25.0	0 0.0		
Q1. 当事者会員の障害名、最も当事者会員数が多い障害	肢体不自由	3 100.0	1 33.3	2 66.7	0 0.0	0 0.0	2 66.7	0 0.0		
	視覚障害	2 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0		
	聴覚障害	1 100.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0		
	音声・言語・そしゃく機能障害	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0		
	知的障害	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0		
	精神障害	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0		
	内部障害、難病等	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0		
	その他	1 100.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0		



図表 3-19 スポーツや運動を含むイベント・取組を行った場所〔複数回答〕(Q5-4)

ー当事者会員の平均年齢別

		総数	団体の敷地内	道路や遊歩道	広場や公園	民間のスポーツ施設	公共のスポーツ施設 (障害者専用施設)	公共のスポーツ施設 (障害者専用施設以外)	公立小中学校の体育施設
団体総数		12 100.0	2 16.7	1 8.3	2 16.7	1 8.3	7 58.3	3 25.0	0 0.0
Q4. 当事者会員の平均年齢	40代	4 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 25.0	1 25.0	2 50.0	0 0.0
	50代	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0
	60代	2 100.0	1 50.0	0 0.0	1 50.0	0 0.0	2 100.0	0 0.0	0 0.0
	70代以上	4 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3 75.0	0 0.0	0 0.0
		総数	特別支援学校の体育施設	福祉施設	医療機関	山・川・海	その他	無回答	
団体総数		12 100.0	2 16.7	4 33.3	0 0.0	0 0.0	3 25.0	0 0.0	
Q4. 当事者会員の平均年齢	40代	4 100.0	1 25.0	2 50.0	0 0.0	0 0.0	1 25.0	0 0.0	
	50代	1 100.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	
	60代	2 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	
	70代以上	4 100.0	0 0.0	1 25.0	0 0.0	0 0.0	2 50.0	0 0.0	

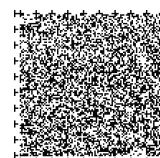
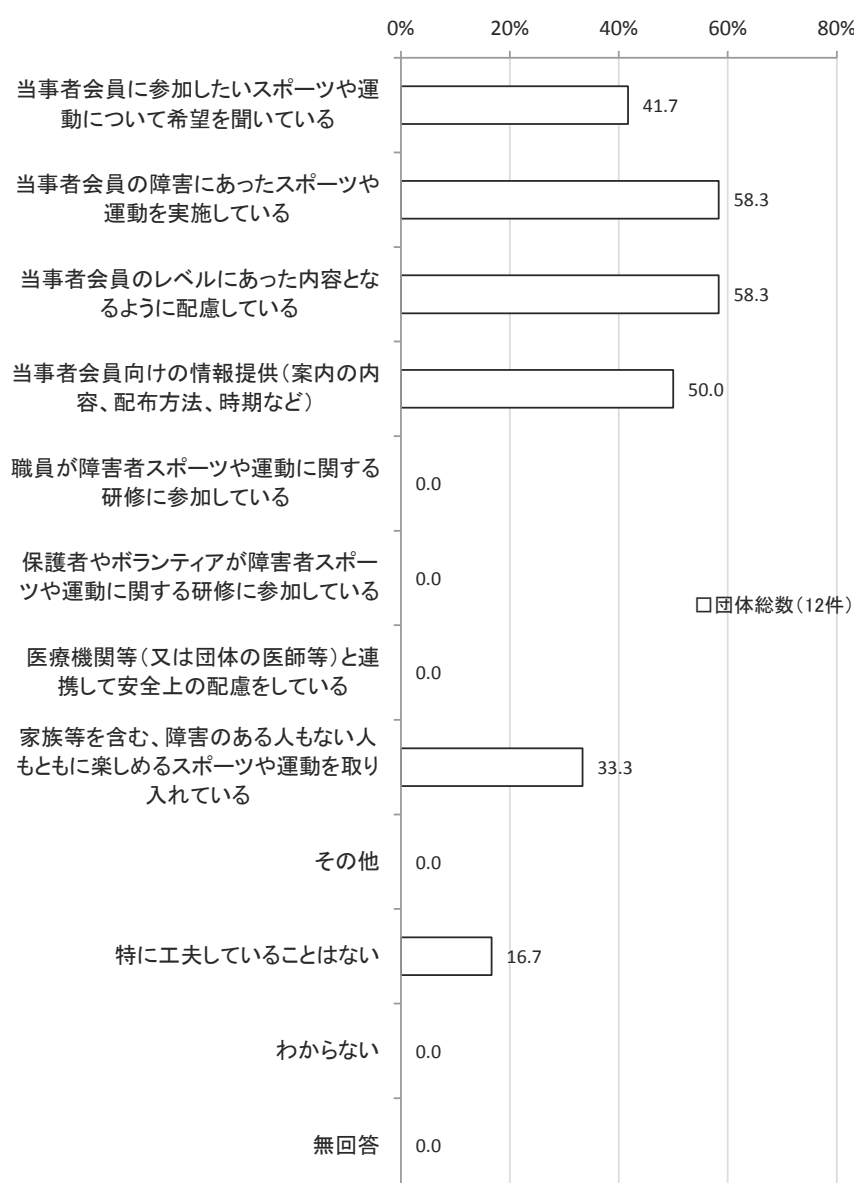


(6) 当事者会員がスポーツや運動を含むイベント・取組に参加しやすくするための工夫

(※この1年間にスポーツや運動を行った11団体、及び、この1年間にはスポーツや運動を行ってはいないが、今後も続けていきたい、新たに取り入れたいスポーツや運動がある1団体を含めた計12団体が対象)

当事者会員がスポーツや運動を含むイベント・取組に参加しやすくするための工夫は、「当事者会員の障害にあったスポーツや運動を実施している」、「当事者会員のレベルにあった内容となるように配慮している」がともに58.3%（7団体）だった。次いで「当事者会員向けの情報提供（案内の内容、配布方法、時期など）」が50.0%（6団体）だった。

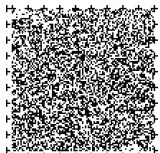
図表 3-20 当事者会員がスポーツや運動を含むイベント・取組に参加しやすくするための工夫
〔複数回答〕（Q5-5）



図表 3-21 当事者会員がスポーツや運動を含むイベント・取組に参加しやすくするための工夫

〔複数回答〕(Q5-5) ー最も当事者会員が多い障害別

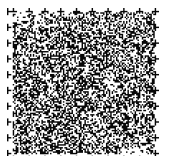
		総数	当事者会員に参加したいスポーツや運動について希望を聞いている	当事者会員の障害にあったスポーツや運動を実施している	当事者会員のレベルにあった内容となるように配慮している	当事者会員向けの情報提供（案内の内容、配布方法、時期など）	職員が障害者スポーツや運動に関する研修に参加している	保護者やボランティアが障害者スポーツや運動に関する研修に参加している
団体総数		12 100.0	5 41.7	7 58.3	7 58.3	6 50.0	0 0.0	0 0.0
Q1. 当事者会員の障害名、最も当事者会員数が多い障害	肢体不自由	3 100.0	0 0.0	1 33.3	1 33.3	2 66.7	0 0.0	0 0.0
	視覚障害	2 100.0	1 50.0	1 50.0	2 100.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0
	聴覚障害	1 100.0	1 100.0	1 100.0	1 100.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0
	音声・言語・そしゃく機能障害	1 100.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	知的障害	1 100.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	精神障害	1 100.0	1 100.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	内部障害、難病等	1 100.0	1 100.0	1 100.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0
	その他	1 100.0	1 100.0	1 100.0	1 100.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0
		総数		医療機関等（又は団体の医師等）と連携して安全上の配慮をしている	家族等を含む、障害のある人もない人もともに楽しめるスポーツや運動を取り入れている	その他	特に工夫していることはない	わからない
団体総数		12 100.0	0 0.0	4 33.3	0 0.0	2 16.7	0 0.0	0 0.0
Q1. 当事者会員の障害名、最も当事者会員数が多い障害	肢体不自由	3 100.0	0 0.0	2 66.7	0 0.0	1 33.3	0 0.0	0 0.0
	視覚障害	2 100.0	0 0.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	聴覚障害	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	音声・言語・そしゃく機能障害	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0
	知的障害	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	精神障害	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	内部障害、難病等	1 100.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	その他	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0



図表 3-22 当事者会員がスポーツや運動を含むイベント・取組に参加しやすくするための工夫

〔複数回答〕(Q5-5) ー当事者会員の平均年齢別

		総数	当事者会員に 参加したいスポ ーツや運動につ いて希望を聞い ている	当事者会員の障 害にあったスポ ーツや運動を実 施している	当事者会員のレ ベルにあった内 容となるように 配慮している	当事者会員向け の情報提供(案 内の内容、配布 方法、時期など)	職員が障害者ス ポーツや運動に 関する研修に参 加している	保護者やボラン ティアが障害者 スポーツや運動 に関する研修に 参加している
団体総数		12 100.0	5 41.7	7 58.3	7 58.3	6 50.0	0 0.0	0 0.0
Q4. 当事者会員の平均年齢	40代	4 100.0	1 25.0	1 25.0	3 75.0	1 25.0	0 0.0	0 0.0
	50代	1 100.0	1 100.0	1 100.0	1 100.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0
	60代	2 100.0	2 100.0	2 100.0	1 50.0	2 100.0	0 0.0	0 0.0
	70代以上	4 100.0	0 0.0	2 50.0	1 25.0	1 25.0	0 0.0	0 0.0
		総数	医療機関等(又は団体の医師等)と連携して安全上の配慮をしている	家族等を含む、障害のある人もない人もともに楽しめるスポーツや運動を取り入れている	その他	特に工夫していることはない	わからない	無回答
団体総数		12 100.0	0 0.0	4 33.3	0 0.0	2 16.7	0 0.0	0 0.0
Q4. 当事者会員の平均年齢	40代	4 100.0	0 0.0	1 25.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	50代	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	60代	2 100.0	0 0.0	2 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	70代以上	4 100.0	0 0.0	1 25.0	0 0.0	2 50.0	0 0.0	0 0.0

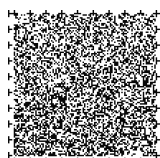
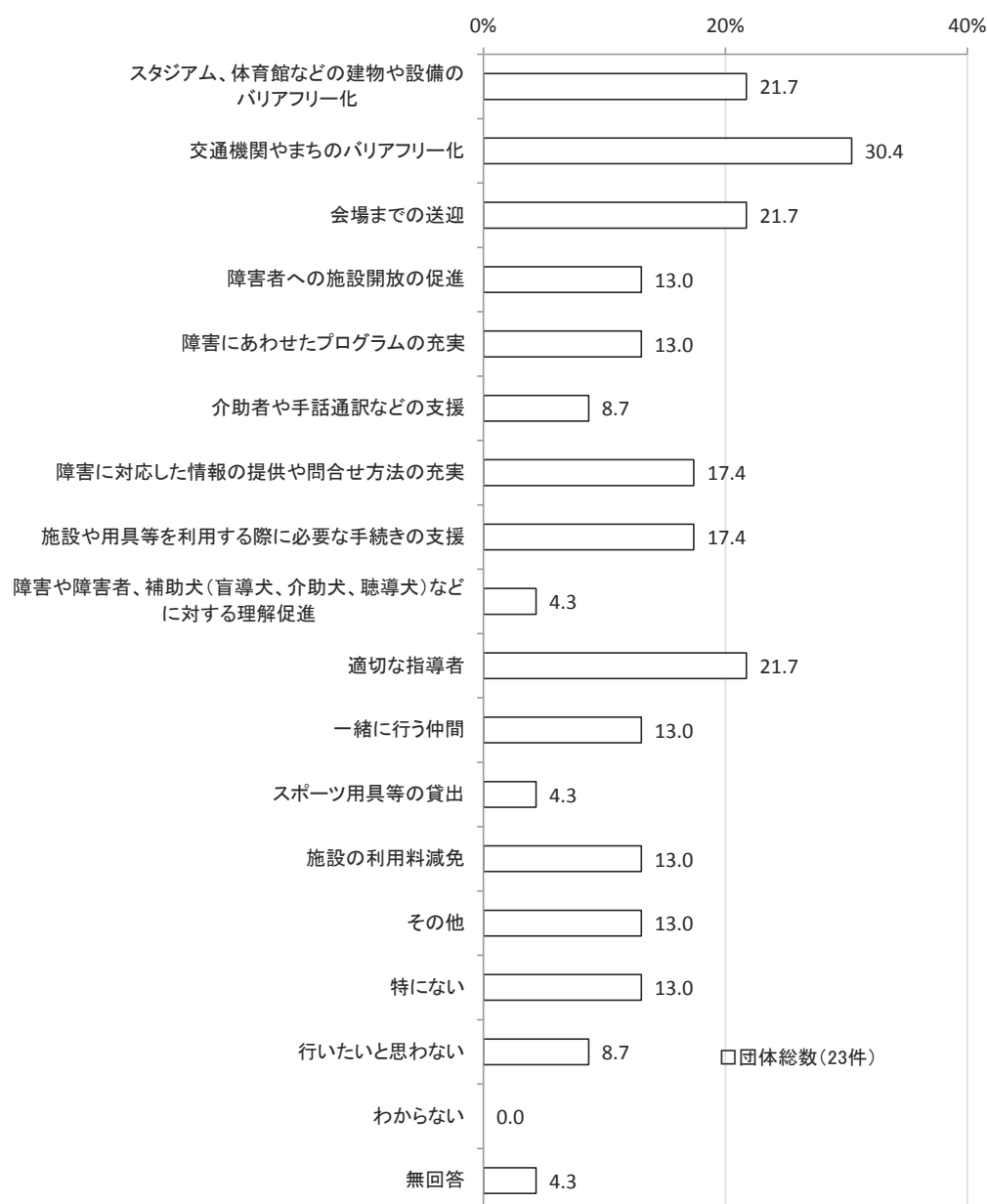


(7) イベントや取組でスポーツや運動を行う際に必要な支援

全ての障害者団体に対して、イベントや取組でスポーツや運動を行う際に必要な支援について尋ねたところ、「交通機関やまちのバリアフリー化」が30.4%（7団体）、次いで「適切な指導者」が21.7%（5団体）だった。

障害者団体ヒアリングでは、地域でのスポーツの機会がほしいという意見があった（視覚、知的）。また、スポーツを行う際に必要な用具や備品（例：吹き矢の道具、サウンドテーブルテニスに用いるテーブル、徒競走でスタートを合図するための旗）の費用がかかることや、設置されている会場が少ないこと、そのために用具や備品を都度会場まで持参することの負担感についての意見があった（肢体不自由、視覚、聴覚）。障害者用のプール（重症心身障害児者）や家族で使える更衣室があるとよい、更衣の手伝いについてスタッフの声掛けがほしい（知的）という意見もあった。

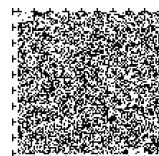
図表 3-23 イベントや取組でスポーツや運動を行う際に必要な支援〔3つまで〕（Q6）



図表 3-24 イベントや取組でスポーツや運動を行う際に必要な支援〔3つまで〕(Q6)

ー最も当事者会員が多い障害別

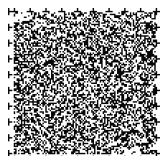
		総数	スタジアム、体育館などの建物や設備のバリアフリー化	交通機関やまちのバリアフリー化	会場までの送迎	障害者への施設開放の促進	障害にあわせたプログラムの充実	介助者や手話通訳などの支援	障害に対応した情報の提供や問合せ方法の充実	施設や用具等を利用する際に必要な手続きの支援	障害や障害者、補助犬（盲導犬、介助犬、聴導犬）などに対する理解促進	適切な指導者
団体総数		23 100.0	5 21.7	7 30.4	5 21.7	3 13.0	3 13.0	2 8.7	4 17.4	4 17.4	1 4.3	5 21.7
Q1. 当事者会員の障害名「最も当事者会員数が多い障害」	肢体不自由	5 100.0	3 60.0	4 80.0	0 0.0	1 20.0	1 20.0	1 20.0	0 0.0	2 40.0	1 20.0	0 0.0
	視覚障害	3 100.0	1 33.3	2 66.7	3 100.0	0 0.0	1 33.3	0 0.0	1 33.3	1 33.3	0 0.0	1 33.3
	聴覚障害	2 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 50.0	0 0.0	2 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	音声・言語・そしゃく機能障害	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	知的障害	2 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 50.0	0 0.0	1 50.0
	精神障害	4 100.0	0 0.0	0 0.0	1 25.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 25.0	0 0.0	0 0.0	1 25.0
	内部障害、難病等	3 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	その他	1 100.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0
		総数	一緒に 行う仲間	ス ポ ー ツ 用 具 等 の 貸 出	施設 の 利用 料 減 免	その他	特 に ない	行 い たい と 思 わ ない	わ か ら ない	無 回 答		
団体総数		23 100.0	3 13.0	1 4.3	3 13.0	3 13.0	3 13.0	2 8.7	0 0.0	1 4.3		
Q1. 当事者会員の障害名「最も当事者会員数が多い障害」	肢体不自由	5 100.0	0 0.0	0 0.0	1 20.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0		
	視覚障害	3 100.0	1 33.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0		
	聴覚障害	2 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0		
	音声・言語・そしゃく機能障害	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0		
	知的障害	2 100.0	0 0.0	1 50.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0		
	精神障害	4 100.0	1 25.0	0 0.0	1 25.0	1 25.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 25.0		
	内部障害、難病等	3 100.0	1 33.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 66.7	1 33.3	0 0.0	0 0.0		
	その他	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0		



図表 3-25 イベントや取組でスポーツや運動を行う際に必要な支援〔3つまで〕(Q6)

—当事者会員の平均年齢別

		総数	スタジアム、体育館などの建物や設備のバリアフリー化	交通機関やまちのバリアフリー化	会場までの送迎	障害者への施設開放の促進	障害にあわせたプログラムの充実	介助者や手話通訳などの支援	障害に対応した情報の提供や問合せ方法の充実	施設や用具等を利用する際に必要な手続きの支援	障害や障害者、補助犬（盲導犬、介助犬、聴導犬）などに対する理解促進	適切な指導者
団体総数		23 100.0	5 21.7	7 30.4	5 21.7	3 13.0	3 13.0	2 8.7	4 17.4	4 17.4	1 4.3	5 21.7
均年齢 Q4. 当事者会員の平	40代	6 100.0	2 33.3	2 33.3	1 16.7	2 33.3	1 16.7	0 0.0	0 0.0	1 16.7	0 0.0	3 50.0
	50代	3 100.0	0 0.0	2 66.7	1 33.3	0 0.0	0 0.0	1 33.3	1 33.3	0 0.0	1 33.3	1 33.3
	60代	3 100.0	0 0.0	0 0.0	1 33.3	0 0.0	1 33.3	0 0.0	1 33.3	1 33.3	0 0.0	0 0.0
	70代以上	5 100.0	3 60.0	3 60.0	1 20.0	0 0.0	1 20.0	0 0.0	1 20.0	1 20.0	0 0.0	0 0.0
		総数	一緒に 行う仲間	出 スポーツ用具等の貸	施設の 利用料減免	その他	特 にない	行 いたいと思わ ない	わ から ない	無 回 答		
団体総数		23 100.0	3 13.0	1 4.3	3 13.0	3 13.0	3 13.0	2 8.7	0 0.0	1 4.3		
均年齢 Q4. 当事者会員の平	40代	6 100.0	1 16.7	0 0.0	2 33.3	0 0.0	0 0.0	1 16.7	0 0.0	0 0.0		
	50代	3 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 33.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0		
	60代	3 100.0	2 66.7	0 0.0	0 0.0	1 33.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0		
	70代以上	5 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 40.0	1 20.0	0 0.0	0 0.0		
		総数	一緒に 行う仲間	出 スポーツ用具等の貸	施設の 利用料減免	その他	特 にない	行 いたいと思わ ない	わ から ない	無 回 答		

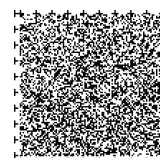
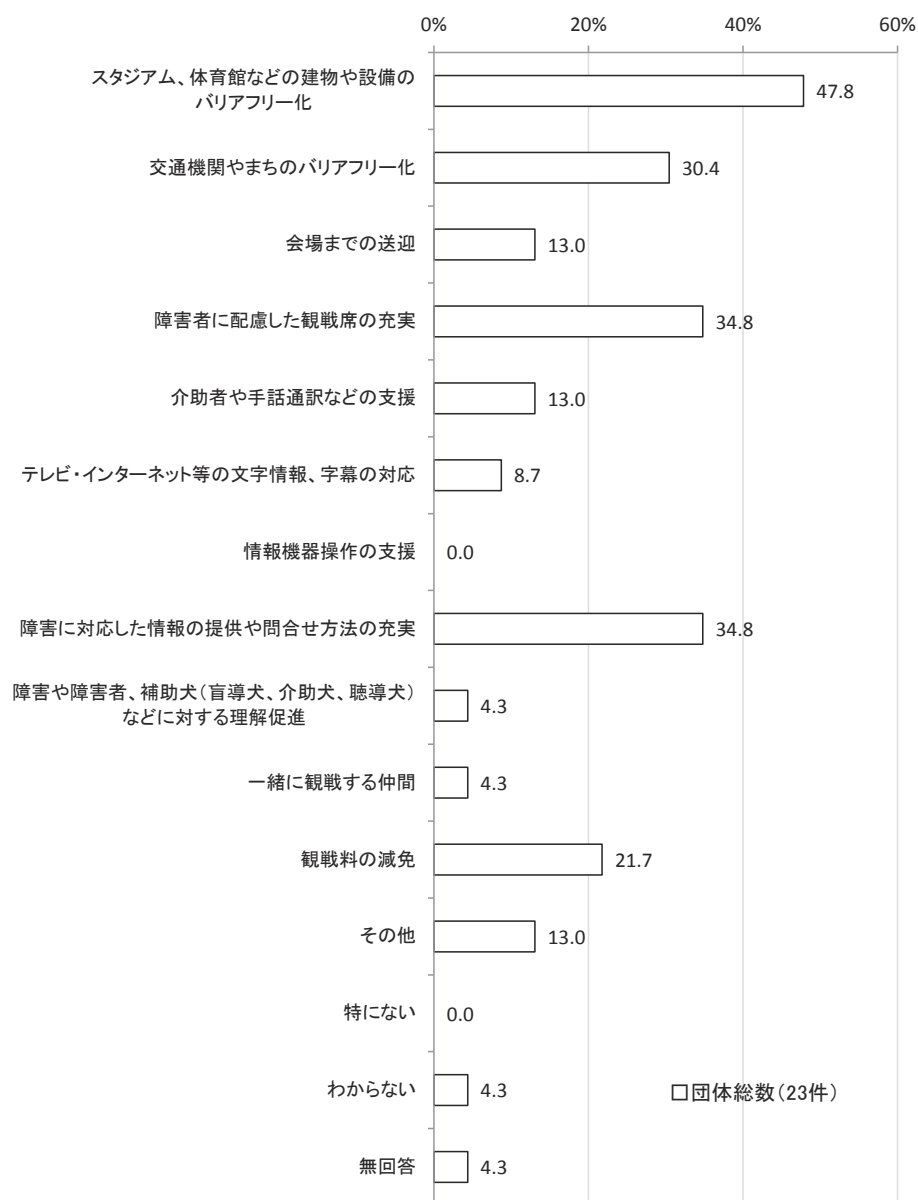


(8) 当事者会員がスポーツ観戦をする上で必要な支援

当事者会員がスポーツ観戦をする上で必要な支援については、「スタジアム、体育館などの建物や設備のバリアフリー化」が 47.8% (11 団体)、「障害者に配慮した観戦席の充実」が 34.8% (8 団体)、「障害に対応した情報の提供や問合せ方法の充実」が 34.8% (8 団体) だった。

また、障害者団体ヒアリングでは、スタジアムや体育館などの建物で、障害者等と介助者が隣で一緒に観戦できるようにしてほしい（肢体不自由）、スタッフが障害者等とのコミュニケーションに慣れてくれると有難い（聴覚）との意見がみられた。

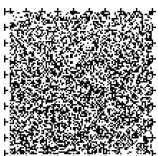
図表 3-26 当事者会員がスポーツ観戦をする上で必要な支援〔3つまで〕(Q7)



図表 3-27 当事者会員がスポーツ観戦をする上で必要な支援〔3つまで〕(Q7)

ー最も当事者会員の多い障害別

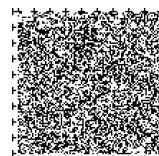
		総 数	化 建 物 や 設 備 の バ リ ア フ リ ー	交 通 機 関 や ま ち の バ リ ア フ リ ー	会 場 ま で の 送 迎	障 害 者 に 配 慮 し た 観 戦 席 の 充 実	支 援 介 助 者 や 手 話 通 訳 な ど の	テ レ ビ ・ イン ター ネ ット 等 の 文 字 情 報 、 字 幕 の 対 応	情 報 機 器 操 作 の 支 援	障 害 に 対 応 し た 情 報 の 提 供 や 問 合 せ 方 法 の 充 実
団体総数		23 100.0	11 47.8	7 30.4	3 13.0	8 34.8	3 13.0	2 8.7	0 0.0	8 34.8
Q7. 当事者会員の障害名「最も当事者会員数が多い障害」	肢体不自由	5 100.0	5 100.0	3 60.0	0 0.0	3 60.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 40.0
	視覚障害	3 100.0	2 66.7	1 33.3	1 33.3	1 33.3	1 33.3	0 0.0	0 0.0	1 33.3
	聴覚障害	2 100.0	0 0.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	1 50.0	1 50.0	0 0.0	2 100.0
	音声・言語・そしゃく機能障害	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	知的障害	2 100.0	2 100.0	1 50.0	0 0.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 50.0
	精神障害	4 100.0	0 0.0	0 0.0	1 25.0	1 25.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 25.0
	内部障害、難病等	3 100.0	1 33.3	0 0.0	0 0.0	1 33.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 33.3
	その他	1 100.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	1 100.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0
		総 数	障 害 者 、 補 助 犬 （ 盲 導 犬 、 介 助 犬 、 聴 導 犬 ） な ど に 対 し て の 理 解 促 進	一 緒 に 観 戦 す る 仲 間	観 戦 料 の 減 免	そ の 他	特 に な い	わ か ら な い	無 回 答	
団体総数		23 100.0	1 4.3	1 4.3	5 21.7	3 13.0	0 0.0	1 4.3	1 4.3	
Q7. 当事者会員の障害名「最も当事者会員数が多い障害」	肢体不自由	5 100.0	1 20.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	
	視覚障害	3 100.0	0 0.0	0 0.0	1 33.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	
	聴覚障害	2 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	
	音声・言語・そしゃく機能障害	1 100.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	
	知的障害	2 100.0	0 0.0	0 0.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	
	精神障害	4 100.0	0 0.0	0 0.0	1 25.0	1 25.0	0 0.0	0 0.0	1 25.0	
	内部障害、難病等	3 100.0	0 0.0	1 33.3	1 33.3	1 33.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	
	その他	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	



図表 3-28 当事者会員がスポーツ観戦をする上で必要な支援〔3つまで〕(Q7)

ー当事者会員の平均年齢別

		総 数	スタジアム、体育館などの建 物や設備のバリアフリー化	交 通 機 関 や ま ち の バ リ ア フ リ ー 化	会 場 ま で の 送 迎	障 害 者 に 配 慮 し た 観 戦 席 の 充 実	介 助 者 や 手 話 通 訳 な ど の 支 援	テ レ ビ ・ イ ン タ ー ネ ッ ト 等 の 文 字 情 報 、 字 幕 の 対 応	情 報 機 器 操 作 の 支 援	障 害 に 対 応 し た 情 報 の 提 供 や 問 合 せ 方 法 の 充 実
団体総数		23 100.0	11 47.8	7 30.4	3 13.0	8 34.8	3 13.0	2 8.7	0 0.0	8 34.8
Q4. 当事者会員の平均年齢	40代	6 100.0	4 66.7	3 50.0	1 16.7	2 33.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 16.7
	50代	3 100.0	2 66.7	1 33.3	0 0.0	2 66.7	1 33.3	1 33.3	0 0.0	2 66.7
	60代	3 100.0	0 0.0	1 33.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 66.7
	70代以上	5 100.0	4 80.0	2 40.0	1 20.0	2 40.0	1 20.0	0 0.0	0 0.0	1 20.0
		総 数	障 害 や 障 害 者 、 補 助 犬 (盲 導 犬 、 介 助 犬 、 聴 導 犬) な ど に 対 する 理 解 促 進	一 緒 に 観 戦 す る 仲 間	観 戦 料 の 減 免	そ の 他	特 に な い	わ か ら な い	無 回 答	
団体総数		23 100.0	1 4.3	1 4.3	5 21.7	3 13.0	0 0.0	1 4.3	1 4.3	
Q4. 当事者会員の平均年齢	40代	6 100.0	1 16.7	0 0.0	1 16.7	0 0.0	0 0.0	1 16.7	0 0.0	
	50代	3 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	
	60代	3 100.0	0 0.0	1 33.3	2 66.7	1 33.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	
	70代以上	5 100.0	0 0.0	0 0.0	1 20.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	



3 東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会について

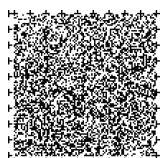
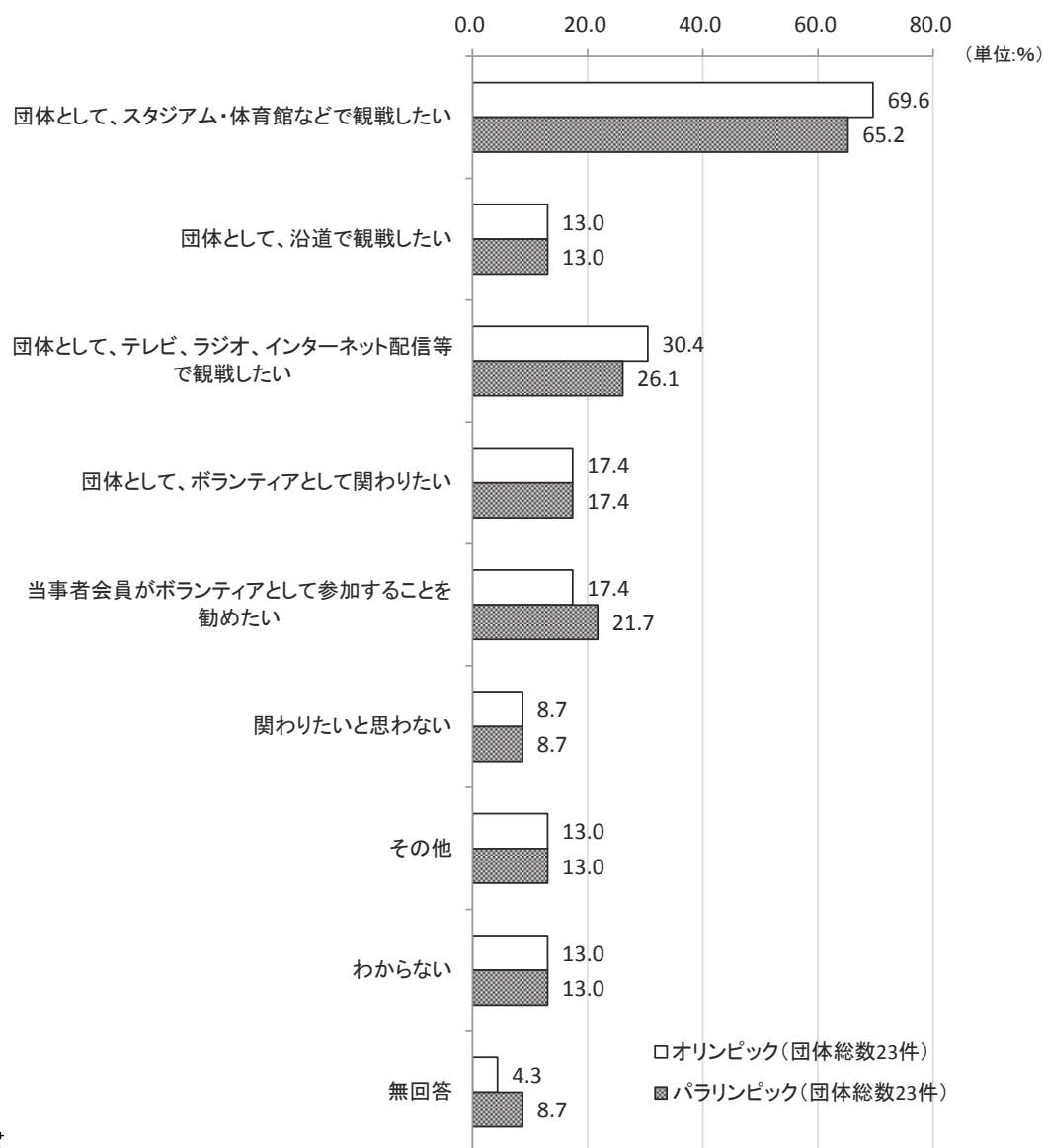
(1) 東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会への関わり方

東京 2020 オリンピックについては、「団体として、スタジアム・体育館などで観戦したい」団体が 69.6%（16 団体）だった。

最も当事者会員が多い障害別にみると、肢体不自由、視覚障害、聴覚障害、知的障害では全ての団体が「団体として、スタジアム・体育館などで観戦したい」と回答した。

東京 2020 パラリンピックについても「団体として、スタジアム・体育館などで観戦したい」の回答が多く、65.2%（15 団体）だった。

図表 3-29 東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会への関わり方
〔複数回答〕(Q8)



図表 3-30 東京 2020 オリンピックへの関わり方〔複数回答〕(Q8)

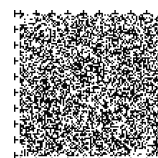
ー最も当事者会員が多い障害別

	総数	団体として、スタジアム・体育館などで観戦したい	団体として、沿道で観戦したい	団体として、テレビ、ラジオ、インターネット配信等で観戦したい	団体として、ボランティアとして関わりたい	当事者会員がボランティアとして参加することを勧めたい	関わりたいと思わない	その他	わからない	無回答
団体総数	23 100.0	16 69.6	3 13.0	7 30.4	4 17.4	4 17.4	2 8.7	3 13.0	3 13.0	1 4.3
Q1. 当事者会員の障害名、最も当事者会員数が多い障害	肢体不自由	5 100.0	5 100.0	1 20.0	3 60.0	2 40.0	1 20.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	視覚障害	3 100.0	3 100.0	0 0.0	1 33.3	0 0.0	1 33.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	聴覚障害	2 100.0	2 100.0	0 0.0	0 0.0	1 50.0	1 50.0	0 0.0	1 50.0	0 0.0
	音声・言語・そしゃく機能障害	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0
	知的障害	2 100.0	2 100.0	1 50.0	0 0.0	1 50.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	精神障害	4 100.0	1 25.0	0 0.0	1 25.0	0 0.0	0 0.0	1 25.0	2 50.0	0 25.0
	内部障害、難病等	3 100.0	1 33.3	0 0.0	1 33.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 66.7	0 0.0
	その他	1 100.0	1 100.0	1 100.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0

図表 3-31 東京 2020 オリンピックへの関わり方〔複数回答〕(Q8)

ー当事者会員の平均年齢別

	総数	団体として、スタジアム・体育館などで観戦したい	団体として、沿道で観戦したい	団体として、テレビ、ラジオ、インターネット配信等で観戦したい	団体として、ボランティアとして関わりたい	当事者会員がボランティアとして参加することを勧めたい	関わりたいと思わない	その他	わからない	無回答
団体総数	23 100.0	16 69.6	3 13.0	7 30.4	4 17.4	4 17.4	2 8.7	3 13.0	3 13.0	1 4.3
Q4. 当事者会員の平均年齢	40代	6 100.0	5 83.3	0 0.0	2 33.3	1 16.7	1 16.7	1 16.7	0 0.0	0 0.0
	50代	3 100.0	3 100.0	1 33.3	1 33.3	1 33.3	0 0.0	0 0.0	1 33.3	0 0.0
	60代	3 100.0	2 66.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 66.7	0 0.0	1 33.3	0 0.0
	70代以上	5 100.0	4 80.0	0 0.0	3 60.0	1 20.0	0 0.0	0 0.0	1 20.0	0 0.0



図表 3-32 東京 2020 パラリンピックへの関わり方〔複数回答〕(Q8)

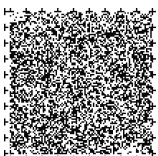
ー最も当事者会員が多い障害別

	総数	団体として、スタジアム・体育館などで観戦したい	団体として、沿道で観戦したい	団体として、テレビ、ラジオ、インターネット配信等で観戦したい	団体として、ボランティアとして関わりたい	当事者会員がボランティアとして参加することを勧めたい	関わりたいと思わない	その他	わからない	無回答
団体総数	23 100.0	15 65.2	3 13.0	6 26.1	4 17.4	5 21.7	2 8.7	3 13.0	3 13.0	2 8.7
Q1. 当事者会員の障害名「最も当事者会員数が多い障害」	肢体不自由	5 100.0	5 100.0	1 20.0	3 60.0	2 40.0	1 20.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	視覚障害	3 100.0	2 66.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 66.7	0 0.0	0 0.0	1 33.3
	聴覚障害	2 100.0	2 100.0	0 0.0	0 0.0	1 50.0	1 50.0	0 0.0	1 50.0	0 0.0
	音声・言語・そしゃく機能障害	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0
	知的障害	2 100.0	2 100.0	1 50.0	0 0.0	1 50.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	精神障害	4 100.0	1 25.0	0 0.0	1 25.0	0 0.0	0 0.0	1 25.0	2 50.0	0 25.0
	内部障害、難病等	3 100.0	1 33.3	0 0.0	1 33.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 66.7	0 0.0
	その他	1 100.0	1 100.0	1 100.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0

図表 3-33 東京 2020 パラリンピックへの関わり方〔複数回答〕(Q8)

ー当事者会員の平均年齢別

	総数	団体として、スタジアム・体育館などで観戦したい	団体として、沿道で観戦したい	団体として、テレビ、ラジオ、インターネット配信等で観戦したい	団体として、ボランティアとして関わりたい	当事者会員がボランティアとして参加することを勧めたい	関わりたいと思わない	その他	わからない	無回答
団体総数	23 100.0	15 65.2	3 13.0	6 26.1	4 17.4	5 21.7	2 8.7	3 13.0	3 13.0	2 8.7
Q1. 当事者会員の平均年齢	40代	6 100.0	5 83.3	0 0.0	2 33.3	1 16.7	1 16.7	1 16.7	0 0.0	0 0.0
	50代	3 100.0	3 100.0	1 33.3	1 33.3	1 33.3	1 33.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	60代	3 100.0	2 66.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 66.7	0 0.0	1 33.3	0 0.0
	70代以上	5 100.0	3 60.0	0 0.0	2 40.0	1 20.0	0 0.0	0 0.0	1 20.0	1 20.0



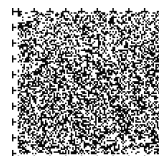
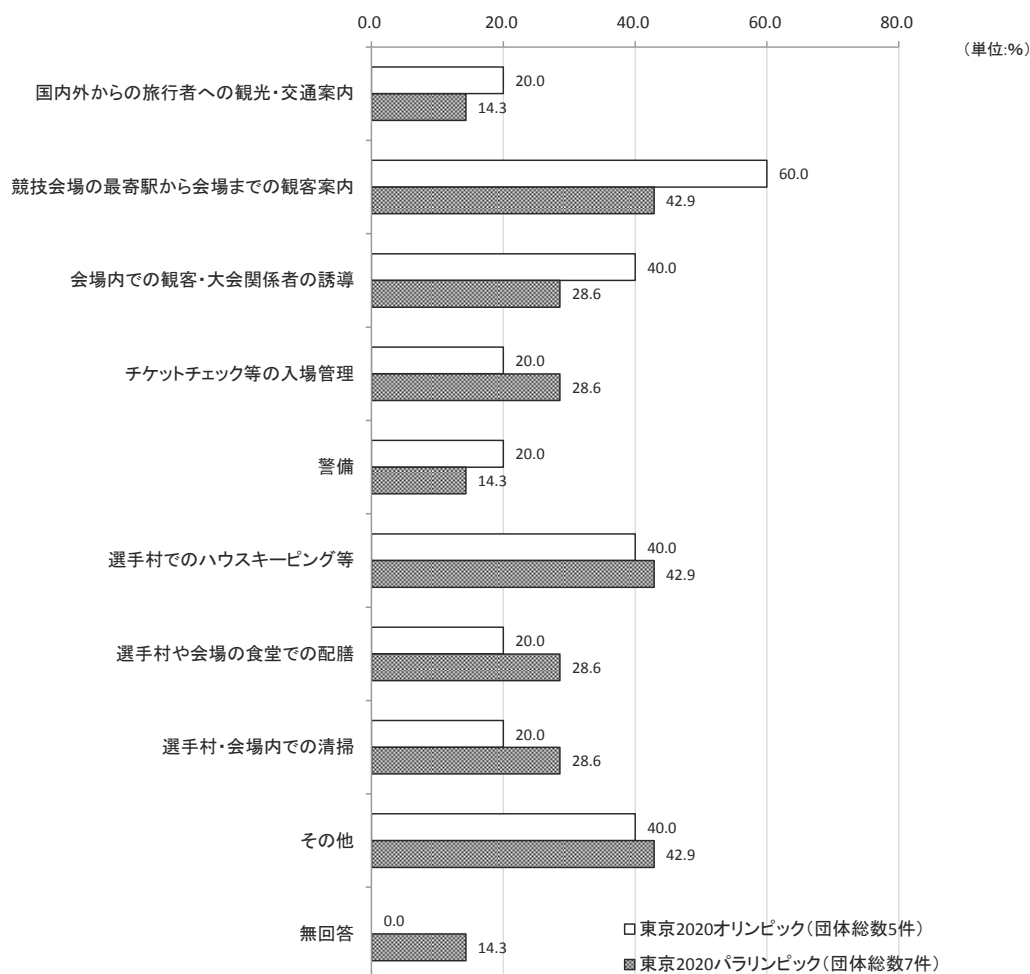
(2) 東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会に関わりたいボランティア活動

(※「団体として、ボランティアとして関わりたい」、「当事者会員がボランティアとして参加することを勧めたい」と回答した団体（東京 2020 オリンピック 5 団体、東京 2020 パラリンピック 7 団体）が対象）

「団体として、ボランティアとして関わりたい」、「当事者会員がボランティアとして参加することを勧めたい」と回答した団体（東京 2020 オリンピック 21.7%、5 団体、東京 2020 パラリンピック 30.4%、7 団体）に、どのようなボランティアとして関わりたいかを尋ねた。

東京 2020 オリンピックについては、「競技会場の最寄駅から会場までの観客案内」が 60.0%、3 団体だった。東京 2020 パラリンピックについては、「競技会場の最寄駅から会場までの観客案内」、「選手村でのハウスキーピング等」が 42.9%、3 団体ずつだった。

図表 3-34 東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会に関わりたい
ボランティア活動〔複数回答〕(Q8-1)



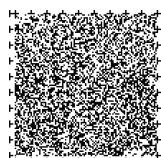
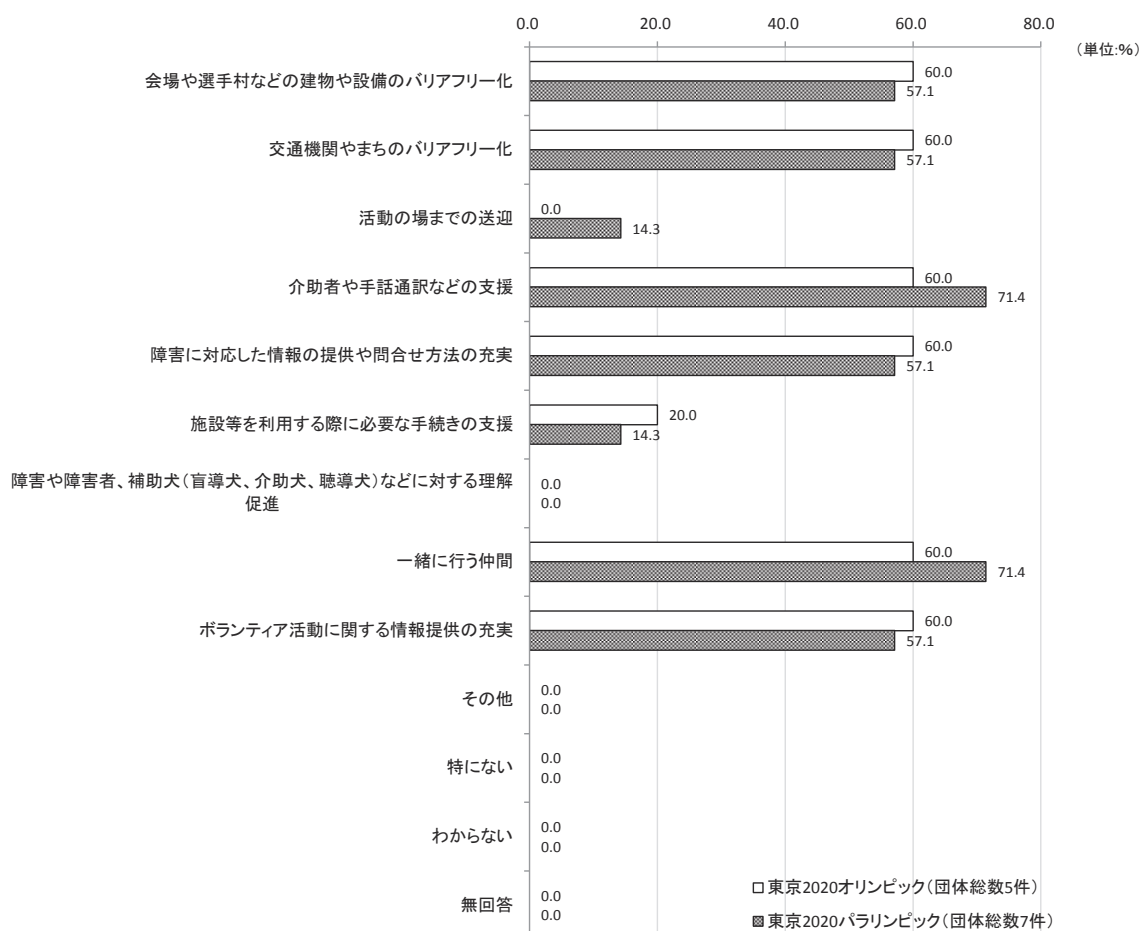
(3) 東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会で当事者会員がボランティアを行う際に必要な支援

(※「団体として、ボランティアとして関わりたい」、「当事者会員がボランティアとして参加することを勧めたい」と回答した団体（東京 2020 オリンピック 5 団体、東京 2020 パラリンピック 7 団体）が対象）

東京 2020 オリンピックで当事者会員がボランティアを行う際に必要な支援は、「会場や選手村などの建物や設備のバリアフリー化」、「交通機関やまちのバリアフリー化」、「介助者や手話通訳などの支援」、「障害に対応した情報の提供や問い合わせ方法の充実」、「一緒に行く仲間」、「ボランティア活動に関する情報提供の充実」が 60.0%、3 団体ずつと、幅広い回答が挙げられた。

東京 2020 パラリンピックについては、「介助者や手話通訳などの支援」、「一緒に行く仲間」が 71.4%、5 団体ずつだった。

図表 3-35 東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会で当事者会員がボランティアを行う際に必要な支援〔複数回答〕(Q8-2)

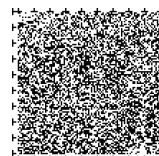
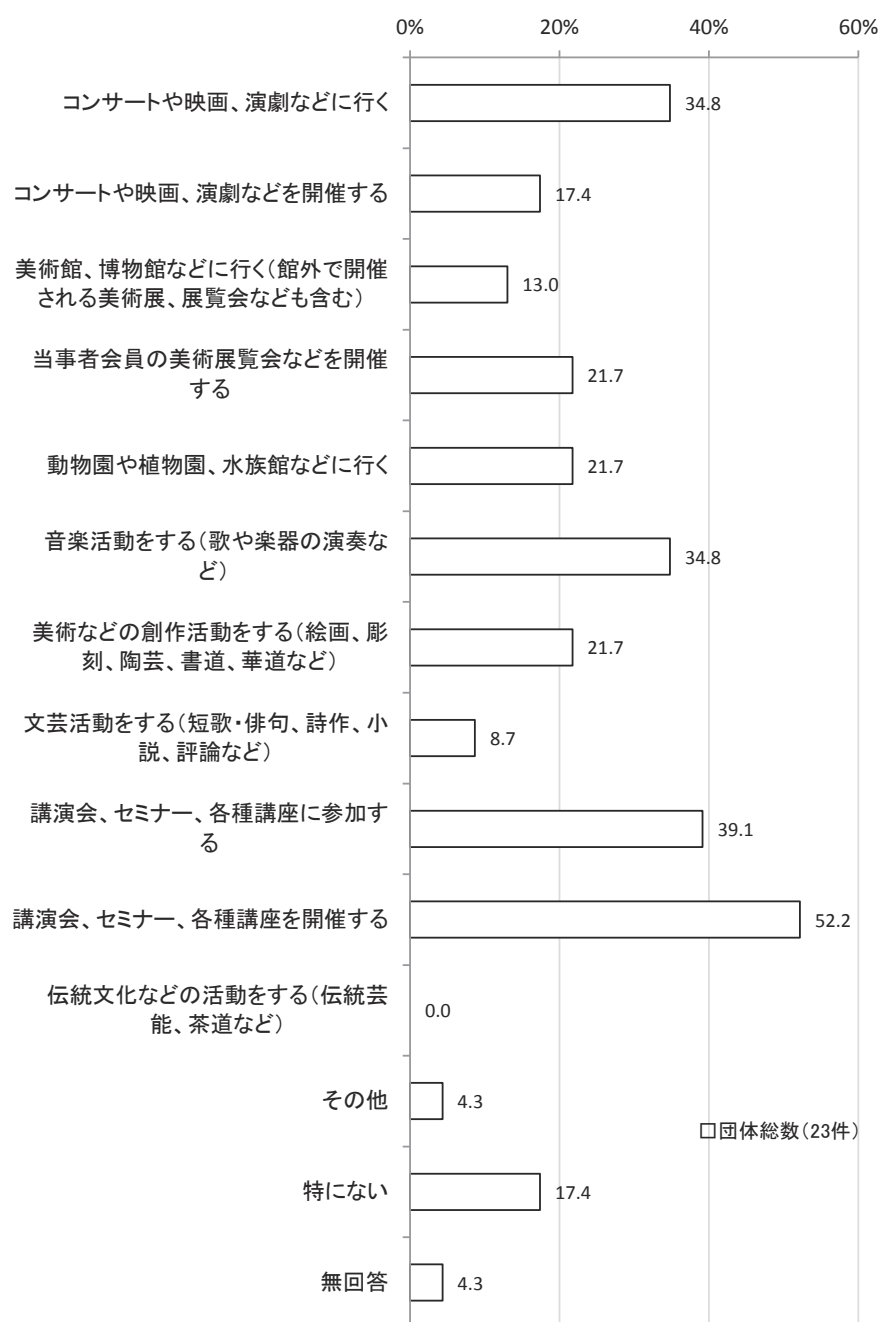


4 文化、芸術活動について

(1) 文化、芸術活動に関するイベント・取組の状況

文化、芸術活動に関するイベント・取組については、「講演会、セミナー、各種講座を開催する」団体が多く、52.2%（12 団体）だった。

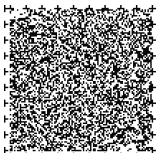
図表 3-36 文化、芸術活動に関するイベント・取組の状況〔複数回答〕（Q9）



図表 3-37 文化、芸術活動に関するイベント・取組の状況〔複数回答〕(Q9)

ー最も当事者会員が多い障害別

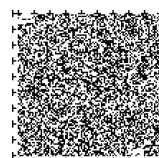
		総数	コンサートや映画、演劇などに行く	コンサートや映画、演劇などを開催する	美術館、博物館などに行く（館外で開催される美術展、展覧会なども含む）	当事者会員の美術展覧会などを開催する	動物園や植物園、水族館などに行く	音楽活動をする（歌や楽器の演奏など）	美術などの創作活動をする（絵画、彫刻、陶芸、書道、華道など）
団体総数		23 100.0	8 34.8	4 17.4	3 13.0	5 21.7	5 21.7	8 34.8	5 21.7
Q9. 当事者会員の障害名「最も当事者会員数が多い障害」	肢体不自由	5 100.0	3 60.0	1 20.0	1 20.0	0 0.0	1 20.0	1 20.0	1 20.0
	視覚障害	3 100.0	2 66.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 66.7	0 0.0
	聴覚障害	2 100.0	1 50.0	1 50.0	0 0.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	2 100.0
	音声・言語・そしゃく機能障害	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	知的障害	2 100.0	1 50.0	1 50.0	0 0.0	2 100.0	1 50.0	2 100.0	0 0.0
	精神障害	4 100.0	1 25.0	0 0.0	1 25.0	1 25.0	1 25.0	1 25.0	1 25.0
	内部障害、難病等	3 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 33.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	その他	1 100.0	0 0.0	1 100.0	1 100.0	0 0.0	1 100.0	1 100.0	1 100.0
		総数	文芸活動をする（短歌・俳句、詩作、小説、評論など）	講演会、セミナー、各種講座に参加する	講演会、セミナー、各種講座を開催する	伝統文化などの活動をする（伝統芸能、茶道など）	その他	特にない	無回答
団体総数		23 100.0	2 8.7	9 39.1	12 52.2	0 0.0	1 4.3	4 17.4	1 4.3
Q9. 当事者会員の障害名「最も当事者会員数が多い障害」	肢体不自由	5 100.0	0 0.0	2 40.0	2 40.0	0 0.0	0 0.0	1 20.0	0 0.0
	視覚障害	3 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 33.3
	聴覚障害	2 100.0	0 0.0	1 50.0	2 100.0	0 0.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0
	音声・言語・そしゃく機能障害	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0
	知的障害	2 100.0	0 0.0	2 100.0	2 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	精神障害	4 100.0	2 50.0	1 25.0	2 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	内部障害、難病等	3 100.0	0 0.0	2 66.7	2 66.7	0 0.0	0 0.0	1 33.3	0 0.0
	その他	1 100.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0



図表 3-38 文化、芸術活動に関するイベント・取組の状況〔複数回答〕

－当事者会員の平均年齢別

		総数	コンサートや映画、演劇などに行く	コンサートや映画、演劇などを開催する	美術館、博物館などに行く（館外で開催される美術展、展覧会なども含む）	当事者会員の美術展覧会などを開催する	動物園や植物園、水族館などに行く	音楽活動をする（歌や楽器の演奏など）	美術などの創作活動をする（絵画、彫刻、陶芸、書道、華道など）
団体総数		23 100.0	8 34.8	4 17.4	3 13.0	5 21.7	5 21.7	8 34.8	5 21.7
Q4. 当事者会員の平均年齢	40代	6 100.0	1 16.7	0 0.0	0 0.0	1 16.7	2 33.3	2 33.3	1 16.7
	50代	3 100.0	0 0.0	1 33.3	0 0.0	1 33.3	0 0.0	0 0.0	1 33.3
	60代	3 100.0	2 66.7	0 0.0	0 0.0	1 33.3	0 0.0	1 33.3	1 33.3
	70代以上	5 100.0	3 60.0	1 20.0	1 20.0	0 0.0	1 20.0	2 40.0	1 20.0
		総数	文芸活動をする（短歌・俳句、詩作、小説、評論など）	講演会、セミナー、各種講座に参加する	講演会、セミナー、各種講座を開催する	伝統文化などの活動をする（伝統芸能、茶道など）	その他	特にない	無回答
団体総数		23 100.0	2 8.7	9 39.1	12 52.2	0 0.0	1 4.3	4 17.4	1 4.3
Q4. 当事者会員の平均年齢	40代	6 100.0	0 0.0	3 50.0	2 33.3	0 0.0	0 0.0	2 33.3	0 0.0
	50代	3 100.0	0 0.0	1 33.3	2 66.7	0 0.0	1 33.3	0 0.0	1 33.3
	60代	3 100.0	0 0.0	2 66.7	2 66.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	70代以上	5 100.0	0 0.0	2 40.0	2 40.0	0 0.0	0 0.0	1 20.0	0 0.0

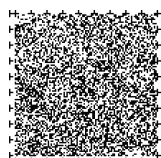
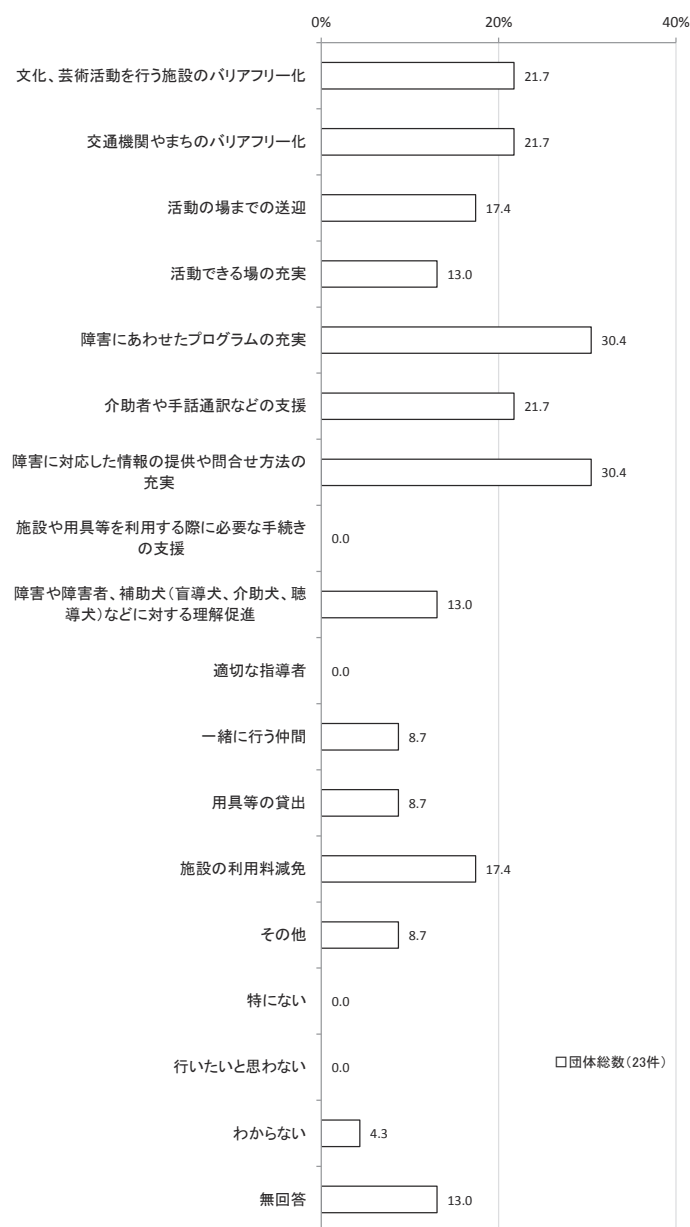


(2) 文化、芸術活動に関するイベント・取組を行う際に必要な支援

文化、芸術活動に関するイベント・取組を行う際に必要な支援は、「障害にあわせたプログラムの充実」、「障害に対応した情報の提供や問合せ方法の充実」が 30.4%（7 団体）ずつだった。

また、障害者団体ヒアリングでは、障害者等と介助者 2 人分の入場料が必要となるため、経済的な負担が大きいとの意見がみられた（視覚）。大学の公開講座や地域において、障害者を対象とした講座があると参加しやすい（知的）、文化、芸術活動に関する発表の場が少ない（知的）、文化、芸術活動の取組に地域差がみられる（知的）という意見もあった。

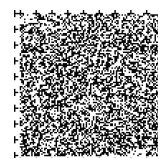
図表 3-39 文化、芸術活動に関するイベント・取組を行う際に必要な支援〔3 つまで〕(Q10)



図表 3-40 文化、芸術活動に関するイベント・取組を行う際に必要な支援〔3つまで〕(Q10)

ー最も当事者会員が多い障害別

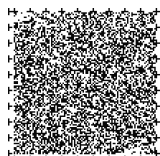
		総数	文化、芸術活動を行う施設のバリアフリー化	交通機関やまちのバリアフリー化	活動の場までの送迎	活動できる場の充実	障害にあわせたプログラムの充実	介助者や手話通訳などの支援	障害に対応した情報の提供や問合せ方法の充実	施設や用具等を利用する際に必要な手続きの支援	障害や障害者、補助犬(盲導犬、介助犬、聴導犬)などに対する理解促進	適切な指導者
団体総数		23 100.0	5 21.7	5 21.7	4 17.4	3 13.0	7 30.4	5 21.7	7 30.4	0 0.0	3 13.0	0 0.0
Q1. 当事者会員の障害名「最も当事者会員数が多い障害」	肢体不自由	5 100.0	2 40.0	3 60.0	0 0.0	1 20.0	1 20.0	1 20.0	1 20.0	0 0.0	2 40.0	0 0.0
	視覚障害	3 100.0	1 33.3	1 33.3	1 33.3	0 0.0	1 33.3	1 33.3	1 33.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	聴覚障害	2 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 100.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	音声・言語・そしゃく機能障害	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	知的障害	2 100.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	1 50.0	2 100.0	0 0.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	精神障害	4 100.0	0 0.0	0 0.0	1 25.0	0 0.0	1 25.0	0 0.0	2 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	内部障害、難病等	3 100.0	0 0.0	0 0.0	1 33.3	1 33.3	1 33.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 33.3	0 0.0
	その他	1 100.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	1 100.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
		総数	一緒に 行う仲間	用具等の 貸出	施設の 利用料減免	その他	特 にない	行 いたいと思 わない	わ から ない	無 回 答		
団体総数		23 100.0	2 8.7	2 8.7	4 17.4	2 8.7	0 0.0	0 0.0	1 4.3	3 13.0		
Q1. 当事者会員の障害名「最も当事者会員数が多い障害」	肢体不自由	5 100.0	0 0.0	0 0.0	1 20.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0		
	視覚障害	3 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 33.3		
	聴覚障害	2 100.0	0 0.0	1 50.0	1 50.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0		
	音声・言語・そしゃく機能障害	1 100.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0		
	知的障害	2 100.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0		
	精神障害	4 100.0	0 0.0	1 25.0	1 25.0	1 25.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 25.0		
	内部障害、難病等	3 100.0	1 33.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 33.3		
	その他	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0		



図表 3-41 文化、芸術活動に関するイベント・取組を行う際に必要な支援〔3つまで〕(Q10)

—当事者会員の平均年齢別

		総数	文化、芸術活動を行う施設のバリアフリー化	交通機関やまちのバリアフリー化	活動の場までの送迎	活動できる場の充実	障害にあわせたプログラムの充実	介助者や手話通訳などの支援	障害に対応した情報の提供や問合せ方法の充実	施設や用具等を利用する際に必要な手続きの支援	障害や障害者、補助犬(盲導犬、介助犬、聴導犬)などに対する理解促進	適切な指導者
団体総数		23 100.0	5 21.7	5 21.7	4 17.4	3 13.0	7 30.4	5 21.7	7 30.4	0 0.0	3 13.0	0 0.0
均年齢	Q4. 当事者会員の平均年齢											
	40代	6 100.0	3 50.0	1 16.7	1 16.7	1 16.7	2 33.3	0 0.0	4 66.7	0 0.0	1 16.7	0 0.0
	50代	3 100.0	0 0.0	1 33.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 66.7	1 33.3	0 0.0	1 33.3	0 0.0
	60代	3 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 33.3	1 33.3	2 66.7	1 33.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	70代以上	5 100.0	2 40.0	3 60.0	2 40.0	0 0.0	1 20.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 20.0	0 0.0
		総数	一緒に 行う仲間	用具等 の貸出	施設 の利用料減免	その他	特 にない	行 いたいと思 わない	わ か ら ない	無 回 答		
団体総数		23 100.0	2 8.7	2 8.7	4 17.4	2 8.7	0 0.0	0 0.0	1 4.3	3 13.0		
均年齢	Q4. 当事者会員の平均年齢											
	40代	6 100.0	0 0.0	1 16.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 16.7	0 0.0		
	50代	3 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 33.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 33.3		
	60代	3 100.0	1 33.3	1 33.3	1 33.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0		
	70代以上	5 100.0	0 0.0	0 0.0	2 40.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0		



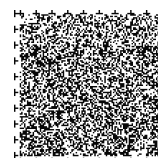
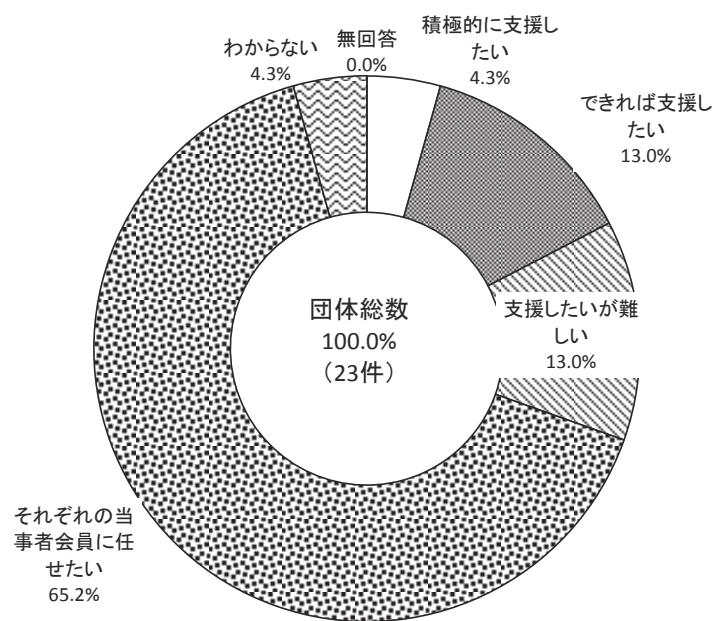
5 ボランティア活動について

(1) 当事者会員のボランティア活動参加についての障害者団体の考え

当事者会員のボランティア活動参加については、「それぞれの当事者会員に任せたい」とする障害者団体が多く、65.2%（15 団体）だった。

「積極的に支援したい」団体は 1 団体のみで、「できれば支援したい」、「支援したいが難しい」という団体が 3 団体ずつみられた。

図表 3-42 当事者会員のボランティア活動参加についての障害者団体の考え〔単数回答〕(Q11)

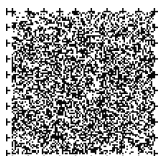


図表 3-43 当事者会員のボランティア活動参加についての障害者団体の考え〔単数回答〕(Q11)

―最も当事者会員が多い障害別								
		総 数	積 極 的 に 支 援 し た い	で き れ ば 支 援 し た い	支 援 し た い が 難 し い	そ れ ぞ れ の 当 事 者 会 員 に 任 せ た い	わ か ら な い	無 回 答
団体総数		23 100.0	1 4.3	3 13.0	3 13.0	15 65.2	1 4.3	0 0.0
Q11. 当事者会員の障害名「最も当事者会員数が多い障害」	肢体不自由	5 100.0	0 0.0	1 20.0	1 20.0	3 60.0	0 0.0	0 0.0
	視覚障害	3 100.0	0 0.0	0 0.0	1 33.3	1 33.3	1 33.3	0 0.0
	聴覚障害	2 100.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0
	音声・言語・そしゃく機能障害	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0
	知的障害	2 100.0	0 0.0	1 50.0	0 0.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0
	精神障害	4 100.0	0 0.0	1 25.0	0 0.0	3 75.0	0 0.0	0 0.0
	内部障害、難病等	3 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3 100.0	0 0.0	0 0.0
	その他	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0

図表 3-44 当事者会員のボランティア活動参加についての障害者団体の考え〔単数回答〕(Q11)

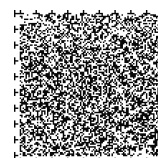
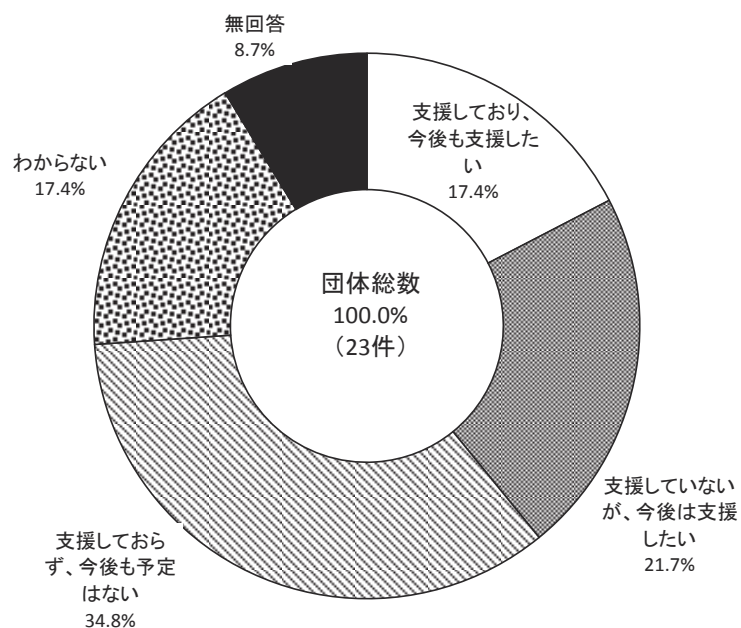
		―当事者会員の平均年齢別						
		総 数	い 積 極 的 に 支 援 し た	で き れ ば 支 援 し た い	支 援 し た い が 難 し い	そ れ ぞ れ の 当 事 者 会 員 に 任 せ た い	わ か ら な い	無 回 答
団体総数		23 100.0	1 4.3	3 13.0	3 13.0	15 65.2	1 4.3	0 0.0
Q4. 当事者会員の平均年齢	40代	6 100.0	0 0.0	2 33.3	2 33.3	2 33.3	0 0.0	0 0.0
	50代	3 100.0	1 33.3	0 0.0	0 0.0	2 66.7	0 0.0	0 0.0
	60代	3 100.0	0 0.0	0 0.0	1 33.3	2 66.7	0 0.0	0 0.0
	70代以上	5 100.0	0 0.0	1 20.0	0 0.0	3 60.0	1 20.0	0 0.0



(2) 当事者会員のボランティア活動参加への支援状況

当事者会員のボランティア活動参加への支援状況は、「支援しておらず、今後も予定はない」が34.8%（8団体）だった。「支援しており、今後も支援したい」が17.4%（4団体）、「支援していないが、今後は支援したい」が21.7%（5団体）だった。

図表 3-45 当事者会員のボランティア活動参加への支援状況〔単数回答〕(Q12)



図表 3-46 当事者会員のボランティア活動参加への支援状況〔単数回答〕(Q12)

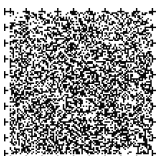
ー最も当事者会員が多い障害別

		総 数	支 援 し て お り 、 今 後 も 支 援 し た い	支 援 し て い な い が 、 今 後 は 支 援 し た い	支 援 し て お ら ず 、 今 後 も 予 定 は な い	わ か ら な い	無 回 答
団体総数		23 100.0	4 17.4	5 21.7	8 34.8	4 17.4	2 8.7
Q1. 当事者会員の障害名「最も当事者会員数が多い障害」	肢体不自由	5 100.0	1 20.0	1 20.0	1 20.0	2 40.0	0 0.0
	視覚障害	3 100.0	0 0.0	1 33.3	0 0.0	0 0.0	2 66.7
	聴覚障害	2 100.0	1 50.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	音声・言語・そしゃく機能障害	1 100.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0
	知的障害	2 100.0	1 50.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	精神障害	4 100.0	0 0.0	1 25.0	3 75.0	0 0.0	0 0.0
	内部障害、難病等	3 100.0	1 33.3	0 0.0	1 33.3	1 33.3	0 0.0
	その他	1 100.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0

図表 3-47 当事者会員のボランティア活動参加への支援状況〔単数回答〕(Q12)

ー当事者会員の平均年齢別

		総 数	支 援 し て お り 、 今 後 も 支 援 し た い	支 援 し て い な い が 、 今 後 は 支 援 し た い	支 援 し て お ら ず 、 今 後 も 予 定 は な い	わ か ら な い	無 回 答
団体総数		23 100.0	4 17.4	5 21.7	8 34.8	4 17.4	2 8.7
Q4. 当事者会員の平均年齢	40代	6 100.0	0 0.0	2 33.3	1 16.7	3 50.0	0 0.0
	50代	3 100.0	1 33.3	1 33.3	0 0.0	0 0.0	1 33.3
	60代	3 100.0	0 0.0	2 66.7	1 33.3	0 0.0	0 0.0
	70代以上	5 100.0	2 40.0	0 0.0	2 40.0	0 0.0	1 20.0



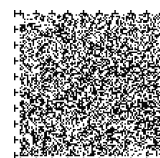
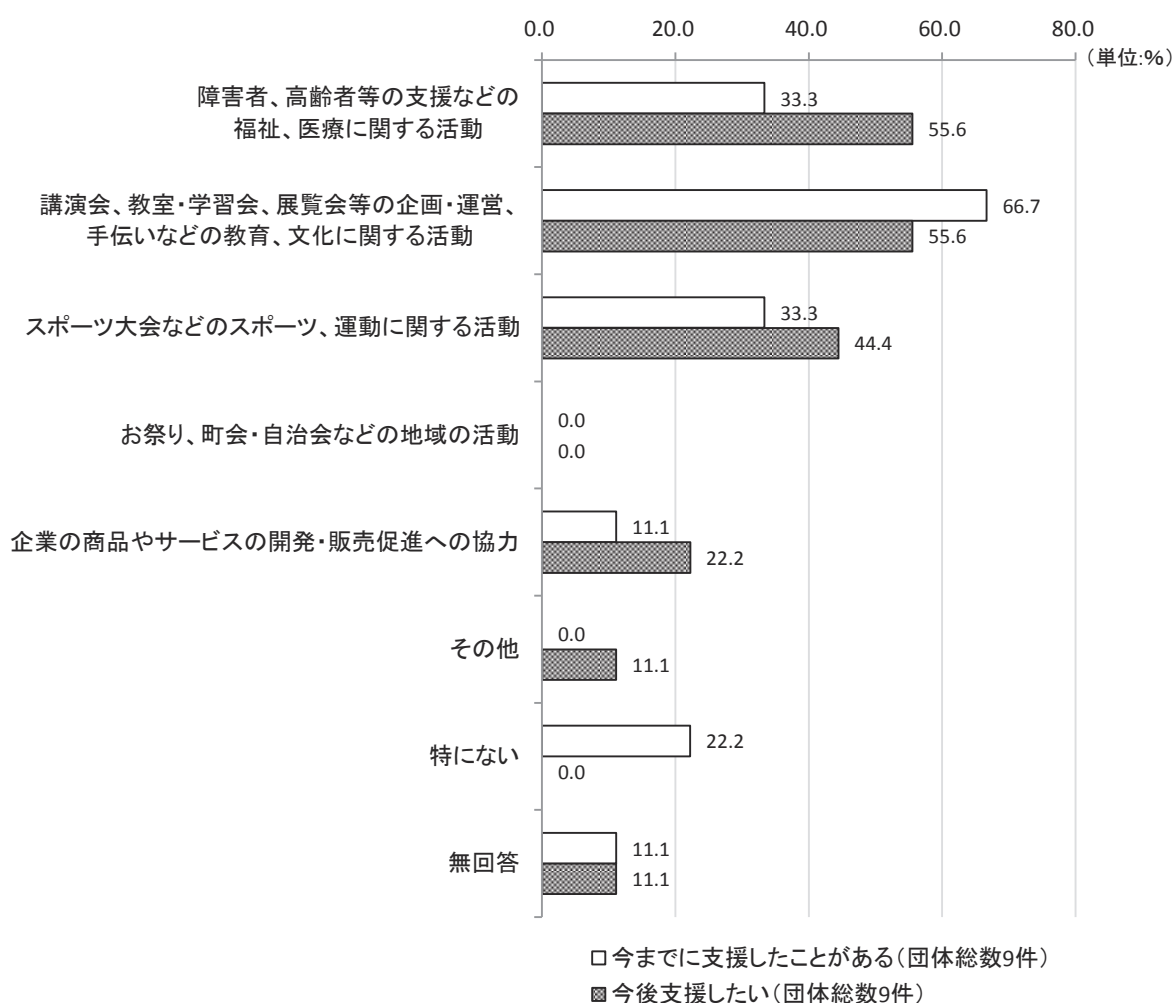
(3) ボランティア活動への参加支援の分野

(※当事者会員のボランティア活動参加への支援状況で「支援しており、今後も支援したい」、「支援していないが、今後は支援したい」と回答した9団体が対象)

当事者会員のボランティア活動を「支援しており、今後も支援したい」、「支援していないが、今後は支援したい」と回答した9団体に、どのような分野のボランティア活動を支援したことがあるか尋ねたところ、「講演会、教室・学習会、展覧会等の企画・運営、手伝いなどの教育、文化に関する活動」が66.7%（6団体）だった。

今後支援したい分野は「障害者、高齢者等の支援などの福祉、医療に関する活動」、「講演会、教室・学習会、展覧会等の企画・運営、手伝いなどの教育、文化に関する活動」がいずれも55.6%（5団体）だった。

図表 3-48 今までに支援したことがある／今後支援したい
ボランティア活動の分野〔複数回答〕(Q12-1)



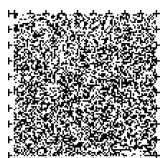
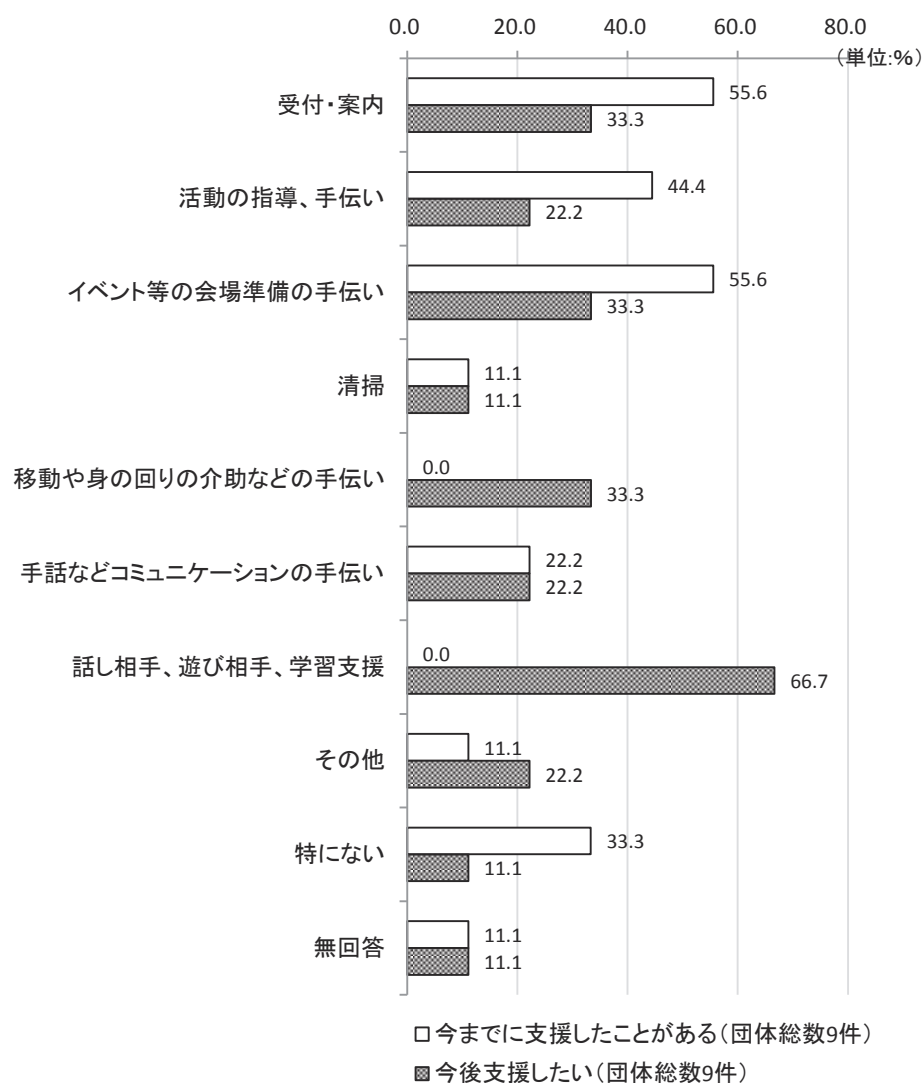
(4) ボランティア活動への参加支援の内容

(※当事者会員のボランティア活動参加への支援状況で「支援しており、今後も支援したい」、「支援していないが、今後は支援したい」と回答した9団体が対象)

今までに支援したことがあるボランティア活動の内容は、「受付・案内」、「イベント等の会場準備の手伝い」が55.6% (5団体) ずつだった。

今後支援したいボランティア活動の内容は、「話し相手、遊び相手、学習支援」が66.7% (6団体) だった。

図表 3-49 今までに支援したことがある／今後支援したいボランティア活動の内容
〔複数回答〕(Q12-2)

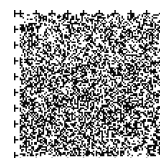
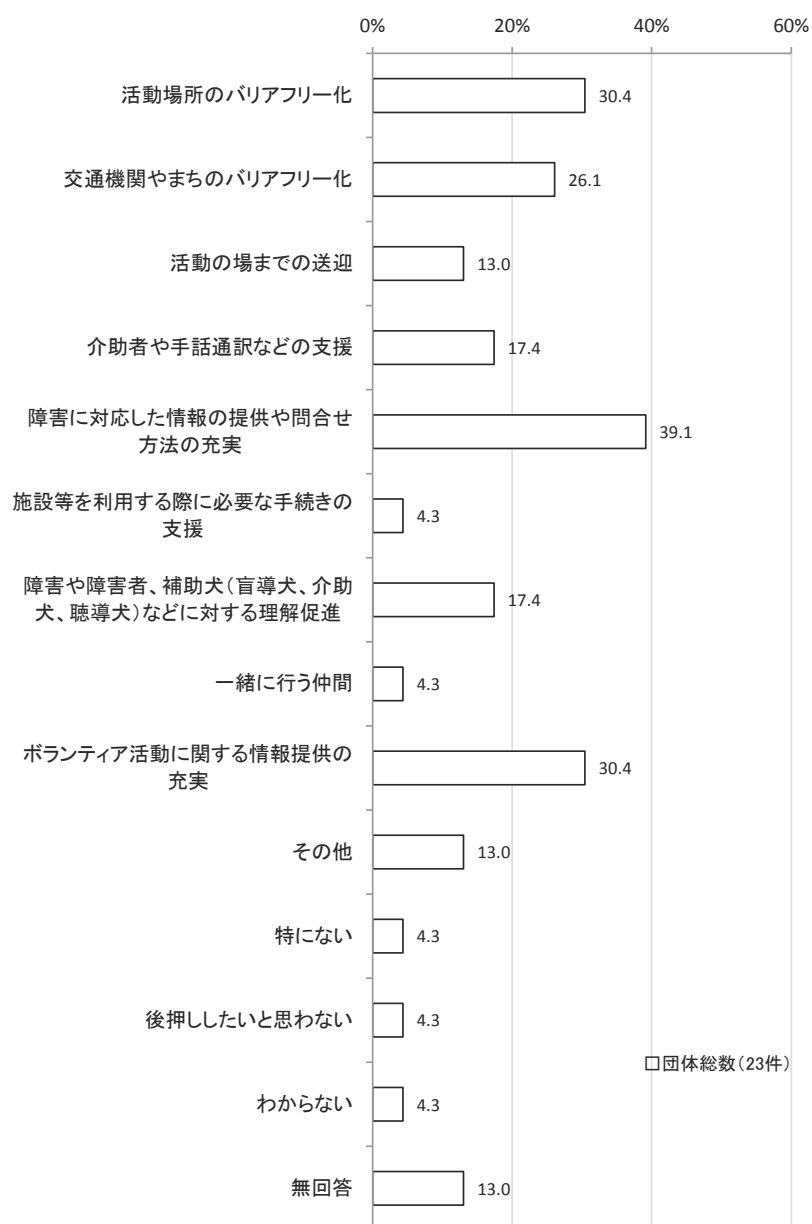


(5) 当事者会員のボランティア活動の後押しに必要な支援

全ての障害者団体に、当事者会員のボランティア活動の後押しに必要な支援を尋ねたところ、「障害に対応した情報の提供や問合せ方法の充実」が 39.1% (9 団体)、「ボランティア活動に関する情報提供の充実」が 30.4% (7 団体) だった。

また、障害者団体ヒアリングでは、パソコンのスキルを身につけてボランティア活動をしたいと思っても、勉強できる環境が整っていないので、現状は活動できていないとの意見がみられた（聴覚）。やりたいものがあってもサポートが必要という課題があるという意見もあった（視覚）。

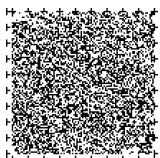
図表 3-50 当事者会員のボランティア活動の後押しに必要な支援〔3 つまで〕(Q13)



図表 3-51 当事者会員のボランティア活動の後押しに必要な支援〔3 つまで〕(Q13)

ー最も当事者会員が多い障害別

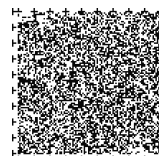
		総 数	活 動 場 所 の バ リ ア フ リ ー 化	交 通 機 関 や ま ち の バ リ ア フ リ ー 化	活 動 の 場 ま で の 送 迎	介 助 者 や 手 話 通 訳 な ど の 支 援	障 害 に 対 応 し た 情 報 の 提 供 や 問 合 せ 方 法 の 充 実	施 設 等 を 利 用 す る 際 に 必 要 な 手 続 き の 支 援	障 害 や 障 害 者 、 補 助 犬 （ 盲 導 犬 、 介 助 犬 、 聴 導 犬 ） な ど に 対 す る 理 解 促 進
団体総数		23 100.0	7 30.4	6 26.1	3 13.0	4 17.4	9 39.1	1 4.3	4 17.4
Q1. 当事者会員の障害名最も多い障害	肢体不自由	5 100.0	4 80.0	3 60.0	0 0.0	1 20.0	2 40.0	0 0.0	2 40.0
	視覚障害	3 100.0	1 33.3	1 33.3	1 33.3	0 0.0	2 66.7	0 0.0	0 0.0
	聴覚障害	2 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 50.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0
	音声・言語・そしゃく機能障害	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0
	知的障害	2 100.0	1 50.0	1 50.0	0 0.0	1 50.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0
	精神障害	4 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 25.0	1 25.0	1 25.0
	内部障害、難病等	3 100.0	0 0.0	0 0.0	1 33.3	0 0.0	1 33.3	0 0.0	0 0.0
	その他	1 100.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
		総 数	一 緒 に 行 う 仲 間	ボ ラ ン テ ィ ア 活 動 に 関 する 情 報 提 供 の 充 実	そ の 他	特 に な い	い 後 押 し し た い と 思 わ な い	わ か ら な い	無 回 答
団体総数		23 100.0	1 4.3	7 30.4	3 13.0	1 4.3	1 4.3	1 4.3	3 13.0
Q2. 当事者会員の障害名最も多い障害	肢体不自由	5 100.0	0 0.0	1 20.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	視覚障害	3 100.0	0 0.0	1 33.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 33.3
	聴覚障害	2 100.0	0 0.0	1 50.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 50.0
	音声・言語・そしゃく機能障害	1 100.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	知的障害	2 100.0	1 50.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	精神障害	4 100.0	0 0.0	0 0.0	1 25.0	0 0.0	1 25.0	0 0.0	1 25.0
	内部障害、難病等	3 100.0	0 0.0	1 33.3	1 33.3	1 33.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	その他	1 100.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0



図表 3-52 当事者会員のボランティア活動の後押しに必要な支援〔3 つまで〕 (Q13)

－当事者会員の平均年齢別

		総数	活動場所のバリアフリー化	交通機関やまちのバリアフリー化	活動の場までの送迎	介助者や手話通訳などの支援	障害に対応した情報の提供や問合せ方法の充実	施設等を利用する際に必要な手続きの支援	障害や障害者、補助犬（盲導犬、介助犬、聴導犬）などに対する理解促進
団体総数		23 100.0	7 30.4	6 26.1	3 13.0	4 17.4	9 39.1	1 4.3	4 17.4
Q4. 当事者会員の平均年齢	40代	6 100.0	4 66.7	2 33.3	0 0.0	1 16.7	4 66.7	1 16.7	2 33.3
	50代	3 100.0	1 33.3	1 33.3	0 0.0	1 33.3	1 33.3	0 0.0	1 33.3
	60代	3 100.0	0 0.0	0 0.0	1 33.3	0 0.0	1 33.3	0 0.0	0 0.0
	70代以上	5 100.0	2 40.0	3 60.0	1 20.0	1 20.0	2 40.0	0 0.0	1 20.0
		総数	一緒に 行う仲間	ボランティア活動に関する 情報提供の充実	その他	特 に な い	後 押 し し た い と 思 わ な い	わ か ら な い	無 回 答
団体総数		23 100.0	1 4.3	7 30.4	3 13.0	1 4.3	1 4.3	1 4.3	3 13.0
Q4. 当事者会員の平均年齢	40代	6 100.0	0 0.0	1 16.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 16.7	0 0.0
	50代	3 100.0	0 0.0	1 33.3	1 33.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 33.3
	60代	3 100.0	0 0.0	1 33.3	0 0.0	1 33.3	0 0.0	0 0.0	1 33.3
	70代以上	5 100.0	0 0.0	2 40.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0

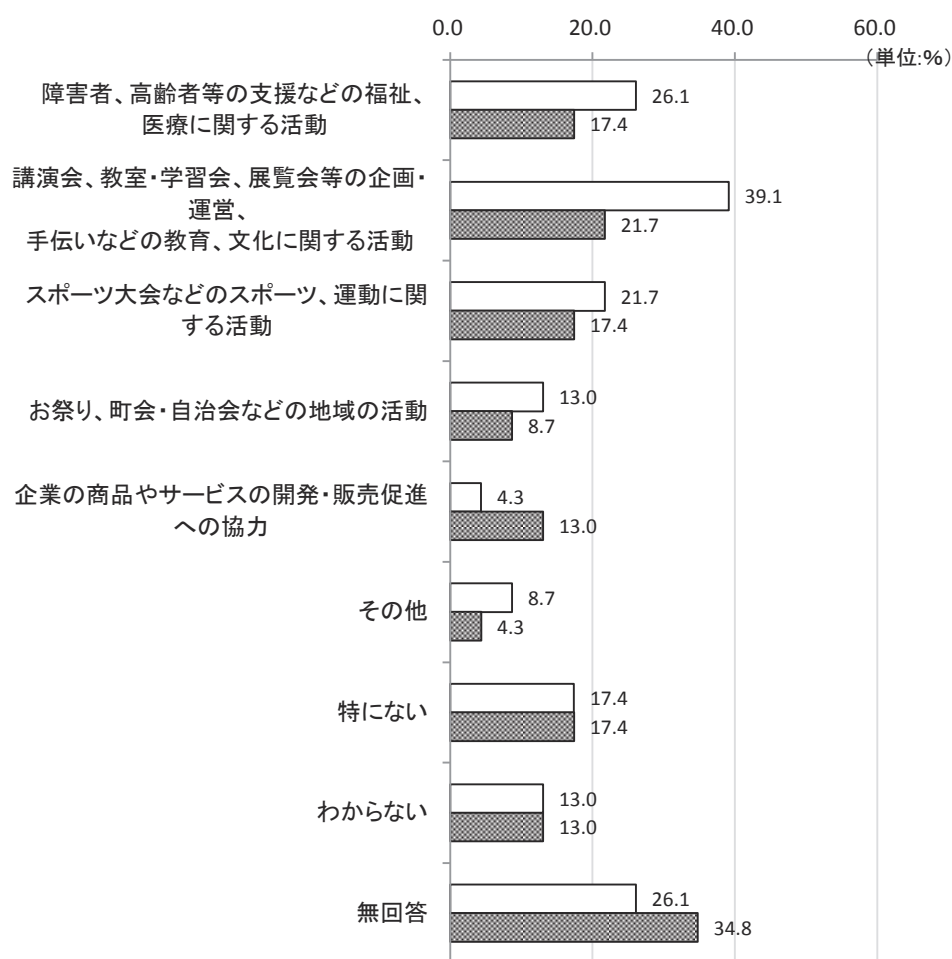


(6) 当事者会員が参加した、あるいは今後当事者会員に勧めたいボランティア活動の分野

これまでに当事者会員が参加したボランティア活動で障害者団体が把握しているものは、「講演会、教室・学習会、展覧会等の企画・運営、手伝いなどの教育、文化に関する活動」が39.1%（9団体）だった。

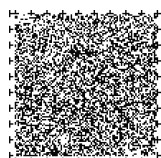
今後当事者会員に勧めたいボランティア活動の分野も「講演会、教室・学習会、展覧会等の企画・運営、手伝いなどの教育、文化に関する活動」が21.7%（5団体）だった。

図表 3-53 これまでに当事者会員が参加した／今後当事者会員に勧めたい
ボランティア活動の分野〔複数回答〕（Q14）



□これまでに当事者会員が参加した分野(団体総数23件)

■今後当事者会員に勧めたい分野(団体総数23件)



図表 3-54 これまでに当事者会員が参加したボランティア活動の分野〔複数回答〕(Q14)

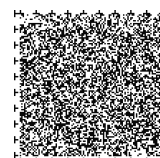
ー最も当事者会員が多い障害別

	総数	障害者、高齢者等の支援などの福祉、医療に関する活動	講演会、教室・学習会、展覧会等の企画・運営、手伝いなどの教育、文化に関する活動	スポーツ大会などのスポーツ、運動に関する活動	お祭り、町会・自治会などの地域の活動	企業の商品やサービスの開発・販売促進への協力	その他	特にない	わからない	無回答
団体総数	23 100.0	6 26.1	9 39.1	5 21.7	3 13.0	1 4.3	2 8.7	4 17.4	3 13.0	6 26.1
Q14. 当事者会員の障害名、最も当事者会員数が多い障害	肢体不自由	5 100.0	0 0.0	2 40.0	2 40.0	1 20.0	0 0.0	0 0.0	1 20.0	1 20.0
	視覚障害	3 100.0	1 33.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 66.7
	聴覚障害	2 100.0	1 50.0	1 50.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	1 50.0	0 0.0	1 50.0
	音声・言語・そしゃく機能障害	1 100.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	知的障害	2 100.0	1 50.0	1 50.0	1 50.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 50.0
	精神障害	4 100.0	0 0.0	1 25.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 50.0	0 0.0	1 25.0
	内部障害、難病等	3 100.0	2 66.7	2 66.7	1 33.3	1 33.3	0 0.0	1 33.3	0 0.0	0 0.0
	その他	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0

図表 3-55 これまでに当事者会員が参加したボランティア活動の分野〔複数回答〕(Q14)

ー当事者会員の平均年齢別

	総数	障害者、高齢者等の支援などの福祉、医療に関する活動	講演会、教室・学習会、展覧会等の企画・運営、手伝いなどの教育、文化に関する活動	スポーツ大会などのスポーツ、運動に関する活動	お祭り、町会・自治会などの地域の活動	企業の商品やサービスの開発・販売促進への協力	その他	特にない	わからない	無回答
団体総数	23 100.0	6 26.1	9 39.1	5 21.7	3 13.0	1 4.3	2 8.7	4 17.4	3 13.0	6 26.1
Q14. 当事者会員の平均年齢	40代	6 100.0	1 16.7	3 50.0	1 16.7	1 16.7	0 0.0	1 16.7	0 0.0	1 16.7
	50代	3 100.0	1 33.3	1 33.3	1 33.3	0 0.0	0 0.0	1 33.3	0 0.0	1 33.3
	60代	3 100.0	2 66.7	1 33.3	1 33.3	1 33.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 33.3
	70代以上	5 100.0	1 20.0	3 60.0	1 20.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 40.0



図表 3-56 今後当事者会員に勧めたいボランティア活動の分野〔複数回答〕(Q14)

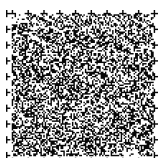
－最も当事者会員が多い障害別

	総数	障害者、高齢者等の支援などの福祉、医療に関する活動	講演会、教室・学習会、展覧会等の企画・運営、手伝いなどの教育、文化に関する活動	スポーツ大会などのスポーツ、運動に関する活動	お祭り、町会・自治会などの地域の活動	企業の商品やサービスの開発・販売促進への協力	その他	特にない	わからない	無回答
団体総数	23 100.0	4 17.4	5 21.7	4 17.4	2 8.7	3 13.0	1 4.3	4 17.4	3 13.0	8 34.8
Q1. 当事者会員の障害名、最も当事者会員数が多い障害	肢体不自由	5 100.0	1 20.0	2 40.0	2 40.0	1 20.0	0 0.0	1 20.0	1 20.0	1 20.0
	視覚障害	3 100.0	1 33.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 66.7
	聴覚障害	2 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 50.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	1 50.0
	音声・言語・そしゃく機能障害	1 100.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	知的障害	2 100.0	1 50.0	2 100.0	2 100.0	1 50.0	2 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	精神障害	4 100.0	1 25.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 50.0	0 0.0	1 25.0
	内部障害、難病等	3 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 33.3	0 0.0	2 66.7
	その他	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0

図表 3-57 今後当事者会員に勧めたいボランティア活動の分野〔複数回答〕(Q14)

－当事者会員の平均年齢別

	総数	障害者、高齢者等の支援などの福祉、医療に関する活動	講演会、教室・学習会、展覧会等の企画・運営、手伝いなどの教育、文化に関する活動	スポーツ大会などのスポーツ、運動に関する活動	お祭り、町会・自治会などの地域の活動	企業の商品やサービスの開発・販売促進への協力	その他	特にない	わからない	無回答
団体総数	23 100.0	4 17.4	5 21.7	4 17.4	2 8.7	3 13.0	1 4.3	4 17.4	3 13.0	8 34.8
Q4. 当事者会員の平均年齢	40代	6 100.0	2 33.3	2 33.3	2 33.3	1 16.7	1 16.7	0 0.0	2 33.3	1 16.7
	50代	3 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 33.3	1 33.3	0 0.0	1 33.3
	60代	3 100.0	1 33.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 66.7
	70代以上	5 100.0	0 0.0	2 40.0	1 20.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3 60.0

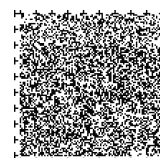
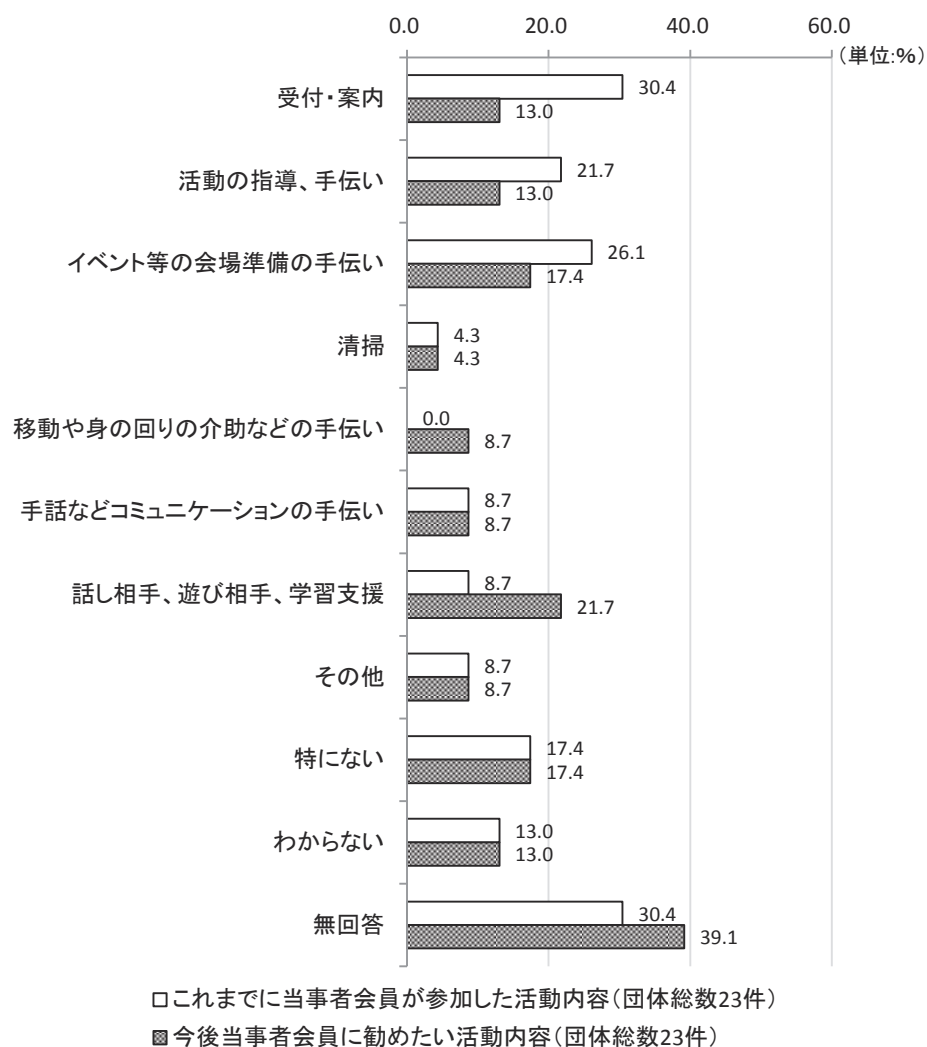


(7) 当事者会員が参加した、あるいは今後当事者会員に勧めたいボランティア活動の内容

これまでに当事者会員が参加したボランティア活用の内容で障害者団体として把握しているものは、「受付・案内」が 30.4%（7 団体）だった。

今後当事者会員に勧めたい活動内容は「話し相手、遊び相手、学習支援」が 21.7%（5 団体）だった。

図表 3-58 これまでに当事者会員が参加した／今後当事者会員に勧めたい
ボランティア活動の内容〔複数回答〕（Q14）

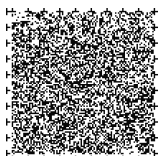


図表 3-59 これまでに当事者会員が参加したボランティア活動の内容〔複数回答〕(Q14)

		最も当事者会員が多い障害別											
		総数	受付・案内	活動の指導、手伝い	イベント等の会場準備の手伝い	清掃	移動や身の回りの介助などの手伝い	手話などコミュニケーションの手伝い	話し相手、遊び相手、学習支援	その他	特にない	わからない	無回答
団体総数		23 100.0	7 30.4	5 21.7	6 26.1	1 4.3	0 0.0	2 8.7	2 8.7	2 8.7	4 17.4	3 13.0	7 30.4
Q1. 当事者会員の障害名「最も当事者会員数が多い障害」	肢体不自由	5 100.0	2 40.0	1 20.0	2 40.0	0 0.0	0 0.0	1 20.0	1 20.0	1 20.0	1 20.0	1 20.0	1 20.0
	視覚障害	3 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 33.3	0 0.0	0 0.0	2 66.7
	聴覚障害	2 100.0	1 50.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 50.0
	音声・言語・そしゃく機能障害	1 100.0	1 100.0	1 100.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	知的障害	2 100.0	1 50.0	1 50.0	1 50.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 50.0
	精神障害	4 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 25.0	0 0.0	1 25.0	0 0.0	2 50.0
	内部障害、難病等	3 100.0	2 66.7	1 33.3	2 66.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 33.3	0 0.0	0 0.0
	その他	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0

図表 3-60 これまでに当事者会員が参加したボランティア活動の内容〔複数回答〕(Q14)

		当事者会員の平均年齢別											
		総数	受付・案内	活動の指導、手伝い	イベント等の会場準備の手伝い	清掃	移動や身の回りの介助などの手伝い	手話などコミュニケーションの手伝い	話し相手、遊び相手、学習支援	その他	特にない	わからない	無回答
団体総数		23 100.0	7 30.4	5 21.7	6 26.1	1 4.3	0 0.0	2 8.7	2 8.7	2 8.7	4 17.4	3 13.0	7 30.4
Q2. 当事者会員の平均年齢	40代	6 100.0	1 16.7	1 16.7	1 16.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 16.7	0 0.0	1 16.7	2 33.3	2 33.3
	50代	3 100.0	1 33.3	1 33.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 33.3	0 0.0	0 0.0	1 33.3	0 0.0	1 33.3
	60代	3 100.0	1 33.3	0 0.0	1 33.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 33.3	0 0.0	0 0.0	1 33.3
	70代以上	5 100.0	3 60.0	2 40.0	3 60.0	0 0.0	0 0.0	1 20.0	0 0.0	1 20.0	0 0.0	0 0.0	2 40.0



図表 3-61 今後当事者会員に勧めたいボランティア活動の内容〔複数回答〕(Q14)

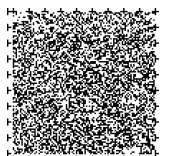
ー最も当事者会員が多い障害別

		総 数	受 付・案 内	活 動の指 導、手 伝い	イ ベ ン ト 等 の 会 場 準 備 の 手 伝 い	清 掃	移 動 や 身 の 回 り の 介 助 な ど の 手 伝 い	手 話 な ど コ ミ ュ ニ ケー シ ョ ン の 手 伝 い	学 習 支 援	話 し 相 手、 遊 び 相 手、	そ の 他	特 に な い	わ か ら な い	無 回 答
団体総数		23 100.0	3 13.0	3 13.0	4 17.4	1 4.3	2 8.7	2 8.7	5 21.7	2 8.7	2 8.7	4 17.4	3 13.0	9 39.1
Q1. 当事者会員の障害名、最も当事者会員数が多い障害	肢体不自由	5 100.0	2 40.0	1 20.0	2 40.0	0 0.0	0 0.0	1 20.0	2 40.0	1 20.0	1 20.0	1 20.0	1 20.0	1 20.0
	視覚障害	3 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 33.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 66.7
	聴覚障害	2 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 100.0
	音声・言語・そしゃく機能障害	1 100.0	0 0.0	1 100.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	知的障害	2 100.0	1 50.0	1 50.0	1 50.0	1 50.0	2 100.0	1 50.0	2 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	精神障害	4 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 25.0	0 0.0	0 25.0	1 25.0	0 0.0	2 50.0
	内部障害、難病等	3 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 33.3	0 0.0	2 66.7
	その他	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0

図表 3-62 今後当事者会員に勧めたいボランティア活動の内容〔複数回答〕(Q14)

ー当事者会員の平均年齢別

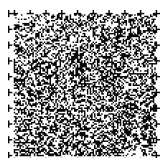
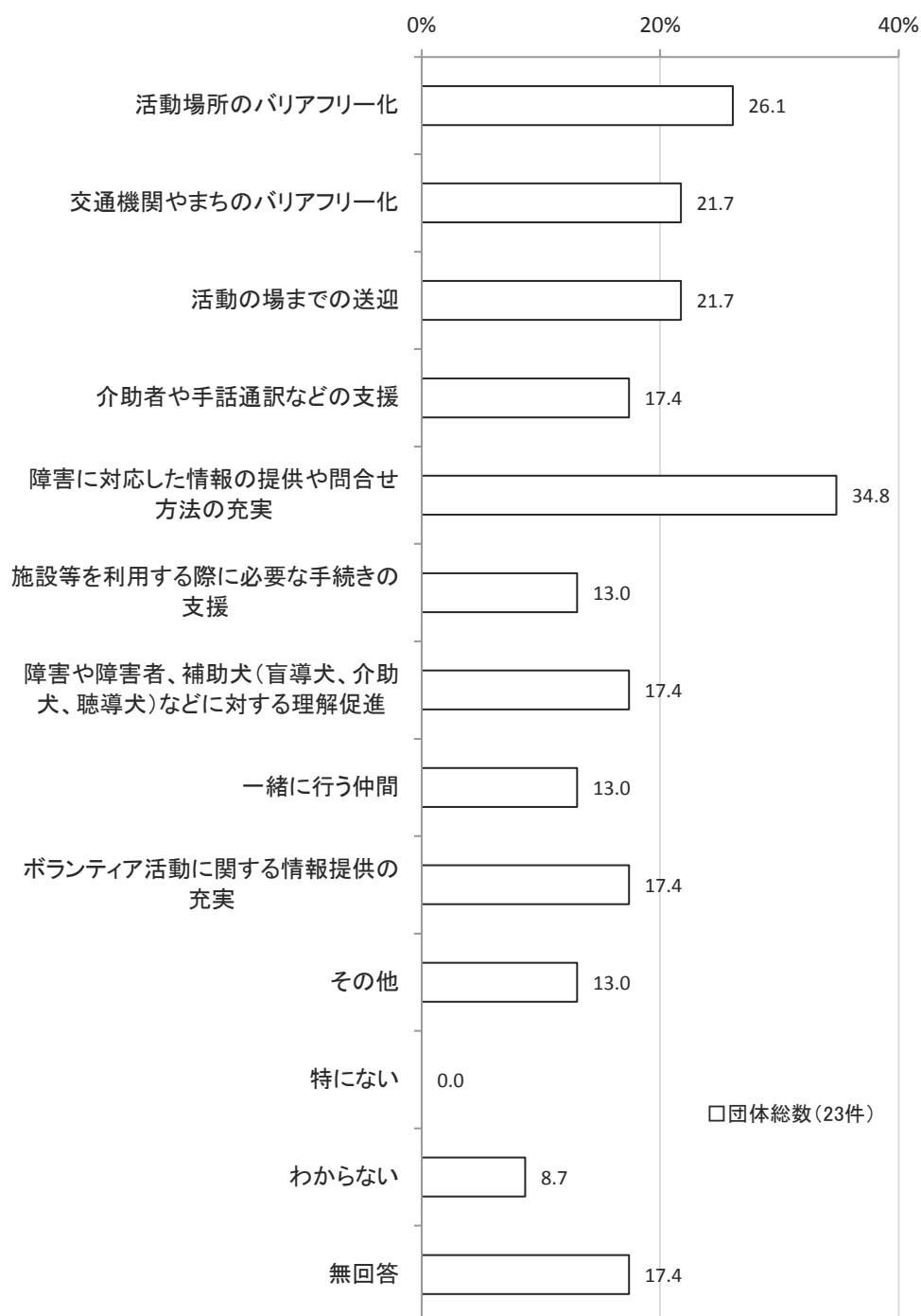
		総 数	受 付・案 内	活 動の指 導、手 伝い	イ ベ ン ト 等 の 会 場 準 備 の 手 伝 い	清 掃	移 動 や 身 の 回 り の 介 助 な ど の 手 伝 い	手 話 な ど コ ミ ュ ニ ケー シ ョ ン の 手 伝 い	学 習 支 援	そ の 他	特 に な い	わ か ら な い	無 回 答
団体総数		23 100.0	3 13.0	3 13.0	4 17.4	1 4.3	2 8.7	2 8.7	5 21.7	2 8.7	4 17.4	3 13.0	9 39.1
Q4. 当事者会員の平 均 年 齢	40代	6 100.0	1 16.7	1 16.7	1 16.7	0 0.0	1 16.7	1 16.7	2 33.3	0 0.0	1 16.7	2 33.3	1 16.7
	50代	3 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 33.3	0 0.0	2 66.7
	60代	3 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 33.3	0 0.0	0 0.0	2 66.7
	70代以上	5 100.0	1 20.0	1 20.0	2 40.0	0 0.0	0 0.0	1 20.0	1 20.0	1 20.0	0 0.0	0 0.0	3 60.0



(8) 当事者会員がボランティア活動をする上で必要な支援

当事者会員がボランティア活動をする上で必要な支援は、「障害に対応した情報の提供や問合せ方法の充実」が34.8%（8団体）だった。

図表 3-63 当事者会員がボランティア活動をする上で必要な支援〔3 つまで〕（Q15）



図表 3-64 当事者会員がボランティア活動をする上で必要な支援〔3 つまで〕 (Q15)

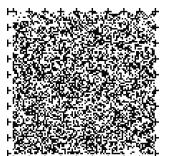
ー当事者会員が最も多い障害別

	総数	活動場所のバリアフリー化	交通機関やまちのバリアフリー化	活動の場までの送迎	介助者や手話通訳などの支援	障害に対応した情報の提供や問合せ方法の充実	施設等を利用する際に必要な手続きの支援	障害や障害者、補助犬（盲導犬、介助犬、聴導犬）などに対する理解促進	一緒にを行う仲間	ボランティア活動に関する情報提供の充実	その他	特にない	わからない	無回答
団体総数	23 100.0	6 26.1	5 21.7	5 21.7	4 17.4	8 34.8	3 13.0	4 17.4	3 13.0	4 17.4	3 13.0	0 0.0	2 8.7	4 17.4
Q1. 当事者会員の障害名「最も当事者会員数が多い障害」	肢体不自由	5 100.0	3 60.0	2 40.0	0 0.0	1 20.0	2 40.0	0 0.0	1 20.0	1 20.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 20.0
	視覚障害	3 100.0	1 33.3	1 33.3	1 33.3	0 0.0	2 66.7	1 33.3	0 0.0	1 33.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 33.3
	聴覚障害	2 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 50.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 50.0
	音声・言語・そしゃく機能障害	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	1 100.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	知的障害	2 100.0	1 50.0	1 50.0	0 0.0	1 50.0	1 50.0	0 0.0	1 50.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	精神障害	4 100.0	0 0.0	0 0.0	1 25.0	0 0.0	1 25.0	1 25.0	0 0.0	0 0.0	0 25.0	1 25.0	0 0.0	1 25.0
	内部障害、難病等	3 100.0	0 0.0	0 0.0	1 33.3	0 0.0	1 33.3	0 0.0	1 33.3	0 0.0	1 33.3	0 0.0	1 33.3	0 0.0
	その他	1 100.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0

図表 3-65 当事者会員がボランティア活動をする上で必要な支援〔3 つまで〕 (Q15)

ー当事者会員の平均年齢別

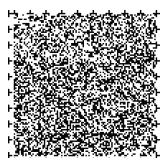
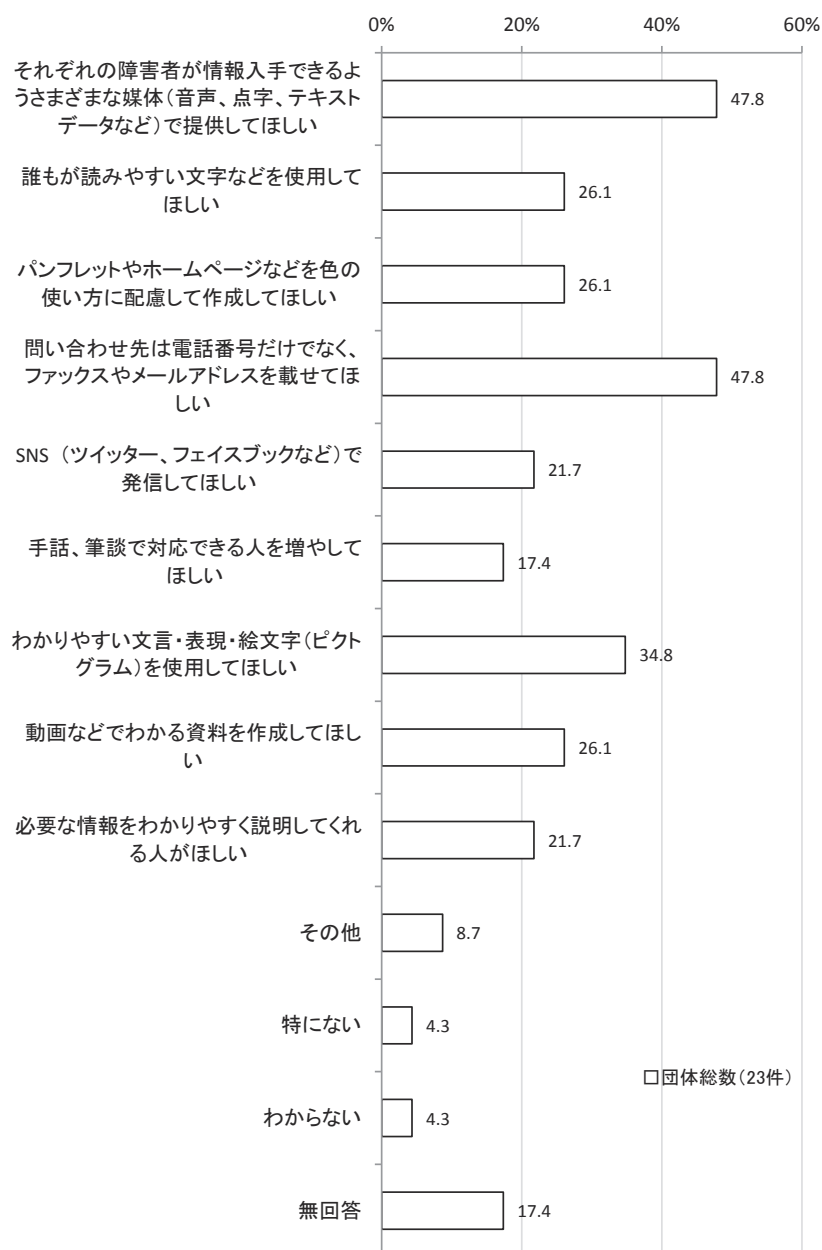
	総数	活動場所のバリアフリー化	交通機関やまちのバリアフリー化	活動の場までの送迎	介助者や手話通訳などの支援	障害に対応した情報の提供や問合せ方法の充実	施設等を利用する際に必要な手続きの支援	障害や障害者、補助犬（盲導犬、介助犬、聴導犬）などに対する理解促進	一緒にを行う仲間	ボランティア活動に関する情報提供の充実	その他	特にない	わからない	無回答
団体総数	23 100.0	6 26.1	5 21.7	5 21.7	4 17.4	8 34.8	3 13.0	4 17.4	3 13.0	4 17.4	3 13.0	0 0.0	2 8.7	4 17.4
Q4. 当事者会員の平均年齢	40代	6 100.0	3 50.0	2 33.3	2 33.3	1 16.7	2 33.3	1 16.7	1 16.7	1 16.7	0 0.0	0 0.0	1 16.7	0 0.0
	50代	3 100.0	1 33.3	1 33.3	0 0.0	1 33.3	1 33.3	0 0.0	1 33.3	0 33.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 33.3
	60代	3 100.0	0 0.0	0 0.0	1 33.3	0 0.0	1 33.3	0 0.0	1 33.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 33.3	1 33.3
	70代	5 100.0	2 40.0	2 40.0	1 20.0	1 20.0	2 40.0	2 40.0	0 0.0	1 20.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 20.0
	以上													



6 情報アクセシビリティについて

当事者会員が、情報を入手したりコミュニケーションをとる上で、どのような配慮があるとよいかを尋ねたところ、「それぞれの障害者が情報入手できるようさまざまな媒体(音声、点字、テキストデータなど)で提供してほしい」、「問い合わせ先は電話番号だけでなく、ファックスやメールアドレスを載せてほしい」が47.8% (11 団体) だった。

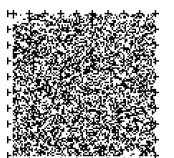
図表 3-66 当事者会員の情報入手やコミュニケーションにあるとよい配慮〔複数回答〕(Q16)



図表 3-67 当事者会員の情報入手やコミュニケーションにあるとよい配慮〔複数回答〕(Q16)

－当事者会員が最も多い障害別

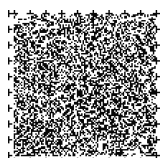
	総数	それぞれ の障害者が 情報入手で きるようさ まざまな 媒体(音声 、点字、 テキスト データな ど)で提供 してほしい	誰もが 読みやす い文字な どを使用 してほしい	パンフレ ットやホ ームペー ジなどを 色の使い 方に配慮 して作 成してほ しい	問合わせ 先は電話 番号だけ でなく、 ファック スやメー ルアドレ スを載せ てほしい	SNS(ツイ ッター、 フェイス ブックな ど)で発信 してほしい	手話、筆 談で対応 できる人 を増やし てほしい	わかりや すい文言 ・表現・ 絵文字・ ピクトグ ラム)を 使用して ほしい	動画など でわかる 資料を作 成してほ しい	必要な 情報をわ かりやす く説明し てくれる 人がほし い	その他	特にな い	わから ない	無回答
団体総数	23 100.0	11 47.8	6 26.1	6 26.1	11 47.8	5 21.7	4 17.4	8 34.8	6 26.1	5 21.7	2 8.7	1 4.3	1 4.3	4 17.4
〇一、当事者会員の障害名、最も当事者会員数が多い障害	肢体不自由	5 100.0	2 40.0	0 0.0	1 20.0	3 60.0	1 0.0	1 20.0	1 20.0	2 40.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 20.0
	視覚障害	3 100.0	2 66.7	0 0.0	0 0.0	1 33.3	0 0.0	1 33.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 33.3
	聴覚障害	2 100.0	1 50.0	1 50.0	0 0.0	1 50.0	0 0.0	1 50.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 50.0
	音声・言語・そ しゃく機能障 害	1 100.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	知的障害	2 100.0	2 100.0	1 50.0	2 100.0	1 50.0	1 50.0	2 100.0	2 100.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	精神障害	4 100.0	0 0.0	1 25.0	1 25.0	1 25.0	0 0.0	1 25.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 25.0	0 0.0	1 25.0
	内部障害、難 病等	3 100.0	3 100.0	1 33.3	1 33.3	2 66.7	1 33.3	1 33.3	1 33.3	1 33.3	1 33.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	その他	1 100.0	1 100.0	1 100.0	1 100.0	1 100.0	1 100.0	1 100.0	1 100.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0



図表 3-68 当事者会員の情報入手やコミュニケーションにあるとよい配慮〔複数回答〕(Q16)

ー当事者会員の平均年齢別

		総数	それぞれの障害者が情報入手できるようにさまざまな媒体(音声、点字、テキストデータなど)を提供してほしい	誰もが読みやすい文字などを使用してほしい	パンフレットやホームページなどを色の使い方に配慮して作成してほしい	問い合わせ先は電話番号だけでなく、ファックスやメールアドレスを載せてほしい	SNS(ツイッター、フェイスブックなど)で発信してほしい	手話、筆談で対応できる人を増やしてほしい	わかりやすい文言・表現・絵文字(ピクトグラム)を使用してほしい	動画などでわかる資料を作成してほしい	必要な情報をわかりやすく説明してくれる人がほしい	その他	特になし	わからない	無回答
団体総数		23 100.0	11 47.8	6 26.1	6 26.1	11 47.8	5 21.7	4 17.4	8 34.8	6 26.1	5 21.7	2 8.7	1 4.3	1 4.3	4 17.4
Q4. 当事者会員の平均年齢	40代	6 100.0	2 33.3	1 16.7	2 33.3	2 33.3	0 0.0	1 16.7	3 50.0	1 16.7	1 16.7	1 16.7	0 0.0	1 16.7	0 0.0
	50代	3 100.0	1 33.3	1 33.3	0 0.0	1 33.3	1 33.3	1 33.3	1 33.3	2 66.7	1 33.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 33.3
	60代	3 100.0	2 66.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 33.3
	70代以上	5 100.0	3 60.0	1 20.0	0 0.0	4 80.0	0 0.0	0 0.0	1 20.0	0 0.0	0 0.0	1 20.0	0 0.0	0 0.0	1 20.0



第4章 事業所の状況

1 事業所の概要

(1) 利用者の定員

利用者の定員は、「11～20人以下」の割合が最も高く 39.7%だった。次いで、「10人以下」が 20.0%だった。

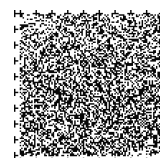
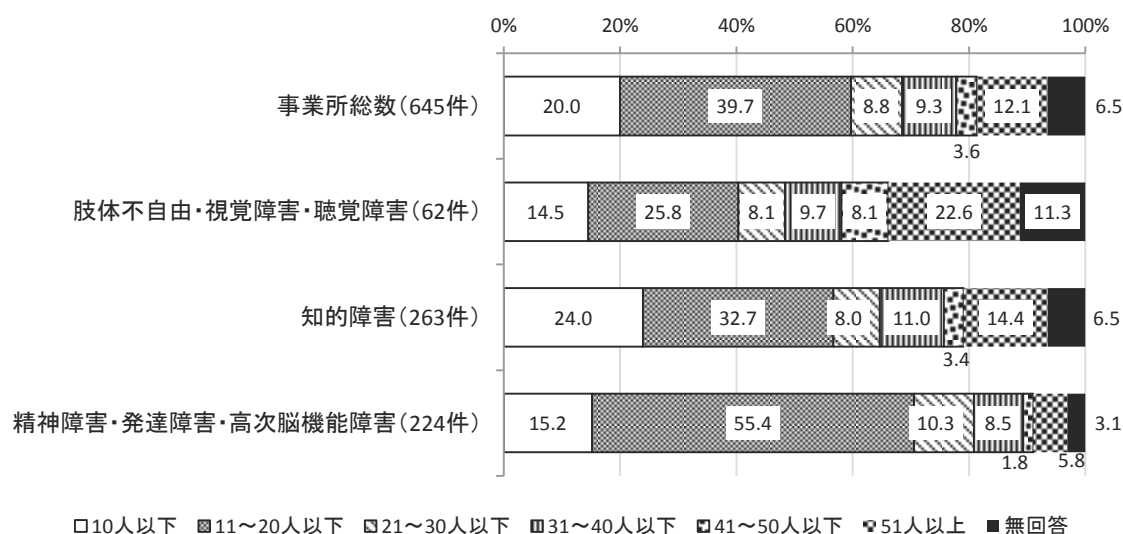
最も利用者数が多い障害種別にみると、肢体不自由・視覚障害・聴覚障害（身体障害）では、「11～20人以下」の割合が最も高く 25.8%だった。次いで、「51人以上」が 22.6%だった。

知的障害では、「11～20人以下」の割合が最も高く 32.7%だった。次いで、「10人以下」が 24.0%だった。

精神障害・発達障害・高次脳機能障害では、「11～20人以下」の割合が最も高く 55.4%だった。次いで、「10人以下」が 15.2%だった。

最も利用者数が多い障害種別に比較すると、他と比較して、知的障害は「10人以下」、精神障害・発達障害・高次脳機能障害は「11～20人以下」の割合が高い傾向にあった。

図表 4-1 利用者の定員〔数値回答〕(Q1) —最も利用者数が多い障害種別



(2) 利用者数

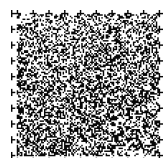
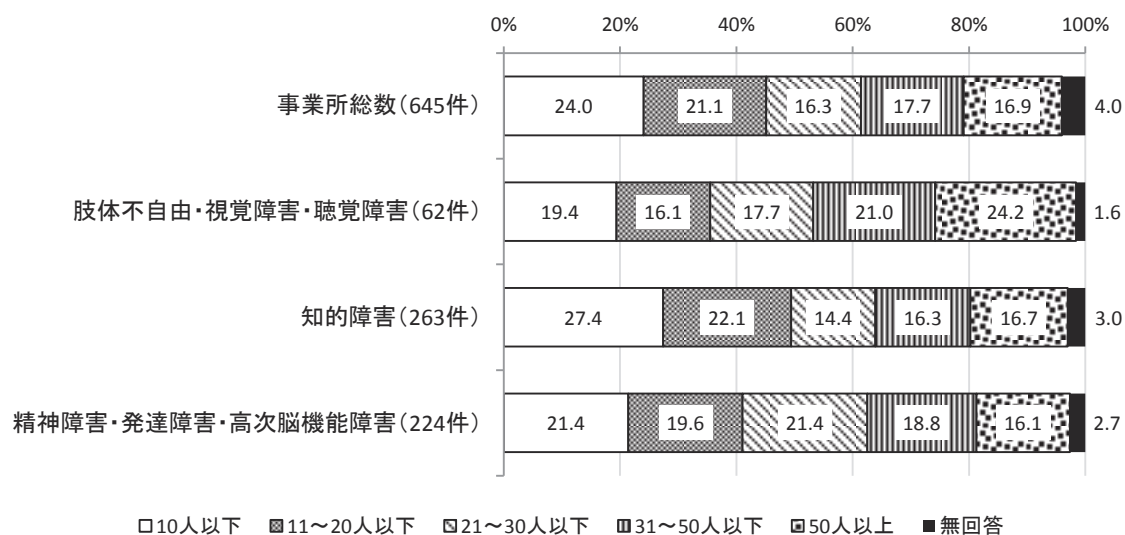
利用者数は、「10人以下」の割合が最も高く24.0%だった。次いで、「11～20人以下」が21.1%だった。

最も利用者数が多い障害種別にみると、肢体不自由・視覚障害・聴覚障害（身体障害）では、「50人以上」の割合が最も高く24.2%だった。次いで、「31～50人以下」が21.0%だった。

知的障害では、「10人以下」の割合が最も高く27.4%だった。次いで、「11～20人以下」が22.1%だった。

精神障害・発達障害・高次脳機能障害では、「10人以下」「21～30人以下」の割合が最も高く21.4%だった。次いで、「11～20人以下」が19.6%だった。

図表 4-2 利用者数〔数値回答〕(Q2) —最も利用者数が多い障害種別



(3) 利用者の平均年齢

利用者の平均年齢は、「40代」の割合が最も高く 38.6%だった。次いで、「30代」が 31.2%だった。

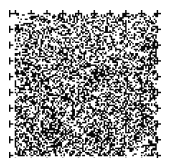
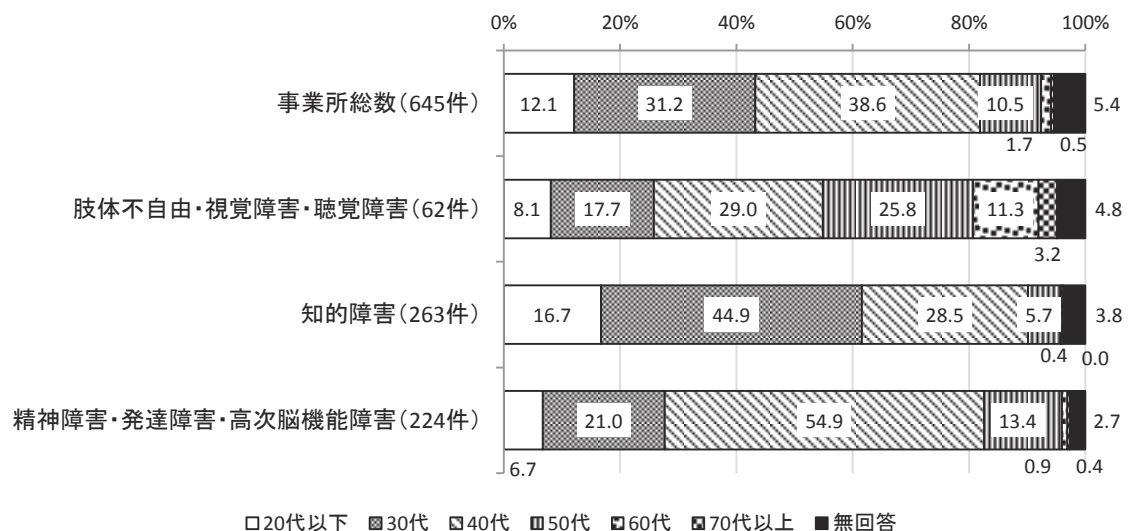
最も利用者数が多い障害種別にみると、肢体不自由・視覚障害・聴覚障害（身体障害）では、「40代」の割合が最も高く 29.0%だった。次いで、「50代」が 25.8%だった。

知的障害では、「30代」の割合が最も高く 44.9%だった。次いで、「40代」が 28.5%だった。

精神障害・発達障害・高次脳機能障害では、「40代」の割合が最も高く 54.9%だった。次いで、「30代」が 21.0%だった。

最も利用者数が多い障害種別に比較すると、他と比較して、肢体不自由・視覚障害・聴覚障害（身体障害）は「50代」、知的障害は「30代」、精神障害・発達障害・高次脳機能障害は「40代」の割合が高い傾向にあった。

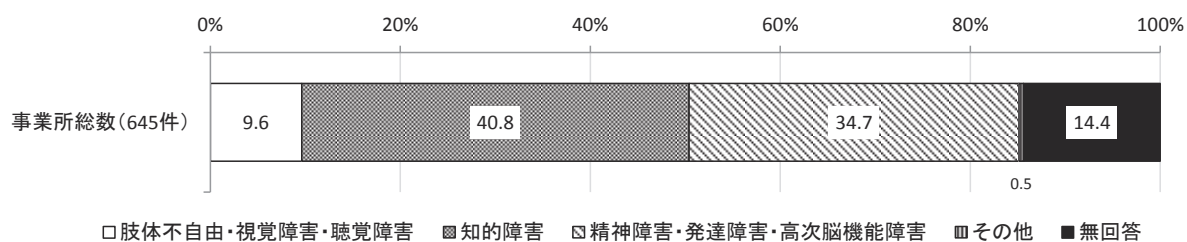
図表 4-3 利用者の平均年齢〔単数回答〕(Q3) —最も利用者数が多い障害種別



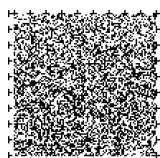
(4) 利用者の障害名

最も利用者数が多い障害種別について、「肢体不自由・視覚障害・聴覚障害」（身体障害）、「知的障害」、「精神障害・発達障害・高次脳機能障害」の3グループに分けて割合をみると、「肢体不自由・視覚障害・聴覚障害」（身体障害）が9.6%、「知的障害」が40.8%、「精神障害・発達障害・高次脳機能障害」が34.7%だった。

図表 4-4 最も利用者が多い障害種別〔単数回答〕(Q4)



※最も利用者が多い障害として「音声・言語・そしゃく機能障害」「内部障害、難病等」を選択した事業所は0件だった。



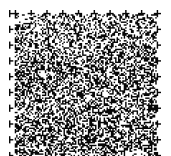
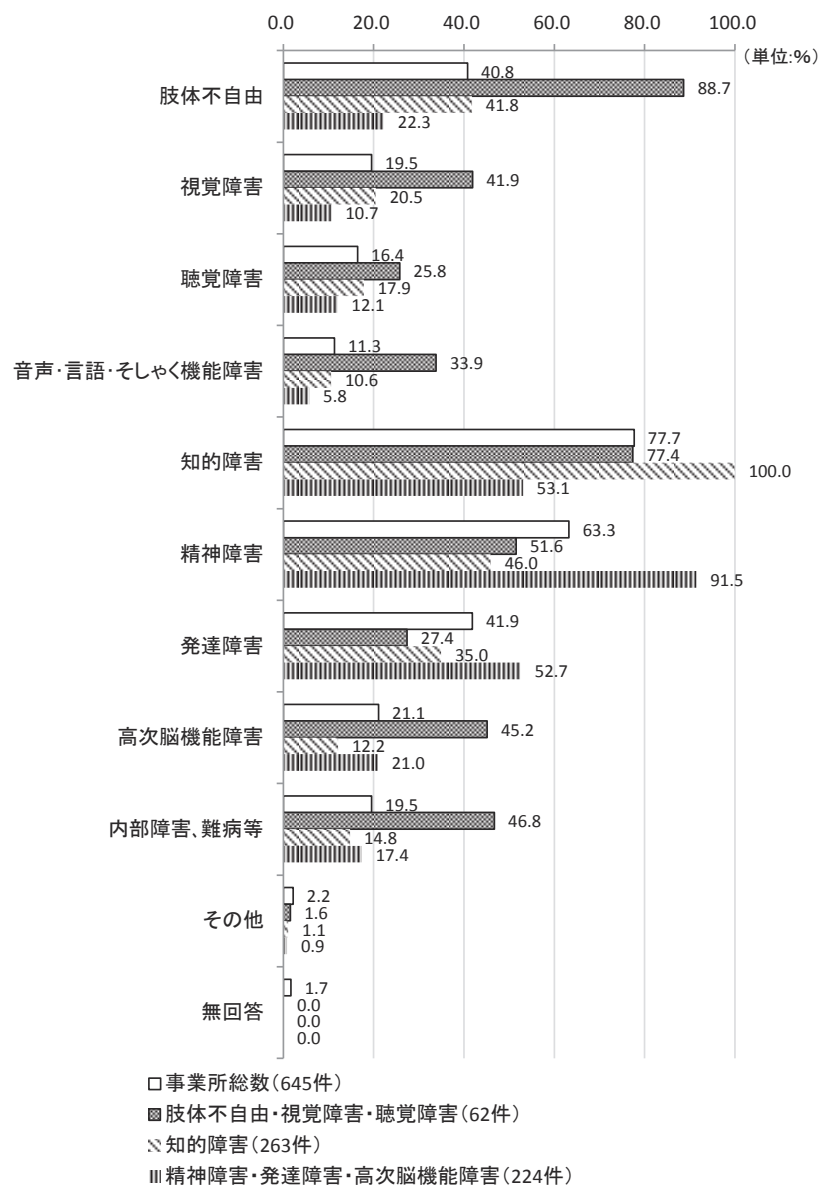
利用者の障害名について、当てはまる障害について尋ねたところ、「知的障害」の割合が最も高く 77.7%だった。次いで、「精神障害」が 63.3%だった。

最も利用者数が多い障害種別にみると、肢体不自由・視覚障害・聴覚障害（身体障害）では、「肢体不自由」の割合が最も高く 88.7%だった。次いで、「知的障害」が 77.4%だった。

知的障害では、「知的障害」が 100.0%だったほか、「精神障害」が 46.0%、「肢体不自由」が 41.8%だった。

精神障害・発達障害・高次脳機能障害では、「精神障害」が 91.5%、「知的障害」が 53.1%、「発達障害」が 52.7%、「高次脳機能障害」が 21.0%だった。

図表 4-5 利用者の障害名〔複数回答〕（Q4）



(5) 提供している障害福祉サービス事業等

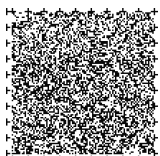
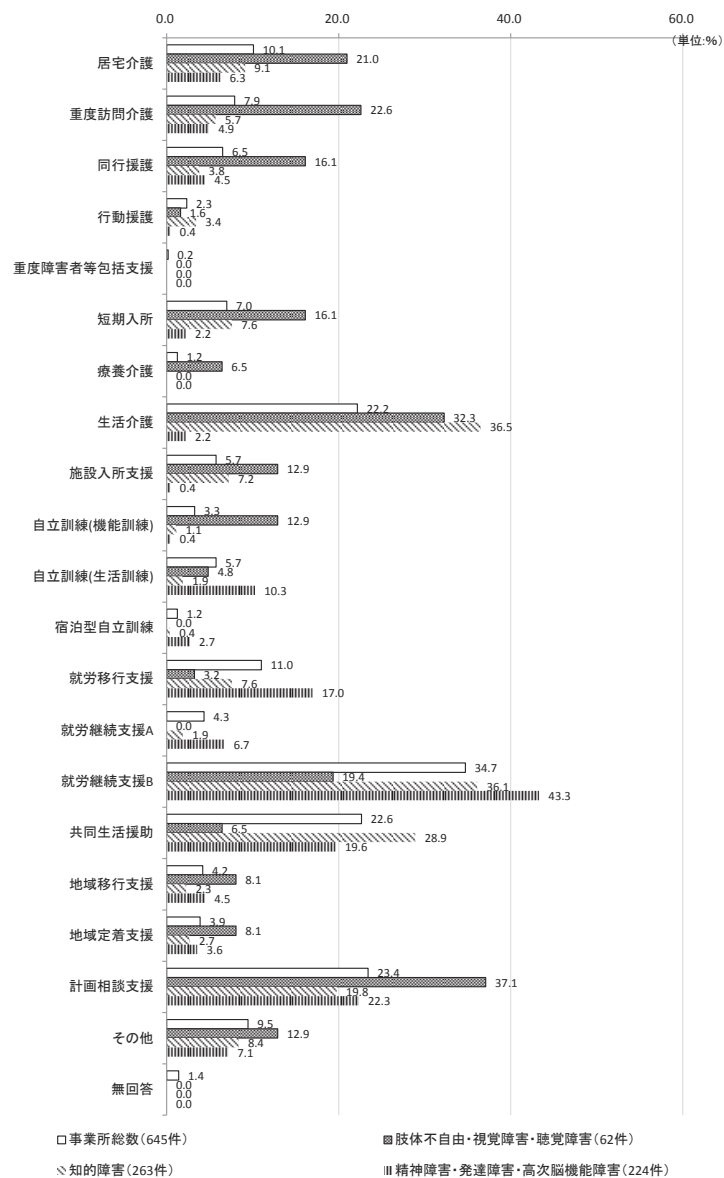
提供している障害福祉サービス事業等は、「就労継続支援 B」の割合が最も高く 34.7% だった。次いで、「計画相談支援」が 23.4% だった。

最も利用者数が多い障害種別にみると、肢体不自由・視覚障害・聴覚障害（身体障害）では、「計画相談支援」の割合が最も高く 37.1% だった。次いで、「生活介護」が 32.3% だった。

知的障害では、「生活介護」の割合が最も高く 36.5% だった。次いで、「就労継続支援 B」が 36.1%、「共同生活援助」が 28.9% だった。

精神障害・発達障害・高次脳機能障害では、「就労継続支援 B」の割合が最も高く 43.3% だった。次いで、「計画相談支援」が 22.3%、「共同生活援助」が 19.6% だった。

図表 4-6 提供している障害福祉サービス事業等〔複数回答〕(Q5)－最も利用者数が多い障害種別



2 スポーツや運動について

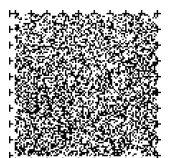
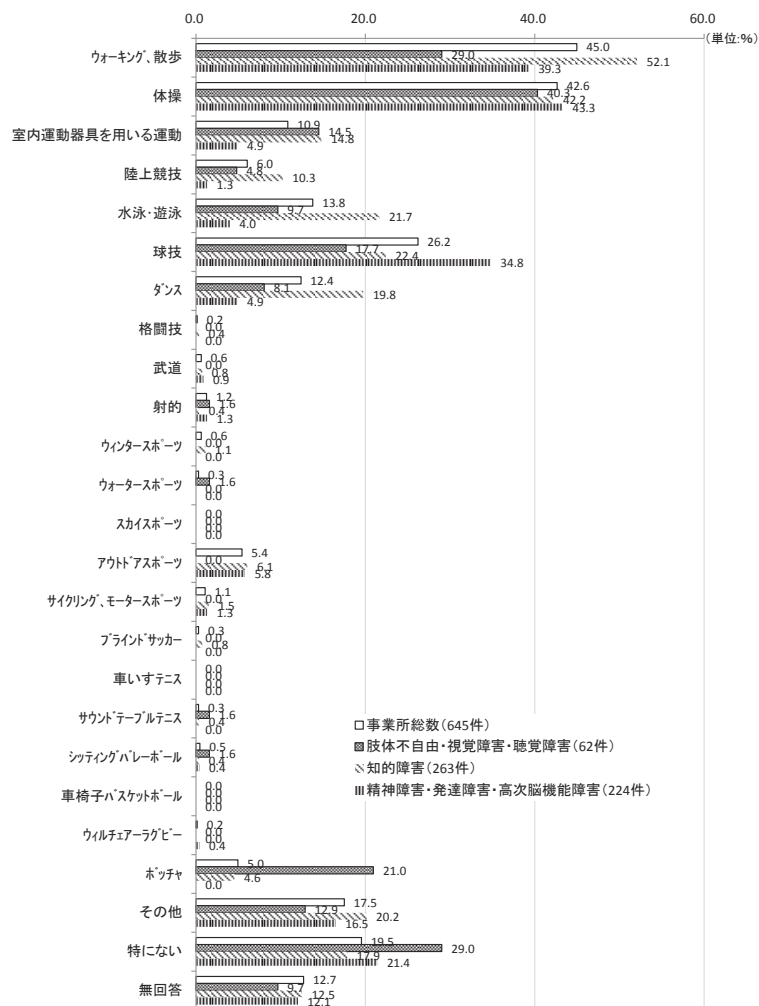
(1) この1年間に行ったスポーツや運動

この1年間のイベントや取組で行ったスポーツや運動については、「ウォーキング、散歩」の割合が最も高く、45.0%だった。次いで、「体操」が42.6%だった。

最も利用者数が多い障害種別にみると、肢体不自由・視覚障害・聴覚障害（身体障害）では、「体操」の割合が最も高く40.3%だった。次いで、「ウォーキング、散歩」「特にない」がそれぞれ29.0%だった。知的障害では、「ウォーキング、散歩」の割合が最も高く52.1%だった。次いで、「体操」が42.2%だった。精神障害・発達障害・高次脳機能障害では、「体操」の割合が最も高く43.3%だった。次いで、「ウォーキング、散歩」が39.3%、「球技」が34.8%だった。

最も利用者数が多い障害種別に比較すると、他と比較して、肢体不自由・視覚障害・聴覚障害（身体障害）は「ボッチャ」、知的障害は「ウォーキング、散歩」「水泳・遊泳」「ダンス」、精神障害・発達障害・高次脳機能障害は「球技」の割合が高い傾向にあった。

図表 4-7 この1年間のイベントや取組で行ったスポーツや運動〔複数回答〕(Q6)
ー最も利用者数が多い障害種別



(2) 今後も続けていきたい、あるいは新たに取り入れたいスポーツや運動

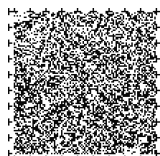
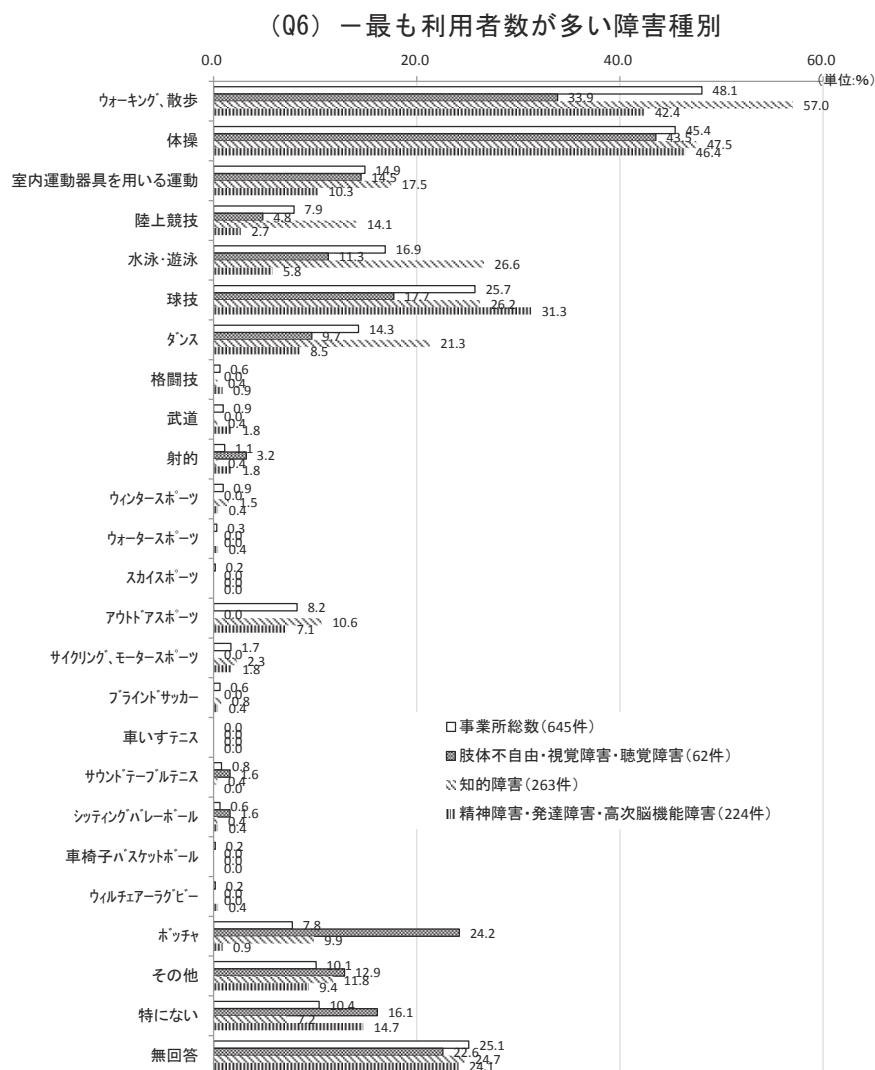
今後も続けていきたい、あるいは新たに取り入れたいスポーツや運動は、「ウォーキング、散歩」の割合が最も高く 48.1%だった。次いで、「体操」が 45.4%だった。

最も利用者数が多い障害種別にみると、肢体不自由・視覚障害・聴覚障害（身体障害）では、「体操」の割合が最も高く 43.5%だった。次いで、「ウォーキング、散歩」が 33.9%だった。知的障害では、「ウォーキング、散歩」の割合が最も高く 57.0%だった。次いで、「体操」が 47.5%だった。

精神障害・発達障害・高次脳機能障害では、「体操」の割合が最も高く 46.4%だった。次いで、「ウォーキング、散歩」が 42.4%だった。

最も利用者数が多い障害種別に比較すると、他と比較して、肢体不自由・視覚障害・聴覚障害（身体障害）は「ボッチャ」、知的障害は「ウォーキング、散歩」「陸上競技」「水泳・遊泳」「ダンス」の割合が高い傾向にあった。

図表 4-8 今後も続けていきたい、あるいは新たに取り入れたいスポーツや運動〔複数回答〕



(3) スポーツや運動を取り入れた理由

(※この1年間にスポーツや運動を行った437事業所が対象)

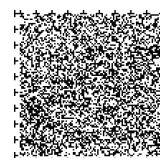
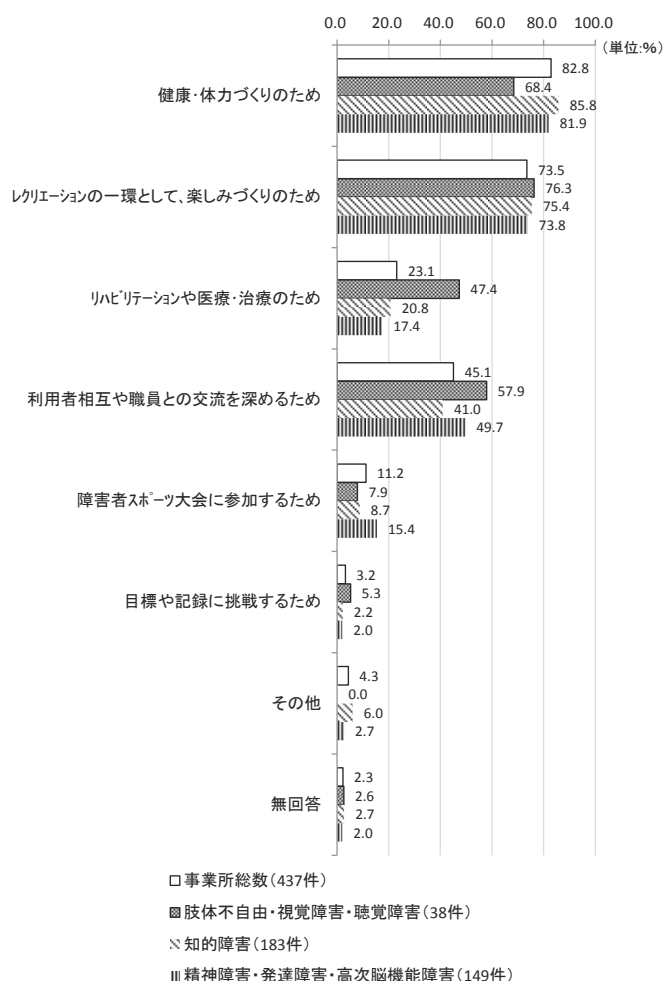
この1年間にスポーツを行った事業所について、イベントや取組にスポーツや運動を取り入れた理由をみると、「健康・体力づくりのため」の割合が最も高く82.8%だった。次いで、「レクリエーションの一環として、楽しみづくりのため」が73.5%だった。

最も利用者数が多い障害種別にみると、肢体不自由・視覚障害・聴覚障害（身体障害）では、「健康・体力づくりのため」の割合が最も高く76.3%だった。次いで、「健康・体力づくりのため」が68.4%だった。

知的障害では、「健康・体力づくりのため」の割合が最も高く85.8%だった。次いで、「レクリエーションの一環として、楽しみづくりのため」が75.4%だった。

精神障害・発達障害・高次脳機能障害では、「健康・体力づくりのため」の割合が最も高く81.9%だった。次いで、「レクリエーションの一環として、楽しみづくりのため」が73.8%だった。

図表 4-9 イベントや取組にスポーツや運動を取り入れた理由〔複数回答〕(Q6-1)
ー最も利用者数が多い障害種別



(4) スポーツや運動の指導者

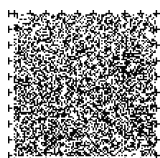
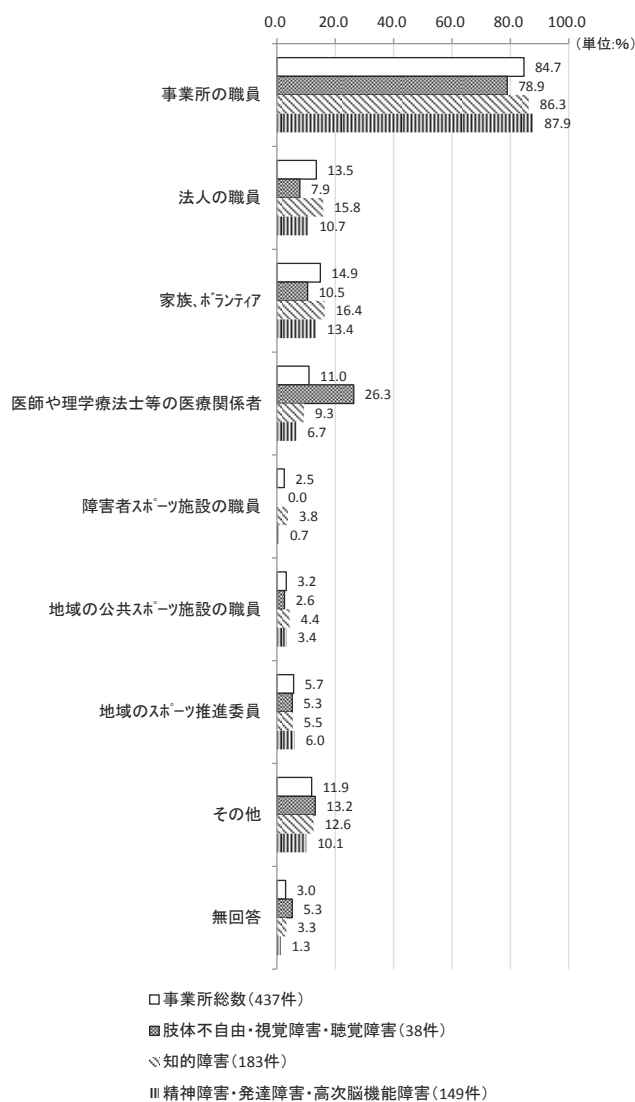
(※この1年間にスポーツや運動を行った437事業所が対象)

この1年間のイベントや取組でスポーツや運動を行った事業所について、スポーツや運動の指導者をみると、「事業所の職員」の割合が最も高く84.7%だった。次いで、「家族、ボランティア」が14.9%だった。

最も利用者数が多い障害種別にみると、肢体不自由・視覚障害・聴覚障害（身体障害）では、「事業所の職員」の割合が最も高く78.9%だった。次いで、「医師や理学療法士等の医療関係者」が26.3%だった。知的障害では、「事業所の職員」の割合が最も高く86.3%だった。次いで、「家族、ボランティア」が16.4%だった。

精神障害・発達障害・高次脳機能障害では、「事業所の職員」の割合が最も高く87.9%だった。次いで、「家族、ボランティア」が13.4%だった。

図表 4-10 スポーツや運動の指導者〔複数回答〕(Q6-2)－最も利用者数が多い障害種別



(5) スポーツや運動の指導者が有する資格

(※この1年間にスポーツや運動を行った437事業所が対象)

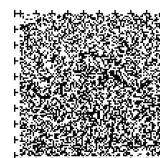
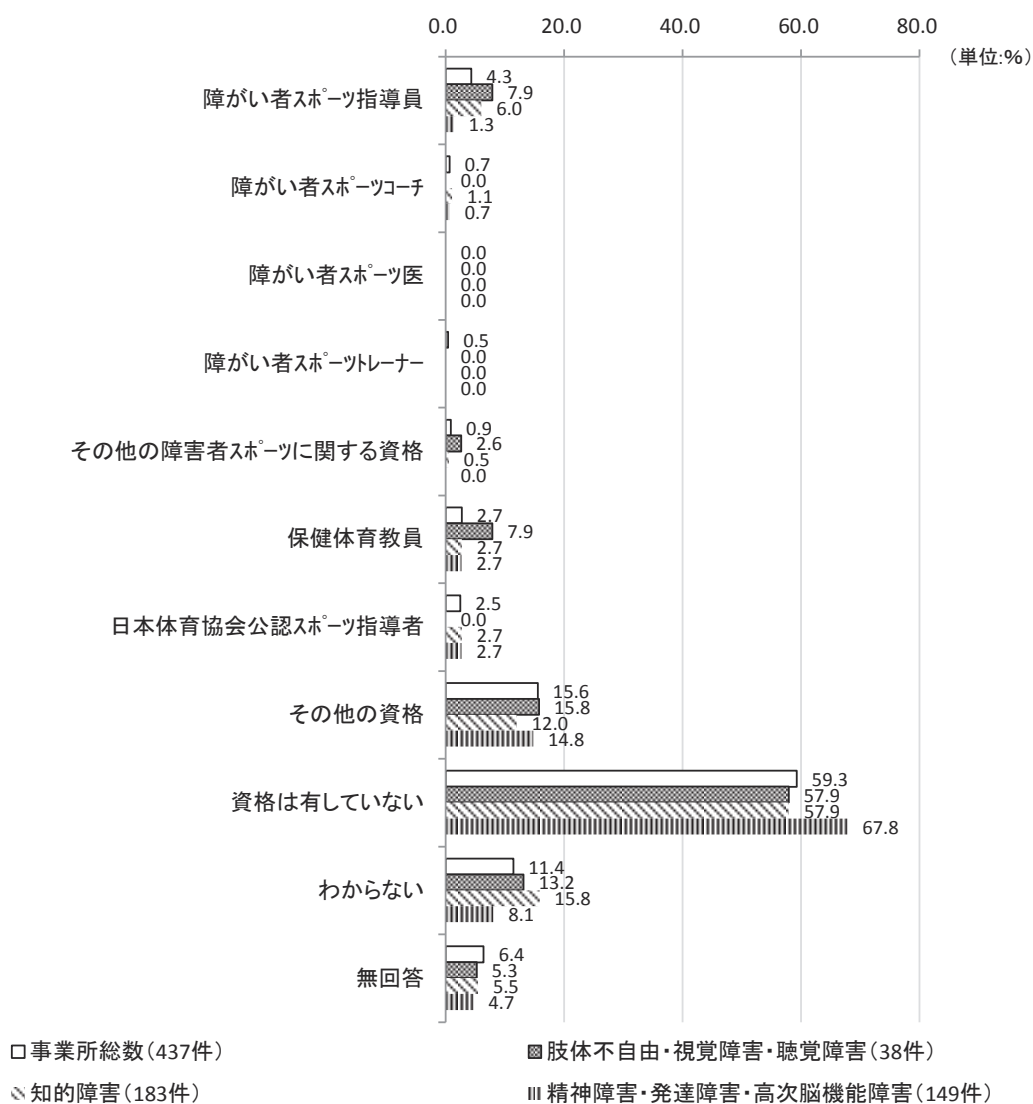
この1年間のイベントや取組でスポーツや運動を行った事業所について、スポーツや運動の指導者が有している資格をみると、「資格は有していない」の割合が最も高く59.3%だった。次いで、「その他の資格」が15.6%だった。

最も利用者数が多い障害種別にみると、いずれも「資格は有していない」の割合が高く、肢体不自由・視覚障害・聴覚障害(身体障害)、知的障害は57.9%、精神障害・発達障害・高次脳機能障害は67.8%だった。

最も利用者数が多い障害種別に比較すると、他と比較して、精神障害・発達障害・高次脳機能障害は「資格は有していない」の割合が高い傾向にあった。

図表 4-11 スポーツや運動の指導者が有する資格〔複数回答〕(Q6-3)

ー最も利用者数が多い障害種別



(6) スポーツや運動を含むイベント・取組を行った場所

(※この1年間にスポーツや運動を行った437事業所が対象)

この1年間のイベントや取組でスポーツや運動を行った事業所について、スポーツや運動を含むイベント・取組を行った場所をみると、「事業所の敷地内」の割合が最も高く58.6%だった。次いで、「広場や公園」が43.5%だった。

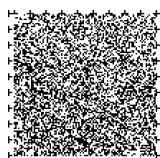
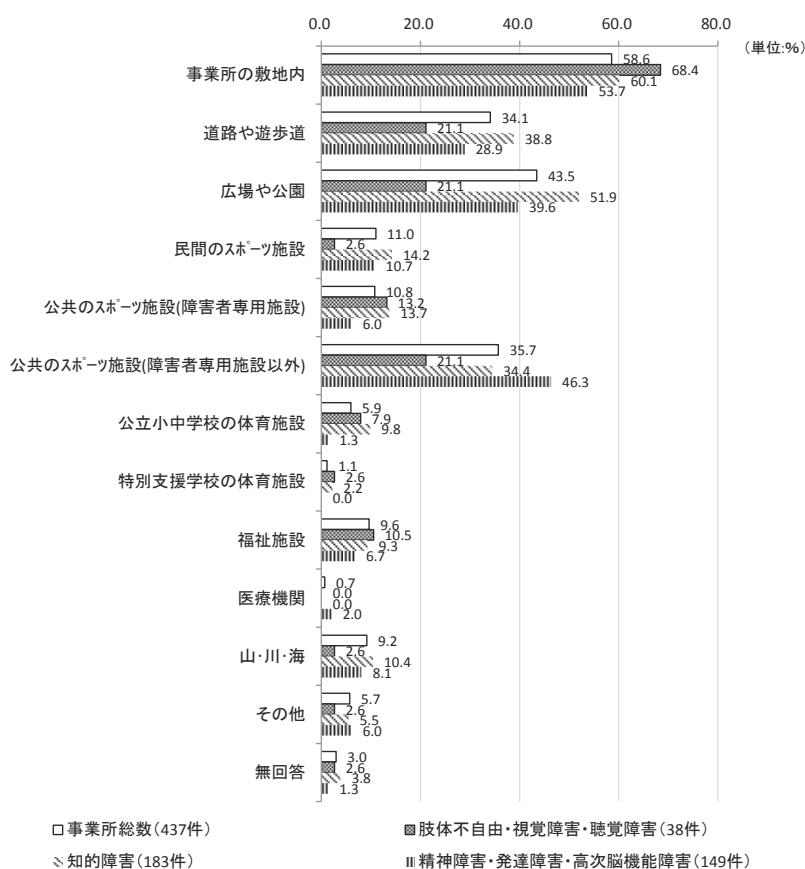
最も利用者数が多い障害種別にみると、肢体不自由・視覚障害・聴覚障害（身体障害）では、「事業所の敷地内」の割合が最も高く68.4%だった。次いで、「道路や遊歩道」「広場や公園」「公共のスポーツ施設（障害者専用施設以外）」がそれぞれ21.1%だった。

知的障害では、「事業所の敷地内」の割合が最も高く60.1%だった。次いで「広場や公園」が51.9%だった。精神障害・発達障害・高次脳機能障害では、「事業所の敷地内」の割合が最も高く53.7%だった。次いで、「公共のスポーツ施設（障害者専用施設以外）」が46.3%だった。

最も利用者数が多い障害種別に比較すると、他と比較して、知的障害は「道路や遊歩道」「広場や公園」、精神障害・発達障害・高次脳機能障害は「公共のスポーツ施設（障害者専用施設以外）」の割合が高い傾向にあった。

図表 4-12 スポーツや運動を含むイベント・取組を行った場所〔複数回答〕(Q6-4)

—最も利用者数が多い障害種別



(7) 利用者がスポーツや運動を含むイベント・取組に参加しやすくするための工夫

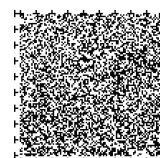
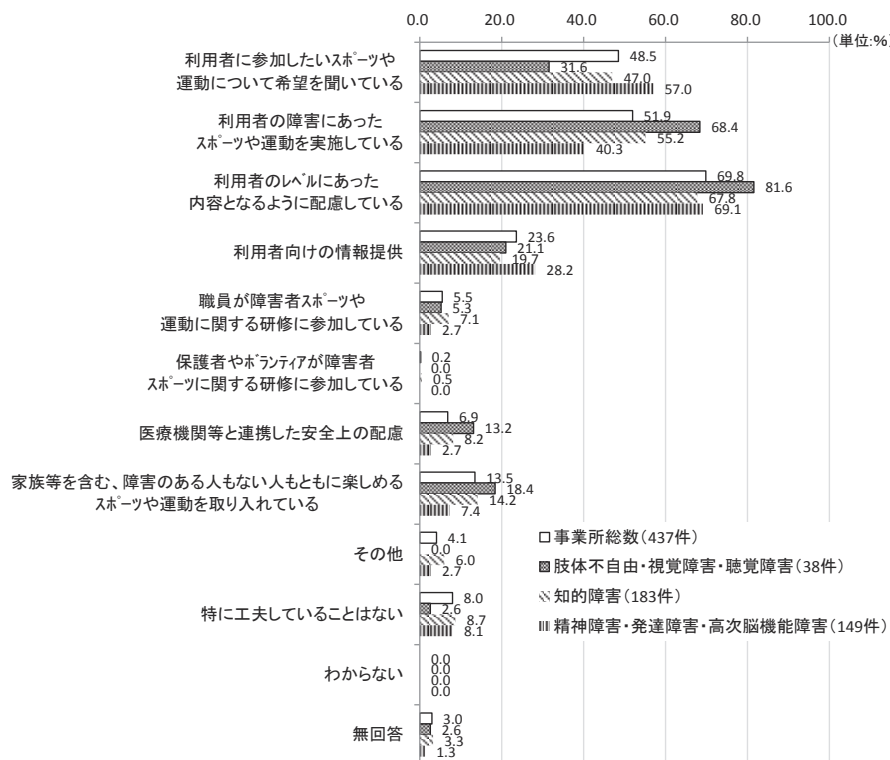
(※この1年間にスポーツや運動を行った437事業所が対象)

この1年間のイベントや取組でスポーツや運動を行った事業所について、利用者が参加しやすくするための運営上の工夫をみると、「利用者のレベルにあった内容となるように配慮している」の割合が最も高く69.8%だった。次いで、「利用者の障害にあったスポーツや運動を実施している」が51.9%だった。

最も利用者数が多い障害種別にみると、肢体不自由・視覚障害・聴覚障害（身体障害）では、「利用者のレベルにあった内容となるように配慮している」の割合が最も高く81.6%だった。次いで、「利用者の障害にあったスポーツや運動を実施している」が68.4%だった。知的障害では、「利用者のレベルにあった内容となるように配慮している」の割合が最も高く、67.8%だった。次いで、「利用者の障害にあったスポーツや運動を実施している」が55.2%だった。精神障害・発達障害・高次脳機能障害では、「利用者のレベルにあった内容となるように配慮している」の割合が最も高く、69.1%だった。次いで、「利用者に参加したいスポーツや運動について希望を聞いている」が57.0%だった。

最も利用者数が多い障害種別に比較すると、他と比較して、肢体不自由・視覚障害・聴覚障害（身体障害）は「利用者の障害にあったスポーツや運動を実施している」「利用者のレベルにあった内容となるように配慮している」、精神障害・発達障害・高次脳機能障害は「利用者に参加したいスポーツや運動について希望を聞いている」の割合が高い傾向にあった。

図表 4-13 利用者がスポーツや運動を含むイベント・取組に参加しやすくするための工夫〔複数回答〕(Q6-5) —最も利用者数が多い障害種別



(8) イベントや取組でスポーツや運動を行う際に必要な支援

イベントや取組でスポーツや運動を行う際に必要な支援は、「適切な指導者」の割合が最も高く 42.3%だった。次いで「障害にあわせたプログラムの充実」が 31.2%だった。

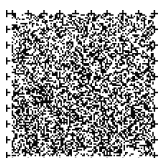
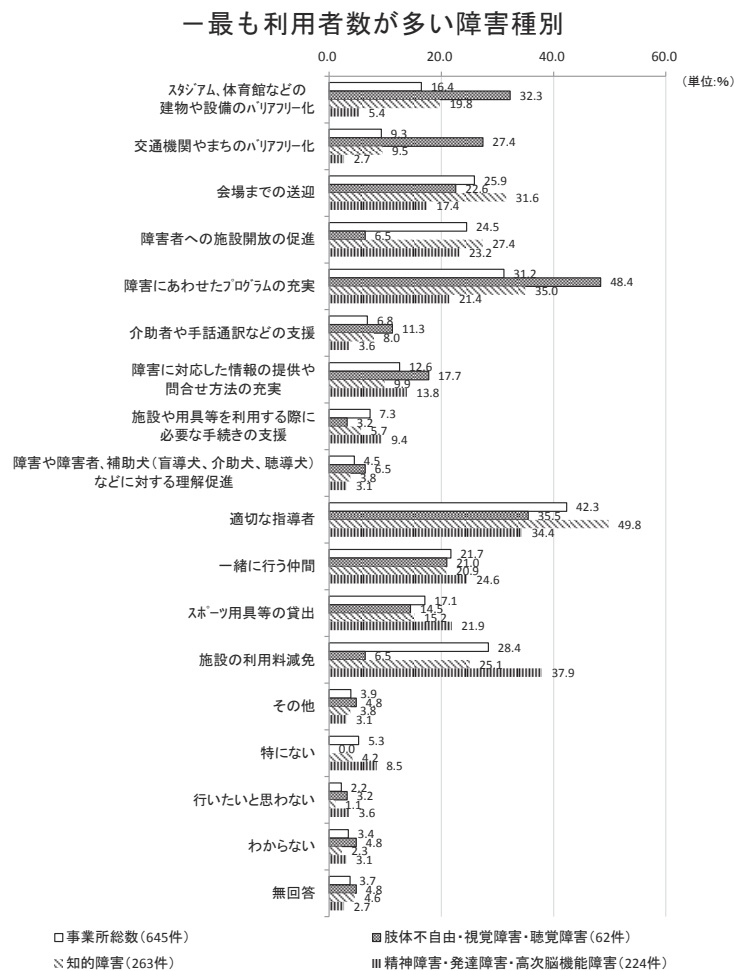
最も利用者数が多い障害種別にみると、肢体不自由・視覚障害・聴覚障害（身体障害）では、「障害にあわせたプログラムの充実」の割合が最も高く 48.4%だった。次いで、「適切な指導者」が 35.5%だった。

知的障害では、「適切な指導者」の割合が最も高く 49.8%だった。次いで「障害にあわせたプログラムの充実」が 35.0%だった。

精神障害・発達障害・高次脳機能障害では、「施設の利用料減免」の割合が最も高く 37.9%だった。次いで、「適切な指導者」が 34.4%だった。

最も利用者数が多い障害種別に比較すると、他と比較して、肢体不自由・視覚障害・聴覚障害（身体障害）は「スタジアム、体育館などの建物や設備のバリアフリー化」「交通機関やまちのバリアフリー化」「障害にあわせたプログラムの充実」、知的障害は「適切な指導者」、精神障害・発達障害・高次脳機能障害は「施設の利用料減免」の割合が高い傾向にあった。

図表 4-14 イベントや取組でスポーツや運動を行う際に必要な支援〔3つまで〕(Q7)



(9) 利用者がスポーツ観戦をする上で必要な支援

利用者がスポーツ観戦をする上で必要な支援は、「観戦料の減免」の割合が最も高く46.5%だった。次いで、「障害者に配慮した観戦席の充実」が41.6%だった。

最も利用者数が多い障害種別にみると、肢体不自由・視覚障害・聴覚障害（身体障害）では、「スタジアム、体育館などの建物や設備のバリアフリー化」の割合が最も高く64.5%だった。次いで、「障害者に配慮した観戦席の充実」が58.1%だった。

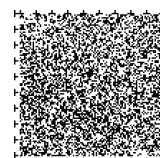
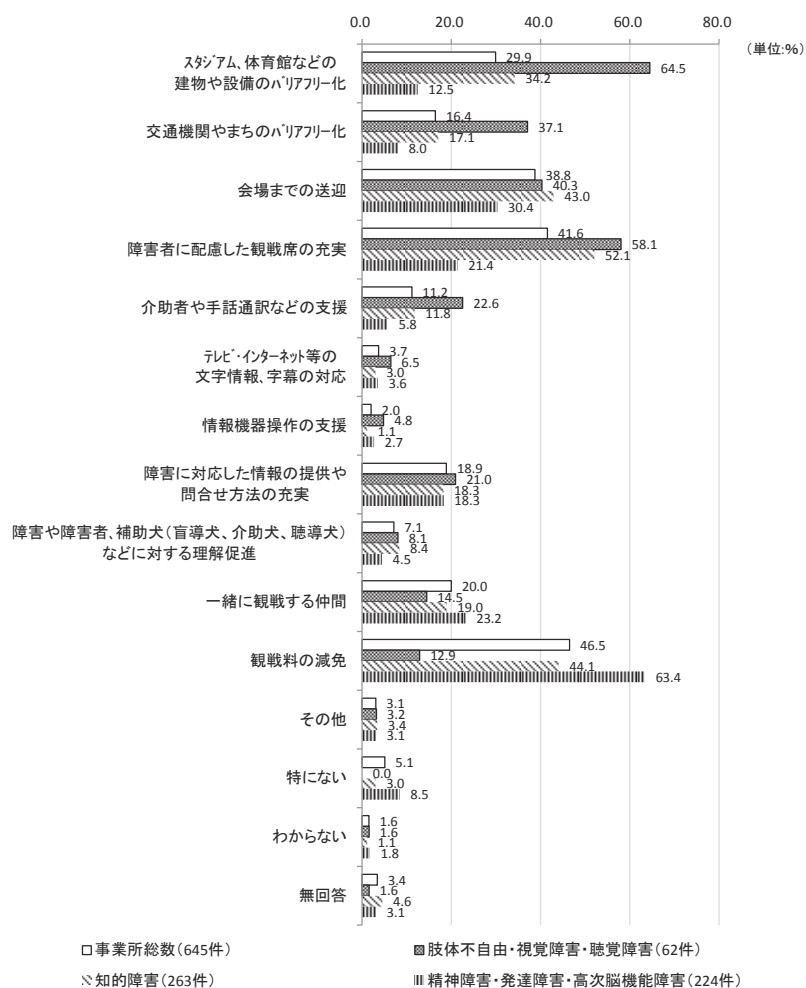
知的障害では、「障害者に配慮した観戦席の充実」の割合が最も高く52.1%だった。次いで、「観戦料の減免」が44.1%、「会場までの送迎」が43.0%だった。

精神障害・発達障害・高次脳機能障害では、「観戦料の減免」の割合が最も高く63.4%だった。次いで、「会場までの送迎」が30.4%だった。

最も利用者数が多い障害種別に比較すると、他と比較して、肢体不自由・視覚障害・聴覚障害（身体障害）は「スタジアム、体育館などの建物や設備のバリアフリー化」「交通機関やまちのバリアフリー化」「介助者や手話通訳などの支援」、精神障害・発達障害・高次脳機能障害は「観戦料の減免」の割合が高い傾向にあった。

図表 4-15 利用者がスポーツ観戦をする上で必要な支援〔3つまで〕(Q8)

ー最も利用者数が多い障害種別



3 東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会について

(1) 東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会での関わり方

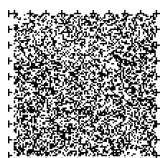
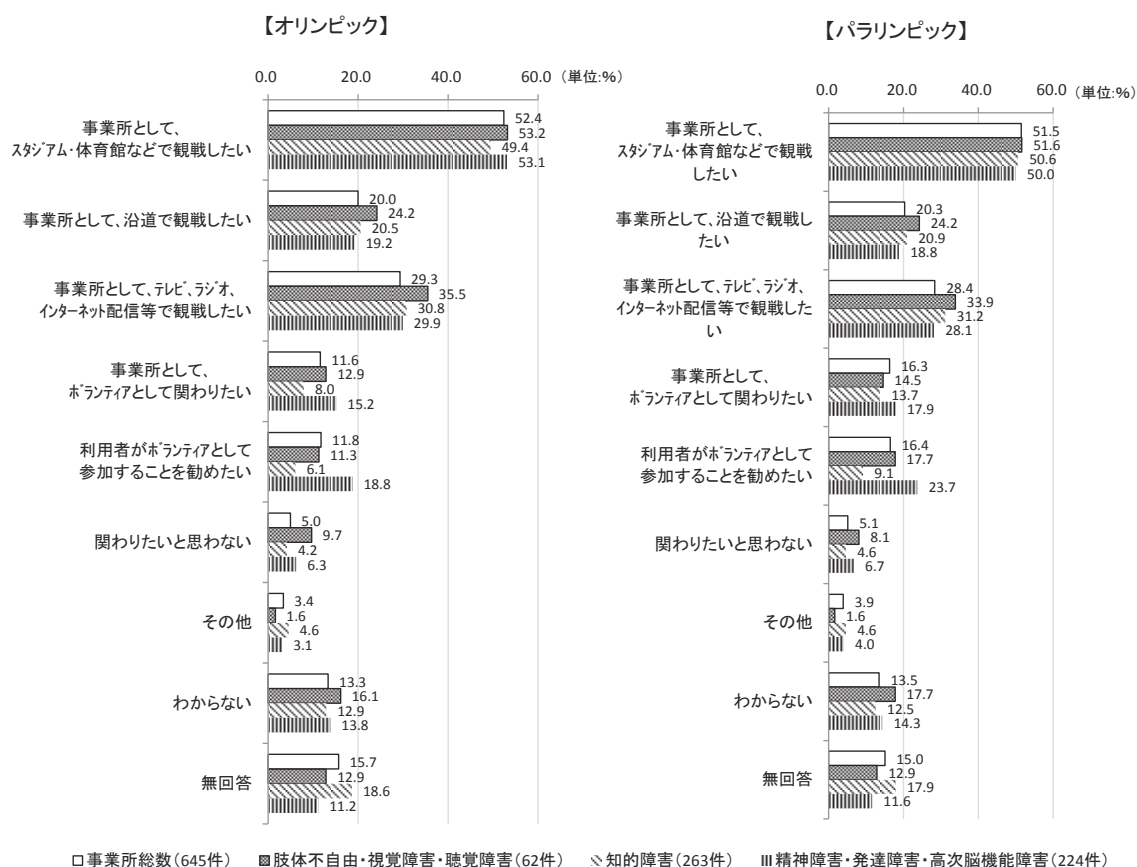
東京 2020 オリンピックでの関わり方の希望は、「事業所として、スタジアム・体育館などで観戦したい」の割合が最も高く 52.4%だった。次いで、「事業所として、テレビ、ラジオ、インターネット配信等で観戦したい」が 29.3%だった。

最も利用者数が多い障害種別にみると、いずれも「事業所として、スタジアム・体育館などで観戦したい」の割合が高く、肢体不自由・視覚障害・聴覚障害（身体障害）は 53.2%、知的障害は 49.4%、精神障害・発達障害・高次脳機能障害は 53.1%だった。

東京 2020 パラリンピックでの関わり方の希望は、「事業所として、スタジアム・体育館などで観戦したい」の割合が最も高く 51.5%だった。次いで、「事業所として、テレビ、ラジオ、インターネット配信等で観戦したい」が 28.4%だった。

最も利用者数が多い障害種別にみると、いずれも「事業所として、スタジアム・体育館などで観戦したい」の割合が最も高く、肢体不自由・視覚障害・聴覚障害（身体障害）は 51.6%、知的障害は 50.6%、精神障害・発達障害・高次脳機能障害は 50.0%だった。

図表 4-16 東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会への関わり方〔複数回答〕(Q9)
ー最も利用者数が多い障害種別



(2) 東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会で関わりたいボランティア活動

① 東京 2020 オリンピック

(※東京 2020 オリンピックでの関わり方の希望で「事業所として、ボランティアとして関わりたい」「利用者がボランティアとして参加することを勧めたい」と回答した 104 事業所が対象)

東京 2020 オリンピックでの関わり方の希望で「事業所として、ボランティアとして関わりたい」「利用者がボランティアとして参加することを勧めたい」と回答した事業所について、東京 2020 オリンピックで関わりたいボランティアの種類をみると、「選手村・会場内での清掃」の割合が最も高く 53.8%だった。次いで、「選手村や会場の食堂での配膳」が 46.2%だった。

最も利用者数が多い障害種別にみると、肢体不自由・視覚障害・聴覚障害（身体障害）では、「会場内での観客・大会関係者の誘導」「選手村や会場の食堂での配膳」の割合が最も高く、それぞれ 54.5%だった。次いで、「競技会場の最寄駅から会場までの観客案内」が 45.5%だった。知的障害では、「選手村・会場内での清掃」の割合が最も高く 50.0%だった。次いで、「選手村や会場の食堂での配膳」が 34.6%だった。

精神障害・発達障害・高次脳機能障害では、「選手村・会場内での清掃」の割合が最も高く 60.4%だった。次いで、「選手村や会場の食堂での配膳」が 50.9%だった。

最も利用者数が多い障害種別に比較すると、他と比較して、肢体不自由・視覚障害・聴覚障害（身体障害）は「競技会場の最寄駅から会場までの観客案内」、精神障害・発達障害・高次脳機能障害は「チケットチェック等の入場管理」「選手村でのハウスキーピング等」「選手村・会場内での清掃」の割合が高い傾向にあった。

② 東京 2020 パラリンピック

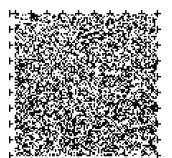
(※東京 2020 パラリンピックでの関わり方の希望で「事業所として、ボランティアとして関わりたい」「利用者がボランティアとして参加することを勧めたい」と回答した 146 事業所が対象)

東京 2020 パラリンピックでの関わり方の希望で「事業所として、ボランティアとして関わりたい」「利用者がボランティアとして参加することを勧めたい」と回答した事業所について、東京 2020 パラリンピックで関わりたいボランティアの種類をみると、「選手村・会場内での清掃」の割合が最も高く 48.6%だった。次いで、「会場内での観客・大会関係者の誘導」が 43.8%だった。

最も利用者数が多い障害種別にみると、肢体不自由・視覚障害・聴覚障害（身体障害）では、「会場内での観客・大会関係者の誘導」「選手村や会場の食堂での配膳」の割合が最も高く、それぞれ 53.8%だった。次いで、「競技会場の最寄駅から会場までの観客案内」「選手村・会場内での清掃」がそれぞれ 38.5%だった。

知的障害では、「会場内での観客・大会関係者の誘導」の割合が最も高く 39.5%だった。次いで、「選手村・会場内での清掃」が 37.2%だった。

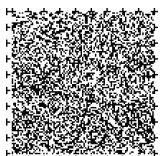
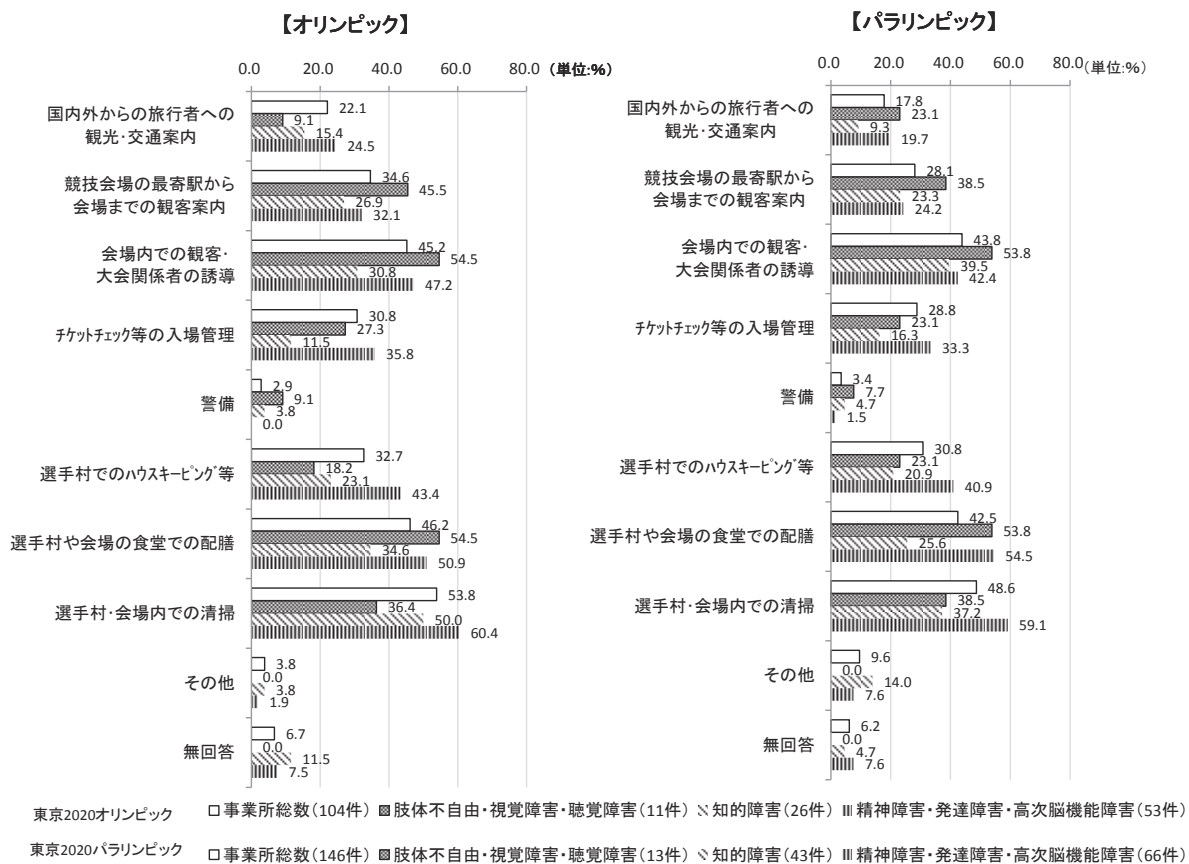
精神障害・発達障害・高次脳機能障害では、「選手村・会場内での清掃」の割合が最も



高く 59.1%だった。次いで、「選手村や会場の食堂での配膳」が 54.5%だった。

最も利用者数が多い障害種別に比較すると、他と比較して、肢体不自由・視覚障害・聴覚障害（身体障害）は「競技会場の最寄駅から会場までの観客案内」「会場内での観客・大会関係者の誘導」、精神障害・発達障害・高次脳機能障害は「チケットチェック等の入場管理」「選手村でのハウスキーピング等」「選手村・会場内での清掃」の割合が高い傾向にあった。

図表 4-17 東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会に関わりたい
ボランティア活動〔複数回答〕(Q9-1)－最も利用者数が多い障害種別



(3) 東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会で利用者がボランティアを行う際に必要な支援

① 東京 2020 オリンピック

(※東京 2020 オリンピックでの関わり方の希望で「事業所として、ボランティアとして関わりたい」「利用者がボランティアとして参加することを勧めたい」と回答した 104 事業所が対象)

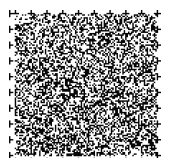
東京 2020 オリンピックでの関わり方の希望で「事業所として、ボランティアとして関わりたい」「利用者がボランティアとして参加することを勧めたい」と回答した事業所について、東京 2020 オリンピックで利用者がボランティアを行う際に必要な支援をみると、「ボランティア活動に関する情報提供の充実」の割合が最も高く 57.7%だった。次いで、「活動の場までの送迎」が 51.9%だった。

最も利用者数が多い障害種別にみると、肢体不自由・視覚障害・聴覚障害（身体障害）では、「交通機関やまちのバリアフリー化」「ボランティア活動に関する情報提供の充実」の割合が最も高く、それぞれ 72.7%だった。次いで、「会場や選手村などの建物や設備のバリアフリー化」「活動の場までの送迎」「一緒に行く仲間」がそれぞれ 63.6%だった。

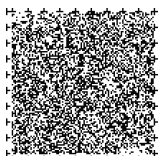
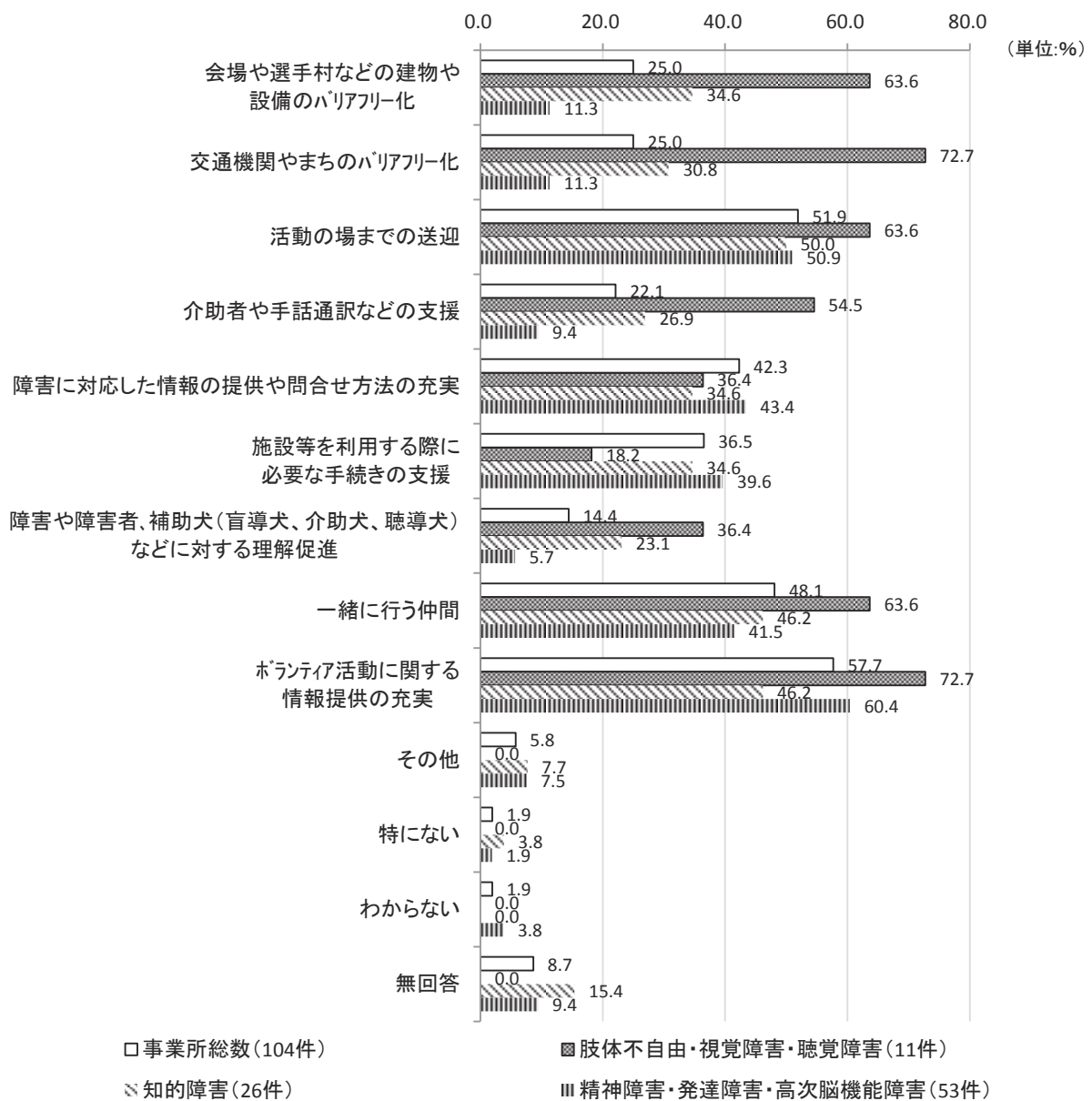
知的障害では、「活動の場までの送迎」の割合が最も高く 50.0%だった。次いで、「一緒に行く仲間」「ボランティア活動に関する情報提供の充実」がそれぞれ 46.2%だった。

精神障害・発達障害・高次脳機能障害では、「ボランティア活動に関する情報提供の充実」の割合が最も高く 60.4%だった。次いで、「活動の場までの送迎」が 50.9%だった。

最も利用者数が多い障害種別に比較すると、他と比較して、肢体不自由・視覚障害・聴覚障害（身体障害）は「会場や選手村などの建物や設備のバリアフリー化」「交通機関やまちのバリアフリー化」「活動の場までの送迎」「介助者や手話通訳などの支援」「障害や障害者、補助犬（盲導犬、介助犬、聴導犬）などに対する理解促進」「一緒に行く仲間」「ボランティア活動に関する情報提供の充実」の割合が高い傾向にあった。



図表 4-18 東京 2020 オリンピックで利用者がボランティアを行う際に必要な支援
〔複数回答〕(Q9-2) - 最も利用者数が多い障害種別



② 東京 2020 パラリンピック

(※東京 2020 パラリンピックでの関わり方の希望で「事業所として、ボランティアとして関わりたい」「利用者がボランティアとして参加することを勧めたい」と回答した 146 事業所が対象)

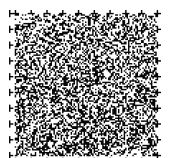
東京 2020 パラリンピックでの関わり方の希望で「事業所として、ボランティアとして関わりたい」「利用者がボランティアとして参加することを勧めたい」と回答した事業所について、東京 2020 パラリンピックで利用者がボランティアを行う際に必要な支援をみると、「ボランティア活動に関する情報提供の充実」の割合が最も高く 58.2%だった。次いで、「活動の場までの送迎」が 50.7%だった。

最も利用者数が多い障害種別にみると、肢体不自由・視覚障害・聴覚障害（身体障害）では、「交通機関やまちのバリアフリー化」「ボランティア活動に関する情報提供の充実」の割合が最も高く、それぞれ 69.2%だった。次いで、「会場や選手村などの建物や設備のバリアフリー化」「活動の場までの送迎」「一緒に行く仲間」がそれぞれ 61.5%だった。

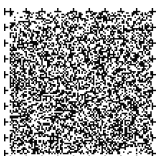
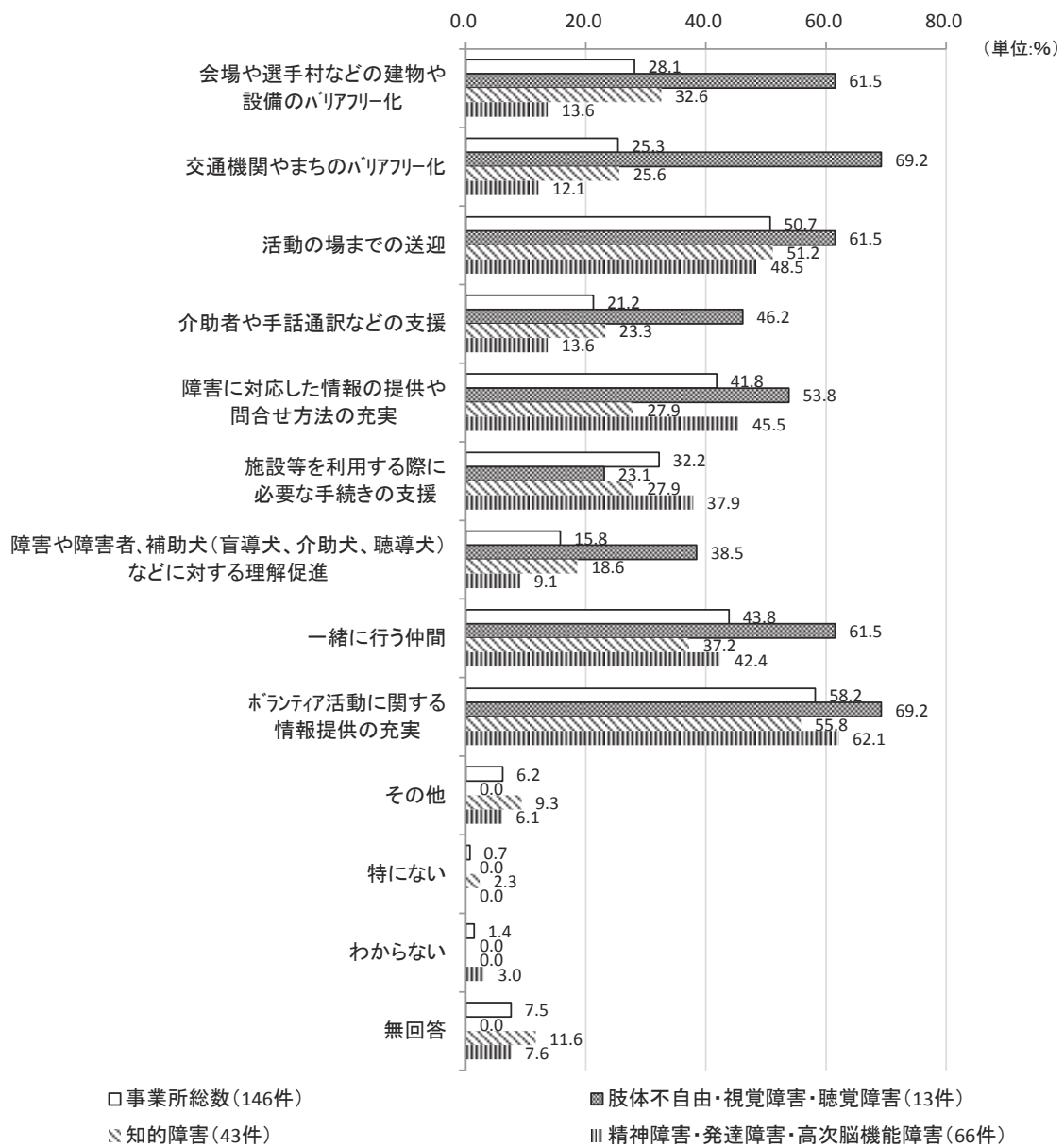
知的障害では、「ボランティア活動に関する情報提供の充実」の割合が最も高く 55.8%だった。次いで、「活動の場までの送迎」が 51.2%だった。

精神障害・発達障害・高次脳機能障害では、「ボランティア活動に関する情報提供の充実」の割合が最も高く 62.1%だった。次いで、「活動の場までの送迎」が 48.5%だった。

最も利用者数が多い障害種別に比較すると、他と比較して、肢体不自由・視覚障害・聴覚障害（身体障害）は「会場や選手村などの建物や設備のバリアフリー化」「交通機関やまちのバリアフリー化」「活動の場までの送迎」「介助者や手話通訳などの支援」「障害や障害者、補助犬（盲導犬、介助犬、聴導犬）などに対する理解促進」「一緒に行く仲間」、精神障害・発達障害・高次脳機能障害は「施設等を利用する際に必要な手続きの支援」の割合が高い傾向にあった。



図表 4-19 東京 2020 パラリンピックで利用者がボランティアを行う際に必要な支援
〔複数回答〕（Q9-2）－最も利用者数が多い障害種別



4 文化、芸術活動について

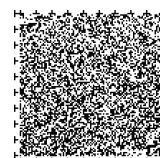
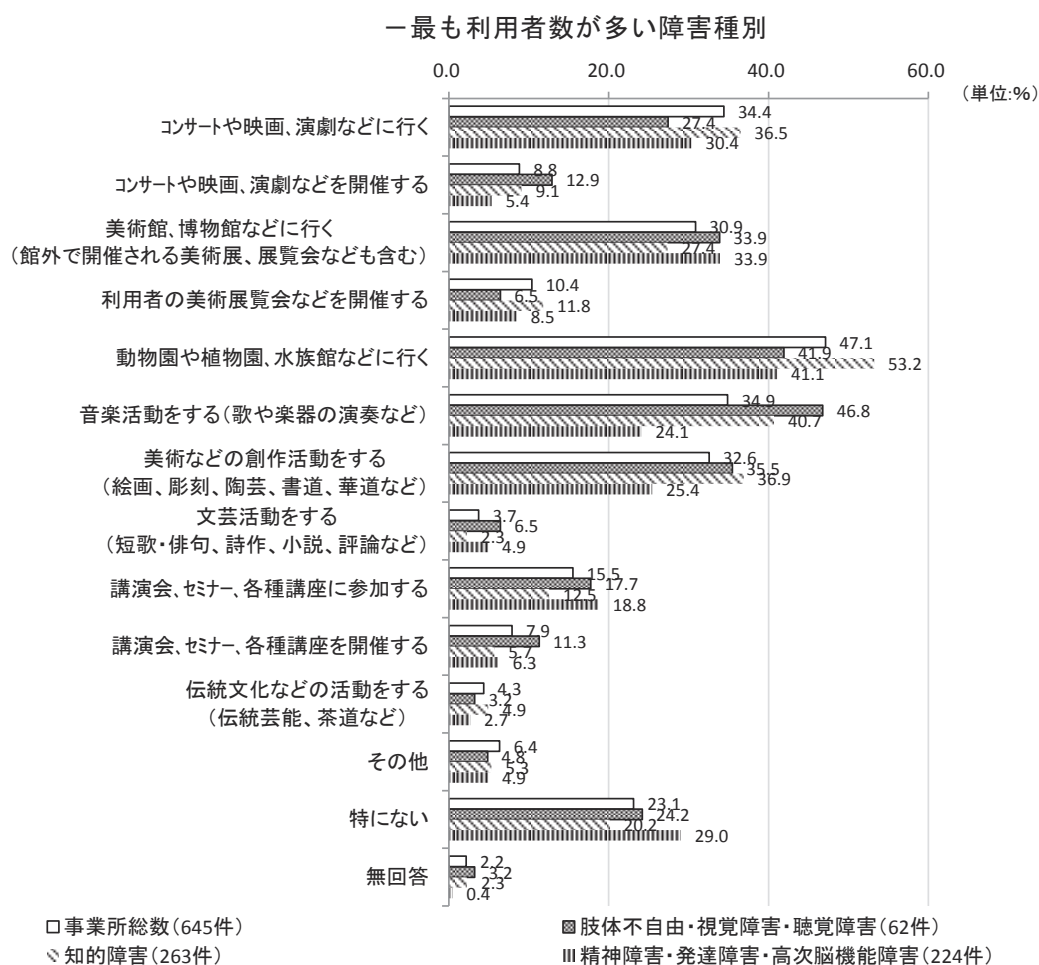
(1) 文化、芸術活動に関するイベント・取組の状況

文化、芸術活動に関するイベント・取組の状況は、「動物園や植物園、水族館などに行く」の割合が最も高く 47.1%だった。次いで、「音楽活動をする（歌や楽器の演奏など）」が 34.9%だった。

最も利用者数が多い障害種別にみると、肢体不自由・視覚障害・聴覚障害（身体障害）では、「音楽活動をする（歌や楽器の演奏など）」の割合が最も高く 46.8%だった。次いで、「動物園や植物園、水族館などに行く」が 41.9%だった。知的障害では、「動物園や植物園、水族館などに行く」の割合が最も高く、53.2%だった。次いで、「音楽活動をする（歌や楽器の演奏など）」が 40.7%だった。精神障害・発達障害・高次脳機能障害では、「動物園や植物園、水族館などに行く」の割合が最も高く 41.1%だった。次いで、「美術館、博物館などに行く（館外で開催される美術展、展覧会なども含む）」が 33.9%だった。

最も利用者数が多い障害種別に比較すると、他と比較して、知的障害は「動物園や植物園、水族館などに行く」の割合が高い傾向にあった。

図表 4-20 文化、芸術活動に関するイベント・取組の状況〔複数回答〕（Q10）



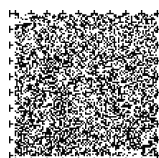
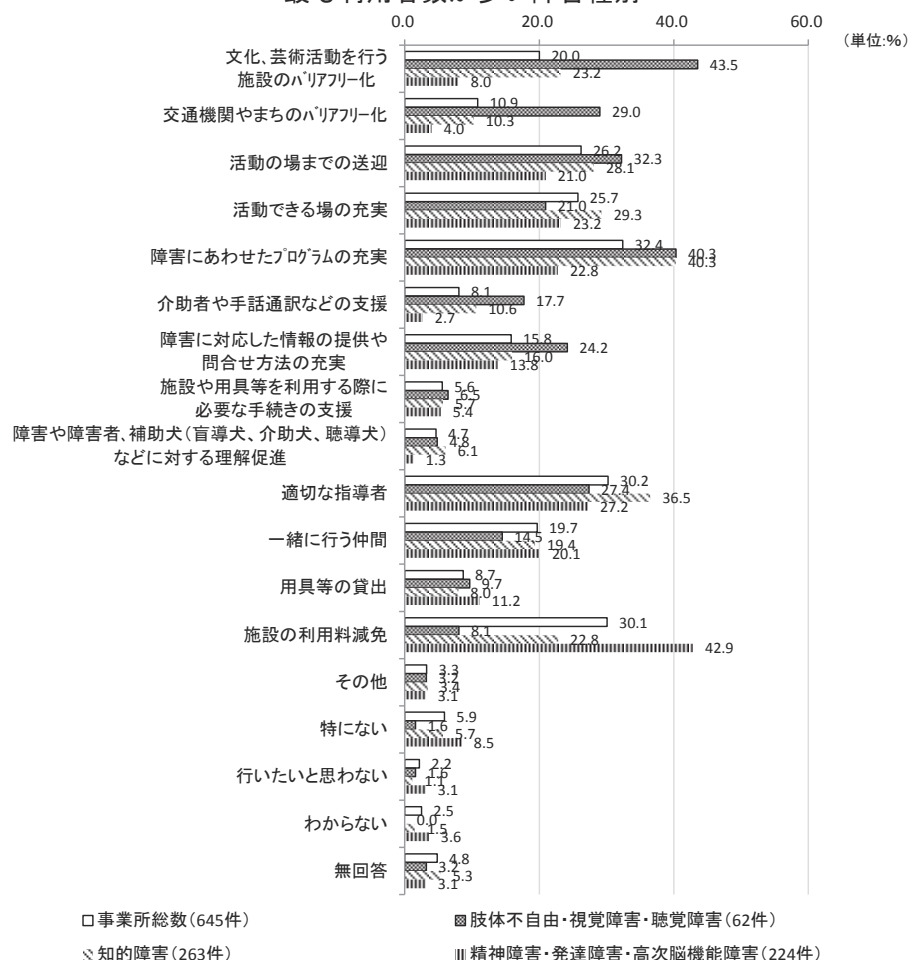
(2) 文化、芸術活動に関するイベント・取組を行う際に必要な支援

文化、芸術活動に関するイベント・取組を行う際に必要な支援は、「障害にあわせたプログラムの充実」の割合が最も高く 32.4%だった。次いで、「適切な指導者」が 30.2%だった。

最も利用者数が多い障害種別にみると、肢体不自由・視覚障害・聴覚障害（身体障害）では、「文化、芸術活動を行う施設のバリアフリー化」の割合が最も高く 43.5%だった。次いで、「障害にあわせたプログラムの充実」が 40.3%だった。知的障害では、「障害にあわせたプログラムの充実」の割合が最も高く 40.3%だった。次いで、「適切な指導者」が 36.5%だった。精神障害・発達障害・高次脳機能障害では、「施設の利用料減免」の割合が最も高く 42.9%だった。次いで、「適切な指導者」が 27.2%だった。

最も利用者数が多い障害種別に比較すると、他と比較して、肢体不自由・視覚障害・聴覚障害（身体障害）は「文化、芸術活動を行う施設のバリアフリー化」「交通機関やまちのバリアフリー化」、精神障害・発達障害・高次脳機能障害は「施設の利用料減免」の割合が高い傾向にあった。

図表 4-21 文化、芸術活動に関するイベント・取組を行う際に必要な支援〔3つまで〕(Q11)
－最も利用者数が多い障害種別



5 ボランティア活動について

(1) 利用者のボランティア活動参加についての事業所の考え

利用者のボランティア活動参加についての事業所の考えは、「それぞれの利用者に任せたい」の割合が最も高く 39.4%だった。次いで、「支援したいが難しい」が 20.8%だった。

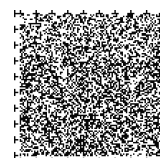
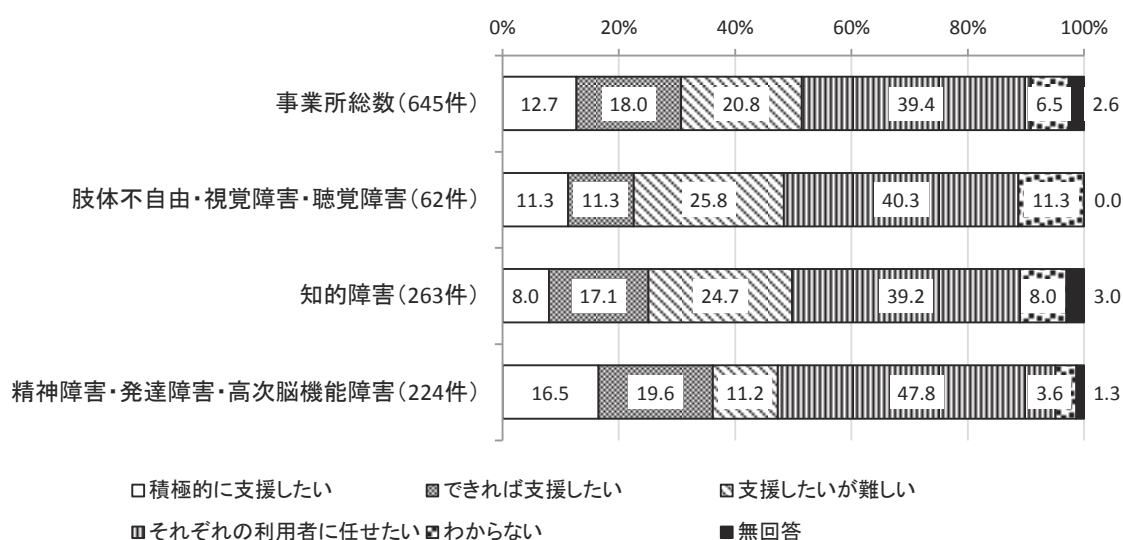
最も利用者数が多い障害種別にみると、肢体不自由・視覚障害・聴覚障害（身体障害）では、「それぞれの利用者に任せたい」の割合が最も高く 40.3%だった。次いで、「支援したいが難しい」が 25.8%だった。

知的障害では、「それぞれの利用者に任せたい」の割合が最も高く 39.2%だった。次いで、「支援したいが難しい」が 24.7%だった。

精神障害・発達障害・高次脳機能障害では、「それぞれの利用者に任せたい」の割合が最も高く 47.8%だった。次いで、「できれば支援したい」が 19.6%だった。

図表 4-22 利用者のボランティア活動参加についての事業所の考え〔単数回答〕(Q12)

ー最も利用者数が多い障害種別



(2) 利用者のボランティア活動参加への支援状況

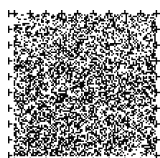
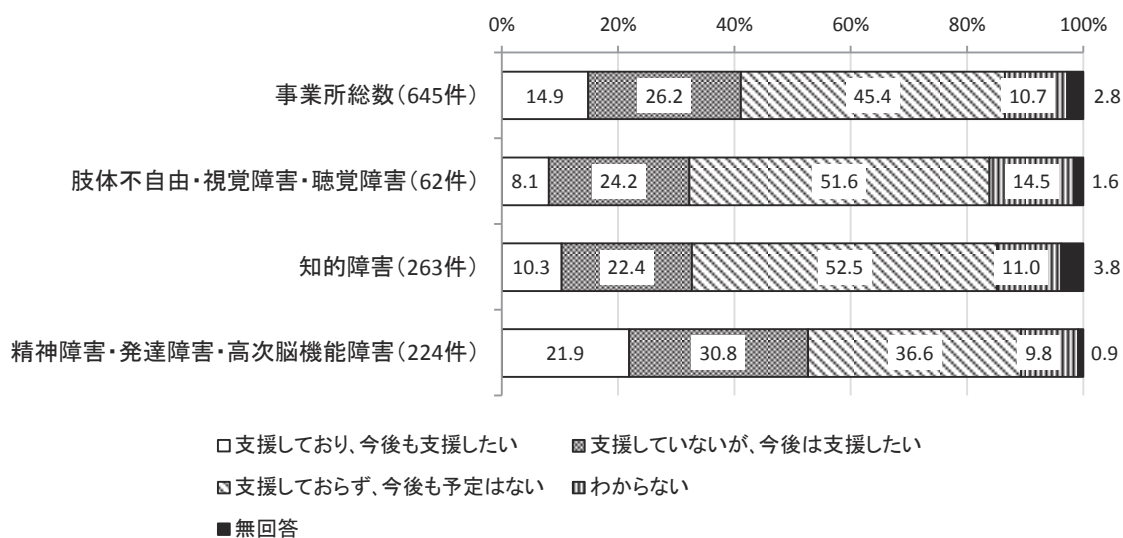
利用者のボランティア活動参加への支援状況は、「支援しておらず、今後も予定はない」の割合が最も高く 45.4%だった。次いで、「支援していないが、今後は支援したい」が 26.2%だった。

最も利用者数が多い障害種別にみると、いずれも「支援しておらず、今後も予定はない」の割合が高く、肢体不自由・視覚障害・聴覚障害（身体障害）は 51.6%、知的障害は 52.5%、精神障害・発達障害・高次脳機能障害は 36.6%だった。

最も利用者数が多い障害種別に比較すると、他と比較して、精神障害・発達障害・高次脳機能障害は「支援しており、今後は支援したい」の割合が高い傾向にあった。

図表 4-23 利用者のボランティア活動参加への支援状況〔単数回答〕(Q13)

ー最も利用者数が多い障害種別



(3) ボランティア活動への参加支援の分野

① 今までに支援したことがあるボランティア活動の分野

(※利用者のボランティア活動参加への支援状況で「支援しており、今後も支援したい」「支援していないが、今後は支援したい」と回答した 265 事業所が対象)

利用者のボランティア活動参加への支援状況で「支援しており、今後も支援したい」「支援していないが、今後は支援したい」と回答した事業所について、今までに支援したことがあるボランティア活動の分野をみると、「お祭り、町会・自治会などの地域の活動」の割合が最も高く 36.2%だった。次いで、「障害者、高齢者等の支援などの福祉、医療に関する活動」が 21.9%だった。

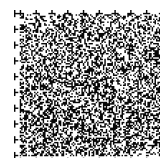
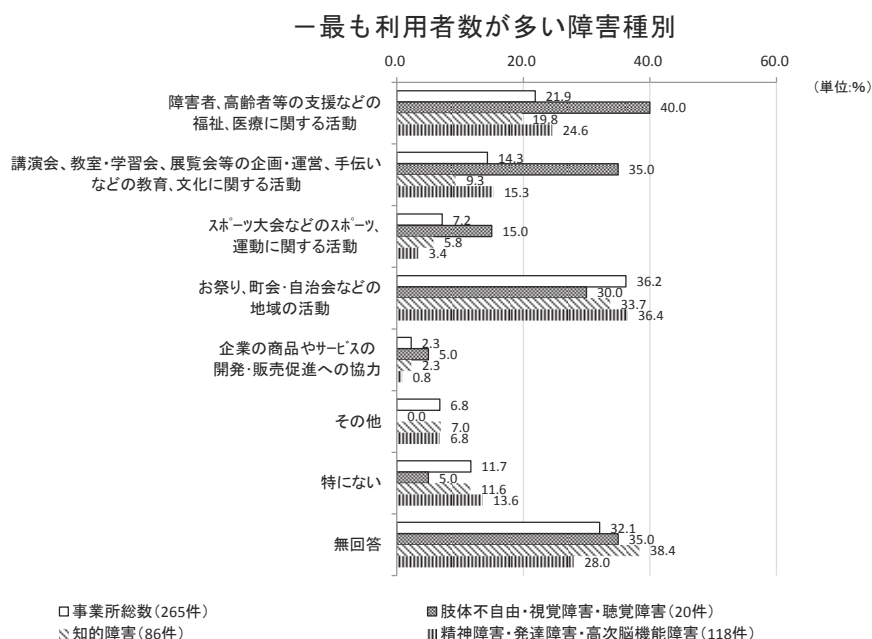
最も利用者数が多い障害種別にみると、肢体不自由・視覚障害・聴覚障害（身体障害）では、「障害者、高齢者等の支援などの福祉、医療に関する活動」の割合が最も高く、40.0%だった。次いで、「講演会、教室・学習会、展覧会等の企画・運営、手伝いなどの教育、文化に関する活動」「無回答」がそれぞれ 35.0%だった。

知的障害では、「お祭り、町会・自治会などの地域の活動」が 33.7%だった。「無回答」も 38.4%だった。

精神障害・発達障害・高次脳機能障害では、「お祭り、町会・自治会などの地域の活動」の割合が最も高く、36.4%だった。「無回答」も 28.0%だった。

最も利用者数が多い障害種別に比較すると、他と比較して、肢体不自由・視覚障害・聴覚障害（身体障害）は「障害者、高齢者等の支援などの福祉、医療に関する活動」「講演会、教室・学習会、展覧会等の企画・運営、手伝いなどの教育、文化に関する活動」「スポーツ大会などのスポーツ、運動に関する活動」の割合が高い傾向にあった。

図表 4-24 今までに支援したことがあるボランティア活動の分野〔複数回答〕(Q13-1)



② 今後支援したいボランティア活動の分野

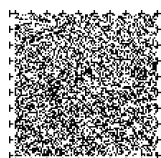
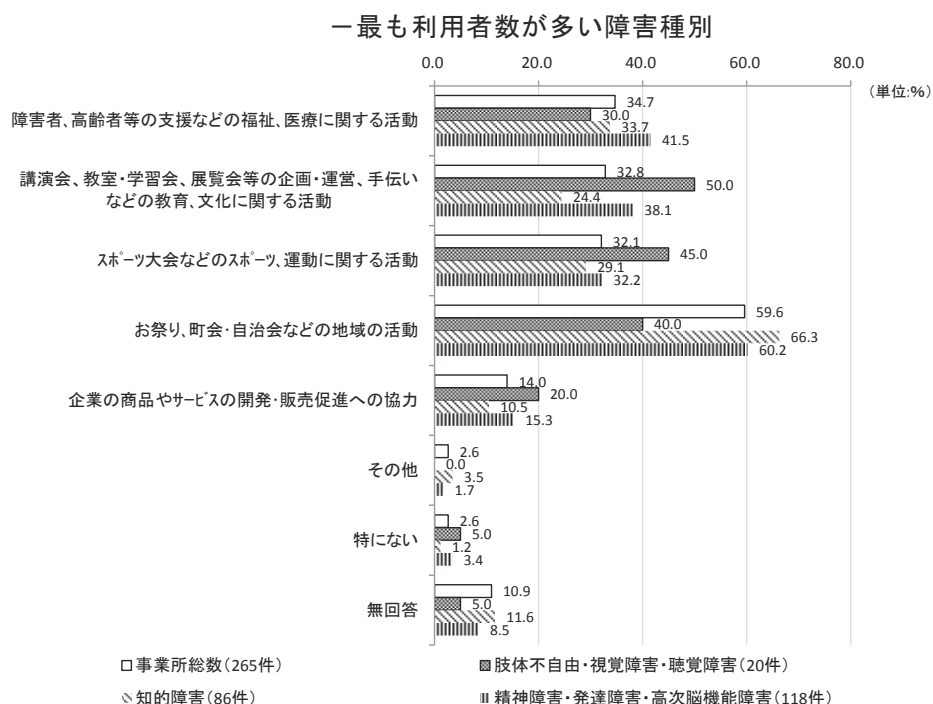
(※利用者のボランティア活動参加への支援状況で「支援しており、今後も支援したい」「支援していないが、今後は支援したい」と回答した 265 事業所が対象)

利用者のボランティア活動参加への支援状況で「支援しており、今後も支援したい」「支援していないが、今後は支援したい」と回答した事業所について、今後支援したいボランティア活動の分野をみると、「お祭り、町会・自治会などの地域の活動」の割合が最も高く 59.6%だった。次いで、「障害者、高齢者等の支援などの福祉、医療に関する活動」が 34.7%だった。

最も利用者数が多い障害種別にみると、肢体不自由・視覚障害・聴覚障害（身体障害）では、「講演会、教室・学習会、展覧会等の企画・運営、手伝いなどの教育、文化に関する活動」の割合が最も高く 50.0%だった。次いで、「スポーツ大会などのスポーツ、運動に関する活動」が 45.0%だった。知的障害では、「お祭り、町会・自治会などの地域の活動」の割合が最も高く 66.3%だった。次いで、「障害者、高齢者等の支援などの福祉、医療に関する活動」が 33.7%だった。精神障害・発達障害・高次脳機能障害では、「お祭り、町会・自治会などの地域の活動」の割合が最も高く 60.2%だった。次いで、「障害者、高齢者等の支援などの福祉、医療に関する活動」が 41.5%だった。

最も利用者数が多い障害種別に比較すると、他と比較して、肢体不自由・視覚障害・聴覚障害（身体障害）は「講演会、教室・学習会、展覧会等の企画・運営、手伝いなどの教育、文化に関する活動」「スポーツ大会などのスポーツ、運動に関する活動」の割合が高い傾向にあった。

図表 4-25 今後支援したいボランティア活動の分野〔複数回答〕(Q13-1)



(4) ボランティア活動への参加支援の内容

① 今までに支援したことがあるボランティア活動の内容

(※利用者のボランティア活動参加への支援状況で「支援しており、今後も支援したい」「支援していないが、今後は支援したい」と回答した 265 事業所が対象)

利用者のボランティア活動参加への支援状況で「支援しており、今後も支援したい」「支援していないが、今後は支援したい」と回答した事業所について、今までに支援したことがあるボランティア活動の内容をみると、「イベント等の会場準備の手伝い」が 23.0%、「清掃」が 18.1%、「活動の指導、手伝い」が 17.4%だった。

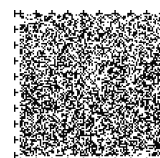
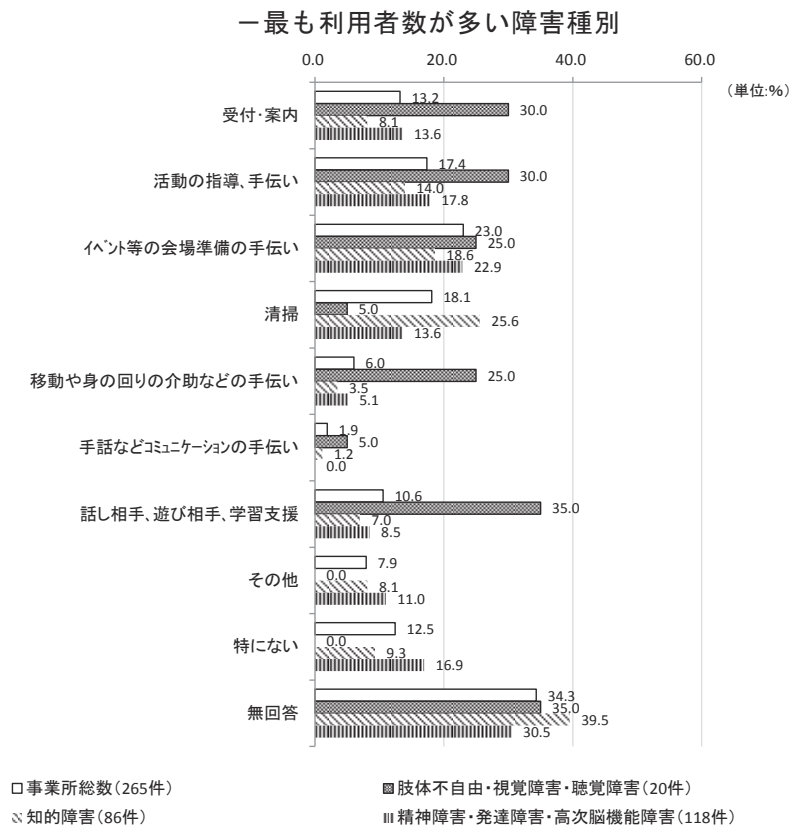
最も利用者数が多い障害種別にみると、肢体不自由・視覚障害・聴覚障害（身体障害）では、「話し相手、遊び相手、学習支援」の割合が最も高く 35.0%だった。次いで、「受付・案内」「活動の指導、手伝い」がそれぞれ 30.0%だった。

知的障害では、「清掃」が 25.6%、「イベント等の会場準備の手伝い」が 18.6%だった。

精神障害・発達障害・高次脳機能障害では、「イベント等の会場準備の手伝い」が 22.9%、「活動の指導、手伝い」が 17.8%だった。

最も利用者数が多い障害種別に比較すると、他と比較して、肢体不自由・視覚障害・聴覚障害（身体障害）は「受付・案内」「活動の指導、手伝い」「移動や身の回りの介助などの手伝い」「話し相手、遊び相手、学習支援」の割合が高い傾向にあった。

図表 4-26 今までに支援したことがあるボランティア活動の内容〔複数回答〕(Q13-2)



② 今後支援したいボランティア活動の内容

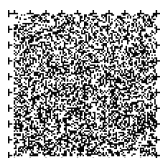
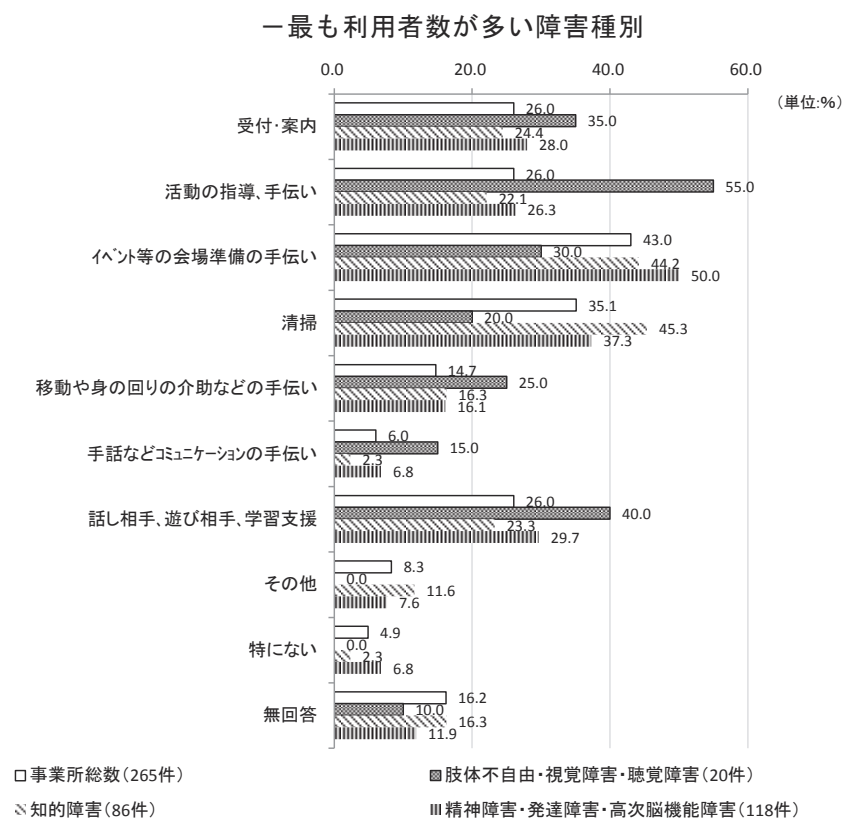
(※利用者のボランティア活動参加への支援状況で「支援しており、今後も支援したい」「支援していないが、今後は支援したい」と回答した 265 事業所が対象)

利用者のボランティア活動参加への支援状況で「支援しており、今後も支援したい」「支援していないが、今後は支援したい」と回答した事業所について、今後支援したいボランティア活動の内容をみると、「イベント等の会場準備の手伝い」の割合が最も高く 43.0%だった。次いで、「清掃」が 35.1%だった。

最も利用者数が多い障害種別にみると、肢体不自由・視覚障害・聴覚障害（身体障害）では、「活動の指導、手伝い」の割合が最も高く 55.0%だった。次いで、「話し相手、遊び相手、学習支援」が 40.0%だった。知的障害では、「清掃」の割合が最も高く 45.3%だった。次いで、「イベント等の会場準備の手伝い」が 44.2%だった。精神障害・発達障害・高次脳機能障害では、「イベント等の会場準備の手伝い」の割合が最も高く 50.0%だった。次いで、「清掃」が 37.3%だった。

最も利用者数が多い障害種別に比較すると、他と比較して、肢体不自由・視覚障害・聴覚障害（身体障害）は「活動の指導、手伝い」「移動や身の回りの介助などの手伝い」「手話などコミュニケーションの手伝い」「話し相手、遊び相手、学習支援」の割合が高い傾向にあった。

図表 4-27 今後支援したいボランティア活動の内容〔複数回答〕(Q13-2)



(5) 利用者のボランティア活動の後押しに必要な支援

利用者のボランティア活動の後押しに必要な支援は、「ボランティア活動に関する情報提供の充実」の割合が最も高く 38.6%だった。次いで、「一緒に行く仲間」が 32.1%だった。

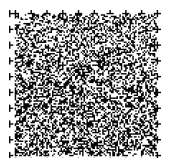
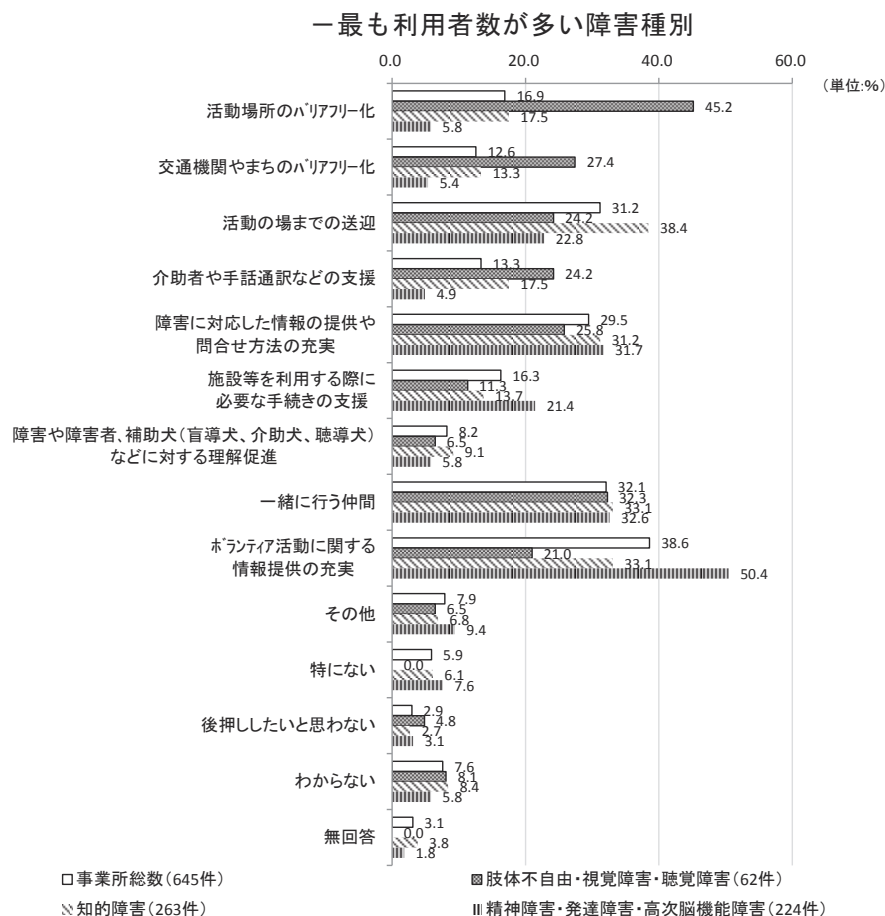
最も利用者数が多い障害種別にみると、肢体不自由・視覚障害・聴覚障害（身体障害）では、「活動場所のバリアフリー化」の割合が最も高く 45.2%だった。次いで、「一緒に行く仲間」が 32.3%だった。

知的障害では、「活動の場までの送迎」の割合が最も高く 38.4%だった。次いで、「一緒に行く仲間」「ボランティア活動に関する情報提供の充実」がそれぞれ 33.1%だった。

精神障害・発達障害・高次脳機能障害では、「ボランティア活動に関する情報提供の充実」の割合が最も高く 50.4%だった。次いで、「一緒に行く仲間」が 32.6%、「障害に対応した情報の提供や問合せ方法の充実」が 31.7%だった。

最も利用者数が多い障害種別に比較すると、他と比較して、肢体不自由・視覚障害・聴覚障害（身体障害）は「活動場所のバリアフリー化」「交通機関やまちのバリアフリー化」、知的障害は「活動の場までの送迎」、精神障害・発達障害・高次脳機能障害は「ボランティア活動に関する情報提供の充実」の割合が高い傾向にあった。

図表 4-28 利用者のボランティア活動の後押しに必要な支援〔3つまで〕(Q14)



(6) 利用者が行うボランティア活動の分野

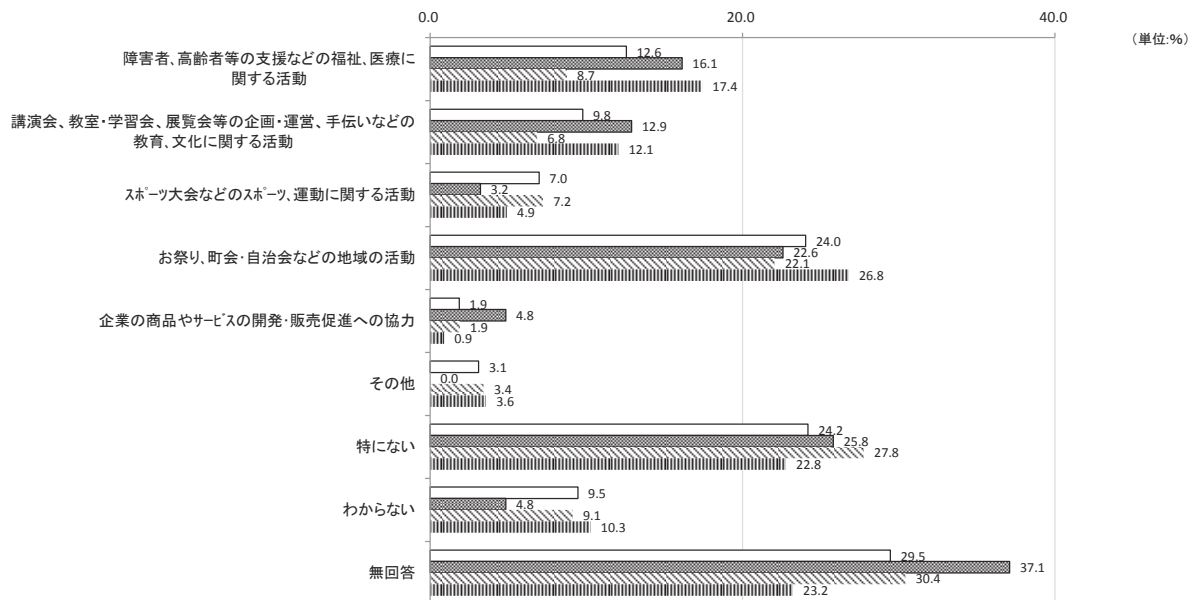
① これまでに利用者が参加したボランティア活動の分野

これまでに利用者が参加したボランティア活動の分野は、「お祭り、町会・自治会などの地域の活動」が 24.0%、「障害者、高齢者等の支援などの福祉、医療に関する活動」が 12.6%だった。「特にない」も 24.2%であった。

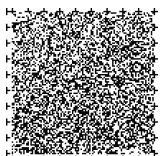
最も利用者数が多い障害種別にみると、いずれも、「お祭り、町会・自治会などの地域の活動」の割合が高く、肢体不自由・視覚障害・聴覚障害（身体障害）では 22.6%、知的障害では 22.1%、精神障害・発達障害・高次脳機能障害では 26.8%だった。

また、「特にない」の割合も高く、肢体不自由・視覚障害・聴覚障害（身体障害）では 25.8%、知的障害では 27.8%、精神障害・発達障害・高次脳機能障害では 22.8%だった。

図表 4-29 これまでに利用者が参加したボランティア活動の分野〔複数回答〕(Q15)
ー最も利用者数が多い障害種別



□事業所総数(645件) ■肢体不自由・視覚障害・聴覚障害(62件) ▨知的障害(263件) ▩精神障害・発達障害・高次脳機能障害(224件)



② 今後利用者に勧めたいボランティア活動の分野

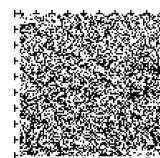
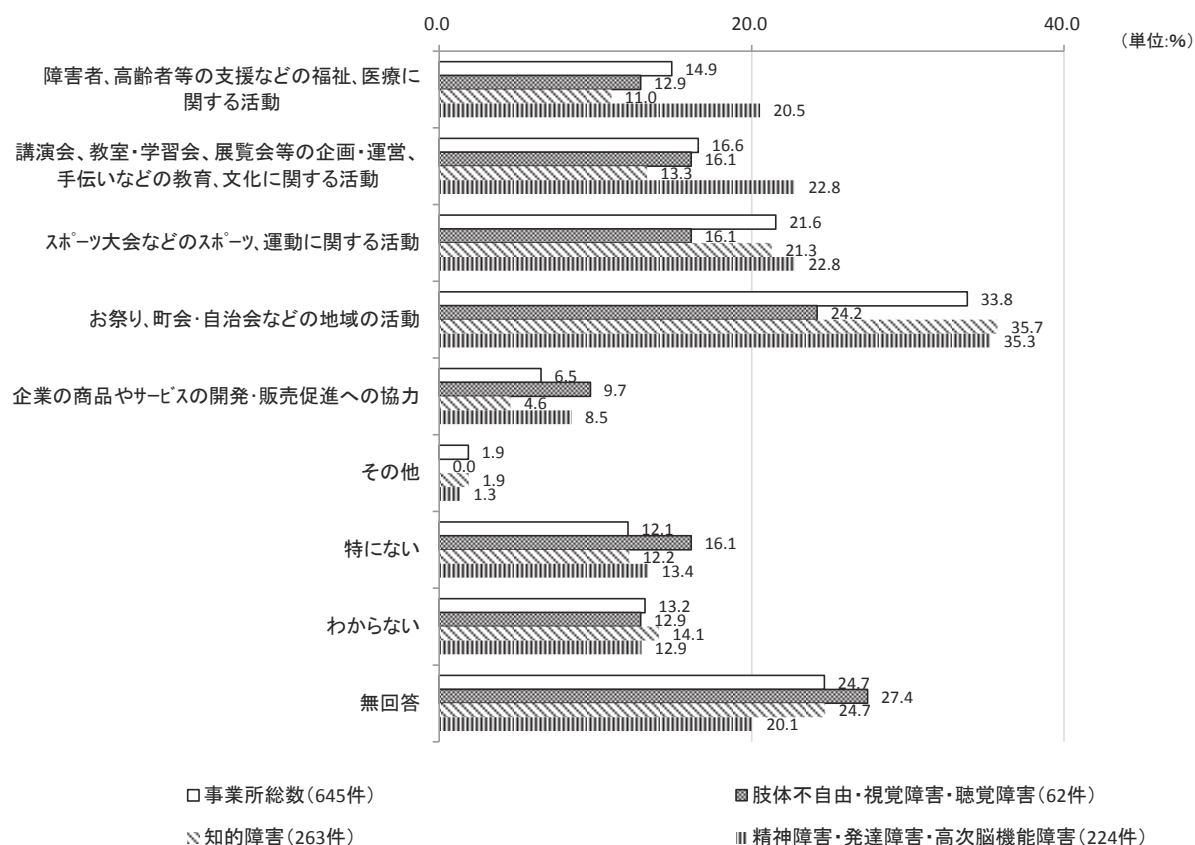
今後利用者に勧めたいボランティア活動の分野は、「お祭り、町会・自治会などの地域の活動」が33.8%、「スポーツ大会などのスポーツ、運動に関する活動」が21.6%だった。

最も利用者数が多い障害種別にみると、いずれも、「お祭り、町会・自治会などの地域の活動」の割合が高く、肢体不自由・視覚障害・聴覚障害（身体障害）では24.2%、知的障害では35.7%、精神障害・発達障害・高次脳機能障害では35.3%だった。

最も利用者数が多い障害種別に比較すると、他と比較して、精神障害・発達障害・高次脳機能障害は「障害者、高齢者等の支援などの福祉、医療に関する活動」「講演会、教室・学習会、展覧会等の企画・運営、手伝いなどの教育、文化に関する活動」の割合が高い傾向にあった。

図表 4-30 今後利用者に勧めたいボランティア活動の分野〔複数回答〕(Q15)

ー最も利用者数が多い障害種別



(7) 利用者が行うボランティア活動の内容

① これまでに利用者が参加したボランティア活動の内容

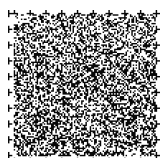
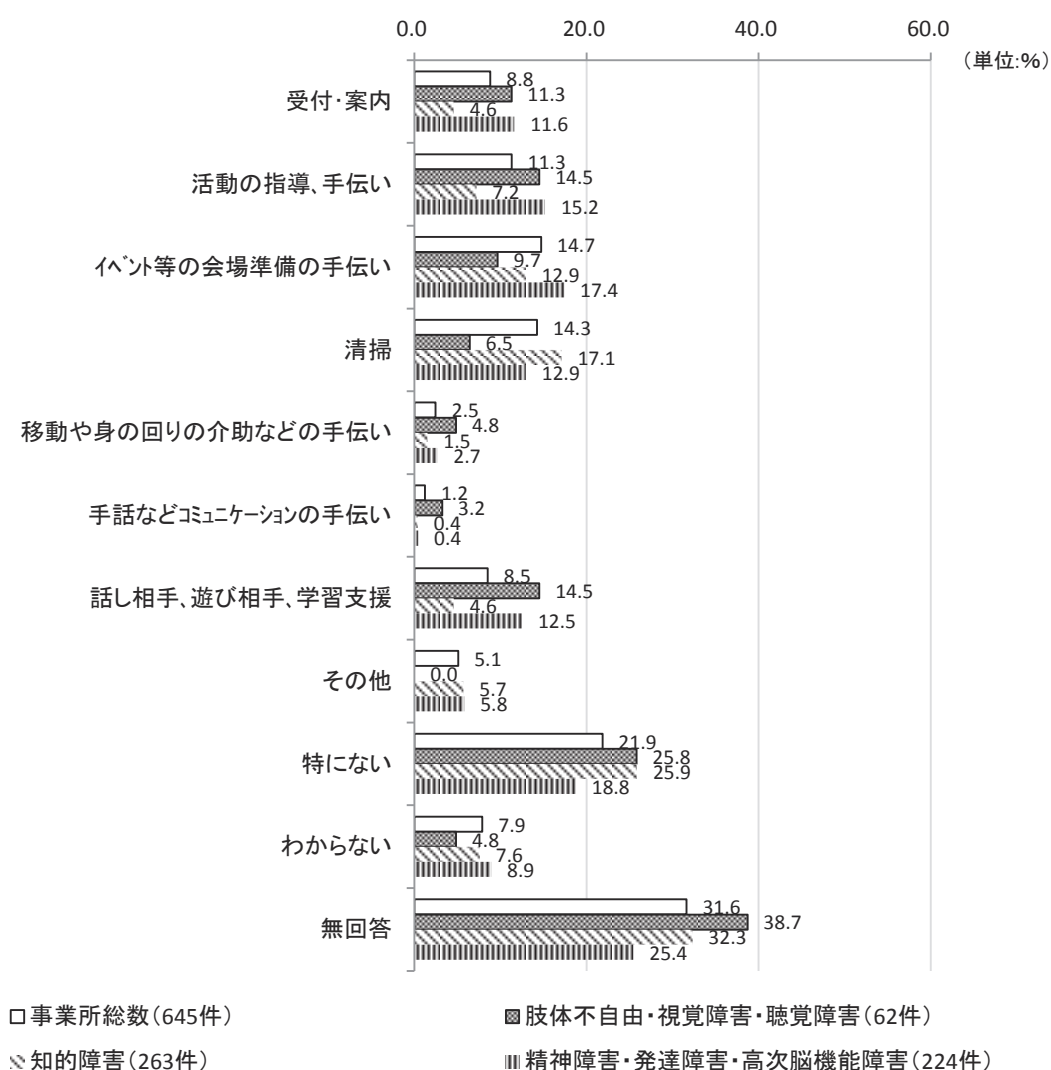
これまでに利用者が参加したボランティア活動の内容は、「イベント等の会場準備の手伝い」が14.7%、「清掃」が14.3%だった。

最も利用者数が多い障害種別にみると、肢体不自由・視覚障害・聴覚障害（身体障害）では、「活動の指導、手伝い」「話し相手、遊び相手、学習支援」がそれぞれ14.5%だった。

知的障害では、「清掃」が17.1%、「イベント等の会場準備の手伝い」が12.9%だった。

精神障害・発達障害・高次脳機能障害では、「イベント等の会場準備の手伝い」が17.4%、「活動の指導、手伝い」が15.2%だった。

図表 4-31 これまでに利用者が参加したボランティア活動の内容〔複数回答〕(Q15)
—最も利用者数が多い障害種別



② 今後利用者に勧めたいボランティア活動の内容

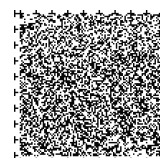
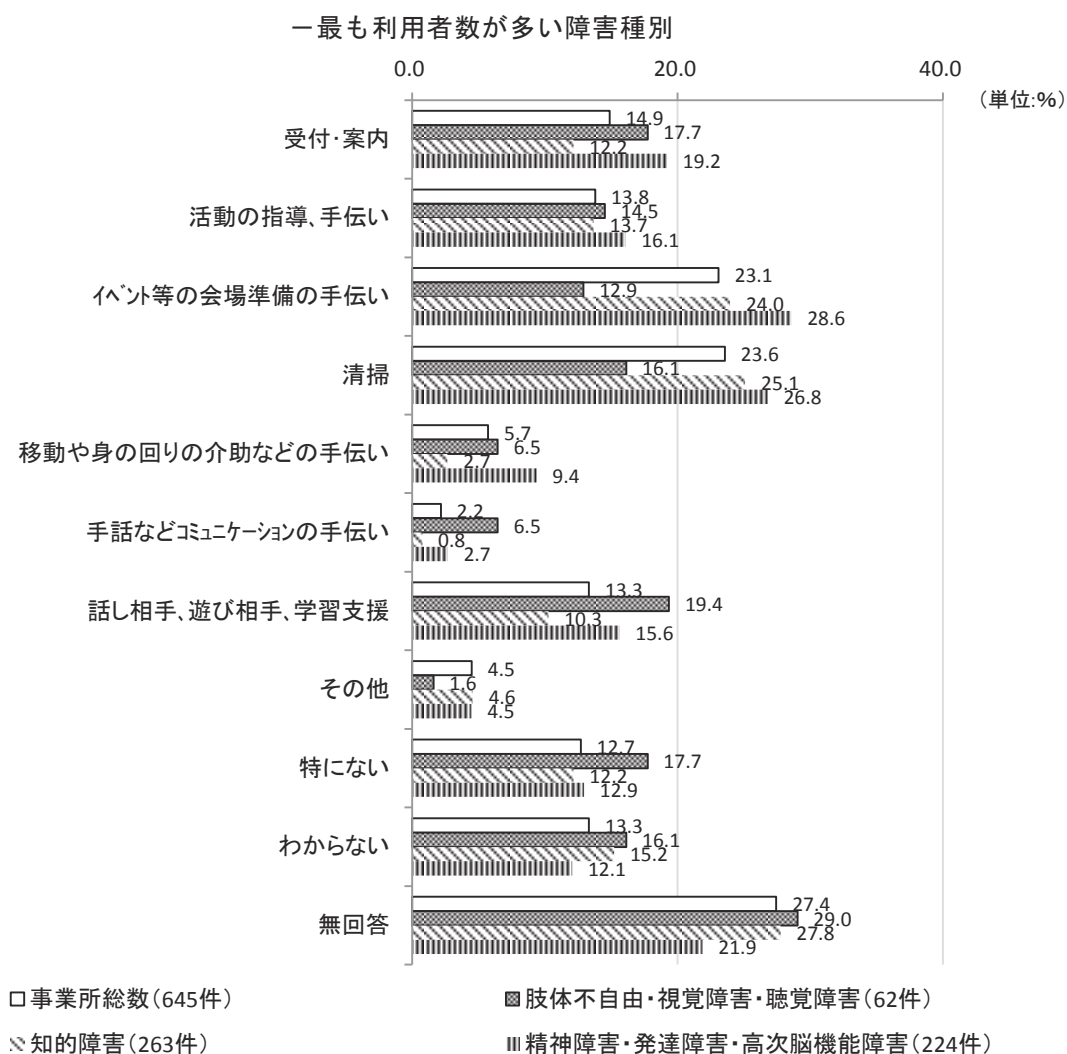
今後利用者に勧めたいボランティア活動の内容は、「清掃」が 23.6%、「イベント等の会場準備の手伝い」が 23.1%だった。

最も利用者数が多い障害種別にみると、肢体不自由・視覚障害・聴覚障害（身体障害）では、「話し相手、遊び相手、学習支援」が 19.4%、「受付・案内」が 17.7%だった。

知的障害では、「清掃」が 25.1%、「イベント等の会場準備の手伝い」が 24.0%だった。

精神障害・発達障害・高次脳機能障害では、「イベント等の会場準備の手伝い」が 28.6%、「清掃」が 26.8%だった。

図表 4-32 今後利用者に勧めたいボランティア活動の内容〔複数回答〕(Q15)



(8) 利用者がボランティア活動をする上で必要な支援

利用者のボランティア活動に必要な支援は、「ボランティア活動に関する情報提供の充実」の割合が最も高く、36.1%だった。次いで、「活動の場までの送迎」が34.6%だった。

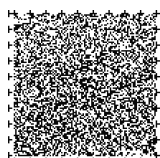
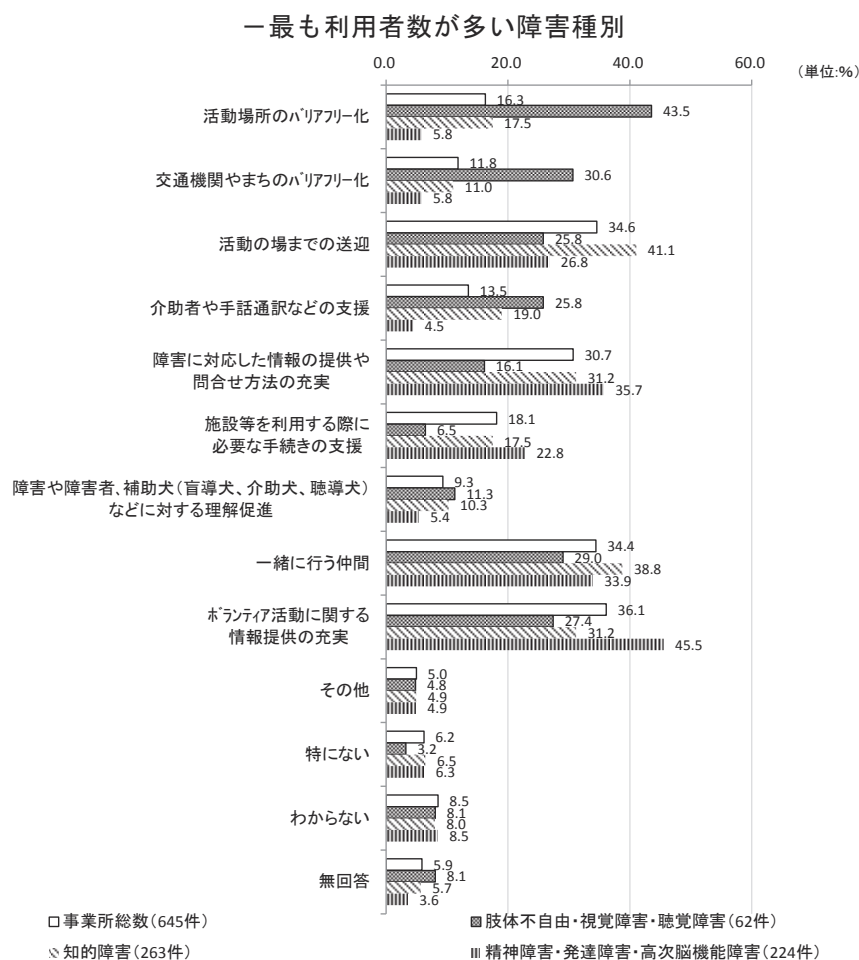
最も利用者数が多い障害種別にみると、肢体不自由・視覚障害・聴覚障害（身体障害）では、「活動場所のバリアフリー化」の割合が最も高く43.5%だった。次いで、「交通機関やまちのバリアフリー化」が30.6%だった。

知的障害では、「活動の場までの送迎」の割合が最も高く41.1%だった。次いで、「一緒に行う仲間」が38.8%だった。

精神障害・発達障害・高次脳機能障害では、「ボランティア活動に関する情報提供の充実」の割合が最も高く45.5%だった。次いで、「障害に対応した情報の提供や問合せ方法の充実」が35.7%だった。

最も利用者数が多い障害種別に比較すると、他と比較して、肢体不自由・視覚障害・聴覚障害（身体障害）は「活動場所のバリアフリー化」「交通機関やまちのバリアフリー化」、知的障害は「活動の場までの送迎」、精神障害・発達障害・高次脳機能障害は「ボランティア活動に関する情報提供の充実」の割合が高い傾向にあった。

図表 4-33 利用者がボランティア活動をする上で必要な支援〔3つまで〕(Q16)



6 情報アクセシビリティについて

利用者の情報入手やコミュニケーションにあるとよい配慮は、「わかりやすい文言・表現・絵文字（ピクトグラム）を使用してほしい」の割合が最も高く 50.9%だった。次いで、「必要な情報をわかりやすく説明してくれる人がほしい」が 47.3%だった。

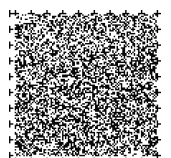
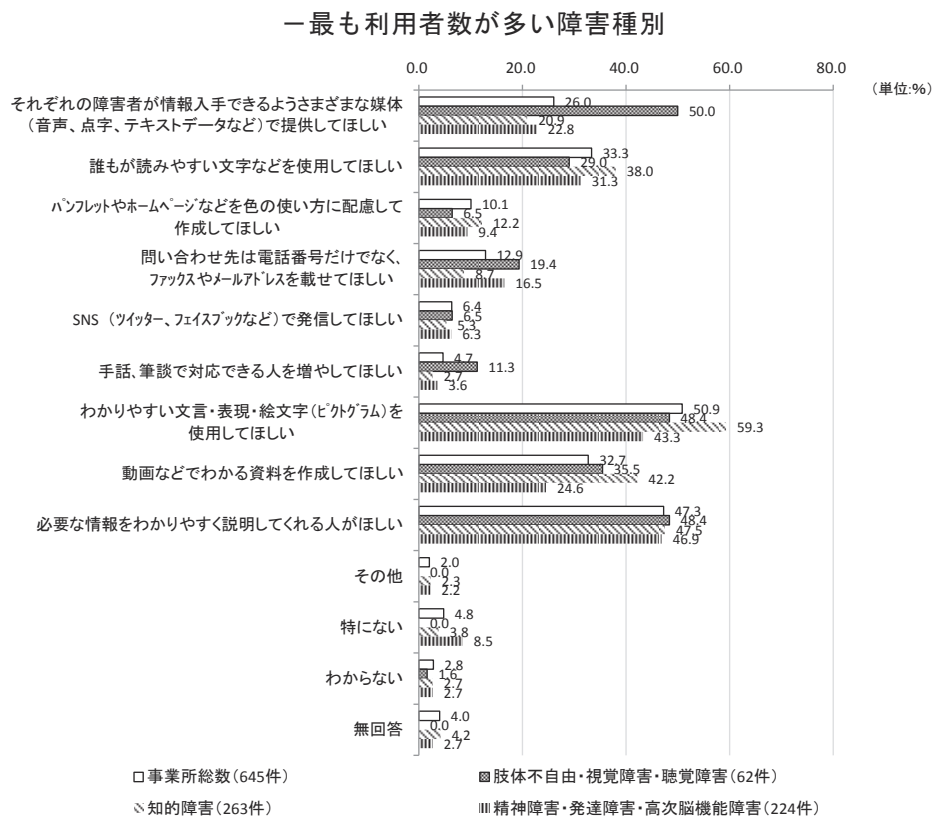
最も利用者数が多い障害種別にみると、肢体不自由・視覚障害・聴覚障害（身体障害）では、「それぞれの障害者が情報入手できるようさまざまな媒体（音声、点字、テキストデータなど）で提供してほしい」の割合が最も高く 50.0%だった。次いで、「わかりやすい文言・表現・絵文字（ピクトグラム）」を使用してほしい」「必要な情報をわかりやすく説明してくれる人がほしい」がそれぞれ 48.4%だった。

知的障害では、「わかりやすい文言・表現・絵文字（ピクトグラム）を使用してほしい」の割合が最も高く 59.3%だった。次いで、「必要な情報をわかりやすく説明してくれる人がほしい」が 47.5%だった。

精神障害・発達障害・高次脳機能障害では、「必要な情報をわかりやすく説明してくれる人がほしい」の割合が最も高く 46.9%だった。次いで、「わかりやすい文言・表現・絵文字（ピクトグラム）を使用してほしい」が 43.3%だった。

最も利用者数が多い障害種別に比較すると、他と比較して、肢体不自由・視覚障害・聴覚障害（身体障害）は「それぞれの障害者が情報入手できるようさまざまな媒体（音声、点字、テキストデータなど）で提供してほしい」、知的障害は「わかりやすい文言・表現・絵文字（ピクトグラム）を使用してほしい」の割合が高い傾向にあった。

図表 4-34 利用者の情報入手やコミュニケーションにあるとよい配慮〔3つまで〕(Q17)



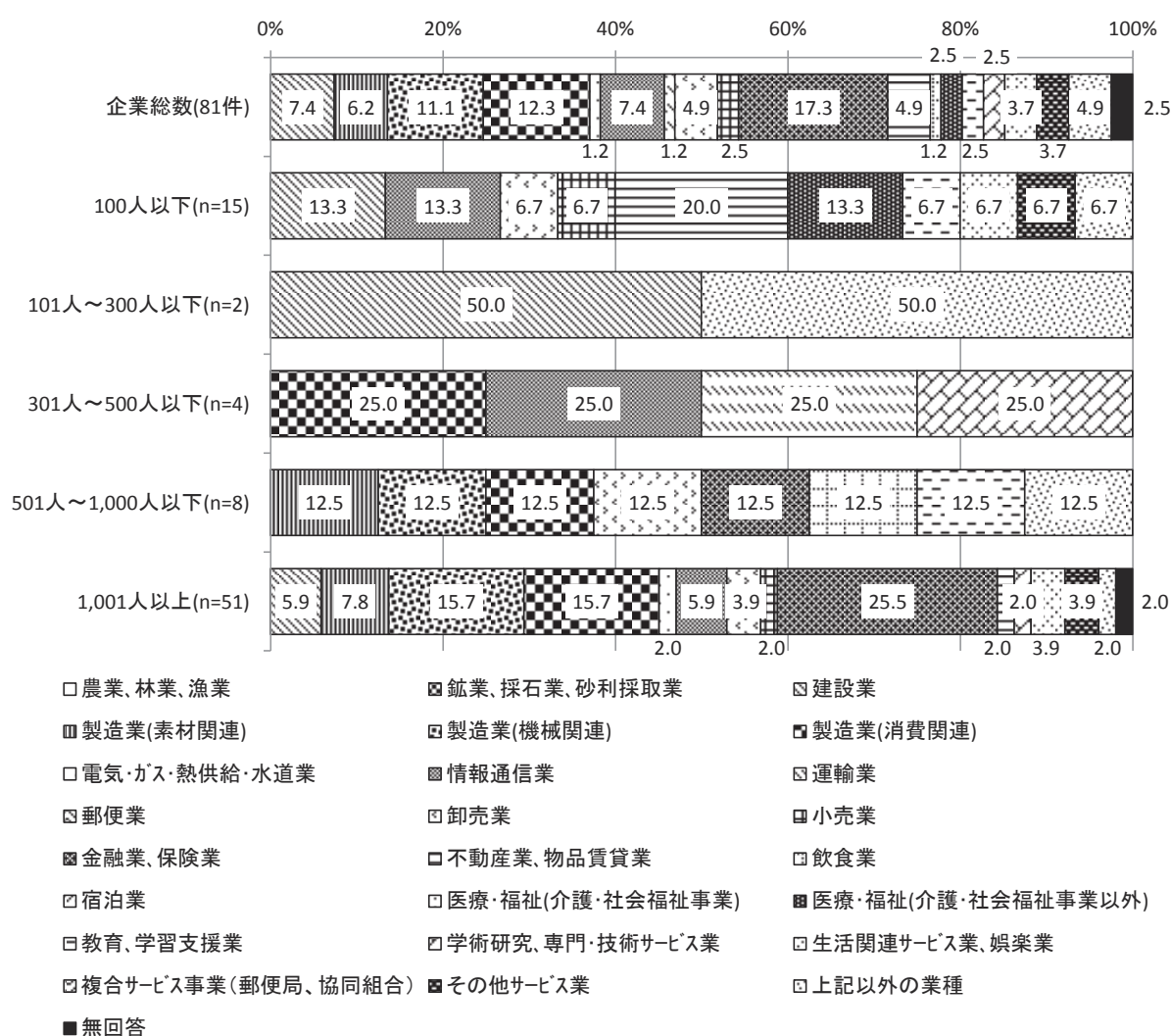
第5章 企業の状況

1 企業の概要

(1) 業種

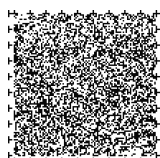
業種を見ると、「金融業、保険業」の割合が最も高く 17.3%となっている。次いで、「製造業（消費関連）」が 12.3%、「製造業（機械関連）」が 11.1%となっている。

図表 5-1 業種〔単数回答〕(Q1)－従業員数別



(注 1) 「その他サービス業」は、廃棄物処理業、自動車整備業、機械等修理業、人材サービス業、建物サービス業など。

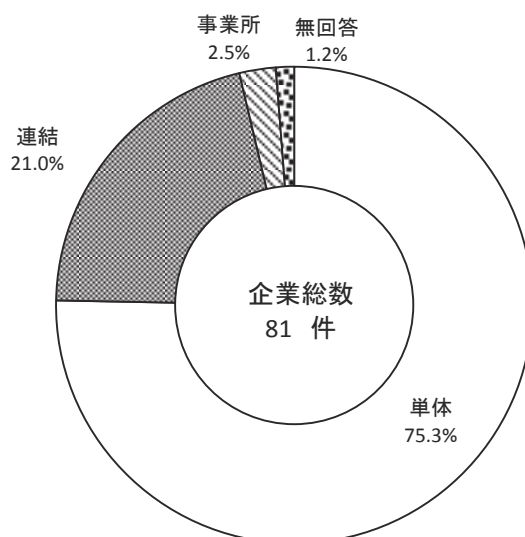
(注 2) 「農業、林業、漁業」、「鉱業、採石業、砂利採取業」、「郵便業」、「宿泊業」、「医療・福祉（介護・社会福祉事業）」、「複合サービス事業」は、回答企業の中にはみられなかったため（0 件）、グラフに表示されていない。



(2) 組織の範囲と従業員数

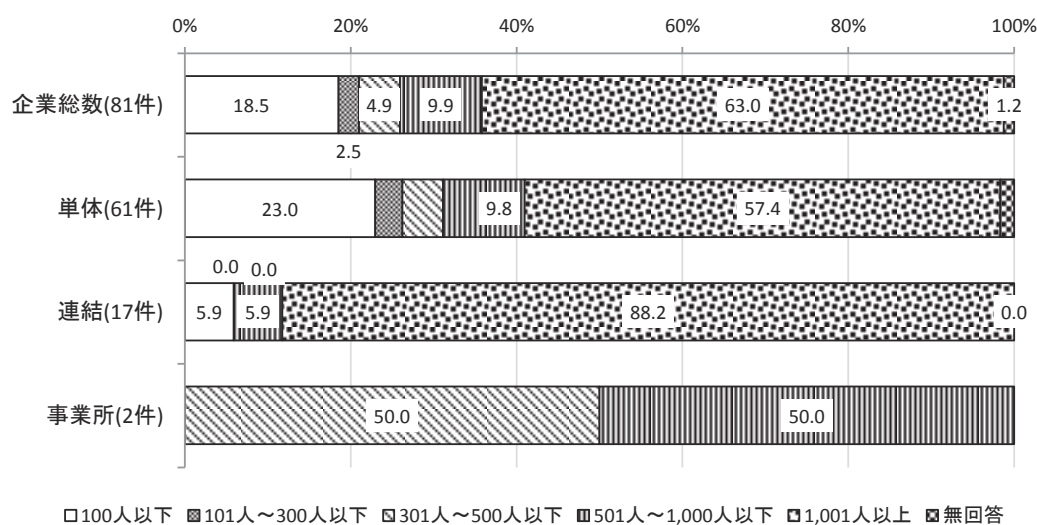
本調査では、回答企業が取組を行う際の組織的な範囲とその規模（従業員数）が様々であることが考えられたため、回答の範囲を聞いたところ、「単体」の割合が75.3%と最も高く、次いで、「連結」が21.0%、「事業所」が2.5%となっている。

図表 5-2 回答の範囲〔単数回答〕(Q2)

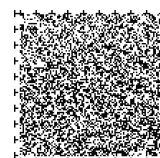


また、回答範囲の従業員数について、企業総数では「1,001 人以上」の割合が最も高く63.0%となっている。次いで、「100 人以下」が18.5%、「501 人～1,000 人以下」が9.9%となっている。回答の範囲別に見ると、連結では「1,001 人以上」（88.2%）が最も多く、単体では「1,001 人以上」（57.4%）に次いで、「100 人以下」（23.0%）の割合が高くなっている。

図表 5-3 従業員数〔実数回答〕(Q3) — 回答範囲別



(注) 従業員数には、派遣会社から派遣を受ける労働者や請負は含まれない。

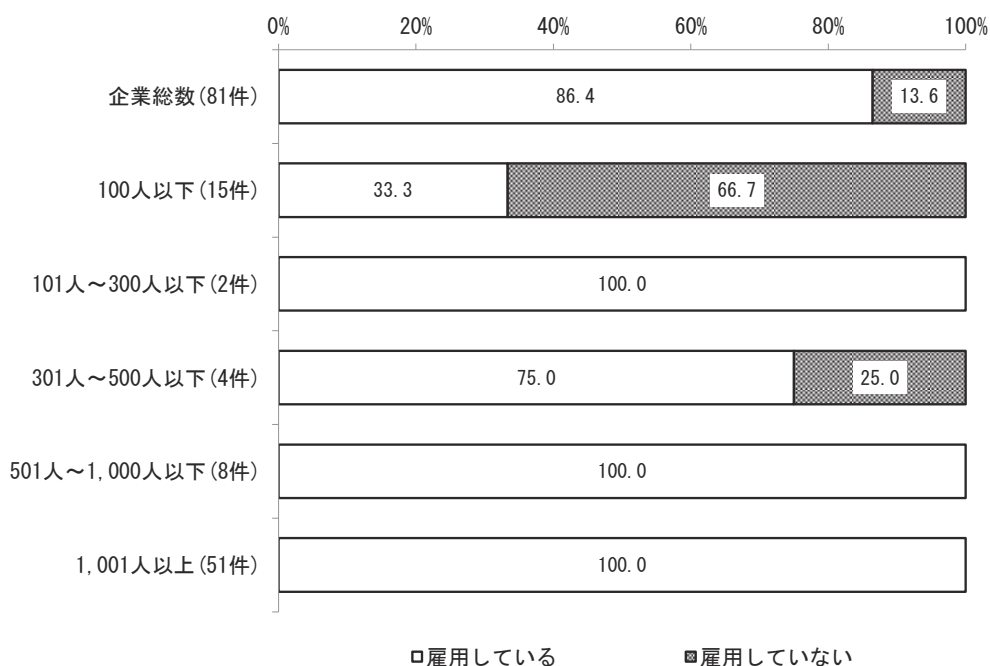


(3) 障害者雇用の状況

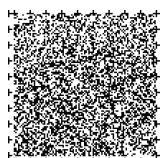
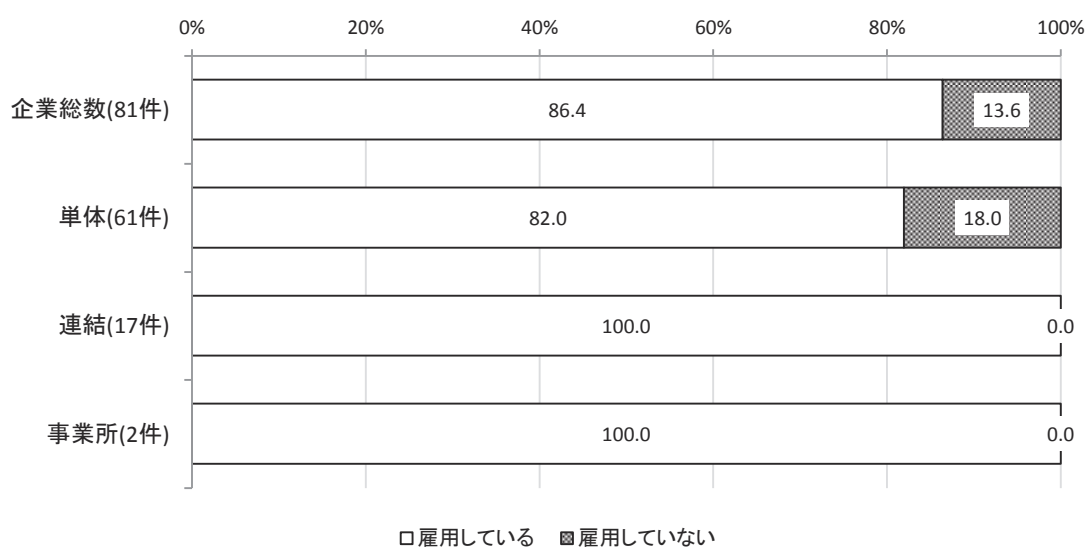
正社員、正社員以外を問わず、障害者雇用の状況について尋ねたところ、企業総数の86.4%が「雇用している」と回答した。一方、従業員数別に見ると、100人以下の企業で「雇用していない」割合が66.7%となっている。

なお、回答の範囲別では、連結及び事業所における「雇用している」の割合は100%となっており、単体では、「雇用していない」とする企業が18.0%あった。

図表 5-4 障害者雇用の状況〔単数回答〕(Q4-1)－従業員数別

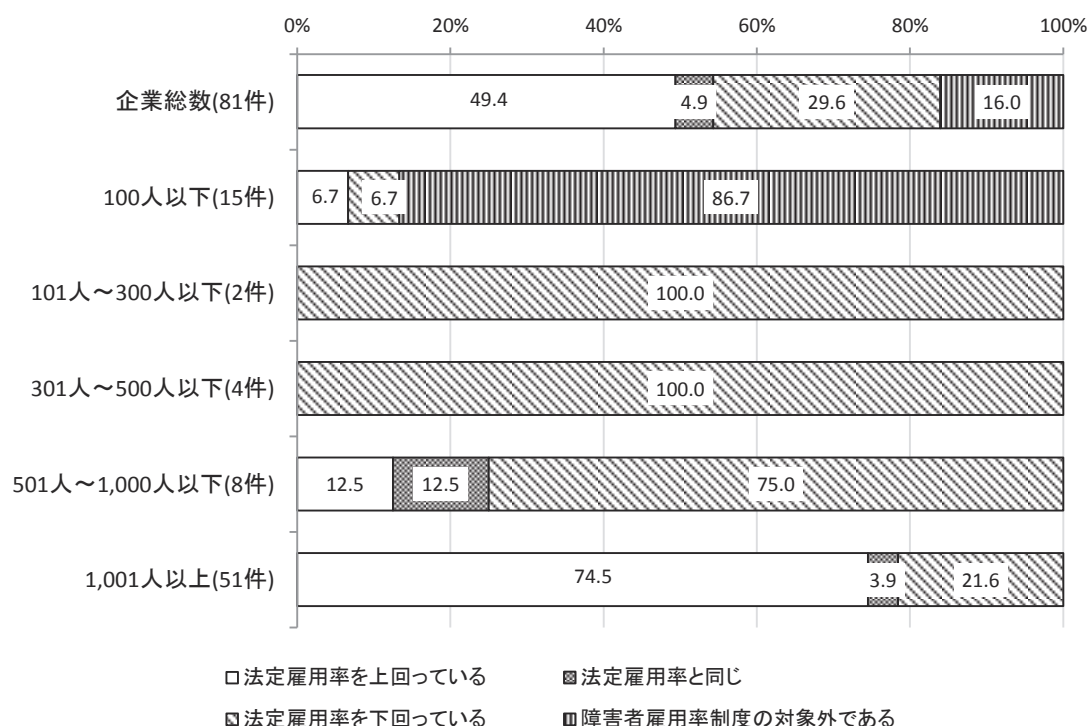


図表 5-5 障害者雇用の状況〔単数回答〕(Q4-1)－回答範囲別

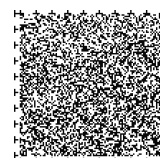


次に、法定の障害者実雇用率¹の達成状況を見ると、企業総数では「法定雇用率を上回っている」の割合が最も高く 49.4%となっている。次いで、「法定雇用率を下回っている」が 29.6%、「障害者雇用率制度の対象外である」が 16.0%となっている。しかし、従業員数別に見ると、1,001 人以上の企業では、「法定雇用率を上回っている」とする割合が 74.5%に上るが、1,000 人以下では、「法定雇用率を下回っている」とする回答がほとんどである。なお、100 人以下では、「障害者雇用率制度の対象外である」とする割合が 86.7%となっている。

図表 5-6 法定障害者実雇用率の達成状況〔単数回答〕（Q4-2）－従業員数別



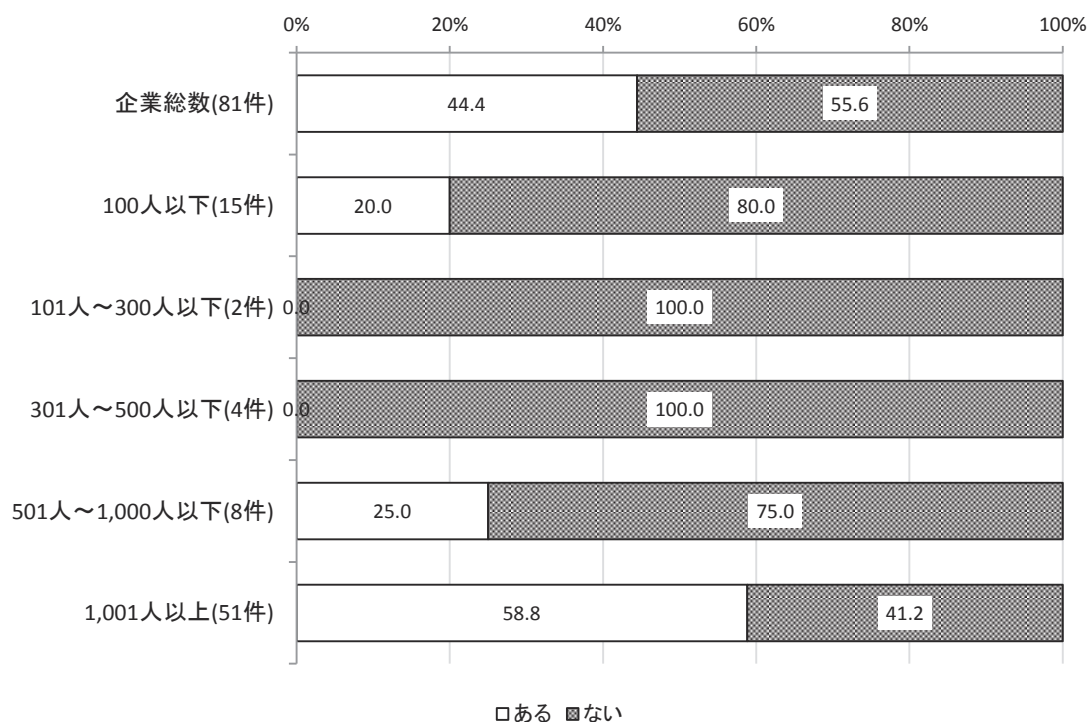
¹ 障害者実雇用率は、常時雇用している全労働者に占める、障害者手帳を所持する障害者の割合をいう。法定の障害者実雇用率は 2.0%である。なお、週 20～30 時間の短時間労働者は 1 人を 0.5 人分としてカウント、重度身体障害者・重度知的障害者は 1 人を 2 人分（短時間の場合は 1 人分）でカウントする。



(4) ボランティア休暇制度

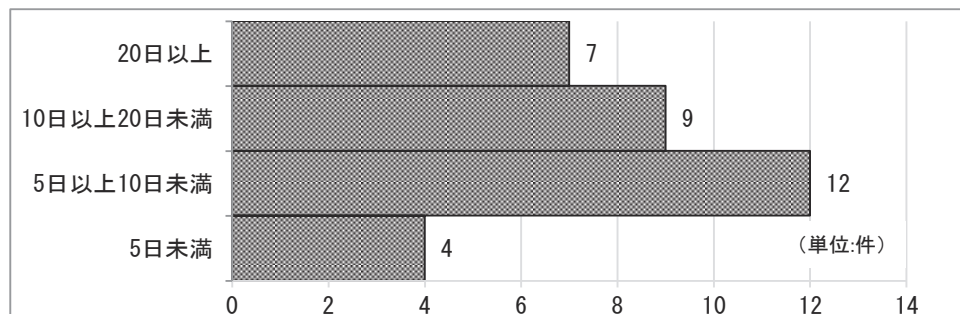
ボランティア休暇制度は、企業総数では「ない」の割合が高く 55.6%となっており、「ある」が 44.4%となっている。従業員数別に見ると、1,001 人以上の企業では、「ある」が 58.8%となっているが、1,000 人以下の企業では「ない」方が多い。

図表 5-7 ボランティア休暇制度の有無〔単数回答〕(Q5)－従業員数別

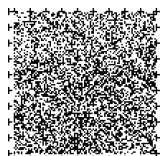


ボランティア休暇制度が「ある」と答えた企業（36 件）に、ボランティア休暇の年間日数（実数）を尋ねたところ、「5 日」（10 件）が最も多く、次いで「10 日」（6 件）であった。最も長い日数は「60 日」であった。

図表 5-8 ボランティア休暇の年間日数〔実数回答〕(Q5)



(注) グラフは有効回答のみ。



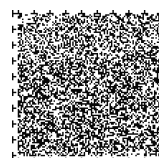
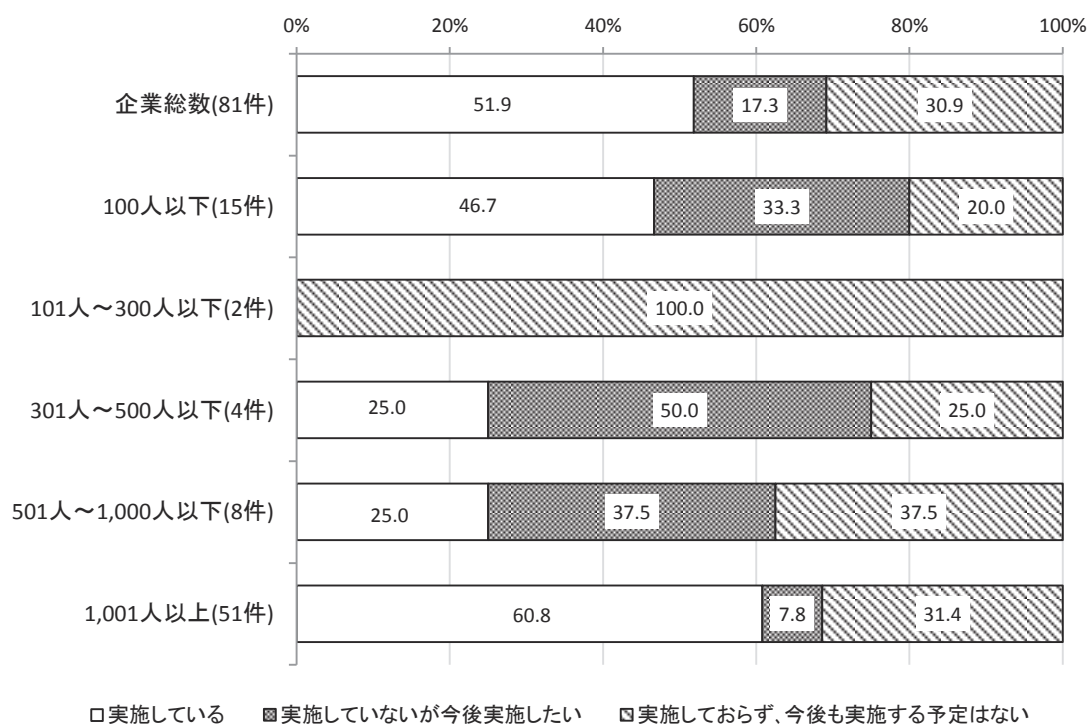
2 障害者を主な対象やテーマとしたイベントやプログラムについて

(1) 障害者を主な対象やテーマとしたイベントやプログラムの実施状況

① 実施の有無

障害者を主な対象やテーマとしたイベントやプログラムの実施状況について、企業総数では「実施している」の割合が最も高く 51.9%となっている。次いで、「実施しておらず、今後も実施する予定はない」が 30.9%、「実施していないが今後実施したい」が 17.3%となっている。従業員数別に見ると、1,001 人以上の企業と 100 人以下の企業では、「実施している」の割合が高い（それぞれ、60.8%、46.7%）。

図表 5-9 障害者を主な対象やテーマとしたイベントやプログラムの実施状況
〔単数回答〕(Q6)－従業員数別

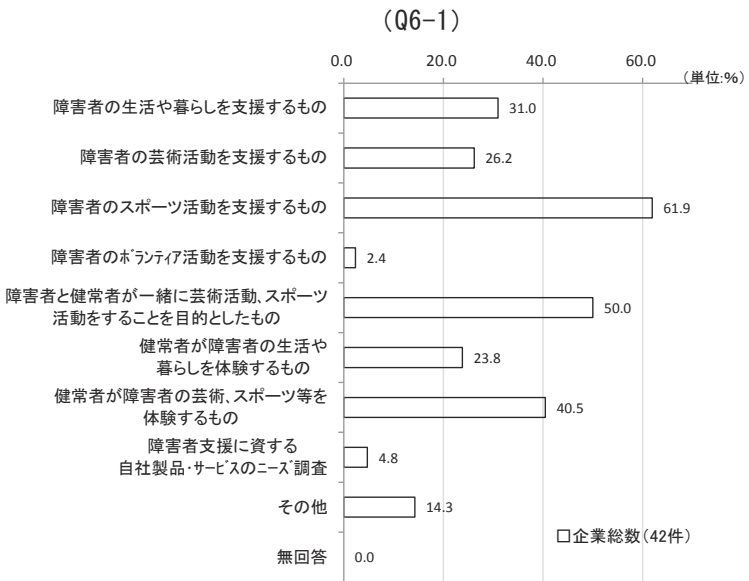


② 実施したイベントやプログラムの種類

(※障害者を主な対象やテーマとしたイベントやプログラムを実施していると回答した企業 42 社が対象)

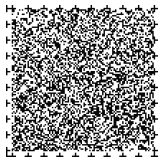
まず、過去 3 年間に障害者を主な対象やテーマとして実施したイベントやプログラムの種類については、「障害者のスポーツ活動を支援するもの」の割合が最も高く 61.9%となっている。次いで、「障害者と健常者が一緒に芸術活動、スポーツ活動をするもの」が 50.0%、「健常者が障害者の芸術、スポーツ等を体験するもの」が 40.5%となっている。

図表 5-10 障害者を主な対象やテーマとして実施したイベントやプログラム〔複数回答〕



図表 5-11 障害者を主な対象やテーマとして実施したイベントやプログラム〔複数回答〕 (Q6-1)

従業員数別		総数	障害者の生活や暮らしを支援するもの	障害者の芸術活動を支援するもの	障害者のスポーツ活動を支援するもの	障害者のボランティア活動を支援するもの	障害者と健常者が一緒に芸術活動、スポーツ活動をするもの	健常者が障害者の生活や暮らしを体験するもの	健常者が障害者の芸術、スポーツ等を体験するもの	障害者支援に資する自社製品・サービスのニーズ調査	その他	無回答
企業総数		42	13	11	26	1	21	10	17	2	6	0
		100.0	31.0	26.2	61.9	2.4	50.0	23.8	40.5	4.8	14.3	0.0
Q3従業員数	100人以下	7	1	0	4	0	3	1	2	1	1	0
		100.0	14.3	0.0	57.1	0.0	42.9	14.3	28.6	14.3	14.3	0.0
	101人～300人以下	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	301人～500人以下	1	0	1	1	0	0	1	1	0	0	0
		100.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	501人～1,000人以下	2	0	0	2	0	1	0	1	0	0	0
		100.0	0.0	0.0	100.0	0.0	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0
	1,001人以上	31	12	10	19	1	17	8	13	1	4	0
		100.0	38.7	32.3	61.3	3.2	54.8	25.8	41.9	3.2	12.9	0.0



③ イベントやプログラムの実施に係る年間経費

(※障害者を主な対象やテーマとしたイベントやプログラムを実施していると回答した企業 42 社が対象)

実施したイベントやプログラムに関わる経費の年間総額（直近事業年度の総額、または過去 3 年間の経費総額の平均）を尋ねたところ、全体では、最小で 0 円、最大で 1 億 1,500 万円、中央値は 475 万円、最頻値は 600 万円となっている。

当該イベントやプログラムの性質（自社主催のイベントか、協賛か、社員による自主的な出費に依拠するものか等、また、開催数等）によって、金額は大きく異なると推察されるが、多くの場合、年間 1 千万円未満（約 500～600 万円）であることがわかる。また、従業員数別では、「100 人以下」の小規模事業所では 100 万円以下が多くなっている。

図表 5-12 イベントやプログラムに係る年間経費総額（概算）〔実数回答〕(Q6-2)

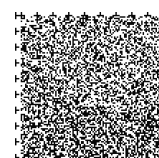
	企業総数	0 円～2 千万円未満	2 千万円～4 千万円未満	4 千万円～6 千万円未満	6 千万円～8 千万円未満	8 千万円～1 億円未満	1 億円～1 億 2 千万円未満	無回答
(件)	42	26	3	0	0	0	1	12
(%)	100.0	61.9	7.1	0.0	0.0	0.0	2.4	28.6

図表 5-13 イベントやプログラムに係る年間経費総額（概算）〔実数回答〕(Q6-2)

－従業員数別

(単位：万円)

	最小値	最大値	平均値	中央値	最頻値
企業総数	0	11,500	1,080	475	600
100 人以下	3	1,800	492	83	－
101 人～300 人以下	0	0	－	－	－
301 人～500 人以下	600	600	600	600	－
501 人～1,000 人以下	150	450	300	300	－
1,001 人以上	0	11,500	1,271	550	120

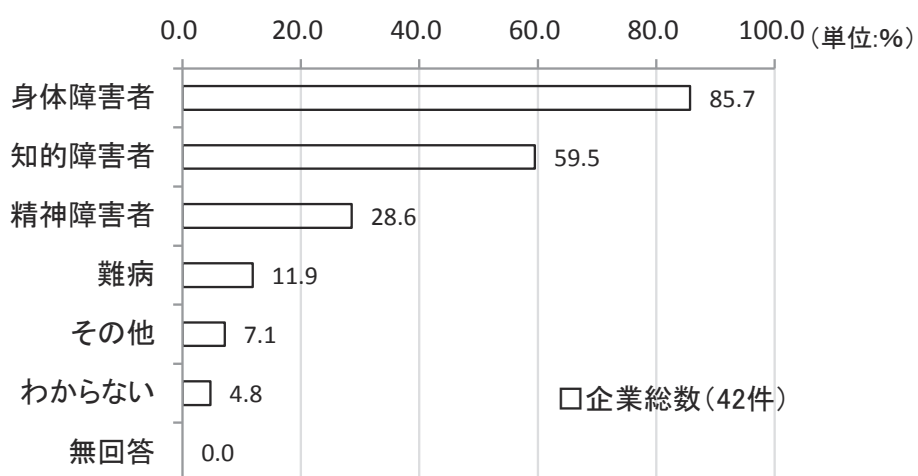


④ 参加した障害者の種別

(※障害者を主な対象やテーマとしたイベントやプログラムを実施していると回答した企業 42 社が対象)

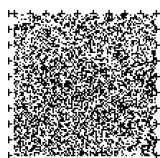
参加した障害者の種別については、「身体障害者」の割合が最も高く 85.7%となっている。次いで、「知的障害者」が 59.5%、「精神障害者」が 28.6%となっている。また、最も多いものについては、「身体障害者」の割合が最も高く 47.6%となっている。次いで、「知的障害者」が 21.4%となっている。

図表 5-14 参加した障害者の種別〔複数回答〕(Q6-4)



図表 5-15 参加した障害者の種別—最も多いもの〔単数回答〕(Q6-4)

	企業総数	身体障害者	知的障害者	精神障害者	難病	その他	わからない	無回答
(件)	42	20	9	0	0	1	2	10
(%)	100.0	47.6	21.4	0.0	0.0	2.4	4.8	23.8

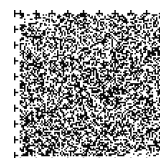
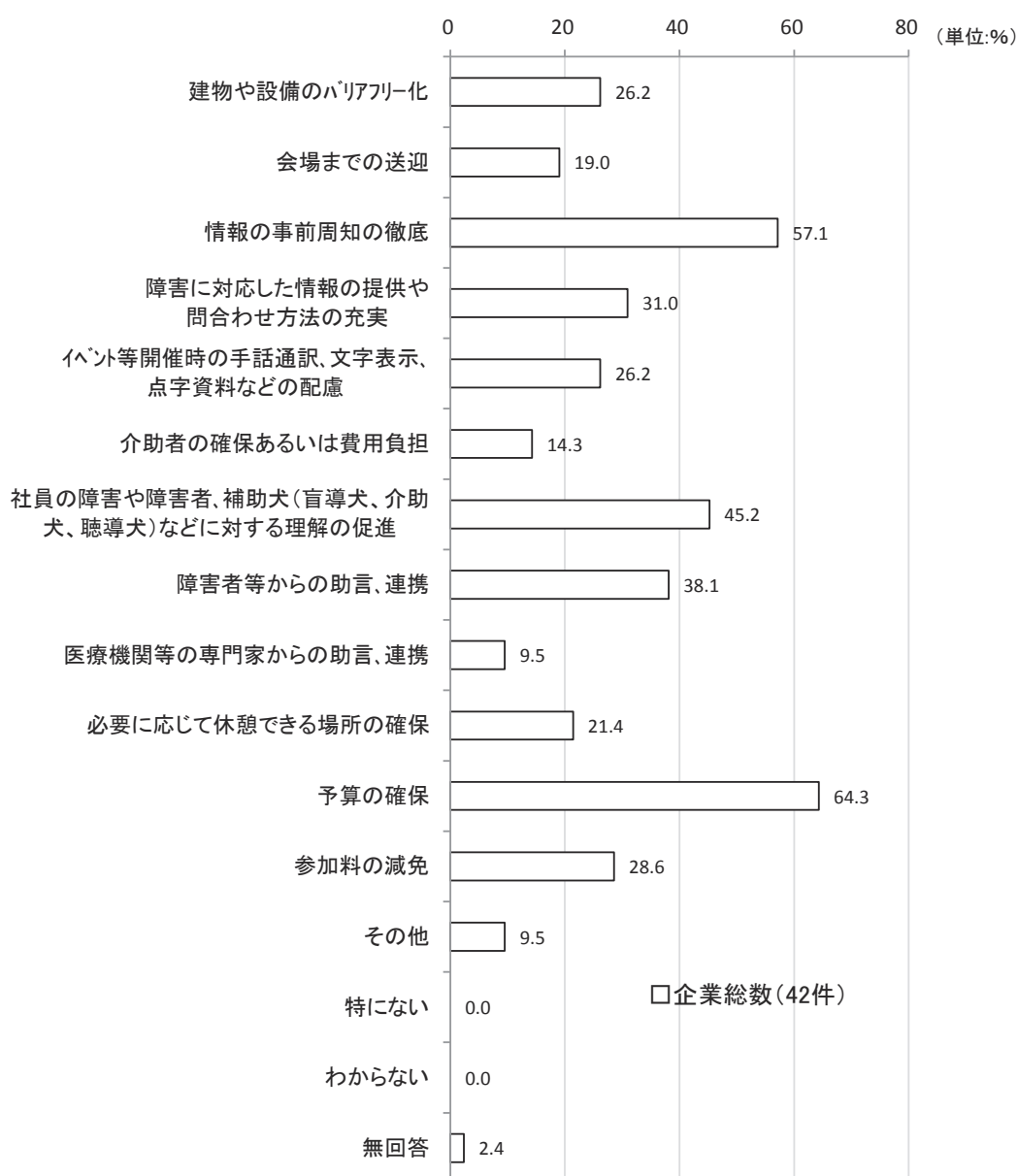


⑤ イベントやプログラムを実施するための配慮や工夫

(※障害者を主な対象やテーマとしたイベントやプログラムを実施していると回答した企業 42 社が対象)

障害者を主な対象やテーマとしたイベントやプログラムを実施するため、どのような配慮や工夫を行ったかについて、「予算の確保」の割合が最も高く 64.3%となっている。次いで、「情報の事前周知の徹底」が 57.1%、「社員の障害や障害者、補助犬（盲導犬、介助犬、聴導犬）などに対する理解の促進」が 45.2%となっている。

図表 5-16 障害者を主な対象やテーマとしたイベントやプログラムを実施するための配慮や工夫〔複数回答〕(Q6-5)

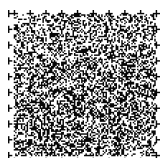
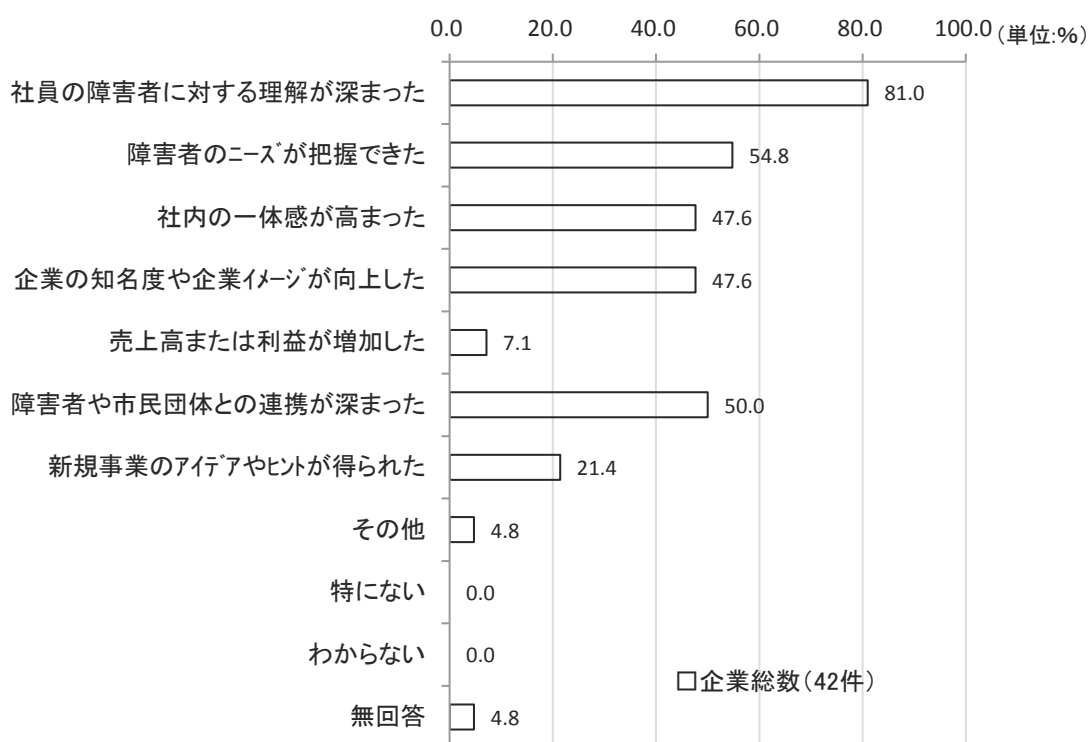


⑥ イベントやプログラムを実施したことによる効果

(※障害者を主な対象やテーマとしたイベントやプログラムを実施していると回答した企業 42 社が対象)

障害者を主な対象やテーマとしたイベントやプログラムを実施したことにより、どのような効果があったかについて、「社員の障害者に対する理解が深まった」の割合が最も高く 81.0%となっている。次いで、「障害者のニーズが把握できた」が 54.8%、「障害者や市民団体との連携が深まった」が 50.0%となっている。

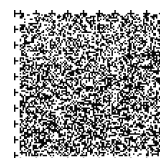
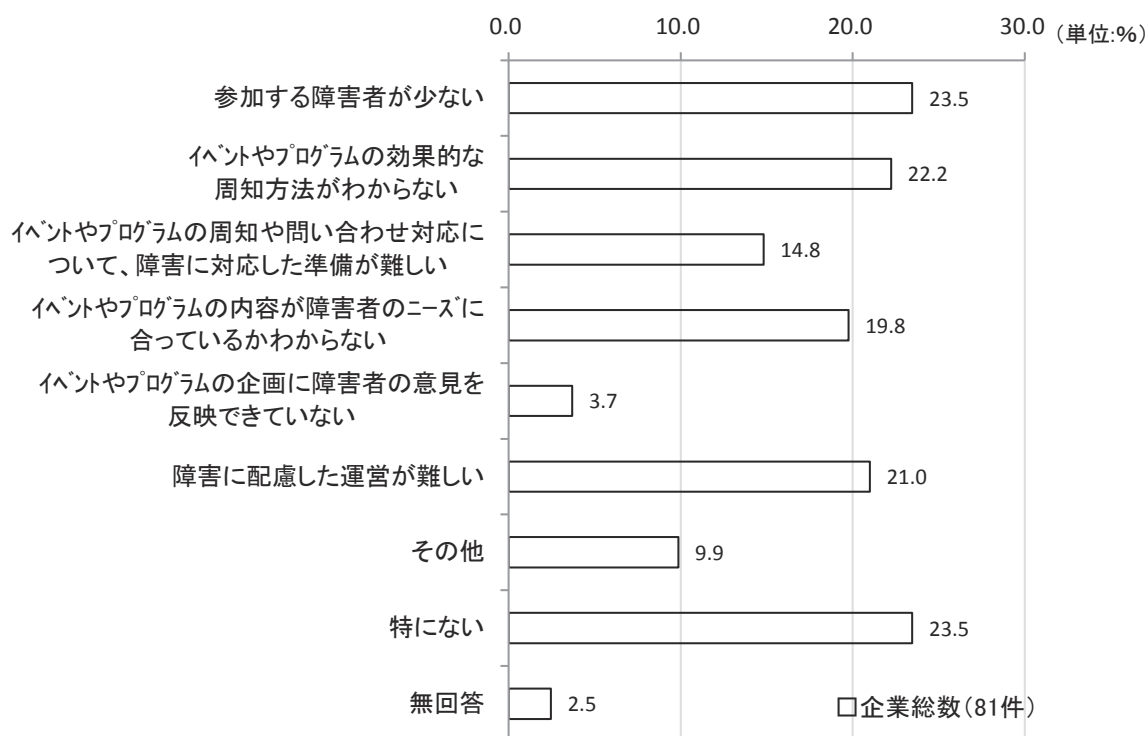
図表 5-17 障害者を主な対象やテーマとしたイベントやプログラムを実施したことによる効果〔複数回答〕(Q6-6)



(2) 障害者を主な対象やテーマとしたイベントやプログラムを実施することへの課題

過去の実施実績の有無にかかわらず全ての企業に対して、障害者を主な対象やテーマとしたイベントやプログラムを実施することについて、課題と感じていることを尋ねたところ、「参加する障害者が少ない」の割合が高く、23.5%となっている。次いで、「イベントやプログラムの効果的な周知方法がわからない」が22.2%、「障害に配慮した運営が難しい」が21.0%となっている。一方、「特にない」とする割合も高く、23.5%となっている。

図表 5-18 障害者を主な対象やテーマとしたイベントやプログラムを実施することへの課題〔複数回答〕(Q7)



(3) ケーススタディ

回答企業が実施したイベントやプログラムの中から、継続的に実施予定で、取組として特徴的な事例（複数回答可）を調査した。

① 概要

事例として挙げられたイベントやプログラムの種別について、便宜上、運営における主体性に応じて「主催・共催」「協賛」「ボランティア参加（運営・応援・観戦等）」の3種類に仕分けた。仕分けにあたっては、イベントやプログラムの概要（Q6-3）に基づくとともに、必要に応じてインターネットで補完的に調査し、判断した。

図表 5-19 障害者を主な対象やテーマとしたイベントやプログラムの事例（Q6）

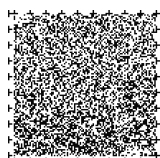
〔運営主体性に応じた分類〕

イベントやプログラムの事例区分	件数
主催・共催	64
協賛	21
ボランティア参加（運営・応援・観戦等）	30

② イベントやプログラムの運営に要する人員数

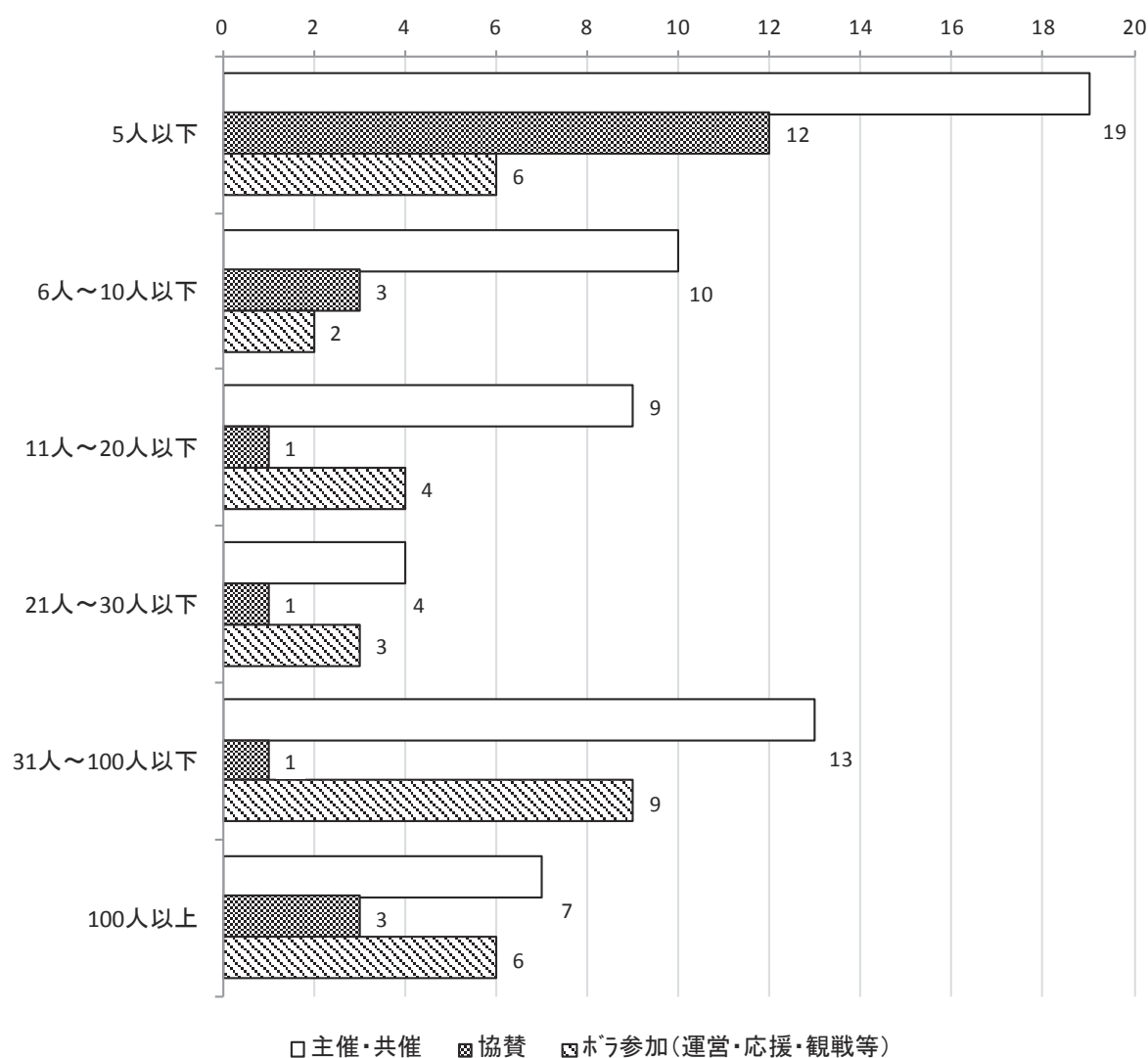
回答された事例全体として、「運営に要する従業員等」数は、最小で0人、最大で18,000人、中央値5人、最頻値2人となっている。最大値の事例については、全国の福祉作業所で製造された菓자에寄付を上乗せして社内に斡旋し、従業員等がこれを購入するものである。また、事例全体における、「運営に要するボランティア」数は、最小で0人、最大で115人、中央値5人、最頻値0人となっている。

記入事例を詳細に見ると、イベントやプログラムの運営に要する「従業員等」と「ボランティア」の区別がしづらかった可能性があり、記入された人数について単純に集計し分析・考察することは困難と考えられたため、以後、イベントやプログラムの事例区分ごとに、従業員等とボランティアを合計した人数の状況を示す。



図表 5-20 障害者を主な対象やテーマとしたイベントやプログラム〔運営に要する人数〕

(単位：件)

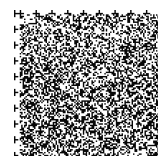


③ イベントやプログラムの具体事例

回答事例の中から、他の企業にとって今後の取組の参考になり得る、様々な事例を幅広く取り上げ、以下に紹介する。

1) スポーツに関する取組事例

障害者スポーツ体験会	● 特別支援学校の協力で従業員とその家族を対象にブラインドスポーツ体験会を実施
	● 子ども達に障害者スポーツの楽しさを体験してもらう体験会。ゴールボールやシッティングバレーボールなどを実施



2) 芸術に関する取組事例

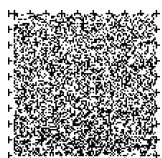
障害者アート支援	<ul style="list-style-type: none"> ● 障害者アートを支援するべく、会社が有するアートスペースにて、毎年、複数回、関連企画を開催 ● ダウン症の書家の展覧会、都立特別支援学校の生徒達の作品展示、障害者と健常者合同のアート展、世界ダウン症の日に開催するダウン症の子供達の写真展、障害者福祉施設の展示 等
ミュージカル招待活動	<ul style="list-style-type: none"> ● 特別協賛する劇団のミュージカルに障害のある方とその家族を招待する活動を実施 ● 平成 27 年度は 48 組 96 名（5 団体）を招待。平成 28 年度は 50 組 100 名を招待予定

3) 障害者の就労機会促進や QOL（生活の質）向上に関する取組

視覚障害者のための音声美容情報の制作	<ul style="list-style-type: none"> ● 雑誌感覚で楽しめる音声コンテンツを年に 4 回季節ごとに発行。スキンケア、メーキャップ、ヘアケア、ヘルスケア、ファッションなどのテーマを幅広く扱う
難病コミュニケーション支援講座の開催	<ul style="list-style-type: none"> ● 神経筋難病患者や重度障害者が、ICT を活用することでコミュニケーションができるようになることを目的とし、主に医療・福祉従事者（看護師、保健師、療法士、介護士等）を対象に行っているセミナー。NPO 法人との協働によるプログラム
障害者の外出支援	<ul style="list-style-type: none"> ● 役職員がボランティア休暇制度を利用して、日頃外出機会の少ない障害者の一日外出を支援する活動を平成 6 年から毎年実施
新入社員 1 日ボランティア	<ul style="list-style-type: none"> ● 新入社員が知的障害者施設で、施設の清掃や修理やレクリエーション行事を実施
障害者が作る菓子等の社内販売 (マッチング寄付)	<ul style="list-style-type: none"> ● 知的障害者の作ったお菓子、パンなどを社員向けに販売 ● 障害者福祉作業所、NPO で作っているクッキーなどのお菓子を販売。販売額に寄付金を上乗せし、集まった寄付金と同額を会社がマッチング寄付で拠出

4) 寄付・寄贈の取組

盲導犬子犬寄贈	<ul style="list-style-type: none"> ● 職員から募金を募り、盲導犬候補となる子犬を各地の盲導犬協会へ寄贈
支援自動販売機の設置	<ul style="list-style-type: none"> ● 売り上げの一部が自動的に障害者施設に寄付される自動販売機を設置

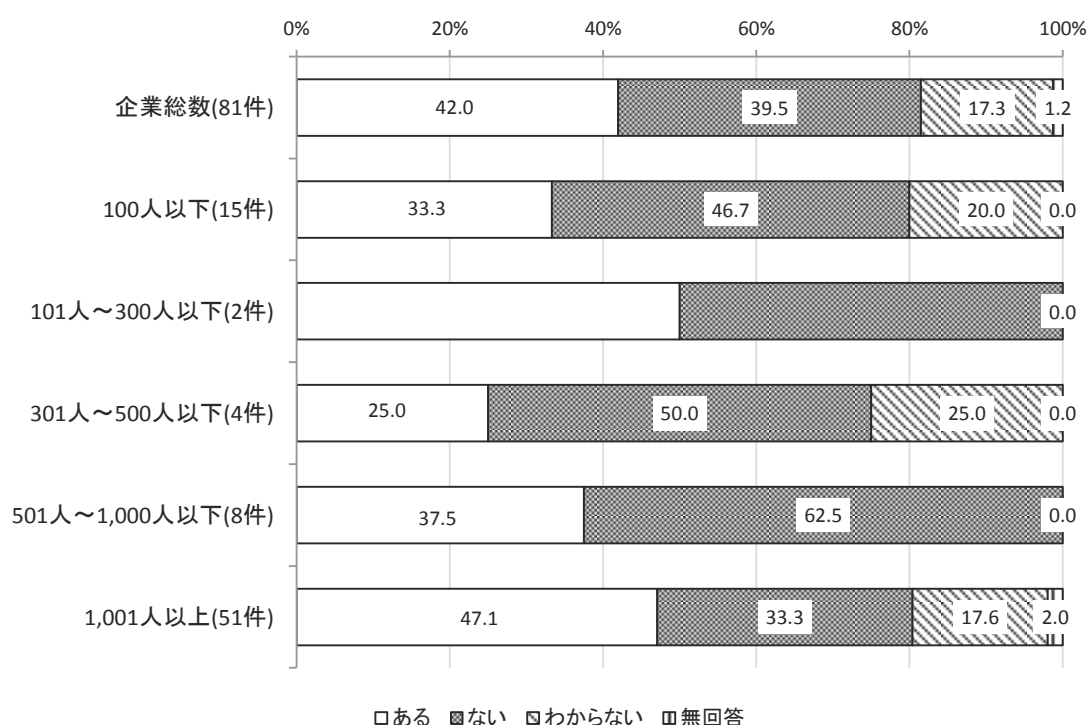


3 障害者のイベントやプログラムへの参加やボランティア活動について

(1) 企業のイベントやプログラムへの障害者の参加

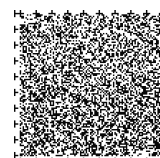
この1年間で、回答企業が実施したイベントやプログラム（前項で回答した障害者を主な対象やテーマとしたイベントやプログラム以外）に、障害者²が参加者として³参加した実績について尋ねたところ、全体では、「ある」の割合が最も高く 42.0%となっている。次いで、「ない」が 39.5%、「わからない」が 17.3%となっている。

図表 5-21 企業のイベントやプログラムに障害者が参加した実績〔単数回答〕(Q8)
－従業員数別



² 回答企業の社員、回答企業で働いている派遣・請負社員を除く。

³ ボランティアとして運営に参加したものを除く。

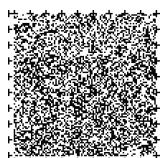
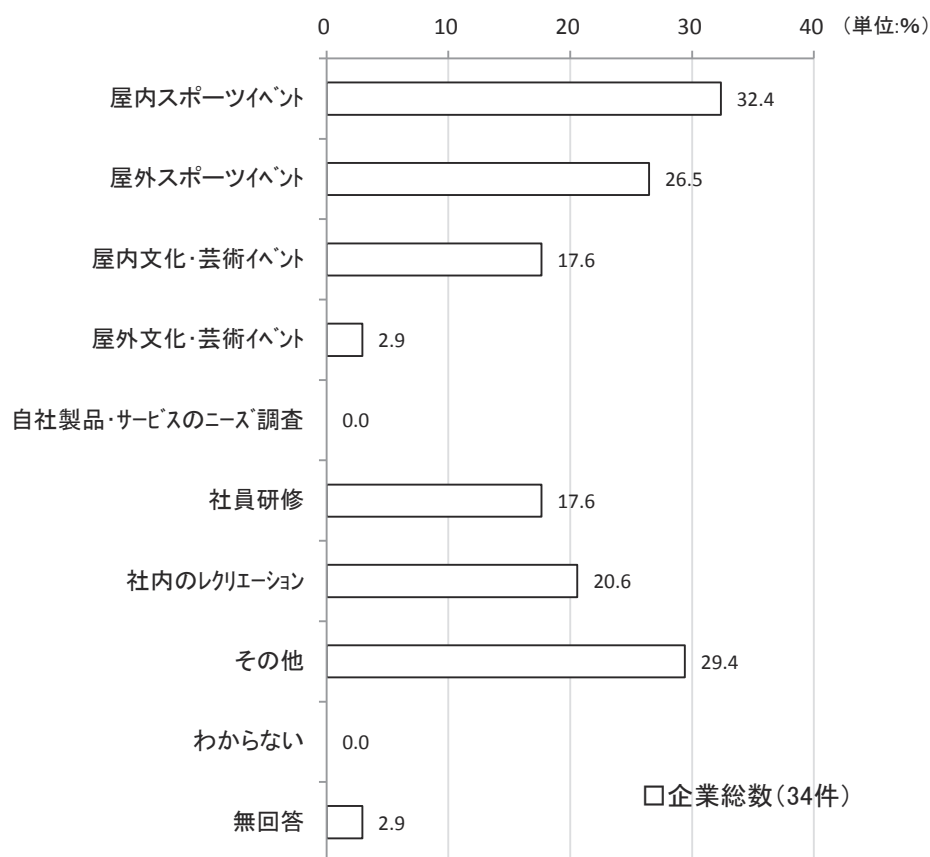


(2) 障害者が参加したイベントやプログラムの種類

(※この1年間で、障害者を主な対象やテーマとしないイベントやプログラムに障害者が参加者として参加した実績があると回答した34社が対象)

障害者を主な対象やテーマとしないイベントやプログラムに障害者が参加者として参加した実績が「ある」とした企業(34件)に、イベントやプログラムの種類について尋ねたところ、全体では、「屋内スポーツイベント」の割合が最も高く32.4%となっている。次いで、「その他」が29.4%、「屋外スポーツイベント」が26.5%となっている。

図表 5-22 障害者が参加したイベントやプログラムの種類〔複数回答〕(Q8-1)

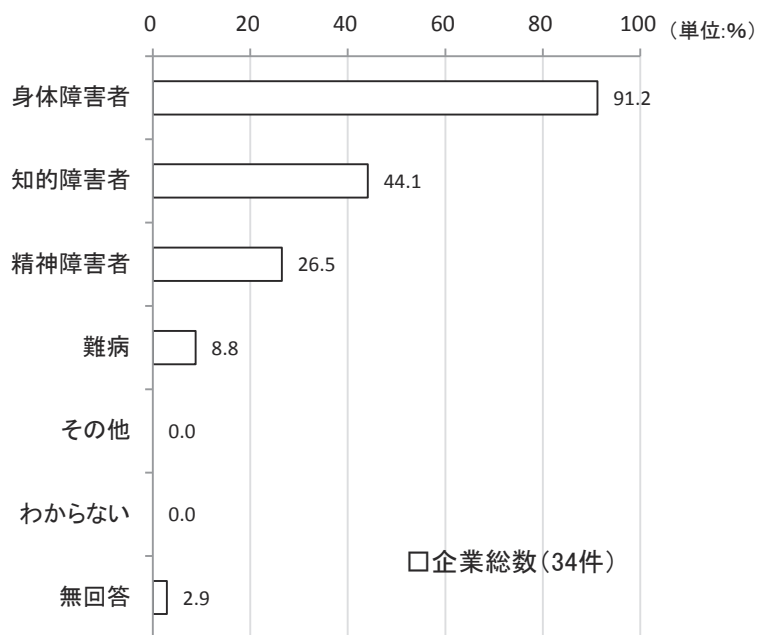


(3) 参加した障害者の種別

(※この1年間で、障害者を主な対象やテーマとしないイベントやプログラムに障害者が参加者として参加した実績があると回答した34社が対象)

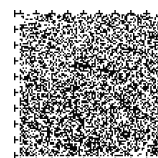
障害者を主な対象やテーマとしないイベントやプログラムに、参加者として参加した障害者の種別については、「身体障害者」の割合が最も高く91.2%となっている。次いで、「知的障害者」が44.1%、「精神障害者」が26.5%となっている。また、最も多いものについても、「身体障害者」の割合が最も高く64.7%となっている。次いで、「知的障害者」が2.9%、「精神障害者」が2.9%となっている。

図表 5-23 参加した障害者の種別〔複数回答〕(Q8-2)



図表 5-24 参加した障害者の種別—最も多いもの〔単数回答〕(Q8-2)

	企業総数	身体障害者	知的障害者	精神障害者	難病	その他	わからない	無回答
(件)	34	22	1	1	0	0	0	10
(%)	100.0	64.7	2.9	2.9	0.0	0.0	0.0	29.4

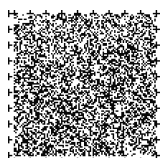
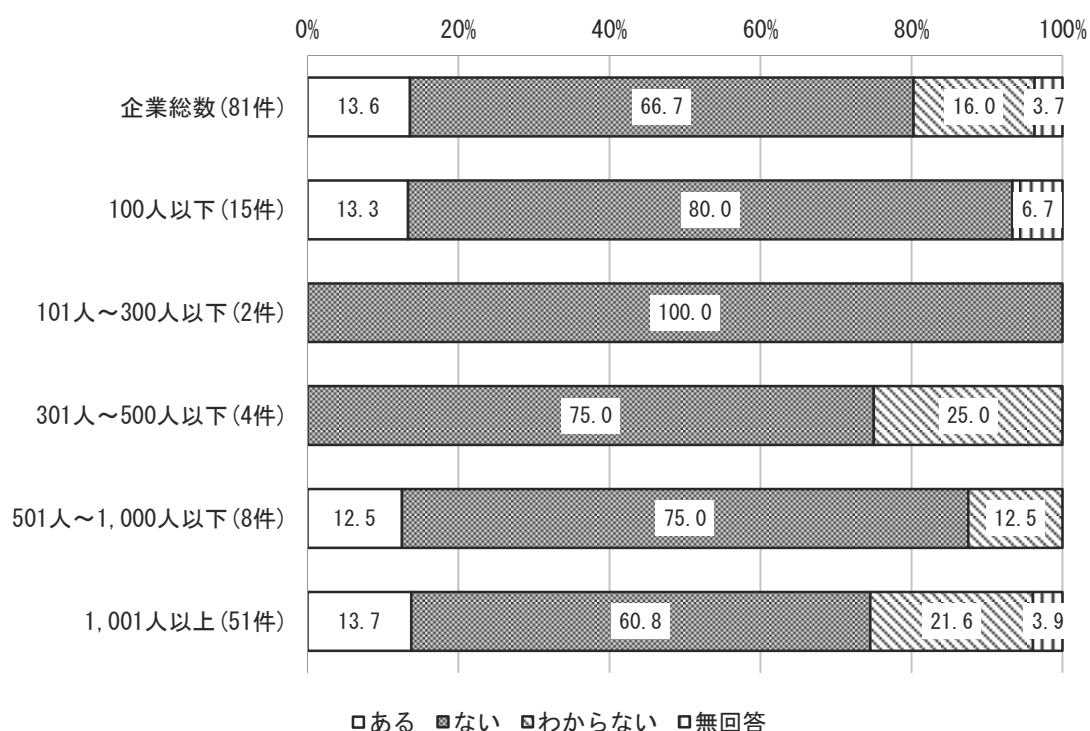


(4) 障害者のボランティア活動への参加状況

① 障害者がボランティアとして運営に携わった実績

この1年間で、回答企業が実施したイベントやプログラム（障害者を主な対象やテーマとしたものも、そうでないものも含む。）において、障害者がボランティアとして運営に携わった実績について尋ねたところ、全体では、「ある」の割合は13.6%にとどまり、「ない」の割合が最も高く66.7%となっている。

図表 5-25 イベントやプログラムに障害者がボランティアとして運営に携わった実績
〔単数回答〕（Q9）－従業員数別

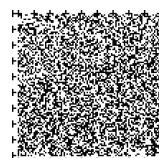
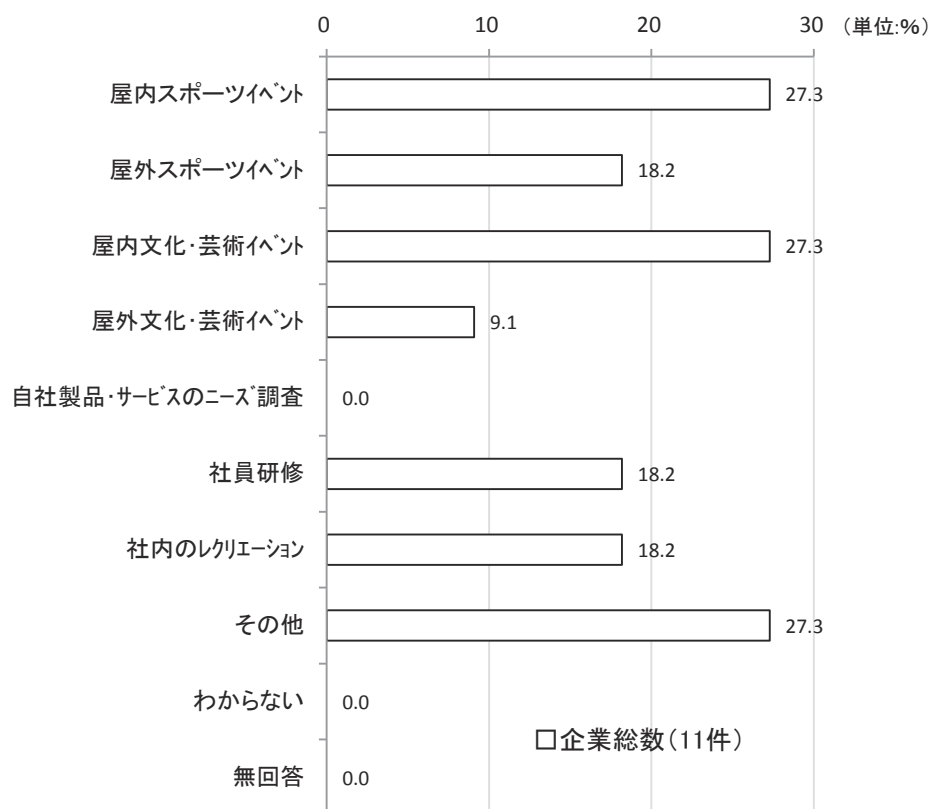


② 障害者がボランティアとして運営に携わったイベントやプログラム

(※この1年間で実施したイベントやプログラムにおいて、障害者がボランティアとして運営に携わった実績があると回答した11社が対象)

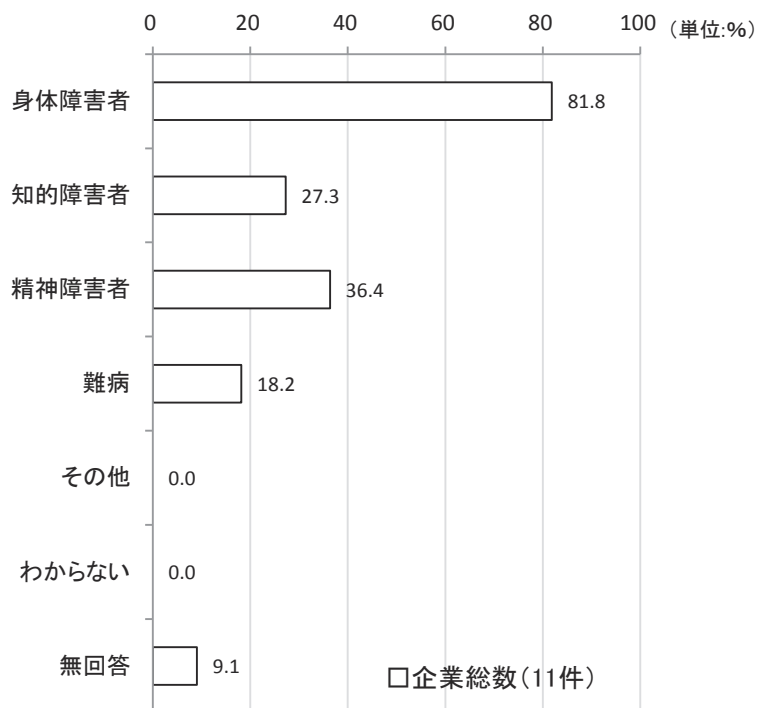
この1年間で、回答企業が実施したイベントやプログラム（障害者を主な対象やテーマとしたものも、そうでないものも含む。）において、障害者がボランティアとして運営に携わった実績が「ある」とした企業（11件）を対象に、障害者がボランティアとして運営に携わったイベントやプログラムの種類について尋ねたところ、「屋内スポーツイベント」、「屋内文化・芸術イベント」の割合が高く、それぞれ27.3%となっている。次いで、「屋外スポーツイベント」が18.2%となっている。また、「社員研修」「社内のレクリエーション」も、それぞれ18.2%となっている。

図表 5-26 障害者がボランティアとして運営に携わったイベントやプログラムの種類
〔複数回答〕(Q9-1)



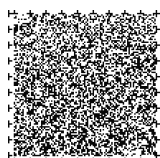
ボランティアに参加した障害者の種別については、「身体障害者」の割合が最も高く81.8%となっている。次いで、「精神障害者」が36.4%、「知的障害者」が27.3%となっている。

図表 5-27 ボランティア参加した障害者の種別〔複数回答〕(Q9-2)



図表 5-28 参加した障害者の種別ー最も多いもの〔単数回答〕(Q9-2)

	企業総数	身体障害者	知的障害者	精神障害者	難病	その他	わからない	無回答
(件)	11	6	0	1	0	0	0	4
(%)	100.0	54.5	0.0	9.1	0.0	0.0	0.0	36.4

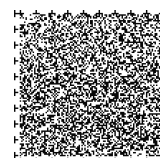
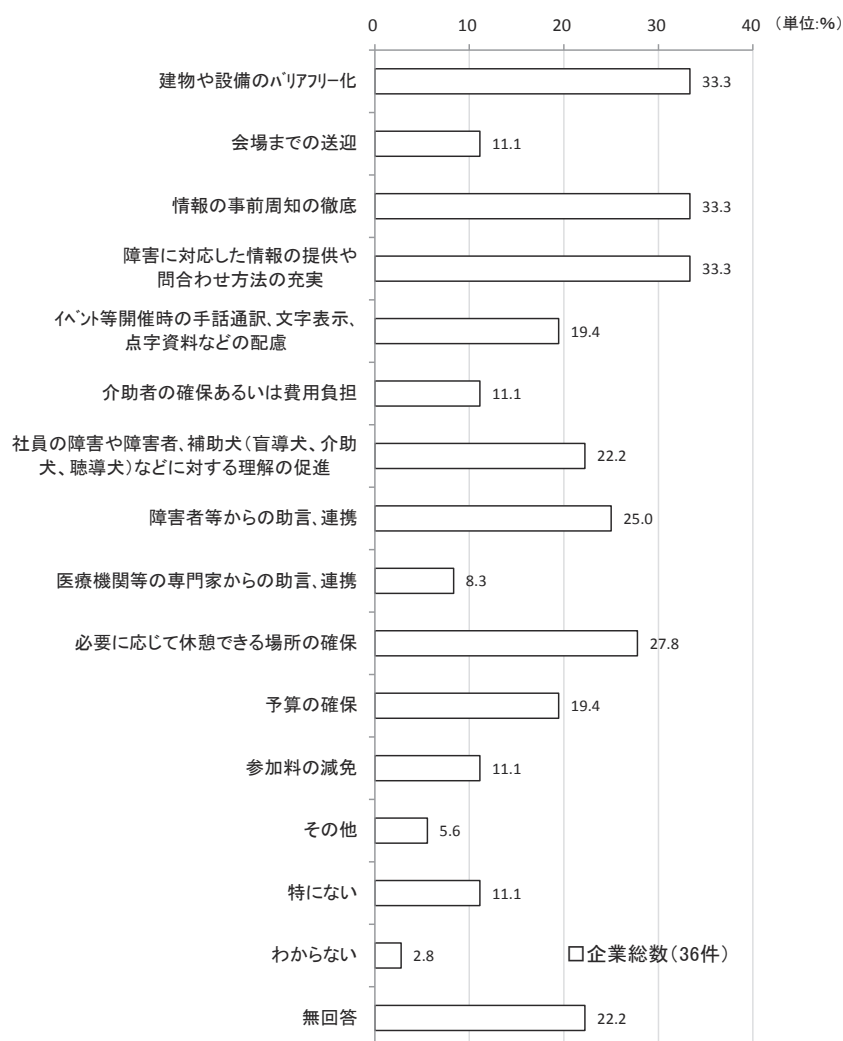


(5) 障害者が参加するために行った配慮や工夫

(※この1年間で、障害者を主な対象やテーマとしないイベントやプログラムに障害者が参加者として参加した実績があると回答した企業、あるいは障害者がボランティアとしてイベントやプログラム(障害者を主な対象やテーマとしたものも、そうでないものも含む。)の運営に携わったことがあると回答した36社が対象)

イベントやプログラムに障害者が参加、あるいはボランティアで携わる際に行った配慮や工夫について尋ねた。「建物や設備のバリアフリー化」、「情報の事前周知の徹底」、「障害に対応した情報の提供や問い合わせ方法の充実」の割合が高く、それぞれ33.3%となっている。次いで、「必要に応じて休憩できる場所の確保」が27.8%となっている。

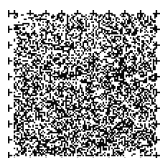
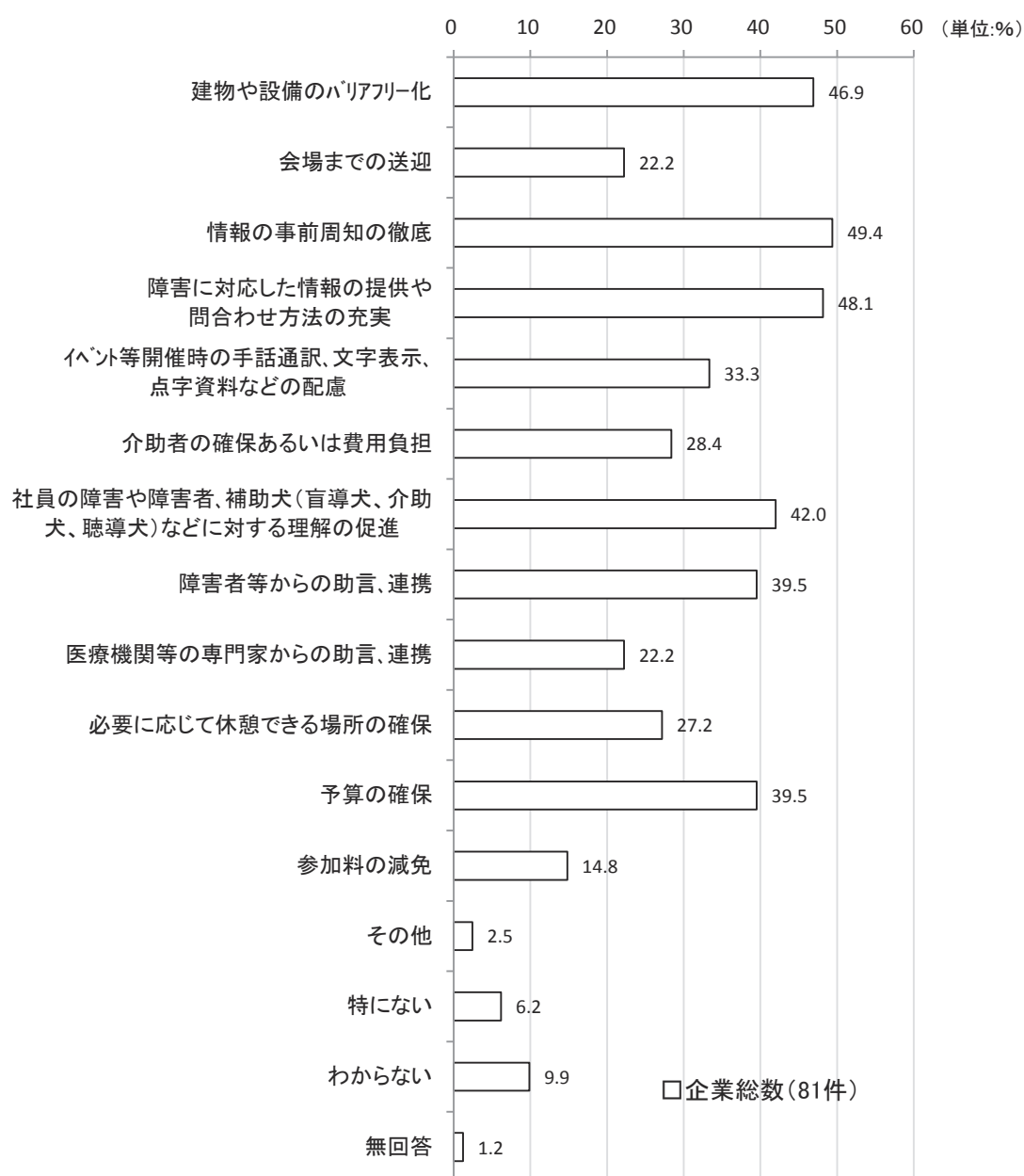
図表 5-29 イベントやプログラムに障害者が参加するため、あるいはボランティアとして運営に携わるために行った配慮や工夫〔複数回答〕(Q10)



(6) 今後障害者が参加するために必要な配慮や工夫

全ての企業に対し、今後、イベントやプログラムに障害者が参加するため、あるいはボランティアとして運営に携わるために、必要な配慮や工夫を尋ねたところ、「情報の事前周知の徹底」の割合が最も高く 49.4%となっている。次いで、「障害に対応した情報の提供や問い合わせ方法の充実」が 48.1%、「建物や設備のバリアフリー化」が 46.9%となっている。

図表 5-30 今後、イベントやプログラムに障害者が参加するため、あるいはボランティアとして運営に携わるために必要な配慮や工夫〔複数回答〕(Q11)



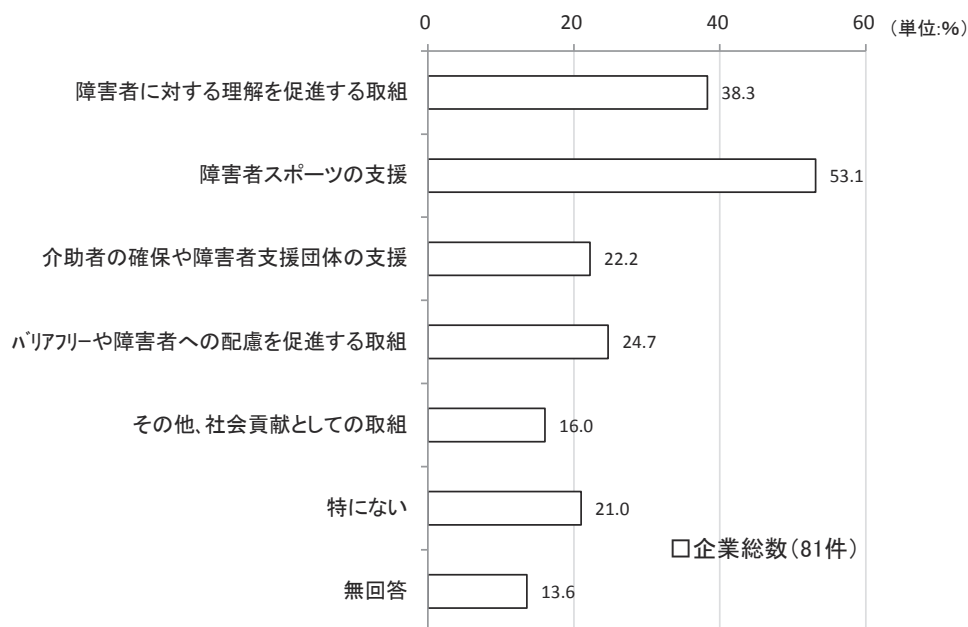
4 東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会について

(1) より多くの障害者が東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会を楽しむために 現在協力している、あるいは今後協力したい取組

① 現在協力している取組

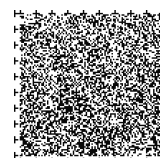
より多くの障害者が東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会を体験し楽しむために、各社が、現在協力している、もしくは、今後協力したい取組について尋ねたところ、現在の取組については、「障害者スポーツの支援」の割合が最も高く 53.1%となっている。次いで、「障害者に対する理解を促進する取組」が 38.3%、「バリアフリーや障害者への配慮を促進する取組」が 24.7%となっている。

図表 5-31 より多くの障害者が東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会を楽しむために現在協力している取組〔複数回答〕(Q12-1)



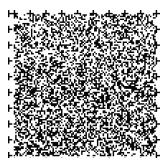
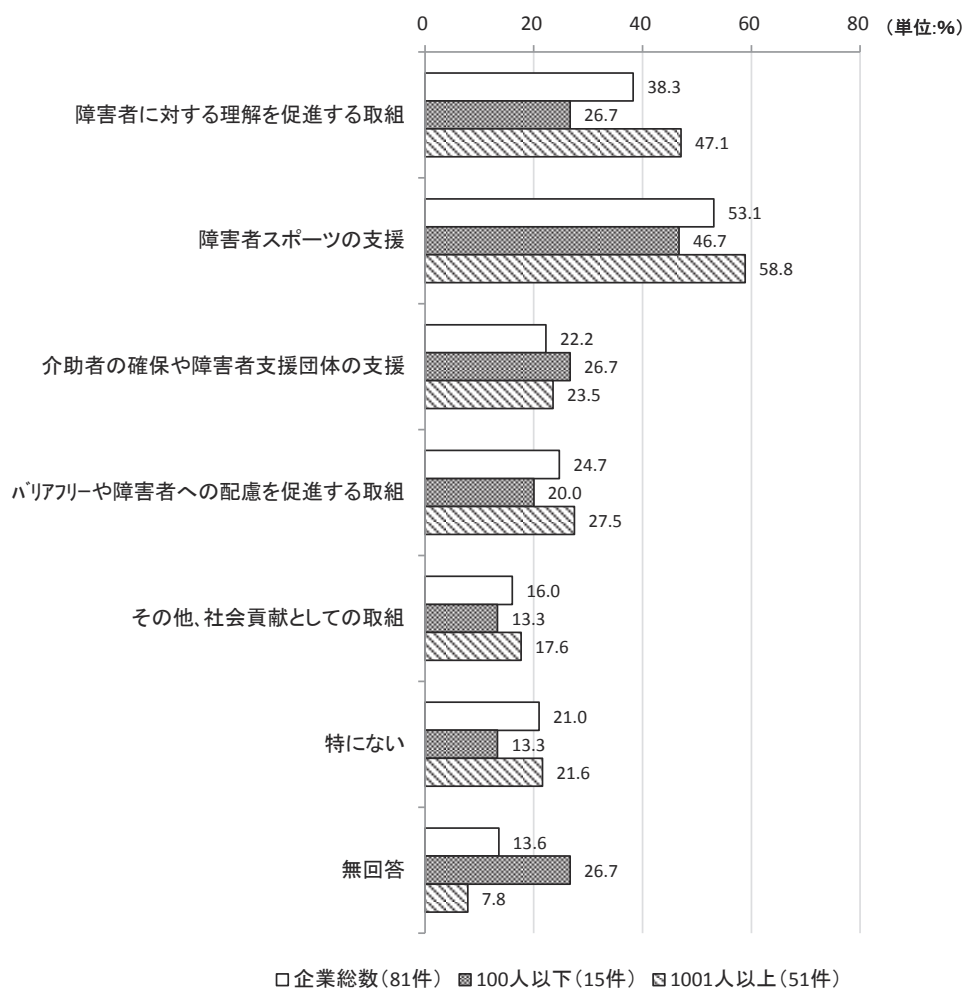
従業員数別に見ると、1,001 人以上の企業においては、「障害者スポーツの支援」(58.8%)に加え、「障害者に対する理解を促進する取組」(47.1%)、「バリアフリーや障害者への配慮を促進する取組」(27.5%)等で、全体の傾向よりも割合が高くなっている。一方、100 人以下の企業では、「介助者の確保や障害者支援団体の支援」(26.7%)が、全体の傾向よりも割合が高くなっている。

小規模事業所では、啓発的な取組よりも実態的な取組がやりやすく、大企業では理解・配慮の促進等の啓発事業が行いやすいものと思われる。



図表 5-32 より多くの障害者が東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会を楽しむために現在協力している取組〔複数回答〕(Q12-1)－従業員数別

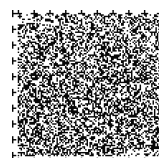
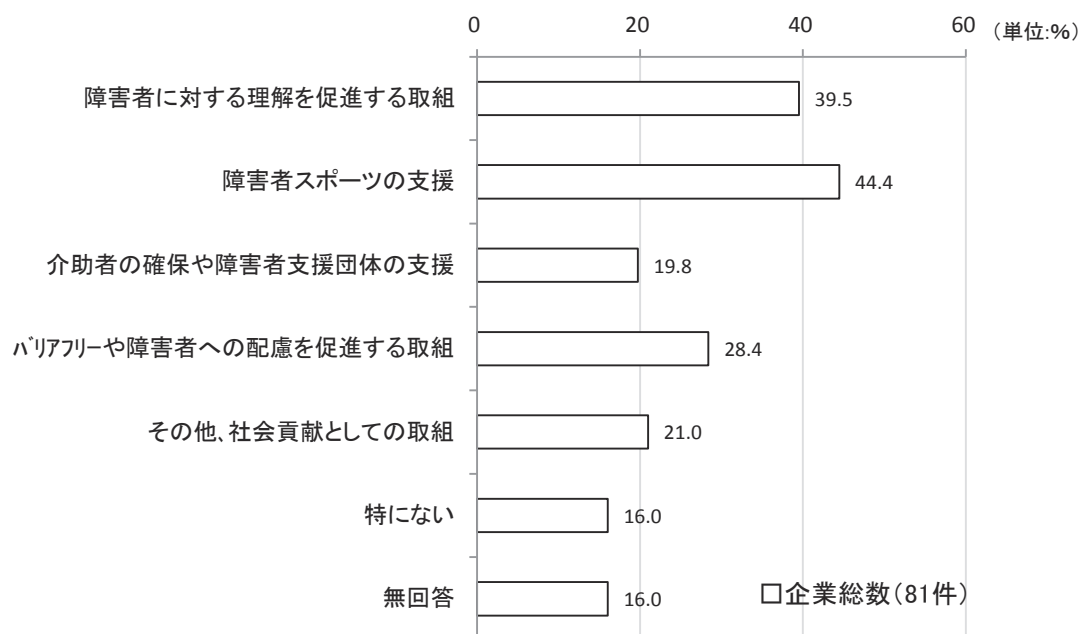
		総 数	障 害 者 に 対 す る 理 解 を 促 進 す る 取 組	障 害 者 ス ポ ー ツ の 支 援	介 助 者 の 確 保 や 障 害 者 支 援 団 体 の 支 援	配 慮 を 促 進 す る 取 組	バ リ ア フ リ ー や 障 害 者 へ の 配 慮 を 促 進 す る 取 組	組 織 と し て の 社 会 貢 献 と し て の 取 組	特 に な い	無 回 答
企業総数		81 100.0	31 38.3	43 53.1	18 22.2	20 24.7	13 16.0	17 21.0	11 13.6	
従業員数	100人以下	15 100.0	4 26.7	7 46.7	4 26.7	3 20.0	2 13.3	2 13.3	4 26.7	
	101人～300人 以下	2 100.0	0 0.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 50.0	0 0.0	
	301人～500人 以下	4 100.0	0 0.0	2 50.0	0 0.0	1 25.0	0 0.0	1 25.0	1 25.0	
	501人～1,000 人以下	8 100.0	3 37.5	3 37.5	2 25.0	2 25.0	2 25.0	2 25.0	1 12.5	
	1,001人以上	51 100.0	24 47.1	30 58.8	12 23.5	14 27.5	9 17.6	11 21.6	4 7.8	



② 今後協力したい取組

今後協力したい取組については、「障害者スポーツの支援」の割合が最も高く 44.4%となっている。次いで、「障害者に対する理解を促進する取組」が 39.5%、「バリアフリーや障害者への配慮を促進する取組」が 28.4%となっている。

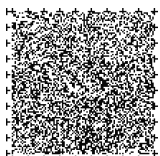
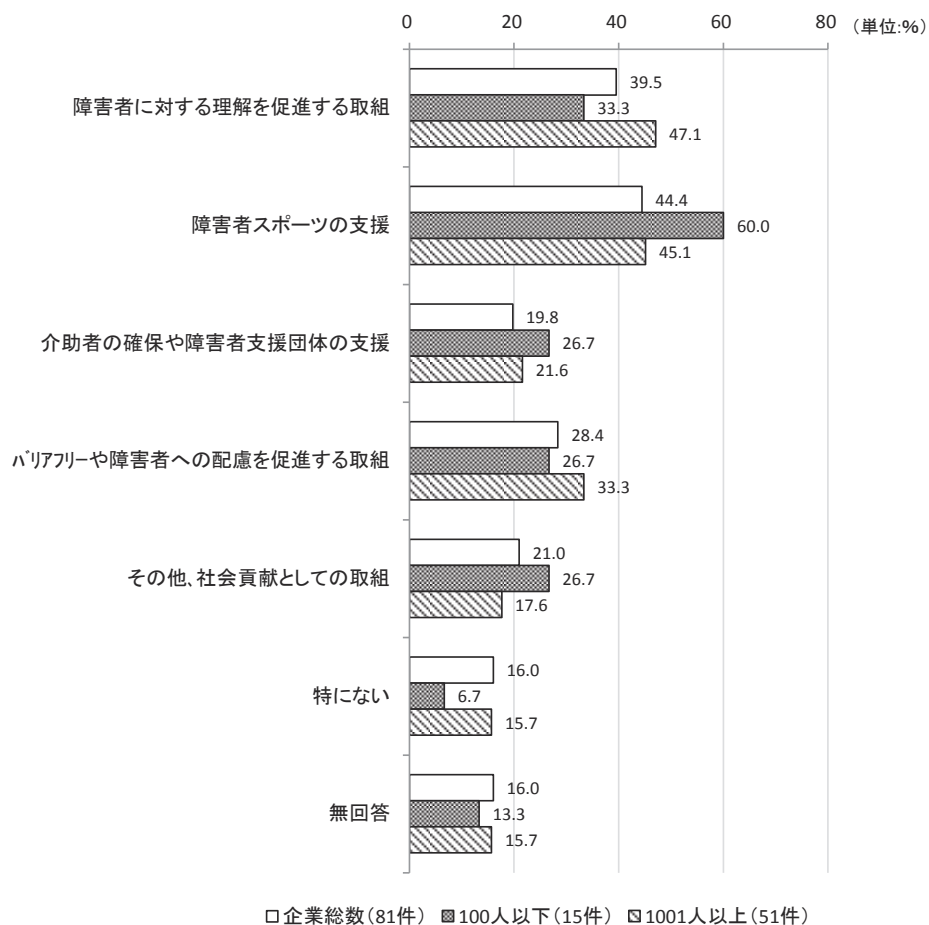
図表 5-33 より多くの障害者が東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会を楽しむために今後協力したい取組〔複数回答〕(Q12-2)



従業員数別に見ると、特に 100 人以下の企業における「障害者スポーツの支援」(60.0%)で、全体の傾向よりも割合が高くなっている。

図表 5-34 より多くの障害者が東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会を楽しむために今後協力したい取組〔複数回答〕(Q12-2)－従業員数別

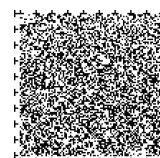
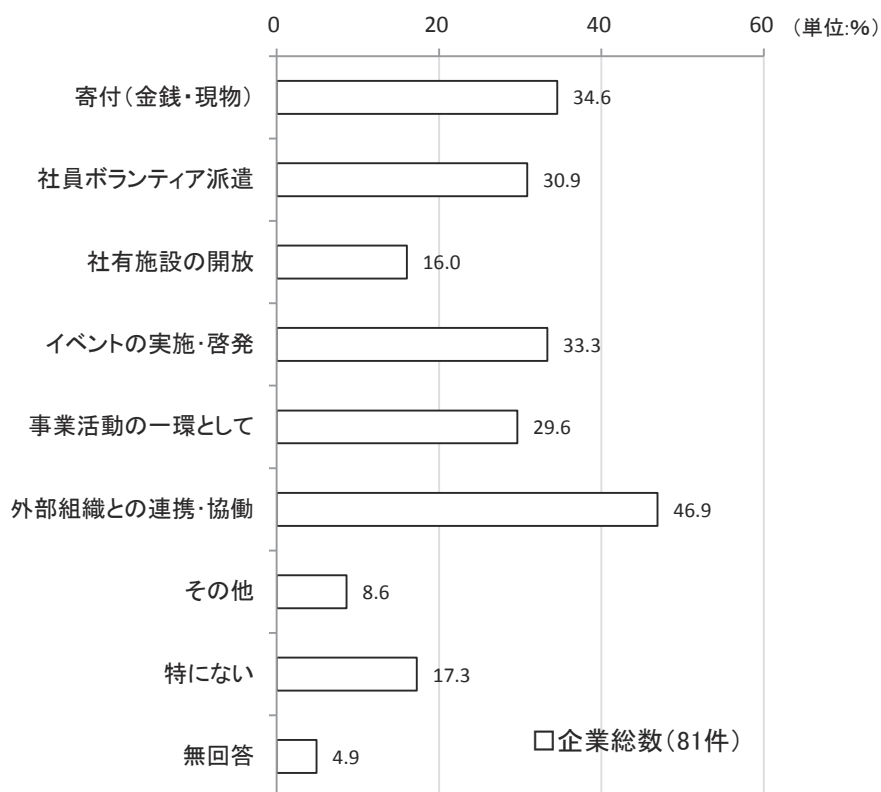
		総 数	障 害 者 に 対 す る 理 解 を 促 進 す る 取 組	障 害 者 ス ポ ー ツ の 支 援	介 助 者 の 確 保 や 障 害 者 支 援 団 体 の 支 援	配 慮 を 促 進 す る 取 組	バ リ ア フ リ ー や 障 害 者 へ の 配 慮 を 促 進 す る 取 組	組 織 と し て の 社 会 貢 献 と し て の 取 組	特 に な い	無 回 答
企業総数		81	32	36	16	23	17	13	13	
		100.0	39.5	44.4	19.8	28.4	21.0	16.0	16.0	
03従業員数	100人以下	15	5	9	4	4	4	1	2	
		100.0	33.3	60.0	26.7	26.7	26.7	6.7	13.3	
	101人～300人 以下	2	0	1	0	0	0	1	0	
		100.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	
	301人～500人 以下	4	0	2	0	1	0	1	1	
		100.0	0.0	50.0	0.0	25.0	0.0	25.0	25.0	
	501人～1,000 人以下	8	3	1	1	1	3	2	2	
		100.0	37.5	12.5	12.5	12.5	37.5	25.0	25.0	
	1,001人以上	51	24	23	11	17	9	8	8	
		100.0	47.1	45.1	21.6	33.3	17.6	15.7	15.7	



③ 取組の形態

現在協力している、あるいは今後協力したい取組の形態については、「外部組織との連携・協働」の割合が最も高く 46.9%となっている。次いで、「寄付」が 34.6%、「イベントの実施・啓発」が 33.3%となっている。

図表 5-35 より多くの障害者が東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会を楽しむために現在協力している、あるいは今後協力したい取組の形態〔3 つまで〕(Q13)

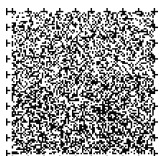
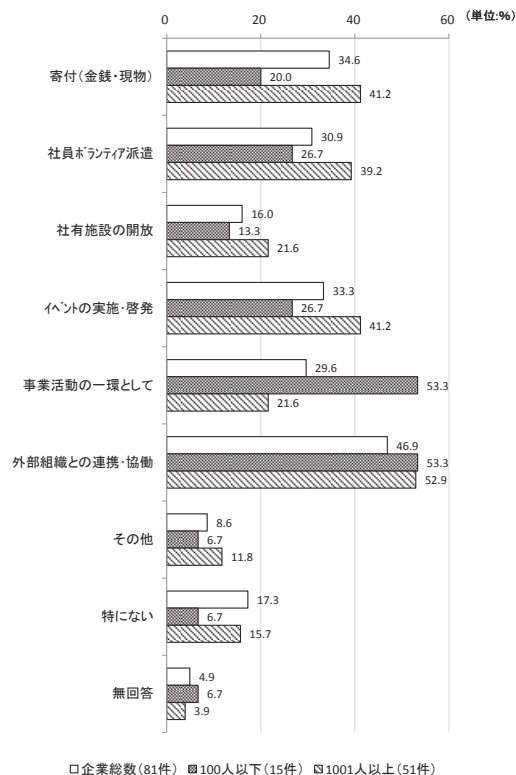


上記の取組の形態について、従業員数別に見ると、100 人以下の企業における「事業活動の一環として」(53.3%) で、全体の傾向よりも割合が高くなっているが、「寄付」(20.0%) は、全体の傾向よりも割合が低い。一方、1,001 人以上の企業では、「社有施設の開放」(21.6%) や「社員ボランティア派遣」(39.2%) 等で、全体の傾向よりも割合が高くなっている。

図表 5-36 より多くの障害者が東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会を楽しむために現在協力している、あるいは今後協力したい取組の形態

〔3 つまで〕(Q13)－従業員数別

	総数	寄付(金銭・現物)	社員ボランティア派遣	社有施設の開放	イベントの実施・啓発	事業活動の一環として	外部組織との連携・協働	その他	特にない	無回答
企業総数	81 100.0	28 34.6	25 30.9	13 16.0	27 33.3	24 29.6	38 46.9	7 8.6	14 17.3	4 4.9
03 従業員数	100人以下	15 100.0	3 20.0	4 26.7	2 13.3	4 26.7	8 53.3	1 6.7	1 6.7	1 6.7
	101人～300人以下	2 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 50.0	0 0.0	1 50.0	0 0.0
	301人～500人以下	4 100.0	2 50.0	0 0.0	0 0.0	1 25.0	0 0.0	0 0.0	2 50.0	0 0.0
	501人～1,000人以下	8 100.0	2 25.0	0 0.0	0 0.0	1 12.5	2 25.0	0 0.0	2 25.0	1 12.5
	1,001人以上	51 100.0	21 41.2	20 39.2	11 21.6	21 41.2	27 52.9	6 11.8	8 15.7	2 3.9

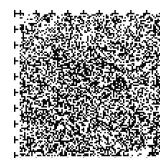
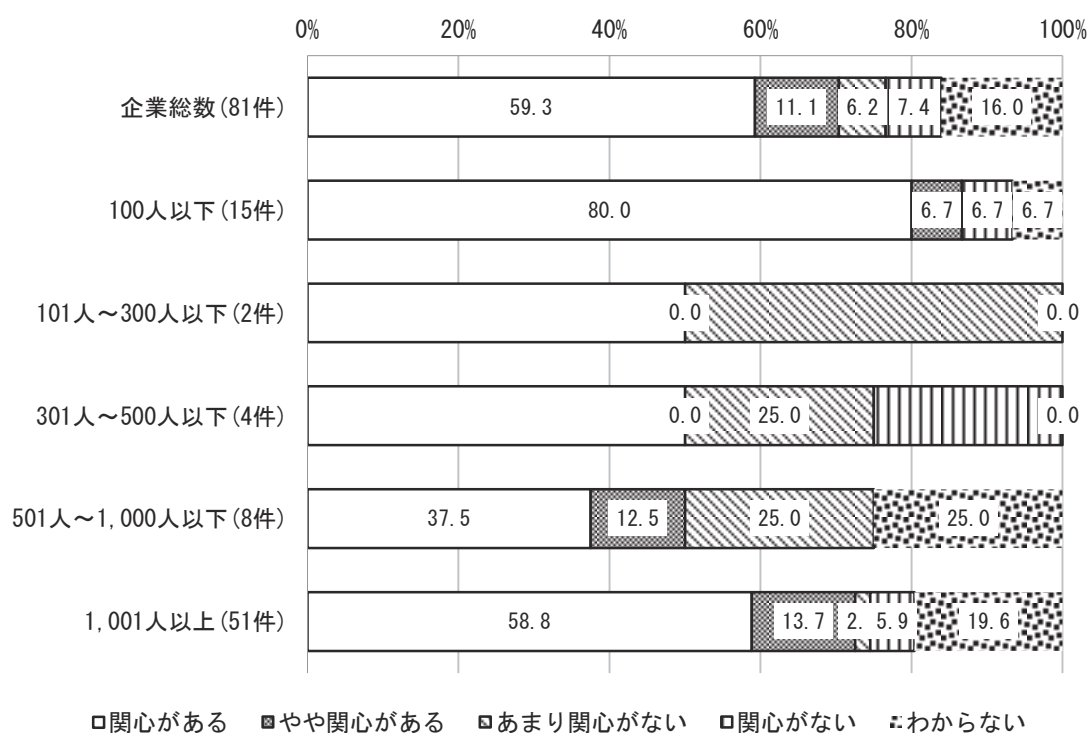


5 障害者スポーツについて

(1) 支援への関心

障害者スポーツの競技やアスリート等の支援への関心について、「関心がある」の割合が最も高く 59.3%となっている。次いで、「わからない」が 16.0%、「やや関心がある」が 11.1%となっている。従業員数別に見ると、特に 100 人以下の企業において、「関心がある」(80.0%) の割合が、全体の傾向よりも高くなっている。

図表 5-37 障害者スポーツの競技やアスリート等の支援への関心〔単数回答〕(Q14)
－従業員数別

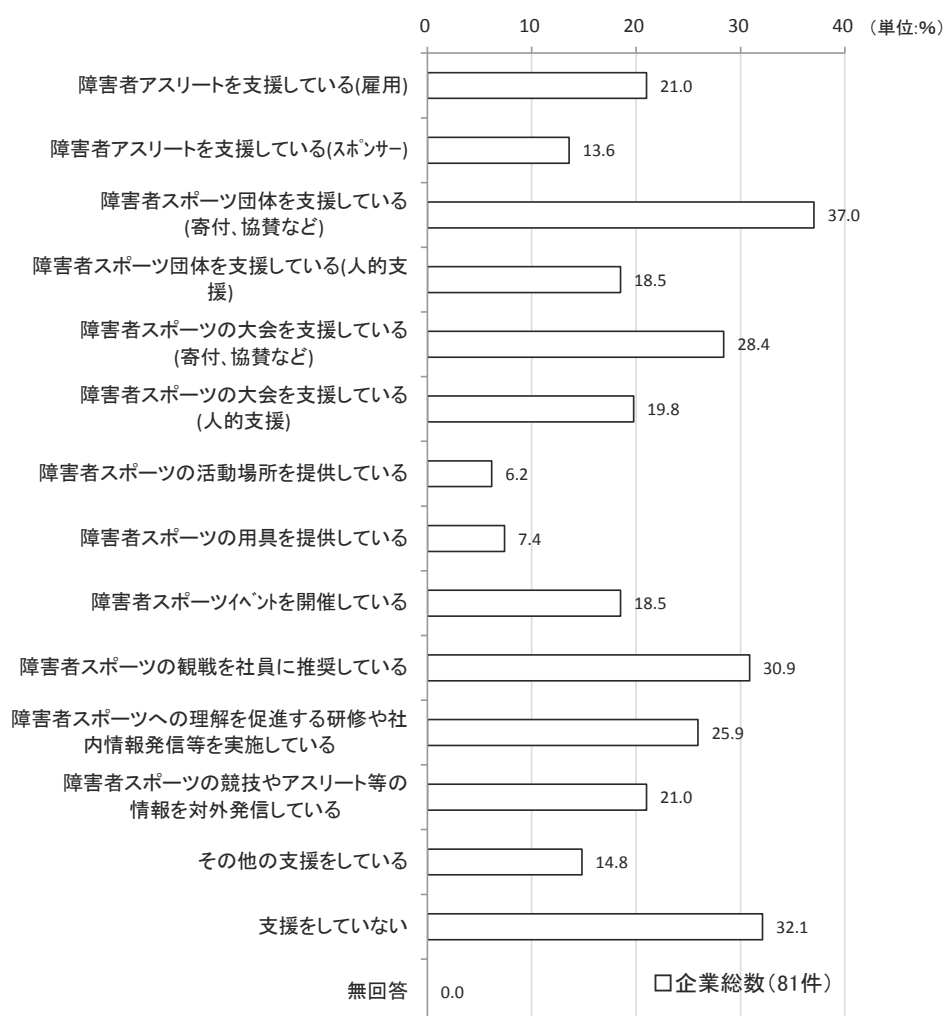


(2) 支援の現状と経緯

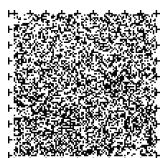
① 現在の支援状況

現在の障害者スポーツの競技やアスリート等の支援状況について、「障害者スポーツ団体を支援している（寄付、協賛など）」の割合が最も高く 37.0%となっている。次いで、「支援をしていない」が 32.1%、「障害者スポーツの観戦を社員に推奨している」が 30.9%となっている。一方、障害者スポーツの活動場所や用具の提供の割合は低い。

図表 5-38 障害者スポーツの競技やアスリート等の支援状況〔複数回答〕(Q15)

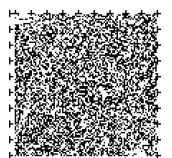
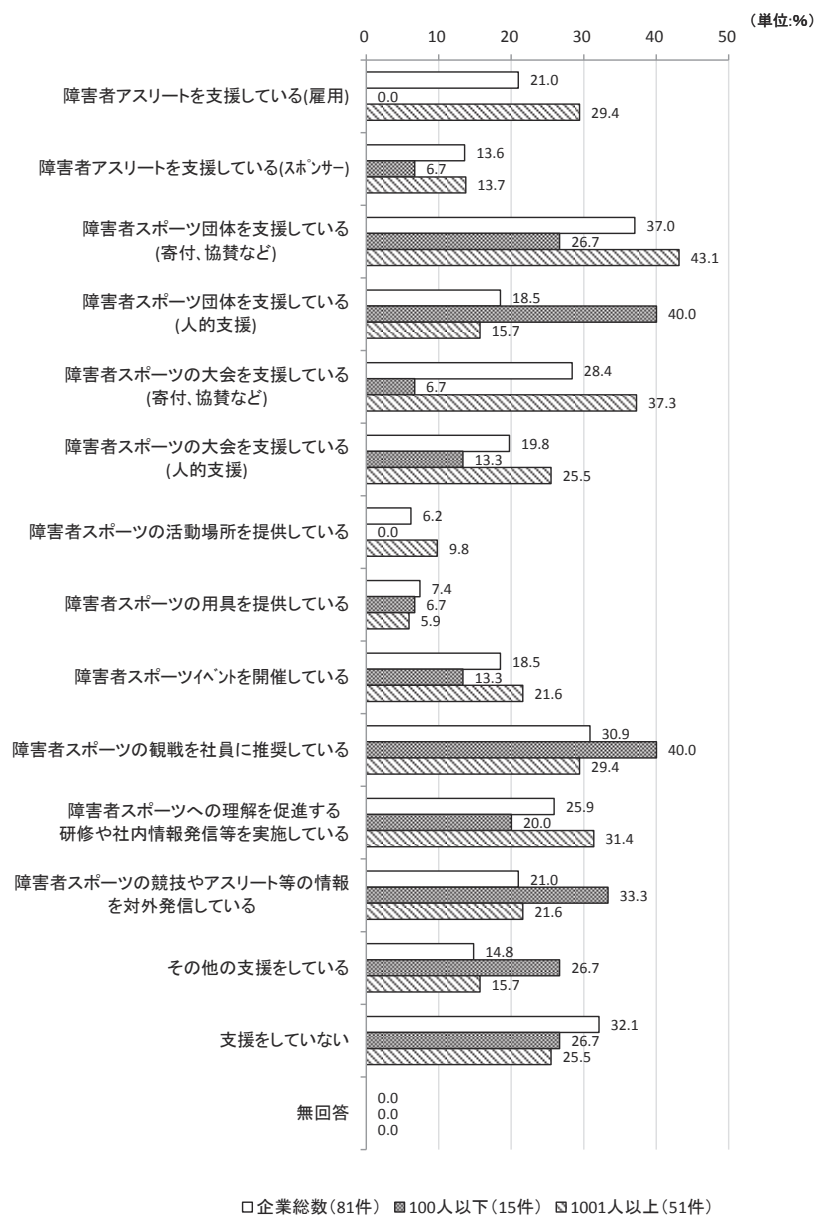


また、従業員数別に見ると、100 人以下の企業における「障害者スポーツ団体を支援している（人的支援）」(40.0%)、「障害者スポーツの競技やアスリート等の情報を对外発信している」(33.3%)等で、全体の傾向よりも割合が高くなっている。一方、1,001 人以上の企業では、障害者アスリートの雇用、障害者スポーツ団体や大会への寄付・協賛、理解促進の研修等実施などにおいて、全体の傾向よりも割合が高い。



図表 5-39 障害者スポーツの競技やアスリート等の支援状況〔複数回答〕(Q15)－従業員数別

	総 数	障 害 者 ア ス リ ー ト を 支 援 し て い る (雇 用)	サ ー サ ー 支 援 し て い る (ス ポ ン サ ー)	障 害 者 ア ス リ ー ト を 支 援 し て い る (寄 付、 協 賛 な ど)	障 害 者 ス ポ ー ツ 団 体 を 支 援 し て い る (人 的 支 援)	障 害 者 ス ポ ー ツ の 大 会 を 支 援 し て い る (寄 付、 協 賛 な ど)	障 害 者 ス ポ ー ツ の 大 会 を 支 援 し て い る (人 的 支 援)	障 害 者 ス ポ ー ツ の 活 動 場 所 を 提 供 し て い る	障 害 者 ス ポ ー ツ の 用 具 を 提 供 し て い る	障 害 者 ス ポ ー ツ イ ベ ン ト を 開 催 し て い る	障 害 者 ス ポ ー ツ の 観 戦 を 社 員 に 推 奨 し て い る	障 害 者 ス ポ ー ツ へ の 理 解 を 促 進 す る 研 修 や 社 内 情 報 発 信 等 を 実 施 し て い る	障 害 者 ス ポ ー ツ の 競 技 や ア ス リ ー ト 等 の 情 報 を 対 外 発 信 し て い る	そ の 他 の 支 援 を し て い る	支 援 を し て い な い	無 回 答
企業総数	81	17	11	30	15	23	16	5	6	15	25	21	17	12	26	0
	100.0	21.0	13.6	37.0	18.5	28.4	19.8	6.2	7.4	18.5	30.9	25.9	21.0	14.8	32.1	0.0
Q 3 従 業 員 数	100人以下	15	0	1	4	6	1	2	0	1	2	6	3	5	4	0
		100.0	0.0	6.7	26.7	40.0	6.7	13.3	0.0	6.7	13.3	40.0	20.0	33.3	26.7	0.0
	101人～300人以下	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
		100.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	50.0	0.0
	301人～500人以下	4	0	1	2	1	1	0	0	1	0	1	1	0	2	0
		100.0	0.0	25.0	50.0	25.0	25.0	0.0	0.0	25.0	0.0	25.0	25.0	0.0	50.0	0.0
1,001人以上	501人～1,000人以下	8	1	2	2	0	2	1	0	1	2	2	1	1	0	5
		100.0	12.5	25.0	25.0	0.0	25.0	12.5	0.0	12.5	25.0	25.0	12.5	12.5	0.0	62.5
	1,001人以上	51	15	7	22	8	19	5	3	11	15	16	11	8	13	0
	100.0	29.4	13.7	43.1	15.7	37.3	25.5	9.8	5.9	21.6	29.4	31.4	21.6	15.7	25.5	0.0

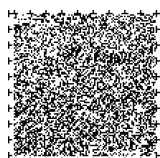
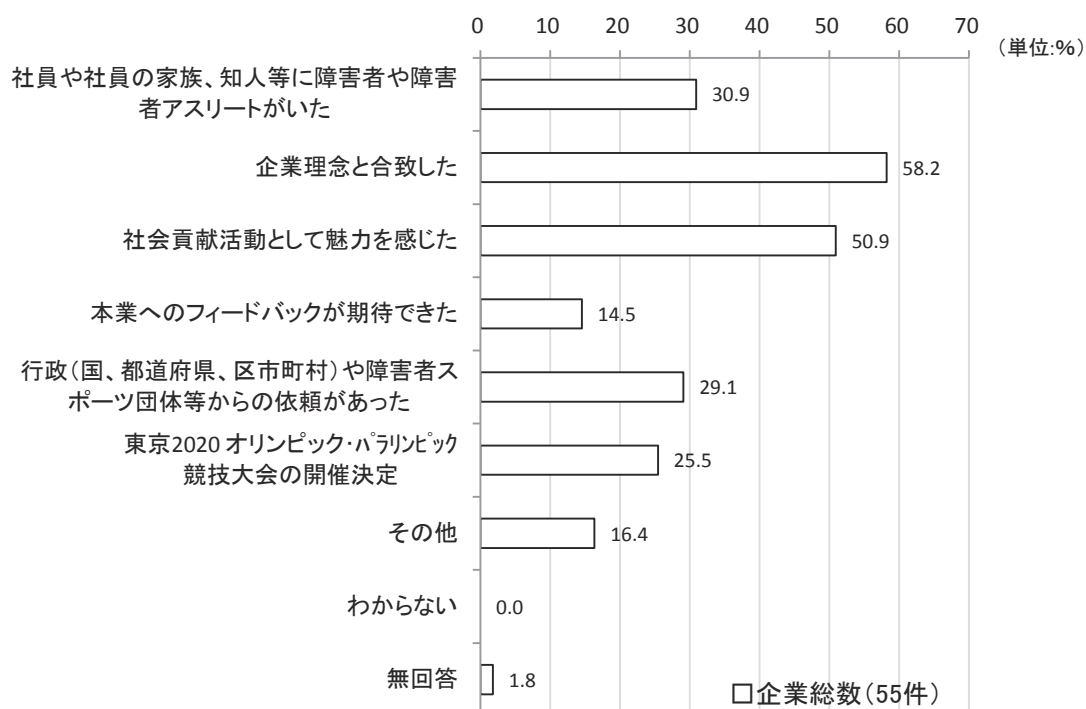


② 支援を始めたきっかけ

(※現在何らかの障害者スポーツの競技やアスリート等の支援をしていると回答した 55 社が対象)

障害者スポーツ等の支援を始めたきっかけについては、「企業理念と合致した」の割合が最も高く 58.2%となっている。次いで、「社会貢献活動として魅力を感じた」が 50.9%、「社員や社員の家族、知人等に障害者や障害者アスリートがいた」が 30.9%となっている。

図表 5-40 障害者スポーツ等の支援を始めたきっかけ〔複数回答〕(Q15-1)

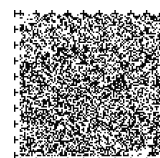
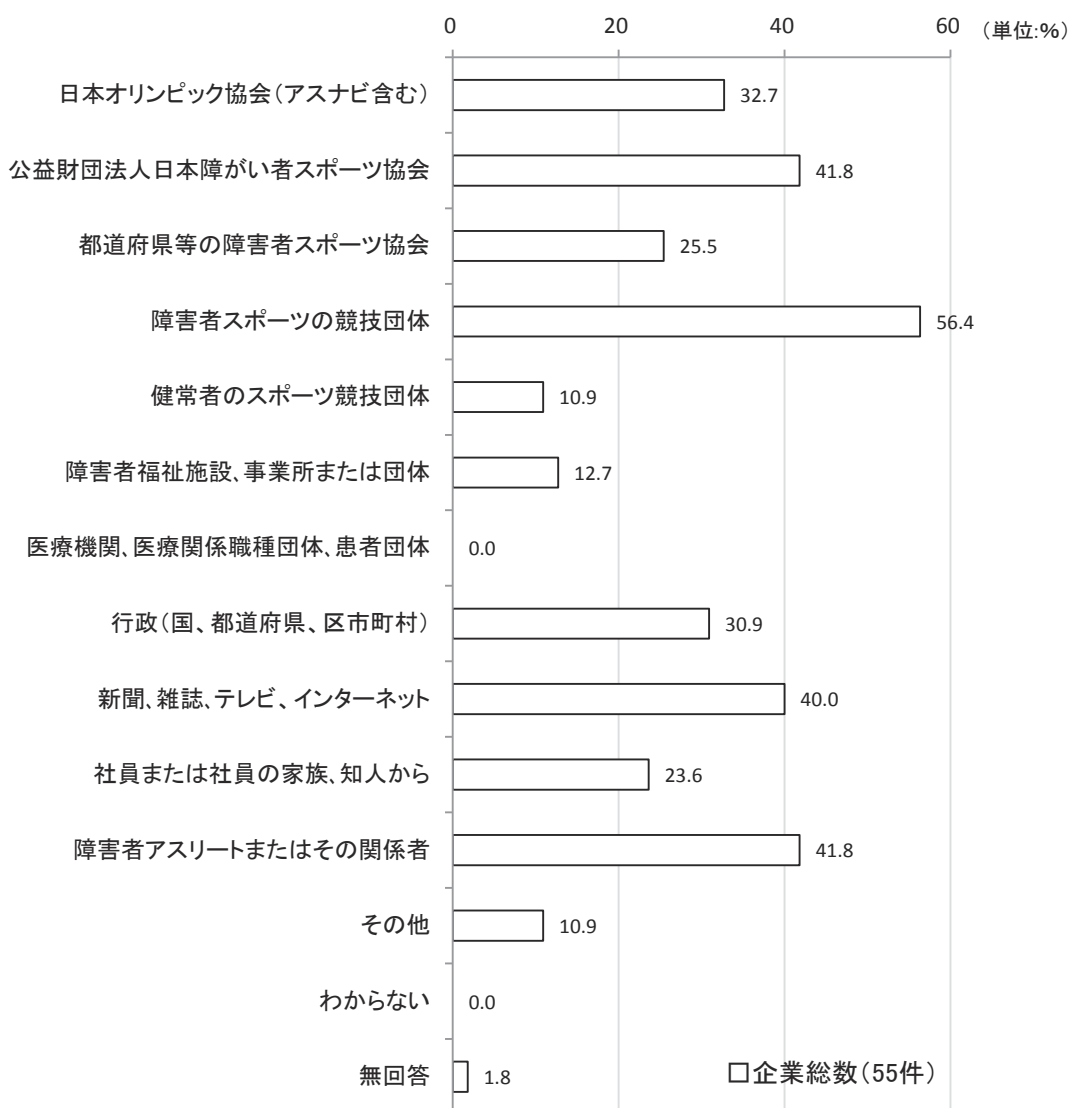


③ 情報の入手先

(※現在何らかの障害者スポーツの競技やアスリート等の支援をしていると回答した 55 社が対象)

障害者スポーツの競技やアスリート等の情報入手先については、「障害者スポーツの競技団体」の割合が最も高く 56.4%となっている。次いで、「公益財団法人日本障がい者スポーツ協会」が 41.8%、「障害者アスリートまたはその関係者」が 41.8%となっている。

図表 5-41 障害スポーツ等の情報の入手先〔複数回答〕(Q15-2)

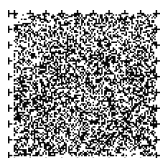
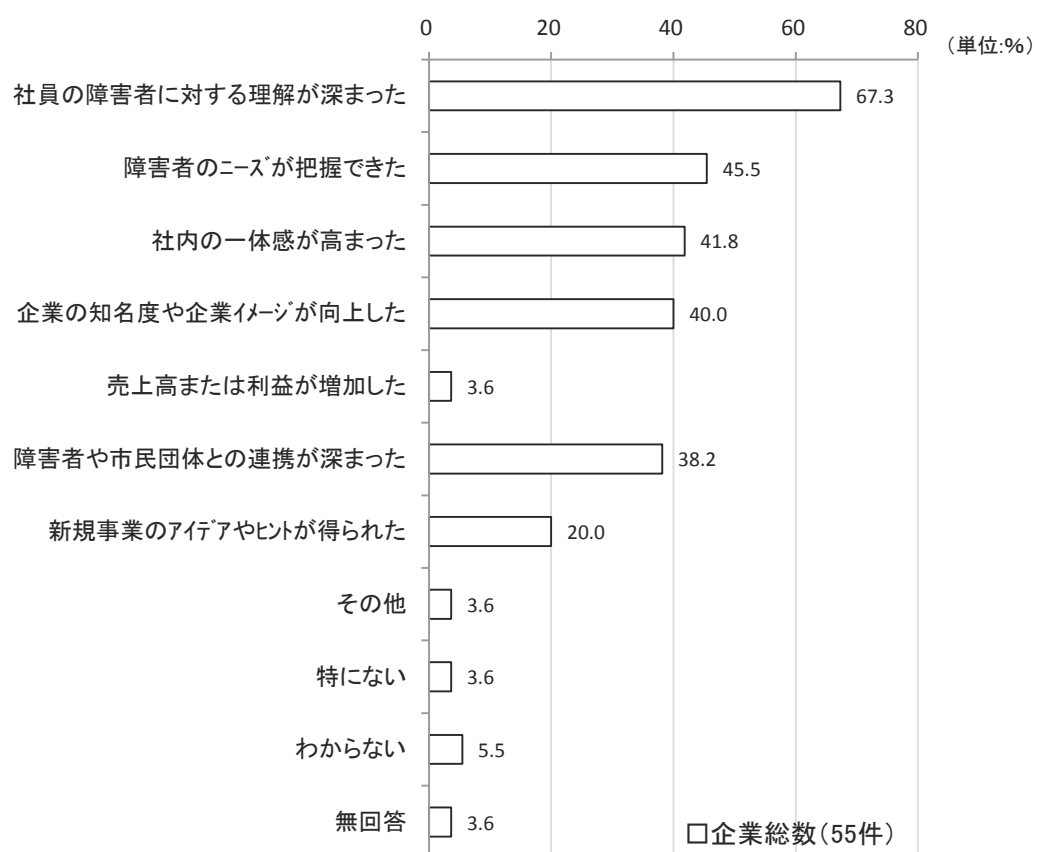


④ 障害者スポーツ等の支援をすることによる効果

(※現在何らかの障害者スポーツの競技やアスリート等の支援をしていると回答した 55 社が対象)

障害者スポーツの競技やアスリート等の支援をすることによる効果について、「社員の障害者に対する理解が深まった」の割合が最も高く 67.3%となっている。次いで、「障害者のニーズが把握できた」が 45.5%、「社内の一体感が高まった」が 41.8%となっている。

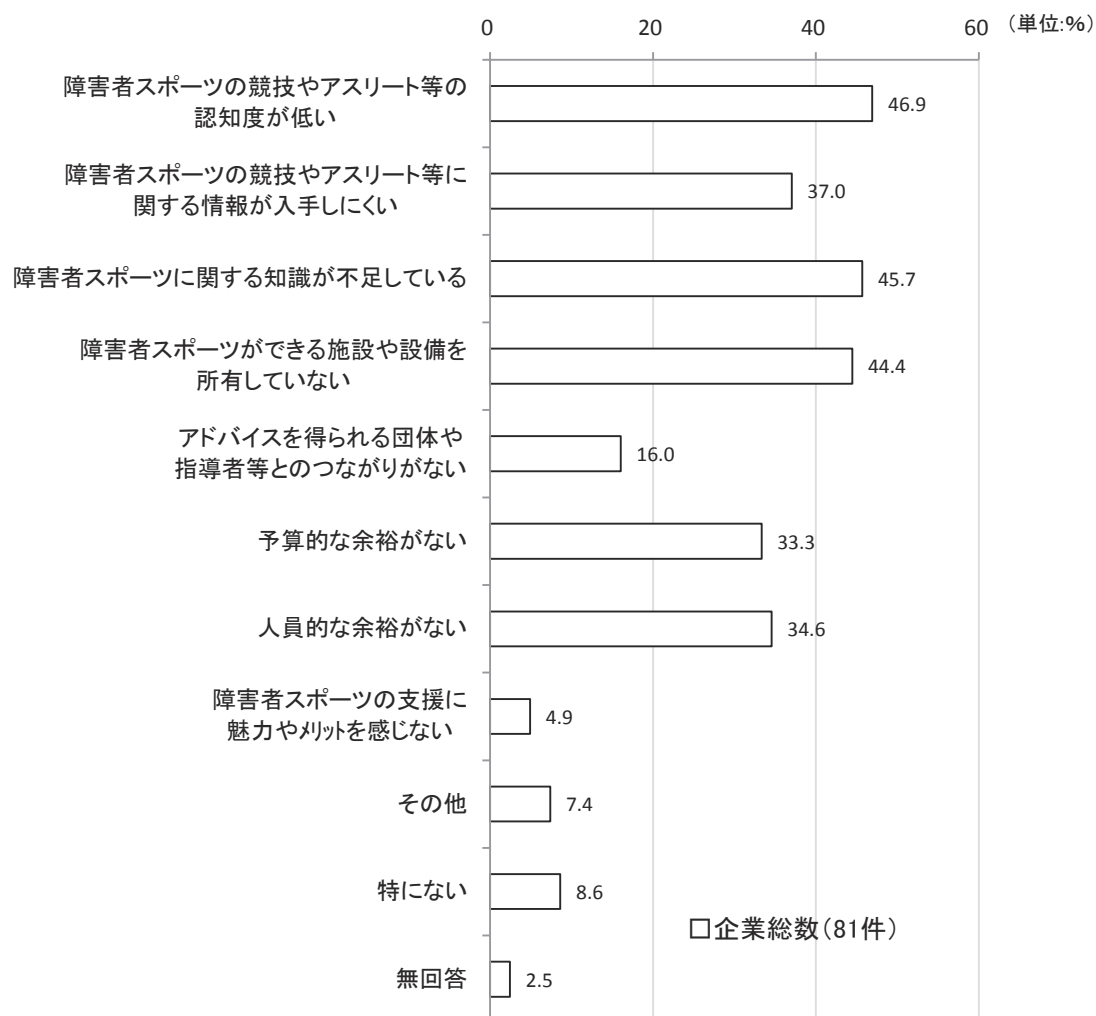
図表 5-42 障害者スポーツ等の支援をすることによる効果〔複数回答〕(Q15-3)



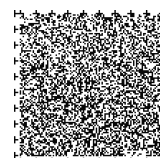
(3) 支援に当たっての課題

すべての企業に、障害者スポーツの競技やアスリート等の支援をするに当たっての課題を尋ねたところ、「障害者スポーツの競技やアスリート等の認知度が低い」の割合が最も高く 46.9%となっている。次いで、「障害者スポーツに関する知識が不足している」が 45.7%、「障害者スポーツができる施設や設備を所有していない」が 44.4%となっている。

図表 5-43 障害者スポーツ等の支援に当たっての課題〔複数回答〕(Q16)

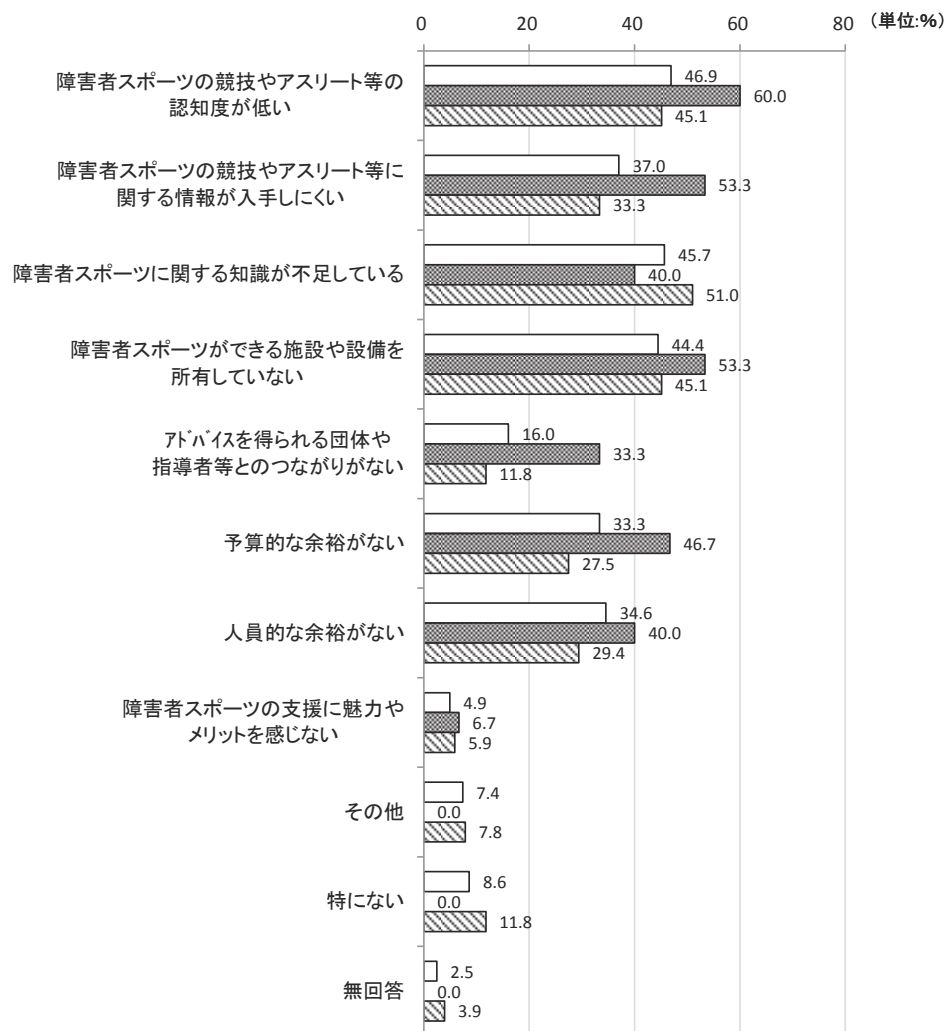


従業員数別に見ると、100人以下の企業では、「アドバイスを得られる団体や指導者等とのつながりがない」(33.3%)、「予算的な余裕がない」(46.7%)、「障害者スポーツの競技やアスリート等の認知度が低い」(60.0%)、「障害者スポーツの競技やアスリート等に関する情報が入手しにくい」「障害者スポーツができる施設や設備を所有していない」(いずれも 53.3%)等で、全体の傾向よりも割合が高くなっている。一方、1,001人以上の企業では、「障害者スポーツに関する知識が不足している」(51.0%)の割合が、全体の傾向や100人以下の企業よりも高くなっている。

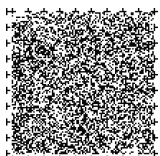


図表 5-44 障害者スポーツ等の支援にあたっての課題〔複数回答〕(Q16) ー従業員数別

	総 数	度や障 害がア スリート 等の認 知が低 い	るや障 害者ス ポーツ の競技 に関する 情報が 入手し にくい	る障 害者ス ポーツ の競技 に関する 知識が 不足し ている	る障 害者ス ポーツ の競技 に関する 施設や 設備が 不足し ている	る障 害者ス ポーツ の競技 に関する 団体や 指導者 等との つなが りがない	予算 的な余 裕がな い	人員 的な余 裕がな い	に障 害者ス ポーツ の支援 に魅力 やメリ ットを 感じな い	そ 他	特 に な い	無 回 答
企業総数	81 100.0	38 46.9	30 37.0	37 45.7	36 44.4	13 16.0	27 33.3	28 34.6	4 4.9	6 7.4	7 8.6	2 2.5
Q 3 従 業 員 数	100人以下	15 100.0	9 60.0	8 53.3	6 40.0	8 53.3	5 33.3	7 46.7	6 40.0	1 6.7	0 0.0	0 0.0
	101人～300人以下	2 100.0	1 50.0	1 50.0	0 0.0	1 50.0	1 50.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	301人～500人以下	4 100.0	1 25.0	1 25.0	1 25.0	0 0.0	0 0.0	1 25.0	2 50.0	0 0.0	0 0.0	1 25.0
	501人～1,000人以下	8 100.0	4 50.0	3 37.5	4 50.0	4 50.0	1 12.5	4 50.0	4 50.0	0 0.0	1 12.5	0 0.0
	1,001人以上	51 100.0	23 45.1	17 33.3	26 51.0	23 45.1	6 11.8	14 27.5	15 29.4	3 5.9	4 7.8	6 11.8
												3.9



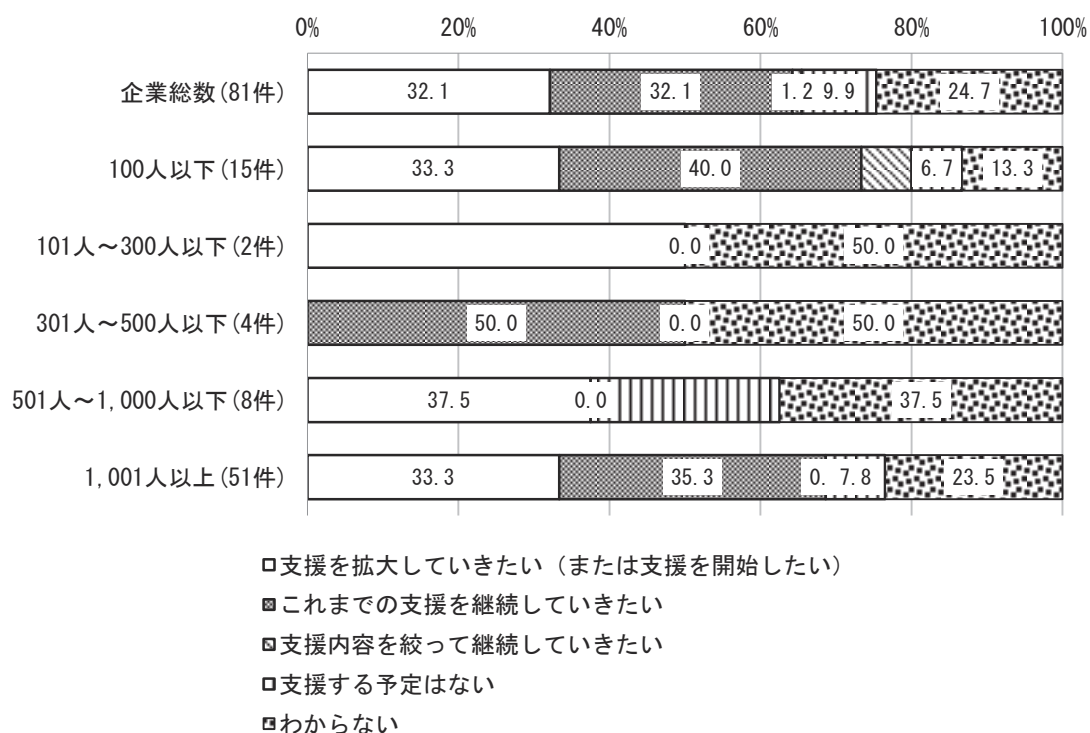
□企業総数(81件) ▨100人以下(15件) ▩1001人以上(51件)



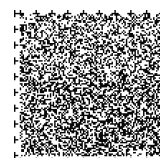
(4) 今後の支援意向

今後の障害者スポーツの競技やアスリート等の支援について、「支援を拡大していきたい（または支援を開始したい）」、「これまでの支援を継続していきたい」の割合が高く、それぞれ 32.1%となっている。次いで、「わからない」が 24.7%となっている。

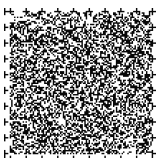
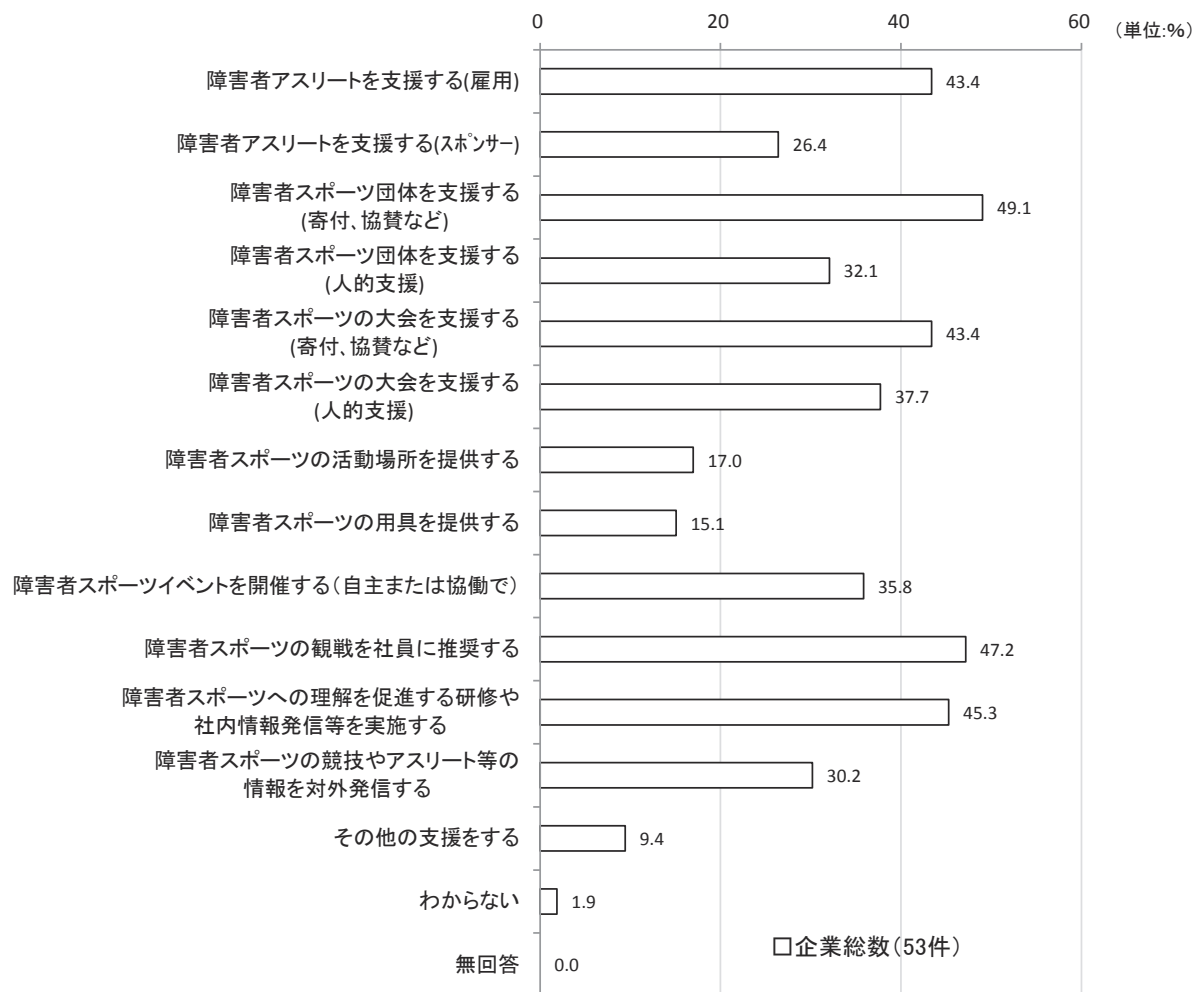
図表 5-45 今後の障害者スポーツの競技やアスリート等の支援について〔単数回答〕(Q17)
—従業員数別



今後の支援意向がある企業（前項で、「支援を拡大していきたい（または支援を開始したい）」、「これまでの支援を継続していきたい」、「支援内容を絞って継続していきたい」と回答した 53 社）に対し、今後、支援をしていきたい内容（現在実施しているものも含めて）を尋ねたところ、「障害者スポーツ団体を支援する（寄付、協賛など）」の割合が最も高く 49.1%となっている。次いで、「障害者スポーツの観戦を社員に推奨する」が 47.2%、「障害者スポーツへの理解を促進する研修や社内情報発信等を実施する」が 45.3%となっている。



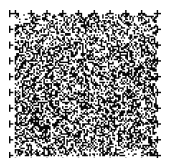
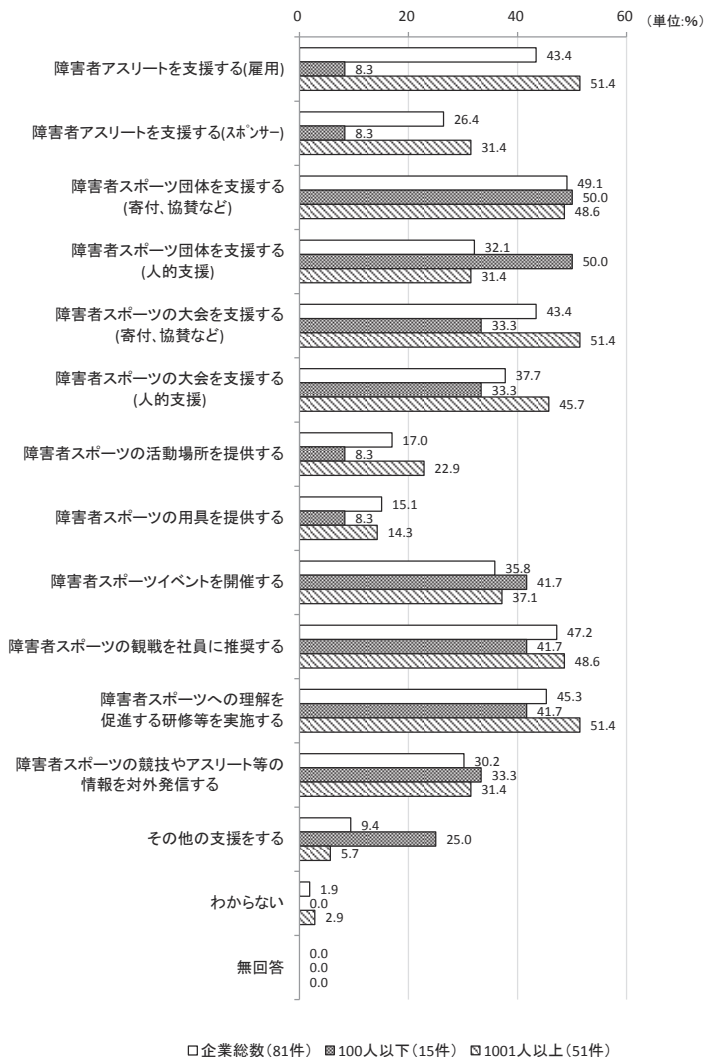
図表 5-46 今後支援をしていきたい内容〔複数回答〕(Q17-1)



また、従業員数別に見ると、雇用やスポンサリングによる障害者アスリートの支援や、寄付、協賛などによる障害者スポーツ団体や大会の支援、活動場所・用具の提供等において、小規模事業所と大企業との意向の違いが大きく出ている。

図表 5-47 今後支援をしていきたい内容〔複数回答〕(Q17-1)－従業員数別

	総 数	障 害 者 ア ス リ ー ト を 支 援 す る (雇 用)	障 害 者 ア ス リ ー ト を 支 援 す る (ス ポ ン サ ー)	障 害 者 ス ポ ー ツ 団 体 を 支 援 す る (寄 付、 協 賛 等)	障 害 者 ス ポ ー ツ 団 体 を 支 援 す る (人 的 支 援)	障 害 者 ス ポ ー ツ の 大 会 を 支 援 す る (寄 付、 協 賛 等)	障 害 者 ス ポ ー ツ の 大 会 を 支 援 す る (人 的 支 援)	障 害 者 ス ポ ー ツ の 活 動 場 所 を 提 供 す る	障 害 者 ス ポ ー ツ の 用 具 を 提 供 す る	障 害 者 ス ポ ー ツ イ ベ ン ト を 開 催 す る	障 害 者 ス ポ ー ツ の 観 戦 を 社 員 に 推 奨 す る	障 害 者 ス ポ ー ツ へ の 理 解 を 促 進 す る 研 修 等 を 実 施 す る	障 害 者 ス ポ ー ツ の 競 技 や ア ス リ ー ト 等 の 情 報 を 対 外 発 信 す る	そ の 他 の 支 援 を す る	わ か ら な い	無 回 答
企業総数	53 100.0	23 43.4	14 26.4	26 49.1	17 32.1	23 43.4	20 37.7	9 17.0	8 15.1	19 35.8	25 47.2	24 45.3	16 30.2	5 9.4	1 1.9	0 0.0
Q 3 従 業 員 数																
100人以下	12 100.0	1 8.3	1 8.3	6 50.0	6 50.0	4 33.3	4 33.3	1 8.3	1 8.3	5 41.7	5 41.7	5 41.7	4 33.3	3 25.0	0 0.0	0 0.0
101人～300 人以下	1 100.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
301人～500 人以下	2 100.0	0 0.0	1 50.0	2 100.0	0 0.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	1 50.0	1 50.0	1 50.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
501人～ 1,000人以下	3 100.0	3 100.0	1 33.3	1 33.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 33.3	0 0.0	2 66.7	0 0.0	1 33.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0
1,001人以上	35 100.0	18 51.4	11 31.4	17 48.6	11 31.4	18 51.4	16 45.7	8 22.9	5 14.3	13 37.1	17 48.6	18 51.4	11 31.4	2 5.7	1 2.9	0 0.0



第6章 分析

1 障害者等、障害者団体、事業所の回答の比較

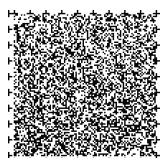
(1) スポーツや運動の実施

① 現状

本調査に回答した障害者等 1,463 人のうち、この 1 年間で「週に 1 日以上」スポーツや運動を行った人の割合（スポーツ実施率）は 50.6%だった。スポーツや運動をした理由としては、「健康・体力づくりのため」（67.1%）、「運動不足解消のため」（53.9%）、「楽しみや気晴らしのため」（45.1%）の割合が高かった。

一方、本調査に回答した障害者等 1,463 人のうち、この 1 年間にスポーツや運動を行ったことがない人は 29.5%だった。スポーツや運動を行っていない理由は「活動したいが、身体的にできない」が 50.8%で、年代が上がるほどその割合が高くなっているが、活動したいが「自分に合ったスポーツや運動の情報がない」（9.5%）、「一緒にやる人がいない」（8.6%）、「身近なところにスポーツや運動がやれる場所がない」（7.9%）ためにできない人も一定数みられた。スポーツや運動をしている人であっても、一緒にする人についての回答は「いない（一人）」（55.3%）あるいは「家族」（31.6%）の割合が高かった。

障害者等がスポーツや運動を行う機会の提供という観点から、障害者団体や事業所がこの 1 年間のイベントや取組でスポーツや運動を行ったかどうかをみると、障害者団体については、スポーツや運動を行った障害者団体が 47.8%（11 団体）、行わなかった障害者団体が 52.2%（12 団体）と回答が分かれた。他方、事業所については、スポーツや運動を行った事業所が 67.8%、行わなかった事業所が 19.5%と、比較的多くの事業所がスポーツや運動を取り入れていた。



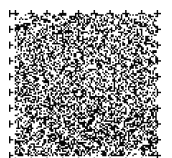
② 必要な支援

スポーツや運動を行う際に必要な支援について、障害者等の回答は「適切な指導者」が25.5%と最も割合が高く、次いで「一緒に行く仲間」19.5%、「会場までの送迎」14.9%、「障害にあわせたプログラムの充実」14.6%、「施設の利用料減免」14.3%、「スタジアム、体育館などの建物や設備のバリアフリー化」14.1%であった。障害別では大きな違いはみられないものの、身体障害種別の視覚では「障害に対応した情報の提供や問合せ方法の充実」が、聴覚では「介助者や手話通訳などの支援」が他に比べて高い。

スポーツや運動の指導者について、イベントや取組にスポーツや運動を取り入れている11障害者団体、今後新たにイベントや取組にスポーツや運動を取り入れたい1障害者団体、計12障害者団体に尋ねたところ、「障害者団体の職員」(58.3%、7団体)、「家族、ボランティア」(33.3%、4団体)の回答が多く、有資格者が指導をしているケースは「その他」(33.3%、4件)のうち2件と多くなかった。事業所においても、スポーツや運動の指導者は「事業所の職員」が84.7%と大多数を占めた。

また、回答のあった全ての障害者団体(23団体)に、イベントや取組でスポーツや運動を行う際に必要な支援を尋ねたところ、「交通機関やまちのバリアフリー化」(30.4%、7団体)に次いで「適切な指導者」(21.7%、5団体)の回答が多かった。事業所においては、「交通機関やまちのバリアフリー化」は9.3%にとどまったが、「適切な指導者」の割合が最も高く42.3%だった。

障害者団体ヒアリングでは、地域でのスポーツの機会がほしいという意見があった(視覚、知的)。また、スポーツを行う際に必要な用具や備品(例：吹き矢の道具、サウンドテーブルテニスに用いるテーブル、徒競走でスタートを合図するための旗)の費用がかかることや、設置されている会場が少ないこと、そのために用具や備品を都度会場まで持参することの負担感についての意見があった(肢体不自由、視覚、聴覚)。障害者用のプール(重症心身障害児者)や家族で使える更衣室があるとよい、更衣の手伝いについてスタッフの声掛けがほしい(知的)という意見もあった。



(2) スポーツの観戦

① 現状

障害者等のこの 1 年間でのスポーツ観戦については、「テレビ、ラジオ、インターネット等で観戦したことがある」の割合が高く（69.0%）、「スタジアム・体育館などで実際に観戦したことがある」人は 14.4%、「沿道で実際に観戦したことがある」人は 2.3%にとどまっている。また、「観戦したことはない」という回答も 19.1%みられた。

障害別にみると、全ての障害で「テレビ、ラジオ、インターネット等で観戦したことがある」が 5 割以上で最も高い。一方、知的障害者は「観戦したことはない」（32.3%）が他の障害に比べて高くなっている。

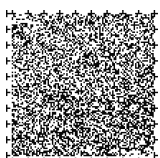
② 必要な支援

スポーツを観戦する上で必要な支援について、障害者等の回答は「スタジアム、体育館などの建物や設備のバリアフリー化」（22.0%）、「障害者に配慮した観戦席の充実」（21.7%）、「観戦料の減免」（20.2%）の順に割合が高かった。障害別では、身体障害者は「スタジアム、体育館などの建物や設備のバリアフリー化」が、知的障害者は「障害者に配慮した観戦席の充実」が、また身体障害者の中では聴覚障害者の「テレビ・インターネット等の文字情報、字幕の対応」が他の種別に比べて高い。

障害者団体の回答をみると、「スタジアム、体育館などの建物や設備のバリアフリー化」（47.8%、11 団体）、「障害者に配慮した観戦席の充実」（34.8%、8 団体）、「障害に対応した情報の提供や問合せ方法の充実」（34.8%、8 団体）の回答が多く、上位 2 つまでに挙げられた回答は障害者等と同じだった。

事業所の回答は「観戦料の減免」（46.5%）、「障害者に配慮した観戦席の充実」（41.6%）、「会場までの送迎」（38.8%）の順に割合が高かった。「障害者に配慮した観戦席の充実」については、障害者等、障害者団体、事業所のいずれも回答の割合が高かった。

また、障害者団体ヒアリングでは、スタジアムや体育館などの建物で、障害者等と介助者が隣で一緒に観戦できるようにしてほしい（肢体不自由）、スタッフが障害者等とのコミュニケーションに慣れてくれると有難い（聴覚）との意見がみられた。



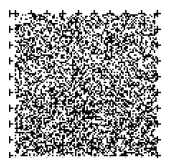
(3) 文化、芸術活動

① 現状

本調査に回答した障害者等 1,463 人のうち、この 1 年間に行った文化、芸術活動は「コンサートや映画、演劇などに行く」(41.9%)、「美術館、博物館などに行く」(30.4%)の割合が高い一方で、「特にない」人も 29.0%みられた。

障害者団体は「講演会、セミナー、各種講座を開催する」(52.2%、12 団体)、「講演会、セミナー、各種講座に参加する」(39.1%、9 団体)、事業所は「動物園や植物園、水族館などに行く」(47.1%)、「音楽活動をする」(34.9%)の割合が高かった。それぞれの障害者団体あるいは事業所で様々な取組を行っている様子がうかがえる一方で、障害者団体の 17.4% (4 団体)、事業所の 23.1%で「特にない」となっている。

障害者等の回答で最も多いコンサートや映画、演劇に関して、障害者団体、事業所のいずれも「コンサートや映画、演劇などを開催する」の割合は高くなく(障害者団体 17.4% (4 団体)、事業所 8.8%)、障害者等が個人で文化、芸術活動を楽しむ様子もみられた。



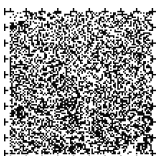
② 必要な支援

必要な支援について、障害者等の回答では「適切な指導者」が 16.8%、「施設の利用料減免」が 16.3%で、スポーツや運動と同様に指導者不足を挙げる意見がみられた。

障害別でみると必要な支援がやや異なり、身体障害者は「文化、芸術活動を行う施設のバリアフリー化」、「交通機関やまちのバリアフリー化」を、知的障害者は「障害にあわせたプログラムの充実」を、精神障害者は「施設の利用料減免」を、難病医療費助成者は「特になし」を、また身体障害種別の聴覚では「介助者や手話通訳などの支援」、「障害に対応した情報の提供や問合せ方法の充実」を、音声・言語・そしゃく機能では「介助者や手話通訳などの支援」を、上肢、下肢、体幹、脳原性運動機能では「文化、芸術活動を行う施設のバリアフリー化」、「交通機関やまちのバリアフリー化」を挙げる人の割合が高い。

障害者団体においては、「障害にあわせたプログラムの充実」(30.4%、7 団体)、「障害に対応した情報の提供や問合せ方法の充実」(30.4%、7 団体)の回答が多く、障害者等とはやや異なる傾向がみられた。事業所も障害者団体と同様に、「障害にあわせたプログラムの充実」32.4%の割合が最も高く、次いで「適切な指導者」が 30.2%だった。

また、障害者団体ヒアリングでは、障害者等と介助者 2 人分の入場料が必要となるため、経済的な負担が大きいとの意見がみられた(視覚)。大学の公開講座や地域において、障害者を対象とした講座があると参加しやすい(知的)、文化、芸術活動に関する発表の場が少ない(知的)、文化、芸術活動の取組に地域差がみられる(知的)という意見もあった。



(4) ボランティア活動

① 現状

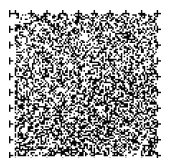
障害者等のうち、今までに何らかの分野のボランティア活動に参加したことがあるのは 31.5%、今後何らかの分野の活動に参加したい人の割合は 32.1%だった。

障害者等が参加したボランティアの内容は「イベント等の会場準備の手伝い」(12.4%)、「清掃」(10.9%)が上位に挙がっており、今後参加したいボランティアの内容も「イベント等の会場準備の手伝い」の割合が他の選択肢に比べて高かった(11.1%)。

障害別にみると、難病患者が何らかの活動に参加した割合が高く、特に「お祭り、町会・自治会などの地域の活動」で高くなっている。一方、知的障害者は「特にない」が他の障害に比べて高い。

ボランティア活動について、障害者団体の意向を尋ねたところ、「それぞれの当事者会員に任せたい」という障害者団体が多かった(65.2%、15 団体)。障害者団体として「積極的に支援したい」と回答したのは 1 団体のみで、支援に取り組む様子はあまりみられなかった。

事業所についても同様で、事業所としての考えは「それぞれの利用者に任せたい」の割合が最も高く 39.4%、「支援したいが難しい」が 20.8%であった。

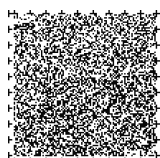


② 必要な支援

障害者等がボランティア活動をする上で必要な支援について、障害者等の回答は「特にない」を除くと、「ボランティア活動に関する情報提供の充実」(15.0%)、「一緒に行く仲間」(14.6%)、「障害に対応した情報の提供や問合せ方法の充実」(12.9%)の順に割合が高く、情報提供に関する内容が上位に挙げられた。また、障害別や身体障害種別では上位に挙げられている支援に大きな違いはみられなかった。

障害者団体、事業所の回答をみても「障害に対応した情報の提供や問合せ方法の充実」(障害者団体 39.1% (9 団体)、事業所 29.5%)、「ボランティア活動に関する情報提供の充実」(障害者団体 30.4% (7 団体)、事業所 38.6%)の回答が多い。

また、障害者団体ヒアリングでは、パソコンのスキルを身につけてボランティア活動をしたいと思っても、勉強できる環境が整っていないので、現状は活動できていないとの意見がみられた(聴覚)。やりたいものがあってもサポートが必要という課題があるという意見もあった(視覚)。



(5) 情報アクセシビリティについて

① 現状

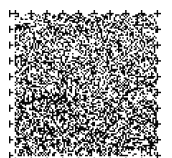
コミュニケーションや連絡の手段は、学校・施設・職場、家庭、その他の場所（駅やまちなど）のいずれにおいても、「携帯電話、スマートフォン、タブレット、パソコン」（学校・施設・職場 51.1%、家庭 60.8%、その他の場所 52.3%）や「メール」（学校・施設・職場 30.3%、家庭 34.9%、その他の場所 23.9%）の割合が高い。

② 必要な支援

情報アクセシビリティの観点から必要な支援は「必要な情報をわかりやすく説明してくれる人がほしい」（22.4%）、「誰もが読みやすい文字などを使用してほしい」（22.2%）等の配慮を求める障害者等の声が多く、誰もが分かりやすい情報提供が求められている。

障害別、身体障害種別にみると、視覚は「それぞれの障害者が情報入手できるようさまざまな媒体（音声、点字、テキストデータなど）で提供してほしい」、「誰もが読みやすい文字などを使用してほしい」が、聴覚は「問い合わせ先は電話番号だけでなく、ファックスやメールアドレスを載せてほしい」、「手話、筆談で対応できる人を増やしてほしい」が他の身体障害種別に比べて高い。知的障害者は「わかりやすい文言・表現・絵文字（ピクトグラム）を使用してほしい」が他の障害に比べて高い。

障害者団体からは「それぞれの障害者が情報入手できるようさまざまな媒体（音声、点字、テキストデータなど）で提供してほしい」（47.8%、11 団体）、「問い合わせ先は電話番号だけでなく、ファックスやメールアドレスを載せてほしい」（47.8%、11 団体）、事業所からは「わかりやすい文言・表現・絵文字（ピクトグラム）を使用してほしい」（50.9%）、「必要な情報をわかりやすく説明してくれる人がほしい」（47.3%）という意見が多かった。表現方法に配慮しつつ、様々な方法で情報提供を行い、かつ丁寧な説明を求める意見がみられた。



(6) 東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会について

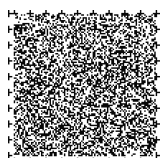
① 東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会への関心、関わり方

東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会については、障害者等の多くが関心をもっており（東京 2020 オリンピック 74.6%、東京 2020 パラリンピック 65.3%）、注目を集めていることが明らかになった。

具体的な関わり方については、「テレビ、ラジオ、インターネット配信等で観戦したい」（東京 2020 オリンピック 58.2%、東京 2020 パラリンピック 53.6%）、「スタジアム・体育館などで観戦したい」（東京 2020 オリンピック 31.6%、東京 2020 パラリンピック 22.5%）の順に割合が高くなっている。

一方、東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会への関わり方について障害者団体の回答をみると、「障害者団体として、スタジアム・体育館などで観戦したい」（東京 2020 オリンピック 69.6%、16 団体、東京 2020 パラリンピック 65.2%、15 団体）が「障害者団体として、テレビ、ラジオ、インターネット配信等で観戦したい」（東京 2020 オリンピック 30.4%、7 団体、東京 2020 パラリンピック 26.1%、6 団体）の回答を上回っている。

事業所の回答も同様に、「事業所として、スタジアム・体育館などで観戦したい」の割合が高く（東京 2020 オリンピック 52.4%、東京 2020 パラリンピック 51.5%）、次いで「事業所として、テレビ、ラジオ、インターネット配信等で観戦したい」（東京 2020 オリンピック 29.3%、東京 2020 パラリンピック 28.4%）の割合が高かった。障害者団体や事業所は、イベントや取組として東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会の観戦を企画する意向があることがうかがえる。

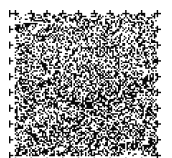


② ボランティアとしての参加

東京 2020 オリンピック、東京 2020 パラリンピックのいずれかに「ボランティアとして関わりたい」と回答した障害者等 163 人に、参加したいボランティア活動について尋ねたところ、「会場内での観客・大会関係者の誘導」(42.9%)、「チケットチェック等の入場管理」(41.7%)の割合が高かった。いずれの選択肢も、本調査の「今までに参加したことのあるボランティア活動内容」の設問で上位に挙げた「イベント等の会場準備の手伝い」に内容が近い。一度でも経験すると内容がイメージしやすく、参加意識が高まるものとみられる。障害別にみると、自立支援医療受給者や精神障害者は、「会場内での観客・大会関係者の誘導」など様々なボランティア活動への参加意向が高い。

障害者団体に、東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会へのボランティアとしての参加について尋ねたところ、「障害者団体として、ボランティアとして関わりたい」、「当事者会員がボランティアとして参加することを勧めたい」と回答した障害者団体は、23 団体のうち、東京 2020 オリンピック 5 団体、東京 2020 パラリンピック 7 団体にとどまった。参加したいボランティア活動は、東京 2020 オリンピック、東京 2020 パラリンピックのいずれも「競技会場の最寄駅から会場までの観客案内」(東京 2020 オリンピック 60.0%、3 団体、東京 2020 パラリンピック 42.9%、3 団体)、「選手村でのハウスキーピング等」(東京 2020 オリンピック 40.0%、2 団体、東京 2020 パラリンピック 42.9%、3 団体)の回答が多かった。

一方、事業所は、「事業所として、ボランティアとして関わりたい」、「利用者がボランティアとして参加することを勧めたい」と回答した事業所は、東京 2020 オリンピック 23.4%、東京 2020 パラリンピック 32.7%と障害者団体より参加意向が高い。参加したいボランティア活動は、東京 2020 オリンピック、東京 2020 パラリンピックのいずれも「選手村・会場内での清掃」(東京 2020 オリンピック 53.8%、東京 2020 パラリンピック 48.6%)、「選手村や会場の食堂での配膳」(東京 2020 オリンピック 46.2%、東京 2020 パラリンピック 42.5%)の割合が高く、より積極的な関わりを求めている。

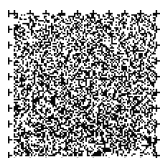


③ 必要な支援

東京 2020 オリンピック、東京 2020 パラリンピックのいずれかに「ボランティアとして関わりたい」と回答した障害者等 163 人に、ボランティアを行う際に必要な支援を尋ねたところ、「ボランティア活動に関する情報提供の充実」(52.1%)、「障害に対応した情報の提供や問合せ方法の充実」(39.9%)、「一緒に行く仲間」(34.4%)の順に割合が高かった。また、障害別や身体障害種別で上位に挙げられている支援に大きな違いはみられなかった。

障害者団体の回答は、東京 2020 オリンピックについては「障害に対応した情報の提供や問合せ方法の充実」、「ボランティア活動に関する情報提供の充実」、「介助者や手話通訳などの支援」と、「会場や選手村などの建物や設備」や「交通機関やまち」のバリアフリー化に関する支援、「一緒に行く仲間」がいずれも 60.0% (3 団体) と、幅広い回答が挙げられた。東京 2020 パラリンピックについては、「一緒に行く仲間」、「介助者や手話通訳などの支援」が 71.4% (5 団体) だった。事業所の回答で最も割合が高かったのは「ボランティア活動に関する情報提供の充実」(東京 2020 オリンピック 57.7%、東京 2020 パラリンピック 58.2%) で、次いで「活動の場までの送迎」が東京 2020 オリンピック 51.9%、東京 2020 パラリンピック 50.7% だった。

本調査の「障害者等がボランティア活動をする上で必要な支援」で挙げられた回答と同様に、情報提供に関する支援を求める回答が多く、情報提供の取組を進めることが障害者等のボランティアへの参加促進、支援のポイントになることが明らかになった。



2 企業の回答の特徴

(1) 障害者を主な対象やテーマとしたイベントやプログラム

企業においては、81社の51.9%（42社）が障害者を主な対象やテーマとしたイベントやプログラムを実施しており、その42社のうち「障害者のスポーツ活動を支援するもの」が61.9%（26社）、「障害者と健常者が一緒に芸術活動、スポーツ活動をするもの」が50.0%（21社）であった。また、文化、芸術活動では、少数ではあるが「障害者の芸術活動を支援する」イベントやプログラムを実施する企業がみられる（42社中26.2%、11社）。一部の企業ではあるが、障害者がスポーツや芸術活動を行う機会の提供が行われている。

障害者を主な対象やテーマとしたイベントやプログラムを実施したことにより、どのような効果があったかについて、「社員の障害者に対する理解が深まった」の割合が最も高く81.0%（34社）となっている。次いで、「障害者のニーズが把握できた」が54.8%（23社）となっている。

ただし、参加した障害者の障害種別は、身体障害者（85.7%、36社）、知的障害者（59.5%、25社）が多く、精神障害者（28.6%、12社）、難病（11.9%、5社）は比較的少ない。

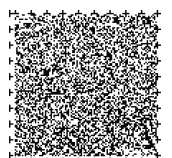
また、「参加する障害者が少ない」（23.5%）、「イベントやプログラムの効果的な周知方法がわからない」（22.2%）、「障害に配慮した運営が難しい」（21.0%）、「イベントやプログラムの内容が障害者のニーズに合っているかわからない」（19.8%）といった課題が挙げられている。

企業における障害者のボランティア活動を支援する動きは活発でなく、障害者を主な対象やテーマとしたイベントやプログラムで「障害者のボランティア活動を支援するもの」を実施した企業は1社のみだった（42社中、2.4%）。この1年間で回答企業が実施したイベントやプログラム（障害者を主なテーマとしたものも、そうでないものも含む。）で障害者がボランティアとして関わった実績がある企業の割合も13.6%であった。

(2) 東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会のために取り組んでいること

東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会への障害者参画のため、企業が現在取り組んでいることについては、「障害者スポーツの支援」（53.1%）、「障害者に対する理解を促進する取組」（38.3%）の順に割合が高く、今後協力したい取組も同様であった。

障害者スポーツの競技やアスリート等への支援への関心については、約7割の企業が関心を持っており（関心がある59.3%、やや関心がある11.1%）、東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会、障害者スポーツに対する企業の関心の高さが明らかになった。



3 今後の取組に向けて

(1) 障害者等と企業等とのニーズのマッチング

今回の調査では、障害者等の 68.9%がこの 1 年間にスポーツや運動を行っている一方、必要な支援として、「適切な指導者」(25.5%)、「一緒に行う仲間」(19.5%) 等が比較的多く挙げられた。

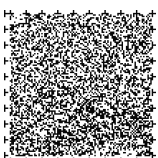
また、この 1 年間に文化、芸術活動を行っていない人が 29.0%、今までに何らかのボランティア活動に参加したことがある人が 31.5%と、文化、芸術活動、ボランティア活動の機会も十分でない。

企業調査の結果をみると、51.9% (42 社) が、障害者を主な対象やテーマとして実施したイベントを実施しているものの、「参加する障害者が少ない」(23.5%)、「イベントやプログラムの効果的な周知方法がわからない」(22.2%)、「障害に配慮した運営が難しい」(21.0%)、「イベントやプログラムの内容が障害者のニーズに合っているか分からない」(19.8%) といった課題が挙げられている。一方、障害者を主な対象やテーマとしたイベントやプログラムを実施した企業の 81.0%が、実施の効果として「社員の障害者に対する理解が深まった」と回答しており、こうした取組が障害者等への理解を深め、社会参加を促進するために有効であることが推察される。

このような現状を踏まえ、今後、障害者等がスポーツや運動、文化、芸術活動、及びボランティア活動を行う機会を増やし、障害者等の社会参加を促進するためには、障害者等及び障害者団体、事業所と企業をつなぎ、それぞれの担当者がそれぞれのニーズや課題を伝え合い、情報交換をしたり、助言をし合ったりできる関係を構築することは有効である。そのために、関係者が定期的に集まる機会（例：連絡会の開催）を設けること、またその場を活用して、障害者等及び障害者団体、事業所のニーズ、及び企業が障害者支援に関する CSR 活動を進める上で抱えている課題や必要としている助言を丁寧に取り出し、つないでいくことが重要である。

また、企業が、障害者等のスポーツや運動、文化、芸術活動、あるいはボランティア活動を支援したいと考えたとしても、実施内容や手順について参考になる情報がないために、取組を始められないことが考えられる。また、既に取組を進めている企業にとっても、他企業の取組を知ることは今後の戦略を策定する上で有用なことで考えられる。

そこで、先進事例を収集し、ホームページ等で公開することによって、先進的に取り組む企業を評価するとともに、情報提供を図ることや、セミナーや研修の開催により、これから取組を始める企業にノウハウを提供する方法も考えられる。

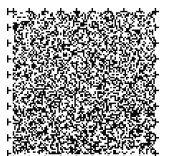


(2) 指導者の育成・マッチング

障害者等がスポーツや運動を行う際に必要な支援として、障害者等、障害者団体、事業所のいずれからも「適切な指導者」を求める回答が多かった。現在は、障害者団体や事業所の職員や家族が指導を行っている例が多く、有資格者が指導している例は少なかった。

同様の傾向が文化、芸術活動についてもみられ、障害者等の余暇やスポーツ活動全般において指導者不足の傾向がみられる。

安全面及び指導の質の面の両方から、適切な指導者は欠かせない。一部の競技性の高いスポーツや専門的な文化、芸術だけでなく、障害者等が身近な地域で気軽にスポーツや運動、文化、芸術活動を楽しめるよう、指導者の育成、確保に努め、障害者団体や事業所に紹介する仕組みを設けることが求められる。具体的には、スポーツの競技団体や大学、芸術家の団体、あるいは企業に周知を図り、より障害者等への関心を高める取組が必要である。



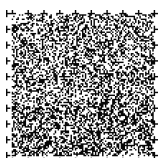
(3) ボランティアに関する情報提供等

これまで何らかのボランティア活動に参加したことのある障害者等は 31.5%で、今後何らかのボランティア活動に参加したい障害者等も同程度の割合であった (32.1%)。東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会で「ボランティアとして関わりたい」と回答した障害者等の割合は約 1 割 (東京 2020 オリンピック 10.0%、東京 2020 パラリンピック 9.6%) にとどまったが、背景には、これまでに経験のないイベントでかつ実施までに期間があること、どのようなボランティアができるのか分からないなど具体的なイメージがわからないこと等があることも考えられる。

ボランティアの内容については、これまでの経験も今後の参加意向についても、イベントの準備関係を挙げる障害者等が多く、一度経験したものを思い浮かべ、再度やってみたいと思う傾向がみられた。

また、必要な支援としては、情報提供を求める意見が多い。誰にでも分かりやすい表現方法に配慮しつつ、様々なボランティア活動の情報を提供すれば、経験のない活動内容も含めて関心が高まり、障害者等によるボランティア活動が広まると考えられる。

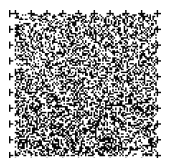
他方、現在のところ、障害者団体や事業所は、ボランティアに参加する当事者を支援することは行うが、障害者団体として、あるいは事業所としての取組には積極的ではない。また、企業の取組に障害者等がボランティアとして参加することも少ない。今後、企業、あるいは障害者団体や事業所に、障害者等のボランティア活動に関する理解を求める取組や、ボランティア活動に参加する際の支援 (例：会場までの送迎等) の検討が求められる。

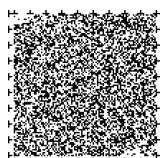


(4) 情報提供の充実

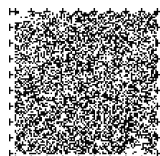
障害者等の活動全般について、また特にボランティア活動について、情報提供の充実を求める意見が多い。最近ではインターネットを用いる人も増えているが、具体的な情報入手先はまだテレビ等が多く、通信手段としてファックスを求める回答も多い。

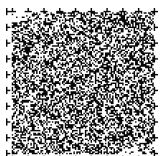
また、コミュニケーションの手段は障害の種別によって多様であり、平成 28 年 4 月に施行された障害者差別解消法も踏まえ、誰もが必要な情報にアクセスできるよう、多様な障害にあわせた情報提供の方法を都度検討するとともに、様々な場面で誰もが分かりやすい説明を心がけることが重要である。





第 3 付属資料





障害者の余暇やボランティア・スポーツ活動に関するアンケート

全員にお聞きします

問1 このアンケートに記入いただくのはどなたですか。(当てはまるもの1つに○) N=1,463

1. 本人	72.7 (1063)	3. 施設・病院職員	0.8 (12)
2. 家族・保護者	25.3 (370)	4. その他 ()	0.7 (10)
		無回答	0.5 (8)

※以下、「あなた」とは宛名の方のことをいいます。

問2 あなたの年齢は何歳ですか。(平成28年7月1日時点) N=1,463

歳	10代	1.8 (27)	50代	12.9 (189)
	20代	12.6 (185)	60代	17.0 (248)
	30代	12.0 (176)	70代	18.4 (269)
	40代	13.1 (191)	80代以上	11.6 (170)
			無回答	0.5 (8)

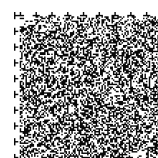
問3 あなたの生活の場はどこですか。(当てはまるもの1つに○) N=1,463

1. 自宅	90.6 (1326)	4. 病院	1.2 (18)
2. グループホーム	1.4 (20)	5. その他 ()	2.4 (35)
3. 施設	4.0 (59)	無回答	0.3 (5)

問4 あなたは現在、だれと一緒に生活していますか。(当てはまるものすべてに○)

N=1,463

1. 親	28.3 (414)	5. その他の親族	3.1 (46)
2. 配偶者 (夫、妻)	41.1 (601)	6. 一人で暮らしている	17.8 (260)
3. 子供	24.1 (352)	7. その他 ()	6.2 (91)
4. 兄弟姉妹	11.7 (171)	無回答	0.8 (12)



スポーツや運動についてお聞きします

問5 あなたは、この1年間にスポーツや運動を行いましたか。(当てはまるものすべてに○)

※学校の体育の授業として行ったものや、職業として行ったものは除きます。

N=1,463

1. ウォーキング、散歩(散策、ペットの散歩など)	54.7 (800)
2. 体操(ラジオ体操、職場体操、ストレッチ、エアロビクス、ヨガ、ピラティス、縄跳びなど)	29.9 (437)
3. 室内運動器具(ウエイト器具、ランニングマシン、バランスボールなど)を用いる運動	15.4 (225)
4. 陸上競技(ランニング、ジョギングなどの軽い運動も含めます)	4.6 (68)
5. 水泳・遊泳(水中歩行・水中運動)	10.6 (155)
6. 球技(キャッチボールなどのボールを使った軽い運動も含めます)	7.3 (107)
7. ダンス(フォークダンス、ジャズダンス、社交ダンス、フラダンス、バレエ、民謡踊りなど)	4.5 (66)
8. 格闘技(ボクシング、レスリング、相撲など)	0.1 (2)
9. 武道(柔道、剣道、空手、合気道など)	0.3 (4)
10. 射的(弓道、アーチェリー、ダーツ、スポーツ吹矢など)	0.8 (12)
11. ウィンタースポーツ(スキー、スノーボード、スケートなど)	2.1 (30)
12. ウォータースポーツ(ボート、ヨット、スキndaイビング、スクーバダイビング、カヌー、水上バイク、サーフィン、ウィンドサーフィン、ボディボード、ボードセーリングなど)	0.8 (11)
13. スカイスポーツ(ハングライダー、パラグライダー、スカイダイビングなど)	0.0 (0)
14. アウトドアスポーツ(ハイキング、ワンダーフォーゲル、釣り、登山、キャンプなど)	4.9 (72)
15. サイクリング、モーター(サイクル)スポーツ	3.8 (55)
16. ブラインドサッカー	0.0 (0)
17. 車いすテニス	0.0 (0)
18. サウンドテーブルテニス	0.1 (2)
19. シットティングバレーボール	0.1 (1)

20. 車椅子バスケットボール	0.0 (0)
21. ウィルチェアーラグビー (車いすラグビー)	0.0 (0)
22. ボッチャ	0.8 (11)
23. その他 (具体的に:)	5.7 (84)
24. 特にない ⇒ 問10へ	29.5 (431)
無回答	1.6 (24)

→ 問5で何らかのスポーツや運動を行ったことがあると回答した方にお聞きします。

問6 スポーツや運動を行った日はどのくらいですか。(当てはまるもの1つに○) N=1,008

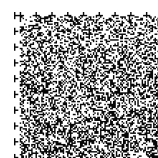
1. 週3日以上	36.5 (368)	5. 3か月に1,2日程度(年に4~11日)	3.8 (38)
2. 週2日程度	20.6 (208)	6. 年に1~3日程度	2.9 (29)
3. 週1日程度	16.3 (164)	7. わからない	2.1 (21)
4. 月に1~3日程度	13.3 (134)	無回答	4.6 (46)

→ 問5で何らかのスポーツや運動を行ったことがあると回答した方にお聞きします。

問7 あなたが、スポーツや運動を行った場所はどこですか。(当てはまるものすべてに○)

N=1,008

1. 自宅	28.9 (291)	8. 特別支援学校の体育施設	2.4 (24)
2. 道路や遊歩道	50.9 (513)	9. 職場のスポーツ施設	1.1 (11)
3. 広場や公園	24.5 (247)	10. 福祉施設	10.9 (110)
4. 民間のスポーツ施設	13.6 (137)	11. 医療機関	2.2 (22)
5. 公共のスポーツ施設	5.8 (58)	12. 山・川・海	8.2 (83)
(障害者専用施設)		13. その他 (具体的に:)	7.5 (76)
6. 公共のスポーツ施設	14.5 (146)	14. わからない	0.3 (3)
(障害者専用施設以外)		無回答	4.3 (43)
7. 公立小中学校の体育施設	3.0 (30)		



問5 で何らかのスポーツや運動を行ったことがあると回答した方にお聞きします。

問8 あなたがスポーツや運動と一緒にするのは誰ですか。(当てはまるものすべてに○)

N=1,008

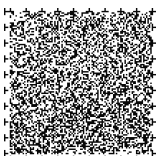
1. 一人	55.3 (557)	8. 障害がある人やない人など	6.3 (64)
2. 家族	31.6 (319)	さまざまな人がいるサークルの	
3. 福祉施設の職員・仲間	14.5 (146)	仲間	
4. スポーツ教室の指導者・仲間	7.9 (80)	9. ボランティアの人たち	3.2 (32)
5. 地域の公共スポーツ施設の職員・仲間	2.4 (24)	10. 学校の先生や学校の友達	1.3 (13)
6. 障害者専用スポーツ施設の職員・仲間	1.6 (16)	11. その他の友人・知人	12.9 (130)
7. 障害がある人のサークル・障害者スポーツのサークル等の仲間	7.1 (72)	12. その他(具体的に:)	5.5 (55)
		13. わからない	0.2 (2)
		無回答	3.9 (39)

問5 で何らかのスポーツや運動を行ったことがあると回答した方にお聞きします。

問9 あなたが、スポーツや運動をしたのはどのような理由からですか。(当てはまるものすべてに○)

N=1,008

1. 健康・体力づくりのため	67.1 (676)	7. 家族のふれあいのため	9.3 (94)
2. 楽しみや気晴らしのため	45.1 (455)	8. 友人・仲間との交流のため	20.3 (205)
3. 運動不足解消のため	53.9 (543)	9. 美容や肥満解消のため	11.9 (120)
4. 精神の修養や訓練のため	4.8 (48)	10. 障害者スポーツ大会に参加するため	2.7 (27)
5. 自己の記録や能力を向上させるため	3.3 (33)	11. その他(具体的に:)	4.1 (41)
6. リハビリテーションや医療・治療のため	16.1 (162)	12. わからない	0.8 (8)
		無回答	5.2 (52)

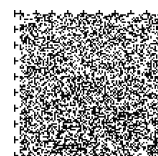


問5で「24. 特にない（スポーツや運動を行っていない）」と回答した方にお聞きします。

問10 あなたが、スポーツや運動を行っていないのはどのような理由からですか。（当てはまるものすべてに○）

N=431

1. 活動したいが、身体的にできない	50.8 (219)	4. 活動したいが、一緒にやる人がいない	8.6 (37)
2. 活動したいが、身近なところにスポーツや運動がやれる場所がない	7.9 (34)	5. 活動したいが、時間がない	10.0 (43)
3. 活動したいが、自分に合ったスポーツや運動の情報がない	9.5 (41)	6. その他（ ）	10.2 (44)
		7. 活動したいと思わない	20.9 (90)
		無回答	2.6 (11)



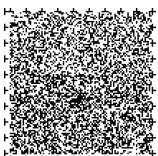
ぜんいん
全員にお聞きします。

問11 あなたは、今後、行いたいスポーツや運動はありますか。(当てはまるものすべてに)

○) ※学校の体育の授業として行ったものや、職業として行ったものは除きます。

N=1,463

1. ウォーキング、散歩(散策、ペットの散歩など)	49.6 (725)
2. 体操(ラジオ体操、職場体操、ストレッチ、エアロビクス、ヨガ、ピラティス、縄跳びなど)	28.2 (412)
3. 室内運動器具(ウエイト器具、ランニングマシン、バランスボールなど)を用いる運動	16.2 (237)
4. 陸上競技(ランニング、ジョギングなどの軽い運動も含めます)	5.9 (86)
5. 水泳・遊泳(水中歩行・水中運動)	21.8 (319)
6. 球技(キャッチボールなどのボールを使った軽い運動も含めます)	9.7 (142)
7. ダンス(フォークダンス、ジャズダンス、社交ダンス、フラダンス、バレエ、民謡踊りなど)	9.2 (135)
8. 格闘技(ボクシング、レスリング、相撲など)	1.6 (23)
9. 武道(柔道、剣道、空手、合気道など)	3.0 (44)
10. 射的(弓道、アーチェリー、ダーツ、スポーツ吹矢など)	4.3 (63)
11. ウィンタースポーツ(スキー、スノーボード、スケートなど)	5.9 (86)
12. ウォータースポーツ(ボート、ヨット、スキndaイビング、スクーバダイビング、カヌー、水上バイク、サーフィン、ウィンドサーフィン、ボディボード、ボードセーリングなど)	4.1 (60)
13. スカイスポーツ(ハングライダー、パラグライダー、スカイダイビングなど)	1.8 (27)
14. アウトドアスポーツ(ハイキング、ワンダーフォーゲル、釣り、登山、キャンプなど)	9.7 (142)
15. サイクリング、モーター(サイクル)スポーツ	5.5 (81)
16. ブラインドサッカー	0.1 (2)
17. 車いすテニス	0.1 (2)
18. サウンドテーブルテニス	0.4 (6)
19. シットティングバレーボール	0.1 (1)



20. 車椅子バスケットボール	0.1 (2)
21. ウィルチェアーラグビー (車いすラグビー)	0.0 (0)
22. ボッチャ	1.4 (21)
23. その他 (具体的に:)	3.8 (56)
24. 特にない	19.3 (283)
無回答	6.2 (91)

問12 スポーツや運動を行う際に必要な支援は何ですか。(当てはまるもの3つまでに○)

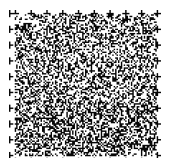
N=1,463

1. スタジアム、体育館などの建物や設備のバリアフリー化	14.1 (207)	9. 障害や障害者、補助犬(盲導犬、介助犬、聴導犬)などに対する理解促進	6.4 (94)
2. 交通機関やまちのバリアフリー化	13.0 (190)	10. 適切な指導者	25.5 (373)
3. 会場までの送迎	14.9 (218)	11. 一緒に行う仲間	19.5 (286)
4. 障害者への施設開放の促進	9.7 (142)	12. スポーツ用具等の貸出	5.9 (86)
5. 障害にあわせたプログラムの充実	14.6 (213)	13. 施設の利用料減免	14.3 (209)
6. 介助者や手話通訳などの支援	6.3 (92)	14. その他 ()	2.2 (32)
7. 障害に対応した情報の提供や問合せ方法の充実	12.4 (182)	15. 特にない	16.7 (245)
8. 施設や用具等を利用する際に必要な手続きの支援	5.9 (86)	16. 活動したいと思わない	3.3 (48)
		17. わからない	5.9 (87)
		無回答	10.3 (150)

問13 あなたは、この1年間にスポーツを観戦しましたか。(当てはまるものすべてに○)

N=1,463

1. スタジアム・体育館などで実際に観戦したことがある	14.4 (211)
2. 沿道で実際に観戦したことがある	2.3 (33)
3. テレビ、ラジオ、インターネット等で観戦したことがある	69.0 (1010)
4. その他 (具体的に:)	1.7 (25)
5. 観戦したことはない	19.1 (280)
6. わからない	2.4 (35)
無回答	4.9 (71)



問14 スポーツを観戦する上で必要な支援は何ですか。(当てはまるもの3つまでに○)

N=1,463

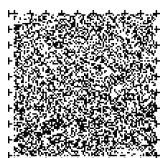
1. スタジアム、体育館などの建物や設備のバリアフリー化	22.0 (322)	8. 障害に対応した情報の提供や問合せ方法の充実	9.6 (140)
2. 交通機関やまちのバリアフリー化	16.5 (241)	9. 障害や障害者、補助犬(盲導犬、介助犬、聴導犬)などに対する	7.4 (108)
3. 会場までの送迎	16.2 (237)	理解促進	
4. 障害者に配慮した観戦席の充実	21.7 (317)	10. 一緒に観戦する仲間	11.6 (170)
5. 介助者や手話通訳などの支援	5.3 (78)	11. 観戦料の減免	20.2 (295)
6. テレビ・インターネット等の文字情報、字幕の対応	9.2 (135)	12. その他 ()	1.2 (18)
7. 情報機器操作の支援	1.5 (22)	13. 特にない	18.9 (277)
		14. 観戦したいと思わない	5.2 (76)
		15. わからない	5.2 (76)
		無回答	10.0 (147)

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会についてお聞きします

問15 あなたは、東京2020大会に関心がありますか。(オリンピックとパラリンピックのそれぞれについて、当てはまるもの1つに○)

N=1,463

① 東京2020 オリンピック	1. 関心がある	53.1 (777)	3. あまり関心がない	11.6 (170)
	2. やや関心がある	21.5 (315)	4. 関心がない	9.3 (136)
			無回答	4.4 (65)
② 東京2020 パラリンピック	1. 関心がある	38.6 (565)	3. あまり関心がない	15.9 (233)
	2. やや関心がある	26.7 (391)	4. 関心がない	11.2 (164)
			無回答	7.5 (110)



問16 あなたは、東京2020大会に何らかの形で関わりたいと思いますか。(オリンピックとパラリンピックのそれぞれについて、当てはまるものすべてに○)

N=1,463

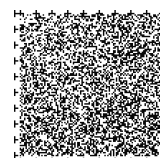
① 東京2020 オリンピック	1. スタジアム・体育館などで観戦したい	31.6 (462)
	2. 沿道で観戦したい	9.3 (136)
	3. テレビ、ラジオ、インターネット配信等で観戦したい	58.2 (852)
	4. ボランティアとして関わりたい	10.0 (147)
	5. 関わりたいと思わない	10.8 (158)
	6. その他 ()	2.3 (33)
	7. わからない 無回答	6.2 (91) 6.2 (90)
② 東京2020 パラリンピック	1. スタジアム・体育館などで観戦したい	22.5 (329)
	2. 沿道で観戦したい	8.1 (118)
	3. テレビ、ラジオ、インターネット配信等で観戦したい	53.6 (784)
	4. ボランティアとして関わりたい	9.6 (141)
	5. 関わりたいと思わない	12.9 (189)
	6. その他 ()	2.4 (35)
	7. わからない 無回答	8.7 (128) 8.5 (125)

問16で「4. ボランティアとして関わりたい」と回答した方にお聞きます。

問17 どのようなボランティアとして参加したいですか。(当てはまるものすべてに○)

N=163

1. 国内外からの旅行者への 観光・交通案内	30.7 (50)	5. 警備	10.4 (17)
2. 競技会場の最寄駅から会場 までの観客案内	27.0 (44)	6. 選手村でのハウスキーピング等	17.2 (28)
3. 会場内での観客・大会 関係者の誘導	42.9 (70)	7. 選手村や会場の食堂での配膳	33.7 (55)
4. チケットチェック等の入場 管理	41.7 (68)	8. 選手村・会場内での清掃	28.2 (46)
		9. その他 ()	4.3 (7)
		無回答	5.5 (9)

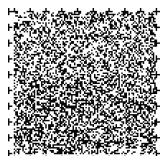


→ 問16で「4. ボランティアとして関わりたい」と回答した方にお聞きします。

問18 ボランティアを行う際に必要な支援は何ですか。(当てはまるものすべてに○)

N=163

1. 会場や選手村などの建物や設備 のバリアフリー化	28.8 (47)	7. 障害や障害者、補助犬(盲導犬、 介助犬、聴導犬)などに対する 理解促進	20.2 (33)
2. 交通機関やまちのバリアフリー化	25.2 (41)		
3. 活動の場までの送迎	23.3 (38)	8. 一緒に行く仲間	34.4 (56)
4. 介助者や手話通訳などの支援	18.4 (30)	9. ボランティア活動に関する情報	52.1 (85)
5. 障害に対応した情報の提供や 問合せ方法の充実	39.9 (65)	提供の充実	
6. 施設等を利用する際に必要な手続 きの支援	22.1 (36)	10. その他 ()	3.7 (6)
		11. 特にない	8.0 (13)
		12. わからない	2.5 (4)
		無回答	5.5 (9)



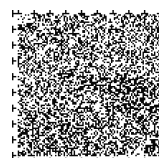
ぶんか げいじゅつかつどう き
文化、芸術活動についてお聞きします

とひ ねんかん ぶんか げいじゅつかつどう こんごかつどう
問19 この1年間にあなたは、文化、芸術活動をしましたか。また、今後活動したいものはありますか。(それぞれについて、当てはまるものすべてに○)

※ここでの活動には、スポーツとボランティアは含みません。

N=1,463

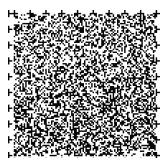
<p>① この1年間に した活動</p>	<p>1. コンサートや映画、演劇などに行く 41.9 (613)</p> <p>2. 美術館、博物館などに行く (館外で開催される美術展、 展覧会なども含む) 30.4 (445)</p> <p>3. 動物園や植物園、水族館などに行く 29.2 (427)</p> <p>4. 音楽活動をする (歌や楽器の演奏など) 12.0 (176)</p> <p>5. 美術などの創作活動をする (絵画、彫刻、陶芸、書道、 華道など) 8.4 (123)</p> <p>6. 文芸活動をする (短歌・俳句、詩作、小説、評論など) 2.8 (41)</p> <p>7. 講演会、セミナー、各種講座に参加する 10.2 (149)</p> <p>8. 伝統文化などの活動をする (伝統芸能、茶道など) 2.3 (33)</p> <p>9. その他 () 3.2 (47)</p> <p>10. 特にない 29.0 (424)</p> <p>無回答 8.0 (117)</p>
<p>② 今後したい活動</p>	<p>1. コンサートや映画、演劇などに行く 49.6 (725)</p> <p>2. 美術館、博物館などに行く (館外で開催される美術展、 展覧会なども含む) 35.5 (519)</p> <p>3. 動物園や植物園、水族館などに行く 36.0 (526)</p> <p>4. 音楽活動をする (歌や楽器の演奏など) 17.6 (258)</p> <p>5. 美術などの創作活動をする (絵画、彫刻、陶芸、書道、 華道など) 15.9 (232)</p> <p>6. 文芸活動をする (短歌・俳句、詩作、小説、評論など) 5.9 (86)</p> <p>7. 講演会、セミナー、各種講座に参加する 14.6 (213)</p> <p>8. 伝統文化などの活動をする (伝統芸能、茶道など) 6.8 (100)</p> <p>9. その他 () 2.4 (35)</p> <p>10. 特にない 21.7 (318)</p> <p>無回答 7.4 (108)</p>



問20 あなたが文化、芸術活動をする上で、必要な支援は何ですか。(当てはまるもの3つまでに○)

N=1,463

1. 文化、芸術活動を行う施設の バリアフリー化	15.2 (222)	9. 障害や障害者、補助犬 (盲導犬、介助犬、聴導犬) などに対する理解促進	4.7 (69)
2. 交通機関やまちのバリアフリー化	14.8 (217)	10. 適切な指導者	16.8 (246)
3. 活動の場までの送迎	14.1 (207)	11. 一緒に行く仲間	15.2 (223)
4. 活動できる場の充実	13.3 (194)	12. 用具等の貸出	4.0 (58)
5. 障害にあわせたプログラムの 充実	12.9 (188)	13. 施設の利用料減免	16.3 (238)
6. 介助者や手話通訳などの支援	6.8 (100)	14. その他 ()	1.8 (27)
7. 障害に対応した情報の提供や 問合せ方法の充実	11.2 (164)	15. 特にない	19.5 (286)
8. 施設や用具等を利用する際に必要 な手続きの支援	4.6 (67)	16. 活動したいと思わない	4.3 (63)
		17. わからない	7.5 (109)
		無回答	10.7 (157)

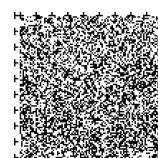


あなたが 行 うボランティア活動についてお聞きします

問21 あなたは、今までにどのような分野のボランティア活動に参加したことがありますか。また、今後参加したい分野はありますか。(それぞれについて、当てはまるものすべてに○)

N=1,463

<p>① <u>今まで参加した</u> <u>活動分野</u></p>	<p>1. 障害者、高齢者等の支援などの福祉、医療に関する活動 9.0 (131)</p> <p>2. 講演会、教室・学習会、展覧会等の企画・運営、手伝いなどの教育、文化に関する活動 8.0 (117)</p> <p>3. スポーツ大会などのスポーツ、運動に関する活動 5.0 (73)</p> <p>4. お祭り、町会・自治会などの地域の活動 17.0 (248)</p> <p>5. 企業の商品やサービスの開発・販売促進への協力 1.7 (25)</p> <p>6. その他 () 4.0 (58)</p> <p>7. 特にない 54.3 (795)</p> <p>無回答 14.1 (207)</p>
<p>② <u>今後参加したい</u> <u>活動分野</u></p>	<p>1. 障害者、高齢者等の支援などの福祉、医療に関する活動 12.4 (182)</p> <p>2. 講演会、教室・学習会、展覧会等の企画・運営、手伝いなどの教育、文化に関する活動 10.3 (150)</p> <p>3. スポーツ大会などのスポーツ、運動に関する活動 8.5 (124)</p> <p>4. お祭り、町会・自治会などの地域の活動 13.1 (191)</p> <p>5. 企業の商品やサービスの開発・販売促進への協力 5.9 (86)</p> <p>6. その他 () 2.3 (33)</p> <p>7. 特にない 52.4 (767)</p> <p>無回答 15.5 (227)</p>

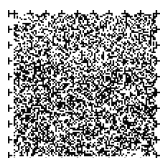


問22 あなたは、^{いま}今までにどのようなボランティア活動に^{かつどう}参加したことがありますか。

また、^{こんごさんか}今後参加したい活動はありますか。(それぞれについて、^あ当てはまるものすべてに○)

N=1,463

<p>① ^{いま}今まで参加した^{さんか}活動^{かつどう}</p>	<p>1. ^{うけつけ}受付・^{あんない}案内 9.6 (141)</p> <p>2. ^{かつどう}活動の^{しどう}指導、^{てつだ}手伝い 10.6 (155)</p> <p>3. イベント等の会^{とう}場^{かいじょうじゅんぴ}準備の手伝い^{てつだ} 12.4 (182)</p> <p>4. ^{せいそう}清掃 10.9 (159)</p> <p>5. ^{いどう}移動や身の回りの^み介助などの手伝い^{かいじょ} ^{てつだ} 3.3 (49)</p> <p>6. ^{しゅわ}手話などコミュニケーションの手伝い^{てつだ} 1.3 (19)</p> <p>7. ^{はな}話し相手、^{あそ}遊び相手、^{あいて}学習支援^{がくしゅうしえん} 6.4 (93)</p> <p>8. その他 () 3.5 (51)</p> <p>9. ^{とく}特にない 56.2 (822)</p> <p>^{むかいとう}無回答 12.6 (185)</p>
<p>② ^{こんごさんか}今後参加したい^{さんか}活動^{かつどう}</p>	<p>1. ^{うけつけ}受付・^{あんない}案内 10.2 (149)</p> <p>2. ^{かつどう}活動の^{しどう}指導、^{てつだ}手伝い 9.6 (140)</p> <p>3. イベント等の会^{とう}場^{かいじょうじゅんぴ}準備の手伝い^{てつだ} 11.1 (163)</p> <p>4. ^{せいそう}清掃 7.4 (108)</p> <p>5. ^{いどう}移動や身の回りの^み介助などの手伝い^{かいじょ} ^{てつだ} 4.2 (61)</p> <p>6. ^{しゅわ}手話などコミュニケーションの手伝い^{てつだ} 3.4 (50)</p> <p>7. ^{はな}話し相手、^{あそ}遊び相手、^{あいて}学習支援^{がくしゅうしえん} 10.0 (146)</p> <p>8. その他 () 2.8 (41)</p> <p>9. ^{とく}特にない 54.3 (795)</p> <p>^{むかいとう}無回答 14.4 (210)</p>



問23 あなたがボランティア活動をする上で、必要な支援は何ですか。(当てはまるもの3つまでに○)

N=1,463

1. 活動場所のバリアフリー化	9.2 (135)	7. 障害や障害者、補助犬(盲導犬、	5.3 (77)
2. 交通機関やまちのバリアフリー化	9.5 (139)	介助犬、聴導犬) などに対する	
3. 活動の場までの送迎	11.1 (162)	理解促進	
4. 介助者や手話通訳などの支援	4.6 (68)	8. 一緒に行く仲間	14.6 (214)
5. 障害に対応した情報の提供や	12.9 (189)	9. ボランティア活動に関する情報	15.0 (220)
問合せ方法の充実		提供の充実	
6. 施設等を利用する際に必要な手続きの支援	6.2 (90)	10. その他 ()	2.4 (35)
		11. 特にな	18.5 (270)
		12. 活動したいと思わない	11.0 (161)
		13. わからない	13.2 (193)
		無回答	17.2 (252)

インターネットの利用やコミュニケーションについてお聞きします

問24 あなたは、インターネットを利用していますか。(当てはまるもの1つに○)

N=1,463

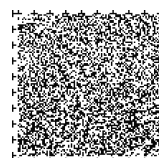
1. 利用している	49.9 (730)	3. わからない	2.3 (34)
2. 利用していない	42.0 (615)	無回答	5.7 (84)

問24で「1. 利用している」を選んだ方にお聞きします。

問25 あなたは、どのようなものでインターネットを利用していますか。(当てはまるものすべてに○)

N=730

1. パソコン	78.8 (575)	4. スマートフォン	60.8 (444)
2. タブレット	27.0 (197)	5. その他 ()	1.1 (8)
3. 携帯電話	19.0 (139)	6. わからない	1.5 (11)
		無回答	0.4 (3)



ぜんいん き
全員にお聞きします。

問26 あなたは、日ごろ、どこから情報を得ていますか。(当てはまるものすべてに○)

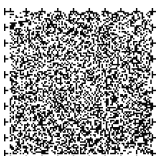
N=1,463

1. 家族や友人	57.0 (834)	7. 障害者団体の会合や機関誌	7.4 (108)
2. 学校や職場、施設の人	26.2 (383)	8. インターネット	40.9 (599)
3. ボランティア、ヘルパーなどの支援者	8.0 (117)	9. SNS (ツイッター、フェイスブックなど)	12.1 (177)
4. テレビやラジオ	72.0 (1054)	10. 行政の窓口	6.0 (88)
5. 新聞	42.2 (617)	11. その他 ()	1.8 (26)
6. 区市町村等の広報紙	31.3 (458)	12. わからない	2.0 (29)
		無回答	5.6 (82)

問27 あなたが、「学校・施設・職場」「家庭」「その他の場所」のそれぞれの場所において使っている、コミュニケーションや連絡の手段はどれですか。(それぞれの場所について、当てはまるものすべてに○)

N=1,463

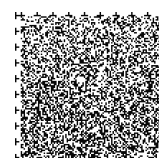
① 学校・施設・職場	1. 携帯電話、スマートフォン、タブレット、パソコン	51.1 (748)	10. 朗読サービス	0.5 (7)
			11. 手話	2.5 (36)
			12. 筆談	4.8 (70)
	2. ファックス	10.6 (155)	13. 要約筆記通訳や手話通訳	0.8 (12)
	3. メール	30.3 (444)	14. 補聴器・補聴援助機器	4.4 (64)
	4. 点字	0.2 (3)	15. 口話・読話	12.2 (179)
	5. 指点字	0.1 (2)	16. 行動(身振り・手振り)	9.6 (141)
	6. 手書き文字(てのひらが書き)	1.6 (24)	17. 会話を文字化するアプリ	0.5 (7)
	7. 拡大文字	1.0 (14)	18. 絵文字(ピクトグラム)	0.5 (8)
	8. 録音物(デジター版など)	0.3 (4)	19. その他()	7.0 (103)
	9. 読み上げソフト、アプリ等	0.4 (6)	無回答	29.1 (426)



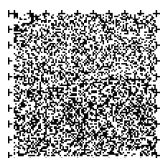
N=1,463

② 家庭

1. 携帯電話、スマートフォン、タブレット、パソコン	60.8 (889)	10. 朗読サービス	0.7 (10)
2. ファックス	9.8 (143)	11. 手話	1.7 (25)
3. メール	34.9 (511)	12. 筆談	4.5 (66)
4. 点字	0.3 (5)	13. 要約筆記通訳や手話	0.1 (2)
5. 指点字	0.1 (1)	通訳	
6. 手書き文字（てのひらが書き）	1.3 (19)	14. 補聴器・補聴援助機器	5.4 (79)
7. 拡大文字	1.3 (19)	15. 口話・読話	13.9 (204)
8. 録音物（デジター版など）	0.5 (7)	16. 行動（身振り・手振り）	8.9 (130)
9. 読み上げソフト、アプリ等	0.8 (11)	17. 会話を文字化するアプリ	0.1 (2)
		18. 絵文字（ピクトグラム）	0.5 (8)
		19. その他（ ）	7.7 (113)
		無回答	16.0 (234)



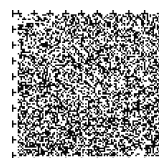
③ その他の 場所 (駅やまちなど)	1. 携帯電話、スマートフォン、タブレット、パソコン	52.3 (765)	10. 朗読サービス	0.3 (4)
	2. ファックス	2.1 (31)	11. 手話	1.4 (20)
	3. メール	23.9 (349)	12. 筆談	4.6 (67)
	4. 点字	0.3 (4)	13. 要約筆記通訳や手話	0.3 (5)
	5. 指点字	0.1 (2)	14. 補聴器・補聴援助	4.8 (70)
	6. 手書き文字 (てのひらが書き)	0.8 (12)	15. 口話・読話	12.0 (175)
	7. 拡大文字	1.2 (17)	16. 行動 (身振り・手振り)	6.9 (101)
	8. 録音物 (デイジー版など)	0.1 (2)	17. 会話を文字化するアプリ	0.3 (5)
	9. 読み上げソフト、アプリ等	0.4 (6)	18. 絵文字 (ピクトグラム)	0.9 (13)
			19. その他 ()	7.4 (108)
			無回答	26.0 (381)



問28 あなたは、^{じょうほう にゆうしゆ}情報^{うへ}を入手したりコミュニケーションをとる上で、どのような^{はいりょ}配慮^あがあるとよいですか。(当てはまるもの3つまでに○)

N=1,463

- | | |
|--|------------|
| 1. それぞれの ^{しょうがいしゃ} 障害者が ^{じょうほう にゆうしゆ} 情報入手できるようにさまざまな ^{ばいたい おんせい てんじ} 媒体(音声、点字、テキストデータなど)で ^{ていきよう} 提供してほしい | 16.9 (247) |
| 2. ^{だれ} 誰もが ^よ 読みやすい ^{もじ} 文字などを ^{しやう} 使用してほしい | 22.2 (325) |
| 3. パンフレットやホームページなどを ^{いろ} 色の ^{つか} 使い方に ^{かた} 配慮して ^{はいりょ} 作成して ^{さくせい} ほしい | 5.6 (82) |
| 4. ^と 問い合わせ先は ^あ 電話番号 ^{さき でんわばんごう} だけでなく、 ^の ファックスやメールアドレスを ^の 載せてほしい | 13.3 (195) |
| 5. SNS(ツイッター、フェイスブックなど)で ^{はっしん} 発信してほしい | 6.0 (88) |
| 6. ^{しゅわ} 手話、 ^{ひつだん} 筆談で ^{たいおう} 対応できる ^{ひと} 人を ^ふ 増やしてほしい | 4.8 (70) |
| 7. わかりやすい ^{もんごん} 文言・ ^{ひやうげん} 表現・ ^{え もじ} 絵文字(ピクトグラム)を ^{しやう} 使用してほしい | 15.1 (221) |
| 8. ^{どうが} 動画などで ^{しりよう} わかる ^{さくせい} 資料を ^の 作成してほしい | 8.6 (126) |
| 9. ^{ひつよう} 必要な ^{じょうほう} 情報を ^{せつめい} わかりやすく ^{ひと} 説明してくれる人がほしい | 22.4 (328) |
| 10. その他(具体的に：) | 2.9 (43) |
| 11. ^{とく} 特にない | 23.5 (344) |
| 12. わからない | 8.9 (130) |
| ^{むかいとう} 無回答 | 11.3 (165) |



最後に、生活の状況などについてお聞きします

問29 あなたがお持ちの手帳、難病医療費助成、障害の診断などについておかがいします。(当てはまるものすべてに○)

N=1,463

1. 身体障害者手帳を持っている	⇒ 問30①、②へ	62.5 (914)
2. 療育手帳(愛の手帳)を持っている	⇒ 問31へ	24.7 (362)
3. 精神障害者保健福祉手帳を持っている	⇒ 問32へ	16.5 (241)
4. 自立支援医療受給者証(精神通院)を持っている		7.4 (108)
5. 難病医療費助成を受けている(指定難病および都単独疾病)		21.6 (316)
6. 医療費助成対象外の難病と診断されている		1.5 (22)
7. 発達障害(アスペルガー症候群、注意欠陥・多動性障害、学習障害など)と診断されている		2.1 (30)
8. 高次脳機能障害と診断されている		1.7 (25)
9. 認知症と診断されている		0.7 (10)
無回答		2.1 (31)

問29で1を選んだ方(身体障害者手帳をお持ちの方)にお聞きします。

問30 ① 身体障害者手帳の総合等級は何ですか。(当てはまるもの1つに○)

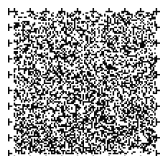
N=914

1. 1級	29.4 (269)	3. 3級	17.3 (158)	5. 5級	4.6 (42)
2. 2級	18.6 (170)	4. 4級	17.0 (155)	6. 6級	5.6 (51)
				無回答	7.5 (69)

問30 ② 障害の種類は何ですか。(当てはまるものすべてに○)

N=914

1. 視覚	13.0 (119)	9. 心臓機能	11.8 (108)
2. 聴覚	14.6 (133)	10. じん臓機能	6.7 (61)
3. 平衡機能	3.1 (28)	11. 呼吸器機能	2.8 (26)
4. 音声機能・言語機能・そしゃく機能	10.2 (93)	12. ぼうこう・直腸機能	4.7 (43)
5. 上肢	19.1 (175)	13. 小腸機能	0.4 (4)
6. 下肢	28.6 (261)	14. 免疫機能	3.5 (32)
7. 体幹	11.5 (105)	15. 肝臓機能	1.4 (13)
8. 脳原性運動機能(脳性まひ)	7.9 (72)	無回答	4.3 (39)



問29で2を選んだ方（療育手帳（愛の手帳）をお持ちの方）にお聞きします。

問31 障害の程度は何ですか。（当てはまるもの1つに○）

N=362

1. 1度（最重度）	8.3 (30)	3. 3度（中度）	19.3 (70)
2. 2度（重度）	29.8 (108)	4. 4度（軽度）	42.3 (153)
		無回答	0.3 (1)

問29で3を選んだ方（精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方）にお聞きします。

問32 障害の程度は何ですか。（当てはまるもの1つに○）

N=241

1. 1級	20.3 (49)	2. 2級	41.5 (100)	3. 3級	37.8 (91)	無回答	0.4 (1)
-------	-----------	-------	------------	-------	-----------	-----	---------

全員にお聞きします。

問33 あなたが障害者になったのはいつですか。（当てはまるもの1つに○、2を選んだ場合は年齢を（ ）内に記入）※複数の障害がある方は、最初に障害者になった時期をお答えください。

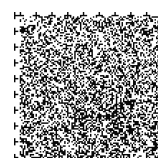
N=1,463

1. 出生時	17.8 (261)	2. () 歳の時	73.0 (1068)	無回答	9.2 (134)
		～10代	13.7 (201)		
		20代・30代	14.3 (209)		
		40代・50代	20.2 (295)		
		60代以上	24.3 (356)		
		無回答	0.5 (7)		

問34 現在、あなたは、外出時に外出支援や補装具などのサービス・手段を利用していますか。（当てはまるものすべてに○）

N=1,463

1. 外出支援（同行援護、重度訪問介護、行動援護、移動支援、盲ろう者通訳・介助者派遣など）を利用している	14.8 (217)
2. 補装具（車椅子、義肢、杖、白杖、補聴器など）を使用している	26.2 (384)
3. 補助犬（盲導犬、介助犬、聴導犬）と一緒に外出している	0.1 (1)
4. 特にない	58.9 (862)
無回答	7.0 (103)



問35 あなたは平成28年7月1日時点で、収入を伴う仕事をしていましたか。(当てはまるもの1つに○)

N=1,463

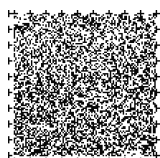
1. 仕事をしている	31.3 (458)
2. 仕事をしていない	57.3 (839)
3. 福祉的就労をしている(就労継続支援A型・B型、就労移行支援)	7.3 (107)
無回答	4.0 (59)

問36 この1年間にあなたは、平日の日中、主にどこで過ごしましたか。(当てはまるもの1つに○)

N=1,463

1. 自分の家	52.2 (763)	4. 学校	1.2 (18)
2. 職場(一般企業など)	22.8 (334)	5. 通所施設(生活介護、デイケア	8.3 (122)
3. 職場(福祉的就労の施設)	7.4 (108)	など)	
(就労継続支援A型・B型、		6. 入所施設	3.9 (57)
就労移行支援)		7. その他()	2.5 (36)
		無回答	1.7 (25)

～ ご協力ありがとうございました ～



Ⅰ．貴団体の概要についておうかがいします

問 1. 貴団体の当事者会員の障害名を教えてください。(最も当事者会員数が多い障害に◎、その他当てはまる障害にいくつでも○)

※ご家族等が加入している団体の場合は、障害のある当事者の方についてお答えください。(以下の設問についても同様)

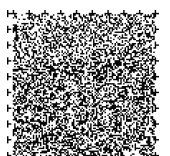
N=23

<最も当事者会員数が多い障害>

1. 肢体不自由	21.7(5)	6. 精神障害	17.4(4)
2. 視覚障害	13.0(3)	7. 発達障害	0.0(0)
3. 聴覚障害	8.7(2)	8. 高次脳機能障害	0.0(0)
4. 音声・言語・そしゃく機能障害	4.3(1)	9. 内部障害、難病等	13.0(3)
5. 知的障害	8.7(2)	10. その他（具体的に： ）	4.3(1)
		無回答	8.7(2)

<その他当てはまる障害>

11. 肢体不自由	21.7(5)	16. 精神障害	13.0(3)
12. 視覚障害	21.7(5)	17. 発達障害	17.4(4)
13. 聴覚障害	17.4(4)	18. 高次脳機能障害	13.0(3)
14. 音声・言語・そしゃく機能障害	8.7(2)	19. 内部障害、難病等	13.0(3)
15. 知的障害	17.4(4)	20. その他（具体的に： ）	0.0(0)
		無回答	8.7(2)



問 2. 貴団体の当事者会員数を教えてください。(数字を記入)

平均 1,204 人、中央値 600 人

N=23

問 3. 当事者会員の年代別の人数を教えてください。年代別の内訳が分からない場合は、合計のみ記入してください。 ※平成 28 年 7 月 1 日時点 (数字を記入)

20 代以下	平均 143 人 中央値 14 人
30 代	平均 60 人 中央値 24 人
40 代	平均 80 人 中央値 45 人
50 代	平均 64 人 中央値 42 人
60 代	平均 76 人 中央値 20 人
70 代以上	平均 189 人 中央値 11 人
合計	平均 1,204 人 中央値 600 人

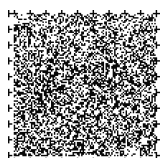
N=23

問 2 と問 3 の
合計は同じに
なるようにし
てください

N=23

問 4. 当事者会員の平均年齢はどれくらいですか。 ※平成 28 年 7 月 1 日時点 (○は 1 つ)

1. 20 代以下	0.0(0)	4. 50 代	13.0(3)
2. 30 代	0.0(0)	5. 60 代	13.0(3)
3. 40 代	26.1(6)	6. 70 代以上	21.7(5)
		無回答	26.1(6)

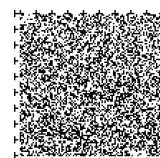


II. スポーツ活動や運動についておうかがいします

問 5. 貴団体では、この 1 年間のイベントや取組で、どのようなスポーツや運動を行いましたか。
また、今後も続けていきたいスポーツや運動、新たに取り入れたいスポーツや運動はありますか。
競技性の強いものから軽めの運動まで、身体を動かすものはすべてお答えください。
(あてはまるものの全ての番号を記入)

N=23

	この 1 年間のイベントや取組で行ったスポーツや運動	今後も続けていきたいスポーツや運動、新たに取り入れたいスポーツや運動
1. ウォーキング、散歩（散策、ペットの散歩など）	17.4(4)	30.4(7)
2. 体操（ラジオ体操、職場体操、ストレッチ、エクササイズ、エアロビクス、ヨガ、ピラティス、縄跳びなど）	21.7(5)	26.1(6)
3. 室内運動器具（ウエイト器具、ランニングマシン、バランスボールなど）を用いる運動	4.3(1)	4.3(1)
4. 陸上競技（ランニング、ジョギングなどの軽い運動も含めます）	0.0(0)	4.3(1)
5. 水泳・遊泳（水中歩行・水中運動）	8.7(2)	13.0(3)
6. 球技（キャッチボールなどのボールを使った軽い運動も含めます）	21.7(5)	8.7(2)
7. ダンス（フォークダンス、ジャズダンス、社交ダンス、フラダンス、バレエ、民謡踊りなど）	17.4(4)	17.4(4)
8. 格闘技（ボクシング、レスリング、相撲など）	0.0(0)	0.0(0)
9. 武道（柔道、剣道、空手、合気道など）	0.0(0)	4.3(1)
10. 射的（弓道、アーチェリー、ダーツ、スポーツ吹矢など）	4.3(1)	8.7(2)
11. ウィンタースポーツ（スキー、スノーボード、スケートなど）	4.3(1)	8.7(2)
12. ウォータースポーツ（ボート、ヨット、スキンドайビング、スクーバダイビング、カヌー、水上バイク、サーフィン、ウィンドサーフィン、ボディボード、ボードセーリングなど）	0.0(0)	4.3(1)
13. スカイスポーツ（ハングライダー、パラグライダー、スカイダイビングなど）	0.0(0)	0.0(0)
14. アウトドアスポーツ（ハイキング、ワンダーフォーゲル、釣り、登山、キャンプなど）	4.3(1)	8.7(2)
15. サイクリング、モーター（サイクル）スポーツ	4.3(1)	8.7(2)
16. ブラインドサッカー	4.3(1)	8.7(2)
17. 車いすテニス	0.0(0)	0.0(0)
18. サウンドテーブルテニス	4.3(1)	4.3(1)
19. シットイングバレーボール	0.0(0)	0.0(0)
20. 車椅子バスケットボール	0.0(0)	0.0(0)



	この1年間のイベントや取組で行ったスポーツや運動	今後も続けていきたいスポーツや運動、新たに取り入れたいスポーツや運動
21. ウィルチェアーラグビー（車いすラグビー）	0.0(0)	0.0(0)
22. ボッチャ	13.0(3)	13.0(3)
23. その他（具体的に： ）	17.4(4)	8.7(2)
24. 特になし	52.2(12)	34.8(8)
無回答	0.0(0)	21.7(5)

問5で1～23のいずれかを選択した方におうかがいします。

N=12

付問5-1. イベントや取組にスポーツや運動を取り入れた理由は何ですか。（〇はいくつでも）

1. 健康・体力づくりのため	100.0(12)	5. 障害者スポーツ大会に参加するため	
2. レクリエーションの一環として、楽しみづくりのため	83.3(10)	6. 目標や記録に挑戦するため	16.7(2)
3. リハビリテーションや医療・治療のため	16.7(2)	7. その他（具体的に： ）	33.3(4)
4. 当事者会員相互や職員との交流を深めるため	66.7(8)	無回答	8.3(1)
			0.0(0)

付問5-2. スポーツや運動の指導は、誰が行っていますか。（〇はいくつでも）

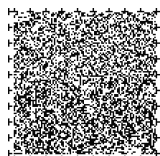
N=12

1. 団体の職員	58.3(7)	5. 地域の公共スポーツ施設の職員	8.3(1)
2. 家族、ボランティア	33.3(4)	6. 地域のスポーツ推進委員	8.3(1)
3. 医師や理学療法士等の医療関係者	8.3(1)	7. その他（具体的に： ）	33.3(4)
4. 障害者スポーツ施設の職員	8.3(1)	無回答	0.0(0)

付問5-3. スポーツや運動を指導している人が有している資格は何ですか。（〇はいくつでも）

N=12

1. 障がい者スポーツ指導員	16.7(2)	6. 保健体育教員	0.0(0)
2. 障がい者スポーツコーチ	8.3(1)	7. 日本体育協会公認スポーツ指導者	0.0(0)
3. 障がい者スポーツ医	0.0(0)	8. その他の資格（具体的に： ）	16.7(2)
4. 障がい者スポーツトレーナー	0.0(0)	9. 資格は有していない	58.3(7)
5. その他の障害者スポーツに関する資格（具体的に： ）	16.7(2)	10. わからない	8.3(1)
		無回答	8.3(1)



付問 5-4. スポーツや運動を含むイベント・取組を行った場所はどこですか。(〇はいくつでも)

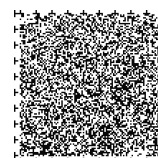
N=12

1. 団体の敷地内	16.7(2)	7. 公立小中学校の体育施設	0.0(0)
2. 道路や遊歩道	8.3(1)	8. 特別支援学校の体育施設	16.7(2)
3. 広場や公園	16.7(2)	9. 福祉施設	33.3(4)
4. 民間のスポーツ施設	8.3(1)	10. 医療機関	0.0(0)
5. 公共のスポーツ施設 (障害者専用施設)	58.3(7)	11. 山・川・海	0.0(0)
6. 公共のスポーツ施設 (障害者専用施設以外)	25.0(3)	12. その他 (具体的に :)	25.0(3)
		無回答	0.0(0)

付問 5-5. 当事者会員がスポーツや運動を含むイベント・取組に参加しやすくするために、運営上、工夫していることはありますか。(〇はいくつでも)

N=12

1. 当事者会員に参加したいスポーツや運動について希望を聞いている	41.7(5)
2. 当事者会員の障害にあったスポーツや運動を実施している	58.3(7)
3. 当事者会員のレベルにあった内容となるように配慮している	58.3(7)
4. 当事者会員向けの情報提供 (案内の内容、配布方法、時期など)	50.0(6)
5. 職員が障害者スポーツや運動に関する研修に参加している	0.0(0)
6. 保護者やボランティアが障害者スポーツや運動に関する研修に参加している	0.0(0)
7. 医療機関等 (又は団体の医師等) と連携して安全上の配慮をしている	0.0(0)
8. 家族等を含む、障害のある人もない人もともに楽しめるスポーツや運動を取り入れている	33.3(4)
9. その他 (具体的に :)	0.0(0)
10. 特に工夫していることはない	16.7(2)
11. わからない	0.0(0)
無回答	0.0(0)



全員にお聞きします

N=23

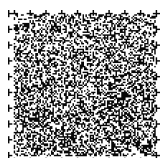
問 6. 貴団体がイベントや取組でスポーツや運動を行う際に、必要な支援は何ですか。(〇は3つまで)

1. スタジアム、体育館などの建物や設備のバリアフリー化	21.7(5)	9. 障害や障害者、補助犬(盲導犬、介助犬、聴導犬)などに対する理解促進	4.3(1)
2. 交通機関やまちのバリアフリー化	30.4(7)	10. 適切な指導者	21.7(5)
3. 会場までの送迎	21.7(5)	11. 一緒に行く仲間	13.0(3)
4. 障害者への施設開放の促進	13.0(3)	12. スポーツ用具等の貸出	4.3(1)
5. 障害にあわせたプログラムの充実	13.0(3)	13. 施設の利用料減免	13.0(3)
6. 介助者や手話通訳などの支援	8.7(2)	14. その他(具体的に:)	13.0(3)
7. 障害に対応した情報の提供や問合せ方法の充実	17.4(4)	15. 特にない	13.0(3)
8. 施設や用具等を利用する際に必要な手続きの支援	17.4(4)	16. 行いたいと思わない	8.7(2)
		17. わからない	0.0(0)
		無回答	4.3(1)

問 7. 貴団体の当事者会員がスポーツ観戦をする上で、必要な支援は何ですか。(〇は3つまで)

N=23

1. スタジアム、体育館などの建物や設備のバリアフリー化	47.8(11)	8. 障害に対応した情報の提供や問合せ方法の充実	34.8(8)
2. 交通機関やまちのバリアフリー化	30.4(7)	9. 障害や障害者、補助犬(盲導犬、介助犬、聴導犬)などに対する理解促進	4.3(1)
3. 会場までの送迎	13.0(3)	10. 一緒に観戦する仲間	4.3(1)
4. 障害者に配慮した観戦席の充実	34.8(8)	11. 観戦料の減免	21.7(5)
5. 介助者や手話通訳などの支援	13.0(3)	12. その他(具体的に:)	13.0(3)
6. テレビ・インターネット等の文字情報、字幕の対応	8.7(2)	13. 特にない	0.0(0)
7. 情報機器操作の支援	0.0(0)	14. わからない	4.3(1)
		無回答	4.3(1)



Ⅲ. 東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会についておうかがいします

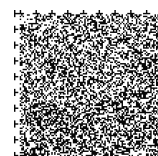
問 8. 貴団体は、東京 2020 大会に何らかの形で関わりたいと思いますか。オリンピック、パラリンピックそれぞれについてお答えください。(それぞれについてあてはまるすべての番号を記入)

	オリンピック	パラリンピック
1. 団体として、スタジアム・体育館などで観戦したい	69.6(16)	65.2(15)
2. 団体として、沿道で観戦したい	13.0(3)	13.0(3)
3. 団体として、テレビ、ラジオ、インターネット配信等で観戦したい	30.4(7)	26.1(6)
4. 団体として、ボランティアとして関わりたい	17.4(4)	17.4(4)
5. 当事者会員がボランティアとして参加することを勧めたい	17.4(4)	21.7(5)
6. 関わりたいと思わない	8.7(2)	8.7(2)
7. その他（具体的に： ）	13.0(3)	13.0(3)
8. わからない	13.0(3)	13.0(3)
無回答	4.3(1)	8.7(2)

問 8 で 4 あるいは 5 を選択した方におうかがいします。

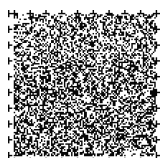
付問 8-1. どのようなボランティアとして関わりたい（または、参加することを勧めたい）ですか。オリンピック、パラリンピックそれぞれについてお答えください。（それぞれについてあてはまるすべての番号を記入）

	オリンピック N=5	パラリンピック N=7
1. 国内外からの旅行者への観光・交通案内	20.0(1)	14.3(1)
2. 競技会場の最寄駅から会場までの観客案内	60.0(3)	42.9(3)
3. 会場内での観客・大会関係者の誘導	40.0(2)	28.6(2)
4. チケットチェック等の入場管理	20.0(1)	28.6(2)
5. 警備	20.0(1)	14.3(1)
6. 選手村でのハウスキーピング等	40.0(2)	42.9(3)
7. 選手村や会場の食堂での配膳	20.0(1)	28.6(2)
8. 選手村・会場内での清掃	20.0(1)	28.6(2)
9. その他（具体的に： ） 無回答	40.0(2) 0.0(0)	42.9(3) 14.3(1)



付問 8-2. 当事者会員が、ボランティアを行う際に必要な支援は何ですか。(それぞれについて
あてはまるすべての番号を記入)

	オリンピック N=5	パラリンピック N=7
1. 会場や選手村などの建物や設備のバリアフリー化	60.0(3)	57.1(4)
2. 交通機関やまちのバリアフリー化	60.0(3)	57.1(4)
3. 活動の場までの送迎	0.0(0)	14.3(1)
4. 介助者や手話通訳などの支援	60.0(3)	71.4(5)
5. 障害に対応した情報の提供や問合せ方法の充実	60.0(3)	57.1(4)
6. 施設等を利用する際に必要な手続きの支援	20.0(1)	14.3(1)
7. 障害や障害者、補助犬（盲導犬、介助犬、聴導犬） などに対する理解促進	0.0(0)	0.0(0)
8. 一緒に行く仲間	60.0(3)	71.4(5)
9. ボランティア活動に関する情報提供の充実	60.0(3)	57.1(4)
10. その他（具体的に： ）	0.0(0)	0.0(0)
11. 特にない	0.0(0)	0.0(0)
12. わからない	0.0(0)	0.0(0)
無回答	0.0(0)	0.0(0)



IV. 文化、芸術活動についておうかがいします

問 9. 貴団体は、文化、芸術活動に関するイベント・取組を行っていますか。(○はいくつでも)

※ここでいう活動には、スポーツとボランティアは含みません。

N=23

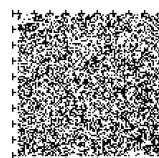
1. コンサートや映画、演劇などに行く	34.8(8)
2. コンサートや映画、演劇などを開催する	17.4(4)
3. 美術館、博物館などに行く（館外で開催される美術展、展覧会なども含む）	13.0(3)
4. 当事者会員の美術展覧会などを開催する	21.7(5)
5. 動物園や植物園、水族館などに行く	21.7(5)
6. 音楽活動をする（歌や楽器の演奏など）	34.8(8)
7. 美術などの創作活動をする（絵画、彫刻、陶芸、書道、華道など）	21.7(5)
8. 文芸活動をする（短歌・俳句、詩作、小説、評論など）	8.7(2)
9. 講演会、セミナー、各種講座に参加する	39.1(9)
10. 講演会、セミナー、各種講座を開催する	52.2(12)
11. 伝統文化などの活動をする（伝統芸能、茶道など）	0.0(0)
12. その他（具体的に：	4.3(1)
13. 特にない	17.4(4)
無回答	4.3(1)

問 10. 貴団体が文化、芸術活動に関するイベント・取組を行う際に、必要な支援は何ですか。

(○は3つまで) ※ここでいう活動には、スポーツとボランティアは含みません。

N=23

1. 文化、芸術活動を行う施設のバリアフリー化	21.7(5)	9. 障害や障害者、補助犬（盲導犬、介助犬、聴導犬）などに対する理解促進	13.0(3)
2. 交通機関やまちのバリアフリー化	21.7(5)	10. 適切な指導者	0.0(0)
3. 活動の場までの送迎	17.4(4)	11. 一緒に行く仲間	8.7(2)
4. 活動できる場の充実	13.0(3)	12. 用具等の貸出	8.7(2)
5. 障害にあわせたプログラムの充実	30.4(7)	13. 施設の利用料減免	17.4(4)
6. 介助者や手話通訳などの支援	21.7(5)	14. その他（具体的に：	8.7(2)
7. 障害に対応した情報の提供や問合せ方法の充実	30.4(7)	15. 特にない	0.0(0)
8. 施設や用具等を利用する際に必要な手続きの支援	0.0(0)	16. 行いたいと思わない	0.0(0)
		17. わからない	4.3(1)
		無回答	13.0(3)



V. ボランティア活動についておうかがいします

問 11. 貴団体は、当事者会員のボランティア活動への参加について、どのように考えていますか。(○は1つ)

N=23

1. 積極的に支援したい	4.3(1)	4. それぞれの当事者会員に任せたい	65.2(15)
2. できれば支援したい	13.0(3)	5. わからない	4.3(1)
3. 支援したいが難しい	13.0(3)	無回答	0.0(0)

問 12 現在、当事者会員のボランティア活動への参加を支援していますか。(○は1つ)

N=23

1. 支援しており、今後も支援したい	17.4(4)	3. 支援しておらず、今後も予定はない	34.8(8)
2. 支援していないが、今後は支援したい	21.7(5)	4. わからない	17.4(4)
		無回答	8.7(2)

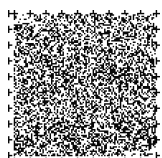
問 12 で 1 あるいは 2 のいずれかを選択した方におうかがいします。

付問 12-1. 今までにどのような分野のボランティア活動への参加を支援したことがありますか。
あるいは今後支援したいですか。

(それぞれについて、当てはまるすべての番号を記載)

N=9

	今まで支援したもの	今後支援したいもの
1. 障害者、高齢者等の支援などの福祉、医療に関する活動	33.3(3)	55.6(5)
2. 講演会、教室・学習会、展覧会等の企画・運営、手伝いなどの教育、文化に関する活動	66.7(6)	55.6(5)
3. スポーツ大会などのスポーツ、運動に関する活動	33.3(3)	44.4(4)
4. お祭り、町会・自治会などの地域の活動	0.0(0)	0.0(0)
5. 企業の商品やサービスの開発・販売促進への協力	11.1(1)	22.2(2)
6. その他(具体的に:)	0.0(0)	11.1(1)
7. 特にない	22.2(2)	0.0(0)
無回答	11.1(1)	11.1(1)



付問 12-2. 今までにどのような内容のボランティア活動への参加を支援したことがありますか。
あるいは今後支援したいですか。(それぞれ当てはまるすべての番号を記載)

N=9

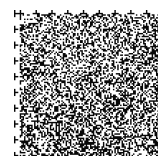
	今まで支援したもの	今後支援したいもの
1. 受付・案内	55.6(5)	33.3(3)
2. 活動の指導、手伝い	44.4 (4)	22.2(2)
3. イベント等の会場準備の手伝い	55.6(5)	33.3(3)
4. 清掃	11.1(1)	11.1(1)
5. 移動や身の回りの介助などの手伝い	0.0(0)	33.3(3)
6. 手話などコミュニケーションの手伝い	22.2(2)	22.2(2)
7. 話し相手、遊び相手、学習支援	0.0(0)	66.7(6)
8. その他（具体的に： ）	11.1(1)	22.2(2)
9. 特にない	33.3(3)	11.1(1)
無回答	11.1(1)	11.1(1)

全員にお聞きします

問 13. 貴団体が、当事者会員のボランティア活動を後押しする上で必要な支援は何ですか。
(○は3つまで)

N=23

1. 活動場所のバリアフリー化	30.4(7)	8. 一緒に行く仲間	4.3(1)
2. 交通機関やまちのバリアフリー化	26.1(6)	9. ボランティア活動に関する情報提供 の充実	30.4(7)
3. 活動の場までの送迎	13.0(3)	10. その他（具体的に： ）	13.0(3)
4. 介助者や手話通訳などの支援	17.4(4)	11. 特にない	4.3(1)
5. 障害に対応した情報の提供や問合せ方法の充実	39.1(9)	12. 後押ししたいと思わない	4.3(1)
6. 施設等を利用する際に必要な手続きの支援	4.3(1)	13. わからない	4.3(1)
7. 障害や障害者、補助犬（盲導犬、介助犬、聴導 犬）などに対する理解促進	17.4(4)	無回答	13.0(3)



問 14. 貴団体の当事者会員が行うボランティア活動について、これまでに貴団体が把握しているものはありますか。また、今後、貴団体として、当事者会員に参加を勧めたいものはありますか。分野、活動内容について、分かる範囲でお答えください。（それぞれについて、当てはまるすべての番号を記載）

【分野】

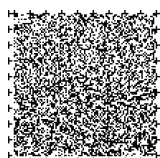
N=23

	これまでに当事者会員が参加した分野	今後当事者会員に勧めたい分野
1. 障害者、高齢者等の支援などの福祉、医療に関する活動	26.1(6)	17.4(4)
2. 講演会、教室・学習会、展覧会等の企画・運営、手伝いなどの教育、文化に関する活動	39.1(9)	21.7(5)
3. スポーツ大会などのスポーツ、運動に関する活動	21.7(5)	17.4(4)
4. お祭り、町会・自治会などの地域の活動	13.0(3)	8.7(2)
5. 企業の商品やサービスの開発・販売促進への協力	4.3(1)	13.0(3)
6. その他（具体的に： ）	8.7(2)	4.3(1)
7. 特にない	17.4(4)	17.4(4)
8. わからない	13.0(3)	13.0(3)
無回答	26.1(6)	34.8(8)

【活動内容】

N=23

	これまでに当事者会員が参加した活動内容	今後当事者会員に勧めたい活動内容
1. 受付・案内	30.4(7)	13.0(3)
2. 活動の指導、手伝い	21.7(5)	13.0(3)
3. イベント等の会場準備の手伝い	26.1(6)	17.4(4)
4. 清掃	4.3(1)	4.3(1)
5. 移動や身の回りの介助などの手伝い	0.0(0)	8.7(2)
6. 手話などコミュニケーションの手伝い	8.7(2)	8.7(2)
7. 話し相手、遊び相手、学習支援	8.7(2)	21.7(5)
8. その他（具体的に： ）	8.7(2)	8.7(2)
9. 特にない	17.4(4)	17.4(4)
10. わからない	13.0(3)	13.0(3)
無回答	30.4(7)	39.1(9)



問 15. 貴団体の当事者会員が、ボランティア活動をする上で必要な支援は何ですか。

(○は3 つまで)

N=23

1. 活動場所のバリアフリー化	26.1(6)	8. 一緒に行く仲間	13.0(3)
2. 交通機関やまちのバリアフリー化	21.7(5)	9. ボランティア活動に関する情報提供の充実	17.4(4)
3. 活動の場までの送迎	21.7(5)	10. その他	
4. 介助者や手話通訳などの支援	17.4(4)	(具体的に :) 13.0(3)
5. 障害に対応した情報の提供や問合せ方法の充実	34.8(8)	11. 特にない	0.0(0)
6. 施設等を利用する際に必要な手続きの支援	13.0(3)	12. わからない	8.7(2)
7. 障害や障害者、補助犬(盲導犬、介助犬、聴導犬)などに対する理解促進	17.4(4)	無回答	17.4(4)

VI. 情報アクセシビリティについておうかがいします

問 16. 貴団体の当事者会員が、情報入手したりコミュニケーションをとる上で、どのような配慮があるとよいですか。(○はいくつでも)

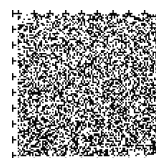
N=23

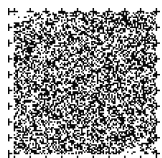
1. それぞれの障害者が情報入手できるようさまざまな媒体(音声、点字、テキストデータなど)で提供してほしい	47.8(11)
2. 誰もが読みやすい文字などを使用してほしい	26.1(6)
3. パンフレットやホームページなどを色の使い方に配慮して作成してほしい	26.1(6)
4. 問い合わせ先は電話番号だけでなく、ファックスやメールアドレスを載せてほしい	47.8(11)
5. SNS(ツイッター、フェイスブックなど)で発信してほしい	21.7(5)
6. 手話、筆談で対応できる人を増やしてほしい	17.4(4)
7. わかりやすい文言・表現・絵文字(ピクトグラム)を使用してほしい	34.8(8)
8. 動画などでわかる資料を作成してほしい	26.1(6)
9. 必要な情報をわかりやすく説明してくれる人がほしい	21.7(5)
10. その他(具体的に :) 8.7(2)
11. 特にない	4.3(1)
12. わからない	4.3(1)
無回答	17.4(4)

◆最後に、貴団体名をご記入ください。

貴団体名	
------	--

ご協力ありがとうございました





Ⅰ. 貴事業所の概要についておうかがいします

問 1. 利用者の定員を教えてください。(数字を記入) N=603

平均 30.4 人

問 2. 年代別の利用者数を教えてください。年代別の内訳が分からない場合は、合計のみ記入してください。 ※平成 28 年 7 月 1 日時点 (数字を記入) * 以下の数値は平均人数

20 代以下 N=560	30 代 N=560	40 代 N=560	50 代 N=560	60 代 N=560	70 代以上 N=560	合計 N=619
8.5 人	6.0 人	7.2 人	4.7 人	2.6 人	0.8 人	35.6 人

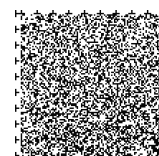
問 3. 利用者の平均年齢はどれくらいですか。 ※平成 28 年 7 月 1 日時点 (○は 1 つ)

N=645

1. 20 代以下	12.1 (78)	4. 50 代	10.5 (68)
2. 30 代	31.2 (201)	5. 60 代	1.7 (11)
3. 40 代	38.6 (249)	6. 70 代以上	0.5 (3)
		無回答	5.4 (35)

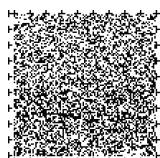
問 4. 利用者の障害名を教えてください。(最も利用者数が多い障害に◎、その他当てはまる障害にいくつでも○) N=645

	すべて	最も多い
1. 肢体不自由	40.8 (263)	8.5 (55)
2. 視覚障害	19.5 (126)	0.5 (3)
3. 聴覚障害	16.4 (106)	0.6 (4)
4. 音声・言語・そしゃく機能障害	11.3 (73)	0.0 (0)
5. 知的障害	77.7 (501)	40.8 (263)
6. 精神障害	63.3 (408)	30.4 (196)
7. 発達障害	41.9 (270)	3.7 (24)
8. 高次脳機能障害	21.1 (136)	0.6 (4)
9. 内部障害、難病等	19.5 (126)	0.0 (0)
10. その他 (具体的に :)	2.2 (14)	0.5 (3)
11. 無回答	1.7 (11)	14.4 (93)



問 5. 貴事業所が提供している障害福祉サービス事業等を教えてください。(○はいくつでも) N=645

<介護給付>		<訓練等給付>	<相談支援>
1. 居宅介護	10.1 (65)	10. 自立訓練（機能訓練）	17. 地域移行支援 4.2 (27)
2. 重度訪問介護	7.9 (51)	3.3 (21)	18. 地域定着支援 3.9 (25)
3. 同行援護	6.5 (42)	11. 自立訓練（生活訓練）	19. 計画相談支援 23.4 (151)
4. 行動援護	2.3 (15)	5.7 (37)	
5. 重度障害者等包括支援		12. 宿泊型自立訓練 1.2 (8)	<その他>
	0.2 (1)	13. 就労移行支援 11.0 (71)	20. その他 9.5 (61)
6. 短期入所	7.0 (45)	14. 就労継続支援 A 4.3 (28)	（具体的に：)
7. 療養介護	1.2 (8)	15. 就労継続支援 B 34.7 (224)	無回答 1.4 (9)
8. 生活介護	22.2 (143)	16. 共同生活援助 22.6 (146)	
9. 施設入所支援	5.7 (37)		



II. スポーツ活動や運動についておうかがいします

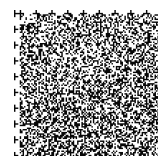
問 6. 貴事業所では、この 1 年間のイベントや取組で、どのようなスポーツや運動を行いましたか。

また、今後も続けていきたいスポーツや運動、新たに取り入れたいスポーツや運動はありますか。競技性の強いものから軽めの運動まで、身体を動かすものはすべてお答えください。

(当てはまるもの全ての番号を記入)

N=645

	この 1 年間のイベントや取組で行ったスポーツや運動	今後も続けていきたいスポーツや運動、新たに取り入れたいスポーツや運動
1. ウォーキング、散歩（散策、ペットの散歩など）	45.0 (290)	48.1 (310)
2. 体操（ラジオ体操、職場体操、ストレッチ、エクササイズ、エアロビクス、ヨガ、ピラティス、縄跳びなど）	42.6 (275)	45.4 (293)
3. 室内運動器具（ウエイト器具、ランニングマシン、バランスボールなど）を用いる運動	10.9 (70)	14.9 (96)
4. 陸上競技（ランニング、ジョギングなどの軽い運動も含めます）	6.0 (39)	7.9 (51)
5. 水泳・遊泳（水中歩行・水中運動）	13.8 (89)	16.9 (109)
6. 球技（キャッチボールなどのボールを使った軽い運動も含めます）	26.2 (169)	25.7 (166)
7. ダンス（フォークダンス、ジャズダンス、社交ダンス、フラダンス、バレエ、民謡踊りなど）	12.4 (80)	14.3 (92)
8. 格闘技（ボクシング、レスリング、相撲など）	0.2 (1)	0.6 (4)
9. 武道（柔道、剣道、空手、合気道など）	0.6 (4)	0.9 (6)
10. 射的（弓道、アーチェリー、ダーツ、スポーツ吹矢など）	1.2 (8)	1.1 (7)
11. ウィンタースポーツ（スキー、スノーボード、スケートなど）	0.6 (4)	0.9 (6)
12. ウォータースポーツ（ボート、ヨット、スキンドайビング、スクーバダイビング、カヌー、水上バイク、サーフィン、ウィンドサーフィン、ボディボード、ボードセーリングなど）	0.3 (2)	0.3 (2)
13. スカイスポーツ（ハングライダー、パラグライダー、スカイダイビングなど）	0.0 (0)	0.2 (1)
14. アウトドアスポーツ（ハイキング、ワンダーフォーゲル、釣り、登山、キャンプなど）	5.4 (35)	8.2 (53)
15. サイクリング、モーター（サイクル）スポーツ	1.1 (7)	1.7 (11)
16. ブラインドサッカー	0.3 (2)	0.6 (4)
17. 車いすテニス	0.0 (0)	0.0 (0)
18. サウンドテーブルテニス	0.3 (2)	0.8 (5)
19. シットイングバレーボール	0.5 (3)	0.6 (4)
20. 車椅子バスケットボール	0.0 (0)	0.2 (1)
21. ウィルチェアーラグビー（車いすラグビー）	0.2 (1)	0.2 (1)



付問 6-4. スポーツや運動を含むイベント・取組を行った場所はどこですか。(〇はいくつでも)

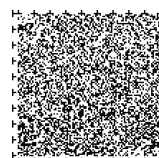
N=437

1. 事業所の敷地内	58.6 (256)	7. 公立小中学校の体育施設	5.9 (26)
2. 道路や遊歩道	34.1 (149)	8. 特別支援学校の体育施設	1.1 (5)
3. 広場や公園	43.5 (190)	9. 福祉施設	9.6 (42)
4. 民間のスポーツ施設	11.0 (48)	10. 医療機関	0.7 (3)
5. 公共のスポーツ施設 (障害者専用施設)	10.8 (47)	11. 山・川・海	9.2 (40)
6. 公共のスポーツ施設 (障害者専用施設以外)	35.7 (156)	12. その他 (具体的に :)	5.7 (25)
		無回答	3.0 (13)

付問 6-5. 利用者がスポーツや運動を含むイベント・取組に参加しやすくするために、運営上、工夫していることはありますか。(〇はいくつでも)

N=437

1. 利用者に参加したいスポーツや運動について希望を聞いている	48.5 (212)
2. 利用者の障害にあったスポーツや運動を実施している	51.9 (227)
3. 利用者のレベルにあった内容となるように配慮している	69.8 (305)
4. 利用者向けの情報提供 (案内の内容、配布方法、時期など)	23.6 (103)
5. 職員が障害者スポーツや運動に関する研修に参加している	5.5 (24)
6. 保護者やボランティアが障害者スポーツに関する研修に参加している	0.2 (1)
7. 医療機関等 (又は事業所の医師等) と連携した安全上の配慮	6.9 (30)
8. 家族等を含む、障害のある人もない人もともに楽しめるスポーツや運動を取り入れている	13.5 (59)
9. その他 (具体的に :)	4.1 (18)
10. 特に工夫していることはない	8.0 (35)
11. わからない	0.0 (0)
無回答	3.0 (13)



全員にお聞きします

問 7. 貴事業所がイベントや取組でスポーツや運動を行う際に、必要な支援は何ですか。(〇は3つまで)

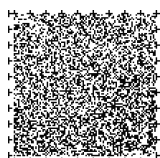
N=645

1. スタジアム、体育館などの建物や設備のバリアフリー化	16.4(106)	9. 障害や障害者、補助犬（盲導犬、介助犬、聴導犬）などに対する理解促進	4.5(29)
2. 交通機関やまちのバリアフリー化	9.3(60)	10. 適切な指導者	42.3(273)
3. 会場までの送迎	25.9(167)	11. 一緒に行く仲間	21.7(140)
4. 障害者への施設開放の促進	24.5(158)	12. スポーツ用具等の貸出	17.1(110)
5. 障害にあわせたプログラムの充実	31.2(201)	13. 施設の利用料減免	28.4(183)
6. 介助者や手話通訳などの支援	6.8(44)	14. その他	3.9(25)
7. 障害に対応した情報の提供や問合せ方法の充実	12.6(81)	(具体的に：)	
8. 施設や用具等を利用する際に必要な手続きの支援	7.3(47)	15. 特にない	5.3(34)
		16. 行いたいと思わない	2.2(14)
		17. わからない	3.4(22)
		無回答	3.7(24)

問 8. 貴事業所の利用者がスポーツを観戦する上で、必要な支援は何ですか。(〇は3つまで)

N=645

1. スタジアム、体育館などの建物や設備のバリアフリー化	29.9(193)	8. 障害に対応した情報の提供や問合せ方法の充実	18.9(122)
2. 交通機関やまちのバリアフリー化	16.4(106)	9. 障害や障害者、補助犬（盲導犬、介助犬、聴導犬）などに対する理解促進	7.1(46)
3. 会場までの送迎	38.8(250)	10. 一緒に観戦する仲間	20.0(129)
4. 障害者に配慮した観戦席の充実	41.6(268)	11. 観戦料の減免	46.5(300)
5. 介助者や手話通訳などの支援	11.2(72)	12. その他	3.1(20)
6. テレビ・インターネット等の文字情報、字幕の対応	3.7(24)	(具体的に：)	
7. 情報機器操作の支援	2.0(13)	13. 特にない	5.1(33)
		14. わからない	1.6(10)
		無回答	3.4(22)



Ⅲ. 東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会についておうかがいします

問 9. 貴事業所は、東京 2020 大会に何らかの形で関わりたいと思いますか。オリンピック、パラリンピックそれぞれについてお答えください。(それぞれについて当てはまるすべての番号を記入)

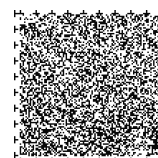
N=645

	オリンピック	パラリンピック
1. 事業所として、スタジアム・体育館などで観戦したい	52.4 (338)	51.5 (332)
2. 事業所として、沿道で観戦したい	20.0 (129)	20.3 (131)
3. 事業所として、テレビ、ラジオ、インターネット配信等で観戦したい	29.3 (189)	28.4 (183)
4. 事業所として、ボランティアとして関わりたい	11.6 (75)	16.3 (105)
5. 利用者がボランティアとして参加することを勧めたい	11.8 (76)	16.4 (106)
6. 関わりたいと思わない	5.0 (32)	5.1 (33)
7. その他（具体的に： ）	3.4 (22)	3.9 (25)
8. わからない	13.3 (86)	13.5 (87)
無回答	15.7 (101)	15.0 (97)

問 9 で 4 あるいは 5 を選択した方におうかがいします。

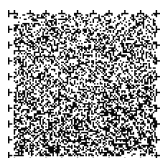
付問 9-1. どのようなボランティアとして関わりたい（または、参加することを勧めたい）ですか。オリンピック、パラリンピックそれぞれについてお答えください。（それぞれについて当てはまるすべての番号を記入）

	オリンピック N=104	パラリンピック N=146
1. 国内外からの旅行者への観光・交通案内	22.1(23)	17.8(26)
2. 競技会場の最寄駅から会場までの観客案内	34.6(36)	28.1(41)
3. 会場内での観客・大会関係者の誘導	45.2(47)	43.8(64)
4. チケットチェック等の入場管理	30.8(32)	28.8(42)
5. 警備	2.9(3)	3.4(5)
6. 選手村でのハウスキーピング等	32.7(34)	30.8(45)
7. 選手村や会場の食堂での配膳	46.2(48)	42.5(62)
8. 選手村・会場内での清掃	53.8(56)	48.6(71)
9. その他（具体的に： ）	3.8(4)	9.6(14)
無回答	6.7(7)	6.2(9)



付問 9-2. 利用者が、ボランティアを行う際に必要な支援は何ですか。(それぞれについて当てはまるすべての番号を記入)

	オリンピック N=104	パラリンピック N=146
1. 会場や選手村などの建物や設備のバリアフリー化	25.0(26)	28.1(41)
2. 交通機関やまちのバリアフリー化	25.0(26)	25.3(37)
3. 活動の場までの送迎	51.9(54)	50.7(74)
4. 介助者や手話通訳などの支援	22.1(23)	21.2(31)
5. 障害に対応した情報の提供や問合せ方法の充実	42.3(44)	41.8(61)
6. 施設等を利用する際に必要な手続きの支援	36.5(38)	32.2(47)
7. 障害や障害者、補助犬(盲導犬、介助犬、聴導犬)などに対する理解促進	14.4(15)	15.8(23)
8. 一緒に行う仲間	48.1(50)	43.8(64)
9. ボランティア活動に関する情報提供の充実	57.7(60)	58.2(85)
10. その他(具体的に:)	5.8(6)	6.2(9)
11. 特にない	1.9(2)	0.7(1)
12. わからない	1.9(2)	1.4(2)
無回答	8.7(9)	7.5(11)



IV. 文化、芸術活動についておうかがいします

問 10. 貴事業所は、文化、芸術活動に関するイベント・取組を行っていますか。(○はいくつでも)

※ここでの活動には、スポーツとボランティアは含みません。

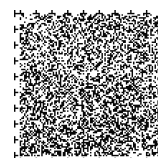
N=645

1. コンサートや映画、演劇などに行く	34.4 (222)
2. コンサートや映画、演劇などを開催する	8.8 (57)
3. 美術館、博物館などに行く（館外で開催される美術展、展覧会なども含む）	30.9 (199)
4. 利用者の美術展覧会などを開催する	10.4 (67)
5. 動物園や植物園、水族館などに行く	47.1 (304)
6. 音楽活動をする（歌や楽器の演奏など）	34.9 (225)
7. 美術などの創作活動をする（絵画、彫刻、陶芸、書道、華道など）	32.6 (210)
8. 文芸活動をする（短歌・俳句、詩作、小説、評論など）	3.7 (24)
9. 講演会、セミナー、各種講座に参加する	15.5 (100)
10. 講演会、セミナー、各種講座を開催する	7.9 (51)
11. 伝統文化などの活動をする（伝統芸能、茶道など）	4.3 (28)
12. その他（具体的に：)	6.4 (41)
13. 特にない	23.1 (149)
無回答	2.2 (14)

問 11. 貴事業所が文化、芸術活動に関するイベント・取組を行う際に、必要な支援は何ですか。(○は3つまで) ※ここでの活動には、スポーツとボランティアは含みません。

N=645

1. 文化、芸術活動を行う施設のバリアフリー化	20.0 (129)	9. 障害や障害者、補助犬（盲導犬、介助犬、聴導犬）などに対する理解促進	4.7 (30)
2. 交通機関やまちのバリアフリー化	10.9 (70)	10. 適切な指導者	30.2 (195)
3. 活動の場までの送迎	26.2 (169)	11. 一緒に行く仲間	19.7 (127)
4. 活動できる場の充実	25.7 (166)	12. 用具等の貸出	8.7 (56)
5. 障害にあわせたプログラムの充実	32.4 (209)	13. 施設の利用料減免	30.1 (194)
6. 介助者や手話通訳などの支援	8.1 (52)	14. その他（具体的に：)	3.3 (21)
7. 障害に対応した情報の提供や問合せ方法の充実	15.8 (102)	15. 特にない	5.9 (38)
8. 施設や用具等を利用する際に必要な手続きの支援	5.6 (36)	16. 行いたいと思わない	2.2 (14)
		17. わからない	2.5 (16)
		無回答	4.8 (31)



V. ボランティア活動についておうかがいします

問 12. 貴事業所は、利用者のボランティア活動への参加について、どのように考えていますか。(○は1つ) N=645

1. 積極的に支援したい	12.7 (82)	4. それぞれの利用者に任せたい	39.4 (254)
2. できれば支援したい	18.0 (116)	5. わからない	6.5 (42)
3. 支援したいが難しい	20.8 (134)	無回答	2.6 (17)

問 13. 現在、利用者のボランティア活動への参加を支援していますか。(○は1つ) N=645

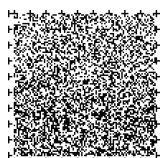
1. 支援しており、今後も支援したい	14.9 (96)	3. 支援しておらず、今後も予定はない	45.4 (293)
2. 支援していないが、今後は支援したい	26.2 (169)	4. わからない	10.7 (69)
		無回答	2.8 (18)

問 13 で 1 あるいは 2 のいずれかを選択した方におうかがいします。

付問 13-1. 今までにどのような分野のボランティア活動への参加を支援したことがありますか。
あるいは今後支援したいですか。(それぞれについて、当てはまるすべての番号を記載)

N=265

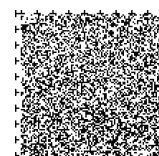
	今まで支援したもの	今後支援したいもの
1. 障害者、高齢者等の支援などの福祉、医療に関する活動	21.9 (58)	34.7 (92)
2. 講演会、教室・学習会、展覧会等の企画・運営、手伝いなどの教育、文化に関する活動	14.3 (38)	32.8 (87)
3. スポーツ大会などのスポーツ、運動に関する活動	7.2 (19)	32.1 (85)
4. お祭り、町会・自治会などの地域の活動	36.2 (96)	59.6 (158)
5. 企業の商品やサービスの開発・販売促進への協力	2.3 (6)	14.0 (37)
6. その他（具体的に： ）	6.8 (18)	2.6 (7)
7. 特にない	11.7 (31)	2.6 (7)
無回答	32.1 (85)	10.9 (29)



付問 13-2. 今までにどのような内容のボランティア活動への参加を支援したことがありますか。
あるいは今後支援したいですか。(それぞれ当てはまるすべての番号を記載)

N=265

	今まで支援したもの	今後支援したいもの
1. 受付・案内	13.2(35)	26.0(69)
2. 活動の指導、手伝い	17.4(46)	26.0(69)
3. イベント等の会場準備の手伝い	23.0(61)	43.0(114)
4. 清掃	18.1(48)	35.1(93)
5. 移動や身の回りの介助などの手伝い	6.0(16)	14.7(39)
6. 手話などコミュニケーションの手伝い	1.9(5)	6.0(16)
7. 話し相手、遊び相手、学習支援	10.6(28)	26.0(69)
8. その他（具体的に： ）	7.9(21)	8.3(22)
9. 特にない	12.5(33)	4.9(13)
無回答	34.3(91)	16.2(43)



全員にお聞きします

問 14. 貴事業所が、利用者のボランティア活動を後押しする上で必要な支援は何ですか。

(○は3つまで)

N=645

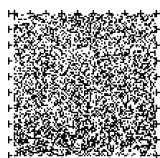
1. 活動場所のバリアフリー化	16.9 (109)	8. 一緒に行う仲間	32.1 (207)
2. 交通機関やまちのバリアフリー化	12.6 (81)	9. ボランティア活動に関する情報提供の充実	38.6 (249)
3. 活動の場までの送迎	31.2 (201)	10. その他	7.9 (51)
4. 介助者や手話通訳などの支援	13.3 (86)	(具体的に:)	
5. 障害に対応した情報の提供や問合せ方法の充実	29.5 (190)	11. 特にない	5.9 (38)
6. 施設等を利用する際に必要な手続きの支援	16.3 (105)	12. 後押ししたいと思わない	2.9 (19)
7. 障害や障害者、補助犬(盲導犬、介助犬、聴導犬)などに対する理解促進	8.2 (53)	13. わからない	7.6 (49)
		無回答	3.1 (20)

問 15. 貴事業所の利用者が行うボランティア活動について、これまでに貴事業所が把握しているものがありますか。また、今後、貴事業所として、利用者に参加を勧めたいものがありますか。分野、活動内容について、分かる範囲でお答えください。(それぞれについて、当てはまるすべての番号を記載)

【分野】

N=645

	これまでに利用者が参加した分野	今後利用者に勧めたい分野
1. 障害者、高齢者等の支援などの福祉、医療に関する活動	12.6 (81)	14.9 (96)
2. 講演会、教室・学習会、展覧会等の企画・運営、手伝いなどの教育、文化に関する活動	9.8 (63)	16.6 (107)
3. スポーツ大会などのスポーツ、運動に関する活動	7.0 (45)	21.6 (139)
4. お祭り、町会・自治会などの地域の活動	24.0 (155)	33.8 (218)
5. 企業の商品やサービスの開発・販売促進への協力	1.9 (12)	6.5 (42)
6. その他(具体的に:)	3.1 (20)	1.9 (12)
7. 特にない	24.2 (156)	12.1 (78)
8. わからない	9.5 (61)	13.2 (85)
無回答	29.5 (190)	24.7 (159)



【活動内容】

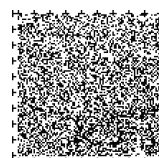
N=645

	これまでに利用者が 参加した活動内容	今後利用者に勧めたい 活動内容
1. 受付・案内	8.8(57)	14.9(96)
2. 活動の指導、手伝い	11.3(73)	13.8(89)
3. イベント等の会場準備の手伝い	14.7(95)	23.1(149)
4. 清掃	14.3(92)	23.6(152)
5. 移動や身の回りの介助などの手伝い	2.5(16)	5.7(37)
6. 手話などコミュニケーションの手伝い	1.2(8)	2.2(14)
7. 話し相手、遊び相手、学習支援	8.5(55)	13.3(86)
8. その他（具体的に： ）	5.1(33)	4.5(29)
9. 特にない	21.9(141)	12.7(82)
10. わからない	7.9(51)	13.3(86)
無回答	31.6(204)	27.4(177)

問 16. 貴事業所の利用者が、ボランティア活動をする上で必要な支援は何ですか。（○は3つまで）

N=645

1. 活動場所のバリアフリー化	16.3(105)	8. 一緒に行く仲間	34.4(222)
2. 交通機関やまちのバリアフリー化	11.8(76)	9. ボランティア活動に関する情報提供の充実	36.1(233)
3. 活動の場までの送迎	34.6(223)	10. その他（具体的に： ）	5.0(32)
4. 介助者や手話通訳などの支援	13.5(87)	11. 特にない	6.2(40)
5. 障害に対応した情報の提供や問合せ方法の充実	30.7(198)	12. わからない	8.5(55)
6. 施設等を利用する際に必要な手続きの支援	18.1(117)	無回答	5.9(38)
7. 障害や障害者、補助犬（盲導犬、介助犬、聴導犬）などに対する理解促進	9.3(60)		



VI. 情報アクセシビリティについておうかがいします

問 17. 貴事業所の利用者が情報を入手したりコミュニケーションをとる上で、どのような配慮があるとよいですか。(〇は3つまで)

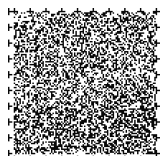
N=645

1. それぞれの障害者が情報入手できるようさまざまな媒体（音声、点字、テキストデータなど）で提供してほしい	26.0 (168)
2. 誰もが読みやすい文字などを使用してほしい	33.3 (215)
3. パンフレットやホームページなどを色の使い方に配慮して作成してほしい	10.1 (65)
4. 問い合わせ先は電話番号だけでなく、ファックスやメールアドレスを載せてほしい	12.9 (83)
5. SNS（ツイッター、フェイスブックなど）で発信してほしい	6.4 (41)
6. 手話、筆談で対応できる人を増やしてほしい	4.7 (30)
7. わかりやすい文言・表現・絵文字（ピクトグラム）を使用してほしい	50.9 (328)
8. 動画などでわかる資料を作成してほしい	32.7 (211)
9. 必要な情報をわかりやすく説明してくれる人がほしい	47.3 (305)
10. その他（具体的に： _____）	2.0 (13)
11. 特にない	4.8 (31)
12. わからない	2.8 (18)
無回答	4.0 (26)

◆最後に、貴事業所名、住所、連絡先をご記入ください。

貴事業所名	
住所	
連絡先	TEL : () — FAX : () — E-mail :

ご協力ありがとうございました



Ⅰ. 貴社の概要について

問 1. 業種についておうかがいします。(○は1つ。※複数該当する場合、最も売上高の大きいもの1つ)

N=81

1. 農業、林業、漁業	0.0	(0)	14. 不動産業、物品賃貸業	4.9	(4)
2. 鉱業、採石業、砂利採取業	0.0	(0)	15. 飲食業	1.2	(1)
3. 建設業	7.4	(6)	16. 宿泊業	0.0	(0)
4. 製造業（素材関連）	6.2	(5)	17. 医療・福祉（介護・社会福祉事業）	0.0	(0)
5. 製造業（機械関連）	11.1	(9)	18. 医療・福祉（介護・社会福祉事業以外）	2.5	(2)
6. 製造業（消費関連）	12.3	(10)	19. 教育、学習支援業	2.5	(2)
7. 電気・ガス・熱供給・水道業	1.2	(1)	20. 学術研究、専門・技術サービス業	2.5	(2)
8. 情報通信業	7.4	(6)	21. 生活関連サービス業、娯楽業	3.7	(3)
9. 運輸業	1.2	(1)	22. 複合サービス事業（郵便局、協同組合）	0.0	(0)
10. 郵便業	0.0	(0)	23. その他サービス業 ^{注)}	3.7	(3)
11. 卸売業	4.9	(4)	24. 上記以外の業種（ ）	4.9	(4)
12. 小売業	2.5	(2)	無回答	2.5	(2)
13. 金融業、保険業	17.3	(14)			

(注) 「23. その他サービス業」は、廃棄物処理業、自動車整備業、機械等修理業、人材サービス業、建物サービス業など。

問 2. ご回答の範囲をご記入下さい。(○は1つ)

N=81

1. 単体	75.3	(61)	3. 事業所（サイト）	2.5	(2)
2. 連結（対象企業数 社）	21.0	(17)	無回答	1.2	(1)

問 3. ご回答範囲の従業員数をご記入ください。(数値を記入)

N=81

100 人以下	18.5	(15)	501 人～1,000 人以下	9.9	(8)
101 人～300 人以下	2.5	(2)	1,001 人以上	63.0	(51)
301 人～500 人以下	4.9	(4)	無回答	1.2	(1)

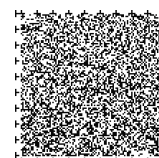
(注) ここでは、派遣会社から派遣を受ける労働者や請負は含みません。

問 4. 障害者雇用（正社員、正社員以外を問いません）についてお答えください。

(1) 障害者を雇用していますか。(○は1つ。雇用している場合は人数を記入)

N=81

1. 雇用している (身体障害者 人、知的障害者 人、精神障害者 人)	86.4	(70)
2. 雇用していない	13.6	(11)
無回答	0.0	(0)



(2) 貴社の障害者実雇用率^注は法定雇用率（2.0%）を達成していますか。

（○は1つ。法定雇用率を上回っている場合、下回っている場合は数字を記入）

	N=81	
1. 法定雇用率を上回っている（ %）	49.4	（40）
2. 法定雇用率と同じ（2%）	4.9	（4）
3. 法定雇用率を下回っている（ %）	29.6	（24）
4. 常用労働者数 49 人以下のため障害者雇用率制度の対象外である	16.0	（13）
無回答	0.0	（0）

（注）障害者実雇用率は、常時雇用している全労働者に占める、障害者手帳を所持する障害者の割合をいいます。なお、週 20～30 時間の短時間労働者は 1 人を 0.5 人分としてカウント、重度身体障害者・重度知的障害者は 1 人を 2 人分（短時間の場合は 1 人分）でカウントします。

問 5. ボランティア休暇制度がありますか。

N=81

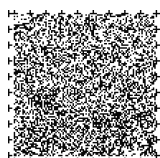
1. ある（年間日数： 日）	44.4	（36）
2. ない	55.6	（45）
無回答	0.0	（0）

<年間日数>

N=36

5 日未満	11.1	（4）
5 日以上 10 日未満	33.3	（12）
10 日以上 20 日未満	25.0	（9）
20 日以上	19.4	（7）
無回答	11.1	（4）

最小値	最大値	平均値	中央値	最頻値
3.00	60.00	11.88	8.00	5.00



付問 6-3. 貴社が実施したイベントやプログラムの中から、継続的に実施予定で、取組として特徴的な事例を最大 3 つまで、具体的に教えてください。

(名称、概要：それぞれ自由記入、運営に要する実人員の数：数値記入)

(注) 運営に要する人員数について、設問では「従業員等」と「ボランティア」に分けたが、区別がしづかった可能性があることに留意。

N=125

運営に要する実人員 ー従業員等	最小値	最大値	平均値	中央値	最頻値
	0	18,000	301	5	2
運営に要する実人員 ーボランティア	最小値	最大値	平均値	中央値	最頻値
	0	115	14	5	0

付問 6-4. 参加した障害者の種別を教えてください。(最も人数の多いものに◎、それ以外の参加者すべてに○)

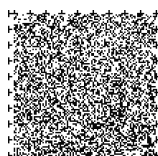
N=42

	すべて		最も多い	
1. 身体障害者	85.7	(36)	47.6	(20)
2. 知的障害者	59.5	(25)	21.4	(9)
3. 精神障害者	28.6	(12)	0.0	(0)
4. 難病	11.9	(5)	0.0	(0)
5. その他(具体的に：)	7.1	(3)	2.4	(1)
6. わからない	4.8	(2)	4.8	(2)
無回答	0.0	(0)	23.8	(10)

付問 6-5. 障害者を主な対象やテーマとしたイベントやプログラム(問 6 で回答したもの)を実施するため、どのような配慮や工夫を行いましたか。(○はいくつでも)

N=42

1. 建物や設備のバリアフリー化	26.2	(11)
2. 会場までの送迎	19.0	(8)
3. 情報の事前周知の徹底	57.1	(24)
4. 障害に対応した情報の提供や問い合わせ方法の充実	31.0	(13)
5. イベント等開催時の手話通訳、文字表示、点字資料などの配慮	26.2	(11)
6. 介助者の確保あるいは費用負担	14.3	(6)
7. 社員の障害や障害者、補助犬(盲導犬、介助犬、聴導犬)などに対する理解の促進	45.2	(19)
8. 障害者等からの助言、連携	38.1	(16)
9. 医療機関等の専門家からの助言、連携	9.5	(4)
10. 必要に応じて休憩できる場所の確保	21.4	(9)
11. 予算の確保	64.3	(27)
12. 参加料の減免	28.6	(12)
13. その他(具体的に：)	9.5	(4)
14. 特にない	0.0	(0)
15. わからない	0.0	(0)
無回答	2.4	(1)



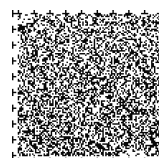
N=42

1. 社員の障害者に対する理解が深まった	81.0	(34)
2. 障害者のニーズが把握できた	54.8	(23)
3. 社内の一体感が高まった	47.6	(20)
4. 企業の知名度や企業イメージが向上した	47.6	(20)
5. 売上高または利益が増加した	7.1	(3)
6. 障害者や市民団体との連携が深まった	50.0	(21)
7. 新規事業のアイデアやヒントが得られた	21.4	(9)
8. その他（具体的に： ）	4.8	(2)
9. 特にない	0.0	(0)
10. わからない	0.0	(0)
無回答	4.8	(2)

全ての企業にうかがいます

N=81

1. 参加する障害者が少ない	23.5	(19)
2. イベントやプログラムの効果的な周知方法がわからない	22.2	(18)
3. イベントやプログラムの周知や問い合わせ対応について、障害に対応した準備が難しい	14.8	(12)
4. イベントやプログラムの内容が障害者のニーズに合っているかどうかわからない	19.8	(16)
5. イベントやプログラムの企画に障害者の意見を反映できていない	3.7	(3)
6. 障害に配慮した運営が難しい	21.0	(17)
7. その他（ ）	9.9	(8)
8. 特にない	23.5	(19)
無回答	2.5	(2)



Ⅲ. 障害者のイベントやプログラムへの参加やボランティア活動について

問 8. この1年間で、貴社のイベントやプログラム（Ⅱで回答した障害者を主な対象やテーマとしたイベントやプログラム以外）に、障害者が参加者として参加した実績はありますか。（○は1つ）

N=81

1. ある	42.0	(34)	3. わからない	17.3	(14)
2. ない	39.5	(32)	無回答	1.2	(1)

※貴社の社員、貴社で働いている派遣・請負社員の場合は除きます。

※ボランティアとして運営に参加したものを除きます（付問 8-1、付問 8-2 も同様）

問 8 で 1 を選択した方におうかがいします。

付問 8-1. 障害者が参加者として参加したのはどのようなイベントやプログラムですか。
（○はいくつでも）

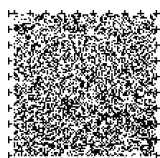
N=34

1. 屋内スポーツイベント	32.4	(11)	6. 社員研修	17.6	(6)
2. 屋外スポーツイベント	26.5	(9)	7. 社内のレクリエーション	20.6	(7)
3. 屋内文化・芸術イベント	17.6	(6)	8. その他 （具体的に： ）	29.4	(10)
4. 屋外文化・芸術イベント	2.9	(1)	9. わからない	0.0	(0)
5. 自社製品・サービスの ニーズ調査	0.0	(0)	無回答	2.9	(1)

付問 8-2. 参加した障害者の種別を教えてください。（最も人数の多いものに◎、それ以外の参加者すべてに○）

N=34

	すべて		最も多い	
1. 身体障害者	91.2	(31)	64.7	(22)
2. 知的障害者	44.1	(15)	2.9	(1)
3. 精神障害者	26.5	(9)	2.9	(1)
4. 難病	8.8	(3)	0.0	(0)
5. その他（具体的に： ）	0.0	(0)	0.0	(0)
6. わからない	0.0	(0)	0.0	(0)
無回答	2.9	(1)	29.4	(10)



問 9. この1年間で、貴社のイベントやプログラムの運営（Ⅱで回答した障害者を主な対象やテーマとしたイベントやプログラムを含む）に、障害者がボランティアとして運営に携わった実績はありますか。（○は1つ）

				N=81
1. ある	13.6	(11)	3. わからない	16.0 (13)
2. ない	66.7	(54)	無回答	3.7 (3)

※貴社の社員、貴社で働いている派遣・請負社員の場合は除きます。

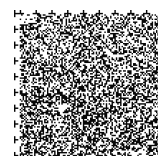
問 9 で 1 を選択した方におうかがいします。

付問 9-1. 障害者がボランティアとして運営に携わったのはどのようなイベントやプログラムですか。（○はいくつでも）

				N=11
1. 屋内スポーツイベント	27.3	(3)	6. 社員研修	18.2 (2)
2. 屋外スポーツイベント	18.2	(2)	7. 社内のレクリエーション	18.2 (2)
3. 屋内文化・芸術イベント	27.3	(3)	8. その他 (具体的に：)	27.3 (3)
4. 屋外文化・芸術イベント	9.1	(1)	9. わからない	0.0 (0)
5. 自社製品・サービスの ニーズ調査	0.0	(0)	無回答	0.0 (0)

付問 9-2. 参加した障害者の種別を教えてください。（最も人数の多いものに◎、それ以外の参加者すべてに○）

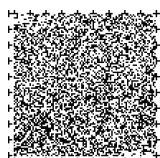
		すべて		最も多い	
1. 身体障害者		81.8	(9)	54.5	(6)
2. 知的障害者		27.3	(3)	0.0	(0)
3. 精神障害者		36.4	(4)	9.1	(1)
4. 難病		18.2	(2)	0.0	(0)
5. その他（具体的に：)		0.0	(0)	0.0	(0)
6. わからない		0.0	(0)	0.0	(0)
無回答		9.1	(1)	36.4	(4)



問 10. 貴社のイベントやプログラムに障害者が参加するため、あるいはボランティアとして運営に携わるために、どのような配慮や工夫を行いましたか。(〇はいくつでも)

N=36

1. 建物や設備のバリアフリー化	33.3	(12)
2. 会場までの送迎	11.1	(4)
3. 情報の事前周知の徹底	33.3	(12)
4. 障害に対応した情報の提供や問い合わせ方法の充実	33.3	(12)
5. イベント等開催時の手話通訳、文字表示、点字資料などの配慮	19.4	(7)
6. 介助者の確保あるいは費用負担	11.1	(4)
7. 社員の障害や障害者、補助犬（盲導犬、介助犬、聴導犬）などに対する理解の促進	22.2	(8)
8. 障害者等からの助言、連携	25.0	(9)
9. 医療機関等の専門家からの助言、連携	8.3	(3)
10. 必要に応じて休憩できる場所の確保	27.8	(10)
11. 予算の確保	19.4	(7)
12. 参加料の減免	11.1	(4)
13. その他（具体的に：　　　　　　　　）	5.6	(2)
14. 特にない	11.1	(4)
15. わからない	2.8	(1)
無回答	22.2	(8)

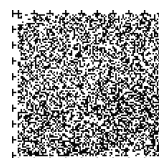


全ての企業にうかがいます

問 11. 今後、貴社のイベントやプログラムに障害者が参加するため、あるいはボランティアとして運営に携わるために、必要な配慮や工夫はどれですか。(〇はいくつでも)

N=81

1. 建物や設備のバリアフリー化	46.9	(38)
2. 会場までの送迎	22.2	(18)
3. 情報の事前周知の徹底	49.4	(40)
4. 障害に対応した情報の提供や問い合わせ方法の充実	48.1	(39)
5. イベント等開催時の手話通訳、文字表示、点字資料などの配慮	33.3	(27)
6. 介助者の確保あるいは費用負担	28.4	(23)
7. 社員の障害や障害者、補助犬（盲導犬、介助犬、聴導犬）などに対する理解の促進	42.0	(34)
8. 障害者等からの助言、連携	39.5	(32)
9. 医療機関等の専門家からの助言、連携	22.2	(18)
10. 必要に応じて休憩できる場所の確保	27.2	(22)
11. 予算の確保	39.5	(32)
12. 参加料の減免	14.8	(12)
13. その他（具体的に：	2.5	(2)
14. 特にない	6.2	(5)
15. わからない	9.9	(8)
無回答	1.2	(1)



IV. 東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会について

問 12. より多くの障害者が東京 2020 大会を体験し楽しむために、貴社が、現在協力している、もしくは、今後協力したい取組があれば教えてください。(〇はいくつでも)

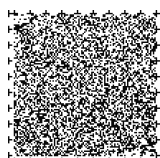
N=81

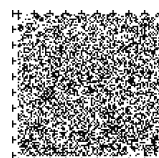
	(1) 現在		(2) 今後	
1. 障害者に対する理解を促進する取組	38.3	(31)	39.5	(32)
2. 障害者スポーツの支援	53.1	(43)	44.4	(36)
3. 介助者の確保や障害者支援団体の支援	22.2	(18)	19.8	(16)
4. バリアフリーや障害者への配慮を促進する取組 (具体的に)	24.7	(20)	28.4	(23)
5. その他、社会貢献としての取組 (具体的に)	16.0	(13)	21.0	(17)
6. 特にない	21.0	(17)	16.0	(13)
無回答	13.6	(11)	16.0	(13)

問 13. 貴社は、上記の取組をどのような形態で行っていますか (または、今後行う考えですか)。
(3つまで〇)

N=81

1. 寄付 (金銭・現物)	34.6	(28)	6. 外部組織との連携・協働	46.9	(38)
2. 社員ボランティア派遣	30.9	(25)	7. その他 ()	8.6	(7)
3. 社有施設の開放	16.0	(13)	8. 特にない	17.3	(14)
4. イベントの実施・啓発	33.3	(27)	無回答	4.9	(4)
5. 事業活動の一環として	29.6	(24)			



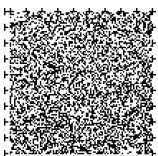


N=55

1. 日本オリンピック協会（アスナビ含む）	32.7	(18)
2. 公益財団法人日本障がい者スポーツ協会	41.8	(23)
3. 都道府県等の障害者スポーツ協会	25.5	(14)
4. 障害者スポーツの競技団体	56.4	(31)
5. 健常者のスポーツ競技団体	10.9	(6)
6. 障害者福祉施設、事業所または団体	12.7	(7)
7. 医療機関、医療関係職種団体、患者団体	0.0	(0)
8. 行政（国、都道府県、区市町村）	30.9	(17)
9. 新聞、雑誌、テレビ、インターネット	40.0	(22)
10. 社員または社員の家族、知人から	23.6	(13)
11. 障害者アスリートまたはその関係者	41.8	(23)
12. その他（具体的に：	10.9	(6)
13. わからない	0.0	(0)
無回答	1.8	(1)

N=55

1. 社員の障害者に対する理解が深まった	67.3	(37)
2. 障害者のニーズが把握できた	45.5	(25)
3. 社内の一体感が高まった	41.8	(23)
4. 企業の知名度や企業イメージが向上した	40.0	(22)
5. 売上高または利益が増加した	3.6	(2)
6. 障害者や市民団体との連携が深まった	38.2	(21)
7. 新規事業のアイデアやヒントが得られた	20.0	(11)
8. その他（具体的に：　　　　　　　）	3.6	(2)
9. 特にない	3.6	(2)
10. わからない	5.5	(3)
無回答	3.6	(2)



全ての企業にうかがいます

問 16. 貴社が障害者スポーツの競技やアスリート等の支援をするに当たって、どのような課題がありますか。(〇はいくつでも)

1. 障害者スポーツの競技やアスリート等の認知度が低い	46.9	(38)
2. 障害者スポーツの競技やアスリート等に関する情報が入手しにくい	37.0	(30)
3. 障害者スポーツに関する知識が不足している	45.7	(37)
4. 障害者スポーツができる施設や設備を所有していない	44.4	(36)
5. アドバイスを得られる団体や指導者等とのつながりが無い	16.0	(13)
6. 予算的な余裕がない	33.3	(27)
7. 人力的な余裕がない	34.6	(28)
8. 障害者スポーツの支援に魅力やメリットを感じない	4.9	(4)
9. その他（具体的に： ）	7.4	(6)
10. 特になし	8.6	(7)
無回答	2.5	(2)

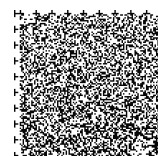
問 17. 今後の障害者スポーツの競技やアスリート等の支援について、どのように考えていますか。
(〇は1つ)

1. 支援を拡大していきたい (または支援を開始したい)	32.1 (26)	4. 支援する予定はない	9.9 (8)
2. これまでの支援を継続していきたい	32.1 (26)	5. わからない	24.7 (20)
3. 支援内容を絞って継続していきたい	1.2 (1)	無回答	0.0 (0)

問 17 で 1～3 を選択した方におうかがいします。

付問 17-1. 今後、どのような支援をしていきたいと考えていますか。(現在実施しているものも含めて、〇はいくつでも)

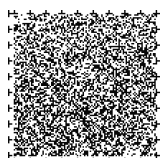
1. 障害者アスリートを支援する（雇用）	43.4	(23)
2. 障害者アスリートを支援する（スポンサー）	26.4	(14)
3. 障害者スポーツ団体を支援する（寄付、協賛など）	49.1	(26)
4. 障害者スポーツ団体を支援する（人的支援）	32.1	(17)
5. 障害者スポーツの大会を支援する（寄付、協賛など）	43.4	(23)
6. 障害者スポーツの大会を支援する（人的支援）	37.7	(20)
7. 障害者スポーツの活動場所を提供する	17.0	(9)
8. 障害者スポーツの用具を提供する	15.1	(8)
9. 障害者スポーツイベントを開催する（自主または協働で）	35.8	(19)
10. 障害者スポーツの観戦を社員に推奨する	47.2	(25)
11. 障害者スポーツへの理解を促進する研修や社内情報発信等を実施する	45.3	(24)
12. 障害者スポーツの競技やアスリート等の情報を対外発信する	30.2	(16)
13. その他の支援をする（具体的に：_____）	9.4	(5)
14. わからない	1.9	(1)
無回答	0.0	(0)



◆最後に、貴社名、ご担当の部署名・連絡先をご記入ください。

貴社名	
部署名	
連絡先	TEL : () — FAX : () — E-mail :

ご協力ありがとうございました



社会参加に関する障害者等の意識調査報告書

平成 29 年 3 月発行

登録番号(28)49

発 行／東京都福祉保健局障害者施策推進部

〒163-8001 東京都新宿区西新宿二丁目 8 番 1 号

電話 03-5320-4147（直通）

FAX 03-5388-1413

調査委託／三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社

